佐賀大学医学部研究業績年報

第　39　号

２０２４（令和６年）

佐　賀　大　学　医　学　部

はじめに

医学部長　野出孝一

この度、令和６年度の佐賀大学医学部研究業績年報第39号をお届けいたしますので御査収ください。

この研究業績年報をご覧いただくと、本学医学部の研究の現状がおわかりになると思いますが、厳しさが増す大学の研究環境の中での各講座スタッフの日頃の成果としてもご理解いただければと存じます。

研究業績、実績は大学医学部のアカデミアの証であり、研究力は大学医学部の推進力の一つであることから、研究業績年報は医学部の未来を占う評価書でもあります。

研究力はインパクトファクターの高い雑誌の掲載論文数だけで評価されるものではありません。和文総説はその領域をリードする研究者の解説文として、その実力を反映するものでもあり、英文症例報告は臨床医としての診療過程を科学的に分析し、今後の診療・医療にも重要な示唆となるものです。研究力は、外部資金、研究費獲得や人材育成も含めて総合的に判断していくものと思います。

前述の如く大学を取り巻く環境変化により医学・看護研究の質の低下が憂慮されています。しかしながら、条件は各大学医学部とも同じですので、各研究室が知恵を出し合い、工夫を重ねて新規性と独創性の高い研究に挑戦していきたいと考えています。

優れた実績を挙げている研究室が更にその研究力を伸ばし、これからの研究室が少しでも研究力が向上し、将来の研究業績書が更に充実したものになるよう、佐賀大学医学部として取り組んでいく所存です。

凡　　例

1　この研究業績は、本学の専任教員、医員、(研修医)、大学院生、研究員、技術職員等が令和６年１月１日から令和６年12月31日までの期間に発行（発表）した研究業績を収録しました。

　また、令和５年12月31日以前の研究成果のうち、未収録であったものを追加して収録しています。

2　複数の講座等（講座内研究グループを含む）にまたがってまとめられた研究成果は、各々重複して掲載されています。

　そのため、著書・学術論文及び学会発表については、業績番号の次に下記の通り区分記号を付しています。

無印…筆頭著者（発表者）が当該講座等（講座内研究グループを含む）に所属する研究成果
○印…筆頭著者（発表者）が本学内の他の講座等（講座内研究グループを含む）に所属する研究成果
＊印…筆頭著者（発表者）が本学外に所属する研究者である研究成果

目　　次

基礎医学系

分子生命科学講座…… 1
生体構造機能学講座…… 13
病因病態科学講座…… 19
社会医学講座…… 25

臨床医学系

内科学講座…… 39
膠原病・リウマチ
脳神経
血液・呼吸器・腫瘍（がんセンターを含む）
循環器
腎　臓
消化器（光学医療診療部を含む）
肝臓・糖尿病・内分泌
皮　膚
精神医学講座…… 105
小児科学講座…… 110
一般・消化器外科学講座…… 118
胸部・心臓血管外科学講座（呼吸器外科を含む）…… 129
整形外科学講座…… 135
脳神経外科学講座…… 147
泌尿器科学講座…… 151
形成外科…… 159
産科婦人科学講座…… 161
眼科学講座…… 165
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座…… 168
放射線医学講座（放射線部、放射線科を含む）…… 172
リハビリテーション科（先進総合機能回復センターを含む）…… 177
麻酔・蘇生学講座（集中治療部、手術部、ペインクリニック・緩和ケア科を含む）…… 181
歯科口腔外科学講座…… 185
臨床検査医学講座（検査部、輸血部を含む）…… 188
救急医学講座（高度救命救急センターを含む）…… 191
国際医療学講座（感染制御部を含む）…… 198

再生医学研究センター…… 206
地域医療科学教育研究センター
数理解析部門（教育 IR 室） …… 212
医学教育開発部門…… 215
先端医学研究推進支援センター
分子生命科学支援グループ…… 224
社会医学支援グループ…… 225
病因病態科学支援グループ…… 226
地域医療支援グループ…… 226
看護学科
統合基礎看護学講座…… 227
生涯発達看護学講座…… 234
附属病院
総合診療部…… 244
医療情報部…… 253
ＭＥセンター…… 254
医療安全管理室…… 254
臨床研究センター…… 256
卒後臨床研修センター…… 263
肝疾患センター（胆膵先進医療学講座を含む）…… 265
医師育成・定着支援センター…… 283
薬剤部…… 286
看護部…… 292
医事課…… 295
栄養治療部…… 296
学内共同研究施設
総合分析実験センター（生物資源開発部門、機器分析部門）…… 298
寄附講座
人工関節学講座…… 300
医工循環器学講座…… 303
不整脈精密医療学講座…… 306
共同研究講座
創薬科学講座…… 309

総　　論

１．研究業績刊行物等の件数

著作物	数
著　　書（和文）	１０７
著　　書（英文）	5
原著論文及び総説（和文）	２０１
原著論文及び総説（英文）	４９７
症例報告（和文）	４９
症例報告（英文）	７８

２．研究経費（文部科学省、厚生労働省その他の省庁、地方公共団体、民間団体等からの研究助成金）の採択状況※1

⑴　科学研究費助成事業（科研費）　　１６３件　　総額：２０１，１２０，４００円
（学術研究助成基金助成金、科学研究費補助金を含む）

内訳

基盤研究(B)	１０件	総額：　３８，５４５，０００円
基盤研究(C)	９２件	総額：　８８，７３５，４００円
若手研究	４７件	総額：　５２，６５０，０００円
挑戦的研究（開拓）	１件	総額：　－円
挑戦的研究（萌芽）	１件	総額：　－円
研究活動スタート支援	１０件	総額：　１１，４４０，０００円
国際共同研究加速基金（国際共同研究強化Ｂ）	１件	総額：　７，９３０，０００円
特別研究員奨励費	１件	総額：　１，８２０，０００円

⑵　厚生労働科学研究費補助金　　２６件　　総額：　２４，０１７，０００円
（厚生労働科学研究費補助金、厚生労働行政推進調査事業補助金を含む）

⑶　受託研究　　３９件　　総額：１６７，４３９，０９９円

⑷　その他外部資金　　４１件　　総額：３８４，３９５，６２７円

※１　代表者が学外の分は除く

3．表彰一覧

所　　属	受賞者氏名	学術（学会）賞名	受　賞　課　題
分子生命科学講座 分子医化学分野　教務員	本田　裕子	EAACI Congress 2024 Abstract Prize	Effects of topical JAK inhibitor on skin inflammation and itching in FADS mouse
分子生命科学講座 分子医化学分野　准教授	布村　　聡	日本アレルギー学会 2024年度サノフィ優秀論文賞	Periostin activates distinct modules of inflammation and itching downstream of the type 2 inflammation pathway
分子生命科学講座 免疫学分野　助教	石塚　茂宜	第52回日本免疫学会ベストプレゼンテーション賞	Mycobacterium leprae deactivates a potent PAMP to achieve immune evasion
分子生命科学講座 免疫学分野　助教	石塚　茂宜	令和６年度日本生体防御学会奨励賞	らい菌が有する免疫回避機構の解明
病因病態科学講座 微生物学分野　客員研究員	野田　岩男	日本バイオマテリアル学会賞	銀含有ハイドロキシアパタイト被覆インプラントの開発と実用化
内科学講座 血液・呼吸器・腫瘍内科 医員	栗原　有紀	第93回日本呼吸器学会九州支部秋季学術講演会学術奨励賞	オゾン曝露によるダニ誘導喘息モデルマウスの増悪は抗TSLP抗体で抑制される
内科学講座 循環器内科　特任教授	田中　敦史	日本動脈硬化学会第19回五島雄一郎賞	動脈硬化性疾患およびその危険因子に対する先制医療の実践と包括的治療戦略の確立を目指して
内科学講座 循環器内科　特任教授	田中　敦史	第36回中冨健康科学振興財団研究助成	心不全入院患者における身体・運動機能を科学する：次世代型心不全管理プログラムの確立へ向けて
内科学講座 循環器内科　特任教授	田中　敦史	令和６年度日本高血圧学会第14回学術賞	循環器代謝症候群に対する医師衆生型臨床試験の実践と先制医療への応用
内科学講座 循環器内科　医員	吉岡　吾郎	第36回日本心血管インターベンション治療学会 九州・沖縄地方会 Imaging Award 最優秀賞	上肢のBuerger-Like Disease症例で、橈骨動脈のLotus Root-Like Appearanceを観察した一例
内科学講座 循環器内科　医員	枝吉　　誠	第137回日本循環器学会九州地方会 Case Report Award 優秀賞	心房筋生検により確定診断に至った心房限局性リンパ球性心筋炎の１例
内科学講座 循環器内科　医員	嘉村　朋顕	第37回CVIT九州沖縄地方会 YIA 最優秀賞（臨床研究）	佐賀県内における下大静脈フィルター（IVCF）留置の変遷：多施設レジストリーデータ
内科学講座 消化器内科　助教	山口　太輔	Digestive Endoscopy Best Reviewers Award 2023	日本消化器内視鏡学会
内科学講座 肝臓・糖尿病・内分泌内科 客員研究員	三根敬一朗	第62日本糖尿病学会九州地方会　九州支部賞（ノボ賞）	Tyrosine kinase 2を介するシグナルは自己反応性CD8 T細胞の分化と自己免疫性１型糖尿病の発症を促進する

所　　属	受賞者氏名	学術（学会）賞名	受　賞　課　題
内科学講座 肝臓・糖尿病・内分泌内科 客員研究員	森　　仁恵	第67回九州糖尿病懇話会 一般演題 Award	日本人の２型糖尿病患者におけるインスリン分障害およびインスリン抵抗性低下とTYK2 Promoter Variant との関連
内科学講座 皮膚科　教授	杉田　和成	Top Reviewers of 2023 – Journal of Allergy and Clinical Immunology (JACI)	European Academy of Allergy & Clinical Immunology の学会誌査読に関して
皮膚科　医員	内田　大介	第88回日本皮膚科学会東部支部学術大会会長賞	血清学的に水疱性類天疱瘡との合併が示唆された家族性良性慢性天疱瘡
小児科　診療准教授	垣内　俊彦	第18回ふくおか医療活動功労賞	佐賀県中学３年生ピロリ検診「未来へ向けた胃がん対策推進事業」
一般・消化器外科学講座 研修医	谷川もえぎ	第124回支部例会日本消化器病学会九州支部研修医奨励賞　研修医奨励賞	小肝癌に対する重粒子線治療への警鐘～重粒子線治療後局所再発肝細胞癌に対する腹腔鏡下肝切除の一例～
一般・消化器外科学講座 助教	田中　智和	第124回日本消化器病学会九州支部例会　研修医奨励賞受賞者指導医賞	小肝癌に対する重粒子線治療への警鐘～重粒子線治療後局所再発肝細胞癌に対する腹腔鏡下肝切除の一例～
泌尿器科　助教	川﨑　麻己	111回日本泌尿器科学会総会　総会賞ポスター14　小児泌尿器科・その他【総会賞】	Analysis of biomarkers related to the mechanisms of pelvic organ prolapse
泌尿器科　助教	前田　晃宏	第76回西日本泌尿器科学会総会　ﾔﾝｸﾞｳﾛﾛｼﾞｽﾄﾘｻｰﾁｺﾝﾃｽﾄ　YU-5【最優秀賞】	Optogenetic approach for bladder detrusor contraction
泌尿器科　医員	雪本弥仁雅	第33回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会　学会賞候補演題【基礎部門　学会賞】	腹腔鏡内尿暴露動物モデルを用いた尿性腹膜炎に関する組織学的検討
放射線部　診療放射線技師	田北　　諭	画論32nd The Best Image CT Aquilion ONE（心血管）部門最優秀賞	4D bolus tracking 法を用いた Endoleak 評価
感染制御部　病院助教	浦上　宗治	第94回日本感染症学会西日本地方会学術集会・第72回日本化学療法学会西日本支部総会合同学会　ポスター Award 最優秀賞	カルバペネム系抗菌薬の事前承認制に関する長期的運用の効果　－18年間にわたる病院横断的適正使用活動の成果－
地域医療科学教育研究センター　特任准教授	山下　　駿	第37回内科学会奨励賞	感染性心内膜炎予測モデルの精度向上研究：多施設後ろ向き症例対照研究
看護学科　統合基礎看護学講座　基礎看護学領域	古島　智恵	日本看護技術学会第22回学術集会優秀演題	外来心不全患者の掻痒の有症率および影響因子の検討

所　　属	受賞者氏名	学術（学会）賞名	受　賞　課　題
看護学科　生涯発達看護学講座　老年看護学領域　教授（～Ｒ６.３月）（Ｒ６.４月～）、客員研究員	Kanako Yakushiji, Kimie Fujita, Yasuko Tabuchi, Yuriko Matsunaga-Myoji, Satomi Tanaka, Masaaki Mawatari	日本看護科学学会　第23回学術論文奨励賞	Long-term health-related quality of life of total hip arthroplasty patients and cost-effectiveness analysis in the Japanese universal health insurance system.
地域医療科学教育研究センター　特任准教授	山下　　駿	佐賀大学医学部 令和５年度医学部長賞（研究部門）	
総合診療部　医員、教授、講師（特定）	平田　理紗 多胡　雅毅 相原　秀俊	Top Downloaded Article, CLINICAL CASE REPORTS	Massive anorectal abscess caused by rectal cancer
総合診療部　教授	多胡　雅毅	Top Cited Article 2022-2023, JOURNAL OF GENERAL AND FAMILY MEDICINE	A survey of the research practice in general medicine departments of Japanese universities: A cross-sectional study
リハビリテーション科 准教授（診療教授）	浅見　豊子	藍綬褒章	女性活躍推進功績
臨床研究センター 特任助教	古川　拓馬	第34回日本疫学会学術総会最優秀演題賞	日本人におけるポリジェニックリスクスコアと糖尿病の関連：J-MICC Study
肝疾患センター　病院講師	大枝　　敏	2024年度日本臨床検査医学会学会賞 優秀論文賞	チーム医療に関する実態調査；佐賀県の中核病院における検討
薬剤部　薬剤師	祖川倫太郎	第８回日本精神薬学会総会・学術集会　日本精神薬学賞	注意欠陥・多動性障害に対するグアンファシンの早期中止と傾眠の関連性
看護部　看護師長	永渕　美樹	一般社団法人日本糖尿病教育・看護学会　フロンティア賞	
栄養治療部　調理師、管理栄養士、副栄養治療部長	江島　将博 小山田聖菜 射場裕美子	第12回日本腎代謝栄養研究会　そらまめ食堂特別賞	保存期腎不全の食事
医工循環器学講座 特任教授	園田　信成	Beyond Angiography Japan XXVIII　Oral Presentation Award 優秀賞	栄養不良が血液透析患者の冠動脈石灰化を進行させる

４．学位授与件数

大学院医学系研究科博士課程　課程博士　　14人
大学院医学系研究科博士課程　論文博士　　９人
大学院医学系研究科修士課程（看護）　　１人
大学院先進健康科学研究科修士課程（看護）　５人
大学院先進健康科学研究科修士課程（医科学）　６人

５．佐賀大学医学部記念事業募金による助成事業

令和６年度　招へい事業

	講座・役職等	氏　名	招へい研究者	期　　間	支出額（円）
招へい事業	分子生命科学講座 教授	副島　英伸	愛媛大学大学院 医学系研究科 教授、副学長 今村　健志	Ｒ６．７．11～ Ｒ６．７．12	72,620
	脳神経外科学講座 教授	阿部　竜也	ハーバード大学 マサチューセッツ総合病院 脳神経外科 准教授　脇本　浩明	Ｒ６．７．17～ Ｒ６．11．23	286,942

令和６年度　奨学金助成

	所属等	指導教員	助成期間	支出額（円）
奨学金	ハワイ大学医学部学生の医学臨床実習活動奨学金（４名）	佐賀大学医学部国際交流事業実施部会長 小田　康友	Ｒ６．６．30～ Ｒ６．７．13 （14日間）	224,000 （奨学金@4,000 ×14日間×４名）
	輔仁カトリック大学医学部学生の医学臨床実習活動奨学金（４名）	佐賀大学医学部国際交流事業実施部会長 小田　康友	Ｒ６．９．15～ Ｒ６．10．12 （28日間）	400,000 （奨学金@4,000 ×28日間×４名） ※１名あたり上限 10,000

令和６年度　学生の国外留学助成

	所属等	氏　名	留学制度名	派遣期間・派遣先	支出額（円）
学生の国外留学	医学科・６年次生	深山　莉紗	Kuakini 病院 臨床実習	Ｒ６．６．３～ Ｒ６．６．28 米国　Kuakini 病院	100,000
	医学科・６年次生	徳島　　彩	マインツ大学 麻酔科 臨床実習	Ｒ６．７．29～ Ｒ６．８．18 ドイツ　マインツ大学 麻酔科	100,000
	医学科・４年次生	村田　陽菜	ハワイ大学臨床推論WS	Ｒ７．３．17～ Ｒ７．３．21 米国　ハワイ大学	100,000

６．教員の異動

令和６年１月１日から令和６年12月31日の間における講師以上の教員の異動（昇任を含む）は復職・休職を除き、36名でした。また、本学から転出された教員数は14名、転入された教員数は７名となっております。

今回の昇任人事は、教授昇任１名、准教授昇任３名、講師昇任４名でした。

なお、平成16年４月１日から国立大学が法人化されたことにより、国立大学間の異動については、辞職・退職、採用の扱いになっています。

詳細につきましては、下記の一覧をご覧ください。

異動年月日	所　属・　職　名	氏　名	異　動　内　容
Ｒ６．１．１	附属病院 臨床研究センター 特任准教授	光武　　翼	採用（福岡国際医療福祉大学 講師から）
Ｒ６．２．１	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 教授	杉山庸一郎	採用（京都府立医科大学附属病院 講師から）
Ｒ６．３．１	看護学科 統合基礎看護学講座 講師	柴山　　薫	昇任（看護学科 統合基礎看護学講座 助教から）
Ｒ６．３．１	附属病院 総合診療部 教授	多胡　雅毅	昇任（附属病院 総合診療部 准教授から）
Ｒ６．３．31	医学科 分子生命科学講座【分子医化学分野】教授	出原　賢治	定年退職（医学科 分子生命科学講座【アレルギー分野】特任教授へ）
Ｒ６．３．31	医学科 社会医学講座【予防医学分野】教授	田中恵太郎	定年退職
Ｒ６．３．31	医学科 内科学講座【肝臓・糖尿病・内分泌内科】教授	安西　慶三	定年退職
Ｒ６．３．31	医学科 整形外科学講座 教授	馬渡　正明	定年退職
Ｒ６．３．31	医学科 放射線医学講座 教授	入江　裕之	定年退職（福岡国際医療福祉大学 教授へ）
Ｒ６．３．31	看護学科 生涯発達看護学講座 教授	田渕　康子	退職
Ｒ６．３．31	看護学科 生涯発達看護学講座 准教授	熊谷　有記	退職（熊本保健科学大学へ）
Ｒ６．３．31	附属病院 手術部 准教授	瀬戸口秀一	退職（九州大学病院別府病院へ）
Ｒ６．３．31	附属病院 眼科 講師	中尾　　功	退職（くわの眼科医院へ）
Ｒ６．３．31	創薬科学講座（共同研究講座）特任教授	渡邉　達郎	退職（Meiji Seika ファルマへ）
Ｒ６．４．１	看護学科 生涯発達看護学講座 教授	松永由理子	採用（九州大学大学院医学研究院 講師から）
Ｒ６．４．１	看護学科 生涯発達看護学講座 講師	松尾　里香	採用（福岡看護大学看護学部 助教から）
Ｒ６．４．１	医学科 分子生命科学講座【アレルギー学分野】特任教授	出原　賢治	採用（医学科 分子生命科学講座【分子医化学分野】教授から）
Ｒ６．４．１	医学科 内科学講座【呼吸器内科】准教授	髙橋浩一郎	昇任（附属病院 呼吸器内科 講師から）
Ｒ６．５．１	医学科 内科学講座【呼吸器内科】特任講師	中島　千穂	採用（附属病院 がんセンター 病院助教から）
Ｒ６．５．31	看護学科 生涯発達看護学講座 准教授	室屋　和子	退職（産業医科大学へ）
Ｒ６．５．31	医学科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 准教授	山内　盛泰	退職（九州がんセンターへ）
Ｒ６．６．１	看護学科 統合基礎看護学講座【臨床機能形態学】教授	坂田　資尚	採用（附属病院 消化器内科 講師から）

異動年月日	所 属・ 職 名	氏 名	異 動 内 容
R 6. 6. 1	附属病院 手術部 准教授	谷川 義則	採用（附属病院 麻酔科蘇生科 講師から）
R 6. 6. 30	医学科 分子生命科学講座【分子遺伝学・エピジェネティクス分野】准教授	東元 健	退職
R 6. 7. 31	胆膵先進医療学講座 寄附講座准教授	白鳥 俊康	退職（亀田総合病院へ）
R 6. 8. 1	創薬科学講座（共同研究講座）特任教授	嬉野 博志	採用（広島大学原爆放射線医化学研究所 准教授から）
R 6. 8. 1	看護学科 統合基礎看護学講座 准教授	藤本 裕二	昇任（看護学科 統合基礎看護学講座 助教から）
R 6. 8. 1	胆膵先進医療学講座（寄附講座）寄附講座准教授	吉村 茂修	採用（亀田総合病院 消化器内科部長代理から）
R 6. 9. 1	医学科 病因病態科学講座【診断病理学分野】教授	加藤 省一	採用（藤田医科大学医学部 教授から）
R 6. 9. 30	附属病院 脳神経外科 講師	中原由紀子	退職（もろどみ中央病院へ）
R 6. 9. 30	附属病院 医師育成・定着支援センター 特任准教授	徳島 圭宜	退職（附属病院 総合診療部 准教授へ）
R 6. 10. 1	附属病院 総合診療部 准教授	徳島 圭宜	採用（附属病院 医師育成・定着支援センター 特任准教授から）
R 6. 11. 1	医学科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 講師	峯崎 晃充	昇任（医学科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 助教から）
R 6. 11. 1	附属病院 呼吸器内科 講師	田代 宏樹	昇任（医学科 内科学講座【呼吸器内科】助教から）
R 6. 11. 1	附属病院 消化器内科 講師	鶴岡ななえ	昇任（医学科 内科学講座【消化器内科】助教から）
R 6. 12. 31	附属病院 脳神経外科 病院講師	緒方 敦之	退職（附属病院 脳神経外科 講師へ）

研究単位ごとの業績

基礎医学系

分子生命科学講座

分子遺伝学・エピジェネティクス分野

原著論文

1　Higashimoto K, Sun F, Imagawa E, Saida K, Miyake N, Hara S, Yatsuki H, Kubiura-Ichimaru M, Fujita A, Mizuguchi T, Matsumoto N, Soejima H: Whole-exome sequencing reveals causative genetic variants for several overgrowth syndromes in molecularly negative Beckwith–Wiedemann spectrum. J Med Genet, 61(6): 590-594, 2024.

2　*Urakawa T, Soejima H, Yamoto K, Hara-Isono K, Nakamura A, Kawashima S, Narusawa H, Kosaki R, Nishimura Y, Yamazawa K, Hattori T, Muramatsu Y, Inoue T, Matsubara K, Fukami M, Saitoh S, Ogata T, Kagami M: Comprehensive molecular and clinical findings in 29 patients with multi-locus imprinting disturbance. Clin Epigenet, 16(1): 138, 2024.

3　Hara S, Matsuhisa F, Kitajima S, Yatsuki H, Kubiura-Ichimaru M, Higashimoto K, Soejima H: Identification of responsible sequences which mutations cause maternal H19-ICR hypermethylation with Beckwith–Wiedemann syndrome-like overgrowth. Communications Biology, 7: 1605, 2024.

学会発表

国内全国規模の学会

1　○水町麻里，瀬戸香織，白濱　泉，山本徒子，馬場耕一，鈴木智恵子，副島英伸：遺伝性乳癌卵巣癌再発患者および遺伝リスクをもつ家族の意思決定に対する看護師による協働支援．第 4 回日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構学術集会．2024，5，18–19.

2　*増渕　颯，浦川立貴，小崎里華，緒方　勤，矢ヶ崎英晃，副島英伸，鏡　雅代：ロングリードシーケンス解析による Beckwith-Wiedemann 症候群 2 家系での構造異常およびメチル化レベルの検討．第57回日本小児内分泌学会学術集会．2024，10，10–12.

3　*鏡　雅代，増渕　颯，浦川立貴，小崎里華，矢ヶ崎英晃，副島英伸，緒方　勤，深見真紀：Long-read sequencing analysis in two Beckwith-Wiedemann syndrome families caused by defects of OCT4/SOX2 bunding site．日本人類遺伝学会第69回大会．2024，10，10–12.

4　副島英伸，東元　健，孫　菲菲，今川英里，才田　謙，三宅紀子，原　聡史，八木ひとみ，一丸（首浦）武作志，藤田京志，水口　剛，松本直通：Exome sequencing reveals causative variants for overgrowth syndromes in molecularly negative Beckwith-Wiedemann spectrum．日本人類遺伝学会第69回大会．2024，10，10–12.

5　*長谷川慶太，石渡啓介，河合智子，副島英伸，岡本伸彦，秦健一郎，中林一彦：希少遺伝性疾患ゲノム診断のための DNA メチル化キャプチャーシーケンス法の開発．第47回日本分子生物学会．2024，11，27–29.

6　村瀬絢香，大場　隆，三嶋博之，吉浦孝一郎，副島英伸：両親性間葉性異形成胎盤の原因遺伝子探索．第47回日本分子生物学会．2024，11，27–29.

7　原　聡史，佐藤知彦，一丸武作志，副島英伸：ゲノムワイド父性片親性ヘテロダイソミーを示す核型46，XY の Beckwith-Wiedemann スペクトラムの一例．第47回日本分子生物学会年会．2024，11，27–29.

8　一丸（首浦）武作志，一丸，八木ひとみ，東元健，副島英伸：NSD1ヘテロ欠損が胎仔・新生仔に与える影響．第17回日本エピジェネティクス研究会年会．2024，6，13–14.

9　一丸（首浦）武作志，原聡史，八木ひとみ，副島英伸：NSD1ヘテロ欠損はマウス新生児生存率を低下させる．第47回日本分子生物学会年会．2024，11，27–29.

地方規模の学会

1　副島英伸：佐賀大学におけるゲノム医療の実践．日本皮膚科学会第88回佐賀地方会学術集会．2024，5，19.

2　*今村芽依，佐久間友子，樋口　収，今村博明，加藤理子，副島英伸：巨舌により呼吸障害を来した Beckwith-Wiedemann 症候群の一例．第52回日本小児科学会富山地方会．2024，7，2.

3　○山本徒子，津田聡子，栗原麻希子，副島英伸：海外で NIPT を受検した夫婦のカウンセリング経験．第30回出生前から小児期にわたるゲノム医療フォーラム．2024，10，20.

その他の学会

1　副島英伸：がん遺伝子パネル検査の 2 次的所見．Tsurui Lymphoma Workshop．2024，7，26–28.

2　○山本徒子，副島英伸：佐賀県の出生前遺伝カウンセリングの現状．ギネ・アーベント．2024，4，25.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
教　授	副島　英伸	科学研究費助成事業	基盤(B)	1	一細胞マルチオミクス・空間遺伝子発現に基づく知的障害の分子病態解明と治療基盤確立	3,900
教　授	副島　英伸	AMED	難治性疾患実用化研究事業	2	未到達領域のロングリードジェノミクス：未解決症例の解明	4,550
教　授	副島　英伸	AMED	難治性疾患実用化研究事業	2	構造異常・スプライシング異常・メチル化異常の革新的検出系による未診断疾患患者の診断率向上・診断早期特定とN-of-1創薬への導出	2,080
教　授	副島　英伸	AMED	難治性疾患実用化研究事業	2	インプリンティング疾患の診療ガイドライン作成に向けたエビデンス創出研究	1,300
教　授	副島　英伸	厚生労働科学研究費補助金	難治性疾患政策研究事業	2	患者との双方向的協調に基づく先天異常症候群の自然歴の収集と recontact 可能なシステムの構築	800
助　教	原　　聡史	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	H19-ICR 改変マウスパネルを用いた過成長と異常高メチル化の分子機構の解明	1,040
助　教	原　　聡史	科学研究費助成事業	国際共同研究強化(B)	2	雌雄配偶子形成における核輸送分子の新機能探索と不妊症発症機序解明	1,700
助　教	原　　聡史	科学研究費助成事業	基盤研究(B)	2	一細胞マルチオミクス・空間遺伝子発現に基づく知的障害の分子病態解明と治療基盤確立	650
助　教	一丸武作志	科学研究費助成事業	若手研究	1	一細胞マルチオミクスを用いた体細胞分化過程におけるエピゲノム再確立の分子機構解明	2,210
助　教	一丸武作志	科学研究費助成事業	国際共同研究強化(B)	2	ヒト雄性生殖細胞における DNA メチル化確立の解析	2,415
助　教	一丸武作志	科学研究費助成事業	基盤研究(B)	2	一細胞マルチオミクス・空間遺伝子発現に基づく知的障害の分子病態解明と治療基盤確立	650

分子医化学分野

原著論文

1 *Nakahara T, Onozuka D, Nunomura S, Saeki H, Takenaka M, Matsumoto M, Kataoka Y, Fujimoto R, Kaneko S, Morita E, Tanaka A, Saito R, Okano T, Miyagaki T, Aoki N, Nakajima K, Ichiyama S, Kido-Nakahara M, Tonomura K, Nakagawa Y, Tamagawa-Mineoka R, Masuda K, Takeichi T, Akiyama M, Ishiuji Y, Katsuta M, Kinoshita Y, Tateishi C, Yamamoto A, Morita A, Matsuda-Hirose H, Hatano Y, Kawasaki H, Fukushima-Nomura A, Ohtsuki M, Kamiya K, Kabata Y, Abe R, Mitsui H, Kawamura T, Tsuji G, Katoh N, Furue M, Izuhara K: The ability of biomarkers to assess the severity of atopic dermatitis. Journal of Allergy and Clinical Immunology: Global. 3(1): 100175, 2024, 2.

2 *Suzaki I, Maruyama Y, Kamimura S, Hirano K, Nunomura S, Izuhara K, Kobayashi H: Residual nasal polyp tissue following with dupilumab therapy involves periostin-associated fibrosis. European Archives of Oto-Rhino-Laryngology. 281(4): 1807-1817, 2024, 4.

3 *Kido-Nakahara M, Onozuka D, Izuhara K, Saeki H, Nunomura S, Takenaka M, Matsumoto M, Kataoka Y, Fujimoto R, Kaneko S, Morita E, Tanaka A, Saito R, Okano T, Miyagaki T, Aoki N, Nakajima K, Ichiyama S, Tonomura K, Nakagawa Y, Tamagawa-Mineoka R, Masuda K, Takeichi T, Akiyama M, Ishiuji Y, Katsuta M, Kinoshita Y, Tateishi C, Yamamoto A, Morita A, Matsuda-Hirose H, Hatano Y, Kawasaki H, Nomura A, Ohtsuki M, Kamiya K, Kabata Y, Abe R, Mitsui H, Kawamura T, Tsuji G, Furue M, Katoh N, Nakahara T: Exploring patient background and biomarkers associated with the development of dupilumab-associated conjunctivitis and blepharitis. Allergology International. 73(2): 332-334, 2024, 4.

4 *Morimoto T, Kobayashi T, Ito H, Tsukamoto M, Yoshihara T, Hirata H, Otani K, Izuhara K, Nunomura S, Mawatari M: Serum periostin levels correlate with severity of intervertebral disc-degeneration. European Spine Journal. 33(5): 2007-2013, 2024, 5.

5 *Kido-Nakahara M, Onozuka D, Izuhara K, Saeki H, Nunomura S, Takenaka M, Matsumoto M, Kataoka Y, Fujimoto R, Kaneko S, Morita E, Tanaka A, Hide M, Okano T, Miyagaki T, Aoki N, Nakajima K, Ichiyama S, Tonomura K, Nakagawa Y, Tamagawa-Mineoka R, Masuda K, Takeichi T, Akiyama M, Ishiuji Y, Katsuta M, Kinoshita Y, Tateishi C, Yamamoto A, Morita A, Matsuda-Hirose H, Hatano Y, Kawasaki H, Tanese K, Ohtsuki M, Kamiya K, Kabata Y, Abe R, Mitsui H, Kawamura T, Tsuji G, Furue M, Katoh N, Nakahara T: Biomarkers and patient-related factors associated with clinical outcomes in dupilumab treated atopic dermatitis. Journal of Allergy and Clinical Immunology: Global.3: 100317, 2024, 7.

6 *Nair P, Radford K, Nunomura S, Mukherjee M, Izuhara K: Response of sputum periostin to anti-T2 biologics treatment in severe asthma. Allergy. 79(10): 2842-2844, 2024, 10.

総　説

1 布村　聡：アレルギー疾患マウスモデル研究 万能ではないマウスモデル．アレルギー，73(1)：1-4，2024年73巻1号，p. 1-5，2024，2.

2 ○出原賢治，布村　聡，南里康弘，本田裕子：アレルギー疾患におけるプレシジョン・メディシンを

目指した取り組み．日本臨床検査医学会誌．72(8)：677-682．2024，8.

3 ○Izuhara K, Nunomura S, Nakahara T, Onozuka D: The search for blood biomarkers useful in treating atopic dermatitis patients. Expert Review of Clinical Pharmacology, 17(12): 1163-1172, 2024, 12.

学会発表

国際規模の学会

1 ○Takedomi H, Nunomura S, Nanri Y, Honda Y, Sakata Y, Aishima S, Esaki M, Izuhara K: USEFULNESS OF PERIOSTIN AS A BIOMARKER TO CLASSIFY A SUBGROUP OF ULCERATIVE COLITIS DOMINANT IN TYPE 2 INFLAMMATION. Digestive Disease Week® (DDW) 2024. 2024, 5, 18.

2 Honda Y, Nunomura S, Nanri Y, Kodera M, Matsuhara H, Ohashi-Doi K, Izuhara K: Effects of topical JAK inhibitor on skin inflammation and itching in FADS mouse. EAACI Congress 2024. 2024, 6, 1.

国内全国規模の学会

1 *岡田直子，矢津啓之，清水映輔，深川和己，布村　聡，斎藤博久，松本健治，川口　淳，出原賢治，藤島　浩：重症アレルギー性結膜炎におけるタクロリムス点眼薬の治療応答性予測法の探索．日本薬学会第144年会．2024，3，28-31.

2 大澤ひかる，田中友佳子，布村　聡，本田裕子，南里康弘，小寺真央，松原弘季，土井雅津代，出原賢治：アトピー性皮膚炎モデルマウスに対するステロイド薬の作用についての検討．第73回日本アレルギー学会学術大会．2024，10，18-20.

3 本田裕子，布村　聡，南里康弘，大澤ひかる，田中友佳子，小寺真央，松原弘季，土井雅津代，出原賢治：アトピー性皮膚炎モデルマウスに対するデルゴシチニブの作用機序解析．第73回日本アレルギー学会学術大会．2024，10，18-20.

4 布村　聡，南里康弘，本田裕子，武富啓展，北島　勲，松田　彰，出原賢治：アトピー性角結膜炎モデルマウスにおけるペリオスチンの役割とαVβ3インテグリン阻害剤の効果．第73回日本アレルギー学会学術大会．2024，10，18-20.

5 田中友佳子，大澤ひかる，布村　聡，本田裕子，南里康弘，小寺真央，松原弘季，土井雅津代，出原賢治：アトピー性皮膚炎モデルマウスにおけるペリオスチン非依存性の炎症とそう痒の解析．第73回日本アレルギー学会学術大会．2024，10，18-20.

6 *伊藤亮治，布村　聡，大野裕介，南里康弘，本田裕子，武富啓展，出原賢治：ヒト化喘息モデルマウスを用いたベンラリズマブによるヒトB細胞，マスト細胞に対する新規抑制メカニズム．第73回日本アレルギー学会学術大会．2024，10，18-20.

7 布村　聡，出原賢治：アトピー性皮膚炎における痒みの機序解明と創薬の試み．第73回日本アレルギー学会学術大会．2024，10，18-20（シンポジウム）.

地方規模の学会

1 布村　聡，伊藤亮治，南里康弘，武富啓展，本田裕子，出原賢治：ヒト化マウスを用いたベンラリズマブの新たな気道炎症抑制作用の解析．日本アレルギー学会 第6回九州・沖縄地方会．2024，2，17.

2 本田裕子，布村　聡，南里康弘，小寺真央，松原弘季，土井雅津代，出原賢治：アトピー性皮膚炎

モデルマウスを用いたデルゴシチニブの作用機序解析．日本アレルギー学会 第6回九州・沖縄地方会．2024，2，17.

その他の学会

1　布村　聡：ペリオスチン：アトピー性皮膚炎のかゆみに対する新たな治療標的．第3回アトピー性皮膚炎病態研究会．2024，3，28.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
准教授	布村　　聡	科学研究費補助金助成事業	基盤研究(C)	1	FADSマウスを用いたアトピー性皮膚炎の病態形成機構の解明と新たな治療戦略の構築	1,660
准教授	布村　　聡	科学研究費補助金助成事業	基盤研究(B)	2	2型炎症メディエーターによるアトピー性皮膚炎における痒みのネットワークの解明	100
准教授	布村　　聡	科学研究費補助金助成事業	基盤研究(C)	2	全身性強皮症におけるSOX11を基軸とした新規線維化機序の解明と新たな治療戦略の構築	50
助　教	南里　康弘	科学研究費補助金助成事業	基盤研究(C)	1	全身性強皮症におけるSOX11を基軸とした新規線維化機序の解明と新たな治療戦略の構築	1,050
助　教	南里　康弘	科学研究費補助金助成事業	基盤研究(B)	2	2型炎症メディエーターによるアトピー性皮膚炎における痒みのネットワークの解明	100
助　教	南里　康弘	科学研究費補助金助成事業	基盤研究(C)	2	FADSマウスを用いたアトピー性皮膚炎の病態形成機構の解明と新たな治療戦略の構築	50
教務員	本田　裕子	科学研究費補助金助成事業	基盤研究(B)	2	2型炎症メディエーターによるアトピー性皮膚炎における痒みのネットワークの解明	100
教務員	本田　裕子	科学研究費補助金助成事業	基盤研究(C)	2	全身性強皮症におけるSOX11を基軸とした新規線維化機序の解明と新たな治療戦略の構築	50
准教授	布村　　聡	ＡＭＥＤ	受託研究	1	ペリオスチン／αＶβ3インテグリン経路を標的としたアトピー性皮膚炎の新規治療薬の開発	20,700

学術（学会）賞

職　名	氏　名	学術（学会）賞名	受　賞　課　題
教務員	本田　裕子	EAACI Congress 2024 Abstract Prize	Effects of topical JAK inhibitor on skin inflammation and itching in FADS mouse
准教授	布村　聡	日本アレルギー学会 2024年度サノフィ優秀論文賞	Periostin activates distinct modules of inflammation and itching downstream of the type 2 inflammation pathway

アレルギー学分野

原著論文

1 *Sasano H, Harada N, Harada S, Takeshige T, Sandhu Y, Tanabe Y, Ishimori A, Matsuno K, Nagaoka T, Ito J, Chiba A, Akiba H, Atsuta R, Izuhara K, Miyake S, Takahashi K: Pretreatment circulating MAIT cells, neutrophils, and periostin predicted the real-world response after 1-year mepolizumab treatment in asthmatics. Allergology International, 73(1), 94-106, 2024, 1.

2 *Nakahara T, Onozuka D, Nunomura S, Saeki H, Takenaka M, Matsumoto M, Kataoka Y, Fujimoto R, Kaneko S, Morita E, Tanaka A, Saito R, Okano T, Miyagaki T, Aoki N, Nakajima K, Ichiyama S, Kido-Nakahara M, Tonomura K, Nakagawa Y, Tamagawa-Mineoka R, Masuda K, Takeichi T, Akiyama M, Ishiuji Y, Katsuta M, Kinoshita Y, Tateishi C, Yamamoto A, Morita A, Matsuda-Hirose H, Hatano Y, Kawasaki H, Fukushima-Nomura A, Ohtsuki M, Kamiya K, Kabata Y, Abe R, Mitsui H, Kawamura T, Tsuji G, Katoh N, Furue M, Izuhara K: The ability of biomarkers to assess the severity of atopic dermatitis. Journal of Allergy and Clinical Immunology: Global. 3(1): 100175, 2024, 2.

3 *Tateda Y, Suzuki T, Sato T, Izuhara K, Ise K, Shimada H, Murakami K, Murakami K, Nakamura Y, Ohta N: Expression of periostin in benign salivary gland tumors. Tohoku Journal of Experimental Medicine. 262(2): 105-113, 2024, 2.

4 *Suzaki I, Maruyama Y, Kamimura S, Hirano K, Nunomura S, Izuhara K, Kobayashi H: Residual nasal polyp tissue following with dupilumab therapy involves periostin-associated fibrosis. European Archives of Oto-Rhino-Laryngology. 281(4): 1807-1817, 2024, 4.

5 *Kido-Nakahara M, Onozuka D, Izuhara K, Saeki H, Nunomura S, Takenaka M, Matsumoto M, Kataoka Y, Fujimoto R, Kaneko S, Morita E, Tanaka A, Saito R, Okano T, Miyagaki T, Aoki N, Nakajima K, Ichiyama S, Tonomura K, Nakagawa Y, Tamagawa-Mineoka R, Masuda K, Takeichi T, Akiyama M, Ishiuji Y, Katsuta M, Kinoshita Y, Tateishi C, Yamamoto A, Morita A, Matsuda-Hirose H, Hatano Y, Kawasaki H, Nomura A, Ohtsuki M, Kamiya K, Kabata Y, Abe R, Mitsui H, Kawamura T, Tsuji G, Furue M, Katoh N, Nakahara T: Exploring patient background and biomarkers associated with the development of dupilumab-associated conjunctivitis and blepharitis. Allergology International. 73(2): 332-334, 2024, 4.

6 ○Morimoto T, Kobayashi T, Ito H, Tsukamoto M, Yoshihara T, Hirata H, Otani K, Izuhara K, Nunomura S, Mawatari M: Serum periostin levels correlate with severity of intervertebral disc-

degeneration. European Spine Journal. 33(5): 2007-2013, 2024, 5.

7 *Tajiri T, Suzuki M, Nishiyama H, Ozawa Y, Kurokawa R, Takeda N, Ito K, Fukumitsu K, Kanemitsu Y, Mori Y, Fukuda S, Uemura T, Ohkubo H, Takemura M, Maeno K, Ito Y, Oguri T, Takai M, Izuhara K, Niimi A: Efficacy of dupilumab for airway hypersecretion and airway hyperresponsiveness in moderate-to-severe asthma. Allergology International. 73(3): 406-415, 2024, 7.

8 *Kido-Nakahara M, Onozuka D, Izuhara K, Saeki H, Nunomura S, Takenaka M, Matsumoto M, Kataoka Y, Fujimoto R, Kaneko S, Morita E, Tanaka A, Hide M, Okano T, Miyagaki T, Aoki N, Nakajima K, Ichiyama S, Tonomura K, Nakagawa Y, Tamagawa-Mineoka R, Masuda K, Takeichi T, Akiyama M, Ishiuji Y, Katsuta M, Kinoshita Y, Tateishi C, Yamamoto A, Morita A, Matsuda-Hirose H, Hatano Y, Kawasaki H, Tanese K, Ohtsuki M, Kamiya K, Kabata Y, Abe R, Mitsui H, Kawamura T, Tsuji G, Furue M, Katoh N, Nakahara T: Biomarkers and patient-related factors associated with clinical outcomes in dupilumab treated atopic dermatitis. Journal of Allergy and Clinical Immunology: Global. 3: 100317, 2024, 7.

9 *Nair P, Radford K, Nunomura S, Mukherjee M, Izuhara K: Response of sputum periostin to anti-T2 biologics treatment in severe asthma. Allergy. 79(10): 2842-2844, 2024, 10.

10 *Nakamura S, Wakahara K, Majima S, Yokoi E, Fukutani E, Otsuki R, Iwano S, Chen-Yoshikawa TF, Kinoshita F, Abe T, Sashio T, Kimura T, Izuhara K, Hashimoto N, Ishii M, Hasegawa Y: Blood eosinophil count correlates with alveolar damage in emphysema-predominant COPD. BMC Pulmonary Medicine. 24: 510, 2024, 10.

11 *Ikeda R, Kakuta R, Izuhara K, Ogawa T, Ise K, Shimada H, Murakami K, Murakami K, Nakamura Y, Katori Y, Ohta N: Expression of vascular and tissue repair factors in laryngeal granulomas. Tohoku Journal of Experimental Medicine. 264(2): 93-99, 2024, 12.

12 *Tran NQV, Kobayashi Y, Nakamura Y, Ishimaru K, Izuhara K, Nakao A: Transcriptomic evidence for T cell-fibroblast-keratinocyte axis via IL-13-periostin-integrin in atopic dermatitis. Allergy. 79(12): 3521-3525, 2024, 12.

総　説

1 出原賢治：アトピー性皮膚炎における痒みの機序．日皮協ジャーナル．46(2)：54-64，2024，2.

2 出原賢治，布村　聡，南里康弘，本田裕子：アレルギー疾患におけるプレシジョン・メディシンを目指した取り組み．日本臨床検査医学会誌．72(8)：677-682，2024，8.

3 Izuhara K, Nunomura S, Nakahara T, Onozuka D: The search for blood biomarkers useful in treating atopic dermatitis patients. Expert Review of Clinical Pharmacology, 17(12): 1163-1172, 2024, 12.

学会発表

国際規模の学会

1 ○Takedomi H, Nunomura S, Nanri Y, Honda Y, Sakata Y, Aishima S, Esaki M, Izuhara K: USEFULNESS OF PERIOSTIN AS A BIOMARKER TO CLASSIFY A SUBGROUP OF ULCERATIVE COLITIS DOMINANT IN TYPE 2 INFLAMMATION. Digestive Disease Week® (DDW) 2024. 2024, 5, 18.

2 ○Honda Y, Nunomura S, Nanri Y, Kodera M, Matsuhara H, Ohashi-Doi K, Izuhara K: Effects of top-

ical JAK inhibitor on skin inflammation and itching in FADS mouse. EAACI Hybrid Congress 2024. 2024, 6, 1.

国内全国規模の学会

1 *岡田直子，矢津啓之，清水映輔，深川和已，布村　聡，斎藤博久，松本健治，川口　淳，出原賢治，藤島　浩：重症アレルギー性結膜炎におけるタクロリムス点眼薬の治療応答性予測法の探索．日本薬学会第144年会．2024，3，28-31.

2　出原賢治：アトピー性皮膚炎における新規起痒機序と創薬の試み．感覚研究コンソーシアム 第３回痛覚ワーキンググループ講演会「痒み」．2024，4，22（講演）.

3　出原賢治：アレルギー疾患におけるペリオスチンの重要性―発症，診断から治療まで―．第７回アレルギー消化器疾患研究会．2024，9，7（特別講演）.

4　出原賢治：ペリオスチンの過去から現在，そして未来．第73回日本アレルギー学会学術大会．2024，10，18-20（教育講演）.

5　大澤ひかる，田中友佳子，布村　聡，本田裕子，南里康弘，小寺真央，松原弘季，土井雅津代，出原賢治：アトピー性皮膚炎モデルマウスに対するステロイド薬の作用についての検討．第73回日本アレルギー学会学術大会．2024，10，18-20.

6 ○本田裕子，布村　聡，南里康弘，大澤ひかる，田中友佳子，小寺真央，松原弘季，土井雅津代，出原賢治：アトピー性皮膚炎モデルマウスに対するデルゴシチニブの作用機序解析．第73回日本アレルギー学会学術大会．2024，10，18-20.

7 ○布村　聡，南里康弘，本田裕子，武富啓展，北島　勲，松田　彰，出原賢治：アトピー性角結膜炎モデルマウスにおけるペリオスチンの役割とαVβ3インテグリン阻害剤の効果．第73回日本アレルギー学会学術大会．2024，10，18-20.

8　田中友佳子，大澤ひかる，布村　聡，本田裕子，南里康弘，小寺真央，松原弘季，土井雅津代，出原賢治：アトピー性皮膚炎モデルマウスにおけるペリオスチン非依存性の炎症とそう痒の解析．第73回日本アレルギー学会学術大会．2024，10，18-20.

9 ○布村　聡，出原賢治：アトピー性皮膚炎における痒みの機序解明と創薬の試み．第73回日本アレルギー学会学術大会．2024，10，18-20.

10 *伊藤亮治，布村　聡，大野裕介，南里康弘，本田裕子，武富啓展，出原賢治：ヒト化喘息モデルマウスを用いたベンラリズマブによるヒトＢ細胞，マスト細胞に対する新規抑制メカニズム．第73回日本アレルギー学会学術大会．2024，10，18-20.

11　出原賢治：Targeting αVβ3 integrin to inhibit allergic inflammation．第53回日本免疫学会学術集会．2024，12，3-5（シンポジウム）.

地方規模の学会

1 ○布村　聡，伊藤亮治，南里康弘，武富啓展，本田裕子，出原賢治：ヒト化マウスを用いたベンラリズマブの新たな気道炎症抑制作用の解析．日本アレルギー学会 第６回九州・沖縄地方会．2024，2，17.

2 ○本田裕子，布村　聡，南里康弘，小寺真央，松原弘季，土井雅津代，出原賢治：アトピー性皮膚炎モデルマウスを用いたデルゴシチニブの作用機序解析．日本アレルギー学会 第６回九州・沖縄地方会．2024，2，17.

3　出原賢治：アレルギー疾患におけるプレシジョン・メディシンを目指した取り組み．第69回日本臨

床検査医学会九州地方会／第35回日本臨床化学会九州支部総会／第４回日本医療検査科学会九州地方会．2024，3，23（特別講演）．

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	１：代表 ２：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
特任教授	出原　賢治	科学研究費補助金助成事業	基盤研究(B)	1	２型炎症メディエーターによるアトピー性皮膚炎における痒みのネットワークの解明	4,200
特任教授	出原　賢治	科学研究費補助金助成事業	基盤研究(C)	2	FADSマウスを用いたアトピー性皮膚炎の病態形成機構の解明と新たな治療戦略の構築	50
特任教授	出原　賢治	科学研究費補助金助成事業	基盤研究(C)	2	全身性強皮症におけるSOX11を基軸とした新規線維化機序の解明と新たな治療戦略の構築	50
特任教授	出原　賢治	科学研究費補助金助成事業	基盤研究(C)	2	エピジェネティクスを基盤としたアレルギー疾患における難治化機序の解明	100
特任教授	出原　賢治	TSUNAGIプロジェクト	受託研究	1	アトピー性皮膚炎における痒みに対する創薬推進プロジェクト	8,000
特任教授	出原　賢治	共同研究 マルホ	共同研究	1	ペリオスチン介在性疾患に対する創薬に関する研究	8,000
特任教授	出原　賢治	共同研究 鳥居薬品	共同研究	1	アトピー性皮膚炎モデルマウスを用いたデルゴシチニブの作用機序解析	6,457
特任教授	出原　賢治	シノテスト	奨学寄付金	1	生化学研究助成奨学寄附金	2,500
特任教授	出原　賢治	ミッション実現加速化経費	大学運営経費等	1	アトピー性皮膚炎の痒みに対するメカニズムの解明と創薬研究	28,763
特任教授	出原　賢治	サノフィ優秀論文賞	助成金	1	サノフィ優秀論文賞	500

免疫学分野

原著論文

1 *Mi-Ichi F, Tsugawa H, Vo T K, Kurizaki Y, Yoshida H, Arita M: Characterization of Entamoeba fatty acid elongases; validation as targets and provision of promising leads for new drugs against amebiasis. PLoS Pathog. 20: e1012435, 2024.

2 Sudarma B-S, Hara M, Furukawa T, Iwasaka C, Sawada T, Yamada G, Tokiya M, Kitagawa K, Miyake Y, Kido M, Hirota Y, Matsumoto A: Asian Flush Gene Variant Enhances Cellular Immunogenicity of COVID-19 Vaccine: Prospective Observation in the Japanese General Population. Vaccines 12 1015, 2024.

3 *Emma M Dangerfield, Shigenari Ishizuka, Kristel Kodar, Sho Yamasaki, Mattie S M Timmer, Bridget L Stocker: Chimeric NOD2 Mincle Agonists as Vaccine Adjuvants. J. Med. Chem. 67(7): 5373-5390, 2024, 4.

総　　説

1 *Mi-Ichi F, Hamano S, Yoshida H: Links between cholesteryl sulfate-dependent and -independent processes in the morphological and physiological changes of Entamoeba encystation. Parasitol Int, 2024.

2 石塚茂宜，石川絵里，山崎　晶：ワクチン抗原に有用なT細胞エピトープの解析．BIO Clinica 39(6)：451-456，2024，6.

学会発表

国際規模の学会

1 *Mi-ichi F, Tsugawa H, Vo T K, Kurizaki Y, Yoshida H, Arita M: Characterization of Entamoeba fatty acid elongases; validation as targets and provision of promissing leads for nuew drugs. International Meeting on Amebiasis 2024. 2024, 12, 5-8.

2 *Vo T K, Yoshida H, Mi-ichi F: Expression and localization analyses of Entamoeba invadens cyst wall proteins, Jacobs, Jessies and chitinases during encystation. International Meeting on Amebiasis 2024. 2024, 12, 5-8.

国内全国規模の学会

1 *見市文香，津川裕司，有田　誠，吉田裕樹：赤痢アメーバシスト形成におけるコレステロール硫酸の機能解析．第93回日本寄生虫学会．2024，3，9-10.

2 *Vo T K, Yoshida H, Mi-ichi F: Expression and localization analyses of Entamoeba invadens cyst wall proteins-Jacob, Jessie and chitinase-during encystation. 第93回日本寄生虫学会. 2024, 3, 9-10.

3 Miyake Y, Yoshida H: PILRs and their SNP mutations are inv0olved in the gegulation of host immune responses aginst the pathogenic fungus, Aspergillus fumigatus. The 53rd annual meeting of the Japanese society for Immunology. 2024, 12, 3-5.

4 *Kasamatsu J, Yoshida H, Hara h: IL-27 signaling promotes peanut-speciic IgE production. The 53rd annual meeting of the Japanese society for Immunology. 2024, 12, 3-5.

5 Ishizuka S, Miyake Y, Yoshida H, Yamasaki S: An endogenous lipid in human plasma is a potential immunosuppressant. The 53rd annual meeting of the Japanese society for Immunology. 2024, 12, 3-5.

6 Shigenari Ishizuka, Yuji Miyamoto, Tomomi Kawakita, Yumi Maeda, Masamichi Goto, Manabu Ato, Masamichi Nagae, Sho Yamasaki: Mycobacterium leprae deactivates a potent PAMP to achieve immune evasion. 第52回日本免疫学会学術集会. 2024, 1, 18.

7 Shigenari Ishizuka, Yuji Miyamoto, Tomomi Kawakita, Yumi Maeda, Masamichi Goto, Manabu Ato, Masamichi Nagae, Sho Yamasaki: Mycobacterium leprae reduces immunological “visibility” by deactivating a potent PAMP. 第1回日本サイトカイン学会学術集会. 2024, 7, 25.

8 石塚茂宜，長江雅倫，山崎　晶：潜在的な免疫賦活物質を代謝し失活させるらい菌の免疫回避機構．第35回日本生体防御学会学術総会．2024，9，12.

9 石塚茂宜：らい菌が有する免疫回避機構の解明．第35回日本生体防御学会学術総会．2024，9，13.

10 ○濱福幸奈，木野村菜々美，宮坂賢知，下田博司，森川敏生，石塚茂宜，山崎　晶，五十嵐靖之，光武　進：米由来グルコシルセラミド分子種が自然免疫受容体 Mincle の活性化に与える影響．第97回日本生化学会大会．2024，11，6.

その他の学会

1 ○濱福幸奈，木野村菜々美，宮坂賢知，下田博司，森川敏生，石塚茂宜，山崎　晶，五十嵐靖之，光武　進：米由来グルコシドセラミド d18:2(4t,8c)，t18:1(8c) は自然免疫受容体 Mincle を活性化させる．第17回セラミド研究会学術集会．2024，9，19.

2 ○濱福幸奈，木野村菜々美，宮坂賢知，下田博司，森川敏生，石塚茂宜，山崎　晶，五十嵐靖之，光武進：自然免疫受容体 Mincle による米由来グルコシドセラミドの認識の違い．第46回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム．2024，9，27.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研　究　課　題　等	交付金額（千円）
教　授	吉田　裕樹	科学研究費補助金	基盤研究(C)	1	原虫を認識する自然免疫受容体の探索とリガンド同定，およびその機能解析	1,820
准教授	三宅　靖延	2024年度熱帯医学研究拠点一般共同研究		1	原虫を認識する免疫受容体の探索とリガンド同定	450
准教授	三宅　靖延	2024年度中辻創智社会議開催費助成		1	第13回 ITAM Workshop	150
助　教	石塚　茂宜	科学研究費補助金	研究活動スタート支援	1	抑制型免疫受容体 LMIR3が細胞膜成分を検知する意義の解明	1,430

学術（学会）賞

職　名	氏　名	学術（学会）賞名	受　賞　課　題
助　教	Shigenari Ishizuka	第52回日本免疫学会ベストプレゼンテーション賞	Mycobacterium leprae deactivates a potent PAMP to achieve immune evasion
助　教	石塚　茂宜	令和６年度日本生体防御学会奨励賞	らい菌が有する免疫回避機構の解明

細胞生物学分野

著　　書

1 池田義孝：第41章 止血と血栓形成．ベインズ・ドミニチャク生化学 原書６版（監訳：谷口直之，高橋素子，藤井順逸，本家孝一）第41章，616-631，2024，11．エルゼビア・ジャパン・丸善，東京.

原著論文

1 Okada T, Watanabe K: The complete chloroplast genome sequence of *Lithospermum erythrorhizon*: Insights into the phylogenetic relationship among *Boraginaceae* species and the maternal lineages of purple gromwells. Plant Gene. 37: 100447, 2024.

2　Okada T, Teramoto T, Ihara H, Ikeda Y, Kakuta Y: Crystal structure of mango α1,3/ α1,4-fucosyltransferase elucidates unique elements that regulate Lewis A-dominant oligosaccharide assembly. Glycobiology. 34: cwae015, 2024.

学会発表

国内全国規模の学会

1　井原秀之，岡田貴裕，谷口直之，池田義孝：α1,6-フコース転移酵素（FUT8）の活性型二量体形成機構におけるヘリックスバンドル構造の役割．第97回日本生化学会大会．2024，11，6-8.

2　岡田貴裕，矢﨑一史，佐々木健郎，渡邉啓一：葉緑体ゲノム情報に基づくムラサキ在来種の母系の理解．日本農芸化学会2024年度大会．2024，3，24-27.

その他の学会

1　岡田貴裕，寺本岳大，井原秀之，池田義孝，角田佳充：植物型α1,3/ α1,4-フコース転移酵素のユニークなⅠ型二糖構造認識機序．第46回蛋白質と酵素の構造と機能に関する九州シンポジウム．2024，9，27-29.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研　究　課　題　等	交付金額（千円）
准教授	井原　秀之	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	FUT8が関わる２つの化学平衡に基づいた疾病時細胞内コアフコース生合成の理解	1,820
准教授	井原　秀之	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	NAD＋の構造変化による細胞内代謝の変化と糖尿病・老化への関与	65
准教授	井原　秀之	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	FUT8二量体化機構を標的にした炎症性疾患・がんの治療薬の開発	0 (595)
助　教	岡田　貴裕	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	マンゴー果実の耐病性の理解に向けた香り放出制御メカニズムの解明	1,820 (863)

※（　）は繰越金で外数

生体構造機能学講座

解剖学・人類学分野

著　　書

1　末次文祥：イラストレーションで見る僧帽弁解剖の基礎知識．特集・学び直しの僧帽弁逆流．月刊心エコー 25：12-23，2024，1．文光堂，東京.

2　菊池泰弘：椎骨形態からみたナチョラピテクスの移動運動様式．日本人類学会進化人類学分科会ニューズレター，5-10，2024，4．日本人類学会進化人類学分科会，京都.

3　末次文祥：イラストレーションで理解するアブレーションに必要な心臓解剖．必ずできる！実践的カテーテルアブレーション 15-30，2024，10．日本医事新報社，東京.

原著論文

1　Uchida Y, Shibata K, Aijima R, Danjo A, Yamashita Y, Kuraoka A: Anatomical study on the posterior alveolar canal in maxillary tuberosity region using computed tomography. J Oral Maxillofac Surg Med Pathol. 36: 798-803, 2024.

2　Yoshizuka H, Nakao Y, Kuraoka A: Application of stretchable strain sensors and an inertial measurement unit for simulative tension analysis of the calcaneofibular ligament in formalin-fixed cadavers. Clin Biomech. 120: 106358, 2024.

3　○Mitsutake T, Nakazono H, Shiozaki T, Taniguchi T, Yoshizuka H, Sakamoto M: Neural interference effects on lateral vestibulospinal tract excitability by noisy galvanic vestibular stimulation. Clin Neurophysiol. 168: 153-160, 2024.

4　Kikuchi Y, Amano H, Ogihara N, Nakatsukasa M, Nakano Y, Shimizu D, Kunimatsu Y, Tsujikawa H, Takano T, Ishida H: Retrodeformation and functional anatomy of a cranial thoracic vertebra in Nacholapithecus kerioi. J Hum Evol. 198: 103613, 2025.

5　*Tomizawa Y, Pina M, Kikuchi Y, Morimoto N, Nakatsukasa M: Femoral neck cortical bone distribution in Nacholapithecus from the Middle Miocene of Kenya. J Hum Evol. 198: 103617, 2025.

学会発表

国際規模の学会

1　Yoshizuka H, Nakao Y, Kuraoka A: Simulative tension analysis of the calcaneofibular ligament in formalin-fixed cadavers using stretchable strain sensors and an inertial measurement unit. Asian Western Pacific Region Congress 2024. 2024, 9, 26-28. abstruct book.

2　Nakao Y, Yoshizuka H, Taniguchi T, Kuraoka A: A in vivo pilot analysis on the relationship between ankle eversion peak torque and plantar/dorsiflexion using a handheld dynamometer. Asian Western Pacific Region Congress 2024. 2024, 9, 26-28. abstruct book.

3　Suetsugu F: Anatomy of the tricuspid valve in illustration. ISMICS 2024 Workshop. 2024, 11, 8-9. abstruct book.

国内全国規模の学会

1　末次文祥：心臓外科医が描いた正しい心臓解剖図．第８回日本メディカルイラストレーション学会学術集会．2024，3，17.

2　中尾優太朗，吉塚久記，倉岡晃夫：内がえしは踵腓靭帯のテンショナー効果を増強する～感圧センサによる解剖体の機能解析～．第129回日本解剖学会総会・全国学術集会．2024，3，21-23.

3　菊池泰弘：類人猿，旧世界ザル，新世界ザルにおける第３－５頸椎の形態特徴．第129回日本解剖学会総会・全国学術集会．2024，3，21-23.

4　*隅　聡子，隅　康二，三輪佳愛，合島怜央奈，柏村晴子，山下佳雄，岡　暁子：多数歯う蝕，診療不協力傾向のある口蓋裂児に対する小児歯科と矯正歯科の病診連携．第48回日本口蓋裂学会総会・学術総会．2024，5，30-31.

5　○檀上　敦，蒲原麻菜，近藤成智，隅　康二，合島怜央奈，山下佳雄：外科矯正治療中に精神障害を認めた４症例．第34回日本顎変形症学会総会・学術大会．2024，6，27-28.

6　菊池泰弘，西村　剛，荻原直道：類人猿，オナガザル科，クモザル科における第３－５頸椎の形態比較分析．第78回日本人類学会大会．2024，10，12-14.

7　川久保善智，竹下直美，大野憲五，波田野悠夏：相同モデルを応用した伝石田三成の中顔部復元．第78回日本人類学会大会．2024，10，12–14.

8　○大野憲五，川久保善智，竹下直美，池田知哉：弥生時代人と古墳時代人の頭蓋顔面形態比較．第78回日本人類学会大会．2024，10，12–14.

9　吉塚久記，福田謙典：内側半月板逸脱に対する理学療法．第29回日本基礎理学療法学会学術大会．2024，10，12–13.

10　中尾優太朗，吉塚久記，谷口隆憲，倉岡晃夫：外がえしの Rate of force development に対する底背屈の影響：踵腓靭帯のテンショナー効果の解明に向けて．第 8 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会．2024，11，1–3.

11　末次文祥：イラストレーションで見る右心系と刺激伝導系の深掘り解剖．ストラクチャークラブ・ジャパン　ライブデモンストレーション2024．2024，11，22–23.

12　末次文祥：イラストレーションで学ぶ心臓の解剖―冠動脈を中心に―．第37回日本冠疾患学会学術集会．2024，11，29–30.

地方規模の学会

1　隅　康二，隅　聡子，合島怜央奈，檀上　敦：低位下顎第一大臼歯の抜歯症例．第19回九州矯正歯科学会学術大会．2024，1，27–28.

その他の学会

1　川久保善智：長岡藩牧野家 9 代忠精公と11代忠恭公の復顔．「長岡藩主・正室等復顔模型」再公開と研究成果発表会．2024，3，9–10.

2　末次文祥：イラストレーションで見る心臓の構造：成人先天性心疾患インターベンションのための解剖知識．第17回成人先天性カテーテル治療研究会．2024，7，27.

3　柴田健太郎，坂梨史典，齊藤秀俊，村田祐造：Rat 胚子の心筋収縮開始前における血液循環に関する検討：α-SMA 免疫組織学的解析．第14回国際医療福祉大学学会学術大会．2024，9，16.

4　*齊藤秀俊，武田弘志，柴田健太郎：感覚変容をもたらすストレス応答脳神経回路の解明．第14回国際医療福祉大学学会学術大会．2024，9，16.

5　末次文祥：正常心と先天性心疾患の解剖．日本小児循環器学会第13回多領域ミニカンファレンス．2024，9，18.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
教　授	倉岡　晃夫	科学研究費補助金	基盤研究(C)	1	足部制御機構の新展開：三角靭帯は後脛骨筋腱のテンショナーとして機能し得るか？	3,120
講　師	菊池　泰弘	科学研究費補助金	基盤研究(B)	1	1500万年前アフリカ産化石類人猿の体幹復元：大型類人猿における体幹直立位の進化解明	8,450
講　師	菊池　泰弘	科学研究費補助金	基盤研究(C)	2	四肢体幹骨形態からみた白保人	500
講　師	菊池　泰弘	住友財団	基礎科学研究助成	1	アフリカ産化石類人猿・空白期の発掘調査：ヒト直立二足歩行の進化解明に向けて	3,000
助　教	川久保善智	科学研究費補助金	基盤研究(C)	1	百年ぶりに発見された石田三成頭蓋の石膏レプリカに基づく復顔	700

組織・神経解剖学分野

原著論文

1 *Kashio M, Derouiche S, Yoshimoto RU, Sano K, Lei J, Kido MA, Tominaga M: Involvement of TRPV4 in temperature-dependent perspiration in mice. eLife. 13:RP92993. doi: 10.7554/eLife.92993, 2024, 7.

2 ○Bogahawaththa S, Hara M, Furukawa T, Iwasaka C, Sawada T, Yamada G, Tokiya M, Kitagawa K, Miyake Y, Kido MA, Hirota Y, Matsumoto A: Asian Flush Gene Variant Enhances Cellular Immunogenicity of COVID-19 Vaccine: Prospective Observation in the Japanese General Population. Vaccines (Basel). 12(9): 1015. doi: 10.3390/vaccines12091015, 2024, 9.

総　　説

1 *Ono K, Ueno T, Kido MA, Hitomi S, Naniwa M, Nakatomi C, Yoshimoto RU, Sawada T, Kato T: Recent advances in the treatment of oral ulcerative mucositis from clinical and basic perspectives. J Oral Biosci. 66(3). 504–510. doi: 10.1016/j.job.2024.06.002, 2024, 6.

学会発表

国際規模の学会

1 Yoshimoto RU, Aijima R, Ohsaki Y, Mihara H, Sawada T, Cao A, Gao W, Tominaga M, Kido MA: Warm-activated TRPV4 regulates cell migration and cell-cell contact through modulation of actomyosin dynamics. The 52nd Naito Conference on Frontiers of Physical and Mechanical Biology. 2024, 10, 1-4.

2 Kido MA, Gao W, Sawada T, Yoshimoto RU, Ohsaki Y, Yamaguchi Y, Kadowaki T, Tsukuba T: Bone loss and suppressed osteoblastic Piezo channels in asthma mice. The 52nd Naito Confer-

ence on Frontiers of Physical and Mechanical Biology. 2024, 10, 1-4.

国内全国規模の学会

1　曹　愛琳，高　瑋琦，澤田孟志，吉本怜子，城戸瑞穂：TRPV1を介した顔面の感覚過敏．生理学研究所 痛みの研究会2023．2024，1，11-12.

2　澤田孟志，吉本怜子，松本明子，牧野優徳，高　瑋琦，曹　愛琳，城戸瑞穂：アルデヒド脱水素酵素２欠失がアレルギー性喘息モデルマウスの上皮バリアと気道過敏性に与える影響．第129回日本解剖学学会総会・全国学術集会．2024，3，21-23.

3　曹　愛琳，高　瑋琦，澤田孟志，吉本怜子，合島怜央奈，大﨑康吉，城戸瑞穂：顔面皮膚の機械的感覚過敏に関与する三叉神経節の可塑性．第129回日本解剖学学会総会・全国学術集会．2024，3，21-23.

4　吉本怜子，合島怜央奈，澤田孟志，高　瑋琦，曹　愛琳，大﨑康吉，城戸瑞穂：温度感受性イオンチャネル TRPV4によるアクトミオシン動態と創傷治癒の制御．第129回日本解剖学学会総会・全国学術集会．2024，3，21-23.

5　高　瑋琦，澤田孟志，曹　愛琳，吉本怜子，福田孝一，城戸瑞穂：骨代謝調節に関わる Piezo チャネルの機能局在．第129回日本解剖学学会総会・全国学術集会．2024，3，21-23.

6　城戸瑞穂，吉本怜子：上皮細胞の集団移動を調節する温度感受性 TRP チャネル．学術委員会・日本顕微鏡学会連携シンポジウム．「メカノバイロジーの最先端」．第129回日本解剖学学会総会・全国学術集会．2024，3，21-23.

7　城戸瑞穂，吉本怜子，澤田孟志，高　瑋琦：歯肉接合上皮のメカノセンサーと歯周病．メインシンポジウム「歯周病予防の最前線－接合上皮から考える歯を守るバリア機能」．第66回歯科基礎医学会学術大会．2024，11，2-4.

8　*和田裕子，城戸瑞穂，清島　保：歯の発生におけるメカノセンサー Piezo1のエナメル質形成への影響．第66回歯科基礎医学会学術大会．2024，11，2-4.

9　藤隆之介，吉本怜子，牧野優徳，高　瑋琦，澤田孟志，城戸瑞穂：顔面の機械的感覚過敏を調節するアルデヒド脱水素酵素２．第66回歯科基礎医学会学術大会．2024，11，2-4.

10　高　瑋琦，澤田孟志，曹　愛琳，吉本怜子，牧野優徳，藤隆之介，城戸瑞穂：Piezo チャネルの骨芽細胞における局在と骨代謝への影響．第66回歯科基礎医学会学術大会．2024，11，2-4.

11　澤田孟志，吉本怜子，牧野優徳，高　瑋琦，藤隆之介，城戸瑞穂：アルデヒド脱水素酵素２（ALDH2）遺伝子欠失マウスにおけるアレルギー性喘息の増悪．第66回歯科基礎医学会学術大会．2024，11，2-4.

地方規模の学会

1　澤田孟志，吉本怜子，高　瑋琦，石井由美子，牧野優徳，藤隆之介，松本明子，城戸瑞穂：アルデヒドがアレルギー性喘息の憎悪に与える影響．第66回日本顕微鏡学会九州支部集会・学術講演会．2024，12，14.

2　*福田孝一，高　瑋琦，澤田孟志，曹　愛琳，吉本怜子，城戸瑞穂：CLEM 法によるマウス大腿骨骨芽細胞における Piezo タンパクの局在の解明．日本解剖学会第80回九州支部学術集会．2024，11，16.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
助　教	吉本　怜子	科学研究費助成事業	若手研究	1	口腔粘膜に発現するメカノセンサーイオンチャネルを標的とした上皮創傷治癒促進	1,690
医学部外国人研究者	曹　　愛琳	科学研究費助成事業	研究活動スタート支援	1	顎顔面の感覚過敏へのメカノセンサーチャネルの関与	1,430
教　授	城戸　瑞穂	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	気道ウイルス感染時の上皮バリア機能とサイトカイン産生に着目した喘息治療標的同定	200
助　教	石井由美子	公益財団法人 MSD 生命科学財団	助成金	1	細胞間接着分子クローディン-3 のアレルギー性免疫疾患応答における新規役割の解明	910
医学部外国人研究者	高　　瑋琦	科学研究費助成事業	研究活動スタート支援	1	アレルギー疾患による骨減少機構の解明	1,430

器官・細胞生理学分野

学会発表

国内全国規模の学会

1　Shioya T: Development of EAD in heart cells involves reverse E-C coupling and reverse electrotonic conduction along T-tubules. 第101回日本生理学会大会. 2024, 3, 28-30.

地方規模の学会

1　塩谷孝夫：心房筋細胞の Calcium Speckles は，動的平衡によってリエントリー・ローターを持続させる. 第75回西日本生理学会. 2024, 10, 18-19.

その他の学会

1　塩谷孝夫：マウス心房筋細胞の安定な単離法の開発と電気生理学. 2024年 筋生理の集い. 2024, 12, 21.

神経生理学分野

学会発表

地方規模の学会

1　*Odgerel Zorigt, Hiroki Yasuda, Takahito Nakajima, and Yoshito Tsushima: Gadolinium induces mGluR-, eCB-, and P2XR-dependent long-term depression of evoked synaptic transmission ガドリニウムによる代謝型グルタミン酸受容体 ・ 内因性カンナビノイド ・ATP 受容体依存性長期抑圧 . 第101回日本生理学会大会. 2024, 3, 30(土).

2　Hiroki Yasuda, Kazuhiro Sohya: Physiological and behaviorological approach for psychiatric phenotypes 精神医学への生理学・行動学的アプローチ. 第101回日本生理学会大会. 2024, 3, 29(金).

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
教　授	安田　浩樹	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	不安を緩衝する腹側海馬神経回路の探索	0 (410)
教　授	安田　浩樹	科学研究費助成事業	基盤研究(B)	2	2型炎症メディエーターによるアトピー性皮膚炎における痒みのネットワークの解明	100
准教授	惣谷　和広	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	慢性ストレスによるBBBの脳バリア機能障害と脳内炎症の局在性の因果関係の解明	1,800
助　教	栗原　大河	科学研究費助成事業	若手研究	1	認知機能改善効果を有する機能性リゾリン脂質の探索とその作用機序の解明	0 (884)
助　教	栗原　大河	科学研究費助成事業	若手研究	1	うつ病予防効果を有する豚肝臓分解抽出物由来の生理活性ペプチドの同定	1,200

※（　）は繰越金で外数

薬理学分野

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
教　授	寺本　憲功	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	血管平滑筋方ATP感受性カリウムチャネルの リン酸化就職機序の可視化研究	1,600
准教授	鬼頭　佳彦	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	運動療法による大腸リハビリテーション効果の解明	0 (1,254)
准教授	鬼頭　佳彦	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	IBS発症トリガーとしての交感神経系SIP syncytium機能の解明	1,000

※（　）は繰越金で外数

病因病態科学講座

診断病理学分野（病理部を含む）

原著論文

1　Kawasaki K, Kai K, Minesaki A, Maeda S, Yamauchi M, Kuratomi Y: Chemoradiotherapy and Lymph Node Metastasis Affect Dendritic Cell Infiltration and Maturation in Regional Lymph Nodes of Laryngeal Cancer. Int J Mol Sci., 25, 2093, 2024, 2.

2　○Suzuyama K, Eriguchi M, Minagawa H, Honda H, Kai K, Kitamoto T, Hara H: Accumulation Area

of a Japanese PRNP P102L Variant Associated With Gerstmann-Sträussler-Scheinker Disease: The Ariake PRNP P102L Variant. J Clin Neurol., 20, 321-329, 2024, 5.

3 *Ono N, Suzuyama K, Minagawa H, Uwatoko K, Yoshikawa M, Ide T, Mitsuoka M, Honda K, Hirai T, Otsuka T, Kai K, Honda H, Kitamoto T, Irie H, Yukitake M, Koike H: Involvement of the nigrostriatal system in Gerstman-Sträussler-Scheinker disease with the PRNP-P102L mutation. J Neurol Sci., 464, 123166, 2024, 8.

4 ○Nakazono T, Yoshinaga Y, Yamaguchi K, Yokoyama M, Kai K, Fukui S, Egashira R, Ichinohe K, Nagaoka S, Irie H: MRI features of ovarian teratomas with somatic-type malignancy and mature cystic teratomas. Abdom Radiol (NY)., 49, 3686-3695, 2024, 10.

5 Maeda S, Kai K, Kawasaki K, Tanaka T, Ide T, Noshiro H: Analysis of CD1a-Positive Monocyte-Derived Cells in the Regional Lymph Nodes of Patients with Gallbladder Cancer. Int J Mol Sci., 25, 12763, 2024, 11.

6 *Koyama S, Yagita K, Hamasaki H, Noguchi H, Shijo M, Matsuzono K, Takase KI, Kai K, Aishima S, Itoh K, Ninomiya T, Sasagasako N, Honda H: Novel method for classification of prion diseases by detecting PrPres signal patterns from formalin-fixed paraffin-embedded samples. Prion., 18, 40-53, 2024, 12.

7 ○Sakumoto T, Narita T, Morito S, Nishiyama M, Hashiguchi M, Mine Y, Iwamoto S, Toda S, Aoki S: Novel cell spheroid culture method using Medaka dried fish powder. Heliyon. 10(19): e38418, 2024 Sep 26.

8 ○Megumi Nishiyama, Yuko Sakaguchi, Sayuri Morito, Kei Nagase, Takehisa Sakumoto, Kunihiko Yamashita, Mariko Hashiguchi, Makoto Fukuda, Shuji Toda, Shigehisa Aoki: A new lymphedema treatment using pyro-drive jet injection. Hum Cell.37(2): 465-477, 2024 Mar.

9 Kojima Y, Hamada M, Naruse A, Goto K, Khine HT, Arai H, Akutsu Y, Satou A, Nakaguro M, Kato S, Kodera Y, Yatabe Y, Torii Y, Kawada JI, Murata T, Kimura H, Takiguchi S, Inagaki H, Kataoka H, Okuno Y: The landscape of 142 Epstein-Barr viral whole genomes in gastric cancer. J Gastroenterol. Jan; 60(1): 55-65, 2025 Jan.

症例報告

1 *Kisu E, Hiraki M, Okuyama K, Maeda S, Takesue S, Kusaba K, Kai K, Manabe T, Noshiro H: Multiple foci of Rosai-Dorfman disease in colon: a case report. Surg Case Rep., 10, 173, 2024, 7.

2 ○Tomihara K, Ito K, Kai K, Tanaka T, Ide T, Noshiro H: A case of intrahepatic mass-forming portal biliopathy mimicking intrahepatic cholangiocarcinoma. Clin J Gastroenterol., 17, 671-676, 2024, 8.

3 *古川舜理，平木将紹，明石道昭，甲斐敬太，櫻井良太，木村直也，鮫島隆一郎：早期胃癌の術後に少量の神経内分泌細胞成分が多発肝転移を来した1例．日本消化器外科学会雑誌，57巻9号，419–426，2024，9.

4 ○長岡　繁，中園貴彦，高柳幸穂，山口　健，江頭玲子，甲斐敬太，横山正俊，入江裕之：子宮腺肉腫の1例．臨床放射線，69巻4号，517–522，2024，7.

5 甲斐敬太：潰瘍性大腸炎に合併した原発性硬化性胆管炎が疑われた進行膵癌の一例．日本臨床細胞学会九州連合会雑誌，55巻，91–92，2024，7.

6　三根夢花，甲斐敬太，北村　捷，川崎佳奈子，山内盛泰，馬場耕一，倉富勇一郎，能城浩和，末岡榮三朗，相島慎一：後腹膜に嚢胞状転移巣を形成した，非常に稀な顎下腺腺様嚢胞癌の1例．日本臨床細胞学会九州連合会雑誌，55巻，47-51，2024，7.

7 ○Maruyama A, Ibi A, Sato Y, Tada Y: Rosai-Dorfman Disease Presenting with Knee Arthralgia. Intern Med., 63(4): 621, 2024, 2.

学会発表

国内全国規模の学会

1 ○吉永　優，江頭玲子，山口　健，中園貴彦，宮原尚文，甲斐敬太：出血合併により突然の前胸部圧迫感を生じた多房性胸腺嚢胞の1例．第60回日本医学放射線学会秋季臨床大会．2024，10，18-20.

2　陣内一輝，甲斐敬太，東武昇平，野口　満，佐藤暢晃，諸隈　太，田中祐也，中村　朱，増田正憲，森　大輔：腟壁浸潤を伴った尿道原発明細胞癌の1例．第65回日本臨床細胞学会総会春期大会．2024，6，7-9.

3 ○藤田真衣，岡本　翔，三橋達也，城戸口啓介，草場香那，佐野晴彦，板村英和，吉村麻里子，勝屋弘雄，安藤寿彦，陣内一輝，甲斐敬太，木村晋也：Epcoritamabによるpseudoprogressionを認めた再発難治性DLBCL．第86回日本血液学会学術集会．2024，10，11-13.

4　前田佐知子，甲斐敬太，川崎佳奈子，田中智和，井手貴雄，能城浩和：胆嚢癌の所属リンパ節におけるCD1a陽性樹状細胞の検討．第113回日本病理学会総会．2024，3，28-30.

5　川崎佳奈子，甲斐敬太，峯崎晃充，前田佐知子，山内盛泰，倉富勇一郎：喉頭癌の所属リンパ節におけるCD1a陽性樹状細胞浸潤の意義の解明．第113回日本病理学会総会．2024，3，28-30.

6 ○吉武薫子，徳永真梨子，瓜生泰恵，池田正純，大隈良一，栗原麻希子，福田亜紗子，橋口真理子，山本徒子，梅﨑　靖，奥川　馨，横山正俊：HBOCに対するRRSOで偶発的にhigh-grade serousの診断となった症例．第76回日本産科婦人科学会学術講演会．2024，4，20.

7 ○福田亜紗子，橋口真理子，野口光代，内山倫子，梅﨑　靖，奥川　馨，横山正俊：佐賀県におけるHPV検査併用検診の現状．第65回日本臨床細胞学会総会春期大会．2024，6，7-9.

8 *瓜生泰恵，山口加恵，吉武薫子，大隈良一，栗原麻希子，徳永真梨子，福田亜紗子，梅﨑　靖，奥川　馨，横山正俊，西山めぐみ，橋口真理子，甲斐敬太：尿道転移を伴う子宮体癌に対し，前方骨盤除臓術にて完全切除し得た一例．第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会．2024，7，19.

9 ○福田亜紗子，山下夏未，小林瑞季，栗原麻希子，橋口真理子，内山倫子，梅﨑　靖，奥川　馨，横山正俊：細胞診NILM，ハイリスクHPV 2年連続陽性で精査の結果，CIN3の診断となった4例．第63回日本臨床細胞学会秋期大会．2024，11，16-17.

10 ○小林瑞季，橋口真理子，栗原麻希子，福田亜紗子，野口光代，内山倫子，梅﨑　靖，井樋有紗，奥川　馨，横山正俊：2年連続NILM/HPV+の子宮頸部腺癌の1例．第63回日本臨床細胞学会秋期大会．2024，11，16-17.

11 ○栗原麻希子，橋口真理子，福田亜紗子，野口光代，内山倫子，梅﨑　靖，奥川　馨，横山正俊：HPV併用検診における2年連続NILM/HPV+症例の検討．第63回日本臨床細胞学会秋期大会．2024，11，16-17.

地方規模の学会

1　西岡虎次郎，北村　捷，水元　栞，本吉郁哉，上瀧さやか，青木茂久，末岡榮三朗，甲斐敬太：組織像・免疫組織化学・がんゲノム検査と照らした，中皮腫と判定した細胞診の再検討．第39回日本

臨床細胞学会九州連合会学会．2024，7，13-14.

2　甲斐敬太：肝癌の細胞診は実臨床の役に立つのか？．第39回日本臨床細胞学会九州連合会学会．2024，7，13-14.

3　陣内一輝，甲斐敬太，東武昇平，野口　満，佐藤暢晃，諸隈　太，田中祐也，中村　朱，増田正憲，森　大輔：尿細胞診，子宮膣部細胞診に腫瘍細胞が出現した尿道原発明細胞癌の１例．第40回佐賀県臨床細胞学会地方会．2024，3，2.

4　西岡虎次郎，北村　捷，水元　栞，本吉郁哉，上瀧さやか，青木茂久，末岡榮三朗，甲斐敬太：体腔液検体で中皮腫を疑った症例の再検討．第40回佐賀県臨床細胞学会地方会．2024，3，2.

その他の学会

1　陣内一輝，甲斐敬太：性腺腫瘍．第400回日本病理学会九州・沖縄支部スライドコンファレンス．2024，7，6.

2　甲斐敬太：食道胃接合部腫瘍．第402回日本病理学会九州・沖縄支部スライドコンファレンス．2024，11，30.

3　井樋有紗：後腹膜腫瘍．第401回日本病理学会九州・沖縄支部スライドコンファレンス．2024，9，28.

4　橋口真理子：精巣腫瘍．第399回九州・沖縄スライドカンファレンス．2024，5，18.

探索病理学分野

原著論文

1　Nishiyama M, Sakaguchi Y, Morito S, Nagase K, Sakumoto T, Yamashita K, Hashiguchi M, Fukuda M, Toda S, Aoki S: A new lymphedema treatment using pyro-drive jet injection. Human Cell. 37(2): 465-477, 2024, 1.

2　○Tanoshiri D, Inoue S, Aoki S, Kimoto A, Oishi Y, Narita, T: Fabrication and Characterization of Collagen–Magnetic Particle Composite Microbeads for Targeted Cell Adhesion and Proliferation. Macromol 4, 462-474, 2024, 7.

3　○Setoyama S, Haraguchi R, Aoki S, Oishi Y, Narita T: pH-Responsive Collagen Hydrogels Prepared by UV Irradiation in the Presence of Riboflavin. Int J Mol Sci (IF: 4.56; Q1) 27; 25(19): 10439, 2024, 9.

4　Sakumoto T, Narita T, Morito S, Nishiyama M, Hashiguchi M, Mine Y, Iwamoto S, Toda S, Aoki S: Novel cell spheroid culture method using Medaka dried fish powder. Heliyon 26; 10(19): e38418, 2024, 10.

症例報告

1　三根夢花，甲斐敬太，北村　捷，川﨑佳奈子，山内盛泰，馬塲耕一，倉富勇一郎，能城浩和，末岡榮三朗，相島慎一：後腹膜に嚢胞状転移巣を形成した，非常に稀な顎下腺腺様嚢胞癌の１例．日本臨床細胞学会九州連合会雑誌．55巻 Page47-51，2024，7.

2　○Takedomi H, Fukuda K, Inoue S, Tsuruoka N, Sakata Y, Aoki S, Esaki M: Combined eosinophilic gastroenteritis and ulcerative colitis successfully treated by vedolizumab: a case report. Intest Res. doi: 10.5217/ir.2024.00013., 2024, 8.

学会発表

国内全国規模の学会

1 ○七田茂輝，山口尊則，高橋佑弥，大坪豊和，中島夏奈，新里広大，西村優希，鶴田浩太呂，大迫亮介，枝吉　誠，河野佑貴，青木茂久，野出孝一：心房生検に基づく心房構造リモデリングと心房の心外膜脂肪組織量の関係（Relationship between Atrial Structural Remodeling Based on Atrial Biopsy and Atrial Epicardial Adipose Tissue Volume）．第88回日本循環器学会学術集会．2024，3，8–10.

2 ○西村優希，山口尊則，高橋佑弥，大坪豊和，中島夏奈，七田茂輝，新里広大，鶴田浩太呂，大迫亮介，枝吉　誠，河野佑貴，福井　暁，高橋尚彦，青木茂久，野出孝一：非弁膜症性心房細動患者における洞不全症候群の組織学的背景 心房生検からのエビデンス（Histological Background of Sick Sinus Syndrome in Patients with Non-valvular Atrial Fibrillation: Evidence from Atrial Biopsy）．第88回日本循環器学会学術集会．2024，3，8–10.

3 Nishiyama M, Sakaguchi Y, Morito S, Nagase K, Sakumoto T, Yamashita K, Hashiguchi M, Aoki S: Pyro-drive jet injection treatment improves secondary lymphedema. 第113回日本病理学会総会．2024，3，28–30.

4 Iwamoto S, Nishiyama M, Kawasaki M, Sakumoto T, Morito S, Aoki S: Stiff ceramics influence tongue cancer cell proliferation and migration. 第113回日本病理学会総会．2024，3，28–30.

5 佐久本孟寿，森戸小百合，西山めぐみ，青木茂久：肺癌における微小環境の役割とその制御機構の解明．第113回日本病理学会総会．2024，3，28–30.

6 青木茂久，坂口裕子，森戸小百合，佐久本孟寿，川﨑麻己，吉原万貴，松原彩乃，石橋綾乃，岩本脩平，西山めぐみ：病理医が考えた革新的リンパ浮腫治療．第41回分子病理研究会 げんかいシンポジウム．2024，7，6–7.

7 青木茂久，坂口裕子，森戸小百合，佐久本孟寿，川﨑麻己，吉原万貴，松原彩乃，石橋綾乃，岩本脩平，西山めぐみ：いち病理医が実践する医学研究．第 8 回日本ワンヘルスサイエンス学会．2024，9，14.

8 *広松　悟，野中康徳，小野桃子，末永敦彦，池田裕貴，山崎政虎，福田　誠，吉原万貴，青木茂久，宮園素明：顕微鏡的多発血管炎 6 例に対する avacopan の使用経験．第54回（令和 6 年度）日本腎臓学会西部学術大会．2024，10，5–6.

9 三根夢花，北村　捷，甲斐敬太，上瀧さやか，中村光男，有働和馬：胸水中に好酸性細胞質封入体を有する腫瘍細胞を認めた膀胱尿路上皮癌の胸膜播種の 1 例．第63回日本臨床細胞学会秋期大会．2024，11，16–17.

地方規模の学会

1 *広松　悟，野中康徳，小野桃子，末永敦彦，池田裕貴，山崎政虎，福田　誠，吉原万貴，青木茂久，宮園素明：顕微鏡的多発血管炎 6 例に対する avacopan の使用経験．第54回日本腎臓学会西部学術大会．2024，10，5–6.

2 ○平野里佳，下田　良，芥川剛至，青木茂久，江崎幹宏：EMR with OTSC: EMRO によって切除した十二指腸神経内分泌腫瘍の 1 例．日本消化器病学会九州支部例会・日本消化器内視鏡学会九州支部例会．2024，11，15–16.

その他の学会

1　三根夢花：佐賀大学医学部の病理標本作製業務について．佐賀大学技術研究会．2024，3，8.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
教　授	青木　茂久	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	微小環境を構成する多因子に着目した悪性黒色腫の病態に及ぼす生物学的作用の解明	1,430
教　授	青木　茂久	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	微小環境に着目したメサンギウム細胞の病的増殖メカニズムの解明	50
教　授	青木　茂久	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	がん微小環境因子（細胞・物理・化学）と尿路上皮癌との細胞動態相互作用	100
教　授	青木　茂久	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	体外からの細胞操作を可能にする細胞外マトリックス担体の開発	325
教　授	青木　茂久	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	尿道下裂動物モデルを用いた尿道狭窄抑制デバイスの効果およびその作用機序の解明解析	200
教　授	青木　茂久	佐賀県 TSUNAGI プロジェクト		1	干物を利用した次世代型蛋白質バイオ製造システムの開発研究	1,950
教　授	青木　茂久	AMED	PreF	2	粘膜再生に最適化した生体吸収性組織再生デバイスの開発	3,250
助　教	西山めぐみ	科学研究費助成事業	若手研究	1	流体刺激と尿細管上皮細胞－線維芽細胞間相互作用が腎嚢胞形成に及ぼす影響の解明	1,170
助　教	岩本　脩平	科学研究費助成事業	若手研究	1	超硬性素材による口腔扁平上皮癌細胞への生物学的影響の解明	1,690

微生物学分野

原著論文

1　○Takashima S, Tokiya M, Izui K, Miyamoto H, Matsumoto A: Asian flush is a potential protective factor against COVID-19: a web-based retrospective survey in Japan. Environmental Health and Preventive Medicine 29:14. doi: 10.1265/ehpm.23-00361, 2024.

2　*横山　翼，船島由美子，上田　修，矢口貴志，川原健太郎，加藤匡平，若松謙太郎，宮本比呂志，永沢善三：フーリエ変換赤外分光法を原理とするIRバイオタイパーにより作成した*Salmonella*属菌O抗原型別モデルの性能検証．国際医療福祉大学学会誌（Journal of International University of Health and Welfare）第29巻1号：42-48，2024，3.

学会発表

国際規模の学会

1 ○Ueno M, Miyamoto H, Kii S, Hirata H, Kawano S, Mawatari M: Silver-Containing Calcium Phosphate in Mesenchymal Stem Cell-Based Bone Regeneration: Comprehensive Analysis of Antibacterial Efficacy and Osteogenic Potential. ORS 2024 Annual meeting. 2024, 2, 2-6.

国内全国規模の学会

1 *枝川亜希子，余野木伸哉，宮本比呂志：環境中での自由生活性アメーバの存在が細菌量および細菌叢へ与える影響．日本防菌防黴学会第50回年次大会．2024，9，17-18.

2 *野田岩男，森本忠嗣，井田貴夫：銀含有ハイドロキシアパタイト被覆インプラントの開発と実用化．日本バイオマテリアル学会シンポジウム2024．2024，10，28-29.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研　究　課　題　等	交付金額（千円）
教　授	宮本比呂志	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	細菌の病原性遺伝子の発現を抑制する病原性抑制薬による人工関節感染症の治療の研究	780
教　授	宮本比呂志	科学研究費助成事業	基盤研究(B)	2	水道水におけるアメーバと寄生病原細菌との関連性および潜在的感染リスクの解明	100
助　教	菖蒲池健夫	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	細菌バイオフィルムを低減させる薬剤による人工関節感染の治療に関する研究	650

学術（学会）賞

職　名	氏　名	学術（学会）賞名	受　賞　課　題
客員研究員	野田　岩男	日本バイオマテリアル学会賞	銀含有ハイドロキシアパタイト被覆インプラントの開発と実用化

社 会 医 学 講 座

予防医学分野

原著論文

1 ○Ashenagar M.S, Hara M, Yamada G, Tokiya M, Matsumoto A: Effects of Baseline Blood Zinc Levels on the Humoral Immune Response After COVID-19 mRNA Vaccination: A Prospective Study in a Japanese Population. Vaccines. 12(12): 1359, 2024.

2 ○Bogahawaththa S, Hara M, Furukawa T, Iwasaka C, Sawada T, Yamada G, Tokiya M, Kitagawa K, Miyake Y, Kido MA, Hirota Y, Matsumoto A: Asian Flush Gene Variant Enhances Cellular Immunogenicity of COVID-19 Vaccine: Prospective Observation in the Japanese General Population. Vaccines 12(9): 1015, 2024, 9.

3 Hara M, Ohta Y, Fusazaki N, Hirota Y: Effectiveness of BNT162b2 Vaccine Against Symptomatic SARS-CoV-2 Infection in Children Aged 5–11 Years in Japan During Omicron Variant Predominate Periods. J. Epidemiol. 34 (5): 205-210, 2024.

4 *Hishida A, Nakatochi M, Sutoh Y, Nakano S, Momozawa Y, Narita A, Tanno K, Shimizu A, Hozawa A, Kinoshita K, Yamaji T, Goto A, Noda M, Sawada N, Ikezaki H, Nagayoshi M, Hara M, Suzuki S, Koyama T, Koriyama C, Katsuura-Kamano S, Kadota A, Kuriki K, Yamamoto M, Sasaki M, Iwasaki M, Matsuo K, Wakai K: GWAS Meta-analysis of Kidney Function Traits in Japanese Populations. J. Epidemiol. 34 (11): 526-534, 2024.

5 ○Ide T, Yakushiji Y, Suzuyama K, Nishihara M, Eriguchi M, Ogata A, Matsumoto A, Hara M, Hara H: Associations for progression of cerebral small vessel disease burden in healthy adults: the Kashima scan study. Hypertens. Res. 47(2): 302-310, 2024.

6 Iwasaka C, Nanri H, Hara M, Nishida Y, Shimanoe C, Yamada Y, Furukawa T, Higaki Y, Momozawa Y, Nakatochi M, Wakai K, Matsuo K, Tanaka K: Interaction between Habitual Green Tea and Coffee Consumption and ACTN3 Genotype in Association with Skeletal Muscle Mass and Strength in Middle-Aged and Older Adults. J. Frailty Aging. 2024; 13(3): 267-275, 2024, 8.

7 Iwasaka C, Yamada Y, Nishida Y, Hara M, Yasukata J, Miyoshi N, Shimanoe C, Nanri H, Furukawa T, Koga K, Horita M, Higaki Y, Tanaka K: Association Between the Appendicular Extracellular-to-Intracellular Water Ratio and All-Cause Mortality: A 10-Year Longitudinal Study. J. Gerontol. Ser. A-Biol. Sci. Med. Sci. 79(2): 1-8, 2024.

8 *Kasahara C, Tamura T, Wakai K, Tamada Y, Kato Y, Kubo Y, Okada R, Nagayoshi M, Hishida A, Imaeda N, Goto C, Otonari J, Ikezaki H, Nishida Y, Shimanoe C, Oze I, Koyanagi Y.N, Nakamura Y, Kusakabe M, Nishimoto D, Shimoshikiryo I, Suzuki S, Watanabe M, Ozaki E, Omichi C, Kuriki K, Takashima N, Miyagawa N, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Takeuchi K, Matsuo K: Association between consumption of small fish and all-cause mortality among Japanese: the Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. Public Health Nutr. 27(1): art. no. e135, 2024, 5.

9 ○Kobayashi T, Hara M, Shimanoe C, Morimoto T, Masaaki M, Ito K, Shimazaki T: Efficacy and safety of romosozumab: a meta-analysis of placebo-controlled trials. J. Bone Miner. Metab. 42(5): 492-502, 2024, 9.

10 ○Kobayashi T, Tokiya M, Matsumoto A, Nakano T, Hirota Y, Hara M: Predictive factors of coronavirus disease (COVID-19) vaccination series completion: a one-year longitudinal web-based observational study in Japan. Front. Public Health. 12.1348170, 2024, 2.

11 *Koyanagi YN, Nakatochi M, Namba S, Oze I, Charvat H, Narita A, Kawaguchi T, Ikezaki H, Hishida A, Hara M, Takezaki T, Koyama T, Nakamura Y, Suzuki S, Katsuura-Kamano S, Kuriki K, Nakamura Y, Takeuchi K, Hozawa A, Kinoshita K, Sutoh Y, Tanno K, Shimizu A, Ito H, Kasugai Y, Kawakatsu Y, Taniyama Y, Tajika M, Shimizu Y, Suzuki E, Hosono Y, Imoto I, Tabara Y, Takahashi M, Setoh K, Matsuda K, Nakano S, Goto A, Katagiri R, Yamaji T, Sawada N, Tsugane S, Wakai K, Yamamoto M, Sasaki M, Matsuda F, Okada Y, Iwasaki M, Brennan P, Matsuo K: Genetic architecture of alcohol consumption identified by a genotype-stratified GWAS and impact on esophageal cancer risk in Japanese people. Sci. Adv. 10(4): eade2780, 2024, 1.

12 *Kumagai H, Kim SJ, Miller B, Zempo H, Tanisawa K, Natsume T, Lee SH, Wan J, Leelaprachakul N, Kumagai ME, Ramirez R 2nd, Mehta HH, Cao K, Oh TJ, Wohlschlegel JA, Sha J, Nishida Y, Fuku N, Dobashi S, Miyamoto-Mikami E, Takaragawa M, Fuku M, Yoshihara T, Naito H, Kawakami R, Torii S, Midorikawa T, Oka K, Hara M, Iwasaka C, Yamada Y, Higaki Y, Tanaka K, Yen K, Cohen P: MOTS-c modulates skeletal muscle function by directly binding and activating CK2. iScience. 27(11): 111212, 2024.

13 ○Kobayashi T, Morimoto T, Shimanoe C, Ono R, Otani K, Mawatari M: Risk factors for progression of the severity of locomotive syndrome: A two-year longitudinal observational study. J. Orthop. Sci. 2024 Mar; 29(2): 646-652, 2024, 3.

14 *Nagata M, Komaki S, Nishida Y, Ohmomo H, Hara M, Tanaka K, Shimizu A: Influence of physical activity on the epigenetic clock: evidence from a Japanese cross-sectional study. Clin. Epigenetics. 16(1): 142, 2024, 10.

15 *Nagayoshi M, Hishida A, Shimizu T, Kato Y, Kubo Y, Okada R, Tamura T, Otonari J, Ikezaki H, Hara M, Nishida Y, Oze I, Koyanagi Y.N, Nakamura Y, Kusakabe M, Ibusuki R, Shibuya K, Suzuki S, Nishiyama T, Koyama T, Ozaki E, Kuriki K, Takashima N, Nakamura Y, Katsuura-Kamano S, Arisawa K, Nakatochi M, Momozawa Y, Takeuchi K, Wakai K, J-MICC Study Group: BMI and Cardiometabolic Traits in Japanese: A Mendelian Randomization Study. J. Epidemiol. 34 (2): 51-62, 2024, 2.

16 Nanri H, Hara M, Nishida Y, Shimanoe C, Higaki Y, Tanaka K: Association between oxidative balance score and inflammatory markers in middle-aged and older Japanese people. Am. J. Hum. Biol. 36 (6): art. no. e24059, 2024, 6.

17 Nishida Y, Hara M, Taguchi N, Nakamura K, Nanri H, Imaizumi T, Sakamoto T, Shimanoe C, Horita M, Furukawa T, Iwasaka C, Shinchi K, Higaki Y, Tanaka K: Association between physical activity and the N-terminal pro-brain natriuretic peptide in a middle-aged Japanese population: The interaction with alcohol consumption, 2005–2006. Prev. Med. 189: 108138, 2024, 12.

18 *Nishimoto D, Ibusuki R, Shimoshikiryo I, Shibuya K, Tanoue S, Koriyama C, Takezaki T, Oze I, Ito H, Hishida A, Tamura T, Kato Y, Tamada Y, Nishida Y, Shimanoe C, Suzuki S, Nishiyama T, Ozaki E, Tomida S, Kuriki K, Miyagawa N, Kondo K, Arisawa K, Watanabe T, Ikezaki H, Otonari J, Wakai K, Matsuo K, Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort (J-MICC) Study Group: Association Between Awareness of Limiting Food Intake and All-cause Mortality: A Cohort Study in Japan. J. Epidemiol. 34 (6): 286-294, 2024, 6.

19 *Shiraishi K, Takahashi A, Momozawa Y, Daigo Y, Kaneko S, Kawaguchi T, Kunitoh H, Matsumoto S, Horinouchi H, Goto A, Honda T, Shimizu K, Torasawa M, Takayanagi D, Saito M, Saito A, Ohe Y, Watanabe S.-I, Goto K, Tsuboi M, Tsuchihara K, Takata S, Aoi T, Takano A, Kobayashi M, Miyagi Y, Tanaka K, Suzuki H, Maeda D, Yamaura T, Matsuda M, Shimada Y, Mizuno T, Sakamoto H, Yoshida T, Goto Y, Yoshida T, Yamaji T, Sonobe M, Toyooka S, Yoneda K, Masago K, Tanaka F, Hara M, Fuse N, Nishizuka S.S, Motoi N, Sawada N, Nishida Y, Kumada K, Takeuchi K, Tanno K, Yatabe Y, Sunami K, Hishida T, Miyazaki Y, Ito H, Amemiya M, Totsuka H, Nakayama H, Yokose T, Ishigaki K, Nagashima T, Ohtaki Y, Imai K, Takasawa K, Minamiya Y, Kobayashi K,

Okubo K, Wakai K, Shimizu A, Yamamoto M, Iwasaki M, Matsuda K, Inazawa J, Shiraishi Y, Nishikawa H, Murakami Y, Kubo M, Matsuda F, Kamatani Y, Hamamoto R, Matsuo K, Kohno T: Identification of telomere maintenance gene variations related to lung adenocarcinoma risk by genome-wide association and whole genome sequencing analyses. Cancer Commun. 44 (2): 287-293, 2024, 2.

20 *Tokiya M, Matsumoto A, Furukawa Y, Kobayashi T, Nakano T, Hirota Y, Hara M: Validation of the Modified Japanese 7C Readiness Scale for Parental Intentions of Child COVID-19 Vaccination. Hygiene. 4(4): 515-526, 2024, 4.

21 *Tomida S, Koyama T, Ozaki E, Takashima N, Morita M, Sakaguchi K, Naoi Y, Nishida Y, Hara M, Hishida A, Tamura T, Okada R, Kubo Y, Otonari J, Ikezaki H, Nakamura Y, Kusakabe M, Tanoue S, Koriyama C, Koyanagi Y.N, Ito H, Suzuki S, Otani T, Miyagawa N, Okami Y, Arisawa K, Watanabe T, Kuriki K, Wakai K, Matsuo K: Seven-plus hours of daily sedentary time and the subsequent risk of breast cancer: Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. Cancer Sci. 115(2): 611-622, 2024, 2.

22 *Tsukamoto M, Hishida A, Tamura T, Nagayoshi M, Okada R, Kubo Y, Kato Y, Hamajima N, Nishida Y, Shimanoe C, Ibusuki R, Shibuya K, Takashima N, Nakamura Y, Kusakabe M, Nakamura Y, Koyanagi Y.N, Oze I, Nishiyama T, Suzuki S, Watanabe I, Matsui D, Otonari J, Ikezaki H, Katsuura-Kamano S, Arisawa K, Kuriki K, Nakatochi M, Momozawa Y, Takeuchi K, Wakai K, Matsuo K, J-MICC Study Group: GWAS of Folate Metabolism With Gene–environment Interaction Analysis Revealed the Possible Role of Lifestyles in the Control of Blood Folate Metabolites in Japanese: The J-MICC Study. J. Epidemiol. 34(5): 228-237, 2024, 5.

23 Watanabe T, Nguyen TV, Katsuura-Kamano S, Arisawa K, Ishizu M, Unohara T, Tanaka K, Shimanoe C, Nagayoshi M, Tamura T, Kubo Y, Kato Y, Oze I, Ito H, Michihata N, Nakamura Y, Tanoue S, Koriyama C, Suzuki S, Nakagawa-Senda H, Koyama T, Tomida S, Kuriki K, Takashima N, Harada A, Wakai K, Matsuo K; J-MICC Study Group: The Significance of Comprehensive Metabolic Phenotypes in Cancer Risk: A Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. Cancer Res. Commun. 2024 Nov 1; 4(11): 2986-2997, 2024, 11.

学会発表

国際規模の学会

1 ○Araki K, Hara M: Psychological determinants of HPV vaccine hesitancy among females of catch-up generations in Japan: Internet survey. 2024 ISV ANNUAL CONGRESS. 2024, 10, 21-23. 2024 ISV ANNUAL CONGRESS: P136.

2 Furukawa T, Hara M, Nishida Y, Shimanoe C, Iwasaka C, Tanaka K, J-MICC Study Group: Comparison of polygenic risk scores for diabetes developed from different ethnic groups: A cross-sectional study in the Japanese population. World Congress of Epidemiology 2024. 2024, 9, 24-27. World Congress of Epidemiology 2024: O2-17 Genetic epidemiology.

3 Furukawa Y, Tokiya M, Kobayashi T, Hara M: Examining the role of personal beliefs as mediators in the relationship between individual-level social capital and COVID-19 vaccine intention: A Cross-Sectional Study in Japan. OPTIONS XII for the Control of Influenza. 2024, 9, 29-10, 2.

electric abstract. https://www.optionsxii2024.org.uk/programme.

4 Hara M, Furukawa Y, Kobayashi T, Tokiya M: Association between perception of SARS-CoV2 and COVID-19 vaccine misinformation and COVID-19 Vaccination uptake in Japan. OPTIONS XII for the Control of Influenza. 2024, 9, 29-10, 2. electric abstract. https://www.optionsxii2024.org.uk/programme.

5 *Kumagai H, Kim S-J, Miller B, Lee SH, Zempo H, Natsume T, Wan J, Ramirez II R, Mehta HH, Nishida Y, Fuku N, Dobashi S, Miyamoto-Mikami E, Naito H, Hara M, Iwasaka C, Yamada Y, Higaki Y, Tanaka K, Yen K, Cohen P: The MOTS-c/CK2 pathway is a novel molecular target for type 2 diabetes in East Asians. 84th Scientific Sessions, the American Diabetes Association. 2024, 6, 21-24. Diabetes 73(Supplement_1): 344-OR.

6 Nishida Y, Hara M, Taguchi N, Iwasaka C, Furukawa T, Shimanoe C, Horita M, Higaki Y, Tanaka K: Interaction of physical activity with VTI1A and TCF7L2 polymorphisms on colon and breast cancer incidences in a Japanese general population. World Congress of Epidemiology 2024 (WCE2024) . 2024, 9, 24-27. World Congress of Epidemiology 2024: O2-17 Genetic epidemiology.

国内全国規模の学会

1 ○荒木　薫，木道圭子，原めぐみ：COVID-19 流行期における大学生の感染予防対策の励行状況．第62回全国大学保健管理研究集会．2024，10，16.

2 ○Ashenagar M.S, Hara M, Tokiya M, Furukawa T, Iwasaka C, Sawada T, Hirota Y, Matsumoto A: Baseline Serum Zinc Levels Positively Associated with Humoral Response to COVID-19 Vaccine in Japanese Women. 第94回日本衛生学会学術総会．2024，3，7-9.

3 ○Bogahawaththa S, Hara M, Furukawa T, Iwasaka C, Sawada T, Yamada G, Tokiya M, Kitagawa K, Miyake Y, Kido M.A, Hirota Y, Matsumoto A: Association between Specific T Cell Responses and rs671 Polymorphism Following COVID-19 Vaccination: Prospective Study in the Japanese General Population. 第94回日本衛生学会学術総会．2024，3，7-9.

4 ○古川拓馬，西田裕一郎，原めぐみ，島ノ江千里，岩坂知治，田中恵太郎，J-MICC Study Group：日本人におけるポリジェニックリスクスコアと糖尿病の関連：J-MICC Study．第34回日本疫学会学術総会．2024，1，31-2，2.

5 古川祐太朗，土器屋美貴子，原めぐみ：個人的ソーシャルキャピタルと COVID-19ワクチン接種意向の関連性：個人の信念の媒介効果に関する横断的研究．第83回日本公衆衛生学会総会．2024，10，29-31.

6 原めぐみ，古川拓馬，西田裕一郎，島ノ江千里，田中恵太郎：乳がんの Polygenic Risk Score による乳がん罹患予測：J-MICC Study．第34回日本疫学会学術総会．2024，1，31-2，2.

7 原めぐみ，古川祐太朗，小林孝巨：新型コロナウイルス，新型コロナワクチンに関する誤情報の認識とワクチン接種割合，2024年度秋接種の接種意向との関連性．第28回日本ワクチン学会・第65回日本臨床ウイルス学会 合同学術集会．2024，10，26-27.

8 原めぐみ：HPV ワクチンの有効性と安全性の評価に関する疫学研究．第31回日本がん予防学会．2024，9，16-17.

9 原めぐみ：ワクチン疫学研究：有効性評価の原理と方法論．第45回日本臨床薬理学会学術総会．2024，12，13-14.

10　原めぐみ：ロタウイルス感染症の疫学とワクチン有効性評価．第20回日本小児消化管感染症研究会．2024，2，8.

11　原めぐみ：人の健康づくり．第８回日本ワンヘルスサイエンス学会年次学術集会．2024，9，24.

12　小林孝巨，土器屋美貴子，松本明子，中野貴司，廣田良夫，原めぐみ：新型コロナワクチン２回接種の予測因子：１年間の縦断的ウェブベース観察研究．第28回日本ワクチン学会・第65回日本臨床ウイルス学会 合同学術集会．2024，10，26-27.

13　*笠原千夏，田村高志，若井建志，玉田雄大，加藤泰文，久保陽子，岡田理恵子，永吉真子，菱田朝陽，今枝奈保美，後藤千穂，乙成　淳，池崎裕昭，西田裕一郎，島ノ江千里，尾瀬　功，小柳エヌ友理子，中村洋子，日下部美帆，西本大策，下敷領一平，鈴木貞夫，渡邉美貴，尾崎悦子，大道智恵，栗木清典，高嶋直敬，宮川尚子，有澤孝吉，釜野勝浦桜子，竹内研時，松尾恵太：日本人における小魚摂取と全死亡との関連：日本多施設共同コーホート研究．がん疫学・分子疫学研究会総会．2024，9，3.

14　森　一真，古川祐太朗，原めぐみ：災害時の避難意向に関する世帯特性：3,510世帯の横断的研究．第83回日本公衆衛生学会総会．2024，10，29-31.

15　中村登志子，富﨑祥子，井上さくら，森田莉子，浦　容子，椎葉美千代：乳幼児の父親における子育て支援に関する検討～ COVID-19時期別の比較～．第38回日本助産学会学術集会．2024，10，5-6.

16　西田裕一郎，原めぐみ，田口尚人，岩坂知治，古川拓馬，島ノ江千里，堀田美加子，檜垣靖樹，田中恵太郎：大腸がん・乳がん罹患リスクに対する身体活動と VTI1A・TCF7L2遺伝子多型の交互作用．第34回日本疫学会学術総会．2024，1，31-2，2.

17　西田裕一郎：身体活動と炎症，末梢血 DNA メチル化．第32回日本運動生理学会大会．2024，8，22-23.

18　島ノ江千里，松本明子，原めぐみ，西田裕一郎，古川拓馬，田中恵太郎，J-MICC Study Group：糖尿病患者の高血圧とグルココルチコイド活性マーカーとの関連：J-MICC Study SAGA．第34回日本疫学会学術総会．2024，1，31-2，2.

19　○山田剛暉，西田裕一郎，堀田美加子，河本和裕，前田康行，土器屋美貴子，原めぐみ，松本明子：血清の酸化ストレス指標のダウンスケール測定法の確立．第94回日本衛生学会学術総会．2024，3，7-9.

20　○山本大誠，森　一真，古川祐太朗，阪本雄一郎，原めぐみ：無線式呼び出し機を活用した住民主体の独居高齢者の見守りシステムの効果と今後の展望．第83回日本公衆衛生学会総会．2024，10，29-31.

その他の学会

1　古川拓馬，西田裕一郎，島ノ江千里，岩坂知治，原めぐみ，J-MICC Study Group：日本人集団における糖尿病 Polygenic Risk Score の比較：J-MICC Study．第３回佐賀大学医学部リトリート．2024，8，24-25.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額 （千円）
准教授	原　めぐみ	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	酸化ストレスに基づくがん罹患リスクスコアの開発とその妥当性の検討	0 (1,524)
准教授	原　めぐみ	科学研究費補助金	学術変革領域研究（学術研究支援基盤形成）	2	コホート・生体試料支援プラットフォーム	8,658
准教授	原　めぐみ	厚生労働行政推進調査事業費補助金	新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業	2	ワクチンの有効性・安全性の疫学的評価と予防接種政策の最適化に資する研究	3,800
准教授	原　めぐみ	厚生労働行政推進調査事業費補助金	厚生労働科学特別研究事業	2	国内での COVID-19 ワクチン臨床試験実施状況等調査	250
准教授	原　めぐみ	科学研究費助成事業	基盤研究(B)	2	身体活動と VTI1A・TCF7L2 遺伝子および大腸癌・乳癌リスクのコホート研究	130 (100)
准教授	原　めぐみ	国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）	新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業	2	自治体基盤データベースを活用したワクチンの有効性・安全性・経済性のエビデンス創出研究	1,300
准教授	原　めぐみ	国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）	革新的がん医療実用化研究事業	2	HPV ワクチンの長期的効果およびキャッチアップ接種の有効性の評価のための大規模疫学研究	390
特定講師	西田裕一郎	科学研究費助成事業	基盤研究(B)	1	身体活動と VTI1A・TCF7L2 遺伝子および大腸癌・乳癌リスクのコホート研究	1,040 (3,700)
特定講師	西田裕一郎	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	運動療法による大腸リハビリテーション効果の解明	100
客　員 研究員	田中恵太郎	科学研究費助成事業	基盤研究(B)	2	身体活動と VTI1A・TCF7L2 遺伝子および大腸癌・乳癌リスクのコホート研究	130 (100)
客　員 研究員	古川　拓馬	科学研究費助成事業	若手研究	1	生活習慣病に関連する DNA メチル化領域の探索およびライフスタイル要因の影響	1,300 (500)
客　員 研究員	古川　拓馬	科学研究費助成事業	研究活動スタート支援	1	糖尿病に対する遺伝的リスクと個別化対処戦略の検討	0 (565)
客　員 研究員	古川　拓馬	国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）	研究開発推進ネットワーク事業	2	北部九州における分散型臨床試験のための医療機関ネットワーク構築と倫理審査の効率化を目指した研究	0

客　員 研究員	古川　拓馬	国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）	研究開発推進ネットワーク事業	2	全九州における黄斑下出血に対する組織プラスミノーゲン活性化因子（tPA）眼局所治療に関する研究開発	0

※（　）は繰越金で外数

学術（学会）賞

職　名	氏　名	学術（学会）賞名	受　賞　課　題
客　員 研究員	古川　拓馬	第34回日本疫学会学術総会，最優秀演題賞	日本人におけるポリジェニックリスクスコアと糖尿病の関連：J-MICC Study

環境医学分野

著　　書

1　市場正良：環境・職業性因子による疾患 最近の動向．今日の治療指針17章 1094-1097，2024．医学書院，東京．

原著論文

1　○Hideshima Y, Asami T, Ichiba M, Matsuo K, Murata T: A study on the effectiveness of training in the operation of an electric mobility aid in severely mentally and physically handicapped children. Jpn J Compr Rehabil Sci, 15: 8-16, 2024, Apr.

2　Matsumoto A, Kodera S, Matsuura T, Takayama Y, Yamada Y, Hirata A: Differential Impact of SARS-CoV-2 Infection During Different Outbreak Periods on Incident Diabetes in Japan: A Matched Cohort Study Utilizing Health Insurance Claims. Environ Health Prev Med. 29: 52, 2024, Oct.

3　Ashenagar MS, Higashino T, Matsumoto A, Higashino H: Mechanisms of thiazide-induced hypertension treatment: insights from gene expression and histological analysis in malignant stroke-prone spontaneously hypertensive rats. J Hypertens. 42(12): 2084-2093, 2024, Dec.

4　Ashenagar MS, Hara M, Yamada G, Tokiya M, Matsumoto A: Effects of Baseline Blood Zinc Levels on the Humoral Immune Response after COVID-19 mRNA Vaccination: A Prospective Study in the Japanese Population. Vaccines. 12(12), 1359, 2024, Nov.

5　Kobayashi T, Tokiya M, Matsumoto A, Nakano T, Hirota Y, Hara M: Predictive factors of coronavirus disease (COVID-19) vaccination series completion: A one-year longitudinal Web-based observational study in Japan. Frontiers in Public Health. 12: 1348170, 2024, Feb.

6　Takashima S, Tokiya M, Izui K, Miyamoto H, Matsumoto A: Asian flush is a potential protective factor against COVID-19: A web-based retrospective survey in Japan. Environ Health Prev Med. 29: 14, 2024, Mar.

7　Xu Y, Sawamoto T, Sun R, Ishikura A, Satoh A, Matsumoto A, Munemasa S, Murata Y, Nakamura T, Nakamura Y: Evaluation of quercetin as a potential cytoprotector against acetaldehyde using the cultured hepatocyte model with aldehyde dehydrogenase isozyme deficiency. Biosci Biotechnol Biochem. 20; 88(10): 1199-1202, 2024, Sep.

8 Bogahawaththa S, Hara M, Furukawa T, Iwasaka C, Sawada T, Yamada G, Tokiya M, Kitagawa K, Miyake Y, Hirota Y, Matsumoto A: Asian Flush Gene Variant Enhances Cellular Immunogenicity of COVID-19 Vaccine: Prospective Study in the Japanese General Population. Vaccines (Basel). 12(9): 1015, 2024, Sep.

9 Tokiya M, Kawamoto K, Akao C, Tsuji M, Hashimoto M, Fukuda K, Yakushiji Y, Koike H, Matsumoto A: Asian Flush Gene Variant Increases Mild Cognitive Impairment Risk: A Cross-Sectional Study of the Yoshinogari Brain MRI Checkup Cohort. Environ Health Prev Med: 29, 55-55, 2024, Oct.

10 Tokiya M, Matsumoto A, Furukawa Y, Kobayashi T, Nakano T, Hirota Y, Hara M: Assessing Parental Intention for Child COVID-19 Vaccination Validation of the Modified Japanese 7C Readiness Scale. Hygiene. 4(4), 515-526, 2024, Dec.

11 市場正良，南部裕里：尿中 N-メチルホルムアミド及び N-メチルアセトミアドのクロスチェック集計結果について(8)．労働衛生管理 35(3)：79-83，2024，9.

12 *伊東明雅，倉重公太朗，黒澤　一，嶋﨑　量，津久井要，瓦林道広，彌冨美奈子：攻撃的性格，習慣飲酒，身体疾患，在宅勤務への復職請求等が問題となる事例について．産業保健法学会誌 3 (1)：175-183，2024.

13 *Yamamoto S, Hachiya Y, Goto M, Takeuchi A, Ishidao T, Hori H, Miyauchi H: Reducing exposure levels of immersion washing workers to ortho-phthalaldehyde by improving exhaust systems. J. Occupational Health. 66(1) uiae033, 2024, 1.

総　　説

1 Matsumoto A：Infection burden and ALDH2 rs671, East Asian genetic diversity (Letter to the Editor). Alcohol: Clinical and Experimental Research. 2024; 48(9): 1810-1811, 2024, Jun 2024, Sep.

学会発表

国内全国規模の学会

1 松本明子：『ALDH2 rs671多型に基づく保健医療システムの構築をめざして』ALDH2 rs671の基礎と保健医療における実装化に向けた課題．第94回日本衛生学会学術集会 シンポジウム．2024，3，7-9.

2 土器屋美貴子，八尾博史，橋本　学，辻真里子，福田賢治，薬師寺祐介，小池春樹，松本明子：吉野ヶ里脳 MRI 健診における ALDH2遺伝子多型 rs671と軽度認知機能障害との関連．第94回日本衛生学会学術集会．2024，3，7-9.

3 遠藤郁実，土器屋美貴子，河本和裕，前田康行，市場正良，松本明子：LCMS/MS による尿中糖質コルチコイド類の同時分析系のダウンサイジング．第95回日本衛生学会学術集会．2024，3，7-9，2024，3，19-21.

4 高島　賢，土器屋美貴子，泉井　桂，宮本比呂志，松本明子：Asian flush は COVID-19の防御因子候補後ろ向き web 調査．第96回日本衛生学会学術集会．2024，3，7-9.

5 Sudarma Bogahawaththa, 原めぐみ，古川拓馬，岩坂知治，澤田孟志，山田剛輝，土器屋美貴子，北川恭子，三宅靖延，城戸瑞穂，廣田良夫，松本明子：Association between Specific T Cell Responses and rs671 Polymorphism Following COVID-19 Vaccination: Prospective Study in the Japanese General Population Variant Allele of ALDH2, rs671, Associates with Attenuated Post-Vac-

cination Response in Anti-SARS-CoV-2 Spike Protein IgG: A Prospective Study in the Japanese General Population. 第97回日本衛生学会学術集会. 2024, 3, 7-9.

6 山田剛暉, 西田裕一郎, 堀田美加子, 河本和裕, 前田康行, 土器屋美貴子, 原めぐみ, 松本明子：血清の酸化ストレス指標のダウンスケール測定法の確立. 第97回日本衛生学会学術集会. 2024, 3, 7-9.

7 土器屋美貴子, 河本和裕, 前田康行, 遠藤郁実, 市場正良, 兼板佳孝：睡眠衛生のための ALDH2 多型判定－ACCEL で測定した中途覚醒と起床時尿中ドパミンの関連から－. 日本睡眠学会第48回定期学術集会 ハイブリット方式. 2024, 7, 18-19.

8 髙木佑介, 大林　航：当地区における行政機関と連携した糖尿病医療連携の取り組みについて. 第83回日本公衆衛生学会総会 シンポジウムランチョンセミナー. 2024, 10, 29-31.

9 *森屋一雄, 本田成美, 坂本龍彦, 大林　航, 中里栄介, 髙木佑介：佐賀県における感染対策に対応する人材育成事業について（第２報）. 第83回日本公衆衛生学会総会. 2024, 10, 29-31.

10 *久冨茜音, 小島基靖, 荒木広夢, 髙木佑介：バセドウ病に肺血栓塞栓症と下垂体前葉機能低下症を合併した一例. 第34回臨床内分泌代謝 Update. 2024, 10, 29-30.

11 *山本　忍, 竹内靖人, 宮内博幸：個人サンプリング法を用いた作業環境評価における測定対象者の選定―大学の化学系実験実習の場合―. 第97回日本産業衛生学会. 2024, 5, 22-24.

12 *山本　忍, 保利　一, 宮内博幸：CREATE-SIMPLE ver.3.x による推定ばく露濃度と実測による個人ばく露濃度の比較－換気状況の設問の効果－. 第42回産業医科大学学会 オンラインとハイブリッド開催. 2024, 10, 12.

13 *山本　忍, 保利　一, 宮内博幸：CREATE-SIMPLE ver.3.x による推定ばく露濃度と実測による個人ばく露濃度の比較. 第63回労働衛生工学会. 2024, 10, 16-18.

14 新地浩一, 柴山　薫, 松永妃都美, 石橋秋奈, 野中良恵, 南嶋里佳, 田中沙恵, 福山由美：佐賀大学大学院における多職種連携をめざした実践的な災害看護教育の紹介－国内外における Civilian-Military Collaboration の実践経験－. 第29回日本災害医学会総会・学術集会 口演. 2024, 2, 22-24.

地方規模の学会

1 Bogahawaththa S, Hara M, Furukawa T, Iwasaka C, Sawada T, Yamada G, Tokiya M, Kitagawa K, Miyake Y, Hirota Y, Matsumoto A：ALDH2多型と mRNA ワクチン接種前後の細胞性免疫. 厚生労働行政推進調査事業費補助金 新興・再興感染症および予防接種政策推進研究事業Ｒ６年度班会議. 2024, 12, 6-7.

2 Bogahawaththa S, 辻田忠行：Hepatoprotective effects of Osbeckia octandra. 熊本大学薬学部薬学・生命科学分野における薬用・有用植物に関する４国間国際シンポジウム. 2024, 6, 1-2.

その他の学会

1 中橋高帆, 大村一葉, 原めぐみ, 西田裕一郎, 島ノ江千里, 松本明子：ALDH2 rs671多型が自覚ストレス及びストレス対処行動に与える影響. 佐賀大学医学部第３回リトリート. 2024, 8, 24-25.

2 高島　賢, 土器屋美貴子, 泉井　桂, 宮本比呂志, 松本明子：Asian flush は COVID-19の防御因子候補：後ろ向き web 調査. 佐賀大学医学部第３回リトリート. 2024, 8, 24-25.

3 土器屋美貴子, 八尾博史, 橋本　学, 辻真里子, 福田賢治, 薬師寺祐介, 小池春樹, 松本明子：吉野ケ里脳 MRI 健診における ALDH2遺伝子多型 rs671軽度認知障害との関連. 佐賀大学医学部第３

回リトリート．2024，8，24-25.

4　Bogahawaththa S, Hara M, Furukawa T, Iwasaka C, Sawada T, Yamada G, Tokiya M, Kitagawa K, Miyake Y, Hirota Y, Matsumoto A: Effect of ALDH2 rs671 Variant on Specific T Cell Responses Following COVID-19 Vaccination: Prospective Study in the Japanese General Population. 佐賀大学医学部第３回リトリート．2024，8，24-25.

5　山田剛暉，西田裕一郎，堀田美加子，河本和裕，前田康行，土器屋美貴子，原めぐみ，松本明子：血清の酸化ストレス指標のダウンスケール測定法の確立．佐賀大学医学部第３回リトリート．2024，8，24-25.

6　高島　賢：「アジアンフラッシュはコロナに防御的」に気づいた日～それはチョウから始まった～．公益社団法人日本農芸化学会第42回産学官若手交流会（さんわか）セミナー．2024，9，2.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研　究　課　題　等	交付金額（千円）
教　授	市場　正良	科学研究費補助金	挑戦的研究（萌芽）	2	保健・医療における ALDH2 遺伝子型判定の実装化を目指して	0 (61)
教　授（特定）	松本　明子	科学研究費補助金	基盤研究(B)	1	メラノーマ発症における ALDH2多型と飲酒の影響－実験的アプローチ	390
教　授（特定）	松本　明子	科学研究費補助金	挑戦的研究（萌芽）	1	保健・医療における ALDH2 遺伝子型判定の実装化を目指して	0 (368)
教　授（特定）	松本　明子	科学研究費補助金	基盤研究(C)	2	日本人に多いⅠ型脳小血管病の新規病態説明因子探索と重症化予測モデルの構築	195
教　授（特定）	松本　明子	科学研究費補助金	基盤研究(B)	2	アルデヒドパラドックスの分子基盤の確立と食品成分による制御	260
教　授（特定）	松本　明子	総務省受託研究費	令和６年度生体電磁環境研究及び電波の安全性に関する評価技術研究	2	複合電波ばく露のヒト皮膚感覚に及ぼす影響評価	11,503
教　授（特定）	松本　明子	ダイバーシティ推進室　令和６年度女性研究者を代表者とする共同研究活動費支援事業 A		1	rs671モデル動物特価型データベース整備への挑戦	600
博　士研究員	土器屋美貴子	科学研究費補助金	基盤研究(C)	1	中途覚醒と神経伝達物質に対するアセトアルデヒドの影響－疫学的解明24K13441	1300
博　士研究員	土器屋美貴子	科学研究費補助金	挑戦的研究（萌芽）	2	保健・医療における ALDH2 遺伝子型判定の実装化を目指して	0 (41)

博　士 研究員	遠藤　郁実	科学研究費補助金	若手研究	1	実装化を見据えた唾液ストレスマーカー高精度測定法の標準化に関する調査・研究	1,170 (1,066)
客　員 研究員	高木　佑介	科学研究費補助金	研究活動スタート支援	1	ALDH2変異型保有者の飲酒によるビタミンB6低下を介した血清ALT低下の検証	1,430 (904)
客　員 研究員	高島　　賢	科学研究費補助金	研究活動スタート支援	1	アジアンフラッシュ体質はウイルス感染症に防御的か：ウェブベース調査	2,730
博　士 研究員	Sudarma Bogahawaththa	科学研究費補助金	研究活動スタート支援	1	Investigation of the association between Asian flush (ALDH2*2), alcohol consumption and melanoma: Invivo and Invitro study	1,300
産業医科大学・学内講師（佐賀大学・客員研究員）	山本　　忍	令和6年度産業医学・産業保健重点研究助成		1	化学物質ばく露のリスク低減に活用できる『防毒マスク内濃度の見える化』技術の構築	922
客　員 研究員	新地　浩一	科研費	基盤研究(B)	2	放射線防護リスクコミュニケーション現任教育モデルの検証	100

※（　）は繰越金で外数

法医学分野

原著論文

1 *Cecchi R, Ikeda T, Camatti J, Nosaka M, Ishida Y, Kondo T: Expression of matrix metalloproteinase-9 (MMP-9) in human skin within 1 hour after injury through immunohistochemical staining: a pilot study. International Journal of Legal Medicine, 138, 1985-1990, 2024, 9.

2 *Tani N, Ikeda T, Ishikawa T: Effects of Prolactin on Brain Neurons under Hypoxia. Life (Basel), 14,152, 2024, 1.

3 *谷　直人，池田知哉，織谷茂樹，小野真弓，前田侑子，石川隆紀：簡易薬物スクリーニングキットStatus DS10およびDRIVEN-FLOW®M8-Zにおける死後心嚢液の有用性．法医病理 第30巻 第2号（Volume 30 Number 2），133-140，2024，12.

学会発表

国内全国規模の学会

1 *松末　綾，石川隆紀，池田知哉，谷　直人，Waters・Brian，髙山みお，柏木正之，久保真一：法医剖検例における血中ドパミン濃度とMAOA遺伝子多型の関連．第108次日本法医学会学術全国集会．2024，6，5-7.

2 大野憲五，竹下直美，池田知哉：硫黄島戦没者遺骨収集派遣における遺骨鑑定例．第108次日本法医学会学術全国集会．2024，6，5-7.

3 ○川久保善智，竹下直美，大野憲五，波田野悠夏：相同モデルを応用した伝石田三成の中顔部復元.

第78回日本人類学会大会．2024，10，12–14.

4　大野憲五，川久保善智，竹下直美，池田知哉：弥生時代人と古墳時代人の頭蓋顔面形態比較．第78回日本人類学会大会．2024，10，12–14.

地方規模の学会

1　池田知哉，竹下直美，大野憲五：劇症型溶血性レンサ球菌感染症の１剖検例．第74回日本法医学会学術九州地方集会．2024，10，18.

2　池田知哉：法医学の現状と臨床の関係について．日本耳鼻咽喉科頭頚部外科学会 第127回佐賀県地方部会学術講演会．2024，12，7.

その他の学会

1　大野憲五：三次元計測からみた牧野家顔面部の特徴．「長岡藩主・正室等復顔模型」再公開と研究成果発表会．2024，3，9–10.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研　究　課　題　等	交付金額（千円）
助　教	大野　憲五	科学研究費	若手研究	1	頭蓋３次元計測で解明する日本人の顔立ちの地理的多様性とその背景にある集団成立史	1,005
助　教	大野　憲五	科学研究費	基盤研究(C)（一般）	2	百年ぶりに発見された石田三成頭蓋の石膏レプリカに基づく復顔	160
技術職員	竹下　直美	科学研究費	基盤研究(C)（一般）	2	百年ぶりに発見された石田三成頭蓋の石膏レプリカに基づく復顔	350

国際医療コミュニケーション科学分野

著　　書

1　高野吾朗：第三日本語詩集．『騎士と坑夫』，2024，11．花乱社，福岡.

原著論文

1　高野吾朗：「闇に淫する詩作の試み」（詩「ボランティア」「笑顔の作り方」を含む）．『原爆文学研究』第22号，210–216，2024，4.

学会発表

国際規模の学会

1　Goro Takano: On Poetry Writing: Goro Takano's “Knight and Miners” and “Falling”（自作英語詩「Knight and Miners」「Falling」の朗読を交えた詩作に関する講演）．Japan Writers Conference. Nov. 3，2024（F-BICC 双葉町産業交流センターにて）.

地方規模の学会

1　高野吾朗：「小説『ハンチバック』（市川沙央・著）を読む」．福岡市民読書研究会「ライオンとペリカンの会」．2024，3，1：福岡市文学館にて.

2　高野吾朗：「随筆『木』（幸田文・著）を読む」．福岡市民読書研究会「ライオンとペリカンの会」.

2024，6，28：福岡市文学館にて.

3　高野吾朗：自作詩集『騎士と坑夫』公開朗読．福岡市民読書研究会「ライオンとペリカンの会」.
2024，12，20：「カフェトルコ」（福岡市中央区六本松）にて.

臨床医学系

内　科　学　講　座

膠原病・リウマチ内科

著　　書

1　赤星光輝：サイトメガロウイルス（CMV）初感染後に一過性の抗リン脂質抗体症候群（APS）を発症した1例．リウマチ・膠原病 治療薬処方ガイド 199-203，2024．南江堂，東京．

2　多田芳史：TNF 阻害薬には，なぜ MTX が必要なの？ほかの bDMARDs には必要ないの？．リウマチ・膠原病 治療薬処方ガイド 238-239，2024．南江堂，東京．

原著論文

1　Yuri Shirahama, Ayako Kokuzawa, Yusuke Yamauchi, Yohei Kirino, Hideto Nagai, Yasushi Inoue, Toshiyuki Ota, Yutaka Chifu, Hiroki Mitoma, Mitsuteru Akahoshi, Mariko Sakai, Akihito Maruyama, Akihide Ohta, Masahiro Iwamoto and Yoshifumi Tada: Cluster analysis defines four groups of Japanese patients with adult-onset Still's desease, Modern Rheumatology 34(6): 1213-1220, 2024.

2　*T Michitsuji, S Fukui, S Morimoto, Y Endo, A Nishino, S Nishihata, Y Tsuji, T Shimizu, M Umeda, R Sumiyoshi, T Koga, N Iwamoto, T Origuchi, Y Ueki, T Yoshitama, N Eiraku, N Matsuoka, A Okada, K Fujikawa, H Ohtsubo, H Takaoka, H Hamada, T Tsuru, M Nawata, Y Arinobu, T Hidaka, Y Tada, A Kawakami, S-Y Kawashiri: Clinical and ultrasound features of difficult-to-treat rheumatoid arthritis: A multicenter RA ultrasound cohort study, Scandinavian Journal of Rheumatology 53: 123-129, 2024.

3　Ishikawa Y, Tanaka N, Asano Y, Kodera M, Shirai Y, Akahoshi M, Hasegawa M, Matsushita T, Saito K, Motegi SI, Yoshifuji H, Yoshizaki A, Kohmoto T, Takagi K, Oka A, Kanda M, Tanaka Y, Ito Y, Nakano K, Kasamatsu H, Utsunomiya A, Sekiguchi A, Niiro H, Jinnin M, Makino K, Makino T, Ihn H, Yamamoto M, Suzuki C, Takahashi H, Nishida E, Morita A, Yamamoto T, Fujimoto M, Kondo Y, Goto D, Sumida T, Ayuzawa N, Yanagida H, Horita T, Atsumi T, Endo H, Shima Y, Kumanogoh A, Hirata J, Otomo N, Suetsugu H, Koike Y, Tomizuka K, Yoshino S, Liu X, Ito S, Hikino K, Suzuki A, Momozawa Y, Ikegawa S, Tanaka Y, Ishikawa O, Takehara K, Torii T, Sato S, Okada Y, Mimori T, Matsuda F, Matsuda K, Amariuta T, Imoto I, Matsuo K, Kuwana M, Kawaguchi Y, Ohmura K, Terao C : GWAS for systemic sclerosis identifies six novel susceptibility loci including one in the Fc γ receptor region, Nature Communications 15(1): 319, 2024.

総　　説

1　Yoshifumi Tada, Akihito Maruyama, Yuri Shirahama: Still's Disease Onset in Older Adults: Clinical Features, Diagnosis, and Management. Drugs & Aging 41(9): 713-724, 2024, 9.

症例報告

1　小松実樹也，才田正義，前田　翼，堺真梨子，竹山悠希子，丸山暁人，赤星光輝，多田芳史：指尖壊疽をきたした抗 ARS 抗体陽性多発性筋炎の1例．九州リウマチ 44(1)：41-45，2024．

2　才田正義，小松実樹也，前田　翼，堺真梨子，竹山悠希子，丸山暁人，赤星光輝，多田芳史：SARS-CoV-2ワクチン接種後に発症した食道癌合併抗 TIF1- γ 抗体陽性皮膚筋炎の１例．九州リウマチ 44(2)：79-84，2024.

学会発表

国内全国規模の学会

1　丸山暁人，小松実樹也，野田亮介，前田　翼，前崎哲宏，堺真梨子，竹山悠希子，白濵裕梨，赤星光輝，多田芳史：当科における好酸球性多発血管炎性肉芽腫症に対するメポリズマブの使用経験．第68回日本リウマチ学会総会・学術集会．2024，4，18-20.

2　*前田　翼，丸山暁人，小松実樹也，野田亮介，前崎哲宏，堺真梨子，竹山悠希子，白濵裕梨，赤星光輝，多田芳史：当院でループス腎炎に対し免疫吸着療法を行った症例の治療成績．第68回日本リウマチ学会総会・学術集会．2024，4，18-20.

3　赤星光輝，小松実樹也，野田亮介，前田　翼，前崎哲宏，堺真梨子，竹山悠希子，丸山暁人，多田芳史：膠原病に伴う間質性肺疾患に対するニンテダニブの治療経験．第68回日本リウマチ学会総会・学術集会．2024，4，18-20.

4　野田亮介，竹山悠希子，丸山暁人，小松実樹也，前田　翼，前崎哲宏，堺真梨子，白濵裕梨，赤星光輝，多田芳史：リツキシマブ寛解維持療法を行った ANCA 関連血管炎患者の予後に関する検討．第68回日本リウマチ学会総会・学術集会．2024，4，18-20.

5　*住吉玲美，川尻真也，大塚瑞奈，辻　良香，清水俊匡，古賀智裕，岩本直樹，鈴木貴久，植木幸孝，坪井雅彦，日高利彦，高岡宏和，多田芳史，川上　純：エタネルセプト先行品投与中で臨床的寛解または低疾患活動性にある関節リウマチ患者を対象としたエタネルセプトバイオシミラーへの切り替えの有効性に関する多施設共同前向き試験（ESCORT-NGSK Study）．第68回日本リウマチ学会総会・学術集会．2024，4，18-20.

6　*小松実樹也，丸山暁人，才田正義，前田　翼，野田亮介，前崎哲宏，堺真梨子，竹山悠希子，白濵裕梨，赤星光輝，多田芳史：短期間に再発を認め，成人発症スチル病と鑑別を要した HTLV- Ⅰ陽性血球貪食症候群の３例．第68回日本リウマチ学会総会・学術集会．2024，4，18-20.

7　*西田知也，小野伸之，綾野雅宏，木本泰孝，三苫弘喜，有信洋二郎，上田尚靖，澤部琢哉，内野愛弓，西坂浩明，井上　靖，西村直矢，吉澤誠司，多田芳史，新納宏昭：ILD 合併抗 MDA5抗体陽性皮膚筋炎への早期３剤併用治療の効果と安全性に関する後方視的多施設共同研究．第68回日本リウマチ学会総会・学術集会．2024，4，18-20.

8　*小荒田秀一，丸山暁人，小峯豪心，副島幸子，多田芳史：t-SNE 解析を用いた難治性自己免疫疾患の RP105陰性Ｂ細胞標的療法の新規開発．第68回日本リウマチ学会総会・学術集会．2024，4，18-20.

9　*中野翔太，才田正義，村上哲晋，千布　裕：抗 TIF1- γ 抗体陽性皮膚筋炎に合併した膀胱クリプトコッカス症の一例．第68回日本リウマチ学会総会・学術集会．2024，4，18-20.

10　*千布　裕，村上哲晋，中野翔太，才田正義：ベリルマブからアニフロルアブに変更後に APTT が延長し抗リン脂質抗体症候群合併が明らかになった SLE の一例．第68回日本リウマチ学会総会・学術集会．2024，4，18-20.

11　多田芳史：関節リウマチ患者における転倒のリスク因子とその対策．日本転倒予防学会第11回学術集会．2024，11，23-24.

地方規模の学会

1　小松実樹也，丸山暁人，才田正義，前田　翼，野田亮介，前崎哲宏，堺真梨子，竹山悠希子，白濵裕梨，赤星光輝，多田芳史，田中宏弥：再発性多発軟骨炎に伴う無菌性髄膜炎の１例．第67回九州リウマチ学会．2024，3，2-3.

2　丸山暁人，小松実樹也，野田亮介，前田　翼，前崎哲宏，堺真梨子，竹山悠希子，白濵裕梨，赤星光輝，多田芳史：当科における SLE に対するベリムマブの使用経験．第67回九州リウマチ学会．2024，3，2-3.

3　竹山悠希子，才田正義，小峯豪心，野田亮介，堺真梨子，白濵裕梨，丸山暁人，赤星光輝，多田芳史：当院における ANCA 関連血管炎に対するアバコパンの使用経験．第68回九州リウマチ学会．2024，9，7-8.

4　*甲斐達也，小野伸之，井上　靖，上田尚靖，内野愛弓，澤部琢哉，宮村知也，吉澤誠司，三宅勝久，西村直矢，綾野雅宏，木本泰孝，堀内孝彦，多田芳史，赤司浩一，新納宏昭：ANCA 関連血管炎（AAV）の寛解導入療法におけるシクロホスファミドとリツキシマブの比較（第２報）．第68回九州リウマチ学会．2024，9，7-8.

5　野田亮介，竹山悠希子，丸山暁人，才田正義，小峯豪心，堺真梨子，白濵裕梨，赤星光輝，多田芳史：リツキシマブ寛解維持療法を行った ANCA 関連血管炎患者の予後に関する検討．第68回九州リウマチ学会．2024，9，7-8.

6　*小野伸之，甲斐達也，井上　靖，上田尚靖，宮村知也，内野愛弓，吉澤誠司，澤部琢哉，大田俊一郎，千布　裕，三嶋耕司，三宅勝久，木本泰孝，堀内孝彦，多田芳史，新納宏昭：１年後 GC を中止できた AAV 患者の臨床像についての検討．第68回九州リウマチ学会．2024，9，7-8.

7　丸山暁人，才田正義，小峯豪心，野田亮介，堺真梨子，竹山悠希子，白濵裕梨，赤星光輝，多田芳史：寛解導入後早期にメポリズマブを開始した症例の検討．第68回九州リウマチ学会．2024，9，7-8.

8　赤星光輝，才田正義，小峯豪心，野田亮介，堺真梨子，竹山悠希子，白濵裕梨，丸山暁人，多田芳史：関節部出血をきたした全身性エリテマトーデスの一例．第68回九州リウマチ学会．2024，9，7-8.

9　堺真梨子，才田正義，小峯豪心，野田亮介，竹山悠希子，白濵裕梨，丸山暁人，赤星光輝，多田芳史：舌の腫脹と疼痛で口腔外科より紹介となった高齢女性の１例．第68回九州リウマチ学会．2024，9，7-8.

10　*前田　翼，丸山暁人，小松実樹也，野田亮介，前崎哲宏，堺真梨子，竹山悠希子，白濵裕梨，赤星光輝，多田芳史：当院でループス腎炎に対し免疫吸着療法を行った症例の治療成績．第68回九州リウマチ学会．2024，9，7-8.

11　*綾野雅宏，大田俊一郎，久志本和郎，三嶋耕司，上田尚靖，中山剛志，都留智巳，洲崎みどり，土井吾郎，田中　淳，前川真貴子，赤星光輝，河野正太郎，西村直矢，新納宏昭：全身性エリテマトーデスに対する生物学的製剤の有用性：ベリムマブ vs アニフロルマブ．第68回九州リウマチ学会．2024，9，7-8.

12　小峯豪心，才田正義，野田亮介，堺真梨子，竹山悠希子，丸山暁人，赤星光輝，多田芳史：指趾壊死をきたした全身性エリテマトーデスの一例．第68回九州リウマチ学会．2024，9，7-8.

13　才田正義，野田亮介，小峯豪心，堺真梨子，竹山悠希子，丸山暁人，赤星光輝，多田芳史：全身性

エリテマトーデスに合併したHTLV-1関連脊髄症の一例．第68回九州リウマチ学会．2024，9，7-8.

14 鶴田　透，堺真梨子，才田正義，小峯豪心，野田亮介，竹山悠希子，白濵裕梨，赤星光輝，多田芳史：汎血球減少とともに肝多発結節を伴う医原性免疫不全関連リンパ増殖性疾患を発症した関節リウマチの１例．第68回九州リウマチ学会．2024，9，7-8.

その他の学会

1 堺真梨子：WoCBA-RA患者の治療とセルトリズマブペゴルの役割．佐賀RAセミナー For HER. 2024，1，10.

2 多田芳史：WoCBA RA患者へのプレコンセプションケアと薬物療法．RA患者のライフステージに応じた治療を考える会．2024，2，2.

3 多田芳史：関節リウマチの治療戦略：身体機能維持とTNF阻害療法．第37回ハイリスクリウマチ膠原病ネットワークセンター学術講演会．2024，2，14.

4 丸山暁人：膠原病関連間質性肺疾患（CTD-ILD）をいかに早期発見するか．ILD Short Lecture 2024 In Kyusyu ～専門医がわかりやすく解説～．2024，3，13.

5 多田芳史：Thrive Leaders Workshopのこれまでの活動 Beyond T2T（関節破壊とFatigue）．Treat to Thrive 佐賀・長崎．2024，3，18.

6 多田芳史：成人スチル病診療における課題とマネジメント．リウマチ・膠原病WEBセミナー in 九州．2024，4，3.

7 多田芳史：関節リウマチ診療におけるお困りごとチェックシートの妥当性及び有用性の検証．Treat to Thrive Kumamoto．2024，5，24.

8 多田芳史：乾癬性関節炎と体軸性脊椎関節炎におけるIL-17とビメキズマブ．Immunology Joint Seminar．2024，5，31.

9 多田芳史：成人発症スチル病の診療に関するアップデート．第52回鹿児島膠原病研究会．2024，7，16.

10 丸山暁人：生物学的製剤を用いたSLEの治療戦略．第68回九州リウマチ学会アフタヌーンセミナー．2024，9，7.

11 丸山暁人：乾癬性関節炎など皮膚症状を来す膠原病疾患の診療連携について．Psoriasis Cooperation Seminar．2024，9，12.

12 多田芳史：成人発症スチル病における課題とマネジメント．令和６年度九州・沖縄地区リウマチの治療とケア教育研修会．2024，11，10.

13 丸山暁人：セルトリズマブペゴルの炎症部位集積性を活かした関節リウマチ診療．関節リウマチUP TO DATE～TNF阻害薬を再構築する～．2024，11，13.

14 多田芳史：D2TRAにさせない治療戦略とBricitinibの役割．D2TRAを考えた治療戦略．2024，11，19.

15 多田芳史：EGPAの現状と課題．GSK EGPA Management Seminar in Saga．2024，12，6.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
准教授	多田　芳史	中外製薬研究活動支援	研究助成	1	成人発症スチル病（AOSD）におけるクラスター分類の検証	300
准教授	多田　芳史	科学研究費助成事業	基礎研究(C)	2	t-SNE 法による自己抗体産生 RP105陰性Ｂ細胞を標的とした新規治療薬の戦略的開発	200
助　教	丸山　暁人	科学研究費助成事業	基礎研究(C)	2	t-SNE 法による自己抗体産生 RP105陰性Ｂ細胞を標的とした新規治療薬の戦略的開発	150

脳神経内科

著　　書

1　小池春樹：アミロイドニューロパチー．今日の治療指針 2024年版 1006-1007，2024．医学書院，東京．

2　小池春樹：血管炎性ニューロパチー．脳神経内科診療の掟 231-235，2024．中外医学社，東京．

3　小池春樹：その他のニューロパチー（糖尿病性，傍腫瘍性，薬剤性ニューロパチー）．最新主要文献とガイドラインでみる 脳神経内科学レビュー 2024-'25 252-256，2024．総合医学社，東京．

原著論文

1　*Ono N, Suzuyama K, Minagawa H, Uwatoko K, Yoshikawa M, Ide T, Mitsuoka M, Honda K, Hirai T, Otsuka T, Kai K, Honda H, Kitamoto T, Irie H, Yukitake M, Koike H: Involvement of the nigrostriatal system in Gerstman-Sträussler-Scheinker disease with the PRNP-P102L mutation. J Neurol Sci. 464: 123166, 2024, 9.

2　*Tanaka K, Yoshikawa M, Inoue Y, Tsumura K, Hoshino Y, Shichijo C, Ide T, Suzuyama K, Koike H: Efgartigimod Successfully Ameliorated Acute Exacerbation of Myasthenia Gravis with Anti-muscle-specific Kinase Antibodies. Intern Med, in press.

3　*Michael MR, Wieske L, Allen JA, Lunn MP, Doppler K, Tan CY, Koike H, Markvardsen LK, Kapoor M, Hsieh ST, Nobile-Orazio E, Jacobs BC, Rajabally YA, Basta I, Ripellino P, Querol L, Eftimov F; INCbase Consortium: Inflammatory Neuropathy Consortium base (INCbase): a protocol of a global prospective observational cohort study for the development of a prediction model for treatment response in chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy. BMC Neurol. 24(1): 415, 2024, 10.

4　○Tokiya M, Hashimoto M, Fukuda K, Kawamoto K, Akao C, Tsuji M, Yakushiji Y, Koike H, Matsumoto A: Asian flush gene variant increases mild cognitive impairment risk: a cross-sectional study of the Yoshinogari Brain MRI Checkup Cohort. Environ Health Prev Med. 29: 55, 2024.

5　*Kazuta T, Murakami A, Noda S, Hirano S, Kito H, Tsujikawa K, Nakanishi H, Kimura S, Sahashi K, Koike H, Katsuno M: Clinicopathological features of graft versus host disease-associated myosi-

tis. Ann Clin Transl Neurol. 11(2): 508-519, 2024, 2.

6 *Mouri N, Koike H, Fukami Y, Takahashi M, Yagi S, Furukawa S, Suzuki M, Kishimoto Y, Murate K, Nukui T, Yoshida T, Kudo Y, Tada M, Higashiyama Y, Watanabe H, Nakatsuji Y, Tanaka F, Katsuno M: Granuloma, vasculitis, and demyelination in sarcoid neuropathy. Eur J Neurol. 31(1): e16091, 2024, 1.

7 *Fukami Y, Iijima M, Koike H, Yagi S, Furukawa S, Mouri N, Ouchida J, Murakami A, Iida M, Yokoi S, Hashizume A, Iguchi Y, Imagama S, Katsuno M: Autoantibodies Against Dihydrolipoamide S-Acetyltransferase in Immune-Mediated Neuropathies. Neurol Neuroimmunol Neuroinflamm. 11(2): e200199, 2024, 3.

8 *Wada T, Doi H, Okubo M, Tada M, Ueda N, Suzuki H, Tominaga W, Koike H, Komiya H, Kubota S, Hashiguchi S, Nakamura H, Takahashi K, Kunii M, Tanaka K, Miyaji Y, Higashiyama Y, Koshimizu E, Miyatake S, Katsuno M, Fujii S, Takahashi H, Matsumoto N, Takeuchi H, Tanaka F: RNA Foci in Two bi-Allelic RFC1 Expansion Carriers. Ann Neurol. 95(3): 607-613, 2024, 3.

9 *Furukawa S, Fukami Y, Hanamatsu H, Yokota I, Furukawa JI, Hane M, Kitajima K, Sato C, Hiraga K, Satake Y, Yagi S, Koike H, Katsuno M: Serum glycobiomarkers for chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy. Eur J Neurol. 32(1): e70023, 2025, 1.

10 Ikeda S, Yakushiji Y, Tanaka J, Nishihara M, Ogata A, Eriguchi M, Ono S, Kosugi M, Suzuyama K, Mizoguchi M, Shichijo C, Ide T, Nagaishi Y, Ono N, Yoshikawa M, Katsuki Y, Irie H, Abe T, Koike H, Hara H: Cerebral small vessel disease markers and long-term prognosis in spontaneous intracerebral hemorrhage: the HAGAKURE-ICH study. Hypertens Res. 48(1): 233-243, 2025, 1.

11 ○Ogata A, Ogasawara K, Nishihara M, Takamori A, Furukawa T, Ide T, Ito H, Yoshioka F, Nakahara Y, Masuoka J, Koike H, Irie H, Abe T: Subarachnoid iodine leakage on dual-energy computed tomography after mechanical thrombectomy is associated with malignant brain edema. J Neurointerv Surg, in press.

12 *Chao CC, Yang WK, Yeh TY, Kan YY, Wang YS, Lee KJ, Hu CJ, Tang TY, Ide T, Hsueh HW, Lin CC, Shy HZ, Lee MJ, Tzeng SR, Katsuno M, Koike H, Hsieh ST: Transthyretin variants impact blood-nerve barrier and neuroinflammation in amyloidotic neuropathy. Brain, in press.

13 *Jonathan G. Best, MD, Gareth Ambler, PhD, Duncan Wilson, PhD, Houwei Du, MD, Keon-Joo Lee, MD, Jae-Sung Lim, MD, PhD, Kay Cheong Teo, MBBS, MRCP, Henry Mak, MD, Young Dae Kim, MD, PhD, Tae-Jin Song, MD, PhD, Derya Selcuk Demirelli, MD, Masashi Nishihara, MD, Masaaki Yoshikawa, MD, Marta Kubacka, MD, Annaelle Zietz, MMed, Rustam Al-Shahi Salman, MD, PhD, Hans Rolf J¨ager, MD, Gregory Y.H. Lip, MD, Leonidas Panos, MD, Martina B. Goeldlin, MD, Lee-Anne Slater, MBBS, FRANZCR, MMed, Christopher Charles Karayiannis, MD, Thanh G. Phan, MBBS, FRACP, PhD, Maximilian Bellut, MD, Jill Abrigo, MD, Cyrus Cheng, MD, Thomas W. Leung, MD, Winnie Chu, MD, Francesca Chappell, PhD, Stephen D.J. Makin, PhD, Dianne H.K. van Dam-Nolen, MD, M. Eline Kooi, PhD, Sebastian Kohler, PhD, ¨Julie Staals, MD, PhD, Gr´egory Kuchcinski, MD, PhD, R´egis Bordet, MD, Florian Dubost, PhD, Joanna M. Wardlaw, MD, Yannie O.Y. Soo, MD, Felix Fluri, MD, Velandai K. Srikanth, MD, PhD, Simon Jung, MD, Nils Peters, MD, Hideo Hara, PhD, Yusuke Yakushiji, PhD, Dilek Necioglu Orken, MD, Ji-Hoe Heo, MD, Gary Kui

Kai Lau, DPhil, Hee-Joon Bae, MD, and David J. Werring, PhD: Clinical Associations and Prognostic Value of MRI-Visible Perivascular Spaces in Patients With Ischemic Stroke or TIA A Pooled Analysis. Neurology. 9; 102(1): e207795, 2024 Jan.

14 *Shunsuke W, Kenji S, Hirotomo S, Masaaki Y, Yoshikatsu N, Naohisa K, Riki M: Decreased diaphragm moving distance measured by ultrasound speckle tracking reflects poor prognosis in amyotrophic lateral sclerosis. Clin Neurophysiol Pract. 22: 9: 252-260, 2024 Oct.

15 *Tanaka K, Miwa K, Koga M, Yoshimura S, Kamiyama K, Yagita Y, Nagakane Y, Hoshino H, Terasaki T, Okada Y, Yakushiji Y, Takahashi S, Ueda T, Hasegawa Y, Shiozawa M, Sasaki M, Kudo K, Tanaka J, Nishihara M, Yamaguchi Y, Fujita K, Honda Y, Kawano H, Ide T, Yoshimoto T, Ihara M, Hirano T, Toyoda K; Bleeding with Antithrombotic Therapy 2 Investigators: Cerebral Small Vessel Disease Burden for Bleeding Risk during Antithrombotic Therapy: Bleeding with Antithrombotic Therapy 2 Study. Ann Neurol. 2024 Apr; 95(4): 774-787. doi: 10.1002/ana.26868. Epub 2024 Jan 18. PMID: 38146238.

16 Ide T, Yakushiji Y, Suzuyama K, Nishihara M, Eriguchi M, Ogata A, Matsumoto A, Hara M, Hara H: Associations for progression of cerebral small vessel disease burden in healthy adults: the Kashima scan study. Hypertens Res. 2024 Feb; 47(2): 302-310. doi: 10.1038/s41440-023-01419-3. Epub 2023 Sep 6. PMID: 37673959.

総　説

1 小池春樹：目で見て理解する末梢神経疾患の病態と治療戦略．臨床と研究．101(5)：630-634，2024，5.

2 小池春樹：末梢神経疾患の病理所見．BRAIN and NERVE．76(4)：361-374，2024，4.

3 小池春樹：しびれ・痛みの病態と治療～末梢神経疾患を中心に～．難病と在宅ケア．30(5)：48-51，2024，8.

4 小池春樹：病理からみたCIDPの病態．神経治療学．41(3)：330-334，2024，5.

5 小池春樹：多発性単神経障害．リウマチ科．72(2)：175-179，2024，8.

6 吉川正章，小池春樹：しびれの治療～末梢神経障害（神経障害性疼痛）の治療を中心に～．Medicina．61(7)：1046-1049，2024，6.

7 *Nakane S, Koike H, Hayashi T, Nakatsuji Y: Autoimmune Autonomic Neuropathy: From Pathogenesis to Diagnosis. Int J Mol Sci. 25(4): 2296, 2024, 2.

8 *丸山サラディーニ恵子，小池春樹，植田光晴，関島良樹，安東由喜雄：日本の非集積地における高齢発症遺伝性ATTRアミロイドーシスの早期診断のための提言．臨床神経学．64(10)：708-713，2024，10.

9 *深見祐樹，小池春樹，勝野雅央：自己免疫性ノドパチーの病態および治療．Peripheral Nerve 末梢神経．35(1)：74-81，2024，6.

症例報告

1 Ide T, Inoue Y, Suzuyama K, Koike H: Delayed Improvement of Magnetic Resonance Imaging Findings in Hashimoto's Encephalopathy. Intern Med, in press.

2 Ide T, Goto Y, Nishihara M, Eriguchi M, Koike H: Co-occurrence of subacute combined degeneration of the spinal cord and neuromyelitis optica spectrum disorder. Acta Neurol Belg, in press.

3 *Nishi R, Koike H, Maekawa T, Nakamura Y, Kawade Y, Tsujiuchi T, Ohno M, Fukami Y, Katsuno M, Sagisaka T: Positive Antiganglioside Antibodies in a Patient with Primary Diffuse Large B-cell Lymphoma of the Central Nervous System. Intern Med, in press.

4 Koya T, Masaaki Y, Yukako I, Keisuke T, Yuki H, Chika S, Toshihiro I, Kohei S, Haruki K: Efgartigimod Successfully Ameliorated Acute Exacerbation of Myasthenia Gravis with Anti-muscle-specific Kinase Antibodies. Intern Med Online ahead of print, 2024 Aug.

5 Ide T, Inoue Y, Suzuyama K, Koike H: Delayed Improvement of Magnetic Resonance Imaging Findings in Hashimoto's Encephalopathy. Intern Med. 2024 Dec 26. doi: 10.2169/internalmedicine. 4704-24. Epub ahead of print. PMID: 39721683, 2024 Dec.

6 Tanaka K, Yoshikawa M, Inoue Y, Tsumura K, Hoshino Y, Shichijo C, Ide T, Suzuyama K, Koike H: Efgartigimod Successfully Ameliorated Acute Exacerbation of Myasthenia Gravis with Anti-muscle-specific Kinase Antibodies. Intern Med. 2024 Aug 8. doi: 10.2169/internalmedicine. 3726-24. Epub ahead of print. PMID: 39111891, 2024 Aug.

7 Ide T, Ebashi R, Eriguchi M, Aishima S, Abe T, Hara H: Fulminant demyelinating disease of the central nervous system effectively treated with a combination of decompressive craniectomy and immunotherapy: A case report and literature review. Clin Case Rep. 2024 Jul 9; 12(7): e9059. doi: 10.1002/ccr3.9059. PMID: 38988893; PMCID: PMC11233259, 2024 Jul.

8 Ikeda S, Inoue Y, Suzuyama K, Ide T, Eriguchi M: Haemorrhagic and ischemic stroke following posterior reversible encephalopathy syndrome and thrombotic microangiopathy in a patient with malignant hypertension. Acta Neurol Belg. 2024 Feb; 124(1): 339-341. doi: 10.1007/s13760-023-02328-5. Epub 2023 Jul 5. PMID: 37407871, 2024 Feb.

学会発表

国際規模の学会

1 Koike H: CIDP and the Latest on Autoantibodies and their Implications. 18th International Congress on Neuromuscular Diseases. 2024, 10, 25-29.

2 Koike H: Mechanisms and Pathology of IgG4 Paranodopathies. 18th International Congress on Neuromuscular Diseases. 2024, 10, 25-29.

3 Koike H: Diversity of ANCA-associated Vasculitis. 18th International Congress on Neuromuscular Diseases. 2024, 10, 25-29.

4 Koike H: Pathophysiology and management of Guillain-Barré syndrome. International Neurocritical Care Conference. 2024, 9, 21.

5 Koike H: Pathophysiology and treatment of peripheral neuropathy. The 2024 Annual Academic Conference of Neuroimmunity Branch of Shandong Neuroscience Society. 2024, 8, 17.

6 Koike H, Fukami Y, Yoshikawa M, Ide T, Suzuyama K, Yagi S, Furukawa S, Kadoya M, Kaida K, Katsuno M: Ultrastructural Basis for Separating CIDP from Autoimmune Nodopathy with Antibodies against Neurofascin-155, Contactin-1, and Caspr1. 2024 Peripheral Nerve Society Annual Meeting. 2024, 6, 22-25.

7 Ide T, Yoshikawa M, Suzuyama K, Yagi S, Furukawa S, Fukami Y, Katsuno M, Koike H: Electrophysiological and pathological correlates of hereditary transthyretin amyloidosis. 2024 Peripheral

Nerve Society Annual Meeting. 2024, 6, 22-25.

8 Yoshikawa M, Tsumura K, Shichijo C, Ide T, Suzuyama K, Koike H: The efficacy of efgartigimod myasthenia gravis: a real-world case series. 18th International Congress on Neuromuscular Diseases. 2024, 10, 25-29.

9 *Fukami Y, Iijima M, Koike H, Yagi S, Furukawa S, Mouri N, Ouchida J, Murakami A, Iida M, Yokoi S, Hashizume A, Iguchi Y, Imagama S, Katsuno M: Autoantibodies against dihydrolipoamide S-acetyltransferase in immune-mediated neuropathies. 2024 Peripheral Nerve Society Annual Meeting. 2024, 6, 22-25.

10 *Furukawa S, Fukami Y, Yokota I, Hanamatsu H, Furukawa J, Hane M, Kitajima K, Sato C, Hiraga K, Satake Y, Yagi S, Koike H, Katsuno M: Serum Glycobiomarkers Defining Therapeutic Response to Intravenous Immunoglobulin in Chronic Inflammatory Demyelinating Polyneuropathy. 2024 Peripheral Nerve Society Annual Meeting. 2024, 6, 22-25.

11 Toshihiro Ide 1; Masaaki Yoshikawa 1; Kohei Suzuyama 1; Satoru Yagi 2; Soma Furukawa 2; Yuki Fukami 2; Masahisa Katsuno 2; and Haruki Koike 1: Electrophysiological and pathological correlates of hereditary transthyretin amyloidosis. Peripheral nerve society annual meeting. 2024, 6, 22-25.

12 Masaaki Y, Yukako I, Koya T, Keisuke T, Yuki H, Yukiko N, Toshihiro I, Chika S, Kohei S, Megumi I, Makoto E, Motohiro Y, Hiroshi T, Haruki K: Efficacy of efgartigimod myasthenia gravis: a real-world case series. The 18th International Congress on Neuromuscular Diseases. 2024, 10, 25-29.

国内全国規模の学会

1 小池春樹：アミロイドーシス診療ガイドライン2024徹底解説～遺伝性 ATTR（ATTRv アミロイドーシス）～. 第11回日本アミロイドーシス学会学術集会. 2024, 10, 18.

2 小池春樹：Differential diagnosis of hereditary ATTR amyloidosis. 第65回日本神経学会学術大会. 2024, 5, 29-6, 1.

3 小池春樹：末梢神経の解剖学的特性. 第83回日本医学放射線学会総会. 2024, 4, 11-14.

4 小池春樹：「ステロイド CQ」について. 第35回日本末梢神経学会. 2024, 9, 6-7.

5 小池春樹：病理からみた末梢神経疾患の病態と治療戦略. 第35回日本末梢神経学会. 2024, 9, 6-7.

6 小池春樹：アミロイドーシスの診断と治療戦略－up to date－. 第35回日本末梢神経学会. 2024, 9, 6-7.

7 小池春樹：事例で考える CIDP の診断プラクティスのポイント. 第42回日本神経治療学会学術集会. 2024, 11, 7-9.

8 小池春樹：末梢神経疾患の鑑別診断と治療戦略～ CIDP と遺伝性 ATTR アミロイドーシスを中心に～. 第36回日本神経免疫学会学術集会. 2024, 10, 3-5.

9 鈴山耕平, 江里口誠, 井手俊宏, 北本哲之, 小池春樹：佐賀県における Gerstmann-Sträussler-Scheinker 病の自然歴に関する検討. 第65回日本神経学会学術大会. 2024, 5, 31.

10 鈴山耕平, 江里口誠, 美奈川拡, 井手俊宏, 雪竹基弘, 北本哲之, 小池春樹：有明海沿岸における Gerstmann–Sträussler–Scheinker 病（GSS）28例の検討. 第11回日本アミロイドーシス学会学術集会. 2024, 10, 18.

11　井手俊宏，吉川正章，鈴山耕平，八木　覚，古川宗磨，深見祐樹，勝野雅央，小池春樹：遺伝性トランスサイレチンアミロイドーシスにおける有髄線維密度と神経伝導検査所見に関する検討．第65回日本神経病理学会総会学術研究会．2024，5，16–18.

12　井手俊宏，吉川正章，鈴山耕平，八木　覚，古川宗磨，深見祐樹，勝野雅央，小池春樹：遺伝性トランスサイレチンアミロイドーシスの神経伝導障害に関する検討．第65回日本神経学会学術大会．2024，5，29–6，1.

13　井出俊宏：脳小血管病負債の進展リスクについて：the Kashima Scan Study．第43回日本脳神経超音波学会総会／第27回日本栓子検出と治療学会．2024，6，28–29.

14　井手俊宏，吉川正章，鈴山耕平，八木　覚，古川宗磨，深見祐樹，勝野雅央，小池春樹：遺伝性トランスサイレチンアミロイドーシスの電気生理学的・病理学的特徴．第35回日本末梢神経学会学術集会．2024，9，6–7.

15　吉川正章，井上裕香子，田中宏弥，津村圭亮，星野有紀，永石友公子，七條千佳，井手俊宏，鈴山耕平，小池春樹：全身型重症筋無力症に対するエフガルチギモド初回治療の反応性に関する検討．第65回日本神経学会学術大会．2024，5，29–6，1.

16　吉川正章，井上裕香子，田中宏弥，津村圭亮，星野有紀，永石友公子，七條千佳，井手俊宏，鈴山耕平，岩崎めぐみ，江里口誠，雪竹基弘，高島　洋，小池春樹：全身型重症筋無力症に対するエフガルチギモド初回治療の反応性に関する検討．第36回日本神経免疫学会学術集会．2024，10，3–5.

17　後藤悠太：脊髄硬膜外膿瘍12例の臨床的特徴の検討．第65回日本神経学会学術大会．2024，5，29–6，1.

地方規模の学会

1　小池春樹：末梢神経疾患の診断と治療戦略．令和５年度日本神経学会　九州地区生涯教育講演会．2024，3，3.

2　小池春樹：目で見て理解する，しびれの病態と治療戦略．第77回日本内科学会九州支部生涯教育講演会．2024，11，17.

3　後藤悠太，井手俊宏，井上裕香子，緒方敦之，鈴山耕平，小池春樹：急性期に一過性ループスアンチコアグラント陽性を呈しステント内血栓症を繰り返した左椎骨動脈解離による脳梗塞の一例．第244回日本神経学会九州地方会．2024，6，15.

4　江里口紀子，井手俊宏，井上裕香子，後藤悠太，津村圭亮，七條千佳，吉川正章，鈴山耕平，小池春樹：多彩な臨床像を呈した高齢発症 VCP 遺伝子関連多系統蛋白質症の二例．第246回日本神経学会九州地方会．2024，12，14.

5　川浪　建，吉川正章，吉良裕希，後藤悠太，井手俊宏，鈴山耕平，小池春樹：びまん性大細胞型Ｂ細胞リンパ腫に対する化学療法開始後に顕在化した遺伝性圧脆弱性ニューロパチーの一例．第245回日本神経学会九州地方会．2024，9，28.

6　津村圭亮，鈴山耕平，行元崇浩，吉川正章，井手俊宏，松藤祥平，西原正志，甲斐敬太，小池春樹：小脳性運動失調で発症し，淡蒼球萎縮を呈した胃混合癌による傍腫瘍性神経症候群の一例．第243回日本神経学会九州地方会．2024，3，2.

その他の学会

1　小池春樹：ATTRv アミロイドーシスの診断と治療戦略．佐賀県 ATTRv アミロイドーシス Seminar．2024，9，24.

2　小池春樹：遺伝性 ATTR アミロイドーシスの診断と治療．宮城県 ATTRv アミロイドーシス Seminar．2024，1，12.
3　小池春樹：非集積地の高例発症 ATTR アｖミロイドーシス～診断と今後の治療選択～．ATTRv アミロイドーシス全国セミナー．2024，1，29.
4　小池春樹：末梢神経疾患の鑑別診断と治療戦略～ CIDP と遺伝性 ATTR アミロイドーシスを中心に～．Neurological Rare Disease Seminar．2024，6，18.
5　小池春樹：眼で見て理解する血管炎の病態と治療戦略．GSK EGPA Seminar in Saga．2024，9，13.
6　小池春樹：眼で見て理解する血管炎の病態と治療戦略．GSK Cross Functional Management Seminar．2024，11，1.
7　小池春樹：目で見て理解する CIDP の病態と治療戦略．山形 CIDP セミナー2024．2024，11，26.
8　小池春樹：CIDP の病理所見．CIDP Masterclass 2024．2024，7，27.
9　小池春樹：免疫性末梢神経疾患の病態と治療戦略．第 6 回佐賀県病院薬剤師会学術講演会．2024，3，18.
10　小池春樹：目で見て理解する末梢神経疾患の病態と治療戦略．神経障害性疼痛 Up To Date．2024，7，12.
11　小池春樹：現代の視点から見た末梢神経病理学：この10年で明らかにしたこと．第 3 回佐賀大学医学部リトリート．2024，8，24-25.
12　小池春樹：末梢神経からみた痛みの病態と治療戦略．第27回佐賀痛みを考える会．2024，4，26.
13　小池春樹：目で見て理解する末梢神経疾患の病態と治療戦略．第 7 回赤門神経フォーラム．2024，10，18.
14　小池春樹：現代の視点から見た末梢神経疾患：これまで明らかにしたことと今後の展望．平成 6 年度佐賀大学医学部内科学教室同門会．2024，6，29.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
教　授	小池　春樹	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	マクロファージに着目したCIDPの病態解明と新規治療法の開発	1,500
教　授	小池　春樹	TSUNAGIプロジェクト		1	佐賀から始まる末梢神経疾患の診療支援体制構築	2,150
教　授	小池　春樹	厚生労働科学研究費補助金	難治性疾患政策研究事業	2	アミロイドーシスに関する調査研究	400
教　授	小池　春樹	厚生労働科学研究費補助金	難治性疾患政策研究事業	2	スモンに関する調査研究	300
教　授	小池　春樹	厚生労働科学研究費補助金	難治性疾患政策研究事業	2	神経免疫疾患領域における難病の医療水準と患者のQOL向上に資する研究	400
教　授	小池　春樹	厚生労働科学研究費補助金	難治性疾患政策研究事業	2	難治性血管炎の医療水準・患者QOL向上に資する研究	267
教　授	小池　春樹	AMED	難治性疾患実用化研究事業	2	POEMS症候群の全国調査とレジストリ構築：リアルタイムなエビデンス創出とガイドラインへの反映	800
助　教	鈴山　耕平	科学研究費助成事業	若手研究	1	遺伝子多型がTotal SVD scoreと脳心血管イベントに与える影響の解明	1,040

血液・呼吸器・腫瘍内科（がんセンターを含む）

著　　書

1　中島千穂，荒金尚子：ドライバー遺伝子変異とコンパニオン診断薬．日本医師会雑誌 第153巻・特別号(2) 生涯教育シリーズ 107 呼吸器疾患ペディア Ⅱ章 78-81，2024，10．日本医師会，東京．

原著論文

1　*Hidaka M, Inokuchi K, Uoshima N, Takahashi N, Yoshida N, Ota S, Nakamae H, Iwasaki H, Watanabe K, Kosaka Y, Komatsu N, Meguro K, Najima Y, Eto T, Kondo T, Kimura S, Yoshida C, Ishikawa Y, Sawa M, Hata T, Horibe K, Iida H, Shimomura T, Dobashi N, Sugiura I, Makiyama J, Miyagawa N, Sato A, Ito R, Matsumura I, Kanakura Y, Naoe T: Development and evaluation of a rapid one step high sensitivity real time quantitative PCR system for minor BCR-ABL (e1a2) test in Philadelphia-positive acute lymphoblastic leukemia (Ph+ ALL). *Jpn J Clin Ooncol*, 54(2): 153-159, 2024.

2　○Kubo T, Matsuo S, Sogawa R, Yasu T, Nagaie T, OkamotoS, Kimura S, Shimanoe C: Monitoring of blood levels in patients administered CYP3A4 inhibitor during the maintenance phase of venetoclax administration. Int J Clin Pharm Th, 62(1): 56-60, 2024.

3　*Han HJ, Kim JJ, Pyne D, Travas A, Ambalavanan A, Kimura S, Deininger MW, Kim JW, Kim

DD: In vitro evidence of synergistic efficacy with asciminib combined with reduced dose of ATP-binding pocket tyrosine kinase inhibitors according to the ABL1 kinase domain mutation profile. Leukemia, 38(2): 412-41, 2024.

4 *Yazdanpanah N, Sedikides C, Ochs HD, Camargo CA Jr, Darmstadt GL, Cerda A, Cauda V, Peters GJ, Sellke F, Wong ND, Comini E, Jimeno AR, Glover V, Hatziargyriou N, Vincenot CE, Bordas SPA, Rao IM, Abolhassani H, Gharehpetian GB, Weiskirchen R, Gupta M, Chandel SS, Olusanya BO, Cheson B, Pomponio A, Tanzer M, Myles PS, Ma WX, Bella F, Ghavami S, Moein Moghimi S, Pratico D, Hernandez AM, Martinez-Urbistondo M, Urbistondo DM, Fereshtehnejad SM, Ali I, Kimura S, Wallace Hayes A, Cai W, Ernest CKJ, Thomas S, Rahimi K, Sorooshian A, Schreiber M, Kato K, Luong JHT, Pluchino S, Lozano AM, Seymour JF, Kosik KS, Hofmann SG, McIntyre RS, Perc M, Leemans A, Klein RS, Ogino S, Wlezien C, Perry G, Nieto JJ, Levin L, Klionsky DJ, Mobasher B, Dorigo T, Rezaei N: Global Challenges After a Global Challenge: Lessons Learned from the COVID-19 Pandemic. Adv Exp Med Biol 1457: 1-31, 2024.

5 Ureshino H, Ueda Y, Fujisawa S, Usuki K, Tanaka H, Okada M, Kowada S, Murai K, Hirose A, Shindo M, Kumagai T, Takeoka T, Kamachi K, Kidoguchi K, Shindo T, Iama S, Inamura J, Nakao T, Kobayashi T, Kawata E, Ohkawara H. Ikezoe T, Kawaguchi A, Kimura S: KIR3DL1-HLA-Bw status in CML is associated with achievement of TFR: the POKSTIC Trial, a Multicentre Observational Study. Blood neoplasia, 1 (1): 1-8, 2024.

6 ○Watanabe T, Yamamoto Y, Kurahashi Y, Kawazoe K, Kidoguchi K, Ureshino H, Kamachi K, Yoshida-Sakai N, Fukuda-Kurahashi Y, Nakamura H, Okada S, Sueoka E, Kimura S: Reprogramming of pyrimidine nucleotide metabolism supports vigorous cell proliferation of normal and malignant T cells. *Blood Adv*, 8(6): 1345-1358, 2024.

7 Yamamoto Y, Watanabe T, Kurahashi Y, Ureshino H, Fukuda-Kurahashi Y, Kawasoe K, Kidoguchi K, Yamashita S, Hattori N, Kamachi K, Ushijima T, Kimura S: DNA demethylating agents for chemoprevention of oncovirus-associated leukemogenesis. *Leukemia*, 38(7): 1613-1616, 2024.

8 Ureshino H, Takeda Y, Kamachi K, Ono T, Iriyama N, Ohtsuka E, Sakaida E, Kimura S: Higher neutrophil count is associated with favorable achievement of treatment-free remission in patients with chronic myeloid leukemia who received second generation tyrosine kinase inhibitor as frontline treatment. *Clin Pract*, 14(4): 1216-1224, 2024.

9 Ureshino H, Takahashi N, Ikezoe T, Kameoka Y, Kimura S, Fukushima N, Ichinohe T, Takamori A, Kawaguchi A, Miura M, Kimura S: A lower initiating dose of bosutinib for patients with chronic myeloid leukemia patients resistant and/or intolerant to prior therapy: A single-arm, multicenter, Phase 2 trial (BOGI trial). Int J Hematol, 120(4): 492-500, 2024.

10 ○Yamada M, Nakao M, Yamada N, Nakamura H, Itoh M, Yunoki M, Kamohara K, Kimura S, Sueoka E. Immune cell kinetics after allogeneic red blood cell transfusion in patients undergoing cardiovascular surgery. Running title: Immune Response in Allogeneic Red Blood Cell Transfusions: Transfus Clin Biol. 31(4): 223-228 Immune cell kinetics after allogeneic red blood cell transfusion in patients undergoing cardiovascular surgery. Running title: Immune Response in Allogeneic Red Blood Cell Transfusions. *Transfus Clin Biol*. 31(4): 223-228, 2024.

11 Kusaba K, Watanabe T, Kidoguchi K, Yamamoto Y, Tomoda A, Hoshiko T, Kojima N, Nakata S, Kimura S: Targeting oxidative phosphorylation with a novel thiophene carboxamide increases the efficacy of imatinib against leukemic stem cells in chronic myeloid leukemia. *Int J Mol Sci*, 25(20): 11093-11104, 2024.

12 *Moriguchi M, Nakamae H, Nishimoto M, Sugita J, Yanada M, Toubai T, Hasegawa Y, Hino M, Nishida T, Kurita N, Sawa M, Fukuda T, Jinguji A, Ota S, Matsuoka KI, Eto T, Hiramoto N, Ando T, Kawamura K, Kanda Y, Atsuta Y, Ohbiki M, Nakasone H, Konuma T: Comparison of HLA-haploidentical donors with post-transplant cyclophosphamide versus HLA-matched unrelated donors in peripheral blood stem cell transplantation for acute myeloid leukaemia. *Br J Haematol. 205(6): 2376-2386*, 2024.

13 *Ido K, Nakamae H, Hattori N, Kanaya M, Morita K, Hino M, Ohigashi H, Fukuda T, Eto T, Nagafuji K, Hiramoto N, Maruyama Y, Ota S, Matsuoka KI, Ando T, Akasaka T, Mori Y, Kamimura T, Kawakita T, Kawamura K, Kanda J, Onizuka M, Atsuta Y, Murata M: Effect of peptide-binding motif on survival of HLA-haploidentical transplantation with post-transplant cyclophosphamide. *Br J Haematol. 205(3):1077-1096*, 2024.

14 ○Furuno T, Sogawa R, Hashimoto T, Matsuo S, Shirahama W, Kamura T, Hosoya K, Senjyu Y, Yamashita Y, Inoue T, Yamauchi M, Katsuya H, Noguchi M, Sueoka-Aragane N, Shimanoe C: Association between the Prognostic Nutritional Index and the Occurrence of Immune-Related Adverse Events. *Biol Pharm Bull.;47(2):361-365*, 2024.

15 *Kito Y, Kawakami H, Mitani S, Nishina S, Matsumoto T, Tsuzuki T, Shinohara Y, Shimokawa H, Kumanishi R, Ohta T, Katsuya H, Kawakami T, Nishina T, Hasegawa H, Akiyoshi K, Chiba Y, Yamazaki K, Hironaka S, Muro K: Trifluridine/Tipiracil Plus Bevacizumab for Vulnerable Patients With Pretreated Metastatic Colorectal Cancer: A Retrospective Study (WJOG14520G). *Oncologist.; 29(3): e330-e336*, 2024.

16 *Maida S, Nakagawa H, Ureshino H, Kajihara K, Yamazaki S, Ichinohe T: Dysmorphic megakaryocytes in TAFRO syndrome: A case series from a single institute. *Blood Cells Mol. 108: 102870*, 2024.

17 ○Ureshino H, Kamachi K, Kidoguchi K, Kimura S: IFN-α treatment may enable discontinuation of TKIs in NK cell-licensed patients with CML-CP. *eJHaem. 5(6): 1278-1282*.

18 *Shimada K, Ohmachi K, Machida R, Ota S, Itamura H, Tsujimura H, Takayama N, Shimada T, Kurosawa M, Tabayashi T, Shimoyama T, Ohshima K, Miyazaki K, Maruyama D, Kinoshita T, Ando K, Hotta T, Tsukasaki K, Nagai H: Secondary central nervous system involvement in patients with diffuse large B-cell lymphoma treated with rituximab combined CHOP therapy - a supplementary analysis of JCOG0601. *Ann Hematol. 2024 Jun; 103(6): 2021-2031*, 2024.

19 *Kiritani A, Amino Y, Uchibori K, Akita T, Harutani Y, Ogusu S, Tsugitomi R, Manabe R, Ariyasu R, Kitazono S, Yanagitani N, Nishio M: Efficacy of osimertinib in patients with EGFR-mutation positive non-small cell lung cancer with malignant pleural effusion. Thorac Cancer. 2024 Feb; 15(5): 402-409, 2024, 2.

20 *Matsuyama T, Tanaka J, Tone K, Shimizu K, Nakano T, Takahashi K: THE EFFICACY OF

BRONCHIAL THERMOPLASTY IN LONG-TERM MAINTENANCE OF ADULT PATIENTS WITH MODERATE TO SEVERE ASTHMA. Arerugi. 2024; 73(1): 40-51, 2024, 2.

21 Kurihara Y, Tashiro H, Konomi Y, Sadamatsu H, Ihara S, Takamori A, Kimura S, Sueoka-Aragane N, Takahashi K: Thymic stromal lymphopoietin contributes to ozone-induced exacerbations of eosinophilic airway inflammation via granulocyte colony-stimulating factor in mice. Allergol Int. 2024 Apr; 73(2): 313-322, 2024, 4.

22 *Masaki K, Sakashita M, Ogawa Y, Inomata T, Kainuma K, Kan-O K, Sato S, Tamari M, Nakajima S, Morita H, Kurashima Y, Futamura M, Takahashi K, Haruta J, Hyakutake M, Monkawa T, Ishizuka T, Imoto Y, Oyama N, Kanzaki S, Kidoguchi M, Fukushima A, Fukunaga K, Fujieda S, Yasutomi M, Adachi T: RECURRENT AND VIRTUAL EDUCATION FOR ALL DISCIPLINES AND OCCUPATIONS IN THE ALLERGY REALM: A SURVEY OF THE PARTICIPANTS FROM THE INITIATIVE 'OUTREACH LECTURES' TO CREATE EDUCATIONAL OPPORTUNITIES. Arerugi. 2024; 73(4): 329-339, 2024, 6.

23 ○Kuroki Y, Takamori A, Takahashi K, Yamamoto S, Yoshida N, Enaida H: Survey on Findings and Utilization of Preoperative Chest Radiography in Ophthalmic Surgery. J Clin Med. 2024 Jul 3; 13(13): 3909, 2024, 7.

24 *Tanaka H, Makiguchi T, Tozuka T, Kawashima Y, Oba T, Tsugitomi R, Koyama J, Tambo Y, Ogusu S, Saiki M, Gyotoku H, Hasegawa T, Miyauchi E, Sonoda T, Saito R, Nakatomi K, Sakatani T, Kudo K, Tsuchiya-Kawano Y, Nishio M: Comparison of immune checkpoint inhibitor plus chemotherapy or ipilimumab plus nivolumab-based therapy for NSCLC patients with PD-L1 TPS (1-49%): TOPGAN2023-01. Eur J Cancer. 2024 Dec; 213: 115117, 2024, 12.

25 Takahashi K, Makita N, Castañeda-Sanabria J, Argoubi R, Nowacki G, Issa S, Matsumoto I, Yoshida Y, Müllerová H: Characteristics of Patients with COPD Initiating Budesonide/Glycopyrronium/Formoterol or Other Triple Therapies in Japan: A Real-World Healthcare Claims Database Study (MITOS-AURA). Adv Ther. 2024 Dec; 41(12): 4518-4536, 2024, 12.

総　説

1 ○Ureshino H, Kamachi K, Kimura S: Second Treatment-Free Remission Attempt in Patients with Chronic Myeloid Leukemia. Clin Lymphoma Myeloma Leuk, 24(4): e138-141, 2024.

2 ○Morimoto T, Toda Y, Hakozaki M, Paholpak P, Watanabe K, Kato K, Tsukamoto M, Hirata H, Kaneuchi Y, Tome Y, Nagamine S, Nishida K, Katsuya H, Matsumoto Y, Otani K, Mawatari M, Nikaido T: A new era in the management of spinal metastasis. Front Oncol. 2024 Apr 16; 14: 1374915, 2024.

3 ○Ureshino H, Kimura S: Efficacy and Safety of the First-in-Class STAMP-Inhibitor Asciminib in Patients With Chronic Myeloid Leukemia. Clin Lymphoma Myeloma Leuk, 25(1): e57-e61, 2025.

4 岡本　翔：白血性マクログロブリン血症．別冊日本臨牀 領域別症候群シリーズ No. 30 血液症候群（第3版）V―その他の血液疾患を含めて―，76-80，2024.

5 ○Tatsuro Watanabe, Keisuke Kidoguchi, Shinya Kimura: Treating Hematological Malignancies With OR-2100, an Orally Bioavailable Prodrug of Decitabine. Cancer Sci 2025; Jan 21. Online ohead of print, 2025, 1.

6 Tashiro H, Kurihara Y, Kuwahara Y, Takahashi K: Impact of obesity in asthma: Possible future therapies. Allergol Int. 2024 Jan; 73(1): 48-57, 2024, 1.

7 髙橋浩一郎：治療法の再整理とアップデートのために専門家による私の治療「気胸」. 日本医事新報, 5213巻, 43頁, 2024, 3.

8 栗原有紀, 田代宏樹, 髙橋浩一郎：気管支喘息の病態と臨床的寛解を目指した治療. 臨床免疫・アレルギー科, 81巻, 4号, 320-326, 2024, 4.

9 髙橋浩一郎：新ガイドラインが提示する安定期 COPD 気管支拡張療法（気管支拡張薬）. 日本医事新報, 5253巻, 54頁, 2024, 12.

10 桑原雄紀, 髙橋浩一郎：喘息・COPD 患者の指導～高齢者指導のポイント～. medicina, 第61巻, 13号, 2365-2369頁, 2024, 12.

症例報告

1 ○Inayoshi S, Inoue T, Katsuya H, Sugita K: Chronic actinic dermatitis as a diagnostic clue for adult T-cell leukemia/lymphoma. JAAD Case Rep.; 55: 10-12, 2024.

2 *Doi-Fujita A, Edahiro T, Ureshino H, Yoshida T, Ichinohe T: Facial nerve palsy and hypopituitarism associated with immunoglobulin G4-related disease in an elderly man. Am J Med Sci. 367(3): e35-e36, 2024.

3 *Edahiro T, Ureshino H, Nakamori M, Shindo T, Ichinohe T: Acalabrutinib and Obinutuzumab for Chronic Lymphocytic Leukemia Complicated With Peripheral Neuropathy. Cureus. 16(11): e74703, 2024.

4 ○Kisu E, Hiraki M, Okuyama K, Maeda S, Takesue S, Kusaba K, Kai K, Manabe T, Noshiro H: Multiple foci of Rosai-Dorfman disease in colon: a case report. *Surg Case Rep. 2024 Jul 19; 10(1): 173*, 2024.

5 Nakashima C, Kuwahara Y, Kitamura S, Kai K, Hiratsuka M, Kajiwara K, Komiya N, Ogusu S, Kimura S, Sueoka-Aragane N: Advanced non-small cell lung cancer patient with a complete response and allergic immune-related adverse events by combined immunotherapy, including anti-CTLA-4 and anti-PD-1 antibodies: A case report. Current Problems in Cancer: Case Reports; 2024; 14: 100298, 2024, 6.

6 南里水晶, 田代宏樹, 梶原　心, 桑原雄紀, 栗原有紀, 小宮奈津子, 小楠真典, 中島千穂, 髙橋浩一郎：肺外結核と診断された同施設内ネパール人の 2 例. Kekkaku Vol. 99, No. 7：201-204, 2024, 2024, 11.

7 Kuwahara Y, Tashiro H, Takeshita G, Egashira Y, Maruyama A, Ikeda Y, Kimura S, Sueoka-Aragane N, Takahashi K: Refractory bilateral chylothorax and chylous ascites in a patient with systemic lupus erythematosus treated by pleuro-peritoneal and peritoneal-venous shunts along with cell-free and concentrated ascites re-infusion therapy. Respir Investig. 2024 Nov; 62(6): 1191-1194, 2024, 11.

8 Tashiro H, Nanri M, Kuwahara Y, Kurihara Y, Kimura S, Takahashi K: Possible Biological Heterogeneity of Airway Mucus Plugs in a Patient with Asthma. J Asthma Allergy. 2024 Dec 8: 17: 1265-1269, 2024, 12.

学会発表

国際規模の学会

1 Shinya Kimura: 2nd line CML treatment after 2G TKI failure in Japan. Iculusig syymposiumu 2024. 2024, 6, 28.

2 *Takuya Fukushima, Kunihiro Tsukasaki, Ryunosuke Machida, Dai Maruyama, Shinichi Makita, Shigeru Kusumoto, Shinsuke Iida, Masahito Tokunaga, Yasushi Miyazaki, Makoto Yoshimitsu, Ilseung Choi, Sawako Nakachi, Kana Miyazaki, Junya Makiyama, Kisato Nosaka, Hiroo Katsuya, Toshiro Kawakita, Taro Shibata, Haruhiko Fukuda, and Hirokazu Nagai: Upfront allo-HSCT after intensive chemotherapy for untreated aggressive ATL: JCOG0907, a single-arm, phase 3 trial. 2024 ASCO Annual Meeting. 2024, 5, 29.

3 Hiroo Katsuya, Md Belal Hossain, Benjy Tan Jek Yang, Yorifumi Satou, Shinya Kimura: The presence and possible role of virus-host chimeric transcripts in adult T-cell leukemia-lymphoma. HTLV Conference 2024. 2024, 6, 2-5.

4 *Maria Agustina Perusini, Camille Kockerols, Daniela Žáčková, Franck Emmanuel Nicolini, Fausto Castagnetti, Carolina Pavlovsky, Massimo Breccia, Delphine Rea, Carmen Fava, Mary Lynn Savoie, Christophe Bouvier, Petra Cicatkova, Julien Bollard, Swe Mar Linn, Gopila Gupta, Emilia Scalzulli, Tomoiku Takaku, Hiroshi Ureshino, Shinya Kimura, Sung-Eun Lee, Valentin Garcia-Gutierrez, Jiri Mayer, Peter Westerweel, Dennis Kim: PROPENSITY SCORE MATCHING ANALYSIS COMPARING ASCIMINIB VERSUS PONATINIB FOR ITS TREATMENT OUTOMES IN CHRONIC MYELOID LEUKEMIA PATIENTS. 29th EHA. 2024, 6, 13-16.

5 ○Shinya Kimura, Hiroshi Ureshino, Takayuki Ikezoe, Ayako Takamori, Atsushi Kawaguchi, Tatsuo Ichinohe, Naoto Takahashi: LOWER-DOSE INITIATING BOSUTINIB IS SAFE AND EFFECTIVE FOR RESISTANT OR INTOLERANT TO PRIOR THERAPY CHRONIC MYELOID LEUKEMIA PATIENTS (BOGI TRIAL): A SINGLE-ARM, MULTICENTER, PHASE II TRIAL. 29th EHA. 2024, 6, 13-16.

6 ○Hiroshi Ureshino, Taichi Ueshima, Kotaro Sakata, Tomohiko Kinoshita, Tomonori Yamaguchi, Eiji Tahara, Tatsuo Ichinohe: (R)-WAC-224, A NOVEL ANTICANCER QUINOLONE AND VENETOCLAX PLUS AZACITIDINE OVERCOME VENETOCLAX-RESISTANT AML VIA DOWN-REGULATION OF MCL-1. 29th EHA. 2024, 6, 13-16.

7 Toshiaki Nagaie, Hidekazu Itamura, Masashi Nishihara, Tatsuya Mihashi, Mai Fujita, Haruhiko Sano, Sho Okamoto, Mariko Yoshimura, Hiroo Katsuya, Toshihiko Ando, Shinya Kimura: Role of Arterial Spin Labeling Perfusion in Diagnosis and Follow-up of HHV-6 Encephalitis Following Post-Hematopoietic Stem Cell Transplantation: A Case Report. 2024 Tandem meeting for ASTCT and CIBMTR. 2024, 2, 21-24.

8 Nakashima C, Shiotsu Y, Kosakai Y, Harada Y, Nishi M, Katsuya H, Sato A, Nakamura H, Sueoka-Aragane N: Cancer Pathway Index, an automated scoring system of cancer-related actionable pathways for comprehensive genome profiling test. JSMO 2024. 2024, 2, 22-24.

9 Kuwahara Y: Discrepancy between exercise tolerance and physical activity in treatment-naïve COPD patients. American Thoracic Society 2024 in San Diego, CA. 2024, 5, 17-22.

10 Tashiro H: Single cell RNA sequencing reveals the crucial role of dendritic cells for ozone-induced pulmonary responses via thymic stromal lymphopoietin. American Thoracic Society 2024 in San Diego, CA. 2024, 5, 17-22.

11 *Uehara Y, Izumi H, Kobayashi I, Matsumoto S, Hosomi Y, Isobe T, Kawashima Y, Takase N, Taima K, Sasaki S, Teranishi S, Miyamoto S, Mori M, Nakashima C, Asano S, Zenke Y, Yoh K, Costa D, Kobayashi S, Goto K: Efficacy of EGFR-tyrosine kinase inhibitors in patients with non-small cell lung cancer harboring EGFR exon 19 insertions: A report from the LC-SCRUM-Asia. IASLC WCLC 2024. 2024, 9, 7-10.

12 Tashiro H: Thymic stromal lymphopoietin contributes to airway responses to ozone via dendritic cells. European Respiratory Society Congress 2024. 2024, 9, 7-11.

国内全国規模の学会

1 Hiroo Katsuya, Md Belal Hossain, Aya Maeda, Benjy Tan Jek Yang, Masahito Tokunaga, Toshiki Watanabe, Kaoru Uchimaru, Atae Utsunomiya, Yorifumi Satou, Shinya Kimura: HTLV-1-host chimeric transcripts can enhance host gene expression into which the virus is integrated. 第86回日本血液学会学術集会. 2024, 10, 11-13.

2 Tadamichi Denda, Daisuke Kotani, Eisuke Inoue, Manabu Shiozawa, Yoshiko Mori, Yosuke Kito, Hiroo Katsuya, Satoshi Yuki, Kenji Matsuda, Chiaki Inagaki, Kei Muro, Akihito Tsuji, Wataru Ichikawa, Masashi Fujii, Yu Sunakawa: Real world evidence of BRAF inhibitor combination therapy for BRAF mutant metastatic colorectal cancer from an observational study: BEETS trial (JACCRO CC-18). 第62回日本癌治療学会学術集会. 2024, 10, 24-26.

3 ○Takuya Shimamura, Hiroo Katsuya, Takahiro Yukimoto, Haruhiko Sano, Naoko Aragane, Shinya Kimura, Motohiro Esaki: Factors associated with severity of immune-checkpoint inhibitors-related colitis in patients with advanced malignancies. 第21回日本臨床腫瘍学会学術集会. 2024, 2, 22-24.

4 三橋達也, 吉村麻里子, 藤井政徳, 福島伯泰, 佐野雅之, 木村晋也：先天性第 XI 因子欠乏症と von Willebrand 病の合併に対し FFP による周術期止血管理を行った 1 例. 第46回日本血栓止血学会学術集会. 2024, 6, 13-15.

5 Nagaie T, Itamura H, Nakao M, Yamada N, Yamada M, Mihashi T, Miyazaki M, Fujita M, Kidoguchi K, Kusaba K, Sano H, Okamoto S, Yoshimura M, Katsuya H, Ando T, Sueoka E, Kimura S: A case of hemolytic anemia after allogeneic bone marrow transplantation with ABO minor mismatch. 第46回日本造血・免疫細胞治療学会学術総会. 2024, 3, 21-23.

6 ○中尾真実, 山田麻里江, 山田尚友, 政田澪花, 長家聡明, 中村秀明, 板村英和, 木村晋也, 末岡榮三朗：ABO 血液型マイナーミスマッチ同種骨髄移植後に PLS を呈した一症例. 第72回日本輸血細胞療法学会学術集会. 2024, 5, 30-6, 1.

7 王丸春菜, 板村英和, 杉原綾乃, 長家聡明, 藤田真衣, 佐野遥菜, 佐野晴彦, 岡本翔, 吉村麻里子, 勝屋弘雄, 安藤寿彦, 木村晋也：骨格筋原発 PTCL の一例. 第86回日本血液学会学術総会. 2024, 10, 11-13.

8 ○合原嘉伸, 木村早希子, 佐古兼一, 橘川奈生, 松尾俊佑, 内田任仁弘, 竹内耕治, 三橋達也, 板村英和, 木村晋也, 島ノ江千里：グルカルピダーゼ使用の意思決定を要した高用量メトトレキサート

投与患者に対する母集団薬物動態モデルの適応評価．第40回日本 TDM 学会学術大会．2024，7，14–15.

9 Kusaba Kana, Watanabe Tatsuro, Kidoguchi Keisuke, Yamamoto Yuta, Kurahashi-Fukuda Yuki, Kurahashi Yuki, Tomoda Ayaka, Hoshiko Toshimi, Kojima Naoto, Nakata Susumu, Kimura Shinya: Targeting OXPHOS with novel thiophene carboxamide enhances the efficacy of TKI on LSCs in CML. 第86回日本血液学会学術総会．2024，10，11–13.

10 城戸口啓介，山本雄大，倉橋祐樹，倉橋佑紀，友田綾香，渡邉達郎，木村晋也：Double hit lymphoma を対象とした OR–2100併用 CHOP の有効性と安全性．第28回日本がん分子標的治療学会学術集会　ワークショップ 9．2024，6，19–21.

11 Keisuke Kidoguchi,Tatsuro Watanabe, Ayaka Tomoda, Kana Kusaba, Yuta Yamamoto, Yuki Kurahashi, Yuki Kurahasi-Fukuda, Kazutaka Nakashima, Hiroaki Miyoshi, Koichi Ohshima, Shinya Kimura: Orally bioavailable DNA demethylating agent OR-2100 inhibits the tumor growth of double hit lymphoma. 第86回日本血液学会学術集会．2024，10，11–13.

12 ○木村早希子，佐古兼一，橘川奈生，仲丸雄太，松尾俊祐，草場香那，藤田真衣，城戸口啓介，岡本翔，木村晋也，島ノ江千里イブルチニブ母集団薬物動態モデルの予測性評価と周術期休薬シミュレーションへの適用．第 7 回日本腫瘍循環器学術集会 一般口演．2024，8，3–4.

13 三橋達也，勝屋弘雄，長家聡明，佐野遥菜，佐野晴彦，板村英和，岡本　翔，吉村麻里子，安藤寿彦，木村晋也：成人Ｔ細胞白血病・リンパ腫の同種移植後再発に対しヴァレメトスタットを投与した 2 例．第86回日本血液学会学術総会．2024，10，11–13.

14 山本雄大，渡邉達郎，倉橋祐樹，嬉野博志，蒲池和晴，城戸口啓介，川副和紀，木村晋也：DNA メチル化阻害薬によるウイルス由来のマウス自然発がんに対するがん予防効果．第28回造血器腫瘍研究会．2024，1，26–27.

15 山本雄大，渡邉達郎，嬉野博志，蒲池和晴，川副和紀，城戸口啓介，倉橋祐樹，木村晋也：DNA メチル化阻害薬によるウイルス由来のマウス自然発がんに対するがん予防効果．第28回日本がん分子標的治療学会学術集会．2024，6，19–21.

16 山本雄大，嬉野博志，渡邉達郎，木村晋也：DNA 脱メチル化剤による E3ユビキチンリガーゼ X を介した IKZF1の分解作用は多発性骨髄腫に対して抗腫瘍効果を示す．第83回日本癌学会学術総会．2024，9，19–21.

17 栗原有紀，田代宏樹，浅岡雅人，加畑宏樹，髙橋浩一郎：Single cell RNA-Seq 解析で明らかになった TSLP を介した気道過敏性制御における樹状細胞の役割．第64回日本呼吸器学会講演会．2024，4，5–7.

18 栗原有紀，田代宏樹，貞松宏典，荒金尚子，髙橋浩一郎：TSLP はオゾン曝露による HDM 誘導喘息モデルマウスの好酸球性炎症増悪に G-CSF を介して関与する．第64回日本呼吸器学会講演会．2024，4，5–7.

19 田代宏樹：TSLP は樹状細胞を介してオゾンによる気道過敏性・気道炎症を制御する～ ERS 2023 参加を通して～．第64回日本呼吸器学会講演会．2024，4，5–7.

20 中島千穂，梶原　心，桑原雄紀，小楠真典，髙橋浩一郎，荒金尚子：小細胞癌転化を来した EGFR 遺伝子変異陽性肺腺癌 6 症例の臨床的特徴．第64回日本呼吸器学会講演会．2024，4，5–7.

21 髙橋浩一郎：教育講演 1 ：COPD に対する多面的アプローチと治療への展開．第64回日本呼吸器

学会学術講演会．2024，4，5-7.

22 小楠真典，南里水晶，梶原　心，栗原有紀，小宮奈津子，田代宏樹，中島千穂，髙橋浩一郎：肺癌マルチプレックス遺伝子パネル検査における EBUS-TBNA の有用性．第47回日本呼吸器内視鏡学会学術集会．2024，6，27-28.

23 ○大坪美由紀：アレルギー性疾患の移行支援に関する医療従事者の認識調査．第70回日本アレルギー学会学術大会．2024，10，18-20.

24 桑原雄紀：真菌監査喘息マウスにおけるマクロライド化合物 EM900の治療効果．第70回日本アレルギー学会学術大会．2024，10，18-20.

25 田代宏樹：TSLP は conventional DC type1を介してオゾンによる好中球性炎症と気道過敏性亢進に関与する．第70回日本アレルギー学会学術大会．2024，10，18-20.

26 小楠真典，南里水晶，梶原　心，栗原有紀，小宮奈津子，田代宏樹，中島千穂，髙橋浩一郎：非小細胞肺癌に対する免疫チェックポイント阻害薬（ICI）を含む初回化学療法における予後規定因子の検討．第65回日本肺癌学会学術集会．2024，10，31-11，2.

27 梶原　心，小楠真典，南里水晶，栗原有紀，小宮奈津子，田代宏樹，中島千穂，髙橋浩一郎：SMARCA4 truncating mutation と判明した原発不明癌の小細胞癌への形質転換の一例．第65回日本肺癌学会学術集会．2024，10，31-11，2.

28 日高晴菜：COPD 患者の経度認知障害の有無と身体能力，自己管理能力，生きがいの差の検証．第34回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会．2024，11，15-16.

29 栗原有紀，髙橋浩一郎，田代宏樹，浅井一久，佐々木誠悟，中西正典，平野綱彦，松永和人，南方良章：COPD 患者において座位時間と歩数の変化量は相関しない．第34回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会．2024，11，15-16.

30 髙橋浩一郎：教育セミナー：10年先を見据えた未治療 COPD 患者に対する初期治療．第34回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会．2024，11，15-16.

地方規模の学会

1 木村晋也：慢性骨髄性白血病．近畿血液地方会．2024，11，16.

2 島村拓弥，行元崇浩，佐野晴彦，勝屋弘雄，木村晋也，江﨑幹宏：当院での BRAF 変異陽性大腸癌治療の現状．消化器病学会地方会．2024，6，22.

3 藤田真衣，岡本　翔，三橋達也，城戸口啓介，草場香那，佐野晴彦，板村英和，吉村麻里子，勝屋弘雄，安藤寿彦，陣内一輝，甲斐敬太，木村晋也：Epcoritamab による pseudoprogression を認めた再発難治性 DLBCL の一例．日本血液学会九州地方会．2024，3，9.

4 栗原有紀，貞松宏典，田代宏樹，髙橋浩一郎，野口吉彦，大村　智，砂塚敏明，荒金尚子：マクロライド系化合物 EM900の真菌感作喘息に対する効果．第 6 回日本アレルギー学会 九州・沖縄支部地方会．2024，2，17.

5 小楠真典，梶原　心，桑原雄紀，小宮奈津子，田代宏樹，中島千穂，髙橋浩一郎：当院で左上下葉分岐部に突出した非小細胞肺癌に対し Nivolumab 併用術前化学療法で pCR が得られた一例．第64回日本肺癌学会九州支部学術集会 第47回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会．2024，3，1-2.

6 栗原有紀，髙橋浩一郎，田代宏樹，浅井一久，佐々木誠悟，中西正典，平野綱彦，松永和人，南方良章：COPD 患者における座位行動の身体活動に関する多施設共同研究．第92回日本呼吸器学会・日本結核 非結核性抗酸菌症学会 九州支部春季学術講演会．2024，3，16.

7　中島千穂：呼吸器内科医がみるがんゲノム診療 佐賀における実践．第92回日本呼吸器学会・日本結核 非結核性抗酸菌症学会 日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会 九州支部春季学術講演会．2024，3，16.

8　田代宏樹：重症喘息における TSLP の関与とそのメカニズム．第93回日本呼吸器学会・日本結核 非結核性抗酸菌症学会 日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会 九州支部秋季学術講演会．2024，10，11-12.

9　田代宏樹：重症喘息の病態と制御．第93回日本呼吸器学会・日本結核 非結核性抗酸菌症学会 日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会 九州支部秋季学術講演会．2024，10，11-12.

10　中島千穂，江口健二郎，南里水晶，梶原　心，桑原雄紀，栗原有紀，小宮奈津子，小楠真典，田代宏樹，荒金尚子，髙橋浩一郎：佐賀大学医学部卒業生における入局先選択に関わる意思決定の背景と呼吸器内科医に関するイメージ調査．第93回日本呼吸器学会・日本結核 非結核性抗酸菌症学会 日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会 九州支部秋季学術講演会．2024，10，11-12.

11　梶原　心，中島千穂，南里水晶，桑原雄紀，栗原有紀，小宮奈津子，田代宏樹，小楠真典，髙橋浩一郎：小細胞肺癌に対して CBDCA+VP-16+Durvalumab 治療後に発症した自己免疫性自律神経節障害の 1 例．第93回日本呼吸器学会・日本結核 非結核性抗酸菌症学会 日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会 九州支部秋季学術講演会．2024，10，11-12.

12　脇　晃太，小楠真典，南里水晶，梶原　心，栗原有紀，小宮奈津子，田代宏樹，中島千穂，髙橋浩一郎：傍腫瘍性神経症候群（PNS）を合併した抗 SOX1抗体陽性小細胞肺癌の 2 例．第93回日本呼吸器学会・日本結核 非結核性　抗酸菌症学会・日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会 九州支部秋季学術講演会．2024，10，11-12.

13　南里水晶，田代宏樹，梶原　心，桑原雄紀，栗原有紀，小宮奈津子，小楠真典，中島千穂，髙橋浩一郎：Mepolizumab で増悪し Dupilumab で改善した粘液栓合併気管支喘息の一例．第93回日本呼吸器学会・日本結核 非結核性 抗酸菌症学会・日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会 九州支部秋季学術講演会．2024，10，11-12.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
教　授	木村　晋也	科学研究費	基盤(C)	1	慢性骨髄性白血病の治療不要寛解率を向上させる治療法の開発	1,500
講　師	勝屋　弘雄	科学研究費	基盤(C)	1	成人T細胞白血病・リンパ腫の新規発症予測法の開発	1,300
特任教授	嬉野　博志	科学研究費	若手	1	新規 DNA メチル化阻害剤を用いた CML 幹細胞を標的とした治療戦略	1,040
特任教授	嬉野　博志	一般財団法人 医療・介護・教育研究財団	第18回ふくおか臨床医学研究賞	1	新規 STAMP 阻害剤アシミニブを用いて慢性骨髄性白血病の治癒を目指す	400
助　教	山本　雄大	新日本先進医療研究財団	研究助成	1	新規経口 DNA 脱メチル化薬 OR2100による発がん予防効果	1,000
准教授	髙橋浩一郎	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	気管支喘息のトランジッションに向けた教育支援プログラム開発と検証	100 (273)
准教授	髙橋浩一郎	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	COPD 患者における骨格筋 - 腸内細菌叢連関と新規リハビリテーション介入手法の開発	1,300 (1,010)
特任講師	中島　千穂	科学研究費助成事業	若手研究	1	非小細胞肺癌の小細胞癌形質転換リスク予測と PDX による薬効予測法の確立	600
特任講師	中島　千穂	受託事業	受託事業	1	佐賀県感染症等医療体制強化事業	19,951
講　師	田代　宏樹	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	COPD 患者における骨格筋 - 腸内細菌叢連関と新規リハビリテーション介入手法の開発	130
講　師	田代　宏樹	科学研究費助成事業	若手研究	1	酪酸誘導による腸内細菌叢を標的とした肥満喘息の制御	1,100 (981)
講　師	田代　宏樹	先端医療技術に関する研究・開発への支援	運営費交付金	1	腸内細菌叢が肥満喘息増悪を誘導する標的分子の同定と治療介入	5,384
講　師	田代　宏樹	受託研究(追加予算)	受託研究（追加予算）	1	Regulation of neutrophilic airway inflammation and airway hyperresponsiveness through Thymic stromal lymphopoietin: role of IL-17A	4,890
助　教	栗原　有紀	科学研究費助成事業	若手研究	1	重症喘息における TSLP と肥満細胞の関与	800

※（　）は繰越金で外数

学術（学会）賞

職　名	氏　名	学術（学会）賞名	受　賞　課　題
助　教	栗原　有紀	第93回日本呼吸器学会・日本結核 非結核性抗酸菌症学会・日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会 九州支部 秋季学術講演会 学術奨励賞	オゾン曝露によるダニ誘導喘息モデルマウスの増悪は抗 TSLP 抗体で抑制される

循環器内科

著　　書

1　森永　崇，野出孝一：本態性高血圧：ガイドラインに沿った治療戦略．循環器疾患最新の治療 2024-2025，2023，12．南江堂，東京．

2　大迫亮介，田中敦史，野出孝一：代謝拮抗薬（ピリミジン代謝拮抗薬）はなにに気を付ける？．腫瘍循環器診療 実践トレーニング．82-86，2024，3．メジカルビュー社，東京．

原著論文

1　Mogi M, Tanaka A, Node K, Tomitani N, Hoshide S, Narita K, Nozato Y, Katsurada K, Maruhashi T, Higashi Y, Matsumoto C, Bokuda K, Yoshida Y, Shibata H, Toba A, Masuda T, Nagata D, Nagai M, Shinohara K, Kitada K, Kuwabara M, Kodama T, Kario K: 2023 update and perspectives. Hypertens Res. 2024 Jan; 47(1): 6-32. doi: 10.1038/s41440-023-01398-5. Epub 2023 Sep 15, 2024, 1.

2　○Sonoda S, Node K: Grasp of Fate: Determining the Prognosis of Plaque Erosion?. J Atheroscler Thromb. 2024 Jan 1; 31(1): 15-16. doi: 10.5551/jat.ED244. Epub 2023 Oct 24, 2024, 1.

3　Tanaka A, Yajima A, Kitaoka K, Natsuaki M, Yoshioka G, Kaneko H, Yano Y, Nishiyama A, Node K: Blood pressure in Japanese junior and senior high school students. Hypertens Res. 2024 Jan; 47(1): 195-196. doi: 10.1038/s41440-023-01498-2. Epub 2023 Nov 8, 2024, 1.

4　Saito Y, Tanaka A, Imai T, Nakamura I, Kanda J, Matsuhisa M, Uehara H, Kario K, Kobayashi Y, Node K; PROTECT investigators: Long-term effects of ipragliflozin on blood pressure in patients with type 2 diabetes: insights from the randomized PROTECT trial. Hypertens Res. 2024 Jan; 47(1): 168-176. doi: 10.1038/s41440-023-01494-6. Epub 2023 Nov 14, 2024, 1.

5　Tada H, Kaneko H, Suzuki Y, Okada A, Takeda N, Fujiu K, Morita H, Ako J, Node K, Takeji Y, Takamura M, Yasunaga H, Komuro I: Association between remnant cholesterol and incident atherosclerotic cardiovascular disease, heart failure, and atrial fibrillation. J Clin Lipidol. 2024 Jan-Feb; 18(1): 3-10. doi: 10.1016/j.jacl.2023.10.006. Epub 2023 Oct 14, 2024, 1-2.

6　Suzuki Y, Kaneko H, Okada A, Matsuoka S, Kashiwabara K, Fujiu K, Michihata N, Jo T, Takeda N, Morita H, Node K, Yasunaga H, Komuro I: Association of Cancer and Its Interaction with Conventional Risk Factors on Cardiovascular Disease Risk. Oncology. 2024; 102(9): 775-784. doi: 10.1159/000536449. Epub 2024 Jan 25, 2024, 1.

7　Suzuki T, Rewley J, Sugibuchi K, Suzuki Y, Suzumura S, Tsurugi N, Okamura D, Node K, Mizuno A: Feedbacks Using behaviOral econOmic theories on STEP countS in Cardiovascular Disease

Patients (FOOTSTEPS) Using Novel Daily Step Counts Retrieving System. Int Heart J. 2024; 65(1): 100-108. doi: 10.1536/ihj.23-415, 2024, 1.

8 Fujimoto A, Kanegae H, Kitaoka K, Ohashi M, Okada K, Node K, Takase K, Fukuda H, Miyazaki T, Yano Y: The association between employee lifestyles and the rates of mental health-related absenteeism and turnover in Japanese companies. Epidemiol Health. 2024; 46: e2024068. doi: 10.4178/epih.e2024068. Epub 2024 Aug 2, 2024, 8.

9 Matsumoto C, Tomiyama H, Takahashi O, Maruhashi T, Matsuzawa Y, Masaki N, Muraki I, Yano Y, Sugimoto T, Kabutoya T, Sawami K, Tanaka A, Arima H, Sata M, Node K: An evidence review project for food with function claims ~Challenges of the Japan society for vascular failure for the promotion of adequate evidences for food with function claims. Hypertens Res. 2024 Feb; 47(2): 533-536. doi: 10.1038/s41440-023-01485-7. Epub 2023 Oct 31, 2024, 2.

10 Tada H, Kaneko H, Suzuki Y, Okada A, Takeda N, Fujiu K, Morita H, Ako J, Node K, Takeji Y, Takamura M, Yasunaga H, Komuro I: Familial hypercholesterolemia is related to cardiovascular disease, heart failure and atrial fibrillation. Results from a population-based study. Eur J Clin Invest. 2024 Feb; 54(2): e14119. doi: 10.1111/eci.14119. Epub 2023 Nov 2, 2024, 2.

11 Nabeshima Y, Kitano T, Node K, Takeuchi M: Prognostic value of right ventricular free-wall longitudinal strain in patients with pulmonary hypertension: systematic review and meta-analyses. Open Heart. 2024 Feb 7; 11(1): e002561. doi: 10.1136/openhrt-2023-002561, 2024, 2.

12 Suzuki Y, Kaneko H, Okada A, Fujiu K, Jo T, Takeda N, Tanaka A, Node K, Morita H, Yasunaga H, Komuro I: Benign Prostatic Hyperplasia and Incident Cardiovascular Disease. Circ J. 2024 Feb 22; 88(3): 408-416. doi: 10.1253/circj.CJ-23-0607. Epub 2024 Jan 19, 2024, 2.

13 Saito Y, Tanaka A, Imai T, Miura SI, Ajioka M, Kodama K, Kobayashi Y, Node K; PROTECT Investigators: Factors associated with the uric acid-lowering effects of sodium-glucose cotransporter-2 inhibition in patients with type 2 diabetes: Insights from the randomized PROTECT trial. Diabetes Obes Metab. 2024 Mar; 26(3): 1110-1113. doi: 10.1111/dom.15368. Epub 2023 Nov 14, 2024, 3.

14 Komuro J, Kaneko H, Suzuki Y, Okada A, Fujiu K, Takeda N, Jo T, Morita H, Senoo K, Node K, Yasunaga H, Ieda M, Komuro I: Sex Differences in the Relationship Between Schizophrenia and the Development of Cardiovascular Disease. J Am Heart Assoc. 2024 Mar 5; 13(5): e032625. doi: 10.1161/JAHA.123.032625. Epub 2024 Feb 27, 2024, 3.

15 Yamaji T, Harada T, Kajikawa M, Maruhashi T, Kishimoto S, Yusoff FM, Chayama K, Goto C, Nakashima A, Tomiyama H, Takase B, Kohro T, Suzuki T, Ishizu T, Ueda S, Yamazaki T, Furumoto T, Kario K, Inoue T, Watanabe K, Takemoto Y, Hano T, Sata M, Ishibashi Y, Node K, Maemura K, Ohya Y, Furukawa T, Ito H, Yamashina A, Koba S, Higashi Y: Role of Small Dense Low-density Lipoprotein Cholesterol in Cardiovascular Events in Patients with Coronary Artery Disease and Type 2 Diabetes Mellitus Receiving Statin Treatment. J Atheroscler Thromb. 2024 Apr 1; 31(4): 478-500. doi: 10.5551/jat.64416. Epub 2023 Nov 3, 2024, 4.

16 Senoo K, Kaneko H, Ueno K, Suzuki Y, Okada A, Fujiu K, Jo T, Takeda N, Morita H, Kamiya K, Ako J, Node K, Yasunaga H, Komuro I: Sex Differences in the Association Between Depression

and Incident Cardiovascular Disease. JACC Asia. 2024 Mar 12; 4(4): 279-288. doi: 10.1016/j.jacasi.2023.11.015. eCollection 2024 Apr, 2024, 3.

17 Fujiyoshi A, Kohsaka S, Hata J, Hara M, Kai H, Masuda D, Miyamatsu N, Nishio Y, Ogura M, Sata M, Sekiguchi K, Takeya Y, Tamura K, Wakatsuki A, Yoshida H, Fujioka Y, Fukazawa R, Hamada O, Higashiyama A, Kabayama M, Kanaoka K, Kawaguchi K, Kosaka S, Kunimura A, Miyazaki A, Nii M, Sawano M, Terauchi M, Yagi S, Akasaka T, Minamino T, Miura K, Node K; Japanese Circulation Society Joint Working Group: JCS 2023 Guideline on the Primary Prevention of Coronary Artery Disease. Circ J. 2024 Apr 25; 88(5): 763-842. doi: 10.1253/circj.CJ-23-0285. Epub 2024 Mar 13, 2024, 4.

18 Suzuki Y, Kaneko H, Okada A, Ohno R, Yokota I, Fujiu K, Jo T, Takeda N, Morita H, Node K, Yasunaga H, Komuro I: Comparison of SGLT2 inhibitors vs. DPP4 inhibitors for patients with metabolic dysfunction associated fatty liver disease and diabetes mellitus. J Endocrinol Invest. 2024 May; 47(5): 1261-1270. doi: 10.1007/s40618-023-02246-6. Epub 2023 Dec 19, 2024, 5.

19 Tamura Y, Nomura A, Kagiyama N, Mizuno A, Node K: Digitalomics, digital intervention, and designing future: The next frontier in cardiology. J Cardiol. 2024 May; 83(5): 318-322. doi: 10.1016/j.jjcc.2023.12.002. Epub 2023 Dec 21, 2024, 5.

20 Maruhashi T, Tanaka A, Takahashi K, Higashi Y, Node K; PROCEED trial investigators: Erythropoiesis and estimated fluid volume regulation following initiation of ipragliflozin treatment in patients with type 2 diabetes mellitus and chronic kidney disease: A post-hoc analysis of the PROCEED trial. Diabetes Obes Metab. 2024 May; 26(5): 1723-1730. doi: 10.1111/dom.15481. Epub 2024 Feb 7, 2024, 5.

21 Node K, Tanaka A: Our mission in the Japanese Society of Hypertension (JSH) Future Plan: a baton-connection from JSH Osaka 2023 to Fukuoka 2024. Hypertens Res. 2024 May; 47(5): 1097-1098. doi: 10.1038/s41440-024-01644-4. Epub 2024 Mar 14, 2024, 5.

22 Nagasawa H, Kaneko H, Suzuki Y, Okada A, Fujiu K, Takeda N, Morita H, Nishiyama A, Yano Y, Node K, Viera AJ, Carey RM, Oparil S, Yasunaga H, Touyz RM, Komuro I: Association of cancer with the risk of developing hypertension. Eur Heart J Qual Care Clin Outcomes. 2024 May 22; 10(3): 228-234. doi: 10.1093/ehjqcco/qcad036, 2024, 5.

23 Yano Y, Nishiyama A, Ishimitsu T, Kashihara N, Rakugi H, Tamura K, Itoh H, Tsuchihashi T, Sakima A, Arima H, Matayoshi T, Imai Y, Miura K, Hisamatsu T, Asayama K, Ohkubo T, Node K, Kario K: Prologue: Special Spotlight Issue on Japan. J Hum Hypertens. 2024 Jun; 38(6): 467-468. doi: 10.1038/s41371-021-00589-2. Epub 2021 Aug 2, 2024, 6.

24 Okamura T, Tsukamoto K, Arai H, Fujioka Y, Ishigaki Y, Koba S, Ohmura H, Shoji T, Yokote K, Yoshida H, Yoshida M, Deguchi J, Dobashi K, Fujiyoshi A, Hamaguchi H, Hara M, Harada-Shiba M, Hirata T, Iida M, Ikeda Y, Ishibashi S, Kanda H, Kihara S, Kitagawa K, Kodama S, Koseki M, Maezawa Y, Masuda D, Miida T, Miyamoto Y, Nishimura R, Node K, Noguchi M, Ohishi M, Saito I, Sawada S, Sone H, Takemoto M, Wakatsuki A, Yanai H: Japan Atherosclerosis Society (JAS) Guidelines for Prevention of Atherosclerotic Cardiovascular Diseases 2022. J Atheroscler Thromb. 2024 Jun 1; 31(6): 641-853. doi: 10.5551/jat.GL2022. Epub 2023 Dec 19, 2024, 6.

25 Takeshita M, Tanaka A, Yoshida H, Nakamura I, Shibata Y, Hata S, Kushiyama A, Okutsu M, Ishizu T, Node K: Effect of the Xanthine Oxidase Inhibitor, Febuxostat, on WBC Count in Asymptomatic Hyperuricemia: Subanalysis of the Randomized PRIZE Study. J Atheroscler Thromb. 2024 Jun 1; 31(6): 864-875. doi: 10.5551/jat.64574. Epub 2024 Jan 13, 2024, 6.

26 Ueno K, Kaneko H, Suzuki Y, Okada A, Matsuoka S, Fujiu K, Michihata N, Jo T, Takeda N, Morita H, Kamiya K, Ako J, Node K, Yasunaga H, Komuro I: Metabolic syndrome and cardiovascular disease in cancer survivors. J Cachexia Sarcopenia Muscle. 2024 Jun; 15(3): 1062-1071. doi: 10.1002/jcsm.13443. Epub 2024 Mar 22, 2024, 6.

27 Suzuki Y, Kaneko H, Nagasawa H, Okada A, Fujiu K, Jo T, Takeda N, Morita H, Nishiyama A, Gohda T, Suzuki Y, Node K, Yasunaga H, Nangaku M, Komuro I: Comparison of estimated glomerular filtration rate change with sodium-glucose cotransporter-2 inhibitors versus glucagon-like peptide-1 receptor agonists among people with diabetes: A propensity-score matching study. Diabetes Obes Metab. 2024 Jun; 26(6): 2422-2430. doi: 10.1111/dom.15561. Epub 2024 Mar 26, 2024, 6.

28 Ueno K, Kaneko H, Suzuki Y, Okada A, Fujiu K, Jo T, Takeda N, Kamiya K, Ako J, Morita H, Node K, Yasunaga H, Komuro I: Change in Body Mass Index and Cardiovascular Outcomes in Patients With Cancer. Mayo Clin Proc. 2024 Jun; 99(6): 891-901. doi: 10.1016/j.mayocp.2024.02.003. Epub 2024 May 4, 2024, 6.

29 ○Yokoi K, Katsuki T, Yamaguchi T, Otsubo T, Soga Y, Hiroshima K, Sonoda S, Node K: Pulmonary Vein Intervention for Severe Pulmonary Vein Stenosis After Atrial Fibrillation Ablation - A Retrospective Cohort Study. Circ J. 2024 Jun 25; 88(7): 1099-1106. doi: 10.1253/circj.CJ-23-0892. Epub 2024 Mar 16, 2024, 6.

30 Fujiki S, Iijima K, Nakagawa Y, Takahashi K, Okabe M, Kusano K, Owada S, Kondo Y, Tsujita K, Shimizu W, Tomita H, Watanabe M, Shoda M, Watanabe M, Tokano T, Murohara T, Kaneshiro T, Kato T, Hayashi H, Maemura K, Niwano S, Umemoto T, Yoshida H, Ota K, Tanaka T, Kitamura N, Node K, Minamino T; EMPA ICD investigators: Effect of empagliflozin on ventricular arrhythmias in patients with type 2 diabetes treated with an implantable cardioverter-defibrillator: the EMPA-ICD trial. Cardiovasc Diabetol. 2024 Jun 28; 23(1): 224. doi: 10.1186/s12933-024-02309-9, 2024, 6.

31 Suzuki Y, Kaneko H, Okada A, Komuro J, Fujiu K, Takeda N, Morita H, Ako J, Nishiyama A, Yano Y, Ieda M, Node K, Yasunaga H, Komuro I: Comparison of incident hypertension between SGLT2 inhibitors vs. DPP4 inhibitors. Hypertens Res. 2024 Jul; 47(7): 1789-1796. doi: 10.1038/s41440-024-01649-z. Epub 2024 Apr 10, 2024, 7.

32 Yoshioka G, Tanaka A, Sonoda S, Kaneko T, Hongo H, Yokoi K, Natsuaki M, Node K: Importance of reassessment to identify trajectories of chronic transition of clinical indicators in post-myocardial infarction management. Cardiovasc Interv Ther. 2024 Jul; 39(3): 234-240. doi: 10.1007/s12928-024-01000-w. Epub 2024 Apr 14, 2024, 7.

33 Suzuki Y, Kaneko H, Okada A, Fujiu K, Takeda N, Morita H, Nishiyama A, Yano Y, Node K, Yasunaga H, Komuro I: Risk of cancer history in cardiovascular disease among individuals with hypertension. Hypertens Res. 2024 Jul; 47(7): 1871-1880. doi: 10.1038/s41440-024-01660-4. Epub

2024 Apr 24, 2024, 7.

34 Colhoun HM, Lingvay I, Brown PM, Deanfield J, Brown-Frandsen K, Kahn SE, Plutzky J, Node K, Parkhomenko A, Rydén L, Wilding JPH, Mann JFE, Tuttle KR, Idorn T, Rathor N, Lincoff AM: Long-term kidney outcomes of semaglutide in obesity and cardiovascular disease in the SELECT trial. Nat Med. 2024 Jul; 30(7): 2058-2066. doi: 10.1038/s41591-024-03015-5. Epub 2024 May 25, 2024, 7.

35 Kiyohara K, Kondo N, Iwami T, Yano Y, Nishiyama A, Node K, Inagaki N, Duru OK, Inoue K: Heterogeneous Effects of Intensive Glycemic and Blood Pressure on Cardiovascular Events Among Diabetes by Living Arrangements. J Am Heart Assoc. 2024 Jul 2; 13(13): e033860. doi: 10.1161/JAHA.123.033860. Epub 2024 Jun 27, 2024, 7.

36 Saito Y, Tanaka A, Yoshida H, Nakashima H, Ban N, Matsuhisa M, Kobayashi Y, Node K, On Behalf Of The Prize Study Investigators: Effects of Xanthine Oxidase Inhibition by Febuxostat on Lipid Profiles of Patients with Hyperuricemia: Insights from Randomized PRIZE Study. Nutrients. 2024 Jul 19; 16(14): 2324. doi: 10.3390/nu16142324, 2024, 7.

37 Kato S, Kitai T, Utsunomiya D, Azuma M, Fukui K, Hagiwara E, Ogura T, Ishibashi Y, Okada T, Kitakata H, Shiraishi Y, Torii S, Ohashi K, Takamatsu K, Yokoyama A, Hirata KI, Matsue Y, Node K: Myocardial Injury by COVID-19 Infection Assessed by Cardiovascular Magnetic Resonance Imaging - A Prospective Multicenter Study. Circ J. 2024 Aug 23; 88(9): 1450-1458. doi: 10.1253/circj.CJ-23-0729. Epub 2024 Mar 29, 2024, 8.

38 Suzuki Y, Kaneko H, Morita H, Node K, Komuro I: Circadian Rhythms in Urology: Bridging Benign Prostatic Hyperplasia and Cardiovascular Disease Risk - Reply. Circ J. 2024 Aug 23; 88(9): 1597. doi: 10.1253/circj.CJ-24-0511. Epub 2024 Jul 31, 2024, 8.

39 Suzuki T, Mizuno A, Yoneoka D, Nakashima T, Matoba T, Node K, Yonemoto N, Tahara Y, Kobayashi Y, Ikeda T: Left-digit bias in out-hospital cardiac arrest: The JCS-ReSS study. PLoS One. 2024 Aug 23; 19(8): e0305577. doi: 10.1371/journal.pone.0305577. eCollection 2024, 2024, 8.

40 Tanaka A, Shimabukuro M, Teragawa H, Yoshida H, Okada Y, Takamura T, Taguchi I, Toyoda S, Tomiyama H, Ueda S, Higashi Y, Node K; EMBLEM Investigators: Blood pressure reduction with empagliflozin in Japanese patients with type 2 diabetes and cardiovascular diseases: a post-hoc sub-analysis of the placebo-controlled randomized EMBLEM trial. Hypertens Res. 2024 Sep; 47(9): 2295-2302. doi: 10.1038/s41440-024-01725-4. Epub 2024 May 24, 2024, 9.

41 Nabeshima Y, Tanaka A, Node K: Sweet relationship between SGLT2 inhibition and heart failure. Int J Cardiol. 2024 Sep 1; 410: 132223. doi: 10.1016/j.ijcard.2024.132223. Epub 2024 Jun 1, 2024, 9.

42 Mizuno A, Yoneoka D, Kishi T, Kusunose K, Matsumoto C, Sahashi Y, Ishida M, Sanada S, Fukuda M, Sugimoto T, Hirano M, Sata M, Anzai T, Node K: From Optional to Default - Enhancing Article Viewership Through X (Formerly Twitter) Posting. Circ Rep. 2024 Aug 1; 6(9): 389-394. doi: 10.1253/circrep.CR-24-0074. eCollection 2024 Sep 10, 2024, 8.

43 Yokoi K, Yoshioka G, Node K: Handmade Embolization Coil for Managing Guidewire-Induced Coronary Perforation. JACC Case Rep. 2024 Sep 18; 29(18): 102528. doi: 10.1016/j.jaccas.2024.102528. eCollection 2024 Sep 18, 2024, 9.

44 Suzuki Y, Kaneko H, Okada A, Komuro J, Mizuno A, Fujiu K, Jo T, Takeda N, Morita H, Nishiyama A, Yano Y, Node K, Yasunaga H, Komuro I.Awareness of Being Prescribed Antihypertensive Medications and Cardiovascular Outcomes. Circ J. 2024 Sep 25; 88(10): 1639-1646. doi: 10.1253/circj.CJ-24-0039. Epub 2024 Apr 4, 2024, 9.

45 Kario K, Kai H, Rakugi H, Hoshide S, Node K, Maekawa Y, Tsutsui H, Sakata Y, Aoki J, Nanto S, Yokoi H: Consensus Statement on Renal Denervation by the Joint Committee of Japanese Society of Hypertension (JSH), Japanese Association of Cardiovascular Intervention and Therapeutics (CVIT), and the Japanese Circulation Society (JCS). Circ J. 2024 Sep 25; 88(10): 1718-1725. doi: 10.1253/circj.CJ-66-0225. Epub 2024 Jul 26, 2024, 9.

46 Kusunose K, Imai T, Tanaka A, Doi M, Koide Y, Fukumoto K, Kadokami T, Ohishi M, Teragawa H, Ohte N, Yamada H, Sata M, Node K; PROTECT investigators: Effects of ipragliflozin on left ventricular diastolic function in patients with type 2 diabetes: A sub-analysis of the PROTECT trial. J Cardiol. 2024 Oct; 84(4): 246-252. doi: 10.1016/j.jjcc.2024.02.002. Epub 2024 Feb 18, 2024, 10.

47 Komuro J, Kaneko H, Suzuki Y, Okada A, Komuro K, Mizuno A, Fujiu K, Jo T, Takeda N, Morita H, Node K, Yasunaga H, Ieda M, Komuro I: Unawareness of being prescribed medications for diabetes and incident cardiovascular disease. J Cardiol. 2024 Oct; 84(4): 294-299. doi: 10.1016/j.jjcc.2024.03.011. Epub 2024 Apr 4, 2024, 10.

48 Ogoyama Y, Abe M, Okamura K, Tada K, Katsurada K, Shibata S, Kai H, Rakugi H, Node K, Yokoi H, Kario K, Arima H: Effects of renal denervation on blood pressure in patients with hypertension: a latest systematic review and meta-analysis of randomized sham-controlled trials. Hypertens Res. 2024 Oct; 47(10): 2745-2759. doi: 10.1038/s41440-024-01739-y. Epub 2024 Jun 3, 2024, 10.

49 Ogoyama Y, Abe M, Okamura K, Tada K, Katsurada K, Shibata S, Kai H, Rakugi H, Node K, Yokoi H, Kario K, Arima H: Correction: Effects of renal denervation on blood pressure in patients with hypertension: a latest systematic review and meta-analysis of randomized sham-controlled trialsHypertens Res. 2024 Oct; 47(10): 2975. doi: 10.1038/s41440-024-01761-0, 2024, 10.

50 Kario K, Kai H, Rakugi H, Hoshide S, Node K, Maekawa Y, Tsutsui H, Sakata Y, Aoki J, Nanto S, Yokoi H: Consensus statement on renal denervation by the Joint Committee of Japanese Society of Hypertension (JSH), Japanese Association of Cardiovascular Intervention and Therapeutics (CVIT), and the Japanese Circulation Society (JCS). Hypertens Res. 2024 Oct; 47(10): 2624-2632. doi: 10.1038/s41440-024-01700-z. Epub 2024 Jul 26, 2024, 10.

51 Jimba T, Kaneko H, Azegami T, Suzuki Y, Okada A, Ko T, Fujiu K, Takeda N, Morita H, Hayashi K, Nishiyama A, Node K, Yasunaga H, Takeda N, Nangaku M, Komuro I: Body weight change associated kidney outcomes of sodium-glucose cotransporter new users. Diabetes Obes Metab. 2024 Oct; 26(10): 4535-4543. doi: 10.1111/dom.15808. Epub 2024 Jul 28, 2024, 10.

52 Kario K, Kai H, Rakugi H, Hoshide S, Node K, Maekawa Y, Tsutsui H, Sakata Y, Aoki J, Nanto S, Yokoi H: Consensus statement on renal denervation by the Joint Committee of Japanese Society of Hypertension (JSH), Japanese Association of Cardiovascular Intervention and Therapeutics (CVIT), and the Japanese Circulation Society (JCS). Cardiovasc Interv Ther. 2024 Oct; 39(4): 376-

385. doi: 10.1007/s12928-024-01017-1. Epub 2024 Jul 30, 2024, 10.

53 Ko T, Suzuki Y, Kaneko H, Jimba T, Komuro J, Okada A, Fujiu K, Takeda N, Morita H, Node K, Yasunaga H, Takeda N, Komuro I: Applying the HARMS2-atrial fibrillation risk score for Japanese population: an analysis of a nationwide epidemiological dataset. Eur J Prev Cardiol. 2024 Oct 10; 31(14): 1738-1740. doi: 10.1093/eurjpc/zwae111, 2024, 10.

54 Miyawaki Y, Nishida A, Fukushima K, Matsumoto A, Hamano T, Mori Y, Nagano M, Tokuda IT, Shigeyoshi Y, Node K, Akashi M: Chronic circadian misalignment is a risk factor for hair growth impairment. iScience. 2024 Sep 18; 27(10): 110974. doi: 10.1016/j.isci.2024.110974. eCollection 2024 Oct 18, 2024, 9.

55 Scirica BM, Lincoff AM, Lingvay I, Bogdanski P, Buscemi S, Colhoun H, Craciun AE, Ezhov M, Hardt-Lindberg S, Kleist Jeppesen O, Matos ALSA, Node K, Schiele F, Toplak H, van Beek A, Weeke PE, Wiviott SD, Deanfield J, Ryan D: The Effect of Semaglutide on Mortality and COVID-19-Related Deaths: An Analysis From the SELECT Trial. J Am Coll Cardiol. 2024 Oct 22; 84(17): 1632-1642. doi: 10.1016/j.jacc.2024.08.007. Epub 2024 Aug 30, 2024, 10.

56 Suzuki Y, Kaneko H, Okada A, Ko T, Jimba T, Fujiu K, Takeda N, Morita H, Komuro J, Ieda M, Node K, Komuro I, Yasunaga H, Takeda N: Association of SGLT2 inhibitors with incident cancer. Diabetes Metab. 2024 Nov; 50(6): 101585. doi: 10.1016/j.diabet.2024.101585. Epub 2024 Oct 24, 2024, 11.

57 Tanaka A, Kida K, Matsue Y, Imai T, Suwa S, Taguchi I, Hisauchi I, Teragawa H, Yazaki Y, Moroi M, Ohashi K, Nagatomo D, Kubota T, Ijichi T, Ikari Y, Yonezu K, Takahashi N, Toyoda S, Toshida T, Suzuki H, Minamino T, Nogi K, Shiina K, Horiuchi Y, Tanabe K, Hachinohe D, Kiuchi S, Kusunose K, Shimabukuro M, Node K: In-hospital initiation of angiotensin receptor-neprilysin inhibition in acute heart failure: the PREMIER trial. Eur Heart J. 2024 Nov 8; 45(42): 4482-4493. doi: 10.1093/eurheartj/ehae561, 2024, 11.

58 Sawami K, Tanaka A, Node K: Updated evidence on cardiovascular and renal effects of GLP-1 receptor agonists and combination therapy with SGLT2 inhibitors and finerenone: a narrative review and perspectives. Cardiovasc Diabetol. 2024 Nov 15; 23(1): 410. doi: 10.1186/s12933-024-02500-y, 2024, 11.

59 Tanaka A, Node K: Associations of metabolic disorders with hypertension and cardiovascular disease: recent findings and therapeutic perspectives. Hypertens Res. 2024 Dec; 47(12): 3338-3344. doi: 10.1038/s41440-024-01737-0. Epub 2024 May 29, 2024, 12.

60 Yoshioka G, Tanaka A, Node K: Predicting Pulmonary Infection in Acute Myocardial Infarction: Total Care of Cardiovascular and Non-Cardiovascular Outcomes. J Atheroscler Thromb. 2024 Dec 1; 31(12): 1662-1663. doi: 10.5551/jat.ED264. Epub 2024 Jun 4, 2024, 12.

61 Suzuki Y, Kaneko H, Okada A, Fujiu K, Takeda N, Morita H, Yano Y, Nishiyama A, Node K, Yasunaga H, Komuro I: BP classification using the 2017 ACC/AHA BP guidelines with risk of cardiovascular events in older individuals. J Cardiol. 2024 Dec; 84(6): 394-403. doi: 10.1016/j.jjcc.2024.07.005. Epub 2024 Jul 26, 2024, 12.

62 Yoshioka G, Yamaguchi T, Tanaka A, Sakai H, Koyamatsu J, Umeki T, Kaneta K, Sakamoto Y,

Kawaguchi A, Node K: Impact of left atrial strain on clinical outcomes in patients with permanent pacemaker implantation. ESC Heart Fail. 2024 Dec; 11(6): 3982-3992. doi: 10.1002/ehf2.14973. Epub 2024 Jul 29, 2024, 12.

63 Hisamatsu T, Kogure M, Tabara Y, Hozawa A, Sakima A, Tsuchihashi T, Yoshita K, Hayabuchi H, Node K, Takemi Y, Ohkubo T, Miura K; Japanese Society of Hypertension Working Group on Urine Sodium-to-Potassium Ratio: Practical use and target value of urine sodium-to-potassium ratio in assessment of hypertension risk for Japanese: Consensus Statement by the Japanese Society of Hypertension Working Group on Urine Sodium-to-Potassium Ratio. Hypertens Res. 2024 Dec; 47(12): 3288-3302. doi: 10.1038/s41440-024-01861-x. Epub 2024 Oct 8, 2024, 12.

64 Node K, Tanaka A, Nishiyama A, Kario K: JSH2024 Fukuoka Declaration "NEO-HYPERTENSION harmonized with society". Hypertens Res. 2024 Dec; 47(12): 3287. doi: 10.1038/s41440-024-01926-x. Epub 2024 Oct 13, 2024, 12.

65 Yokoi K, Tanaka A, Yoshioka G, Hara M, Kamohara K, Node K: Accuracy of Outcome Ascertainment in Long-Term Mortality After Coronary Artery Bypass Grafting. Mayo Clin Proc Innov Qual Outcomes. 2024 Oct 8; 8(6): 502-504. doi: 10.1016/j.mayocpiqo.2024.08.006. eCollection 2024 Dec, 2024, 10.

66 Kawabe J, Kajihara K, Matsuyama Y, Mori Y, Hamano T, Mimaki M, Kitamura Y, Matsumura R, Matsuyama M, Sato M, Ohtsuka M, Node K, Akashi M: In vivo functional significance of direct physical interaction between Period and Cryptochrome in mammalian circadian rhythm generation. PNAS Nexus. 2024 Nov 15; 3(12): pgae516. doi: 10.1093/pnasnexus/pgae516. eCollection 2024 Dec, 2024, 11.

67 Azegami T, Kaneko H, Minegishi S, Suzuki Y, Morita H, Fujiu K, Takeda N, Yokoo T, Yano Y, Hayashi K, Nishiyama A, Node K: Current Status and Future Perspective of Onco-Hypertension. Am J Hypertens. 2024 Dec 16; 38(1): 1-6. doi: 10.1093/ajh/hpae099, 2024, 12.

68 Azegami T, Kaneko H, Okada A, Suzuki Y, Fujiu K, Morita H, Takeda N, Takeda N, Fukui A, Yokoo T, Node K, Yasunaga H, Nangaku M, Hayashi K: Significance of eGFR and proteinuria for cardiovascular disease in individuals beyond 85 years of age. Nephrol Dial Transplant. 2024 Dec 20; 40(1): 164-172. doi: 10.1093/ndt/gfae124, 2024, 12.

69 Goette A, Corradi D, Dobrev D, Aguinaga L, Cabrera JA, Chugh SS, de Groot JR, Soulat-Dufour L, Fenelon G, Hatem SN, Jalife J, Lin YJ, Lip GYH, Marcus GM, Murray KT, Pak HN, Schotten U, Takahashi N, Yamaguchi T, Zoghbi WA, Nattel S, Mont L, Akar JG, Akoum N, Althoff T, Diaz JC, Guichard JB, Jadidi A, Kalman J, Lim H, Teixeira RA: Atrial cardiomyopathy revisited-evolution of a concept: a clinical consensus statement of the European Heart Rhythm Association (EHRA) of the ESC, the Heart Rhythm Society (HRS), the Asian Pacific Heart Rhythm Society (APHRS), and the Latin American Heart Rhythm Society (LAHRS). Europace. 2024 Aug 30; 26(9): euae204. doi: 10.1093/europace/euae204, 2024, 8.

70 Huang YS, Pak HN, Hiroshima K, Yamaguchi T, Chen YL, Fukaya H, Soejima K, Yan BP, Morishima I, Shizuta S, Okubo K, Zheng Q, Choi JI, Jiang C, Ieda M, Horvath EE, Lo LW: High-density mapping in catheter ablation for atrial fibrillation in Asia Pacific region: An observational

study. J Arrhythm. 2024 Dec 18; 41(1): e13168. doi: 10.1002/joa3.13168. eCollection 2025 Feb, 2024, 12.

71 *Warisawa T, Sonoda S, Yamaji K, Amano T, Kohsaka S, Natsuaki M, Tsujita K, Hibi K, Kobayashi Y, Kozuma K: State-of-the-art percutaneous coronary intervention for left main coronary artery disease in Japan. Cardiovasc Interv Ther. 2024 Oct; 39(4): 386-402. doi: 10.1007/s12928-024-01030-4. Epub 2024 Jul 30, 2024, 10.

72 Watanabe H, Morimoto T, Natsuaki M, Yamamoto K, Obayashi Y, Nishikawa R, Ando K, Ono K, Kadota K, Suwa S, Morishima I, Yoshida R, Hata Y, Akao M, Yagi M, Suematsu N, Morino Y, Yokomatsu T, Takamisawa I, Noda T, Doi M, Okayama H, Nakamura Y, Hibi K, Sakamoto H, Noguchi T, Kimura T; STOPDAPT-2 Investigators: Clopidogrel vs Aspirin Monotherapy Beyond 1 Year After Percutaneous Coronary Intervention. J Am Coll Cardiol. 2024 Jan 2; 83(1): 17-31. doi: 10.1016/j.jacc.2023.10.013. Epub 2023 Oct 23, 2024, 1.

73 Natsuaki M, Watanabe H, Morimoto T, Yamamoto K, Obayashi Y, Nishikawa R, Ando K, Domei T, Suwa S, Ogita M, Isawa T, Takenaka H, Yamamoto T, Ishikawa T, Hisauchi I, Wakabayashi K, Onishi Y, Hibi K, Kawai K, Yoshida R, Suzuki H, Nakazawa G, Kusuyama T, Morishima I, Ono K, Kimura T: An Aspirin-Free Versus Dual Antiplatelet Strategy for Coronary Stenting: STOPDAPT-3 Randomized Trial. Circulation. 2024 Feb 20; 149(8): 585-600. doi: 10.1161/CIRCULATIONAHA.123.066720. Epub 2023 Nov 23, 2024, 2.

74 Yamamoto K, Natsuaki M, Watanabe H, Morimoto T, Obayashi Y, Nishikawa R, Ando K, Suwa S, Isawa T, Takenaka H, Ishikawa T, Tamura T, Kawahatsu K, Hayashi F, Akao M, Serikawa T, Mori H, Kawamura T, Hagikura A, Shibata N, Ono K, Kimura T; STOPDAPT-3 Investigators: An Aspirin-Free Strategy for Immediate Treatment Following Complex Percutaneous Coronary Intervention. JACC Cardiovasc Interv. 2024 May 13; 17(9): 1119-1130. doi: 10.1016/j.jcin.2024.03.017, 2024, 3.

75 Yamamoto K, Morimoto T, Natsuaki M, Shiomi H, Ozasa N, Sakamoto H, Takeji Y, Domei T, Tada T, Taniguchi R, Uegaito T, Yamada M, Takeda T, Eizawa H, Suwa S, Shirotani M, Tamura T, Inoko M, Sakai H, Ishii K, Toyofuku M, Miki S, Onodera T, Furukawa Y, Inada T, Ando K, Kadota K, Nakagawa Y, Kimura T; CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort-3 Investigators: Polypharmacy and Bleeding Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention. Circ J. 2024 May 24; 88(6): 888-899. doi: 10.1253/circj.CJ-23-0558. Epub 2023 Sep 15, 2024, 5.

76 Natsuaki M, Watanabe H, Morimoto T, Yamamoto K, Obayashi Y, Nishikawa R, Ando K, Suwa S, Isawa T, Takenaka H, Ishikawa T, Yamada M, Wakatsuki T, Nozaki Y, Kitahara H, Kato R, Kawai R, Kobayashi Y, Ishii M, Goto Y, Ono K, Kimura T: Aspirin-Free Strategy for Percutaneous Coronary Intervention in Patients With Oral Anticoagulation: Prespecified Subgroup Analysis From the STOPDAPT-3 Trial. J Am Heart Assoc. 2024 Aug 6; 13(15): e034201. doi: 10.1161/JAHA.123.034201. Epub 2024 Jul 26, 2024, 8.

77 Obayashi Y, Natsuaki M, Watanabe H, Morimoto T, Yamamoto K, Nishikawa R, Ando K, Suwa S, Isawa T, Takenaka H, Ishikawa T, Tokuyama H, Sakamoto H, Fujita T, Nanasato M, Okayama H, Nishikura T, Kirigaya H, Nishida K, Ono K, Kimura T; STOPDAPT-3 investigators: Aspirin-free

strategy for percutaneous coronary intervention in acute coronary syndrome based on the subtypes of acute coronary syndrome and high bleeding risk: the STOPDAPT-3 trial. Eur Heart J Cardiovasc Pharmacother. 2024 Aug 14; 10(5): 374-390. doi: 10.1093/ehjcvp/pvae009, 2024, 8.

78 Warisawa T, Sonoda S, Yamaji K, Amano T, Kohsaka S, Natsuaki M, Tsujita K, Hibi K, Kobayashi Y, Kozuma K: State-of-the-art percutaneous coronary intervention for left main coronary artery disease in Japan. Cardiovasc Interv Ther. 2024 Oct; 39(4): 386-402. doi: 10.1007/s12928-024-01030-4. Epub 2024 Jul 30, 2024, 10.

79 Obayashi Y, Natsuaki M, Watanabe H, Morimoto T, Yamamoto K, Nishikawa R, Miyazawa A, Suzuki N, Suwa S, Kirigaya H, Wakabayashi K, Kawai K, Onishi Y, Morishima I, Okayama H, Uehara H, Hibi K, Ono K, Kimura T; STOPDAPT-3 Investigators: An aspirin-free strategy and optical coherence tomography observations after percutaneous coronary intervention: Insights from the STOPDAPT-3 trial. J Cardiol. 2024 Nov; 84(5): 342-344. doi: 10.1016/j.jjcc.2024.05.002. Epub 2024 May 10, 2024, 11.

80 Watanabe H, Natsuaki M, Morimoto T, Yamamoto K, Obayashi Y, Nishikawa R, Kimura T, Ando K, Domei T, Suwa S, Ogita M, Isawa T, Takenaka H, Yamamoto T, Ishikawa T, Hisauchi I, Wakabayashi K, Onishi Y, Hibi K, Kawai K, Yoshida R, Suzuki H, Nakazawa G, Kusuyama T, Morishima I, Ono K, Kimura T: Aspirin vs. clopidogrel monotherapy after percutaneous coronary intervention: 1-year follow-up of the STOPDAPT-3 trial. Eur Heart J. 2024 Dec 16; 45(47): 5042-5054. doi: 10.1093/eurheartj/ehae617, 2024, 12.

81 Watanabe H, Natsuaki M, Morimoto T, Yamamoto K, Obayashi Y, Nishikawa R, Hamatani Y, Ando K, Domei T, Suwa S, Ogita M, Isawa T, Takenaka H, Yamamoto T, Ishikawa T, Hisauchi I, Wakabayashi K, Onishi Y, Hibi K, Kawai K, Yoshida R, Suzuki H, Nakazawa G, Kusuyama T, Morishima I, Ono K, Kimura T; STOPDAPT-3 Investigators: Post-procedural Anticoagulation With Unfractionated Heparin in Acute Coronary Syndrome: Insight from the STOPDAPT-3 Trial. Am J Cardiol. 2024 Sep 1; 226: 83-96. doi: 10.1016/j.amjcard.2024.07.002. Epub 2024 Jul 6, 2024, 9.

82 Suzuki Y, Kaneko H, Okada A, Fujiu K, Jo T, Takeda N, Tanaka A, Node K, Morita H, Yasunaga H, Komuro I: Benign prostate hyperplasia and incident cardiovascular disease. Circ J. 2024; 88(3); 408-416, 2024.

83 ○坂本佳子，園田信成，鍋嶋洋裕，本郷　玄，吉岡吾郎，陳　文瀚，秋吉妙美，梅木俊晴，柚木純二，蒲原啓司，野出孝一：経カテーテル的大動脈弁置換術後の無症候性人工弁血栓症について 多列検出器型 CT と経胸壁心エコー図検査による評価．日本臨床生理学会雑誌．54(3)：125-134.

84 早渕仁美，武見ゆかり，太田雅規，坂田郁子，坂口景子，久保彰子，由田克士，北岡かおり，岡見雪子，大久保孝義，岡村智教，野出孝一，三浦克之：地域における減塩食品の入手可能性を評価するための調査方法の開発．日本公衆衛生雑誌．71(7)：366-375.

総　説

1 野出孝一：サイレントキラーの病に備える 高血圧．家庭画報 10月号，365-367，2024，8.

2 水野　篤，野出孝一：今後の展望を診る 循環器病の予防・国民への啓発をどのように進めるべきか？．Heart View．28(11)：1087-1093，2024，11.

3 水野　篤，野出孝一：心血管診療 予防・国民への啓発の現状と課題．日本医師会雑誌．153(7)：

728-732，2024，1.

4　沢見康輔，田中敦史，野出孝一：発症要因 動脈硬化の危険因子 高血圧．日本臨床．82(増刊４）動脈・静脈の疾患2024（上）：15-20，2024，6.

5　鍋嶋洋裕，田中敦史，野出孝一：動脈硬化性疾患予防からみた血圧管理．Medicina．61(8)：1262-1267，2024，7.

6　大迫亮介，田中敦史，野出孝一：CTR-CVT の病態と機序 前立腺がんに対するアンドロゲン除去療法に伴う心血管有害事象の病態と機序．日本臨床．82巻増刊２腫瘍循環器学：144-149，2024，4.

7　吉岡吾郎，野出孝一：虚血肢の治療 血管内治療．ペインクリニック．45(5)：507-514，2024，5.

8　大西勝也，樂木宏実，野出孝一，小池和彦：高血圧治療・降圧目標の知識 update．Medical Practice．41(4)：502-514，2024，4.

9　絹川弘一郎，野出孝一，田邉健吾，三ツ林裕巳，桑島　巖：働き方改革における医療と研究のあり方 現状と問題点．Therapeutic Research．45(3)：161-172，2024，3.

10　夏秋政浩，野出孝一：冠動脈インターベンションにおける抗血栓療法．日本内科学会雑誌．113(2)：204-210，2024，2.

11　沢見康輔，田中敦史，野出孝一：心血管疾患に対する GLP-1受容体作動薬の効果．医学のあゆみ．288(12)：966-971，2024，3.

12　鍋嶋洋裕，田中敦史，野出孝一：降圧薬（高血圧治療薬）の特徴の違いを知る！おもに体液を調整するくすり（利尿薬）．Rp. +23(1)：048-053，2024，1.

13　野出孝一：高血圧 すぐに診療に生かした最新のトピックス Medical Practice．41(4)：501，2024，4.

14　新里広大，田中敦史：難治性高血圧症に合併した低カリウム血症の精査にて原発性アルドステロン症と診断された一例．Medical Practice．41(4)：630-633，2024，4.

15　沢見康輔，田中敦史：新規高血圧治療薬（非ステロイド型 MR 拮抗薬・ARNI）の効果と役割．Medical Practice．41(4)：571-575，2024，4.

16　田中敦史，野出孝一：SGLT2阻害薬．JCVA 会誌「心血管薬物療法」．11(1)：3-11，2024，1.

17　野出孝一：主要な高リスク病態への対応 冠動脈疾患の既往．ドクターサロン 38(4)：238-239，2024，3.

18　田中敦史：心血管疾患の包括的管理～残余リスク・尿酸代謝・サロゲートマーカー～循環 plus，2024；23(2)：2-6.

19　山口尊則：心房生検による心房細動の病理組織学的評価．Heart View．28(10)：940-947，2024，9.

20　山口尊則：心房細動患者における心房構造的リモデリングはびまん性の線維化か？：高密度 voltage mapping 及び心房生検による検討．心電図．44(3)：167-179，2024，6.

21　山口尊則：ヒト心房病理組織から心房リモデリングを考える医学のあゆみ．289(1)18-23，2024，4.

22　中島夏奈，山口尊則：Reentrant AT アブレーション．必ずできる！ 実践的カテーテルアブレーション．200-210，2024，10.

学会発表

国際規模の学会

1　A Handayani, T Yamaguchi, S Kim, M Martinez Cossiani, J Relan, M Sanroman-Junquera, S Castrejon-Castrejon, M Jauregui Abularach, L Guido Lopez, D Merino, AJ Carton Sanchez, ME Mar-

tinez Maldonado, JJ De La Vieja Alarcon, P Sanchez Somonte, JL Merino Llorens: Localization of critical isthmus in left atrial macroreentrant tachycardias: insights from peak frequency mapping during sinus rhythm and coronary sinus pacing. EHRA 2024. 2024, 4, 7-9.

2 Takanori Yamaguchi: "Low Voltage" in the Left Atrium: Significance, Use in AF Ablation, and Pitfalls. Heart Rhythm 2024. 2024, 5, 16-19.

3 Takanori Yamaguchi: Relation of Voltage Abnormalities to Histology. Heart Rhythm 2024. 2024, 5, 16-19.

4 Takanori Yamaguchi: Atrial Myopathy and AF: Insights from Histopathology Perspective. KHRS 2024: The 16th Annual Scientific Session of the Korean Heart Rhythm Society. 2024, 6, 21.

5 Atsushi Tanaka, Keisuke Kida, Yuya Matsue, Takumi Imai, and Koichi Node, on behalf of the PREMIER Study Investigators: Early in-hospital initiation of angiotensin-neprilysin inhibition in Japanese patients with acute heart failure: the investigator-initiated multicenter randomized PREMIER study. ESC Congress 2024. 2024, 8, 30-9, 2.

6 H Watanabe, M Natsuaki, T Morimoto, K Yamamoto, Y Obayashi, R Nishikawa, K Ando, S Suwa, T Isawa, H Takenaka, T Ishikawa, K Wakabayashi, Y Onishi, K Ono, T Kimura: Post-PCI anticoagulation with unfractionated heparin in acute coronary syndrome: insight from the STOP-DAPT-3 trial. ESC Congress 2024. 2024, 8, 30-9, 2.

7 Prashanthan Sanders, Thadchaigeni Panchalingam, Veronica Sansing-Foster, Daniel Steven, Arian Sultan, Takanori Yamaguchi, Jeffrey Winterfield, Moussa Mansour, Isabelle Deisenhofer, Yasuteru Yamauchi: Real-World Economic Impact Of Improved Efficiency Of Tactiflex Se Ablation Catheter Compared To Tacticath Se In The Treatment Of Paroxysmal Atrial Fibrillation In Asia-Pacific And Europe. the 17th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session. 2024, 9, 26-29.

8 Yuki Kawano, Takanori Yamaguchi, Yuya Takahashi, Toyokazu Otsubo, Kana Nakashima, Kodai Shinzato, Yuki Nishimura, Kotaro Tsuruta, Ryosuke Osako, Makoto Edayoshi, Shigehisa Aoki, Atsushi Kawaguchi, Toshiaki Kadokami, Koichi Node: Histological Background Of The Abc-Death Score In Patients With Atrial Fibrillation: Evidence From Atrial Biopsy. the 17th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session. 2024, 9, 26-29.

9 Takanori Yamaguchi: Histological validation of atrial structural remodelling in patients with atrial fibrillation. the 17th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session. 2024, 9, 26-29.

10 Kodai Shinzato, Takanori Yamaguchi, Toyokazu Osyubo, Koichi Node: Comparison of Clinical Features of Cardiac Amyloidosis in Patients with Clinical Diagnosed vs. Detected by Atrial Biopsy During Atrial Fibrillation Ablation. the 17th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session. 2024, 9, 26-29.

11 Takanori Yamaguchi: Pathology of Atrial Cardiomyopathy: Evidence from Atrial Biopsy. the 68th Annual Scientific Meeting of The Korean Society of Cardiology. 2024, 10, 18-20.

12 T Kitano, Y Nagata, Y Nabeshima, K Dohi, M Takeuchi: Prognostic value of right ventricular ejection fraction using three-dimensional echocardiography in patients with ischemic cardiomyopathy and dilated cardiomyopathy. EuroEcho-Imaging 2024. 2024, 12, 11-13.

国内全国規模の学会

1　Atsushi Tanaka，Node K：心血管疾患における性差医学の最前線．第17回日本性差医学・医療学会学術集会．2024，1，27-28.

2　佐藤迪夫，野出孝一，尾池雄一：若手シンポジウム ROS およびミトコンドリア機能の制御による心不全克服への挑戦．第53回日本心脈管作動物質学会．2024，2，9-10.

3　田中敦史，野出孝一：若手シンポジウム SGLT2阻害薬の心血管代謝作用を臨床研究から探る．第53回日本心脈管作動物質学会．2024，2，9-10.

4　吉岡吾郎：右心室リード追加後に発症した，たこつぼ型心筋症の１例．第16回植込みデバイス関連冬季大会．2024，2，9-10.

5　野出孝一，田中敦史：高尿酸血症と心血管不全．第57回日本痛風・尿酸核酸学会総会．2024，2，29-3，1.

6　田中敦史：痛風・尿酸核酸領域のアップデート～最近の論文まとめ読み～オーバービュー．第57回日本痛風・尿酸核酸学会総会．2024，2，29-3，1.

7　野出孝一，田中敦史：高尿酸血症と心血管不全．第57回日本痛風・尿酸核酸学会総会．2024，2，29-3，1.

8　吉田恭平，児玉祥一，岸川純子，田篭康洋，吉岡吾郎，矢島あゆむ，柚木純二，野出孝一，蒲原啓司，古川拓馬：経カテーテル大動脈弁置換術後の在院日数延長に関与する因子の検討．第88回日本循環器学会学術集会．2024，3，8-10.

9　新里広大，山口尊則，高橋佑弥，大坪豊和，中島夏奈，七田茂輝，西村優希，鶴田浩太呂，大迫亮介，枝吉　誠，河野佑貴，福井　暁，高橋尚彦，野出孝一：心房細動患者における左房拡大に関連する組織学的因子とは？心房生検の解析（Which Histological Factors are Associated with Left Atrium Enlargement in Patients with Atrial Fibrillation? An Analysis of Atrial Biopsy）（英語）．第88回日本循環器学会学術集会．2024，3，8-10.

10　七田茂輝，山口尊則，高橋佑弥，大坪豊和，中島夏奈，新里広大，西村優希，鶴田浩太呂，大迫亮介，枝吉　誠，河野佑貴，青木茂久，野出孝一：Relationship between Atrial Structural Remodeling Based on Atrial Biopsy and Atrial Epicardial Adipose Tissue Volume．第88回日本循環器学会学術集会．2024，3，8-10.

11　西村優希，山口尊則，高橋佑弥，大坪豊和，中島夏奈，七田茂輝，新里広大，鶴田浩太呂，大迫亮介，枝吉　誠，河野佑貴，福井　暁，高橋尚彦，青木茂久，野出孝一：Histological Background of Sick Sinus Syndrome in Patients with Non-valvular Atrial Fibrillation: Evidence from Atrial Biopsy．第88回日本循環器学会学術集会．2024，3，8-10.

12　鍋嶋洋裕，坂本佳子，兼田浩平，樗木まどか，吉岡吾郎，本郷　玄，柚木純二，野出孝一：Usefulness of Cluster Analysis in Predicting Outcomes in Patients with Severe Aortic Stenosis Undergoing Transcatheter Aortic Valve Implantation．第88回日本循環器学会学術集会．2024，3，8-10.

13　竹治泰明，多田隼人，金子英弘，鈴木裕太，岡田　啓，武田憲文，藤生克仁，森田啓行，阿古潤哉，野出孝一，高村雅之，康永秀生，小室一成：Association between Remnant Cholesterol and Incident Atherosclerotic Cardiovascular Disease, Heart Failure, and Atrial Fibrillation．第88回日本循環器学会学術集会．2024，3，8-10.

14 吉岡吾郎，夏秋政浩，下村光洋，神下耕平，挽地　裕，野出孝一：Transition of Clinical Practice and Outcome for Pulmonary Embolism Patients in Direct Oral Anticoagulation Era: From Multi-center Registry. 第88回日本循環器学会学術集会．2024，3，8-10.

15 小室　仁，金子英弘，鈴木裕太，岡田　啓，水野　篤，藤生克仁，武田憲文，森田啓行，西山　成，矢野裕一朗，野出孝一，康永秀生，家田真樹，小室一成：How to Increase Health Literacy beyond 5G: Importance of Disease Awareness. 第88回日本循環器学会学術集会．2024，3，8-10.

16 隈丸　拓，松本知沙，水野　篤，杉本匡史，金子英弘，木田圭亮，野出孝一：Changes in the Prescription Pattern for Cardiovascular Drugs during COVID-19 Pandemic in Japan: Multifacility Electronic Medical Records-based Analysis across Japan. 第88回日本循環器学会学術集会．2024，3，8-10.

17 隈丸　拓，松本知沙，水野　篤，杉本匡史，金子英弘，木田圭亮，野出孝一：Changes in the Prescription Pattern for Cardiovascular Drugs during COVID-19 Pandemic in Japan; Multifacility Electronic Medical Records-based Analysis across Japan. 第88回日本循環器学会学術集会．2024，3，8-10.

18 小室　仁，金子英弘，鈴木裕太，岡田　啓，水野　篤，藤生克仁，武田憲文，森田啓行，西山　成，矢野裕一朗，，野出孝一，康永秀生，家田真樹，小室一成：How to Increase Health Literacy beyond 5G -Importance of Disease Awareness. 第88回日本循環器学会学術集会．2024，3，8-10.

19 野出孝一：「予防・国民への啓発」の進捗．第88回日本循環器学会学術集会．2024，3，8-10.

20 吉岡吾郎，夏秋政浩，下村光洋，神下耕平，挽地　裕，野出孝一：Transition of Clinical Practice and Outcome for Pulmonary Embolism Patients in Direct Oral Anticoagulation Era: From Multi-center Registry. 第88回日本循環器学会学術集会．2024，3，8-10.

21 竹治泰明，多田隼人，金子英弘，鈴木裕太，岡田　啓，武田憲文，藤生克仁，森田啓行，阿古潤哉，野出孝一，高村雅之，康永秀生，小室一成：Association between Remnant Cholesterol and Incident Atherosclerotic Cardiovascular Disease, Heart Failure, and Atrial Fibrillation. 第88回日本循環器学会学術集会．2024，3，8-10.

22 鍋嶋洋裕，坂本佳子，兼田浩平，樗木まどか，吉岡吾郎，本郷　玄，柚木純二，野出孝一：Usefulness of Cluster Analysis in Predicting Outcomes in Patients with Severe Aortic Stenosis Undergoing Transcatheter Aortic Valve Implantation. 第88回日本循環器学会学術集会．2024，3，8-10.

23 西村優希，山口尊則，高橋佑弥，大坪豊和，中島夏奈，七田茂輝，新里広大，鶴田浩太呂，大迫亮介，枝吉　誠，河野佑貴，福井　暁，髙橋尚彦，青木茂久，野出孝一：Histological Background of Sick Sinus Syndrome in Patients with Non-valvular Atrial Fibrillation: Evidence from Atrial Biopsy. 第88回日本循環器学会学術集会．2024，3，8-10.

24 七田茂輝，山口尊則，高橋佑弥，大坪豊和，中島夏奈，新里広大，西村優希，鶴田浩太呂，大迫亮介，枝吉　誠，河野佑貴，青木茂久，野出孝一：Relationship between Atrial Structural Remodeling Based on Atrial Biopsy and Atrial Epicardial Adipose Tissue Volume. 第88回日本循環器学会学術集会．2024，3，8-10.

25 新里広大，山口尊則，高橋佑弥，大坪豊和，中島夏奈，七田茂輝，西村優希，鶴田浩太呂，大迫亮介，枝吉　誠，河野佑貴，福井　暁，髙橋尚彦，野出孝一：Which Histological Factors are Asso-

ciated with Left Atrium Enlargement in Patients with Atrial Fibrillation?: An Analysis of Atrial Biopsy. 第88回日本循環器学会学術集会. 2024, 3, 8-10.

26 吉田恭平, 児玉祥一, 岸川純子, 田篭康洋, 吉岡吾郎, 矢島あゆむ, 柚木純二, 野出孝一, 蒲原啓司, 古川拓馬：経カテーテル大動脈弁置換術後の在院日数延長に関与する因子の検討. 第88回日本循環器学会学術集会. 2024, 3, 8-10.

27 Goro Yoshioka, Takanori Yamaguchi, Hikari Sakai, Kohei Kaneta, Yoshiko Sakamoto, Koichi Node: Clinical Impact of Left Atrial Strain on Outcomes in Patient with Permanent Pacemaker Implantation. 第88回日本循環器学会学術集会. 2024, 3, 8-10.

28 Takuma Ishibashi, Hidehiro Kaneko, Kensuke Ueno, Kentaro Kamiya, Yuta Suzuki, Katsuhito Fujiu, Norifumi Takeda, Hiroyuki Morita, Junya Ako, Koichi Node, Hideo Yasunaga, Issei Komuro: Early Initiation of Cardiac Rehabilitation for Patients with Acute Heart Failure Admitted to Intensive Care Unit. 第88回日本循環器学会学術集会. 2024, 3, 8-10.

29 Jun Akashi, Mai Iwataki, Yosuke Nabeshima, Takeshi Onoue, Atsushi Hayashi, Tetsuo Tanaga, Shun Nishino, Toshiyuki Kimura, Mitsuhiro Yano, Nozomi Watanabe, Yuki Tsuda, Masaru Araki, Yoshisato Shibata, Yosuke Nishimura, Yutaka Otsuji, Masaharu Kataoka: Influences of Mild Atrial Secondary Mitral Regurgitation on Heart Failure in Isolated Atrial Fibrillation. 第88回日本循環器学会学術集会. 2024, 3, 8-10.

30 Takanori Yamaguchi: Keynote Lecture: Approaching the Histopathology of Atrial Cardiomyopathy and Atrial Fibrillation: Evidence from Atrial Biopsy. 第88回日本循環器学会学術集会. 2024, 3, 8-10.

31 Toyokazu Otsubo, Takanori Yamaguchi, Yuya Takahashi, Kana Nakashima, Shigeki Shichida, Kodai Shinzato, Yuki Nishimura, Kotaro Tsuruta, Ryousuke Oosako, Makoto Edayoshi, Yuuki Kawano, Akira Fukui, Naohiko Takahashi, Shigehisa Aoki, Koichi Node: Prevalence and Clinical Characteristics of Cardiac Amyloidosis in Patients Undergoing Catheter Ablation for Atrial Fibrillation: Evidence from Atrial Biopsy. 第88回日本循環器学会学術集会. 2024, 3, 8-10.

32 Kana Nakashima, Takanori Yamaguchi, Yuya Takahashi, Toyokazu Otsubo, Shigeki Shichida, Kodai Shinzato, Yuki Nishimura, Kotaro Tsuruta, Ryousuke Oosako, Makoto Edayoshi, Yuuki Kawano, Akira Fukui, Naohiko Takahashi, Koichi Node: Sex Differences in Atrial Structural Remodeling and Outcomes after Atrial Fibrillation Ablation: Insights from High-density Mapping and Atrial Biopsy. 第88回日本循環器学会学術集会. 2024, 3, 8-10.

33 Yuichi Saito, Atsushi Tanaka, Yoshio Kobayashi, Koichi Node: Long-Term Observation of Ipragliflozin Induced Uric Acid-Lowering in Patients with Type 2 Diabetes: Insights from the Randomized PROTECT Trial. 第88回日本循環器学会学術集会. 2024, 3, 8-10.

34 Goro Yoshioka, Takanori Yamaguchi, Hikari Sakai, Kohei Kaneta, Yoshiko Sakamoto, Koichi Node: Clinical Impact of Left Atrial Strain on Outcomes in Patient with Permanent Pacemaker Implantation. 第88回日本循環器学会学術集会. 2024, 3, 8-10.

35 Yuuki Kawano, Takanori Yamaguchi, Yuya Takahashi, Toyokazu Otsubo, Kana Nakashima, Kodai Shinzato, Shigeki Shichida, Ryousuke Oosako, Kotaro Tsuruta, Yuki Nishimura, Makoto Edayoshi, Akira Fukui, Toshiaki Kadokami, Naohiko Takahashi, Koichi Node: Which Electrophysiologi-

cal, Clinical, and Histological Features does the ABC Death Score Reflect in Patients with Atrial Fibrillation?. 第88回日本循環器学会学術集会. 2024, 3, 8-10.

36 Yuya Takahashi, Takanori Yamaguchi, Toyokazu Otsubo, Kana Nakashima, Shigeki Shichida, Kodai Shinzato, Yuki Nishimura, Kotaro Tsuruta, Ryousuke Oosako, Makoto Edayoshi, Yuuki Kawano, Akira Fukui, Naohiko Takahashi, Shigehisa Aoki, Koichi Node: Profiling of Patients with Atrial Fibrillation Based on Atrial and Ventricular Cardiomyocyte Density: Evidence from Endocardial Biopsy. 第88回日本循環器学会学術集会. 2024, 3, 8-10.

37 Yuya Takahashi, Takanori Yamaguchi, Toyokazu Otsubo, Kana Nakashima, Shigeki Shichida, Kodai Shinzato, Yuki Nishimura, Kotaro Tsuruta, Ryousuke Oosako, Makoto Edayoshi, Yuuki Kawano, Akira Fukui, Naohiko Takahashi, Shigehisa Aoki, Koichi Node: Decrease in Myocardial Nuclear Density as a New Histological Feature of Atrial and Ventricular Dysfunction in Patients with Atrial Fibrillation. 第88回日本循環器学会学術集会. 2024, 3, 8-10.

38 Hiroyuki Aoki, Hidehiro Kaneko, Yuta Suzuki, Kensuke Ueno, Katsuhito Fujiu, Norifumi Takeda, Hiroyuki Morita, Kouichi Node, Hideo Yasunaga, Issei Komuro: Association of Metabolic Dysfunction Associated Fatty Liver Disease with Risk of HF and AF. 第88回日本循環器学会学術集会. 2024, 3, 8-10.

39 Kotaro Tsuruta, Takanori Yamaguchi, Yuya Takahashi, Toyokazu Otsubo, Kana Nakashima, Shigeki Shichida, Kodai Shinzato, Yuki Nishimura, Ryousuke Oosako, Makoto Edayoshi, Yuuki Kawano, Akira Fukui, Naohiko Takahashi, Koichi Node: Histological Features Associated with Recurrence as Persistent Atrial Fibrillation Post Catheter Ablation: Analysis of HEAL-AF Study. 第88回日本循環器学会学術集会. 2024, 3, 8-10.

40 Ryousuke Osako, Takanori Yamaguchi, Yuya Takahashi, Toyokazu Otsubo, Kana Nakashima, Shigeki Shichida, Kodai Shinzato, Yuki Nishimura, Kotaro Turuta, Makoto Edayoshi, Kazuo Miyazawa, Kaoru Ito, Atsushi Kawaguchi, Koichi Node: Profiling of Blood Biomarker Associated with In-creased Interstitial Space in Atrial Fibrillation: Ev-idence from Atrial Biopsy and Proteomics Analysis. 第88回日本循環器学会学術集会. 2024, 3, 8-10.

41 Masafumi Himeno, Takanori Yamaguchi, Yuya Takahashi, Toyokazu Otsubo, Kana Nakashima, Shigeki Shichida, Kodai Shinzato, Yuki Nishimura, Kotaro Tsuruta, Ryousuke Oosako, Makoto Edayoshi, Yuuki Kawano, Akira Fukui, Naohiko Takahashi, Shigehisa Aoki, Koichi Node: What are the Histological Findings in the Atria Underlying Elevated NT-proBNP in Patients with Atrial Fibrillation?: Evidence from Atrial Biopsy. 第88回日本循環器学会学術集会. 2024, 3, 8-10.

42 本郷 玄, 吉岡吾郎, 陳 文瀚, 野出孝一：ICU における非透視下での経皮的止血デバイス Perclose を使用した MCS 抜去の経験. 第51回日本集中治療医学会学術集会. 2024, 3, 14-16.

43 田中敦史：血管機能の把握と血管不全研究は臨床医のコンピテンシー. 第 9 回 日本血管不全学会学術集会・総会. 2024, 4, 21.

44 田中敦史：心不全予防のアップデート. 第60回日本循環器病予防学会. 2024, 5, 11-12.

45 田中敦史, 野出孝一：Overview of therapeutic approach of heart failure in patients with diabetes. 第67回日本糖尿病学会年次学術集会. 2024, 5, 17-19.

46 田中敦史, 野出孝一：Overview―血圧管理の現状とガイドラインから. 第67回日本糖尿病学会年

次学術集会．2024，5，17-19.

47 田中敦史：Overview of therapeutic approach of heart failure in patients with diabetes．第67回日本糖尿病学会年次学術集会．2024，5，17-19.

48 鶴田浩太呂，山口尊則，高橋佑弥，中島夏奈，七田茂輝，新里広大，西村優希，枝吉　誠，野出孝一：心房細動例における加齢と心房心筋細胞密度の関係 心房生検による解析．第24回日本抗加齢医学会総会．2024，5，31-6，2.

49 佐藤迪夫，鳥越大輔，木下裕哉，野出孝一，尾池雄一：タモギ茸の Nrf2制御を介した心血管保護作用の検証．第24回日本抗加齢医学会総会．2024，5，31-6，2.

50 山口尊則：PVI 後再発 AT/AF に対する治療戦略～心筋病理からの考察～．第 4 回日本不整脈心電図学会九州・沖縄支部地方会．2024，6，1.

51 川知祐介，藤島裕也，西澤　均，吉田寿子，田中敦史，野出孝一，下村伊一郎：肝機能障害合併・高尿酸血症患者の動脈硬化指標に対する XOR 阻害薬の影響．第97回日本内分泌学会学術総会．2024，6，6-8.

52 田中敦史：併存疾患を有する高齢者の血圧管理．第66回日本老年医学会学術集会．2024，6，13-15.

53 佐藤迪夫，鳥越大輔，木下裕哉，野出孝一，尾池雄一：タモギ茸の長期摂取による Nrf2制御を介した心臓・血管保護作用の検．第66回日本老年医学会学術集会．2024，6，13-15.

54 山口尊則：心房筋生検による心房リモデリングと不整脈基質の組織病理学的評価．第60回日本小児循環器学会総会・学術集会．2024，7，11-13.

55 竹下光英，田中敦史，吉田寿子，野出孝一：無症候性高尿酸血症患者に対するキサンチンオキシダーゼ阻害薬 Febuxostat の白血球数への影響．第56回日本動脈硬化学会総会．2024，7，6-7.

56 野出孝一：循環器病対策推進基本法について．第56回日本動脈硬化学会総会．2024，7，6-7.

57 西澤　均，川知祐介，藤島裕也，吉田寿子，田中敦史，野出孝一，下村伊一郎：MASLD/MASH を背景とした脂質代謝，動脈硬化研究 肝機能障害合併・高尿酸血症患者の血管伸展性指標・CAVI に対する Febuxostat の効果（PRIZE study のサブ解析）．第56回日本動脈硬化学会総会．2024，7，6-7.

58 田中敦史，野出孝一：最新のエビデンスに基づく ASCVD の脂質管理目標の提言 オーバービューおよび冠動脈疾患（CAD）の脂質管理目標の提言．第56回日本動脈硬化学会総会．2024，7，6-7.

59 田中敦史：動脈硬化性疾患およびその危険因子に対する先制医療の実践と包括的治療戦略の確立を目指して．第56回日本動脈硬化学会総会・学術集会．2024，7，6-7.

60 田中敦史，野出孝一：オーバービューおよび冠動脈疾患（CAD）の脂質管理目標の提言．第56回日本動脈硬化学会総会・学術集会．2024，7，6-7.

61 西澤　均，川知祐介，藤島裕也，吉田寿子，田中敦史，野出孝一，下村伊一：肝機能障害合併・高尿酸血症患者の血管伸展性指標・CAVI に対する Febuxostat の効果（PRIZE study のサブ解析）．第56回日本動脈硬化学会総会・学術集会．2024，7，6-7.

62 野出孝一：循環器病対策推進基本法について．第56回日本動脈硬化学会総会・学術集会．2024，7，6-7.

63 田中敦史：高尿酸血症治療と動脈硬化・血管不全．第56回日本動脈硬化学会総会・学術集会．2024，7，6-7.

64 竹下光英，田中敦史，吉田寿子，野出孝一：無症候性高尿酸血症患者に対するキサンチンオキシ

ダーゼ阻害薬 Febuxostat の白血球数への影響．第56回日本動脈硬化学会総会・学術集会．2024，7，6-7.

65 山口尊則：3D mapping による Classical Entrainment の可視化～マクロリエントリー性心房頻拍例での観察～．第 4 回日本不整脈心電図学会九州・沖縄支部地方会．2024，6，1.

66 夏秋政浩：PCI 後の抗血小板療法 UPDATE－Insights from STOPDAPT3 trial－．第32回日本心血管インターベンション治療学会．2024，7，25-27.

67 園田信成，野出孝一：急性心筋梗塞に対する冠動脈インターベンション治療のベストプラクティスを考える．第72回日本心臓病学会学術集会．2024，9，27-29.

68 園田信成，野出孝一：ACS の最新治療戦略 急性心筋梗塞に対する冠動脈インターベンション治療のベストプラクティスを考える．第72回日本心臓病学会学術集会．2024，9，27-29.

69 吉岡吾郎：心不全入院例における，退院時の心保護薬導入の現状：単施設データより．第28回日本心不全学会学術集会．2024，10，4-6.

70 金子哲也：心不全患者に対する遠隔モニタリングの実践と実行機能障害と心不全予後との関．第28回日本心不全学会学術集会．2024，10，4-6.

71 夏秋政浩：虚血性心疾患に対する State of art OMT を考える抗血小板療法・抗凝固療法．第 9 回 PCI Optimization by Physiology And Imaging 2024（POPAI2024）．2024，10，11-12.

72 田中敦史：中高生の血圧に関するおはなし．第46回日本高血圧学会総会．2024，10，12-14.

73 野出孝一：社会と協奏する新高血圧学．第46回日本高血圧学会総会．2024，10，12-14.

74 野出孝一：新高血圧専門医に期待すること．第46回日本高血圧学会総会．2024，10，12-14.

75 小古山由佳子，阿部真紀子，岡村圭佑，多田和弘，桂田健一，柴田　茂，甲斐久史，楽木宏実，野出孝一，横井宏佳，苅尾七臣，有馬久富：高血圧患者における腎デナベーションの降圧効果と安全性：無作為化シャム対照比較試験の最新のメタ解析より．第46回日本高血圧学会総会．2024，10，12-14.

76 矢島あゆむ，田中敦史，北岡かおり，夏秋政浩，吉岡吾郎，矢野裕一朗，西村　成，野出孝一：佐賀県における思春期世代への血圧の取組み．第46回日本高血圧学会総会．2024，10，12-14.

77 坂井ひかり，吉岡吾郎，城島昴太，田中敦史，園田信成，野出孝一：睡眠時無呼吸症候群が疑われ終夜睡眠ポリグラフ検査施行令における夜間血圧の実態：単施設レジストリーデータより．第46回日本高血圧学会総会．2024，10，12-14.

78 金子哲也，田中敦史，琴岡憲彦，野出孝一：心不全患者における在宅遠隔モニタリングと実行機能．第46回日本高血圧学会総会．2024，10，12-14.

79 北岡かおり，鈴木裕太，金子英弘，岡田　啓，水野　篤，森田啓行，野出孝一，古井祐司，三浦克之：高血圧受診勧奨者における治療状況と 1 年後の血圧コントロール，生活習慣との関連．第46回日本高血圧学会総会．2024，10，12-14.

80 沢見康輔，田中敦史，野出孝一：代謝異常と高血圧．第46回日本高血圧学会総会．2024，10，12-14.

81 白木　綾，高橋佑弥，中神啓徳，野出孝一：新規 sEH ワクチンへの高血圧症への応用．第46回日本高血圧学会総会．2024，10，12-14.

82 田中敦史：私は今，こうして論文を書いています．第46回日本高血圧学会総会．2024，10，12-14.

83 野出孝一：高血圧学会の未来．第46回日本高血圧学会総会．2024，10，12-14.

84 田中敦史：ASCVD 二次予防における脂質管理目標の提言．第46回日本高血圧学会総会．2024，10，12-14.

85 田中敦史：中高生の血圧に関するおはなし．第46回日本高血圧学会総会．2024，10，12-14.

86 吉岡吾郎，坂井ひかり，田中敦史，野出孝一：循環器内科定期入院における，血圧コントロールの実態．第46回日本高血圧学会総会．2024，10，12-14.

87 野出孝一：社会と協奏する新高血圧学．第46回日本高血圧学会総会．2024，10，12-14.

88 田中敦史：学術賞：循環器代謝症候群に対する医師主導型臨床試験の実践と先制医療への応用．第46回日本高血圧学会総会．2024，10，12-14.

89 野出孝一：新高血圧専門医に期待すること．第46回日本高血圧学会総会．2024，10，12-14.

90 Atsushi Tanaka, Node K: Evaluation of vascular function in our clinical trials. 第46回日本高血圧学会総会．2024，10，12-14.

91 田中敦史：HFpEF と肥満：最近の薬物治療展開．第61回日本臨床生理学会総会．2024，11，15-16.

92 夏秋政浩：次世代で考える抗血小板療法の NEXT STAGE－STOPDAPT－．第37回日本冠疾患学会学術集会．2024，11，29-30.

93 馬場康平，諸隈宏之，永島聖恭，七條正英，林　奈宜，陣内宏紀，伊藤　学，柚木純二，蒲原啓司，本郷　玄：TAVI と OPCAB の同時手術を施行した 3 治験例．第37回日本冠疾患学会学術集会2024，11，29-30.

94 諸隈宏之，横井研介，吉岡吾郎，野出孝一，蒲原啓司：当院における冠動脈バイパス術後の長期予後および死因の検討．第37回日本冠疾患学会学術集会．2024，11，29-30.

95 佐藤迪夫，鳥越大輔，木下裕哉，野出孝一，尾池雄一：タモギ茸長期投与による Nrf2-Ho-1経路活性化と心血管保護作用の検証．CVMW．2024，12，7-8.

96 田中敦史，野出孝一：最近の心不全薬物治療のトレンド：より早く・より強く？．第45回日本臨床薬理学会学術総会．2024，12，13-14.

97 夏秋政浩：Determining the optimal duration of dual antiplatelet therapy: lessons from the STOPDAPT 3. The 41st Live Demonstration in KOKURA（KOKURA LIVE 2024）．2024，5，11-12.

98 夏秋政浩：STOPDAPT 研究をふまえた抗血小板療法．第14回豊橋ライブデモンストレーションコース．2024，6，25-29.

99 夏秋政浩：リアルワールドデータにおける重症冠動脈病変に対する PCI の現状．第28回日本冠動脈外科学会学術大会．2024，7，11-12.

100 夏秋政浩：P2Y12阻害剤の極み．Alliance for Revolution and Interventional Cardiology Advancement 2024．2024，11，21-23.

101 森永　崇：左心耳閉鎖術後の薬物療法．Alliance for Revolution and Interventional Cardiology Advancement 2024．2024，11，21-23.

102 金子哲也：ケースディスカッション；右心カテで病態評価を行った症例 症例 2 ：PTSMA 症例．Alliance for Revolution and Interventional Cardiology Advancement 2024．2024，11，21-23.

103 山口尊則：心房限局性リンパ球性心筋炎の 1 例．第46回心筋生検研究会学術集会．2024，12，6-7.

104 田中敦史：最近の心不全薬物治療のトレンド：より早く・より強く？．第45回日本臨床薬理学会学術総会．2024，12，13-14.

地方規模の学会

1　吉岡吾郎：上肢の Buerger-Like Disease 症例で，橈骨動脈の Lotus Root-Like Appearance を観察した一例 Imaging Award 最優秀賞．第36回日本心血管インターベンション治療学会 九州・沖縄地方会．2024，1，12-13.

2　陳　文瀚，横井研介，園田信成：ステント脱落した一例．第36回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会．2024，1，12-13.

3　山口美佳，吉岡吾郎，鍋嶋洋裕，下村光洋，野出孝一：連続的な心臓超音波検査で，たこつぼ型心筋症に合併する僧帽弁収縮期前方運動の経過を観察し得た 1 例．第136回日本循環器学会九州地方会．2024，6，29.

4　山口尊則：Gender Difference of Atrial Fibrillation．第70回日本不整脈心電学会学術大会．2024，7，18-20.

5　山口尊則：心房細動アブレーションに有用な心房病理の知識と解剖の知識 病理．第70回日本不整脈心電学会学術大会．2024，7，18-20.

6　Shigeki Shichida: Are Atrial and Ventricular Cardiomyopathies in atrial fibrillation simultaneous or independent progressive processes?．第70回日本不整脈心電学会学術大会．2024，7，18-20.

7　Takanori Yamaguchi: Real-World Economic Impact of Improved Efficiency of TactiFlex SE Ablation Catheter Compared to TactiCath SE in the Treatment of Paroxysmal Atrial Fibrillation in Asia Pacific．第70回日本不整脈心電学会学術大会．2024，7，18-20.

8　嘉村朋顕，吉岡吾郎，夏秋政浩，下村光洋，吉田敬規，園田信成，挽地　裕，野出孝一：肺血栓塞栓症に対する下大静脈フィルター留置の返還：他施設レジストリーデータより．第37回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会．2024，8，23-24.

9　合力悠平，吉岡吾郎，夏秋政浩，西平賢作，下村光洋，栗山根廣，園田信成，柴田剛徳，野出孝一：急性心筋梗塞における血液検査を用いた出血性合併症予測モデルの構築．第37回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会．2024，8，23-24.

10 ○横井研介，吉岡吾郎，夏秋政浩，園田信成，野出孝一：PCI 中のガイドワイヤ穿孔に対して，通常のコイル留置が困難であり，自作コイルにより止血に成功した一例．第37回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会．2024，8，23-24.

11　夏秋政浩：PCI 後の抗血栓療法最前線－Insights from STOPDAPT3－．第37回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会．2024，8，23-24.

12　陳　文瀚，吉岡吾郎，本郷　玄，横井研介，夏秋政浩，園田信成：大動脈瘤乖離 StandfordAni 左冠動脈主幹部塞栓を併発した一例．第37回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会．2024，8，23-24.

13　佐藤大祐，諸岡大樹，古謝侑奈，陳　文瀚，夏秋政浩，園田信成，野出孝一，山下佳雄：UAP に対して PCI 後に心タンポナーデを呈した 1 例．第37回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会．2024，8，23-24.

14　中島史暁，吉岡吾郎，中嶋洋裕，林　奈宣，本郷　玄，坂本佳子，柚木純二，蒲原啓司，野出孝一：経カテーテル的大動脈弁置換術中に僧帽弁閉鎖不全症の増悪を認めた 1 例．第37回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会．2024，8，23-24.

15　吉岡吾郎，坂本佳子，小屋松純二，梅木俊晴，鍋嶋洋裕，本郷　玄，柚木純二，野出孝一：TAVR

遠隔期の僧帽弁閉鎖不全症の変化：予後との関連について．第37回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会．2024，8，23-24.

16　夏秋政浩：インター―ベンショナリストが考える突然死予防戦略－Saga University Style－．第37回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会．2024，8，23-24.

17　稲富梨紗，坂井ひかり，吉岡吾郎，野出孝一：大動脈解離に合併した虚血性腸炎で，大量補液を要した一例．第137回日本循環器学会九州地方会．2024，12，14.

18　枝吉　誠，横井研介，山口尊則，渡邊伸英，中島夏奈，新里広大，鶴田浩太呂，野出孝一：心房筋生検により確定診断に至った心房限局性リンパ球性心筋炎の 1 例．第137回日本循環器学会九州地方会．2024，12，14.

19　中島史暁，本郷　玄，横井研介，諸隈宏之，蒲原啓司，陳　文瀚，夏秋政浩，園田信成，野出孝一：Bentall 術後に左冠動脈主幹部高度狭窄病変に対して PCI を施行した 2 例．第137回日本循環器学会九州地方会．2024，12，14.

20　坂井ひかり，吉岡吾郎，金子哲也，鍋嶋洋裕，野出孝一，矢島あゆむ：腸間膜動脈閉塞症を伴う心内血栓の一例と当院での左室内血栓症例の検討．第137回日本循環器学会九州地方会．2024，12，14.

21　宇野純加，横井研介，諸隈宏之，蒲原啓司，野出孝一：著明な異常所見に目を奪われ，背景疾患の発見が遅れた急性心不全症例．第137回日本循環器学会九州地方会．2024，12，14.

22　平井元子，坂井ひかり，吉岡吾郎，矢島あゆむ，吉田恭平，児玉祥一，野出孝一：当院における慢性心不全患者における10m 歩行試験の現状．第10回心臓リハビリテーション学会九州支部地方会．2024，12，15.

その他の学会

1　野出孝一：被災地における高血圧疾患予防について 日本高血圧学会としての取り組みについて．日本高血圧学会 2024年度臨時プレスセミナー．2024，1，19.

2　野出孝一：日本高血圧学会の取り組み．日本高血圧学会 2024年度第 2 回プレスセミナー．2024，5，13.

3　山口尊則：心房生検がもたらす心房細動医療の未来．カテーテルアブレーション関連秋季大会2024．2024，10，10-12.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研　究　課　題　等	交付金額（千円）
教　授	野出　孝一	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	血管不全の生化学的診断指針の策定	1,100
特任教授	田中　敦史	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	血管不全の生化学的診断指針の策定	100
教　授	野出　孝一	科学研究費助成事業	基盤研究(B)	2	心アミロイドーシスの早期診断・早期治療に向けた分光特性と細胞病態の相関理解	250
准教授	山口　尊則	科学研究費助成事業	基盤研究(B)	2	心アミロイドーシスの早期診断・早期治療に向けた分光特性と細胞病態の相関理解	250

講　師	夏秋　政浩	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	急性心筋梗塞患者の予後改善を目指した新規出血リスクスコアの開発	550
講　師	夏秋　政浩	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	心不全患者の掻痒感緩和に向けた看護技術の確立と効果検証	100
教　授	野出　孝一	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	急性心筋梗塞患者の予後改善を目指した新規出血リスクスコアの開発	50
教　授	野出　孝一	厚生労働科学研究費補助金	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	2	糖尿病など生活習慣病の地域格差の把握とその改善―日本医師会かかりつけ医診療データベース J-DOME からの提言	0
教　授	野出　孝一	厚生労働科学研究費補助金	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	2	健診受診後の実態調査に準拠した健診受診後の早期介入のための研究	100
教　授	野出　孝一	日本医療研究開発機構研究費	女性の健康の包括的支援実用化研究事業	2	心血管ハイリスクの女性における性特異的心不全発症予防戦略の開発：周産期および出産情報を含む後ろ向きコホート解析と RCT サブ解析によるエビデンス創出	800
教　授	野出　孝一	日本医療研究開発機構研究費	難治性疾患等実用化研究事業　難治性疾患実用化研究事業	2	日本循環器研究コンソーシアムによる難治性心血管疾患のエビデンス創出	200
准教授	山口　尊則	日本医療研究開発機構研究費	難治性疾患等実用化研究事業　難治性疾患実用化研究事業	2	日本循環器研究コンソーシアムによる難治性心血管疾患のエビデンス創出	0
教　授	野出　孝一	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	バイオ3D プリンタ技術を用いた細胞製人工弁膜の開発	100
教　授	野出　孝一	科学研究費助成事業	基盤研究(B)	2	バイオ3D プリンタを用いた冠動脈バイパス術に最適な次世代型細胞製人工血管の開発	100
助　教	高橋　佑弥	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	心房細動症例における心房生検検体の超微細構造の評価	1,250
准教授	山口　尊則	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	心房細動症例における心房生検検体の超微細構造の評価	50
教　授	野出　孝一	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	心房細動症例における心房生検検体の超微細構造の評価	50
教　授	野出　孝一	科学研究費助成事業	基盤研究(B)	2	心房細動における脳心血管病予防のための降圧目標を解明する国際共同大規模臨床試験	100

教　授	野出　孝一	日本医療研究開発機構研究費	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業	2	心房細動・重篤合併症予防を実現する多層的・統合的エビデンス創出研究	0
准教授	山口　尊則	日本医療研究開発機構研究費	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業	2	心房細動・重篤合併症予防を実現する多層的・統合的エビデンス創出研究	0
教　授	野出　孝一	科学研究費助成事業	基盤研究(A)	2	複合的アプローチによる心臓システム構造の統合的理解とその制御	500
准教授	山口　尊則	科学研究費助成事業	基盤研究(A)	2	複合的アプローチによる心臓システム構造の統合的理解とその制御	500
教　授	野出　孝一	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	持続式陽圧呼吸療法による抑うつ症状改善のメカニズムの探索	0
講　師	夏秋　政浩	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	持続式陽圧呼吸療法による抑うつ症状改善のメカニズムの探索	0
教　授	野出　孝一	科学研究費助成事業	挑戦的研究（開拓）	2	バイオ3D プリンタ，幹細胞技術を用いた下肢遠位動脈バイパス用小口径人工血管の開発	0
助　教	高橋　佑弥	榊原記念財団	第22回（2024年度）榊原記念研究助成金	1	心房細動患者における心房筋の DNA 損傷と細胞形態学的変化，機能変化，遺伝子発現の関連性―心房筋生検による組織学的検証―	2,000

学術（学会）賞

職　名	氏　名	学術（学会）賞名	受　賞　課　題
特任教授	田中　敦史	日本動脈硬化学会第19回五島雄一郎賞	動脈硬化性疾患およびその危険因子に対する先制医療の実践と包括的治療戦略の確立を目指して
特任教授	田中　敦史	第36回中冨健康科学振興財団研究助成，2024	心不全入院患者における身体・運動機能を科学する：次世代型心不全管理プログラムの確立へ向けて
特任教授	田中　敦史	令和 6 年度日本高血圧学会第14回学術賞，2024	循環器代謝症候群に対する医師衆生型臨床試験の実践と先制医療への応用
医　員	吉岡　吾郎	第36回日本心血管インターベンション治療学会 九州・沖縄地方会 Imaging Award 最優秀賞	上肢の Buerger-Like Disease 症例で，橈骨動脈の Lotus Root-Like Appearance を観察した一例
医　員	枝吉　　誠	第137回日本循環器学会九州地方会 Case Report Award 優秀	心房筋生検により確定診断に至った心房限局性リンパ球性心筋炎の 1 例
医　員	嘉村　朋顕	第37回 CVIT 九州沖縄地方会 YIA 最優秀賞（臨床研究）	佐賀県内における下大静脈フィルター（IVCF）留置の変遷：多施設レジストリーデータ

腎臓内科

症例報告

1 *Atsuhiko Suenaga, Naoki Sawa, Yuki Oba, Daisuke Ikuma, Akinari Sekine, Masayuki Yamanouchi, Eiko Hasegawa, Hiroki Mizuno, Tatsuya Suwabe, Kei Kono, Keiichi Kinowaki, Kenichi Ohashi, Motoaki Miyazono, Yutaka Yamaguchi, Noriko Uesugi, Yoshifumi Ubara: Is Podocytopathy Associated with Gross Hematuria after COVID-19 Vaccination in Patients with Immunoglobulin A Nephropathy?. Intern Med2024 Oct 15; 63(20): 2821-2825. doi: 10.2169/internalmedicine. 3247-23, Epub 2024, Feb 26.

2 福田　誠，野中枝理子，池田裕貴，山﨑政虎，宮園素明：症例による透析患者の画像診断 診断と治療に難渋した calciphylaxis の 1 例．臨床透析（0910-5808）40巻10号 Page1344-1349，2024，9.

学会発表

国内全国規模の学会

1 宮園素明，池田裕貴，山﨑政虎，吉原万貴，野中枝理子，橋本優香，力久哲郎，案浦麻梨奈，藤井真子，小野桃子，福田　誠：ウルトラファインバブル技術を応用した新規血液酸素化法の開発．日本透析学会．2024，6，7-9.

2 福田　誠，大庭悠貴，山内真之，諏訪部達也，澤　直樹，宮園素明，乳原善文：AL-amyloidosis による Immobilization osteoporosis 症例の骨形態計測評価．日本骨形態計測学会．2024，6，21-23.

3 *小野桃子，福田　誠，藤井真子，案浦麻梨奈，力久哲郎，橋本優香，野中枝理子，池田裕貴，山﨑政虎，吉原万貴，宮園素明：左鎖骨下静脈長期留置カテーテルが有効であった 1 例．日本透析学会．2024，6，7-9.

4 山﨑政虎，小野桃子，藤井真子，案浦麻梨奈，力久哲郎，橋本優香，野中枝理子，池田裕貴，福田誠，吉原万貴，宮園素明：心筋梗塞後の急性腎不全に対して血液透析を行い，集学的治療 3 ヵ月後に透析を離脱しえた 1 例．日本透析学会．2024，6，7-9.

5 *案浦麻梨奈，福田　誠，小野桃子，藤井真子，力久哲郎，橋本優香，野中枝理子，池田裕貴，山﨑政虎，吉原万貴，武下　剛，江頭秀哲，武居晋，宮園素明：透析患者の骨盤内膿瘍に対して経臀部 CT ガイド下ドレナージが有効であった一例．日本透析学会．2024，6，7-9.

6 吉原万貴，小野桃子，藤井真子，案浦麻梨奈，力久哲郎，野中枝理子，橋本優香，池田裕貴，山﨑政虎，福田　誠，宮園素明：ループス腎炎（LN）に免疫吸着療法（IAPP）を施行し，治療が奏功した 3 症例．日本透析学会．2024，6，7-9.

7 *藤井真子，福田　誠，小野桃子，安浦麻梨奈，力久哲郎，橋本優香，野中枝理子，池田裕貴，山﨑政虎，吉原万貴，宮園素明：Mycobacterium fortuitum による遺残グラフト感染の 1 例．日本透析学会．2024，6，7-9.

8 *力久哲郎，小野桃子，藤井真子，案浦麻梨奈，橋本優香，野中枝理子，山﨑政虎，池田裕貴，福田誠，吉原万貴，宮園素明：数値流体解析を用いて評価するシャント血流．日本透析学会．2024，6，7-9.

9 福田　誠，力久哲郎，山下由希，野中枝理子，平田早恵，池田裕貴，山﨑政虎，吉原万貴，伊藤学，宮園素明：数値流体解析を用いたシャント血流の可視化．日本腎臓学会．2024，6，28-30.

10 小林理紗，松岡　華，深村　光，荒木敬裕，野中枝理子，池田裕貴，山﨑政虎，平田早恵，福田

誠，吉原万貴，山本徒子，横山正俊，宮園素明：難治性ネフローゼ症候群合併妊娠に対してヘパリン皮下注を行った1例．日本腎臓学会．2024，6，28-30.

11 澁木祥太，小林理紗，松岡　華，荒木敬裕，深村　光，野中枝理子，池田裕貴，山﨑政虎，平田早恵，福田　誠，吉原万貴，木村晋也，宮園素明：Ibrutinibが著効した慢性リンパ性白血病（CLL）に伴うイムノタクトイド糸球体症（ITG）の1例．日本腎臓学会．2024，6，28-30.

12 伊藤優宏，小林理紗，松岡　華，荒木敬裕，深村　光，野中枝理子，山﨑政虎，池田裕貴，平田早恵，福田　誠，吉原万貴，林　奈宜，蒲原啓司，宮園素明：腹痛，嘔気を初発症状とし，急性腎障害を契機に診断された大動脈解離Stanford Bの一例．日本腎臓学会．2024，6，28-30.

13 平田早恵，水田将人，小林雄彦，藤井真子，力久哲郎，松本圭一郎，福田　誠，中村　恵，宮園素明：H. Pylori感染を合併したIgA血管炎に対して除菌療法が有効であった一例．日本腎臓病学会．2024，6，28-30.

14 *広松　悟，野中康徳，小野桃子，末永敦彦，池田裕貴，山﨑政虎，福田　誠，吉原万貴，青木茂久，宮園素明：顕微鏡的多発血管炎6例に対するavacopanの使用経験．日本腎臓病学会．2024，6，28-30.

15 *末永敦彦，小野桃子，広松　悟，橋本康平，野中康徳，宮園素明，藤丸拓也，森　崇寧，蘇原映誠：PKHD1遺伝子変異がADPKDの表現型に影響を与えた可能性が示唆された1例．日本腎臓病学会．2024，6，28-30.

16 深村　光，小林理紗，松岡　華，荒木敬裕，山下由希，野中枝理子，山﨑政虎，池田裕貴，平田早恵，福田　誠，吉原万貴，陣内宏紀，蒲原啓司，宮園素明：弁膜症手術により透析離脱し得た重症僧帽弁狭窄症の一症例．日本腎臓病学会．2024，6，28-30.

17 荒木敬裕，小林理紗，松岡　華，深村　光，野中枝理子，池田裕貴，山﨑政虎，平田早恵，松本圭一郎，福田　誠，吉原万貴，中村　恵，宮園素明：アメーバ腸炎を合併した顕微鏡的多発血管炎の一例．日本腎臓病学会．2024，6，28-30.

18 松岡　華，小林理紗，荒木敬裕，深村　光，荒巻芽生，野中枝理子，池田裕貴，山﨑政虎，平田早恵，福田　誠，吉原万貴，宮園素明：腎性尿崩症および電解質異常を呈したリチウム中毒の一例．日本腎臓病学会．2024，6，28-30.

19 *原口裕貴，小林理紗，松岡　華，荒木敬裕，深村　光，野中枝理子，山﨑政虎，池田裕貴，福田誠，吉原万貴，福田亜紗子，横山正俊，宮園素明：2型糖尿病を背景にBevacizumab使用中に尿蛋白が増強した子宮頸癌の一例．日本腎臓病学会．2024，6，28-30.

20 荒木敬裕，小林理紗，松岡　華，深村　光，藤田真衣，野中枝理子，池田裕貴，山﨑政虎，平田早恵，福田　誠，吉原万貴，宮園素明：原発性マクログロブリン血症による過粘稠症候群に対して二重濾過血漿交換（DFPP）を施行した一例．日本アフェレシス学会．2024，10，12-14.

21 福田　誠，力久哲郎，小林理紗，松岡　華，荒木敬裕，深村　光，山下由希，野中枝理子，池田裕貴，山﨑政虎，平田早恵，吉原万貴，伊藤　学，宮園素明：数値流体解析を用いた，透析シャント狭窄，透析シャント瘤の血流解析．日本アフェレシス学会．2024，10，12-14.

地方規模の学会

1 木村　崇，福永祐介，木塚晋輔，田中　淳，山下佳雄，野中枝理子，池田裕貴，山﨑政虎，福田誠，宮園素明：Steal症候群に対してシャント閉鎖し，対側へ新規造設した際の末梢循環評価．九州人工透析研究会．2024，12，15.

2　野中枝理子，陣内　寛，小林理紗，松岡　華，荒木敬裕，深村　光，池田裕貴，山﨑政虎，福田誠，宮園素明：単施設でのテナパノル塩酸塩によるリン管理，栄養状態の評価．九州人工透析研究会．2024，12，15.

3　*陣内　寛，陣内謙一，池田裕貴，山﨑政虎，福田　誠，宮園素明：ジフェリケファリンを用いた透析掻痒症治療の検討．九州人工透析研究会．2024，12，15.

4　松岡　華，小林理紗，荒木敬裕，深村　光，野中枝理子，山下由希，池田裕貴，山﨑政虎，福田誠，宮園素明：維持透析中に発症した壊死性筋膜炎5例の特徴．九州人工透析研究会．2024，12，15.

5　小林理紗，松岡　華，荒木敬裕，深村　光，野中枝理子，池田裕貴，山﨑政虎，福田　誠，吉原万貴，宮園素明：広範囲大動脈内血栓症による末期腎不全の1例．九州人工透析研究会．2024，12，15.

6　*藤井真子，中村　恵，松本圭一郎，力久哲郎，小林雄彦：終末期の透析継続に苦慮した1例．九州人工透析研究会．2024，12，15.

7　荒木敬裕，小林理紗，松岡　華，深村　光，澁木祥太，野中枝理子，池田裕貴，山﨑政虎，福田誠，宮園素明：総頸動脈からアプローチした透析患者に対するTAVIの一例．九州人工透析研究会．2024，12，15.

8　岸川桂子，荒木敬裕，深村　光，野中枝理子，山﨑政虎，池田裕貴，福田　誠，原野りか絵，山田信一，宮園素明：難治性右下肢疼痛に対して脊髄刺激電極埋め込み術を施行した血液透析患者の1例．九州人工透析研究会．2024，12，15.

9　池田裕貴，松岡　華，小林理紗，荒木敬裕，深村　光，野中枝理子，山﨑政虎，平田早恵，福田誠，宮園素明：DCBを用いたPTAの3ヶ月後にシャント感染を契機に胸鎖乳突筋内膿瘍，縦隔炎を併発した1例．九州人工透析研究会．2024，12，15.

10　*松本圭一郎，小林雄彦，藤井真子，力久哲郎，中村　恵，山﨑政虎，池田裕貴，福田　誠，宮園素明：当館における腹膜透析用カテーテル挿入術のまとめ．九州人工透析研究会．2024，12，15.

11　*神林眉裕里，井本　航，水田将人，金谷晶子，福成健一，宮園素明：慢性的な心嚢液貯留を認める維持透析患者へ心嚢ドレナージ行い，血圧の改善を認めた一例．九州人工透析研究会．2024，12，15.

12　*後藤憲人，案浦麻梨奈，梶原　心，橋本康平，實松麻衣，池田裕次：COVID-19罹患後に器質化肺炎を併発した末期腎不全の一例．九州人工透析研究会．2024，12，15.

13　平田早恵，澁木祥太，野中枝理子，山下由希，池田裕貴，山﨑政虎，福田　誠，吉原万貴，射場裕美子，宮園素明：腹膜透析症例のGNRIおよびNRI-JHと各栄養素の関係．九州人工透析研究会．2024，12，15.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
准教授	宮園　素明	中外製薬株式会社	学術研究助成	1	慢性腎臓病と糖尿病性腎臓病の進展抑制に向けた地域連携と透析導入に係る因子についての臨床的研究	200
准教授	宮園　素明	日本学術振興会	基盤研究(C)	1	ウルトラファインバブル技術を応用した新規血液酸素化法の開発	800

消化器内科（光学医療診療部を含む）

著　　書

1　江﨑幹宏，芥川剛至：エルシニア腸炎（第6章病原体感染などに起因する下部消化管病変）細菌性感染（急性）エルシニア腸炎．美しい画像でみる内視鏡アトラス　下部消化管　第6章　144-145，2024，11．羊土社，東京．

2　下田　良：隆起型腺腫②早期大腸癌　陥凹型（M）②．消化管画像強調内視鏡（IEE）アトラス　232-234，240-241，2024，1．文光堂，東京．

3　芥川剛至，下田　良，江﨑幹宏：C．粘膜下腫瘍／粘膜下腫瘍様病変　他臓器癌の小腸転移（悪性黒色腫）．消化器内視鏡特集十二指腸・小腸疾患アトラス，2024，4．東京医学社，東京．

4　島村拓弥，江﨑幹宏：放射線性腸炎．美しい画像でみる内視鏡アトラス　下部消化管　第8章　208-209，2024，11．羊土社，東京．

5　武富啓展，芥川剛至，江﨑幹宏：十二指腸・小腸疾患アトラス．消化器内視鏡（0915-3217）36巻4号 Page518-519，2024，4．東京医学社，東京．

6　武富啓展，江﨑幹宏：膠原線維性大腸炎．美しい画像でみる内視鏡アトラス　下部消化管　第9章　224-225，2024，11．羊土社，東京．

7　*行元崇浩，江﨑幹宏：Chapel Hill 分類．美しい画像でみる内視鏡アトラス　下部消化管　付録　臨床分類，2024，11．羊土社，東京．

8　山口太輔：消化器内視鏡診療における鎮静トピックス（1）高齢患者に対する適切な鎮静法．臨床消化器内科 Vol. 39 No. 1 P61-67，2024，1．日本メディカルセンター，東京．

原著論文

1　*Fukuda K, Mizukami K, Yamaguch D, Tanaka Y, Hashiguchi K, Akutagawa T, Shimoda R, Suzuki S, Miike T, Sumida Y, Maeda H, Sasaki F, Gushima R, Miyamoto H, Hashiguchi K, Yamaguchi N, Ohira T, Kinjo T, Ohnita K, Moriyama T, Ohtsu K, Aso A, Ogawa R, Ueo T, Fukuda M: Analysis of clinicopathological factors associate with the visibility of early gastric cancer in endoscopic examination and usefulness of linked color imaging: A multicenter prospective study. PLoS One 2024 Nov 5; 19(11): e0312385. doi:10.1371/journal.pone.0312385, 2024, 11.

2　*Hotta K, Otake Y, Yamaguchi D, Shimodate Y, Hanabata N, Ikematsu H, Yabuuchi Y, Sano Y, Shimoda R, Sugimoto S, Oba M, Takamaru H, Kimura K, Kishida Y, Takada K, Ito S, Imai K, Ho-

sotani K, Murano T, Yamada M, Shinmura K, Takezawa R, Tomonaga M, Saito Y: Comparison of the efficacy and tolerability of elobixibat plus sodium picosulfate with magnesium citrate and split-dose 2-L polyethylene glycol with ascorbic acid for bowel preparation before outpatient colonoscopy: a study protocol for the multicentre, randomised, controlled E-PLUS trial. BMC Gastroenterol. 2024 Feb 3; 24(1): 61. doi: 10.1186/s12876-024-03146-6, 2024, 2.

3 *Ichijima R, Ikehara H, Ono H, Hotta K, Yamaguchi D, Esaki M, Minoda Y, Nagata Y, Ogura K, Kiriyama S, Sumiyoshi T, Kanmura Y: Randomized Controlled Trial of Remimazolam Compared with Placebo in Japanese Patients Undergoing Colonoscopy: A Phase III, Investigator-Initiated Trial. Digestion.105: 448-456, 2024.

4 *Ichijima R, Ikehara H, Yamaguchi D, Nagata Y, Ogura K, Esaki M, Minoda Y, Ono H, Maeda Y, Kiriyama S, Sumiyoshi T, Kanmura Y, Gotoda T: Randomized controlled trial of remimazolam compared with placebo in Japanese patients undergoing upper gastrointestinal endoscopy: Phase III investigator-initiated clinical trial. Digestive Endoscopy. 36: 995–1002, 2024, 9.

5 *Kato M, Ono S, Kawada K, Dohi O, Kitamura S, Koike T, Hori S, Kanzaki H, Murao T, Yagi N, Sasaki F, Hashiguchi K, Oka S, Katada K, Shimoda R, Mizukami K, Suehiro M, Takeuchi T, Katsuki S, Tsuda M, Naito Y, Kawano T, Haruma K, Mori K, Ishikawa H: Diagnostic performance of linked color imaging for gastric cancer by Helicobacter pylori infection status: A subanalysis of the large-scale, multicenter randomized controlled trial LCI-FIND. Helicobacter. 2024 Mar-Apr; 29(2): e13080. doi: 0.1111/hel.13080, 2024, 3.

6 *Maehara K, Esaki M, Sumida Y, Yamaguchi D, Nishioka K, Homma H, Inada T, Shiotsuki K, Fukuda SI, Akiho H, Nomura T, Mizuta Y, Ishida S, Fujimoto S, Kimura S, Tanaka Y, Hata K, Shiga N, Iwasa T, Kimura Y, Nakamura N, Suzuki Y, Minoda Y, Hata Y, Ogino H, Tagawa K, Ihara E, Ogawa Y: Comparison of hemostatic ability between spray coagulation and forced coagulation modes in endoscopic submucosal dissection in patients with early gastric neoplasms: a study protocol for multicenter randomized controlled trial (Spray-G trial). Trials. 25: 53. Trials. 2024 Jan 15; 25(1): 53, 2024, 1.

7 *Makuuchi M, Kakuta Y, Umeno J, Fujii T, Takagawa T, Ibuka T, Miura M, Sasaki Y, Takahashi S, Nakase H, Kiyohara H, Tominaga K, Shimodaira Y, Hiraoka S, Ueno N, Yanai S, Yoshihara T, Kakimoto K, Matsuoka K, Hayashi R, Nanjo S, Iwama I, Ishiguro Y, Chiba H, Endo K, Kagaya T, Fukuda T, Sakata Y, Kudo T, Takagi T, Takahashi K, Naganuma M, Shinozaki M, Ogata N, Tanaka H, Narimatsu K, Miyazaki H, Ishige T, Onodera M, Hashimoto Y, Nagai H, Shimoyama Y, Naito T, Moroi R, Shiga H; Post-MENDEL study group; Kinouchi Y, Andoh A, Hisamatsu T, Masamune A: Real-world NUDT15 genotyping and thiopurine treatment optimization in inflammatory bowel disease: a multicenter study. J Gastroenterol. 59(6): 468-482. doi: 10.1007/s00535-024-02099-7, 2024, 6.

8 *Minakata N, Ikematsu H, Kiyomi F, Inoue S, Akutagawa T, Watanabe T, Yano T, Shimoda R: Usefulness of virtual scale endoscope for early gastrointestinal lesions. DEN Open. 2024 Jun 18; 5(1): e386. doi: 10.1002/deo2.386, 2024, 6.

9 *Murata M, Sugimoto M, Ueshima S, Nagami Y, Ominami M, Sawaya M, Nakatani Y, Furumoto Y,

Dohi O, Sumiyoshi T, Fukuzawa M, Tsuji S, Miyahara K, Takeuchi Y, Suzuki S, Tominaga N, Yagi N, Osawa S, *Sakata Y, Yamada T, Yoshizawa Y, Yamauchi A, Yamamura T, Orihara S, Miyamoto S, Matsuda S, Hira D, Terada T, Katsura T, Gotoda T, Fujishiro M, Kawai T: Association of direct oral anticoagulant and delayed bleeding with pharmacokinetics after endoscopic submucosal dissection. Gastrointest Endosc. 99(5): 721-731. e4. doi: 10.1016/j.gie, 2024, 5.

10 *Nakase H, Wagatsuma K, Kobayashi T, Matsumoto T, Esaki M, Watanabe K, Kunisaki R, Takeda T, Arai K, Ibuka T, Ishikawa D, Matsuno Y, Sakuraba H, Ueno N, Yokoyama K, Saruta M, Hokari R, Yokoyama J, Tamano S, Nojima M, Hisamatsu T; MEFV-IBDU Group: Involvement of Mediterranean fever gene mutations in colchicine-responsive enterocolitis: a retrospective cohort study. EBioMedicine2024 Dec: 110: 105454, 2024, 12.

11 *Nishikawa Y, Horimatsu T, Oka S, Yamada T, Mitsui K, Yamamoto H, Takahashi K, Shiomi A, Hotta K, Takeuchi Y, Kuwai T, Ishida F, Kudo SE, Saito S, Ueno M, Sunami E, Yamano T, Itabashi M, Ohtsuka K, Kinugasa Y, Matsumoto T, Sugai T, Uraoka T, Kurahara K, Yamaguchi S, Kato T, Okajima M, Kashida H, Fujita F, Ikematsu H, Ito M, Esaki M, Kawai M, Yao T, Hamada M, Koda K, Fukai Y, Komori K, Saitoh Y, Kanemitsu Y, Takamaru H, Yamada K, Nozawa H, Takayama T, Togashi K, Shinto E, Torisu T, Toyoshima A, Ohmiya N, Kato T, Otsuji E, Nagata S, Hashiguchi Y, Sugihara K, Ajioka Y, Tanaka S: Outcomes of Metastatic and Unresectable Small Bowel Adenocarcinoma in Japan According to the Treatment Strategy: A Nationwide Observational Study. JCO Glob Oncol 10: e2300392, 2024, 2.

12 *Naganuma M, Nakamura N, Kunisaki R, Matsuoka K, Yamamoto S, Kawamoto A, Saito D, Kobayashi T, Nanki K, Narimatsu K, Shiga H, Esaki M, Yoshioka S, Kato S, Saruta M, Tanaka S, Yasutomi E, Yokoyama K, Moriya K, Tsuzuki Y, Ooi M, Fujiya M, Nakazawa A, Takagi T, Omori T, Tahara T, Hisamatsu T; Japanese UC Study Group: Medical treatment selection and outcomes for hospitalized patients with severe ulcerative colitis as defined by the Japanese criteria. J Gastroenterol 59(4): 302-314, 2024, 4.

13 *Nakajima Y, Nemoto D, Guo Z, Boyuan P, Ruiyao Z, Katsuki A, Takezawa T, Maemoto R, Kawasaki K, Inoue K, Akutagawa T, Tanaka H, Sato K, Omori T, Hayashi Y, Miyakura Y, Matsumoto T, Yoshida N, Esaki M, Uraoka T, Kato H, Inoue Y, Yamamoto H, Zhu X, Togashi K: Differences in regions of interest to identify deeply invasive colorectal cancers: Computer-aided diagnosis vs expert endoscopists. Endosc Int Open. Nov 7; 12(11): E1260-E1266, 2024, 11.

14 *Ogura K, Ichijima R, Ikehara H, Sugita T, Yamaguchi D, Nagata Y, Esaki M, Minoda Y, Ono H, Hotta K, Kiriyama S, Sumiyoshi T, Kanmura Y: Comparison of remimazolam and midazolam for sedation during colonoscopy in Japanese patients: A propensity score matching analysis. DEN Open. 5: e412. doi: 10.1002/deo2.412. eCollection 2025 Apr, 2024, 7.

15 Yamaguchi D, Ishida S, Gondo K, Nomura T, Yamaguchi A, Asahi R, Mizuta Y, Nagatsuma G, Fukami S, Kimura S, Fujimoto S, Shimakura A, Jubashi A, Takeuchi Y, Ikeda K, Tanaka Y, Yoshioka W, Hino N, Morisaki T, Ario K, Tsunada S: Management of Antithrombotic Agents During Emergency Endoscopy for Upper Gastrointestinal Bleeding: A Propensity Score Matching Analysis. GastroHep doi.org/10.1155/2024/7561793, 2024, 1.

16 *Yamashita K, Oka S, Yamada T, Mitsui K, Yamamoto H, Takahashi K, Shiomi A, Hotta K, Takeuchi Y, Kuwai T, Ishida F, Kudo SE, Saito S, Ueno M, Sunami E, Yamano T, Itabashi M, Ohtsuka K, Kinugasa Y, Matsumoto T, Sugai T, Uraoka T, Kurahara K, Yamaguchi S, Kato T, Okajima M, Kashida H, Akagi Y, Ikematsu H, Ito M, Esaki M, Kawai M, Yao T, Hamada M, Horimatsu T, Koda K, Fukai Y, Komori K, Saitoh Y, Kanemitsu Y, Takamaru H, Yamada K, Nozawa H, Takayama T, Togashi K, Shinto E, Torisu T, Toyoshima A, Ohmiya N, Kato T, Otsuji E, Nagata S, Hashiguchi Y, Sugihara K, Ajioka Y, Tanaka S: Clinicopathological features and prognosis of primary small bowel adenocarcinoma: a large multicenter analysis of the JSCCR database in Japan. J Gastroenterol 59(5); 376-388, 2024, 5.

17 Yamaguchi D, Shimoda R, Miyahara K, Yukimoto T, Sakata Y, Takamori A, Mizuta Y, Fujimura Y, Inoue S, Tomonaga M, Ogino Y, Eguchi K, Ikeda K, Tanaka Y, Takedomi H, Hidaka H, Akutagawa T, Tsuruoka N, Noda T, Tsunada S, Esaki M: Impact of an artificial intelligence-aided endoscopic diagnosis system on improving endoscopy quality for trainees in colonoscopy: Prospective, randomized, multicenter study. Dig Endosc 36(1): 40-48, 2024, 1.

18 *Yoshida N, Hayashi Y, Togo D, Oka S, Takada K, Fukunaga S, Morita Y, Hayashi T, Kozuka K, Tsuji Y, Murakami T, Yamamura T, Komeda Y, Takeuchi Y, Shinmura K, Fukuda H, Yoshii S, Ono S, Katsuki S, Kawashima K, Nemoto D, Yamamoto H, Saito Y, Tamai N, Iwao A, Itoi Y, Tsuji S, Inagaki Y, Inada Y, Soga K, Hasegawa D, Murakami T, Yoriki H, Fukumoto K, Motoyoshi T, Nakatani Y, Sano Y, Iguchi M, Fujii S, Ban H, Harada K, Okamoto K, Nishiyama H, Sasaki F, Mizukami K, Shono T, Shimoda R, Mike T, Yamaguchi N: An Analysis of Delayed Bleeding in Cases of Colorectal Endoscopic Submucosal Dissection Due to Types of Direct Oral Anticoagulants in Japan. Clin Gastroenterol Hepatol 22; 271-282: 2024, 2024, 2.

19 Yamaguchi D, Tominaga N, Mori G, Yasuda T, Yukimoto T, Minoda Y, Miyahara K, Ohtsu K, Ito Y, Yamanouchi K, Gondo K, Nomura T, Tanaka Y, Tomonaga M, Esaki M, Shimamura T, Takeuchi Y, Esaki M: Efficacy and safety of endoscopic hemostasis with a self-assembling peptide solution in patients with colonic diverticular bleeding: a multicenter pilot study (with video). Gastrointest Endosc. S0016-5107(24)03687-3, 2024, 11.

総　説

1 芥川剛至，下田　良，江﨑幹宏，青木茂久：粘膜下腫瘍／粘膜下腫瘍様病変 他臓器癌の小腸転移（悪性黒色腫）．消化器内視鏡 36巻４号 pp534-535，2024，4.

2 江﨑幹宏：クローン病における内視鏡の位置付け．日本大腸肛門病学会雑誌 77巻10号 pp508-514，2024，10.

3 江﨑幹宏：クローン病肛門病変診療の Up To Date－内科医・外科医 共通の課題に挑む！ 内科医からみた肛門病変の重要性～肛門病変は予後不良因子？～．IBD Research 18巻４号 pp20-24，2024，12.

4 江﨑幹宏：炎症性腸疾患の診断と治療－現状と課題．胃と腸 59巻10号 pp1319-1322，2024，10.

5 江﨑幹宏，芥川剛至，武富啓展，荻野祐也，貞島健人，島村拓弥，鶴岡ななえ：小腸疾患診療における内視鏡の役割．臨床消化器内科 39巻12号 pp1477-1483，2024，10.

6 江﨑幹宏：虚血性腸病変を整理する．胃と腸 59巻７号 pp915-917，2024，7.

7　江﨑幹宏：Crohn 病 内視鏡所見による分類．胃と腸 59巻 4 号 pp578-580，2024，4.

8　○坂田資尚，江﨑幹宏：Crohn 病の内視鏡診療 内視鏡による治療効果の判定と再燃予測．消化器内視鏡 36巻11号 pp1532-1535，2024，11.

9　○坂田資尚，江﨑幹宏：非感染性腸炎の由来から見極める 薬剤や治療によりきたす医原性の腸炎．診断と治療 112巻 3 号 pp284-288，2024，3.

10　武富啓展，芥川剛至，江﨑幹宏：粘膜下腫瘍／粘膜下腫瘍様病変 炎症性線維性ポリープ．消化器内視鏡 36巻 4 号 pp518-519，2024，4.

11　鶴岡ななえ，江﨑幹宏：治療法の再整理とアップデートのために 専門家による私の治療 好酸球性胃腸炎．日本医事新報（0385-9215）5239号 Page46-47，2024，9.

12　*松本主之，久松理一，江﨑幹宏，大森鉄平，櫻庭裕丈，新崎信一郎，杉本　健，竹中健人，長沼誠，馬場重樹，久部高司，平岡佐規子，藤谷幹浩，松浦　稔，柳井俊一，渡辺憲治，緒方晴彦，安藤　朗，仲瀬裕志，大塚和朗，平井郁仁，藤城光弘，五十嵐良典，田中信治：炎症性腸疾患内視鏡診療ガイドライン．Gastroenterological Endoscopy 66巻 6 号 pp1387-1426，2024，6.

13　*森　悠一，石原　立，緒方晴彦，久津見弘，斎藤　豊，炭山和毅，関口正宇，田尻久雄，藤城光弘，松田浩二，矢野友規，青木利佳，石山美咲，今川　敦，大前雅実，尾田　恭，加藤元彦，坂本　琢，笹部真亜沙，塩谷昭子，鈴木志保，玉井尚人，引地拓人，平澤俊明，牧口茉衣，三澤将史，籔内洋平，山口太輔，山田真善，五十嵐良典，田中信治：内視鏡 AI に関するポジションステートメント．日本消化器内視鏡学会雑誌 66巻10号 p. 2499-2508，2024，1.

14　*溝口充志，池内浩基，高木智久，江﨑幹宏：IBD の謎から未来に繋げる（座談会）．消化器病サイエンス 8 巻 1 号 pp1-9，2024，3.

15　坂田資尚，江﨑幹宏：内視鏡による治療効果の判定と再燃予測．消化器内視鏡 36巻11号 p1532-1535，2024，11.

16　坂田資尚，江﨑幹宏：薬剤や治療によりきたす医原性の腸炎．診断と治療 112巻 3 号 p284-288，2024，3.

17　*藤城光弘，井口幹崇，小野敏嗣，舩坂好平，坂田資尚，三上達也，片岡幹統，島岡俊治，道田知樹，五十嵐良典，田中信治：非静脈瘤性上部消化管出血における内視鏡診療ガイドライン（第 2 版）．Gastroenterological Endoscopy 66巻 7 号 p1515-1538，2024，7.

症例報告

1　芥川加代，芥川剛至，岡田倫明，渡邉　聡，後藤祐大，森　大輔，江﨑幹宏：ミノドロン酸による薬剤起因性食道炎の 1 例．Gastroenterological Endoscopy 66巻 2 号 pp144-150，2024，2.

2　*井原勇太郎，梅野淳嗣，保利喜史，谷口義章，川床慎一郎，藤原美奈子，川崎啓祐，鳥巣剛弘，江﨑幹宏，北園孝成：遺伝子異常を背景とした胃神経内分泌主要（NET）の 1 例．胃と腸 59巻 5 号 pp747-756，2024，5.

3　*鳥巣剛弘，河野真一，清森亮祐，川床慎一郎，谷口義章，川崎啓祐，梅野淳嗣，江﨑幹宏，森山智彦：クリオグロブリン血症性血管炎の 1 例．胃と腸 59巻 7 号 pp995-999，2024，7.

4　Takedomi H, Fukuda K, Inoue S, Tsuruoka N, Sakata Y, Aoki S, Esaki M: Combined eosinophilic gastroenteritis and ulcerative colitis successfully treated by vedolizumab: a case report. Intest Res [online ahead of print], 2024, 8.

5　*Takeuchi Y, Miyahara K, Yamaguchi D, Shirozu M, Morita R, Nakayama K, Noda T: Self-assem-

bling peptide improves the efficacy and safety of endoscopic band ligation for colonic diverticular bleeding. Endoscopy International Open. 12: E1160-E1161, 2024, 10.

6 Yamaguchi D, Tanaka Y, Nomura T: Over‐the‐scope clip rescue method of endoscopic hemostasis for severe acute colonic diverticular bleeding. Digestive Endoscopy. 36 :506-507, 2024, 4.

学会発表

国際規模の学会

1 Esaki M, Omori T, Watanabe K, Sagami S, Takeda T, Takedomi H, Umeno J, Torisu T, Yamamoto S, Fujiya M, Shiga H, Hayashida M, Koyama F, Kanmura S, Matsuoka K, Kobayashi T, Nagahori M, Takeuchi K, nakase H, Hirai F, Matsumoto T, Hisamatsu T: Interim analysis of prospective multicenter observational study for the assessment of postoperative recurrence in Crohn's disease with the combination of small bowel capsule endoscopy and ileocolonoscopy in Japan (J-PROSPECT study). Digestive Disease Week 2024, 2024, 5, 18-21.

2 Hironobu Takedomi, Satoshi Nunomura, Yasuhiro Nanri, Yuko Honda, Yasuhisa Sakata, Shinichi Aishima, Motohiro Esaki, Kenji Izuhara: USEFULNESS OF PERIOSTIN AS A BIOMARKER TO CLASSIFY A SUBGROUP OF ULCERATIVE COLITIS DOMINANT IN TYPE 2 INFLAMMATION. Digestive Disease Week 2024, 2024, 5, 18-21.

3 Kento Sadashima, Yuya Ogino, Hironobu Takedomi, Nanae Tsuruoka, Yasuhisa Sakata, Ayako Takamori, Motohiro Esaki: DEVELOPMENT OF CAPSULE ENDSCOPY SCORING SYSTEM FOR THE EARLY DIAGNOSIS OF SMALL BOWEL CROHN'S DISEASE. Digestive Disease Week 2024, 2024, 5, 18-21.

4 Yamaguchi D, Ryoji Ichijima R, Ikehara H, Ono H, Hotta K, Esaki M, Minoda Y, Nagata Y, Ogura K, Kiriyama S, Sumiyoshi T, Kanmura Y, Gotoda T: A PHASE III INVESTIGATOR-INITIATED RANDOMIZED CONTROLLED TRIAL COMPARING REMIMAZOLAM WITH PLACEBO IN JAPANESE PATIENTS UNDERGOING COLONOSCOPY. Digestive Disease Week 2024, 2024, 5, 18-21. GIE Volume 99, Issue 6, Supplement AB523-AB524 June 2024.

5 Yamaguchi D, Tominaga N, Mori G, Yasuda T, Yukimoto T, Minoda Y, Miyahara K, Ohtsu K, Ito Y, Yamanouchi K, Gondo K, Nomura T, Tanaka Y, Tomonaga M, Esaki M, Shimamura T, Takeuchi Y, Esaki M: Efficacy and safety of endoscopic hemostasis with a self-assembling peptide solution in patients with colonic diverticular bleeding: A multicenter pilot study. ENDO2024, 2024, 7, 4-6.

6 N. Tsuruoka, H. Takedomi, Y. Sakata, S. Fujioka, R. Sakemi, S. Ashizuka, N. Nishimata, T. Kinjyo, Y. Furuta, S. Yoshioka, A. Takamori, M. Esaki: CURRENT STATUS OF LATENT TUBERCULOSIS INFECTION IN PATIENTS WITH INFLAMMATORY BOWEL DISEASE IN JAPAN. United European Gastroenterology week Vienna 2024, 2024, 10, 12-15. Gastroenterology ueg journal, volume12(Issue S8) p894: ISSN2050-6414.

7 Shimoda R, Yamaguchi D, *Masashi Fujii et al: Evaluation of improvement of colonoscopy insertion technique in trainee using the mikoto colonoscopy model: An international multicenter study protocol. Asian Pacific Digestive Week APDW 2024, 2024, 11, 21-24. J Gastroenterol Hepatol 39; Issue52, 182-487.

8　Yamaguchi D, Ichijima R, Ikehara H, Minoda Y, Esaki M, Takamori A, Fujimura Y, Shimoda R, Esaki M: Comparative study protocol on the efficacy of remimazolam and midazolam in endoscopic sedation in Japan. Asian Pacific Digestive Week APDW 2024, 2024, 11, 21-24.

9　Yamaguchi D, Gondo K, Saito N, Takeuchi M, Daian M, Soda H, Furukawa F, Tonai M, Takamori I, Nomura T, Fukami S, Kimura S, Tanaka Y, Hino N, Ario K, Tsunada S, Shimoda R, Esaki M: Comparison of in-hospital and home-administration of bowel preparation agent before outpatient colonoscopy in elderly patients. Asian Pacific Digestive Week 2024 APDW, 2024, 11, 21-24.

国内全国規模の学会

1　下田　良：大腸内視鏡スクリーニングとサーベイランスを踏まえた大腸前処置法．第20回日本消化管学会総会学術集会ランチョンセミナー．2024，2，9-11（会場開催＋オンライン開催）2024，2，15-3，13（オンデマンド配信）．

2　*島田不律，山内康平，中村昌太郎：リンパ節転移を認めた石灰化を伴う直腸神経内分泌腫瘍の1例．第20回日本消化管学会総会学術集会．2024，2，9-11（会場開催＋オンライン開催）2024，2，15-3，13（オンデマンド配信）．

3　島村拓弥，犬尾和子，行元崇浩，鶴岡ななえ，高守史子，江﨑幹宏：結腸憩室出血に対するきゅう膠艾湯の出血予防効果にた関する後方視的検討．第20回日本消化管学会総会学術集会．2024，2，9-11（会場開催＋オンライン開催）2024，2，15-3，13（オンデマンド配信）．

4　*西田大輝，芥川剛至，藤田真衣，沖井詩織，水田優実，島村拓弥，行元崇浩，相島慎一，江﨑幹宏：CT を契機に発見された消化管 AL 型アミロイドーシスの一例．第20回日本消化管学会総会学術集会．2024，2，9-11（会場開催＋オンライン開催）2024，2，15-3，13（オンデマンド配信）．

5　水田優実，芥川剛至，沖井詩織，島村拓弥，行元崇浩，石田知也，青木茂久，下田　良，江﨑幹宏：当院における下咽頭表在癌に対する消化器・耳鼻科合同治療の現状．第20回日本消化管学会総会学術集会．2024，2，9-11（会場開催＋オンライン開催）2024，2，15-3，13（オンデマンド配信）．

6　犬尾和子，島村拓弥，芥川剛至，行元崇浩，鶴岡ななえ，下田　良，江﨑幹弘：潰瘍性大腸炎に合併したサイトメガロウイルス腸炎の治療中に急性肺障害を来たした1例．第20回日本消化管学会総会学術集会．2024，2，9-11（会場開催＋オンライン開催）2024，2，15-3，14（オンデマンド配信）．

7　江﨑幹宏：カプセル内視鏡を用いた炎症性腸疾患診療の展望．第17回日本カプセル内視鏡学会．2024，2，9-11（会場開催＋オンライン開催）2024，2，15-3，13（オンデマンド配信）．

8　山口太輔，冨永直之，森　源喜，安田剛士，蓑田洋介，行元崇浩，宮原貢一，大津健聖，伊東陽一郎，山内康平，権藤佳澄，野村忠洋，田中雄一郎，朝長道人，江崎　充，島村拓弥，竹内祐樹：大腸憩室出血におけるピュアスタットを用いた内視鏡的止血術の有効性と安全性について．第20回日本消化管学会総会学術集会．2024，2，9-11（会場開催＋オンライン開催）2024，2，15-3，13（オンデマンド配信）．

9　*阿部日向子，行元崇浩，芥川剛至，鶴岡ななえ，石田知也，青木茂久，杉田和成，江﨑幹宏：咽頭痛を契機に受診され診断に苦慮した増殖性天疱瘡の1例．第20回日本消化管学会総会．2024，2，9-11（会場開催＋オンデマンド配信）2024，2，15-3，13（オンデマンド配信）．

10　沖井詩織，芥川剛至，水田優実，武富啓展，鶴岡ななえ，坂田資尚，青木茂久，真鍋達也，江﨑幹宏：当科における潰瘍性大腸炎関連大腸腫瘍についての検討．第20回日本消化管学会総会．2024，2，9-11（会場開催＋オンデマンド配信）2024，2，15-3，13（オンデマンド配信）．

11　Takuya Shimamura, Hiroo Katsuya, Takahiro Yukimoto, Haruhiko Sano, Naoko Aragane, Shinya Kimura, Motohiro Esaki: Factors associated with severity of immune-checkpoint inhibitors-related colitis in patients with advanced malignancies. JSMO2024. 2024，2，22–24（会場開催＋オンライン開催）2024，3，1–29（オンデマンド配信）.

12　芥川剛至，武富啓展，鶴岡ななえ，坂田資尚，青木茂久，江﨑幹宏：当院における潰瘍性大腸炎患者に発生した sporadic neoplasia のマネージメント．第107回日本消化器内視鏡学会総会．2024，5，30–6，1（会場開催＋オンライン開催）2024，6，3–7，31（オンデマンド配信）.

13　江﨑幹宏：クローン病の病態に応じた治療戦略に関するエビデンス．第110回日本消化器病学会総会．2024，5，9–11（会場開催，ライブ配信なし）.

14　江﨑幹宏：スキリージに期待するクローン病治療の役割．第110回日本消化器病学会総会ランチョンセミナー．2024，5，9–11（会場開催，ライブ配信なし）.

15　江﨑幹宏：小腸および大腸の虚血性腸病変．第110回日本消化器病学会総会ポストグラデュエートコース．2024，5，20–6，28（オンデマンド配信のみ）.

16　山口太輔，福田健介，橋口一利，下田　良，隅田頼信，三池　忠，佐々木文郷，具嶋亮介，橋口慶一，金城　徹，大仁田賢，大津健聖，麻生　暁，上尾哲也，水上一弘，小川　竜，芥川剛至，鈴木翔，前田英仁，直江秀昭，宮本英明，山口直之：上部消化管内視鏡検査における胃癌検出を低下させる因子の検討と LCI 併用に伴う検出能上昇の検証 LCI.com study －GI-Kyushu における多施設前向き研究－．第110回日本消化器病学会総会．2024，5，9–11（会場開催，ライブ配信なし）.

17　鶴岡ななえ，坂田資尚，垣内俊彦：若年者除菌その後 Helicobacter pylori 除菌療法成功後に発見された若年発症進行胃癌の一例．第30回日本ヘリコバクター学会学術集会．2024，6，21–22（会場開催）2024，7，8–31（オンデマンド配信）.

18　江﨑幹宏：UC 診療に関する Tofacitinib の最新エビデンス．第45回日本炎症・再生医学会教育講演．2024，7，17–18（会場開催）.

19　江﨑幹宏：炎症性腸疾患内視鏡診療ガイドラインのポイント．第24回臨床消化器病研究会ランチョンセミナー．2024，8，3（会場開催＋オンライン開催）.

20　武富啓展，鶴岡ななえ，坂田資尚，青木茂久，江﨑幹宏：ベドリズマブが奏功した潰瘍性大腸炎に合併した好酸球性胃腸炎の 1 例．第 7 回アレルギー消化器疾患研究会．2024，9，7（オンライン開催）.

21　*遠藤広貴，水口昌伸，藤本一眞，鶴岡ななえ，坂田資尚，下田　良，中原　伸，朝長道生，松本洋二，野田隆博，後藤祐大，梶原哲郎，原田良策，森山幹夫，下田悠一郎，緒方伸一，江﨑幹宏：佐賀県対策型胃内視鏡検診導入 6 年目（令和 4 年度）の結果報告．第53回日本消化器がん検診学会九州地方会．2024，9，28（会場開催）.

22　山口太輔，日野直之，深水翔大：噴門側胃切除術，double tract 再建後の総胆管結石に対してスライディングチューブアシスト法にて結石除去が可能であった一例．第60回日本胆道学会学術集会．2024，10，10–11（会場開催）2024，10，24–12，24（オンデマンド配信）.

23　*日野直之，深水翔大，山口太輔：胆管プラスチックステントのサイドフラップが誘引となった仮性動脈瘤の一例．第60回日本胆道学会学術集会．2024，10，10–11（会場開催）2024，10，24–12，24（オンデマンド配信）.

24　*深水翔大，日野直之，山口太輔：SSPPD 後の巨大肝内結石に対して バルーン内視鏡併用による超

細径内視鏡を用いた経口直接胆道鏡下 EHL で結石破砕が可能であった一例．第60回日本胆道学会学術集会．2024，10，10-11（会場開催）2024，10，24-12，24（オンデマンド配信）．

25　江﨑幹宏：IBD 診療における栄養療法の意義を改めて考える．第62回日本小腸学会学術集会教育講演．2024，10，19（会場開催）．

26　下田　良：大腸癌内視鏡診断・治療の現状と今後の課題．第60回日本医学放射線学会秋季臨床大会シンポジウム．2024，10，18-20（会場開催＋オンライン開催）2024，11，4-12，2（オンデマンド配信）．

27　江﨑幹宏：IBD 診断における内視鏡の鑑別ポイントとバイオマーカー．JDDW2024教育講演．2024，10，31-11，3（会場開催＋オンライン開催）2024，11，18-12，13（オンデマンド配信）．

28　江﨑幹宏：小腸狭窄を有する CD 患者への治療強化基準は何か？．JDDW2024ブレックファーストセミナー．2024，10，31-11，3（会場開催＋オンライン開催）2024，11，18-12，13（オンデマンド配信）．

29　江﨑幹宏：Multi-Option 時代におけるオンボーの位置付け．JDDW2024ランチョンセミナー．2024，10，31-11，3（会場開催＋オンライン開催）2024，11，18-12，13（オンデマンド配信）．

30　江﨑幹宏：クローン病の治療戦略－肛門病変に対するエビデンスを中心に－．第15回日本炎症性腸疾患学会学術集会イブニングセミナー．2024，11，15-16（会場開催）．

31　江﨑幹宏：潰瘍性大腸炎における Unmet Medical Needs－UC 治療の困りごと－．第15回日本炎症性腸疾患学会学術集会アフタヌーンセミナー．2024，11，15-16（会場開催）．

地方規模の学会

1　下田　良：大腸スクリーニングとサーベイランスガイドラインの要点．第37回日本消化器内視鏡学会九州セミナー．2024，1，11-25（オンデマンド配信）．

2　江﨑幹宏：UC 診療に関する Tofacitinib の最新エビデンス．第123回日本消化器病学会九州支部例会／第117回日本消化器内視鏡学会九州支部例会ランチョンセミナー．2024，6，21-22（会場開催）．

3　貞島健人：小腸カプセル内視鏡所見を用いた早期クローン病診断スコアおよび診断支援 AI 開発の現状．第123回日本消化器病学会九州支部例会．2024，6，21-22（会場開催）．

4　島村拓弥，行元崇浩，佐野晴彦，勝屋弘雄：当院での BRAF 変異陽性大腸癌治療の現状．第123回日本消化器病学会九州支部例会　シンポジウム 6．2024，6，21-22（会場開催）．

5　平野里佳，下田　良，芥川剛至，青木茂久，江﨑幹宏：EMR with OTSC：EMRO によって切除した十二指腸神経内分泌腫瘍の 1 例．第123回日本消化器病学会九州支部例会／第117回日本消化器内視鏡学会九州支部例会．2024，6，21-22（会場開催）．

6　芥川剛至，鶴岡ななえ，下田　良，江﨑幹宏：緊急消化管内視鏡診療の最前線 胃 ESD 後に予定外の内視鏡検査を必要とした症例の検討．第123回日本消化器病学会九州支部例会／第117回日本消化器内視鏡学会九州支部例会．2024，6，21-22（会場開催）．

7　山口太輔：初学者の下部消化管内視鏡診断能に AI（CAD EYE）が与える影響に迫る．第123回日本消化器内視鏡学会九州支部例会．2024，6，21-22（会場開催）．

8　*権藤佳澄，山口太輔，斉藤直美，竹内美和，大安正俊，早田　瞳，古川芙美子，藤内美枝子，高森いずみ，野村忠洋，深水翔大，木村俊一郎，田中雄一郎，日野直之，有尾啓介，綱田誠司：高齢者における外来大腸内視鏡検査前腸管洗浄液の院内服用と自宅服用の比較検討．第31回日本大腸検査学会九州支部会．2024，8，24（会場開催）．

9　Yoh A, Akutagawa T, Shirouzu M, Fujimura Y, Sadashima K, Shimamura T, Taketomi H, Yamaguchi D, Tsuruoka N, Shimoda R, Esaki M：大腸前処置におけるサルプレップ® の使用経験例. 第31回日本大腸検査学会九州支部会. 2024, 8, 24（会場開催）.

10　鶴岡ななえ, 貞島健人, 武富啓展, 芥川剛至, 坂田資尚 , 真鍋達也, 江﨑幹宏：当院におけるクローン病肛門病変の現状. 第49回日本大腸肛門病学会九州地方会. 2024, 9, 21（会場開催）.

11　江﨑幹宏：クローン病肛門病変における課題と新規薬剤の可能性. 第49回日本大腸肛門病学会九州地方会. 2024, 9, 21（会場開催）.

12　江﨑幹宏：IBD 診療における内視鏡検査の役割. 第38回日本消化器内視鏡学会九州セミナー. 2024, 10, 27収録（オンデマンド配信）.

13　芥川剛至, 武富啓展, 鶴岡ななえ, 江﨑幹宏：当院における小腸腫瘍73例の臨床的病理学的特徴と治療成績の後方視的解析. 第124回日本消化器病学会九州支部例会／第118回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 2024, 11, 15-16（会場開催）.

14　山口太輔, 行元崇浩, 冨永直之, 宮原貢一, 川久保晴洋：OTSC を用いた消化管癌内視鏡治療に対する合併症対策の現状（SAGA-OTSC registry）. 第118回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 2024, 11, 15-16（会場開催）.

15　○由比元顕, 松藤祥平, 馬場　楓, 芥川剛至, 山口太輔, 與田幸恵, 能城浩和：有鉤義歯誤飲の非手術例における留意点. 第118回日本消化器内視鏡学会九州支部例会. 2024, 11, 15-16（会場開催）.

その他の学会

1　江﨑幹宏：Crohn 病診療におけるカプセル内視鏡の位置付けと将来展望. 第324回広島胃と腸疾患研究会. 2024, 1, 6.

2　坂田資尚：慢性便秘症治療における薬剤の使い分け. 便通異常症診療ガイドライン2023インターネットライブセミナー. 2024, 1, 24.

3　江﨑幹宏：UC 治療における JAK 阻害役の位置付けを考える. 第54回福岡南・筑紫消化器病カンファレンス. 2024, 2, 16.

4　鶴岡ななえ：これからの慢性便秘症治療を考える. 佐賀県医師会学術講演会. 2024, 3, 5.

5　行元崇浩, 芥川剛至, 江﨑幹宏：大腸 症例提示. 早期胃癌研究会2024年 1 月度例会. 2024, 3.

6　坂田資尚：佐賀県における対策型内視鏡検診の現状～年次報告～. 第171回佐賀県胃癌大腸癌検診医会研修会. 2024, 3, 9.

7　山口太輔：内視鏡 AI を上手く活用するためには. 第32回好生館医学会. 2024, 3, 16.

8　坂田資尚：UC 治療の UpToDate. 第 1 回筑後消化管 Seminar. 2024, 5, 15.

9　坂田資尚：上部消化管疾患に対する漢方治療. 宇佐市消化器病懇親会. 2024, 5, 16.

10　島村拓弥：当院における胃癌一次治療での Nivolmab＋化学療法の現状. Gastric Cancer I-O web Seminar. 2024, 5, 21.

11　鶴岡ななえ：便秘治療の基本. 第84回木曜会22. 2024, 5, 24.

12　下田　良, 水口昌伸：佐賀県大腸癌検診の経年変化と最近の胃癌Ｘ線検診の状況. 第171回佐賀県胃癌・大腸癌検診医会研修会. 2024, 6, 8.

13　江﨑幹宏：カプセル内視鏡を用いた炎症性腸疾患診療の展望. 第26回 Small Bowel Club. 2024, 6, 20.

14　下田　良：胃瘻造設（PEG）の基本. Neurology オンラインセミナー～知っておきたい胃ろうの

話～．2024，6，27.

15 下田　良：大腸内視鏡診療のパラダイムシフト～過去10年間の内視鏡技術進歩と機器開発～．第20回 Wakayama Endo-Highlight Symposium．2024，7，5.

16 坂田資尚：炎症性腸疾患の最新治療について．佐賀 IBD 縁笑会．2024，7，7.

17 鶴岡ななえ：難治性 UC の薬物治療戦略．佐賀久留米 IBD カンファレンス．2024，7，24.

18 江﨑幹宏：IBD の内視鏡診断と鑑別ポイント．第 8 回 Dokkyo Endoscopy Conference．2024，7，27.

19 島村拓弥，芥川剛至，江﨑幹宏：症例提示．早期胃癌研究会 8 月度例会．2024，8，2.

20 下田　良：大腸内視鏡診療の進歩～過去10年間のバラダイムシフト～．鳥栖三養基医師会学術講演会．2024，8，19.

21 鶴岡ななえ：クローン病の診断と治療．佐賀市市民活動センター．2024，8，27.

22 武富啓展，布村　聡，南里康弘，本田裕子，横溝香奈子，芥川剛至，鶴岡ななえ，坂田資尚，川口淳，相島慎一，江﨑幹宏，出原賢治：血清ペリオスチンは２型炎症優位の潰瘍性大腸炎の層別化に有用である．第 3 回佐賀大学医学部リトリート．2024，8，25.

23 武富啓展：当院で実施した UC バイオマーカー研究について．第 5 回 IBD Circle．2024，8，31.

24 山口太輔：佐賀県内がん診療連携拠点病院におけるエンハーツの使用状況について．胃がん診療 Up to date Seminar in 佐賀．2024，9，3.

25 下田　良：大腸内視鏡スクリーニングとサーベイランスガイドライン．第 3 回 GI-Kyushu Hands-on 福岡 基調講演．2024，10，5.

26 Yoh A, Shimamura T, Akutagawa T, Taketomi H, Esaki M：十二指腸腺腫の一例．胃腸懇話会．2024，10，24.

27 白水萌子 , 貞島健人，鶴岡ななえ，江﨑幹宏：当院における内視鏡関連筋骨格系障害予防のための取り組みについて．第 2 回内視鏡関連 MSDs 予防のための人間工学的対策研究会．2024，11，3.

28 島村拓弥，芥川剛至，江﨑幹宏：胃 症例提示．早期胃癌研究会2024年11月度例会．2024，11.

29 鶴岡ななえ：女性内視鏡医のニーズ．VOICE of the Ulcerative Colitis Patients．2024，11，7.

30 島村拓弥：当院における消化管癌 irAE の現状．佐賀県 GI 薬物療法セミナー2024．2024，12，8.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
教　授	江﨑　幹宏	2024年度日本消化管学会多施設共同臨床研究助成		1	クローン病術後再発予測因子と再発予測因子モデルに関する検討－機会学習の応用を含めて－	1,000
教　授	江﨑　幹宏	一般財団法人日本消化器病学会2024年度臨床研究助成		1	クローン病術後再発予測因子と再発予測因子モデルに関する検討－機会学習の応用を含めて－	1,000
教　授	江﨑　幹宏	日本学術振興会科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	早期クローン病診断を目指した病変自動検出機器とスコアリングシステムの開発	1,560
助　教	芥川　剛至	日本学術振興会科学研究費	若手研究	1	脂肪組織－膵癌相互作用におけるIRF9の役割と臨床的相関の解析	1,430
医　員	貞島　健人	内視鏡医学研究振興財団	研究助成(B)	1	人工知能を用いたクローン病（CD）の早期診断に有用な小腸カプセル内視鏡画像検出システムの開発	500
助　教	武富　啓展	日本学術振興会科学研究費	若手研究	1	難治性炎症性腸疾患における慢性化機序解明とそれを反映するバイオマーカーの開発	910
助　教	田中　智和 伊藤孝太朗 能城　浩和 芥川　剛至	日本学術振興会科学研究費	基盤研究(C)	2	食道扁平上皮癌に対する蛋白ファルネシル化に着目した新規治療開発に向けた基礎的研究	910
助　教	山口　太輔	特定臨床研究		1	消化管内視鏡検査におけるレミマゾラムとミダゾラムの鎮静効果の比較試験（RECOVER study）	3,192
助　教	山口　太輔	特定臨床研究		1	大腸憩室出血におけるピュアスタットを用いた内視鏡的止血術の有効性と安全性の評価：多施設共同前向き研究（PURA-CDB study）	2,200
教　授	坂田　資尚	日本学術振興会科学研究費	基盤研究(C)	1	潰瘍性大腸炎慢性化機序の解明と新たな治療戦略の構築	1,100

学術（学会）賞

職　名	氏　名	学術（学会）賞名	受　賞　課　題
助　教	山口　太輔	Digestive Endoscopy Best Reviewers Award 2023	日本消化器内視鏡学会

肝臓・糖尿病・内分泌内科

著　書

1　藤本　光，高橋宏和：観血的手技における出血予防 ③トロンボポエチン受容体作動薬．Thrombosis Medicine 増刊号．14(1)：34-39，2024，5．株式会社先端医学社．

原著論文

1　*Ishimaru Y, Kessoku T, Nonaka M, Kitajima Y, Hyogo H, Nakajima T, Imajo K, Kubotsu Y, Isoda H, Kawanaka M, Yoneda M, Anzai K, Nakajima A, Furukawa K, Kawaguchi A, Takahashi H: Effects of Ipragliflozin on Skeletal Muscle Adiposity in Patients with Diabetes and Metabolic Dysfunction-associated Steatotic Liver Disease. Intern Med. 64(11): 1612-1622, 2024 Nov 1.

2　*Kawanaka M, Kamada Y, Takahashi H, Iwaki M, Nishino K, Zhao W, Seko Y, Yoneda M, Kubotsu Y, Fujii H, Sumida Y, Kawamoto H, Itoh Y, Nakajima A: Japan Study Group of NAFLD (JSG-NAFLD). Serum Cytokeratin 18 Fragment Is an Indicator for Treating Metabolic Dysfunction-Associated Steatotic Liver Disease. Gastro Hep Adv. 3(8): 1120-1128, 2024 Aug 14.

3　Kubotsu Y, Sakamoto Y, Tago M, Chihara A, Norita M, Inadomi C, Inoue K, Takayanagi H, Tanaka K, Isoda H, Kuwashiro T, Oeda S, Shiratori T, Anzai K, Node K, Takahashi H: FIB-4 Index and Liver Stiffness Measurement are Potential Predictors of Atherosclerosis in Metabolic Dysfunction-Associated Steatotic Liver Disease. J Atheroscler Thromb. 32(2): 239-252, 2024 Sep 9.

4　*Tomiga Y, Tanaka K, Kusuyama J, Takano A, Higaki Y, Anzai K, Takahashi H: Exercise training ameliorates carbon tetrachloride-induced liver fibrosis and anxiety-like behaviors. Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol. 327(6): G850-G860, 2024 Dec 1.

5　*Mine K, Nagafuchi S, Akazawa S, Abiru N, Mori H, Kurisaki H, Shimoda K, Yoshikai Y, Takahashi H, Anzai K: TYK2 signaling promotes the development of autoreactive $CD8^+$ cytotoxic T lymphocytes and type 1 diabetes. Nat Commun. 15(1): 1337, 2024 Feb 13.

総　説

1　窪津祥仁，高橋宏和：MASLD/MASH の肝外合併症．医学のあゆみ．289(5)：335-339，2024，4.

2　*三根敬一朗，高橋宏和，安西慶三，永淵正法：1 型糖尿病の発症機序にかかわる細胞傷害性 CD8＋T 細胞．臨床免疫・アレルギー科．81(6)：557-563，2024，5.

3　○山﨑有菜，安西慶三：高齢者の糖尿病．臨牀と研究，100，2，81-86，2024，2.

学会発表

国際規模の学会

1　Kuwashiro T, Takahashi H: Sarcopenia Affects the Therapeutic Efficacy of immunotherapy for Advanced Hepatocellular Carcinoma. 15th Korea-Japan Cancer-Aging Symposium. 2024, 11, 13-15.

国内全国規模の学会

1　荒木大夢，小島基靖，西本弥史，枝川遥香，江上希望，井本文音，川副広明，安西慶三：食事療法と SGLT2阻害薬により糖尿病と脂肪肝の改善を認めた成人期フェニルケトン尿症の 1 例．第67回日本糖尿病学会年次学術集会．2024，5，17-19.

2　荒木大夢，小島基靖，西本弥史，枝川遥香，江上希望，井本文音，川副広明，安西慶三：ステロイ

ド導入で血糖改善を認めた手術困難インスリノーマの一例．第34回臨床内分泌代謝 Update．2024，11，29-30.

3 ○井上　香，磯田広史，窪津祥仁，乗田美沙，藤本　光，森美哉子，田中賢一，桑代卓也，大枝　敏，秋山　巧，高橋宏和：臨床実習コーディネーターとしてのキャリア継続．第60回日本肝臓学会総会．2024，6，13-14.

4 内田慧月，髙栁宏樹，桑原志穂，小松裕加，美奈川仁美，山﨑有菜，森　仁恵，安西慶三：るい痩に伴う無月経の精査を契機に Cushing 症候群と診断した一例．第97回日本内分泌学会学術総会．2024，6，6-8.

5 内田慧月，美奈川仁美，江頭桃子，荒木大夢，岸川まり子，山﨑有菜，森　仁恵，小島基靖，高橋宏和，安西慶三：フレックスタッチ®取付スマートセンサーを導入した高齢者糖尿病の一例．第24回日本糖尿病インフォマティクス学会年次学術集会．2024，8，17-18.

6 江頭桃子，美奈川仁美，内田慧月，小松裕加，桑原志穂，久冨茜音，山﨑有菜，髙栁宏樹，森　仁恵，安西慶三：123I-MIBG の集積を認め外科的切除を行った頸動脈小体パラガングリオーマの１例．第97回日本内分泌学会学術総会．2024，6，6-8.

7 *加藤祐子，中村沙織，高橋宏和，松橋幸子，安西慶三：アレルギーを発症する各種サンゴ由来赤色蛍光たんぱく質の共通配列．第97回日本生化学会大会．2024，11，6-8.

8 *桑原志穂，髙栁宏樹，内田慧月，小松裕加，美奈川仁美，山﨑有菜，武市幸奈，松浦朋美，垣内俊彦，安西慶三：多職種による糖尿病教育で血糖改善を認めた肝硬変と高度肥満を合併した２型糖尿病の一例．第67回日本糖尿病学会年次学術集会．2024，5，17-19.

9 永淵正法：膵β細胞特異的 Stat2遺伝子欠損マウスは脳心筋炎ウイルスＤ株の攻撃により糖尿病を発症する．第23回日本先進糖尿病治療・１型糖尿病研究会．2024，10，12-13.

10 *乗田美沙，窪津祥仁，矢田ともみ，藤本　光，森美哉子，井上　香，田中賢一，桑代卓也，磯田広史，大枝　敏，秋山　巧，高橋宏和：健康診断における M2BPGi の有用性．第60回日本肝臓学会総会．2024，6，13-14.

11 *乗田美沙，窪津祥仁，石丸悠子，藤本　光，井上　香，田中賢一，桑代卓也，磯田広史，大枝　敏，川口　淳，高橋宏和：２型糖尿病を有する NAFLD 患者に対するイプラグリフロジン投与化の骨格筋脂肪の変化．第10回肝臓と糖尿病・代謝研究会．2024，7，6.

12 藤本　光，田中賢一，白鳥俊康，中路　聡：肝生検により診断に至った好酸球性胆管炎からの考察．第60回日本胆道学会学術集会．2024，10，10-11.

13 RASHEDA PERVEEN, Ozaki Iwata, Takahashi Hirokazu, Kuwashiro Takuya, Matsuhashi Sachiko: Branched Chain Amino Acids (BCAA) upregulate the tumor suppressor PDCD4 inhibiting autophagy system via the activation of mTORC in Huh7 hepatoma cells. 第47回日本分子生物学会年会．2024，11，27-29.

地方規模の学会

1 江頭桃子，美奈川仁美，内田慧月，荒木大夢，桑原志穂，小松裕加，岸川まり子，山﨑有菜，森仁恵，小島基靖，安西慶三：原因同定が困難であったインスリン自己免疫症候群の一例．第24回日本内分泌学会九州支部学術集会．2024，9，7.

2 荒木大夢，小島基靖，江頭桃子，内田慧月，岸川まり子，美奈川仁美，山﨑有菜，安西慶三：スマートインスリンペンを導入し，血糖改善を認めた高齢者１型糖尿病の１例．第62回日本糖尿病学

会九州地方会．2024，10，25-26.

3　内田慧月，美奈川仁美，江頭桃子，荒木大夢，岸川まり子，山﨑有菜，森　仁恵，小島基靖，高橋宏和，安西慶三：フレックスタッチ®取付スマートセンサーを導入した高齢者糖尿病の一例．第62回日本糖尿病学会九州地方会．2024，10，25-26.

4　Rasheda Perveen，永淵正法，三根敬一朗，森　仁恵，田中賢一，小島基靖，安西慶三，高橋宏和：β-cell specific Stat2 knockout mice develop diabetes by EMC-D virus infection．第62日本糖尿病学会九州地方会．2024，10，25-26.

5　藤本　光，田中賢一，乗田美沙，森美哉子，窪津祥仁，桑代卓也，秋山　巧，高橋宏和，白鳥俊康：診断に苦慮した異所性膵由来の膵癌症例からの考察．第123回日本消化器病学会九州支部例会，第117回日本消化器内視鏡学会九州支部例会．2024，6，21-22.

6　*森美哉子，桑代卓也，乗田美沙，藤本　光，井上　香，窪津祥仁，田中賢一，磯田広史，白鳥俊康，大枝　敏，秋山　巧，高橋宏和：診断に苦慮した肝腫瘤の１例．第123回日本消化器病学会九州支部例会，第117回日本消化器内視鏡学会九州支部例会．2024，6，21-22.

7　桑代卓也，秋山　巧，白鳥俊康，高橋宏和：進行肝細胞癌の免疫治療におけるサルコペニアの影響．第123回日本消化器病学会九州支部例会，第117回日本消化器内視鏡学会九州支部例会．2024，6，21-22.

8　*小島華子，桑代卓也，田崎　陽，山本雪子，藤本　光，野下祥太郎，窪津祥仁，田中賢一，磯田広史，大枝　敏，井上　香，吉村茂修，高橋宏和：胆嚢結腸瘻合併胆嚢癌による出血性ショックを来した１例．第124回日本消化器病学会 九州支部例会，第118回日本消化器内視鏡学会 九州支部例会．2024，11，15-16.

9　田崎　陽，野下祥太郎，山本雪子，藤本　光，窪津祥仁，田中賢一，桑代卓也，高橋宏和：長期間における全身薬物療法が奏功し，肝外転移に対して conversion surgery を施行した肝細胞癌の１例．第124回日本消化器病学会 九州支部例会，第118回日本消化器内視鏡学会 九州支部例会．2024，11，15-16.

10　山本雪子，窪津祥仁，荒木敬裕，山崎政虎，田崎　陽，藤本　光，野下祥太郎，田中賢一，桑代卓也，宮園素明，高橋宏和：ANCA 関連血管炎に対するアバコパン投与で胆管消失症候群を発症した一例．第124回日本消化器病学会 九州支部例会，第118回日本消化器内視鏡学会 九州支部例会．2024，11，15-16.

学術（学会）賞

職　名	氏　名	学術（学会）賞名	受　賞　課　題
客　員 研究員	三根敬一朗	第62日本糖尿病学会九州地方会 九州支部賞（ノボ賞）	Tyrosine kinase 2を介するシグナルは自己反応性 CD8 T細胞の分化と自己免疫性１型糖尿病の発症を促進する
客　員 研究員	森　仁恵	第67回九州糖尿病懇話会 一般演題 Award	日本人の２型糖尿病患者におけるインスリン分障害およびインスリン抵抗性低下と TYK2 Promoter Variant との関連

皮膚科

著　　書

1　杉田和成 編：世界一やさしい皮膚科の教科書病理と免疫を理解すれば臨床がもっと面白くなる！. 世界一やさしい皮膚科の教科書，2024. 南江堂.

2　杉田和成：口内炎. 皮膚疾患最新の治療 293ページ，2024. 南江堂.

3　杉田和成：皮疹を理解しよう. 世界一やさしい皮膚科の教科書 2－8ページ，2024. 南江堂.

4　杉田和成：皮膚病理の基本を理解しよう. 世界一やさしい皮膚科の教科書 9－17ページ，2024. 南江堂.

5　杉田和成：皮膚免疫の基本を理解しよう. 世界一やさしい皮膚科の教科書 18-24ページ，2024. 南江堂.

6　杉田和成：アトピー性皮膚炎. 世界一やさしい皮膚科の教科書 32-37ページ，2024. 南江堂.

7　杉田和成：菌状息肉症. 世界一やさしい皮膚科の教科書 168-174ページ，2024. 南江堂.

原著論文

1　Ohata C, Anezaki H, Yanase T, Katayama E, Kaneko S, Saito K, Yamane M, Nakamaru S, Tsuruta N, Okazaki F, Ito K, Kikuchi S, Koike Y, Miyagi T, Sugita K, Nakahara T, Takezaki D, Saruwatari H, Yoshida Y, Yonekura K, Higashi Y, Sawada Y, Chinuki Y, Yamaguchi K, Imafuku S: Real-world safety and efficacy of biologics in elderly patients with psoriasis: A multicenter observational study. J Dermatol. 2024 Dec; 51(12): 1634-1640, 2024.

総　　説

1　Morimoto T, Hirata H, Sugita K, Paholpak P, Kobayashi T, Tanaka T, Kato K, Tsukamoto M, Umeki S, Toda Y, Mawatari M: A view on the skin-bone axis: unraveling similarities and potential of crosstalk. Front Med (Lausanne). 2024 Mar 4; 11: 1360483, 2024.

2　Morimoto T, Kobayashi T, Hirata H, Sugita K, Paholpak P, Tsukamoto M, Umeki S, Yoshihara T, Toda Y: Thick Skin on the Dorsal Spine in Osteoproliferative Disease: Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament and Diffuse Idiopathic Skeletal Hyperostosis. Cureus. 2024 Jun 12; 16(6): e62235, 2024.

3　Sugita K: Adipose tissue remodeling via TSLP-mediated IL-4/IL-13 signaling: Implications for atopic dermatitis and skin barrier. J Allergy Clin Immunol. 2024 Aug; 154(2): 282-284, 2024.

4　Nunomura S, Sugita K, Arima K: Legends of allergy and immunology: Kenji IzuharaAllergy. 2024 Jul; 79(7) :2016-2018, 2024.

5　杉田和成：乾癬と脂漏性皮膚炎 私はこう考える. 皮膚病診療 巻：46号 8ページ：694-697，2024.

6　杉田和成，出原賢治，中島沙恵子：皮膚バリア機能とアレルギー疾患 基礎と臨床の立場から. 皮膚アレルギーフロンティア（1348-7280）22巻 1号 Page6-14，2024.

7　杉田和成：【血液症候群（第 3 版）－その他の血液疾患を含めて－】リンパ系の腫瘍 組織球性疾患 リピドーシス 血球貪食を伴う脂肪織炎. 日本臨床（0047-1852）別冊血液症候群 IV Page501-503, 2024.

8　杉田和成：【基礎から学ぶ！皮膚腫瘍病理診断】皮膚のリンパ腫・血液系腫瘍（解説）. Derma.（1343-0831）343号 Page73-81，2024.

9　杉田和成：羅針盤皮膚を通じて全身をみる．Visual Dermatology Vol. 23 No. 4 2024年 4 月号 307ページ，2024.

10　杉田和成：総論救急と重症例を俯瞰する．Visual Dermatology Vol. 23 No. 4 2024年 4 月号 310-313ページ，2024.

11　井上卓也：【フレッシャーズ特集：皮膚科の救急と重症例から学ぶ】（Part 2）「進行期」皮膚悪性腫瘍から学ぶ「進行期」乳房外 Paget 病から学ぶ（解説）．Visual Dermatology Vol. 23 No. 4 2024年 4 月号 349-353ページ，2024.

12　井上卓也：【フレッシャーズ特集：皮膚科の救急と重症例から学ぶ】（Part 2）「進行期」皮膚悪性腫瘍から学ぶ「進行期」皮膚リンパ腫から学ぶ（解説）．Visual Dermatology Vol. 23 No. 4 2024年 4 月号 362-366ページ，2024.

13　井上卓也：【バーチャルスライドでズバッと診断！皮膚病理演習【炎症編】（Part 2）薬疹 全身に標的状紅斑を生じた症例．診断は？（解説）．Visual Dermatology Vol. 23 No. 7 2024年 7 月号 660-662，632ページ，2024.

14　井上卓也：【FLAP ！顔面の皮弁術パーフェクトガイド】（Part 2.）部位別応用編 眼瞼の皮弁（case 6）下眼瞼欠損の前進型Ｖ－Ｙ皮弁（解説）．Visual Dermatology Vol. 23 No. 12 2024年12月号 1143-1144ページ，2024.

15　西　純平，杉田和成：足の最近感染症．Monthly Book Derma. 354 25-32，2024.

16　西　純平：救急外来で役立つ熱傷治療の基礎．Visual Dermatology，23(4)，319-322，2024.

症例報告

1　Sugita K: Presentation of a Rare Case of Skin Signs Consistent With Scurvy and Acrodermatitis Enteropathica in the Context of Enolism With Multiple Nutritional Deficiencies. Actas Dermosifiliogr. 2024 Nov-Dec; 115(10): 1017-1019, 2024.

2　嘉村真知子，井上卓也，杉田和成：pseudoepitheliomatous hyperplasia を伴った悪性黒色腫．Skin cancer123，2024.

3　Inayoshi S, Inoue T, Katsuya H, Sugita K: Chronic actinic dermatitis as a diagnostic clue for adult T-cell leukemia/lymphoma. JAAD Case Rep., 55, 10-12, 2024, 9.

4　Uchida T, Inoue T, Sugita K: Spontaneous regression of methotrexate-associated lymphoproliferative disease associated with polyclonal antibody production by plasma cells. Eur J Dermatology1; 34(5): 555-557, 2024 Oct.

5　*橋本明子，西島君耶，白井礼子，井上卓也，杉田和成：若年者の両耳に多発した Chondrodermatitis Nodularis Chronica Helicis の 1 例．西日本皮膚科，86，6，585-589，2024.

6　*柳瀬正平，井上卓也，村中友加里，杉田和成：CD8と CD56に陽性を示した菌状息肉症の 1 例．臨床皮膚科，78，9，684-688，2024，8.

7　大園亜季，井上卓也，杉田和成：前胸部に生じた顆粒細胞腫．西日本皮膚科，86，6，605-608，2024，12.

8　橋本真央，永瀬浩太郎，大園亜季，西　純平，田中佳世，井上卓也：自然消退傾向を示した後に再増大した infantile digital fibromatosis の 1 例と本邦報告例のまとめ．臨床皮膚科，78，13，999-1004，2024，12.

学会発表

国内全国規模の学会

1　杉田和成：皮膚病理からみた汎発性膿疱性乾癬の診断．第39回日本乾癬学会学術大会．2024，8，25.
2　杉田和成：アトピー性皮膚炎の最新動向．第88回日本皮膚科学会東部支部学術大会．2024，9，15.
3　杉田和成：乾癬治療の変遷とこれからの展望～乾癬の生涯治療を考える～．第75回日本皮膚科学会中部支部学術大会．2024，10，13.
4　杉田和成：臨床医が語る産業保健・産業看護の未来～連携と期待される人材像～．日本産業看護学会 2024年度交流会．2024，11，24.
5　杉田和成：乾癬と脂漏性皮膚炎．第54回日本皮膚免疫アレルギー学会学術大会．2024，12，22.
6　西　純平，井上卓也，杉田和成：長期経過観察の後に診断した Estrogen dermatitis．第123回日本皮膚科学会総会．2024，6，6-9.
7　嘉村真知子，井上卓也，杉田和成：pseudoepitheliomatous hyperplasia を伴った悪性黒色腫．第40回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会．2024，5，10.
8　嘉村真知子，杉田和成：PUVA-bath 療法が奏功し Good 症候群を併発した Thymoma-associated multi-organ autoimmunity（TAMA）．第54回日本皮膚免疫アレルギー学会．2024，12，20-22.
9　稲吉咲穂，井上卓也，杉田和成：乾癬性関節炎に合併した水疱性類天疱瘡とアトピー性皮膚炎水疱性類天疱瘡とアトピー性皮膚炎．第123回日本皮膚科学会総会．2024，6，6-9.
10　内田大介，井上卓也，杉田和成：血清学的に水疱性類天疱瘡との合併が示唆された家族性良性慢性天疱瘡．第88回日本皮膚科学会東部支部学術大会．2024，9，14-15.
11　會澤南海，井上卓也，杉田和成：左上腕に生じた限局性 AL アミロイドーシス．第76回日本皮膚科学会西部支部学術大会．2024，9，7-8.
12　*光吉　彩，杉田和成：単クローン性免疫グロブリン血症を伴った Elastolytic giant cell granuloma．第88回日本皮膚科学会東部支部学術大会．2024，9，14-15.

地方規模の学会

1　杉田和成：アトピー性皮膚炎の多彩な皮膚症状，病態および治療について．第 6 回日本アレルギー学会中国・四国地方会．2024，3，2.
2　杉田和成：アトピー性皮膚炎の最適な治療を目指して～基礎から臨床まで～．日本皮膚科学会山梨地方会．2024，4，7.
3　杉田和成：アトピー性皮膚炎の最適な治療を目指して～基礎から臨床まで～．日本皮膚科学会福島地方会．2024，4，14.
4　杉田和成：会長講演：佐賀大学皮膚科の現状と未来に向けた取り組み．日本皮膚科学会第88回佐賀地方会学術集会．2024，5，19.
5　杉田和成：自然リンパ球と皮膚疾患．第38回佐賀県臨床皮膚科医会．2024，8，3.
6　杉田和成：皮膚病理からみた汎発性膿疱性乾癬の診断．第39回日本乾癬学会学術大会．2024，8，3.
7　井上卓也：アトピー性皮膚炎の外用治療について考える～外用 JAK 阻害薬を含めて～．第37回佐賀県臨床皮膚科医会．2024，4，13.
8　井上卓也：乾癬とその類似疾患の病理組織診断．第39回佐賀県臨床皮膚科医会．2024，12，14.
9　嘉村真知子，井上卓也，杉田和成：免疫グロブリン大量静注療法を施行した Stevens-Johnson 症候

群．日本皮膚科学会第88回佐賀地方会．2024，5，19.

10　稲吉咲穂，井上卓也，杉田和成：手蜂窩織炎が化膿性腱鞘炎に至った２例．日本皮膚科学会第88回佐賀地方会．2024，5，19.

11　内田大介，井上卓也，杉田和成：ビカルタミドによる水疱型薬疹．日本皮膚科学会第88回佐賀地方会学術集会．2024，5，19.

12　*中川　彩，井上卓也，杉田和成：神経浸潤を伴った有棘細胞癌．日本皮膚科学会第410回福岡地方会．2024，9，29.

その他の学会

1　杉田和成：アトピー性皮膚炎治療における JAK 阻害薬の役割と展望．第３回南大阪皮膚疾患研究会学術シンポジウム．2024，1，13.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	１：代表 ２：分担 該当番号を記入	研　究　課　題　等	交付金額（千円）
教　授	杉田　和成	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	３型自然リンパ球の皮膚炎と皮膚バリアにおよぼす影響の解明	1,040
教　授	杉田　和成	日本医療研究開発機構	令和５年度免疫アレルギー疾患実用化研究事業	2	ペリオスチン／αVβ3インテグリン経路を標的としたアトピー性皮膚炎の新規治療薬の開発	20,000
准教授	井上　卓也	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	微小環境を構成する多因子に着目した悪性黒色腫の病態い及ぼす生物学的作用の解明	1,430

学術（学会）賞

職　名	氏　名	学術（学会）賞名	受　賞　課　題
教　授	杉田　和成	Top Reviewers of 2023	European Academy of Allergy & Clinical Immunology の学会誌査読に関して
医　員	内田　大介	第88回日本皮膚科学会東部支部学術大会会長賞	血清学的に水疱性類天疱瘡との合併が示唆された家族性良性慢性天疱瘡

精 神 医 学 講 座

原著論文

1　Kunitake Y, Imamura Y, Kunitake H, Ohishi-Fukuchi J, Matsushima J, Tateishi H, Murakawa-Hirachi T, Kojima R, Sakemura Y, Kikuchi J, Shiraishi T, Takamori A, Morisaki T, Yamada S, Monji A, Mizoguchi Y: Association depressive symptoms with memory function and social capital before and during COVID-19 in community‐dwelling older adults in rural Japan: A retrospective study with a longitudinal data. Int J Geriatr Psychiatry May; 39(5): e6100. doi: 10.1002/gps.6100, 2024.

2　Kojima R, Tateishi H, Kunitake H, Imamura Y, Kunitake Y, Murakawa T, Nagahama C, Shiraishi

T, Takada K, Hirano M, Fukai A, Tomonari A, Monji A, Mizoguchi Y: Negative association between basal oxytocin and oxytocin changes after repetitive transcranial magnetic stimulation in patients with treatment-resistant depression. Peptides. 177: 171217, 2024.

3 *Matsuda Y, Kito S, Hiraki F, Izuno T, Yoshida K, Nakamura M, Kodaka F, Yamazaki R, Taruishi N, Imazu S, Kanazawa T, Mekata T, Moriyama S, Wada M, Nakajima S, Sawada K, Watanabe S, Takahashi S, Toi Y, Hayashi D, Igarashi S, Fujiyama K, Ikeda S, Tateishi H, Kojima R, Sato K, Boku S, Takebayashi M, Ogura M, Takaya A, Endo K, Kita A, Arai H, Kamimura H, Matsuo K, Denda K, Yamashiro S, Yoshioka D, Kizaki J, Mimura M, Noda Y: A multisite observational real-world study on the effectiveness of repetitive transcranial magnetic stimulation therapy for patients with treatment-resistant depression in Japan. Psychiatry Res. 342: 116263, 2024.

4 Ohtsubo T, Mizoguchi Y, Aita C, Imamura Y, Kobayashi M, Kunitake Y, Tateishi H, Ueno T, Monji A: Relationship between serum cortisol levels, stereotypies, and the presence of autism spectrum disorder in patients with severe intellectual disability. Sci Rep. 26; 14(1): 7139, 2024.

総　説

1 立石　洋，溝口義人：治療抵抗性うつ病について rTMS 療法を含めて再考する．九州神経精神医学，70(1)：3-8，2024，12，15.

2 平野正貴，國武　裕，溝口義人：私のカルテから 転換症状が初発症状であったと考えられるレビー小体型認知症の 1 例．精神医学，66(4)：450-453，2024，4，15.

学会発表

国内全国規模の学会

1 溝口義人：一般シンポジウム66オキシトシンの向精神作用と精神疾患治療応用への展望（司会・メインコーディネーター）高齢者の精神的健康を維持するために：オキシトシンに着目して．第120回日本精神神経学会学術総会．2024, 6, 20-22（現地開催）2024, 7, 10-10, 10（オンデマンド配信）.

2 立石　洋，國武浩子，村川　徹，白石　匠，小嶋亮平，菊地　潤，國武　裕，門司　晃，溝口義人：マイクロアレイ解析を用いた治療抵抗性うつ病患者における rTMS によるミクログリア様細胞の変化．第120回日本精神神経学会学術総会．2024，6，20-22（現地開催）2024，7，10-10，10（オンデマンド配信）.

3 松島　淳，宮脇八千代，國武浩子，今村義臣，國武　裕，門司　晃，溝口義人：慢性痛におけるオキシトシンと心理社会的要因との関連に関する前向き観察研究．第120回日本精神神経学会学術総会．2024，6，20-22（現地開催）2024，7，10-10，10（オンデマンド配信）.

4 ○祖川倫太郎，西村　文，宮本由貴，松岡綾華，山田春奈，村川　徹，溝口義人，門司　晃，島ノ江千里：ベンゾジアゼピン系薬の使用下における併用薬剤のせん妄発症シグナルへの影響．第120回日本精神神経学会学術総会．2024，6，20-22（現地開催）2024，7，10-10，10（オンデマンド配信）.

5 ○松岡綾華，祖川倫太郎，村川　徹，溝口義人，門司　晃，島ノ江千里，品田公太，山田春奈，小網博之，阪本雄一郎：オレキシン受容体拮抗薬がせん妄持続期間に及ぼす影響の検証．第120回日本精神神経学会学術総会．2024，6，20-22（現地開催）2024，7，10-10，10（オンデマンド配信）.

6 ○品田公太，松岡綾華，祖川倫太郎，村川　徹，溝口義人，門司　晃，島ノ江千里，山田春奈，小網博之，阪本雄一郎：外傷患者の入院中の総医療費にせん妄が与える影響．第120回日本精神神経学会学術総会．2024，6，20-22（現地開催）2024，7，10-10，10（オンデマンド配信）.

地方規模の学会

1　國武　裕，今村義臣，國武浩子，大石絢子，松島　淳，立石　洋，村川　徹，小嶋亮平，白石　匠，高守史子，盛﨑俊浩，溝口義人：地域在住の高齢者の記憶機能，社会資本とコロナ禍の抑うつ症状との関連：COVID-19前後の縦断データを用いた後ろ向き研究．第76回九州精神神経学会 第69回九州精神医療学会．2024，11，28-29（現地開催）．

2　立石　洋，小嶋亮平，國武浩子，今村義臣，國武　裕，村川　徹，永浜千賀，平野正貴，深井愛理，友成　央，門司　晃，溝口義人：治療性抵抗うつ病患者における rTMS によるオキシトシン濃度の変化量戸ベースラインオキシトシン濃度との負の関連．第76回九州精神神経学会 第69回九州精神医療学会．2024，11，28-29（現地開催）．

3　松島　淳：○○における心理職の養成・協働―現場の要請に応え得る心理職の養成を目指して―．九州臨床心理学会 第51回佐賀大会．2024，2，2-4（現地開催）．

4　白石　匠，大石絢子，立石　洋，國武　裕，溝口義人：佐賀大学医学部附属病院における自殺企図患者の統計．第76回九州精神神経学会 第69回九州精神医療学会．2024，11，28-29（現地開催）．

5　○折橋隆三，藤野成美，溝口義人：地域在住の高齢者における BDNF とオキシトシンの相関関係．第76回九州精神神経学会 第69回九州精神医療学会．2024，11，28-29（現地開催）．

その他の学会

1　溝口義人：私の研究内容と最近の統合失調症治療について．精神疾患 Seminar with KURUME．2024，1，26 オンライン配信（Zoom ウェビナー）．

2　溝口義人：うつ・認知症と不眠症に関する最近の話題．佐賀県内科医会学術講演会～不眠症に併発する糖尿病・うつ・認知用の治療と管理～．2024，3，6 佐賀メディカルセンター＋Web 配信（Zoom ウェビナー）．

3　溝口義人：睡眠障害について．興和社内研究会．2024，5，17（現地開催）．

4　溝口義人：睡眠障害について．Meiji Seika ファルマ社内研究会．2024，10，22（現地開催）．

5　溝口義人：うつ病に少しでも早く気付くために．令和 6 年度第 1 回佐賀県かかりつけ医うつ病対応力向上研修会．2024，11，7 佐賀メディカルセンター＋サテライト会場．

6　國武　裕：ディスカッション：統合失調症におけるラツーダの位置づけ．LATUDA WEB seminar in Kyushu．2024，3，1（Zoom ウェビナー配信）．

7　國武　裕：ディスカッション：双極Ⅰ型障害におけるエビリファイ LAI の使用意義．Otuka Bipolar Expert Seminar．2024，9，25 Web 配信（Microsoft Teams 使用）．

8　立石　洋：新たな治療の可能性について考える．反復経頭蓋磁気刺激（rTMS）療法セミナー in 福岡 うつ病治療における rTMS 療法の可能性～ 5 年後に身近な治療となるために今できる事は何か～．2024，9，6（現地開催）．

9　立石　洋：rTMS の臨床における現状と課題．講師招聘勉強会．2024，9，27（現地開催）．

10　立石　洋：佐賀大学精神科における rTMS 療法について．MDD Web Seminar．2024，11，13 Web 配信（Microsoft Teams 使用）．

11　立石　洋：精神科の立場からみた認知症の診療．令和 6 年度佐賀県かかりつけ医認知症対応力向上研修会～認知症の診断と治療～．2024，12，17-21 WEB 開催 オンデマンド配信．

12　立石　洋：佐賀大学精神科における rTMS 療法について．第222回佐賀精神科集談会．2024，12，20（現地開催）．

13　松島　淳：心理的安全性を考える―成長し続ける組織であるために―．前田病院衛生安全委員会主催令和５年度研修会．2024，2，13 現地開催オンデマンド配信．

14　松島　淳：バウンダリーについて学ぶ―コミュニケーションスキル向上のために―．令和５年度佐賀がんピアサポーター・フォローアップ研修．2024，2，25 現地開催．

15　松島　淳：糖尿病患者の心理と行動．第11回佐賀県糖尿病療養指導士認定研修会．2024，6，1-9，7 オンデマンド配信．

16　松島　淳：保健医療分野．佐賀県公認心理師協会2024年度基礎研修会．2024，7，7 現地開催オンライン配信（Webex）．

17　松島　淳：私たちは信頼されている．西南学院高等学校チャペル講話．2024，7，18 現地開催．

18　松島　淳：糖尿病患者の認知症と付き合いながら，認知症の糖尿病患者に寄り添う．第２回糖尿病看護でつながる会．2024，8，18 Web 開催（Zoom 配信）．

19　松島　淳：今の時代のＺ世代も含めた若手の活かし方―若手に選ばれる病院になるために―．前田病院衛生安全委員会主催令和６年度管理職研修．2024，10，8 現地開催オンデマンド配信．

20　松島　淳：慢性痛におけるオキシトシンと自閉スペクトラム症傾向に関する前向き観察研究．第221回佐賀精神科集談会．2024，10，30 現地開催．

21　松島　淳：感染症患者の心理とその関わり方．令和６年度肝炎医療コーディネーター養成研修会．2024，12，16-2025，1，15 オンデマンド配信．

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	１：代表 ２：分担 該当番号を記入	研　究　課　題　等	交付金額（千円）
教　授	溝口　義人	科学研究費補助金事業	基盤研究(C)	1	高齢者うつ病および認知症における脳内ミクログリアの機能の共通点と相違点	600 (1,265)
教　授	溝口　義人	科学研究費補助金事業	基盤研究(C)	2	反復性経頭蓋磁気刺激による治療抵抗性うつ病の治療メカニズムの探索	(110)
教　授	溝口　義人	科学研究費補助金事業	基盤研究(C)	2	せん妄群と非せん妄群における血中の単球から誘導したミクログリ様細胞の動態比較	(0)
教　授	溝口　義人	科学研究費補助金事業	基盤研究(C)	1	持続式陽圧呼吸療法による抑うつ症状改善のメカニズムの探索	(10)
教　授	溝口　義人	科学研究費補助金事業	基盤研究(C)	2	外傷患者のせん妄予測モデル構築と長期認知機能解明	(30)
講　師	國武　　裕	科学研究費補助金事業	若手研究	1	コロナ禍の心理ストレスが高齢者の２年後のうつ状態，認知機能低下に与える影響	300 (1,577)
講　師	國武　　裕	科学研究費補助金事業	基盤研究(C)	1	持続式陽圧呼吸療法による抑うつ症状改善のメカニズムの探索	(20)
講　師	立石　　洋	科学研究費補助金事業	基盤研究(C)	1	反復性経頭蓋磁気刺激による治療抵抗性うつ病の治療メカニズムの探索	(1,814)

講　師	立石　　洋	科学研究費補助金事業	基盤研究(C)	1	持続式陽圧呼吸療法による抑うつ症状改善のメカニズムの探索	(20)
助　教	松島　　淳	科学研究費補助金事業	基盤研究(C)	1	持続式陽圧呼吸療法による抑うつ症状改善のメカニズムの探索	(110)
助　教	白石　　匠	科学研究費補助金事業	基盤研究(C)	1	持続式陽圧呼吸療法による抑うつ症状改善のメカニズムの探索	(100)
客　員研究員	門司　　晃	科学研究費補助金事業	基盤研究(C)	2	反復性経頭蓋磁気刺激による治療抵抗性うつ病の治療メカニズムの探索	(0)
客　員研究員	門司　　晃	科学研究費補助金事業	基盤研究(C)	2	せん妄群と非せん妄群における血中の単球から誘導したミクログリ様細胞の動態比較	(1)
客　員研究員	門司　　晃	科学研究費補助金事業	基盤研究(C)	1	持続式陽圧呼吸療法による抑うつ症状改善のメカニズムの探索	(16)
客　員研究員	門司　　晃	科学研究費補助金事業	基盤研究(C)	2	外傷患者のせん妄予測モデル構築と長期認知機能解明	(30)
客　員研究員	原口　祥典	科学研究費補助金事業	基盤研究(C)	2	反復性経頭蓋磁気刺激による治療抵抗性うつ病の治療メカニズムの探索	(48)
客　員研究員	村川　　徹	科学研究費補助金事業	基盤研究(C)	2	反復性経頭蓋磁気刺激による治療抵抗性うつ病の治療メカニズムの探索	(61)
客　員研究員	村川　　徹	科学研究費補助金事業	基盤研究(C)	1	せん妄群と非せん妄群における血中の単球から誘導したミクログリ様細胞の動態比較	(224)
客　員研究員	村川　　徹	科学研究費補助金事業	基盤研究(C)	1	持続式陽圧呼吸療法による抑うつ症状改善のメカニズムの探索	(10)
客　員研究員	村川　　徹	科学研究費補助金事業	基盤研究(C)	2	外傷患者のせん妄予測モデル構築と長期認知機能解明	(30)
客　員研究員	野上耕二郎	科学研究費補助金事業	基盤研究(C)	1	持続式陽圧呼吸療法による抑うつ症状改善のメカニズムの探索	(473)
整形外科学講座准教授	森本　忠嗣	厚生労働省科学研究費補助金	慢性疼痛診療システム均てん化等事業	2	令和６年度慢性疼痛診療システム均てん化等事業	1,500

※（　）は繰越金で外数

小 児 科 学 講 座

著　　書

1　垣内俊彦：胆道閉鎖症診療ガイドライン（第２版）．日本胆道閉鎖症研究会（編），2024，11．へるす出版，東京．

2　垣内俊彦：H. pylori 感染の診断と治療のガイドライン2024改訂版．日本ヘリコバクター学会ガイドライン委員会（編），2024，11．先端医学社．

原著論文

1　*Yamada Y, Ishitsuka Y, FukauraNishizawa M, Kawata T, Ishii A, Shirakawa A, Sakai T, Tanaka M, Kondo Y, Takeo T, Nakagata N, Motoyama K, Higashi T, Arima H, Seki T, Kurauchi Y, Katsuki H, Higaki K, Ikeda R, Matsuo M, Era T, Irie T: Intracerebroventricular 2-hydroxypropyl-gamma-cyclodextrin alleviates hepatic manifestations without distributing to the liver in a murine model of Niemann-Pick disease type C. Life Sci. 1: 350: 122776, 2024, 8.

2　○Doi K, Sogawa R, Eguchi Y, Matsuo M, Shimanoe C: Association between Early Guanfacine Discontinuation and Somnolence for Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder. Biol Pharm Bull. 47(6): 1204-8, 2024, 6.

3　Matsuo M, Sakakibara T, Sakiyama Y, So T, Kosuga M, Kakiuchi T, Ichinose F, Nakamura T, Ishitsuka Y, Irie T: Long-term efficacy of intrathecal cyclodextrin in patients with Niemann-Pick disease type C. Brain Dev. 46(5): 207-212, 2024, 5.

4　*Kinjo Y, Shibata E, Askew DJ, Tanaka R, Suga R, Shimono M, Sakuragi T, Morokuma S, Ogawa M, Sanefuji M, Hamada N, Ochiai M, Ohga S, Tsuji M, Kusuhara K, Yoshino K: Japan Environment and Children's Study Group: Association of placental weight at birth with maternal whole blood concentration of heavy metals (cadmium, lead, mercury, selenium, and manganese): The Japan Environment and Children's Study (JECS). Environ Int 188: 108725, 2024, 6.

5　*Fukuda T, Shimono M, Suga R, Igarashi R, Yoshino K, Fujino Y, Tsuji M, Ishitsuka K, Sanefuji M, Ohga S, Kusuhara K: Japan Environment and Children's Study Group: The effect of parental age on child development at 36 months: Insights from the Japan environment and children's study. Res Dev Disabil. 150: 104741, 2024, 7.

6　Sanefuji M, Nakamura T, Higuchi N, Niizuma H, Kawachi Y, Shiohama T, Yoshida Y, Asahina A, Matsuo M: Clinical characteristics and management of plexiform neurofibromas in children with neurofibromatosis 1: A Japanese nationwide survey. Brain Dev 16; 47(1): 104300, 2024, 11.

7　*Yamamoto S, Sanefuji M, Suzuki M, Sonoda Y, Hamada N, Kato W, Ono H, Oba U, Nakashima K, Ochiai M, Kusuhara K, Koga Y, Ohga S: Pediatric leukemia and maternal occupational exposure to anticancer drugs: The Japan Environment and Children's Study. Blood. 25; 143(4): 311-319, 2024, 1.

8　Goto H, Kada A, Ogawa C, Nishiuchi R, Yamanaka J, Iguchi A, Nishi M, Sakaguchi K, Kumamoto T, Mochizuki S, Ueki H, Kosaka Y, Saito AM, Toyoda H: Treatment of relapsed acute lymphoblastic leukemia in children: an observational study of the Japan Children's Cancer Group. Int J Hematol. 120(5): 631-638, 2024, 11.

9　Ueki H, Ogawa C, Goto H, Nishi M, Yamanaka J, Mochizuki S, Nishikawa T, Kumamoto T, Nishiuchi R, Kikuta A, Yamamoto S, Igarashi S, Sato A, Hori T, Saito AM, Watanabe T, Deguchi T, Manabe A, Horibe K, Toyoda H: TBI, etoposide, and cyclophosphamide conditioning for intermediate-risk relapsed childhood acute lymphoblastic leukemia. Int J Hematol. 2024 Apr; 119(4): 450-458, 2024, 4.

10　熊本　崇，土井大人，峰松伸弥，熊本愛子，岩永　学，松尾宗明，冨野広通，江頭智子，高柳俊光，大隈良譲：一次産科医療施設での重症先天性心疾患検出を目的としたパルスオキシメトリースクリーニング．小児保健研究：83(1) 44-51，2024，1.

総　　説

1　松尾宗明：公費補助制度を使いこなす！：レックリングハウゼン病（神経線維腫症１型）．小児科診療 87：1127-30，2024，8.

2　垣内俊彦：佐賀県における世代別の胃がん対策 Gastro-Health Now 第101号．NPO 法人日本胃がん予知・診断・治療研究機構，2024，7.

3　垣内俊彦，奥田真珠美：小児，若年者のピロリ菌対策：今，改めて目的と期待される効果，課題を考える．ヘリコバクター学会誌 25(2)：93-95，2024，2.

4　垣内俊彦：小児 Helicobacter pylori 感染症における網羅的研究と薬剤耐性判定を含めた新規診断薬の開発．ヘリコバクター学会誌 26(1)：2-11，2024，1.

5　*奥田真珠美，垣内俊彦，菊地正悟，草野　央，間部克裕，加藤元嗣，村上和成：中学生ピロリ菌検査と除菌治療自治体向けマニュアル：全国自治体アンケート調査結果を含めて．ヘリコバクター学会誌 26(1)：18-23，2024，1.

6　垣内俊彦：佐賀県の拡大新生児マススクリーニングの現状と課題．新生児マススクリーニング通信 19：18-20，2024，8.

7　垣内俊彦：小児科専門医を目指す人のための Q&A で読み解く分野別誌上セミナー消化器．小児科臨床 77(1)：129-135，2024，1.

8　垣内俊彦：小児の潰瘍性大腸炎．小児科 65(7)：631-639，2024，7.

9　垣内俊彦：ヘリコバクター・ピロリ検査．小児科診療 87(9)：1331-1337，2024，9.

10　垣内俊彦：胃十二指腸疾患の特徴と内視鏡診断．消化器内視鏡 36(10)：1405-1415，2024.

11　*草野　央，垣内俊彦，池原久朝：好酸球性消化管疾患（EDIDs）の診断・治療．消化器内視鏡 36(10)：1442-1446，2024.

12　垣内俊彦：ヘリコバクターピロリ感染症．小児内科 561(増刊) 604-608，2024，12.

13　垣内俊彦：小児における *Helicobacter pylori* 感染診断の問題点．Helicobacter Research 28(1)：60-66，2024，1.

症例報告

1　Kakiuchi T: Gastroscopy is not always mandatory in all gastric multiple magnet ingestion cases. Acta Paediatr. 113(1): 155-156, 2024, 1.

2　Kakiuchi T: Important Recommendations Regarding the Test-and-Treat Strategy for Helicobacter pylori infection in Children INQUIRY. 61: 469580231222649, 2024, 1-12.

3　Kakiuchi T, Nosho T, Oka M, Tashiro K: Hyperammonemia in a carbamoyl-phosphate synthetase 1 deficiency recipient after living-donor liver transplantation from a carrier donor: A case report.

Front Med. 10: 1327854, 2024, 1.

4 Kakiuchi T: Accurate evaluation of pediatric Helicobacter pylori heteroresistance contributes to further improving the quality of tailored therapy. Pediatrr Res. 95(7): 1696-1697, 2024, 1.

5 *Nakayama S, Yamanouchi K, Takamori A, Goto T, Shimada F, Imamura T, Hirooka Y, Kitajima A, Onozawa K, Kakiuchi T, Takagi K, Kishi T, Fujimoto K, Sakamoto Y: Gastrointestinal bleeding among 151 patients undergoing maintenance hemodialysis for end-stage renal failure: A 5-year follow-up study. Medicine (Baltimore). 103(7): e37274, 2024, 2.

6 Kakiuchi T, Obata S, Koji A, Minematsu N, Fuchigami M, Fukuta A, Tajiri T, Yoshiura M: Case Report: The Importance of Early Intervention for Gastroesophageal Reflex Disease Caused by Hiatal Hernia. Front Pediatr. 12: 1305585, 2024, 5.

7 *Saito H, Uchiyama1T, Matsuoka M, Kakiuchi T, Eguchi Y, Tsubokura M, Mizuno Y: Parental Knowledge and Attitudes towards Helicobacter Pylori Screening in Adolescents: A School-Based Questionnaire Study among Guardians of Junior High School Students in Yokosuka City, Japan. J Gastrointest Cancer. 55(3): 1274-1281, 2024, 9.

8 Kakiuchi T: Non-Helicobacter pylori Helicobacter as a cause of duodenal ulcer in children. J Formos Med Assoc. 123(10): 1115, 2024, 1.

9 Hirakawa Y, Kakiuchi T, Yoshiura M, Kikkawa N: Improved injection site reactions after switching from adalimumab reference to adalimumab biosimilar LBAL for ulcerative colitis: A Case Report. Medicine. 103(44): e40400, 2024, 11.

10 Kakiuchi T, Yoshiura M: Dark red reticulated cutaneous vascular network on the lower limb. Indian J Pediatr. 91(2): 194, 2024, 2.

11 *溝口ゆかり，尾形善康，松尾宗明：Pachydermodactyly の 2 小児例．九州リウマチ第44巻(2) 74–78，2024，2.

12 Doi H, Kakiuchi T, Nishino M, Yoshiura M: Natural excretion of a metallic susceptor originating from an ingested heated tobacco stick. Clin Case Rep. 12(4): e8756, 2024, 4.

13 *荻野明日香，土井大人，岩永　学，松尾宗明：アモキシシリンで急性増悪した小児汎発性膿疱性乾癬／DITRA の 1 例．小児科 第65巻第13号 1495–1500，2024，12.

14 *Yokoyama A, Nakamura T, Ichinose F, Miya F, Kato M, Matsuo M: SCN8A encephalopathy with a significant long-term response to lacosamide. J Pediatr Neurol. 22: 470-474, 2024, 6.

学会発表

国際規模の学会

1 *Saito H, Matsumoto C, Uchiyama T, Nishikawa Y, Kakiuchi T, Eguchi Y, Tsubokura M, Mizuno Y: A LARGE-SCALE SURVEY REVEALING LEVELS OF KNOWLEDGE AND PUBLIC PERCEPTION for HELICOBACTER PYLORI IN JAPAN. UEG Week 2024: In Vienna & Online. 2024, 10, 12-15.

2 *Okuda M, Kato M, Kikuchi S, Kakiuchi T, Lee T, Shimomura H, Takeshima Y: Screening and eradication of Helicobacter pylori for junior high school students in Japan Nationwide survey for local governments regarding conducted status and methods. 38th Workshop of the European Helicobacter and Microbiota Study Group Roma, Italy. 2024, 9, 11-13.

3 *Okuda M, Kato M, Kikuchi S, Kakiuchi T, Lee T, Shimomura H, Takeshima Y: Nationwide survey of Helicobacter pylori test and treat for junior high school students in Japan. 第51回日本小児栄養消化器肝臓学会（併催：The 5th Japan-Korea-Taiwan Joint Meeting）. 2024, 10, 4-6.

4 Nomiyama R, Nishi M, Nosyo T, Eguchi H, Matsuo M: Megaloblastic Anemia due to Picky Eating Habits in a Child with Autism Spectrum Disorder. THE 14TH JSH INTERNATIONAL SYMPOSIUM 2024 IN HAKODATE. 2024, 7, 13-14.

5 Nosyo T, Nishi M, Eguchi H, Matsuo M: Association Between Hyperglycemia and Anti-GAD Antibodies During Treatment of Pediatric Acute Lymphoblastic Leukemia. THE 14TH JSH INTERNATIONAL SYMPOSIUM 2024 IN HAKODATE. 2024, 7, 13-14.

国内全国規模の学会

1 松尾宗明：Progeria Research Foundation による早老症研究推進 分野別シンポジウム 1 遺伝性早老症と Down 症候群：最新の研究と医療の進歩. 第127回日本小児科学会学術集会（福岡）. 2024, 4, 19-21.

2 尾形善康，溝口ゆかり：末梢多関節の関節炎と乾癬様皮疹を認めた13才女児例. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2024, 4, 18-20.

3 尾形善康，溝口ゆかり，松尾宗明：当科における軽症中等症血友病患者の筋肉内血腫の検討. 第46回日本血栓止血学会学術集会. 2024, 6, 13-15.

4 實藤雅文，中村拓自，樋口直弥，朝比奈昭彦，松尾宗明：本邦における神経線維腫症 1 型の叢状神経線維腫に関する全国調査. 第66回日本小児神経学会学術集会. 2024, 5, 30.

5 *田尻 仁，垣内俊彦，徳原大介，惠谷ゆり，鈴木光幸，羽鳥麗子，伊藤嘉規，細野覚代：全国オンライン登録データに基づいた1996-2020年の小児 HBV・HCV 感染小児数の検討. 第60回日本肝臓学会総会（シンポジウム）. 2024, 6, 14.

6 *奥田真珠美，水野靖大，津田桃子，垣内俊彦，幾瀬 圭，下山 克：Helicobacter pylori 感染の診断と治療のガイドライン改訂版：胃がん予防・未成年. 第30回日本ヘリコバクター学会学術集会（シンポジウム）. 2024, 6, 22.

7 *西野将史，垣内俊彦：胃酸分泌低下を有さないヘリコバクター・ピロリ泥沼除菌の小児例. 第30回日本ヘリコバクター学会学術集会（シンポジウム）. 2024, 6, 22.

8 垣内俊彦，田尻 仁，岩間 達，惠谷ゆり，伊藤嘉規，徳原大介，羽鳥麗子，平川賢史，伊藤孝一，細野覚代：Ｂ型およびＣ型肝炎キャリア妊婦からの出生児に対する新たな取り組み. 第51回日本小児栄養消化器肝臓学会. 2024, 10, 4-6.

9 垣内俊彦，田尻 仁，岩間 達，惠谷ゆり，伊藤嘉規，徳原大介，羽鳥麗子，平川賢史，伊藤孝一，細野覚代：Ｂ型およびＣ型肝炎キャリア妊婦からの出生児に対する新たな取り組み. 第56回日本小児感染症学会. 2024, 11, 16.

10 宇都宮朱里，Vlad Tocan，虫本雄一，永松扶紗，笹岡大記，箱田明子，菅野潤子，西 眞範，松尾宗明，大賀正一：ROHHAD（-NET）症候群重症例における疾患関連自己抗体価の検討. 第25回日本内分泌学会中国支部学術集会. 日本内分泌学会雑誌（0029-0661）100巻 4 号. 2024, 9, 7.

11 西 眞範，江口啓意，納所哲也，松尾宗明：造血幹細胞移植後第 3 寛解期に肺胞蛋白症を合併した急性リンパ性白血病の 1 例. 第66回日本小児血液・がん学会学術集会. 2024, 12, 13-15.

12 大津幸穂，西 眞範，江口啓意，納所哲也，松尾宗明：造血幹細胞移植後早期再発急性骨髄性白血

病に対してベネトクラクス・アザシチジン併用療法を実施した幼児の２例．第66回日本小児血液・がん学会学術集会．2024，12，13-15．京都．

13　熊本　崇，土井大人，松尾宗明，金子哲也，野出孝一：β遮断薬・メキシレチン塩酸塩の併用療法を行っている先天性 QT 延長症候群（LQTS2）の一家．第60回日本小児循環器学会総会学術集会．2024，7，10-12．

14　熊本　崇，實藤雅文，土井大人，宇木　望，松尾宗明：心房中隔欠損症における心電図デジタルデータを用いたＰ波定量解析の有用性．第28回日本小児心電学会学術集会．2024，11，29-30．

15　*田島大輔，荻野明日香，田代克弥，柳島正博，松尾宗明：乳児期早期に異常眼球運動を伴う一過性髄液糖低下の５例．第66回日本小児神経学会総会．2024，5，30-6，1．

16　大串栄彦，岡　政史，古川理恵，松尾宗明：経皮的針腎生検後の腎出血に対しコイル塞栓術を要した10歳女児例．第59回日本小児腎臓病学会学術集会．2024，6，7-8．

17　*一ノ瀬文男，樋口直弥，中村拓自，實藤雅文，川口　淳，大平智子，森脇浩一，里　龍晴，井上拓志，園田有里，酒井康成，柳井雅明，松尾宗明：小児有熱時けいれん重積におけるけいれん重積型（二相性）急性脳症の発症に関する前向き研究．第66回日本小児神経学会総会．2024，5，30-6，1．

18　*溝口ゆかり，尾形善康：頸椎癒合を契機に診断された若年性脊椎関節炎の男児例．第68回日本リウマチ学会総会・学術集会．2024，4，18-20．

19　*溝口ゆかり，山下　駿，井上　香，八板静香，井手則子，徳島　緑，徳島圭宜，磯田広史，福森則夫，多胡雅毅，小田康友：予防接種前後における臨床実習中の医学生の皮下注射手技への自信の変化：単施設前向き介入研究．第56回日本医学教育学会大会．2024，8，9-10．

20　土井大人，熊本　崇，松尾宗明，山口尊則：急性心筋炎との鑑別を要した，ベラパミル感受性心室頻拍による頻拍誘発性心筋症の１例．第60回日本小児循環器学会学術集会．2024，7，11-13．

21　中村拓自，樋口直弥，實藤雅文，松尾宗明：リスジプラム内服で自律神経活動度が改善した脊髄性筋萎縮症１型の２症例．第66回日本小児神経学会学術集会．2024，5，30-6，1．

22　中村拓自，樋口直弥，實藤雅文，松尾宗明：生後１か月でけいれん群発・重積で発症した XXX 症候群の一例．第57回日本てんかん学会学術集会．2024，9，12-14．

23　樋口直弥，中村拓自，實藤雅文，山本徒子，副島英伸，松尾宗明：アレイ CGH で MECP2重複症候群を診断し遺伝カウンセリングまで経験した一例．第66回日本小児神経学会学術集会．2024，5，30-6，1．

24　平川雄大，土井大人，中村拓自，松尾宗明：循環血液量減少性ショック後に意識障害が遷延し，アストロウイルス１型脳症と診断した14トリソミー女児例．第37回日本小児救急医学会学術集会．2024，7，27-28．

25　張　雨萌，沼川忠広，梶原隆太郎，Kiseok Lee，堀田知里，城戸　淳，松尾宗明，江良択実：Tay-sachs 病 iPSC 由来のニューロンにおけるシナプス機能異常．第23回日本再生医療学会総会．2024，3，21-23．

26　張　雨萌，沼川忠広，梶原隆太郎，Kiseok Lee，Jing Pu，堀田知里，城戸　淳，松尾宗明，江良択実：Calcium dysregulation in Tay-Sachs disease neurons．第65回日本先天代謝異常学会学術集会，第20回アジア先天代謝異常症シンポジウム．2024，11，7-9．

27　岡　政史，田中征治，桐野泰造，塩穴真一，木村崚真，太田安孝，黒木　純，久松英治：Continuing Professional Development；水腎症，膀胱尿管逆流マネジメント．第59回日本小児腎臓病学会

学術集会．2024，6，7-8.

28 樋口直弥，中村拓自，實藤雅文，中藤大輔，小崎健次郎，武内俊樹，松尾宗明：早期の適切な治療が奏功しているSCN2A関連新生児てんかんの女児例．第57回日本てんかん学会学術集会．2024，9，13.

地方規模の学会

1 尾形善康，溝口ゆかり，渕上真穂，杉田和成，松尾宗明：当科で治療中の限局性強皮症の11歳女児例．第68回九州リウマチ学会．2024，9，7-8.

2 *岡本梨奈，山口杏月，阿部日向子，野村忠洋，森田竜麻，松永拓也，冨永直之，島田里美，垣内俊彦：生後4ヶ月の血便で発覚したサイトメガロウイルス腸炎の一例．第124回日本消化器病学会九州支部例会．2024，11，15.

3 岩永　晃，工藤舞花，中村圭佑，伊東優哉，中林結子，川﨑祥平，熊本愛子，前田寿幸，西村真二，一ノ瀬文男，在津正文，實藤雅文：胃瘻による経腸栄養から食物経口負荷試験を行った医療的ケア児の一例．第96回佐賀小児科地方会ハイブリッド開催．2024，4，14.

4 *溝口ゆかり，尾形善康，松尾宗明：当科で経験したPachydermodactylyの2例．第67回九州リウマチ学会．2024，3，2-3.

5 *溝口ゆかり，山下　駿，張　雨萌，熊本　崇，松尾宗明：シミュレーター実習開始前後での臨床実習生の意識変化．第97回佐賀小児科地方会 第221回日本小児科学会長崎地方会・合同地方会ハイブリッド開催．2024，7，21.

6 *溝口ゆかり，納所哲也，張　雨萌，江原元気，森田　駿，熊本　崇，尾形善康，松尾宗明：医学生に小児科の魅力を伝える：佐賀大学の取り組み．第77回九州小児科学会．2024，11，16-17.

7 土井大人，納所哲也，熊本　崇，松尾宗明：バセドウ病に発作性上室性頻拍を合併した女児例．第36回九州小児不整脈研究会．2024，11，9-10.

8 中村拓自，樋口直弥，實藤雅文，松尾宗明，片側肥大：神経芽腫を合併したTUBA1A tubulinopathyの一例．第452回福岡小児神経研究会．2024，3，23.

9 中村拓自，樋口直弥，實藤雅文，松尾宗明：キアリ奇形Ⅰ型に合併した脊髄空洞症にて右下肢痙性，側弯症を呈した一例．第428回福岡小児神経研究会．2024，7，20.

10 江原元気，岩永　学，松尾宗明，武内俊樹：哺乳児のチアノーゼと筋緊張低下を契機にPriority-I（新生児集中治療室における精緻・迅速な遺伝子診断）を行い，PURA関連神経発達異常症と診断した乳児例．第96回佐賀小児科地方会ハイブリッド開催．2024，4，14.

11 江原元気，岩永　学，松尾宗明：18トリソミーの児に対する医療方針を多職種カンファレンスで検討し，緩和治療へ移行した一例．第30回出生前から小児期にわたるゲノム医療フォーラム．2024，10，20.

12 樋口直弥，中村拓自，一ノ瀬文男，實藤雅文，松尾宗明：発達遅滞，HbF上昇を特徴とするDias-Logan症候群の一例．第96回日本小児神経学会九州地方会Web開催．2024，1，7.

13 樋口直弥，納所哲也，中村拓自，實藤雅文，松尾宗明：インフルエンザBを契機に可逆性脳梁膨大部病変を伴う軽症脳症（MERS）＋小脳炎を呈した5歳男児例．第96回佐賀小児科地方会ハイブリッド開催．2024，4，14.

14 樋口直弥，中村拓自，實藤雅文，松尾宗明：早期の適切な治療が奏功しているSCN2A関連新生児てんかんの女児例．第427回福岡小児神経研究会 Web開催．2024，6，15.

15　樋口直弥，中村拓自，實藤雅文，中藤大輔，小崎健次郎，武内俊樹，松尾宗明：発達遅滞，筋緊張低下，頻回の感染症罹患からMECP2重複症候群と診断した1歳男児例．第429回福岡小児神経研究会．2024，9，28.

16 *吉浦真登，坂田佑理恵，森田　駿，浦島真由美，大串栄彦，一ノ瀬文男，西川小百合，在津正文：米に対する食物蛋白誘発胃腸症（FPIES）の一例．第96回佐賀小児科地方会ハイブリッド開催．2024，4，14.

17　納所哲也，西　眞範，江口啓意，平川雄大，工藤舞花，松尾宗明：急性リンパ性白血病の治療中に抗GAD抗体陽性の糖尿病を合併した2例．第29回九州山口小児血液・免疫・腫瘍研究会．2024，1，6.

18　納所哲也，土井大人，熊本　崇，松尾宗明：川崎病再考～IVIG不応例の対応～．第98回佐賀小児科地方会 ハイブリッド開催．2024，12，14.

19　島田里美，馬場裕太，坂田佑理恵，伊東優哉，岩永　晃，熊本愛子，前田寿幸，西村真二，垣内俊彦，藤岡勝慶，冨永直之，緒方伸一，増田正憲：黒色便を呈したサイトメガロウイルス腸炎の4か月女児の一例．第98回佐賀小児科地方会 ハイブリッド開催．2024，12，14.

20 *野村三璃，中村美結，石田有莉，溝口ゆかり，垣内俊彦，尾形善康，松尾宗明：全身型若年性特発性関節炎の治療経過中に潰瘍性大腸炎を合併した一例．第68回九州リウマチ学会．2024，9，7–8.

21　平川雄大，西　眞範，江口啓意，納所哲也，樋口直弥，實藤雅文，松尾宗明：肥満の精査中に見つかった腹部腫瘍から診断に至ったROHHAD症候群の1例．第29回九州山口小児血液・免疫・腫瘍研究会．2024，1，6.

22　平川雄大，西　眞範，納所哲也，江原元気，江口啓意，土井絹華，松浦朋美，松尾宗明：自閉スペクトラム症を背景として，偏食による巨赤芽球性貧血を来した一例．第96回佐賀小児科地方会 ハイブリッド開催．2024，4，14.

23　平川雄大，樋口直弥，中村拓自，西　眞範，山田耕治，伊東優哉，實藤雅文，松尾宗明：幼児期からの急速な肥満と呼吸障害，行動異常を呈した2歳女児．第97回日本小児神経学会九州地方会．2024，8，4.

24　平川雄大，土井大人，中村拓自，熊本　崇，松尾宗明：循環血液量減少性ショック後に意識障害が遷延し，アストロウイルス1型脳症と診断した14トリソミー女児例．第23回九州沖縄小児救急医学研究会．2024，8，31.

25　平川雄大，土井大人，熊本　崇，西川小百合，田代克弥：幼児期に2：1房室ブロック・QT延長を指摘された男児例．第36回九州小児不整脈研究会．2024，11，9–10.

26　平川雄大，樋口直弥，江口啓意，中村拓自，西　眞範，實藤雅文，松尾宗明：内斜視と緩徐進行性の左片麻痺を示し，2歳で診断されたびまん性橋膠腫の女児例．第431回福岡小児神経研究会．2024，12，7.

27　平川雄大，會澤南海，樋口直弥，中村拓自，實藤雅文，松尾宗明：免疫グロブリン大量療法で汗疱性湿疹を呈した抗MOG抗体関連疾患の1例．第98回佐賀小児科地方会ハイブリッド開催．2024，12，4.

28　樋口直弥，中村拓自，實藤雅文，山本徒子，副島英伸，松尾宗明：MECP2重複症候群についての遺伝カウンセリングを経験した一例．第30回出生前から小児期にわたるゲノム医療フォーラム．2024，10，20.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
教　授	松尾　宗明	厚生労働省科学研究費補助金	難治性疾患政策研究事業	2	早老症のエビデンス集積を通じて診療の質と患者 QOL を向上する全国研究	200
教　授	松尾　宗明	厚生労働省科学研究費補助金	難治性疾患政策研究事業	2	神経皮膚症候群および色素性乾皮症・ポルフィリン症の学際的診療体制に基づく医療最適化と患者 QOL 向上のための研究	1,000
教　授	松尾　宗明	令和６年度「橋渡し研究プログラム」（九州大学拠点）	シーズＣ	2	先天性有機酸血症の新治療薬による医師主導臨床試験準備研究	500
教　授	松尾　宗明	令和６年度　再生・細胞医療・遺伝子治療実現加速化プログラム	新・標的分子と新・神経機能解析法を用いた糖脂質代謝異常症の薬剤開発	2	疾患特異的 iPS 細胞を用いた病態解明・創薬研究課題	1,000
准教授	實藤　雅文	令和６年度科学研究費補助金	基盤研究(C)	2	発達期の欠神てんかんと注意欠如・多動性障害の関連の解明～定量的脳波・遺伝子解析～	1,040
講　師	尾形　善康	2024年度科学研究費補助金	基盤研究(C)	1	iPS 細胞を用いた反復性急性肝不全（RALF）の病態解明	1,690
診　療 准教授	垣内　俊彦	科学研究費助成事業	若手研究	2	便を用いた新規開発試薬によるピロリ菌テーラーメイド除菌療法の社会実装性の評価	4,800
診　療 准教授	垣内　俊彦	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	中学生ピロリ菌検診の検証：検査の精度と除菌治療後フォロー体制の確立に向けて	100
診　療 准教授	垣内　俊彦	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	行政主導の若年者向けピロリ菌感染対策による胃がん予防プログラムの検討	150
診　療 准教授	垣内　俊彦	肝炎等克服実用化研究事業	肝炎等克服緊急対策研究事業（AMED）	2	小児のウイルス性肝炎の経過及び治療選択に関する研究	130
診　療 准教授	垣内　俊彦	共同臨床研究費	大塚製薬株式会社共同臨床研究	1	ラピラン H. ピロリ抗体スティックの小児尿を対象とした臨床性能評価	650
診　療 准教授	垣内　俊彦	佐賀大学広報室	大学病院ワクワク探検隊	1	令和６年度「こども見学デー」	200

学術（学会）賞

職　名	氏　名	学術（学会）賞名	受　賞　課　題
診　療 准教授	垣内　俊彦	第18回ふくおか医療活動功労賞	佐賀県中学３年生ピロリ検診「未来へ向けた胃がん対策推進事業」

一般・消化器外科学講座

著　　書

1　松藤祥平，能城浩和：【食道癌2024－基礎・臨床の最新動向－】食道癌の治療 外科治療 胸部食道癌に対する手術 胸部食道癌に対するロボット支援食道切除術（解説）．日本臨床 82(増刊３）食道癌：324-329，2024.

2　*Masaki Mori 1 2, Satoshi Hirano 3 4, Kenichi Hakamada 3 5, Eiji Oki 3 6, Shigeo Urushidani 7, Ichiro Uyama 3 8, Masatoshi Eto 9, Yuma Ebihara 3 4, Kenji Kawashima 10, Takahiro Kanno 11, Masaru Kitsuregawa 12, Yusuke Kinugasa 3 13, Junjiro Kobayashi 3 14, Hiroshige Nakamura 3 15, Hirokazu Noshiro 3 16, Masaki Mandai 17, Hajime Morohashi 3 5: Clinical practice guidelines for telesurgery 2022: Committee for the promotion of remote surgery implementation, Japan Surgical Society. Practice Guideline Surg Today 54(8): 817-828, 2024, 6.

原著論文

1　Hirokazu Noshiro 1, Takao Ide 2, Akinari Nomura 3, Yukie Yoda 2, Masatsugu Hiraki 2, Tatsuya Manabe 2: Introduction of a new surgical robot platform “hinotori™” in an institution with established da Vinci surgery™ for digestive organ operations. Surgical Endoscopy 38(7): 3929-3939, 2024.

2　Tatsuya Manabe, Hiroshi Kitagawa, Yasutaka Yamada, Yoshiro Sakaguchi, Hirokazu Noshiro: Reply to the letter to the editor regarding “A prospective randomized study of multimodal analgesia combined with single injection transversus abdominis plane block versus epidural analgesia against postoperative pain after laparoscopic colon cancer surgery”. Int J Colorectal Dis. 16; 39(1): 52, 2024.

3　*Shunsuke Furukawa, Masatsugu Hiraki, Naoya Kimura, Ryota Sakurai, Ryo Kohata, Naohiko Kohya, Masashi Sakai, Akashi Ikubo, Ryuichirou Samejima: Enhancing clinical proficiency through laparoscopic training using Japanese origami. Laparoscopic, Endoscopic and Robotic Surgery: 102-106, 2024.

4　Naoya kimura, Masatsugu Hiraki, Shunsuke Furukawa, Keiichiro Okuyama, Naohiko Kohya, Masashi Sakai, Atsushi Kawaguchi, Akashi Ikubo and Ryuichiro Samejima: The Recurrence risk analysis for stage II and III clorectal cancer, and the implications of diabetes mellitus as a risk factor for the remurrence of stage III colorectal cancer Recurrence risk analysis for stage II and III colorectal cancer, and the implications of diabetes mellitus as a risk factor for the recurrence of stage III colorectal cancer. Molecular and Clinical oncology 21:89 Mol Clin Oncol. 2024 Oct 1; 21(6): 89, 2024.

5　*Shunsuke Furukawa, Masatsugu Hiraki, Yosuke Hashimoto, Yusuke Noda, Hiroo Kanai, Masao Ichikawa: Evaluating laparoscopic skills: Report on the origami crane folding competition using laparoscopic instruments with objective criteria. Cureus 16(10), 2024.

6　○Maeda S, Kai K, Kawasaki K, Tanaka T, Ide T, Noshiro H: Analysis of CD1a-Positive Monocyte-Derived Cells in the Regional Lymph Nodes of Patients with Gallbladder Cancer. Int J Mol Sci. Int J Mol Sci. 25, 12763, 2024.

7 *Kitagawa H, Manabe T, Yamada Y, Sato H, Takesue S, Hiraki M, Kawaguchi A, Sakaguchi Y, Noshiro H: A prospective randomized study of multimodal analgesia combined with single injection transversus abdominis plane block versus epidural analgesia against postoperative pain after laparoscopic colon cancer surgery. International Journal of Colorectal Disease 39:12 Int J Colorectal Dis. 2023 Dec 29; 39(1): 12, 2024.

8 *Shunsuke Furukawa, Kota Wakiyama, Keiji Okamura, Hirokazu Noshiro: Usefulness of laparoscopic inguinal hernia repair using the Endoscope Manipulator Robot (EMARO). Hernia 28(5): 1461-1465 Hernia. 2024 Aug; 28(4): 1461-1465, 2024.

9 *Shunsuke Furukawa, Masatsugu Hiraki, Naoya Kimura, Keiichiro Okuyama, Naohiko Kohya, Masashi Sakai, Atsushi Kawaguchi, Akashi Ikubo, Ryuichiro Samejima: The clinical impact of intraoperative bleeding on peritoneal recurrence after surgery for stage II to III colorectal cancer. Asian Journal of Surgery 48: 363-369 Asian J Surg. 2024 Nov 6: S1015-9584(24)02314-5, 2024.

10 Egawa N, Miyoshi A, Koga H, Kitahara K, Noshirio H: Six-port robotic liver resection using double bipolar clamp-crush method with saline drops: Advancing safety, efficiency, and versatility in liver parenchymal dissection. Cureus 16(10): e71580, 2024.

11 *Hirashita T, Ikenaga N, Nakata K, Nakamura M, Kurahara H, Ohtsuka T, Tatsuguchi T, Nishihara K, Hayashi H, Nakagawa S, Ide T, Noshiro H, Adachi T, Eguchi S, Miyoshi A, Kohi S, Nanashima A, Nagano H, Takatsuki M, Inomata M: Prognostic significance of lymph node metastasis in pancreatic tail cancer: A multicenter retrospective study. Ann Gastoenterol Surg. 8(4): 681-690 Ann Gastroenterol Surg. 2024 Jan 9; 8(4): 681-690, 2024.

12 *Kohei Yamada, Jaivardhan A Menon, Yaunghyun Kim, Changde Cheng, Wenan Chen, Jenny A Shih, Ana B Villasenor-Altamirano, Xiang Chen; Immunology of Cardiac Arrest Network (I-CAN); Tomoyoshi Tamura, Louis T Merriam, Edy Y Kim, Alexandra J Weissman: Protocol for immunophenotyping out-of-hospital cardiac arrest patients. STAR Protoc. 5(1): 102874 STAR Protoc. 2024 Mar 15; 5(1): 102874, 2024.

13 *Tomoyoshi Tamura, Changed Cheng, Ana B Villasenor-Altamirano, Kohei Yamada, Kohei Ikeda, Kei Hayashida, Jaivardhan A Menon, Xi Chen, Hattie Chung, Jack Varon, Jiani Chen, Jiyoung Choi, Aidan Cullen, Jingyu Guo, Xi Lin, Benjamin Olenchock, Mayra Pinilla-Vera, Reshmi Manandhar, Muhammad Dawood Amir Sheikh, Peter Hou, Patrick Lawler, William Oldham, Raghu Seethala, Rebacca Varon, Erin Bohula, David Morrow, Richard Blumberg, Fei Chen, Louis Merriam, Alexandra Weissman, Michael B. Brenner, Xiang Chen, Fumito Ichinose, Edy Y. Kim: I-CAN consortium. Innate T cells regulate early inflammation and neurological outcomes after cardiac arrest and resuscitation. Sci. Diverse NKT cells regulate early inflammation and neurological outcomes after cardiac arrest and resuscitation. Transl. Med 16(776) Sci Transl Med. 2024 Dec 4; 16(776): eadq5796, 2024.

14 *Tatsuto Nishigori 1 2, Hiraku Kumamaru 3, Kazutaka Obama 1 2, Koichi Suda 1 4 5, Shigeru Tsunoda 1 2, Yukie Yoda 1 6, Makoto Hikage 1 7, Susumu Shibasaki 1 4, Tsuyoshi Tanaka 1 4, Masanori Terashima 1 7, Yoshihiro Kakeji 8 9, Masafumi Inomata 10 11, Yuko Kitagawa 12 13, Hiroaki Miyata 3, Yoshiharu Sakai 1 14, Hirokazu Noshiro 1 6, Ichiro Uyama 1 15 16: Short-term outcomes

of robot-assisted versus conventional minimally invasive esophagectomy: A propensity score-matched study via a nationwide database. Ann Gastroenterol Surg 9(1): 109-118, 2024.

総　　説

1 *松浦　洋，平木将紹，能城浩和：【食道胃接合部癌診療のすべて】術中トラブルシューティング（解説）．消化器外科 47(6)：707-714，2024，6.

2 能城浩和：新規手術ロボット参入において分かったこと．外科（特集）vol. 86 No. 4，2024.

3 *鶴　安浩，能城浩和：手術手技 血流を重視した亜全胃胃管を用いた自動縫合器による後縦隔経路頸部食道胃管三角吻合．手術 78(5)：831-837，2024.

4 *小野航平，真鍋達也，能城浩和：hinotori を用いた手術の実際：食道切除術．臨床外科 79(10) 別冊，2024.

5 池田　貯，鶴　安浩，能城浩和：特集 食道・胃のロボット支援手術を極める ロボット支援下の胃切除後再建術．消化器外科 47(11)：1317-1327，2024.

6 西田泰治，真鍋達也，能城浩和：ロボット支援食道切除術．臨床外科 79(13)：1336-1343，2024.

7 *生野晴奈，平木将紹，真鍋達也，能城浩和：直腸脱に対する腹腔鏡下 ventral rectopexy 変法の手術手技．手術 78(13)：2099-2104，2024，12.

症例報告

1 *井上葉子，亀井麻里沙，橋本優香，實松麻衣，斧沢幸司，福田　誠，吉原万貴，木村直也，梶原修平，脇山幸大，能城浩和，宮園素明：臨牀指針 腹膜透析患者の鼠径ヘルニアに対し異なるアプローチで手術された 2 症例 腹膜透析患者の鼠径ヘルニアに対し異なるアプローチで手術された 2 症例．臨牀と研究 Vol: 99 Issue: 11: 1384-1386，2024，11.

2 *Kisu E, M Hiraki, Okuyama K, Maeda S, Takesue S, Kusaba K, Kai K, Manabe T, Noshiro H: Multiple foci of Rosai-Dorfman disease in colon: a case report. Surgical Case Report 10 173 Surg Case Rep. 2024 Jul 19; 10(1): 173, 2024.

3 *三根夢花，甲斐敬太，北村　捷，川崎佳奈子，山内盛泰，馬場耕一，倉富勇一郎，能城浩和，末岡榮三朗，相島慎一：後腹膜に嚢胞状転移巣を形成した，非常に稀な顎下腺腺様嚢胞癌の 1 例．日本臨床細胞学会九州連合会雑誌 55：47-51，2024，7.

4 Tomokazu Tanaka, Takao Ide, Kotaro Itoh, Keita Kai, Hirokazu Noshiro: Laparoscopic liver resection for local recurrence after carbon-ion radiotherapy for hepatocellular carcinoma: A case report. Oncol Lett. 2023 Dec 28; 27(2): 78, 2024.

5 *古川舜理，平木将紹，櫻井良太，神谷尚彦，村山賢一郎，蒲池和晴，岩崎めぐみ，鮫島隆一郎：mFOLFOX6療法中に高アンモニア血症による意識障害を認めた直腸癌多発肝転移の 1 例．癌と化学療法 51(5)：567-570，2024.

6 *Shunsuke Furukawa, Masatsugu Hiraki, Takeshi Oda, Yukihiko Takahashi, Ryuichiro Samejima: Precision CT guided marking with India ink and microcoils for laparoscopic resection of a lateral lymph node recurrence of rectal cancer: A case report. Oncol Lett. 27(6): 266, 2024, 4.

7 池田翔大，田中智和，伊藤孝太朗，井手貴雄，能城浩和：胸腔子宮内膜症のため気腹に難渋した腹腔鏡下肝切除施行肝細胞癌の 1 例．日本臨床外科学会雑誌 85(1)：88-92，2024，1.

8 *古川舜理，井手貴雄，與田幸恵，能城浩和：幽門側胃切除後の膵内副脾上皮嚢胞に対し腹腔鏡下脾温存尾側膵切除術を施行した 1 例．日本消化器外科学会雑誌 57(2)：82-91，2024，2.

9 *古川舜理，平木将紹，明石道昭，宮原貢一，鮫島隆一郎：回盲弁 lipohyperplasia の基部に癌が発生し粘膜下腫瘍様形態を呈した上行結腸癌．日本消化器病学会雑誌 121(4)：315-320，2024.

10 *古川舜理，平木将紹，明石道昭，甲斐敬太，櫻井良太，木村直也，鮫島隆一郎：早期胃癌の術後に少量の神経内分泌細胞成分が多発肝転移を来した 1 例．日本消化器外科学会雑誌 57(9)：419-426，2024.

11 *Tomihara K, Ito K, Kai K, Tanaka T, Ide T, Noshiro H: A case of intrahepatic mass-forming portal biliopathy mimicking intrahepatic cholangiocarcinoma. Clin J Gastroenterol 17: 671-676, 2024.

12 *古川舜理，平木将紹，梶原脩平，明石道昭，宮原正晴，鮫島隆一郎：胃形質細胞腫に対し腹腔鏡下幽門側胃切除術を施行した長期生存例．日本消化器外科学会雑誌 57(1)：10-17，2024.

13 *古賀浩木，三好　篤，江川紀幸，安座間真也，北原賢二：胆管ステント留置に伴う右肝動脈仮性動脈瘤からの胆道出血に対して血管内ステント留置を施行した 1 例．日本消化器外科学会雑誌 57(11)：567-574，2024.

14 *Kazuki Tomihara 1, Takao Ide 2, Kotaro Ito 2, Tomokazu Tanaka 2, Hirokazu Noshiro 2: Robotic spleen-preserving distal pancreatectomy using the first domestic surgical robot platform (the hinotori™ Surgical Robot System): a case report. Surg Case Rep. 10(1): 22, 2024, 1.

15 *雪本薫平，伊藤孝太朗，田中　太，田中智和，井手貴雄，能城浩和：肝外門脈閉塞症合併例に対する3D シミュレーションと ICG 蛍光胆道造影法を用いた腹腔鏡下胆嚢摘出術．日本内視鏡外科学会雑誌．29(4)：272-277，2024.

16 由比元顕，田中智和，松浦　洋，伊藤孝太朗，井手貴雄，能城浩和：腹腔鏡下肝切除を行った肝型糖原病合併肝細胞癌の 1 例．日本臨床外科学会雑誌．85(7)：945-951，2024.

17 *今村美乃莉，田中智和，松永壮人，伊藤孝太朗，井手貴雄，能城浩和：開腹肝切除後に発症し重篤な転帰をとった寒冷凝集素症の 1 例．日本臨床外科学会雑誌．85(1)：82-87，2024.

学会発表

国際規模の学会

1 Takao Ide, K Ito, T Tanaka, H Noshiro: The efficacy of laparoscopic anatomical liver resection for postoperative liver function. EAES2024 32nd international congress of the European Association for Endoscopic Surgery. Tuesday 11 June-Friday 14 June 2024.

2 Tomokazu Tanaka, K ito, T Ide, H Noshiro: Laparoscopic choledocholithotomy for choledocholithiasis after total gastrectomy ～ Knack & Pitfalls of treatmento results ～ . EAES2024 32nd international congress of the European Association for Endoscopic Surgery. Tuesday 11 June-Friday 14 June 2024.

3 Kotaro Ito, T Tanaka, T Ide, H Noshiro: Novel three-dimensional navigation system for robotic-assisted pancreatectomy. EAES2024 32nd international congress of the European Association for Endoscopic Surgery. Tuesday 11 June-Friday 14 June 2024.

4 Noriyuki Egawa, H Koga, A Miyoshi, K Kitahara, H Noshiro: 6 ports robotic liver resection for clamp-crush technique with saline dripping in liver parenchymal transection. EAES2024 32nd international congress of the European Association for Endoscopic Surgery. Tuesday 11 June-Friday 14 June 2024.

5 Shohei Matsufuji, Y, Y Yoda, H Noshiro: Overlapped esophagojejunostomy following laparoscopic

or roboric total gastrectomy to prevent jejunal stricture near the esophageal hiatus without anastomotic stenosis. EAES2024 32nd international congress of the European Association for Endoscopic Surgery. Tuesday 11 June-Friday 14 June 2024.

国内全国規模の学会

1　井手貴雄，伊藤孝太朗，田中智和，能城浩和：hinotori Surgical System を用いた尾側膵切除における手術手技．第16回日本ロボット外科学会学術集会．2024，2，10-11.

2　與田幸恵，松藤祥平，能城浩和：hinotori™ Surgical System を用いたロボット支援食道切除術～セットアップのコツと短期成績～．第16回日本ロボット外科学会学術集会．2024，2，10-11.

3　松藤祥平，與田幸恵，能城浩和：hinotori を用いたロボット支援胃切除術．第16回日本ロボット外科学会学術集会．2024，2，10-11.

4　*池田　貯，鶴　安浩，新藤優里，北川　浩，江川紀幸，古賀浩木，古賀靖大，三好　篤，田中聡也，北原賢二，佐藤清治：進行胃癌に対するロボット手術を行う意義とその手技の工夫～合併症を減らし，周術期化学療法を充実させる～．第96回日本胃癌学会総会．2024，2，28-3，1.

5　與田幸恵，松藤祥平，能城浩和：腹腔鏡下噴門側胃切除術における食道残胃吻合（観音開き法）の治療成績．第96回日本胃癌学会総会．2024，2，28-3，1.

6　*鶴　安浩，池田　貯，新藤優里，北川　浩，江川紀幸，古賀浩木，古賀靖大，三好　篤，田中聡也，北原賢二，佐藤清治：鏡視下胃全摘術における食道空腸吻合時のトラブルシューティング－ロボット手術の有用性の検討－．第96回日本胃癌学会総会．2024，2，28-3，1.

7　田中優里，池田　貯，鶴　安浩，櫻井良太，北川　浩，江川紀幸，古賀浩木，古賀靖大，三好　篤，田中聡也，北原賢二，佐藤清治：ロボット胃全摘，噴門側切除における肝外側区域授動の有用性～ロボットの特性を生かすための工夫と注意点～．第96回日本胃癌学会総会．2024，2，28-3，1.

8　萬家大智，赤木由人，川島裕資，堀田千恵子，久保　洋，佐藤博文，下西智徳，廣橋喜美，藤田文彦，能城浩和：胃穿孔腹膜炎術後に胃癌と診断され，化学療法後に根治手術を施行した1例．第96回日本胃癌学会総会．2024，2，28-3，1.

9　松藤祥平，與田幸恵，能城浩和：CY1-P0胃癌に対する治療戦略．第96回日本胃癌学会総会．2024，2，28-3，1.

10　能城浩和：消化器領域におけるロボット支援手術の進歩と今後の展望．第29回日本形成外科手術手技学会．2024，3，2.

11　○前田佐知子，甲斐敬太，川崎佳奈子，田中智和，井手貴雄，能城浩和：胆嚢癌の所属リンパ節における CD1a 陽性樹状細胞の検討．第113回日本病理学会総会．2024，3，28-30.

12　真鍋達也，武居　晋，平木将紹，能城浩和：局所進行大腸癌に対する内視鏡下骨盤臓器合併切除におけるロボット支援手術の有用性．第124回日本外科学会定期学術集会．2024，4，18-20.

13　井手貴雄，伊藤孝太朗，田中智和，能城浩和：尾側膵切除における手技の工夫～術中3D navigation system とロボットの特性を活かした術後膵液瘻対策～．第124回日本外科学会定期学術集会．2024，4，18-20.

14　平木将紹，武居　晋，伊藤孝太朗，田中智和，井手貴雄，真鍋達也，能城浩和：切除可能な同時性大腸癌肝転移の術後再発リスク因子の検討．第124回日本外科学会定期学術集会．2024，4，18-20.

15　與田幸恵，松藤祥平，能城浩和：胸部食道癌に対するロボット支援手術の短中期成績．第124回日本外科学会定期学術集会．2024，4，18-20.

16　田中智和，伊藤孝太朗，井手貴雄，能城浩和：膵液瘻発症および重症化予防を目的とした細菌感染の意義～術前経口化学的腸管処置とドレーン監視培養に着目して～．第124回日本外科学会定期学術集会．2024，4，18-20.

17　武居　晋，平木将紹，真鍋達也，能城浩和：２ロボット支援手術が解き明かす右側結腸間膜背側の微細解剖－十二指腸に触れない右側結腸授動－．第124回日本外科学会定期学術集会．2024，4，18-20.

18　*伊藤孝太朗，田中智和，井手貴雄，能城浩和：１　3D シュミレーションの術中3D 表示システムと3D 内視鏡システムを用いた腹腔鏡下系統的肝切除．第124回日本外科学会定期学術集会．2024，4，18-20.

19　松藤祥平，與田幸恵，能城浩和：上部消化管外科におけるロボット手術のトラブルシューティング（ヒヤリハットを除く）ロボット支援食道切除における気管損傷に対する心膜パッチを用いた修復術．第124回日本外科学会定期学術集会．2024，4，18-20.

20　*眞﨑晴奈，平木将紹，武居　晋，真鍋達也，能城浩和：直腸脱に対する腹腔鏡下直腸腹側固定術・変法の手術手技と治療成績．第124回日本外科学会定期学術集会．2024，4，18-20.

21　能城浩和：ロボット手術のこれからを考える～全てのロボットで定型化は可能か？～．第78回手術手技研究会．2024，6，7-8.

22　Takao Ide, K Ito, T Tanaka, H Noshiro: Influence of previous gastrectomy on postoperative bile leakage after laparoscopic liver resection. 第36回日本肝胆膵外科学会・学術集会．2024，6，28-29.

23　Tomokazu Tanaka, Kotaro Ito, Takao Ide, Hirokazu Noshiro: Surgical technique of laparoscopic whole layer cholecystectomy with oncological safety and less invasiveness for early gallbladder cancer. 第36回日本肝胆膵外科学会・学術集会．2024，6，28-29.

24　*Kotaro Ito, Tomokazu Tanaka, Takao Ide, Hirokazu Noshiro: A three-dimensional real time navigation system for laparoscopic anatomical liver resection. 第36回日本肝胆膵外科学会・学術集会．2024，6，28-29.

25　能城浩和：hinotori エキスパートの視点～食道癌手術～講演．第78回日本食道学会学術集会．2024，7，4-5.

26　馬場耕一，真鍋達也，能城浩和：乳房部分切除後のよりよい整容性を目指して～内視鏡下乳房部分切除＋Suture scaffold 法～．第32回日本乳癌学会学術総会．2024，7，11-13.

27　真鍋達也，武居　晋，平木将紹，能城浩和：進行直腸癌に対する術前治療の周術期への影響 Impact of preoperative therapy for locally advanced rectal cancer on perioperative course. 第79回日本消化器外科学会総会．2024，7，17-19.

28　井手貴雄，伊藤孝太朗，田中智和，能城浩和：Precision anatomy に基づく肝外グリソン鞘一括先行確保による腹腔鏡下肝 S8領域解剖学的切除 Laparoscopic extrahepatic Glissonean approach for the segment 8 based on precision anatomy. 第79回日本消化器外科学会総会．2024，7，17-19.

29　平木将紹，武居　晋，真鍋達也，能城浩和：一般演題151　大腸：高齢者3P151-5　高齢者（80歳以上）に対する切除可能 Stage IV 大腸癌の治療成績の検討 Treatment outcome of resectable Stage IV colorectal cancer in elderly paients. 第79回日本消化器外科学会総会．2024，7，17-19.

30　田中智和，伊藤孝太朗，井手貴雄，能城浩和：一般演題021膵臓：術前化学療法1P020-8 切除可能

膵癌に対する周術期治療戦略～術前化学療法および術前化学療法前審査腹腔鏡の導入～ Treatment strategy for resectable pancreatic cancer ~Introduction of NAC and staging laparoscopy ～. 第79回日本消化器外科学会総会．2024，7，17-19.

31 *伊藤孝太朗，田中智和，井手貴雄，能城浩和：高齢者膵癌に対する膵頭十二指腸切除のリスク因子の検討 Risk factors for pancreaticoduodenectomy for pancreatic cancer in the eldrly．第79回日本消化器外科学会総会．2024，7，17-19.

32 松藤祥平，與田幸恵，能城浩和：7 胸部食道切除後の後縦郭胃管再建－縫合不全予防のための頸部食道胃管三角吻合のコツ－．第79回日本消化器外科学会総会．2024，7，17-19.

33 井手貴雄，江川紀幸，田中智和，能城浩和：ロボット支援膵切除においてhinotoriは有用か？～daVinciと比較した治療成績の検討～．第51回日本膵切除研究会．2024，8，30-31.

34 木村直也，北島吉彦，池田翔太，日暮一喜，松藤祥平，田中智和，能城浩和：HCCにおける治療・再発／Therapy & recurrence in HCC P-3180脂肪酸代謝に着目した肝細胞癌に対するケトジェニック食およびHIF-1阻害薬併用療法の可能性．第83回日本癌学会学術総会．2024，9，19-21.

35 日暮一喜，北島吉彦，池田翔太，木村直也，松藤祥平，田中智和，能城浩和：がんシグナルと転写の連動／Linking cancer signalling&transcription P-2093癌由来BMPによるSMAD-Idシグナルを介した筋分化抑制効果．第83回日本癌学会学術総会．2024，9，19-21.

36 能城浩和，與田幸恵，松藤祥平：食道癌手術における術中副損傷への対応，開胸移行 EVW-2 低侵襲胸部食道がん手術における術中肺静脈損傷への対応．第77回日本胸部外科学会定期学術集会．2024，11，1-4.

37 田中智和，江川紀幸，井手貴雄，能城浩和：内視鏡膵臓外科手術における止血マネジメント／低侵襲膵切除においけるトラブルシューティングPSY1-3ロボット支援膵切除における出血への対応～ロボット支援手術の特性を理解して～．第18回肝臓内視鏡外科研究会 第16回脾臓内視鏡外科研究会．2024，11，20.

38 江川紀幸，井手貴雄，田中智和，能城浩和：術中に判明した門脈輪状膵を有する遠位胆管癌に対するロボット支援亜全胃温存膵頭十二指腸切除術．第18回肝臓内視鏡外科研究会 第16回脾臓内視鏡外科研究会．2024，11，20.

39 井手貴雄，伊藤孝太朗，江川紀幸，田中智和，能城浩和：術中3Dnavigation systemを活用した低侵襲高難度肝切除術．第86回日本臨床外科学会学術集会．2024，11，21-23.

40 平木将紹，後藤佳登，武居　晋，真鍋達也，能城浩和：直腸癌に対する腹腔鏡補助下とロボット支援手術の長期成績の比較検討．第86回日本臨床外科学会学術集会．2024，11，21-23.

41 *佐藤博文，内川和也，堀田千恵子，浅井雅子，久保　洋，川嶋裕資，下西智徳，廣橋喜美，赤木由人：傍十二指腸ヘルニアに類似した内ヘルニアの治療経験．第86回日本臨床外科学会学術集会．2024，11，21-23.

42 *小野航平，江川紀幸，田中智和，井手貴雄，能城浩和：未熟奇形腫原発Growing Teratoma Syndrome肝転移に対する低侵襲手術．第86回日本臨床外科学会学術集会．2024，11，21-23.

43 真鍋達也，武居　晋，平木将紹，能城浩和：局所進行大腸癌に対する内視鏡下骨盤臓器合併切除におけるロボット支援手術の有用性．第79回日本大腸肛門病学会学術集会．2024，11，29-30.

44 武居　晋，後藤佳登，平木将紹，真鍋達也，能城浩和：ロボット結腸癌手術における体腔内吻合～10分以内で終えるには～．第79回日本大腸肛門病学会学術集会．2024，11，29-30.

45　真鍋達也，後藤佳登，武居　晋，平木将紹，能城浩和：新規ロボットを用いた大腸癌に対するロボット支援手術の短期成績．第37回日本内視鏡外科学会総会．2024，12，5-7.

46 *池田　貯，鶴　安浩，松浦　洋，今村美乃莉，重冨桂二郎，北川　浩，伊藤孝太朗，古賀浩木，古賀靖大，三好　篤，田中聡也：ロボット胃癌手術における再建法選択と手技の工夫～ Bedside surgeon が操作するステープラを用いた再建～．第37回日本内視鏡外科学会総会．2024，12，6.

47 *古賀靖大，北川　浩，鶴　安浩，古賀浩木，池田　貯，三好　篤，田中聡也：ロボット支援直腸切除術における定型化と手術手技の工夫 出血の少ない手術を目指して．第37回日本内視鏡外科学会総会．2024，12，5-7.

48　井手貴雄，江川紀幸，田中智和，能城浩和：肝外グリソン鞘一括先行確保による低侵襲高難度肝切除．第37回日本内視鏡外科学会総会．2024，12，5-7.

49　井手貴雄，江川紀幸，田中智和，能城浩和：hinotori を用いたロボット支援尾側膵切除術～導入後のラーニングカーブと da Vinci との比較～．第37回日本内視鏡外科学会総会．2024，12，5-7.

50　田中智和，江川紀幸，井手貴雄，能城浩和：ロボット支援膵切除における出血に対するトラブルシューティング～ロボットの特性を理解した準備と対応～．第37回日本内視鏡外科学会総会．2024，12，5-7.

51 *佐藤博文，内川和也，堀田千恵子，浅井雅子，久保　洋，下西智徳，赤木由人：術前化学療法で膵頭十二指腸切除術を回避できた進行胃癌の治療経験．第37回日本内視鏡外科学会総会．2024, 12, 5.

52　武居　晋，後藤佳登，平木将紹，真鍋達也，能城浩和：10分以内で終えるロボット結腸体腔内吻合．第37回日本内視鏡外科学会総会．2024，12，5-7.

53　後藤佳登，武居　晋，平木将紹，真鍋達也，能城浩和：低異型度虫垂粘液性腫瘍に対する盲腸部分切除術の検討．第37回日本内視鏡外科学会総会．2024，12，5-7.

54 *北川　浩，古賀靖大，鶴　安浩，古賀浩木，池田　貯，三好　篤，田中聡也：ロボット支援下S状結腸切除術の定型化にむけた当院の工夫．第37回日本内視鏡外科学会総会．2024，12，5-7.

55　江川紀幸，井手貴雄，三好　篤，伊藤孝太朗，田中智和，古賀浩木，北原賢二，能城浩和：系統的肝切除における腹腔鏡手術は長期成績を改善するか？－PSM を用いた開腹手術 vs. 腹腔鏡手術の検討－．第37回日本内視鏡外科学会総会．2024，12，5-7.

56 *鶴　安浩，池田　貯，北川　浩，古賀靖夫，田中聡也：働き方改革だからこそロボット～ Solo surgery で行うロボット胃癌手術の有用性と実効性～．第37回日本内視鏡外科学会総会．2024，12，5-7.

57　西田泰治，田中智和，江川紀幸，井手貴雄，能城浩和：メッシュ損傷を回避した臍ヘルニア術後腹腔鏡下胆嚢摘出術の一例．第37回日本内視鏡外科学会総会．2024，12，5-7.

58　馬場　楓，與田幸恵，富原一貴，松藤祥平，能城浩和：腹壁瘢痕ヘルニア術後メッシュ感染・小腸皮膚瘻に対する腹腔鏡下メッシュ除去術の工夫．第37回日本内視鏡外科学会総会．2024，12，5-7.

59　由比元顕，江川紀幸，田中智和，井手貴雄，能城浩和：若年性肝細胞癌患者に対するロボット支援下肝切除術．第37回日本内視鏡外科学会総会．2024，12，5-7.

地方規模の学会

1　井手貴雄，眞﨑晴奈，伊藤孝太朗，田中智和，能城浩和：ロボット支援肝切除術における術中3D navigation system の活用．第44回九州肝臓外科研究会学術集会．2024，1，27.

2　井手貴雄，伊藤孝太朗，田中智和，能城浩和：主要脈管処理の手技と工夫の実際 腹腔鏡下右側肝

切除における肝門部 glisson 鞘確保．第44回九州肝臓外科研究会学術集会．2024，1，27.

3　田中智和，伊藤孝太朗，井手貴雄，能城浩和：主要脈管処理の手技と工夫の実際 左葉系系統的肝切除における主要脈管処理の手術手技．第44回九州肝臓外科研究会学術集会．2024，1，27.

4　伊藤孝太朗，田中智和，井手貴雄，能城浩和：化学療法後に手術を行った肝細胞癌の経験．第44回九州肝臓外科研究会学術集会．2024，1，27.

5　*眞﨑晴奈，井手貴雄，伊藤孝太朗，田中智和，能城浩和：分節型胆嚢腺筋腫症の頸部側に発生した胆嚢癌の１切除例．第44回九州肝臓外科研究会学術集会．2024，1，27.

6　由比元顕，井手貴雄，馬塲耕一，伊藤孝太朗，田中智和，能城浩和：腹腔鏡下肝切除による長期生存を得た男性乳癌肝転移の１例．第44回九州肝臓外科研究会学術集会．2024，1，27.

7　能城浩和：hinotoriTM 体験セミナー開催記念教育講演 初心者のための手術用ロボット指南．第60回九州外科学会，第60回九州小児外科学会，第59回九州内分泌外科学会．2024，3，8-9.

8　由比元顕，平木将紹，武居　晋，真鍋達也，能城浩和：直腸切断術後の会陰ヘルニア修復術後に発症した子宮広間膜ヘルニア．第60回九州外科学会，第60回九州小児外科学会，第59回九州内分泌外科学会．2024，3，8-9.

9　馬場　楓，伊藤孝太朗，田中智和，井手貴雄，能城浩和：膵神経内分泌腫瘍後11年目の肝移転に対する腹腔鏡下肝切除術．第60回九州外科学会，第60回九州小児外科学会，第59回九州内分泌外科学会．2024，3，8-9.

10　*馬田裕子，江川紀幸，新藤優里，櫻井良太，鶴　安浩，北川　浩，古賀浩木，古賀靖大，池田　貯，三好　篤，田中聡也，北島賢二：初期研修医が手術執刀を経験することの意義－腹腔鏡下胆嚢摘出術の術者経験を通して学んだこと－．第60回九州外科学会，第60回九州小児外科学会，第59回九州内分泌外科学会．2024，3，8-9.

11　*馬田裕子，江川紀幸，新藤優里，鶴　安浩，北川　浩，古賀浩木，古賀靖大，池田　貯，三好　篤，田中聡也，北原賢二，佐藤清治：研修医が手術執刀することの意義・好生館消化器外科研修での術者経験を通して．第18回日本臨床外科学会佐賀県支部学術集会．2024，4，10.

12　*永島聖恭，里　　学，三保貴裕，牛草　淳，鶴　安浩：胃癌術後に急速偽腔拡大をきたした上腸間膜動脈解離の１手術例．第18回日本臨床外科学会佐賀県支部学術集会．2024，4，10.

13　*木須絵理，岡本祐介，手石方崇志，宮原尚文，平塚昌文：巨大嚢胞性縦隔腫瘍に対するロボット支援手術の工夫．第18回日本臨床外科学会佐賀県支部学術集会．2024，4，10.

14　能城浩和：反回神経麻痺の予防について．第25回 FKQ in 京都．2024，5，25.

15　*松浦　洋，武居　晋，平木将紹，真鍋達也，能城浩和：治療方針に苦慮した上腸管膜動脈根部狭窄を伴う SM 深部浸潤疑いの脾弯曲部大腸癌の一例．第123回日本消化器病学会 九州支部例会 第117回日本消化器内視鏡学会 九州支部例会．2024，6，21-22.

16　*小野航平，田中智和，馬場　楓，伊藤孝太朗，井手貴雄，能城浩和：閉塞性黄疸をきたした腎細胞癌胆嚢転移の一切徐例．第123回日本消化器病学会 九州支部例会 第117回日本消化器内視鏡学会 九州支部例会．2024，6，21-22.

17　與田幸恵：胃癌周術期治療の現状と展望．第43回佐賀外科治療フォーラム．2024，7，6.

18　馬場耕一：乳癌手術手技の工夫など．第43回佐賀外科治療フォーラム．2024，7，6.

19　松藤祥平，與田幸恵，江頭秀哲，能城浩和：食道癌術後の乳糜胸に対する局所的胸膜癒着術及び胸管破砕術．第52回九州食道癌合併療法談話会．2024，7，27.

20　真鍋達也：消化器外科が取り組むクローン病肛門疾患．第49回日本大腸肛門病学会九州地方会 第40回九州ストーマリハビリテーション研究会．2024，9，21.

21　武居　晋，後藤佳登，平木将紹，真鍋達也，能城浩和：局所進行直腸癌に対する TNT（Totalneo-adjuvant therapy）の現状と TNT 後の切除手技の工夫．第49回日本大腸肛門病学会九州地方会 第40回九州ストーマリハビリテーション研究会．2024，9，21.

22　馬場　楓，武居　晋，後藤佳登，平木将紹，真鍋達也，能城浩和：広範囲膿皮症を合併したクローン痔瘻に対する QOL 改善を目指した広範囲膿皮切除と Seton ドレナージ．第49回日本大腸肛門病学会九州地方会 第40回九州ストーマリハビリテーション研究会．2024，9，21.

23　*佐藤博文，内川和也，堀田千恵子，浅井雅子，久保　洋，川嶋裕資，下西智徳，廣橋嘉美，赤木由人：閉塞性大腸癌に対する腹腔鏡手術の工夫．第49回日本大腸肛門病学会九州地方会 第40回九州ストーマリハビリテーション研究会．2024，9，21.

24　真鍋達也：Fusion Surgery ～低侵襲手術時代のデバイス選択と安全教育～ SS4-1 大腸癌に対するロボット支援手術の可能性と Fusion Surgery．第34回九州内視鏡・ロボット外科手術研究会．2024，10，5.

25　*北川　浩，古賀靖大，鶴　安浩，池田　貯，田中聡也：ロボット支援下 S 状結腸切除術の定型化にむけた当院の工夫．第34回九州内視鏡・ロボット外科手術研究会．2024，10，5.

26　*鶴 安浩，池田 貯，今村美乃莉，松浦 洋，伊藤孝太朗，北川 浩，古賀浩木，古賀靖夫，三好篤：働き方改革に寄与するロボット手術．第34回九州内視鏡・ロボット外科手術研究会．2024, 10, 5.

27　西田泰治，江川紀幸，田中智和，井手貴雄，能城浩和：腹膜透析患者に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術－手術手技と周術期管理の工夫－．第34回九州内視鏡・ロボット外科手術研究会．2024，10，5.

28　馬場　楓，與田幸恵，小野航平，松藤祥平，能城浩和：難治性 ITP に対する脾臓摘出術後の早期胃癌に対する左胃動脈温存幽門側胃切除術．第34回九州内視鏡・ロボット外科手術研究会．2024，10，5.

29　能城浩和：ロボットが見せる臨床解剖に基づく消化器がん手術．第 8 回大分手術手技フォーラム．2024，11，6.

30　*柏田知美：ここまできた 遺伝子検査に基づく大腸がんの薬物治療．佐賀県臨床外科医会11月例会 日本医師会生涯教育講座．2024，11，8.

31　由比元嗣，松藤祥平，馬場　楓，芥川剛至，山口大輔，與田幸恵，能城浩和：有鉤義歯誤飲の非手術例における留意点．第124回日本消化器病学会 九州支部例会．2024，11，15-16.

32　*小野航平，後藤佳登，武居　晋，平木将紹，真鍋達也，能城浩和：Trisomy 8を有する骨髄異形成症候群の治療中に発症した穿孔性腹膜炎の 1 例．第124回日本消化器病学会 九州支部例会．2024，11，15-16.

33　*谷川もえぎ，田中智和，江川紀幸，井手貴雄，能城浩和：小肝癌に対する重粒子線治療への警鐘～重粒子線治療後局所再発肝細胞癌に対する腹腔鏡下肝切除の一例～．第124回日本消化器病学会 九州支部例会．2024，11，15-16.

34　馬場耕一：女性特有のがん～乳がん・HPV ワクチン～ 講演 I 正しく知ろう乳癌のこと．第14回佐賀県医師会 県民はつらつ公開セミナー．2024，11，23.

その他の学会

1　能城浩和：エチコン社内講演 胃．ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社．2024，3，29.

2　真鍋達也：WEB 講演会．テルモ拠点内講演会．2024，5，9.

3　松藤祥平：教室討議 ブレイクスルーへの挑戦．令和 6 年度総医局会．2024，6，1.

4　江川紀幸：教室討議 これまでとこれから．令和 6 年度総医局会．2024，6，1.

5　能城浩和：特別講演 臨床解剖に基づく胃癌手術ポイント．消化器外科ビデオクリニックセミナー in 北九州～胃編～ テーマ：胃切除術～内視鏡技術認定を目指して～．2024，9，13.

6　能城浩和：パネルディスカッション 医療従事者の motivation を上げるための取り組み～インセンティブ導入の経緯と理念～．第141回東京慈恵会医科大学成医会総会．2024，10，11.

7　平木将紹：ジョイントセミナー．佐賀西高校．2024，10，18.

8　能城浩和：講座クローズアップ 佐賀大学医学部 一般・消化器外科 集約化と遠隔始動で医師不足に対応する．九州医事新報社．2024，10，25.

9　能城浩和：接合部領域解剖を極める・多種多様な新しい食道残胃吻合 ディスカッサント．第 8 回食道胃接合部癌手術手技勉強会．2024，11，29.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
助　教	田中　智和	科学研究費補助	基盤研究(C)	1	食道扁平上皮癌に対する蛋白ファルネシル化に着目した新規治療開発に向けた基礎的研究	700
教　授	能城　浩和	科学研究費補助	基盤研究(C)	2	食道扁平上皮癌に対する蛋白ファルネシル化に着目した新規治療開発に向けた基礎的研究	700
助　教	武居　　晋	科学研究費補助	基盤研究(C)	1	遠隔臓器における微小環境誘導性転移膵癌細胞セレクション機序の解明とその制御	1,300
教　授	能城　浩和	科学研究費補助	基盤研究(C)	1	HIF-1 α および硫黄呼吸を標的とした低酸素下食道扁平上皮癌に対する新規治療戦略	1,400
助　教	田中　智和	科学研究費補助	基盤研究(C)	2	HIF-1 α および硫黄呼吸を標的とした低酸素下食道扁平上皮癌に対する新規治療戦略	1,400
客　員研究員	伊藤孝太朗	科学研究費補助	若手研究	1	MMP-1に着目した胃癌進行メカニズムの解明および生存期間との関連の検討	1,500
助　教	松藤　祥平	科学研究費補助	若手研究	1	食道扁平上皮癌に対するファルネシル化と上皮間葉転換に着目した新規治療戦略	1,000

学術（学会）賞

職　名	氏　名	学術（学会）賞名	受　賞　課　題
研修医	谷川もえぎ	研修医奨励賞	小肝癌に対する重粒子線治療への警鐘～重粒子線治療後局所再発肝細胞癌に対する腹腔鏡下肝切除の一例～
助　教	田中　智和	研修医奨励賞受賞者指導医賞	小肝癌に対する重粒子線治療への警鐘～重粒子線治療後局所再発肝細胞癌に対する腹腔鏡下肝切除の一例～

胸部・心臓血管外科学講座
(呼吸器外科を含む)

著　　書

1　伊藤　学：【心不全の最新治療－再生医療を用いた最新の知見】Key words 剣山メソッドバイオ3Dプリンタを用いた血管・心筋構造体の応用．カレントテラピー 80月刊カレントテラピー Vol. 42 No. 1，2024，1．ライフメディコム．

2　柚木純二：問題解説（2問）．118回医師国家試験問題解説84-87，2024．メディックメディア．

3　○YU JUNJIE，伊藤　学，村岡大紀，中山功一：剣山式を用いた人工臓器の最近の進歩．人工臓器 53(3)：193-197，2024．ジャーナル．

原著論文

1　*Baku Takahashi, Kamohara Keiji, Morokuma Hiroyuki, Yunoki Junji: Sex-Related Differences Between Patients Undergoing Surgery for Acute Type A Aortic Dissection. Curēus 16(5): e60276, 2024, 5.

2　*Baku Takahashi, Keiji Kamohara, Hiroyuki Morokuma, Sojiro Amamoto: Effect of Surgeons' Years of Experience on Outcomes of Acute Type A Aortic Dissection. Curēus (Palo Alto, CA) 16(12): e75499, 2024, 12.

3　*Makoto Hayasaka, Takashi Kokudo, Junichi Kaneko, Takehiro Chiyoda, Anna Nakamura, Manabu Itoh, Kazuhiro Endo, Koichi Nakayama, Kiyoshi Hasegawa: Three-Dimensional Bio-Printed Tubular Tissue Using Dermal Fibroblast Cells as a New Tissue-Engineered Vascular Graft for Venous Replacement. ASAIO journal 70(11): 1008-1014, 2024, 11.

4　Junji Yunoki, Shigeki Morita, Nagi Hayashi, Kouki Jinnouchi, Hiroyuki Morokuma, Manabu Itoh, Keiji Kamohara: The comparison of the clinical outcomes and costs between surgical aortic valve replacement and transcatheter aortic valve implantation based on the Japanese Diagnosis Procedure Combination database. Surgery today 54(3): 240-246, 2024, 7.

5　○Marie Yamada, Mami Nakao, Naotomo Yamada, Hideaki Nakamura, Manabu Itoh, Junji Yunoki, Keiji Kamohara, Shinya Kimura, Eisaburo Sueoka: Immune cell kinetics after allogeneic red blood cell transfusion in patients undergoing cardiovascular surgery. Transfusion clinique et biologique: journal de la Société française de transfusion sanguine 31(4): 223-228, 2024, 11.

症例報告

1　*Jun Osaki, Junji Yunoki, Nagi Hayashi, Kouki Jinnouchi, Hiroyuki Morokuma, Manabu Itoh, Keiji Kamohara: Chimney thoracic endovascular aortic repair for traumatic aortic dissection with visceral malperfusion. Journal of Vascular Surgery Cases, Innovations and Techniques, 2024.

2　Nagi Hayashi, Junji Yunoki, Koheu Baba, Morokuma Hiroyuki, Keiji Kamohara: Transcarotid-transcatheter aortic valve implantation in a patient with low cardiac function and haemodialysis accompanied by intracranial carotid stenosis: a case report. European heart journal: case reports 8(11): ytae597, 2024, 11.

3　*髙橋巴久，諸隈宏之，蒲原啓司：左腋窩両大腿動脈バイパス術後の胸腹部大動脈人工血管置換術．胸部外科 77(11)：924-927，2024．

4 *髙橋巴久，諸隈宏之，蒲原啓司：胸部ステントグラフト内挿術後にエンドテンションから瘤破裂を来した胸腹部大動脈瘤の 1 例．胸部外科 77(13)：1107-1110，2024.

5 *Baku Takahashi, Hideyuki Fumoto, Yoshihiro Nakayama: Coronary-Pulmonary Artery Fistula Provides Collateral Flow to an Occluded Left Anterior Descending Artery. Annals of vascular diseases 17(3): 301-303, 2024, 9.

6 *Baku Takahashi, Pirapon Momsila, Hideki Isa, Nuttapon Arayawudhikul: Giant Right Atrial Myxoma Coexisting With Tricuspid Regurgitation, Coronary Artery Disease, and Aortic Stenosis. Curēus (Palo Alto, CA) 16(12): e75311, 2024, 12.

7 *Daiki Yoshiyama, Hiroyuki Morokuma, Kiyotaka Nagashima, Kouhei Baba, Masahide Shichijo, Nagi Hayashi, Kouki Jinnouchi, Manabu Itoh, Junji Yunoki, Keiji Kamohara: Rapidly Worsening Infective Endocarditis With Severe Mitral Stenosis. JACC. Case reports 29(22): 102764, 2024, 11.

8 Junji Yunoki, Nagi Hayashi, Jun Osaki, Baku Takahashi, Hiroyuki Morokuma, Keiji Kamohara: Endovascular aneurysm repair supported by intraoperative holographic image using virtual reality technology. J Vasc Surg 79(2): 418-419, 2024, 2.

学会発表

国内全国規模の学会

1 馬場康平，山元博文，林　奈宜，手石方崇志，諸隈宏之，伊藤　学，柚木純二，平塚昌文，蒲原啓司：GABAI-STS The Sagan Thoracic Surgeons, not The Society of Thoracic Surgeons. 第 1 回 JATS-NEXT Annual Conference. 2024，1，27.

2 馬場康平，諸隈宏之，永島聖恭，七條正英，林　奈宜，陣内宏紀，伊藤　学，柚木純二，蒲原啓司，本郷　玄，野出孝一：TAVI と CABG の同時手術を施行した 3 治験例．第37回日本冠疾患学会学術総会．2024，11，29.

3 林　奈宜，柚木純二，馬場康平，陳　文瀚，鍋嶋裕洋，吉岡吾郎，本郷　玄，坂本佳子，田中厚寿，蒲原啓司，野出孝一：二尖弁に対する Self-expanding valve TAVI での Infolding の経験．第14回日本経カテーテル心臓弁治療学会学術集会．2024，7，19-20.

4 林　奈宜，柚木純二，田中厚寿，永島聖恭，馬場康平，吉山大貴，七條正英，陣内宏紀，諸隈宏之，伊藤　学，蒲原啓司：Coil in plug 法による内腸骨動脈塞栓術の治療成績．第52回日本血管外科学会学術総会．2024，5，29-31.

5 平塚昌文，岡本祐介，手石方崇志，宮原尚文：嚢胞性縦隔腫瘍に対するロボット手術の工夫．第65回日本肺癌学会総会．2024，10，31.

6 陣内宏紀，蒲原啓司，柚木純二，伊藤　学，諸隈宏之，林　奈宜，山元博文，大崎　隼，髙橋巴久，七條正英，吉山大貴，馬場康平，永島聖恭：人工肛門を有する EVAR 後 Type I a エンドリークによる AAA 拡大に対する 1 手術例．第52回日本血管外科学会学術総会．2024，5，29-31.

7 陣内宏紀，蒲原啓司，柚木純二，伊藤　学，諸隈宏之，林　奈宜，七條正英，吉山大貴，馬場康平，永島聖恭：慢性肝障害を合併した三尖弁手術の MELD Score を用いた術後合併症発生予測の検討．第77回日本胸部外科学会定期学術集会．2024，11，1-4.

8 陣内宏紀，蒲原啓司，柚木純二，伊藤　学，諸隈宏之，林　奈宜，七條正英，吉山大貴，馬場康平，永島聖恭：開心術後の正中創トラブルに対する治療戦略．第37回日本外科感染症学会総会学術集会．2024，11，8-9.

9　陣内宏紀，蒲原啓司，柚木純二，伊藤　学，諸隈宏之，林　奈宜，七條正英，吉山大貴，馬場康平，永島聖恭：慢性肝障害を合併した三尖弁手術の MELD Score を用いた術後合併症発生予測の検討．第14回日本心臓弁膜症学会．2024，12，20-21.

10　陣内宏紀，蒲原啓司，柚木純二，伊藤　学，諸隈宏之，林　奈宜，七條正英，吉山大貴，馬場康平，永島聖恭：維持透析患者の大動脈弁狭窄症に対する大動脈弁置換術の早期～中・長期成績の検討．第14回日本心臓弁膜症学会．2024，12，20-21.

11　宮原尚文，岡本祐介，手石方崇志，平塚昌文：Mixed Reality（MR：複合現実）を用いた肺門，縦隔リンパ節同定の有用性の検討．第124回日本外科学会総会．2024，4，18-20.

12　宮原尚文，岡本祐介，手石方崇志，平塚昌文：Uniportal VATS における複雑区域切除の導入成績と技術的な工夫．第41回日本呼吸器外科学会総会．2024，5，31-6，1.

13　宮原尚文，岡本祐介，手石方崇志，平塚昌文：深層学習を用い胸部単純 CT 画像から胸膜はどの程度評価できるか？．第77回日本胸部外科学会定期学術集会．2024，11，1-4.

14　諸隈宏之：急性A型解離に対する基部置換術における自家静脈を用いた LMT 再建．第77回日本胸部外科学会定期学術集会．2024，11，1-4.

15　諸隈宏之：当院における冠動脈バイパス術後の長期予後および死因の検討．第37回日本冠疾患学会学術集会．2024，11，29-30.

16　手石方崇志：肺手術標本における高品質 RNA 保存のためのホルマリン固定法の検討．第65回日本肺癌学会総会．2024，11，1.

17　手石方崇志：クライオアブレーション後に RATS 右肺下葉切除術を施行した１例．第86回日本臨床外科学会総会．2024，11，22.

18　柚木純二，蒲原啓司，平塚昌文，伊藤　学，諸隈裕之：座長の役割と理想の座長像とは？．第１回 JATS-NEXT Annual Conference．2024，1，27.

19　林　奈宜，柚木純二，田中厚寿，重冨桂二郎，馬場康平，吉山大貴，大崎　隼，高橋巴久，山元博文，陣内宏紀，諸隈宏之，伊藤　学，蒲原啓司：当院における70歳代の腹部大動脈瘤治療．第54回日本血管外科学会学術総会．2024，2，22-24.

20　柚木純二，田中厚寿，林　奈宜，大崎　隼，永島聖恭，馬場康平，吉山大貴，七條正英，陣内宏紀，諸隈宏之，伊藤　学，蒲原啓司：偽腔開存型Ｂ型解離に対する TEVAR 後の Aortic Remodeling と末梢大動脈径拡大症例の関連性．第52回日本血管外科学会学術総会．2024，5，29-31.

21　柚木純二，林　奈宜，田中厚寿，本郷　玄，吉岡吾郎，陳　文瀚，馬場康平，坂本佳子，森永　崇，鍋嶋洋裕，蒲原啓司，野出孝一：透析，低心機能，アクセス不良に対する Trans-Carotid TAVR の経験．第14回日本経カテーテル心臓弁治療学会学術集会．2024，7，19-20.

22　柚木純二：誰でも可能な再疎通のない血管塞栓を目指して－膨潤コイルの役割－．第65回日本脈管学会学術総会．2024，10，24.

地方規模の学会

1　林　奈宜，柚木純二，田中厚寿，永島聖恭，馬場康平，七條正英，陣内宏紀，諸隈宏之，伊藤　学，蒲原啓司：EVAR 後 type2 endoleak に対しての瘤縫縮後に破裂をきたした１例．第121回日本血管外科学会九州地方会．2024，8，31.

2　諸隈宏之：左腋窩－両側大腿動脈バイパス術後の胸腹部置換における体外循環確立の工夫．第57回日本胸部外科学会九州地方会総会．2024，8，1-2.

3　諸隈宏之：上大静脈合併切除・再建を行った前縦隔腫瘍の一例．第121回日本血管外科学会九州地方会．2024，8，31.
4　諸隈宏之：上大静脈合併切除・再建を行った前縦隔腫瘍の一例．第19回日本臨床外科学会佐賀県支部学術集会．2024，9，25.
5　諸隈宏之：大動脈基部置換術における冠動脈再建．第34回九州心臓外科手術手技研究会．2024，11，23.
6　○鍋島沙織，手石方崇志：左上下葉分岐部に認める N2肺扁平上皮癌に対し，術前 Nivolumab+ 化学療法後に extended sleeve lobectomy typeC を施行した一例．第57回日本胸部外科九州地方会．2024，8，1.
7　重冨桂二郎，諸隈宏之，馬場康平，七條正英，林　奈宜，陣内宏紀，伊藤　学，柚木純二，蒲原啓司：左房心内膜から発生した乳頭状線維弾性腫の一例．第137回日本循環器学会九州地方会．2024，12，14.
8　*吉山大貴，諸隈宏之，永島聖恭，馬場康平，七條正英，林　奈宜，陣内宏紀，伊藤　学，柚木純二，蒲原啓司：準緊急手術待機中に弁が stuck し，急変を招いた感染性心内膜炎の 1 例．第136回日本循環器学会九州地方会．2024，6，29.
9　柚木純二：TAVI と Nightmare と私．第13回ストラクチャークラブ・ジャパン九州支部会．2024，6，22.
10　柚木純二：Trans-Carotid approach．Edwards Indication Expansion Fair．2024，7，7.

その他の学会

1　林　奈宜，柚木純二，田中厚寿，重冨桂二郎，馬場康平，七條正英，陣内宏紀，諸隈宏之，伊藤学，蒲原啓司：Short neck 症例に ALTO を用いた 1 例．JLL Forum in Kyushu．2024，11，22.
2　Manabu Itoh: Translational research of Kenzan method Bio-3D Printer for vascular surgery．The International Conference on Biofabrication 2024．2024, 11, 10-13.
3　蒲原啓司：完全胸腔鏡下左心耳閉鎖術（TT-LAAC）の導入と今後の展望．佐賀で診る循環器疾患．2024，7，2.
4　蒲原啓司：ここまできた MICS アプローチによる外科的 AF マネージメント．鳥栖三養基医師会学術講演会．2024，11，18.
5　柚木純二：WEB 症例検討会：Complex Case1．WEB 症例検討会 TAVI Complex Case 徹底討論会～ Evolut™ を使いこなすために～．2024，3，1.
6　柚木純二：透析患者とカテーテル弁膜症治療．透析患者の心疾患を考える会 inSAGA．2024，7，4.
7　柚木純二：ここまで進んだ！弁膜症治療．～狭い大動脈弁に対して～．心不全啓発 市民公開講座～新しい弁膜症治療を知ろう～．2024，1，7.
8　柚木純二：高齢者×心不全，弁膜症カテーテル治療でどこまで治せる？．高齢者の心不全と弁膜症に備える．2024，2，1.
9　柚木純二：TAVI 鎖骨下動脈アプローチ．第 6 回 TAVI ワークショップ．2024，2，25.
10　柚木純二：症例提示：2 尖弁症例．Edwards TAVI セミナー．2024，7，23.
11　柚木純二：心臓弁膜症カテーテル治療の現状．高齢者の心臓弁膜症を考える会 in 佐世保．2024，7，26.
12　柚木純二：Preload Coil in Plug 法による内腸骨塞栓術の治療成績．Strengths of Amplatzer™ Vas-

cular Plug. 2024, 7, 31.

13 柚木純二：症例提示：頸動脈アプローチ TAVI. Edwards Indication Expansion Fair. 2024, 7, 7.

14 柚木純二：AFX 使うのかい？使わないのかい？どっちなんだい?!. Meet The Expert 小倉記念病院. 2024, 9, 13.

15 柚木純二：心臓弁膜症カテーテル治療の現状. 総合診療部ランチョンセミナー. 2024, 10, 17.

16 柚木純二：誰でも可能な再疎通のない血管塞栓を目指して－膨潤コイルの役割－. 第65回日本脈管学会 ランチョンセミナー. 2024, 10, 24.

17 柚木純二：第 3 の TAVI 弁・Navitor の真価とは. 第 7 回 TAVI ワークショップ. 2024, 10, 27.

18 柚木純二：TAVI って実際どうなの？－AS と TAVI 最新情報－. 心臓病治療 Update in 佐世保. 2024, 11, 14.

19 柚木純二：低心機能透析患者に対する ECMO サポート下 TC-TAVI の経験. TAVI conference ～新たな選択肢 TC アプローチ～. 2024, 11, 5.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
講　師	村田　大紀 池谷　真 東　千夏 伊藤　学 中山　功一 村田　大紀 池谷　真 東　千夏 伊藤　学 中山　功一	科学研究費助成事業	基盤研究(B)	2	iPS 細胞由来中胚葉系細胞を用いて新たな靭帯再建法の確立を目指す研究	150
講　師	伊藤　学 村田　大紀 中山　功一 蒲原　啓司 野出　孝一	科学研究費助成事業	挑戦的研究（開拓）	1	バイオ３D プリンタ，幹細胞技術を用いた下肢遠位動脈バイパス用小口径人工血管の開発	1,500
教　授	伊藤　学 村田　大紀 中山　功一 蒲原　啓司 野出　孝一	科学研究費助成事業	挑戦的研究（開拓）	2	バイオ３D プリンタ，幹細胞技術を用いた下肢遠位動脈バイパス用小口径人工血管の開発	1,700
講　師	中山　功一 伊藤　学	科学研究費助成事業	基盤研究(B)	2	補助人工心臓となりうる外科的に移植可能な三次元心筋細胞構造体の開発	200
講　師	伊藤　学 村田　大紀 中山　功一 蒲原　啓司 野出　孝一	科学研究費助成事業	基盤研究(B)	1	バイオ３D プリンタを用いた冠動脈バイパス術に最適な次世代型細胞製人工血管の開発	900
教　授	伊藤　学 村田　大紀 中山　功一 蒲原　啓司 野出　孝一	科学研究費助成事業	基盤研究(B)	2	バイオ３D プリンタを用いた冠動脈バイパス術に最適な次世代型細胞製人工血管の開発	200
講　師	蒲原　啓司 伊藤　学 村田　大紀 中山　功一 野出　孝一	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	バイオ３D プリンタ技術を用いた細胞製人工弁膜の開発	500
教　授	蒲原　啓司 伊藤　学 村田　大紀 中山　功一 野出　孝一	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	バイオ３D プリンタ技術を用いた細胞製人工弁膜の開発	500

整 形 外 科 学 講 座

著　　書

1　Fujii M: [Anatomy of the Hip Joint: Pelvic and femoral morphology in developmental dysplasia of the hip] Advances in Total Hip Arthroplasty. The Japanese Society for Replacement Arthroplasty: 65-69, 2024, Springer, Singapore.

2　藤井政徳，山﨑琢磨，福島健介，庄司剛士，高田亮平，山田和希：［第 7 章．大腿骨寛骨臼インピンジメント（FAI）］．変形性股関節症診療ガイドライン2024 改訂第 3 版．日本整形外科学会 日本股関節学会（監），日本整形外科学会診療ガイドライン委員会 変形性股関節診療ガイドライン策定委員会（編）：143–156，2024，南江堂，東京．

原著論文

1　Fujii M, Tanaka S, Kawano S, Ueno M, Nagamine S, Mawatari M: Deficient postoperative anterior wall index adversely affects joint survival after transposition osteotomy of the acetabulum in patients with hip dysplasia. Bone Joint J. 2024 Dec 1; 106-B(12): 1399-1407. doi: 10.1302/0301-620X.106B12.BJJ-2024-0585.R1. PMID: 39615523, 2024, 12.

2　*Kasai Y, Kato T, Inaba T, Baba S, Paholpak P, Wisanuyotin T, Kosuwon W, Hirata H, Morimoto T: Biomechanical Characteristics of Kissing Spine During Extension Using a Human Cadaveric Lumbar Spinal Model. Orthop Res Rev. 2024 Jul 5; 16:199-203. doi: 10.2147/ORR.S468237. PMID: 38988905; PMCID: PMC11234890, 2024, 7.

3　*Kato T, Inaba T, Baba S, Morimoto T, Mizuno T, Kasai Y, Wisanuyotin T, Sirichativapee W, Kosuwon W, Paholpak P: Experimental Study of Failures of the Rigid Spinal Posterior Fixation System Under Compressive Load Conditions: A Cadaver Study. Cureus. 2024 Feb 10; 16(2): e53961. doi: 10.7759/cureus.53961. PMID: 38469026; PMCID: PMC10925939, 2024, 2.

4　*Kii S, Miyamoto H, Ueno M, Noda I, Hashimoto A, Nakashima T, Shobuike T, Kawano S, Sonohata M, Mawatari M: Long-term antibacterial activity of silver-containing hydroxyapatite coatings against Staphylococcus aureus in vitro and invivo. J Orthop Sci. 2024 Nov; 29(6): 1503-1512. doi: 10.1016/j.jos.2023.10.009. Epub 2023 Nov 2. PMID: 37925294, 2024, 11.

5　*Kitamura K, Fujii M, Motomura G, Hamai S, Kawahara S, Sato T, Yamaguchi R, Hara D, Utsunomiya T, Nakashima Y: A computer modeling-based target zone for transposition osteotomy of the acetabulum in patients with hip dysplasia. The Journal of Bone and Joint Surgery. 2024 Dec 18; 106(24): 2347-2355. doi: 10.2106/JBJS.23.01132, 2024, 12.

6　○Kobayashi T, Morimoto T, Mawatari M: Factors influencing the measurement of sagittal spinopelvic alignment in patients with vertebral fractures. Osteoporos Int. 2024 Jun; 35(6): 1103. doi: 10.1007/s00198-024-07063-y. Epub 2024 Mar 29. PMID: 38551722, 2024, 6.

7　○Kobayashi T, Hara M, Shimanoe C, Morimoto T, Masaaki M, Ito K, Shimazaki T: Efficacy and safety of romosozumab: a meta-analysis of placebo-controlled trials. J Bone Miner Metab. 2024 Sep; 42(5): 492-502. doi: 10.1007/s00774-024-01531-5. Epub 2024 Jul 8. PMID: 38977437, 2024, 9.

8　○Kobayashi T, Morimoto T, Shumanoe C, Ono R, Otani K, Mawatari M: Relationship Between the 25-Question Geriatric Locomotive Function Scale and Falls: A One-Year Longitudinal Observa-

tional Study of 1,173 Healthy Community-Dwelling Residents Aged 65 and Older. Cureus. 2024 Nov 3; 16(11): e72907. doi: 10.7759/cureus.72907. PMID: 39628737; PMCID: PMC11614557, 2024, 11.

9 Matsumura Y, Fujii M, Yamaguchi Y, Nagamine S, Sakai T, Ide S, Tajima T, Shimazaki T, Eto S, Mawatari M: Complications following bilateral simultaneous versus staged total knee arthroplasty in the Japanese population: a propensity-matched case-control study. Sci Rep. 2024 Dec 2; 14(1): 29987. doi: 10.1038/s41598-024-81821-0. PMID: 39623205; PMCID: PMC11612495, 2024, 12.

10 *Miyazaki K, Fujii M, Kawano S, Ueno M, Kitajima M, Sonohata M, Mawatari M: Functional Improvement and Patient Satisfaction Following Conversion of Fused Hip to Total Hip Arthroplasty. J Arthroplasty. 2024 Oct; 39(10): 2512-2519. doi: 10.1016/j.arth.2024.07.015. Epub 2024 Jul 25. PMID: 39025276, 2024, 1.

11 Morimoto T, Kobayashi T, Tsukamoto M, Yoshihara T, Hirata H, Toda Y, Mawatari M: Sagittal-spinopelvic alignment improves in patients with bilateral highly dislocated hip (Crowe type IV) after subtrochanteric shortening total hip arthroplasty: A retrospective radiographic study. Medicine (Baltimore). 2024 Jan 19; 103(3): e36966. doi: 10.1097/MD.0000000000036966. PMID: 38241552; PMCID: PMC10798716, 2024.

12 Morimoto T, Kobayashi T, Yamauchi K, Nagamine S, Sekiguchi M, Otani K, Fukuda M, Tsukamoto M, Yoshihara T, Hirata H, Toda Y, Tanaka S, Mawatari M: Gender Diversity of the Japanese Society for Spine Surgery and Related Research Annual Meetings from 2013 to 2022. Spine Surg Relat Res. 2023 Oct 13; 8(1): 91-96. doi: 10.22603/ssrr.2023-0186. PMID: 38343404; PMCID: PMC10853626, 2024, 1.

13 Morimoto T, Kobayashi T, Fukuda M, Hirata H, Otani K, Sekiguchi M, Yamauchi K, Tsukamoto M, Nagamine S, Haro H: Comparison of Gender Diversity Among Spine Surgeons in the Japanese Society for Spine Surgery and Related Research and the Neurospinal Society of Japan: A Descriptive Study Through Secondary Analysis of Aggregated Data. Cureus. 2024 May 27; 16(5): e61152. doi: 10.7759/cureus.61152. PMID: 38803408; PMCID: PMC11129104, 2024, 5.

14 Morimoto T, Kobayashi T, Ito H, Tsukamoto M, Yoshihara T, Hirata H, Otani K, Izuhara K, Nunomura S, Mawatari M: Serum periostin levels correlate with severity of intervertebral disc degeneration. Eur Spine J. 2024 May; 33(5): 2007-2013. doi: 10.1007/s00586-024-08162-4. Epub 2024 Feb 10. PMID: 38340176, 2024, 5.

15 Morimoto T, Kobayashi T, Hirata H, Sugita K, Paholpak P, Tsukamoto M, Umeki S, Yoshihara T, Toda Y: Thick Skin on the Dorsal Spine in Osteoproliferative Disease: Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament and Diffuse Idiopathic Skeletal Hyperostosis. Cureus. 2024 Jun 12; 16(6): e62235. doi: 10.7759/cureus.62235. PMID: 38868545; PMCID: PMC11168243, 2024, 6.

16 Morimoto T, Kobayashi T, Yamauchi K, Nagamine S, Sekiguchi M, Tsukamoto M, Yoshihara T, Hirata H, Tanaka S, Mawatari M: How long will it take to reach the gender diversity goal for orthopaedics in Japan?. J Orthop Sci. 2024 Jul; 29(4): 1140-1144. doi: 10.1016/j.jos.2023.05.011. Epub 2023 Jun 10. PMID: 37308331, 2024, 7.

17 Morimoto T, Kobayashi T, Hirata H, Tsukamoto M, Yoshihara T, Toda Y, Ito H, Otani K, Mawatari M: Perioperative Cerebrovascular Accidents in Spine Surgery: A Retrospective Descriptive

Study and A Systematic Review with Meta-Analysis. Spine Surg Relat Res. 2023 Dec 27; 8(2): 171-179. doi: 10.22603/ssrr.2023-0213. PMID: 38618211; PMCID: PMC11007245, 2024.

18 Nagamine S, Morimoto T, Niizeki Y, Yamauchi K, Oizumi N, Hirata H, Tanaka S, Tsukamoto M, Kobayashi T, Mawatari M: Academic Engagement of Women as Orthopaedic Surgeons at the Annual Meetings of the Japanese Orthopaedic Association From 2012 to 2022. Cureus. 2024 Apr 2; 16(4): e57474. doi: 10.7759/cureus.57474. PMID: 38699132; PMCID: PMC11065480, 2024, 4.

19 *Paholpak P, Morimoto T, Wisanuyotin T, Sirichativapee W, Sirichativapee W, Kosuwon W, Kasai Y, Murakami H: Clinical and oncologic outcomes of posterior only total en bloc spondylectomy for spinal metastasis involving third lumbar vertebra: A case series. Medicine (Baltimore). 2024 Feb 2; 103(5): e37145. doi: 10.1097/MD.0000000000037145. PMID: 38306532; PMCID: PMC10843243, 2024, 2.

20 Sakai T, Fujii M, Kitamura K, Tanaka H, Mawatari M: Biomechanical Effect of Distal Tibial Oblique Osteotomy: A Preliminary Finite-Element Analysis. Cureus. 2024 Feb 7; 16(2): e53803. doi: 10.7759/cureus.53803. PMID: 38465079; PMCID: PMC10924635, 2024, 2.

21 *Tanaka S, Fujii M, Kawano S, Ueno M, Nagamine S, Mawatari M: Factors associated with joint survival after transposition osteotomy of the acetabulum in patients with Tönnis grade 2 osteoarthritis secondary to hip dysplasia. Bone Joint J. 2024 Aug 1; 106-B(8): 783-791. doi: 10.1302/0301-620X.106B8.BJJ-2024-0196.R1. PMID: 39084631, 2024, 8.

22 Tanaka T, Sashida R, Hirokawa Y, Wakamiya T, Michiwaki Y, Shimoji K, Suehiro E, Onoda K, Yamane F, Matsuno A, Morimoto T: Spinal magnetic resonance imaging artifacts in lumboperitoneal shunt surgery using adjustable valve implantation on the paravertebral spinal muscles. J Med Invest. 2024; 71(1.2): 154-157. doi: 10.2152/jmi.71.154. PMID: 38735712, 2024, 7.

23 Toda Y, Ogura K, Iwata S, Kobayashi E, Osaki S, Fukushima S, Mawatari M, Kawai A: The diagnostic and prognostic value of tartrate-resistant acid phosphatase isoform 5b for giant cell tumor of bone. Int J Clin Oncol. 2024 Sep; 29(9): 1391-1397. doi: 10.1007/s10147-024-02557-5. Epub 2024 Jul 12. PMID: 38995462, 2024, 9.

24 Ueno M, Kawano S, Fujii M, Tanaka S, Sakumo K, Morimoto T: Does Preoperative Virtual Reality Experience Enhance Implant Positioning Accuracy in Total Hip Arthroplasty?. Cureus. 2024 Sep 28; 16(9): e70390. doi: 10.7759/cureus.70390. PMID: 39469377; PMCID: PMC11516148, 2024, 9.

25 *Yamaguchi Y, Kobayashi T, Todo M, Hijikata Y, Mawatari M, Tsukamoto M, Yoshihara T, Hirata H, Morimoto T: Adjacent vertebral fractures in the lumbar and thoracic spine after balloon kyphoplasty: A finite element analysis. Medicine (Baltimore). 2024 Apr 26; 103(17): e37912. doi: 10.1097/MD.0000000000037912. PMID: 38669425; PMCID: PMC11049699, 2024, 4.

26 *Yamaguchi Y, Matsumura Y, Fujii M, Ide S, Sakai T, Nagamine S, Eto S, Shimazaki T, Tajima T, Mawatari M: Age-adjusted 5-factor modified frailty index as a valuable tool for patient selection in bilateral simultaneous total knee arthroplasty. Sci Rep. 2024 Jun 25; 14(1): 14598. doi: 10.1038/s41598-024-65719-5. PMID: 38918560; PMCID: PMC11199499, 2024, 6.

27 Yoshihara T, Morimoto T, Tsukamoto M, Toda Y, Hirata H, Kobayashi T, Takashima S, Mawatari M: Analyzing lumbar vertebral shape and alignment in female patients with degenerative

spondylolisthesis: Comparisons with spinal stenosis and risk factor exploration. PLoS One. 2024 Apr 16; 19(4): e0301974. doi: 10.1371/journal.pone.0301974. PMID: 38626167; PMCID: PMC11020370, 2024, 4.

28 ○河野俊介，東島直生，上野雅也，馬渡正明：【人工関節置換術後の長期成績を改善させるリハビリテーション治療戦略】人工股関節．総合リハビリテーション（0386-9822）52巻4号：341-351，2024，4.

29 ○東島直生，松本　幸，河野俊介，上野雅也，藤井政徳，森本忠嗣，馬渡正明：人工股関節全置換患者における片脚起立時間と歩行能力の関連性．Hip Joint（0389-3634）50(2)：S132-S135，2024，8.

30 平田寛人：破骨細胞活性の変化が骨形成細胞へ及ぼす影響の研究第16回ふくおか「臨床医学研究賞」）．第16回業績集：23-24，2024，1.

31 *宮本和樹，藤井政徳，坂井達弥，松村陽介，長嶺里美，馬渡正明：人工膝関節置換術前の患者における足関節痛の頻度とその臨床的意義．整形外科と災害外科（0037-1033）73(4)：799-741，2024，9.

総　説

1 ○Kobayashi T, Morimoto T, Ito K, Mawatari M, Shimazaki T: Denosumab vs. bisphosphonates in primary osteoporosis: a meta-analysis of comparative safety in randomized controlled trials. Osteoporos Int. 2024 Aug; 35(8): 1377-1393. doi: 10.1007/s00198-024-07118-0. Epub 2024 May 11. PMID: 38733394, 2024, 8.

2 Morimoto T, Hirata H, Sugita K, Paholpak P, Kobayashi T, Tanaka T, Kato K, Tsukamoto M, Umeki S, Toda Y, Mawatari M: A view on the skin-bone axis: unraveling similarities and potential of crosstalk. Front Med (Lausanne). 2024 Mar 4; 11: 1360483. doi: 10.3389/fmed.2024.1360483. PMID: 38500951; PMCID: PMC10944977, 2024, 3.

3 Morimoto T, Hirata H, Watanabe K, Kato K, Otani K, Mawatari M, Nikaido T: The Usefulness of Deep Tendon Reflexes in the Diagnosis of Lumbar Spine Diseases: A Narrative Review. Cureus. 2024 Mar 8; 16(3): e55772. doi: 10.7759/cureus.55772. PMID: 38586775; PMCID: PMC10999014, 2024, 3.

4 Morimoto T, Toda Y, Hakozaki M, Paholpak P, Watanabe K, Kato K, Tsukamoto M, Hirata H, Kaneuchi Y, Tome Y, Nagamine S, Nishida K, Katsuya H, Matsumoto Y, Otani K, Mawatari M, Nikaido T: A new era in the management of spinal metastasis. Front Oncol. 2024 Apr 16; 14: 1374915. doi: 10.3389/fonc.2024.1374915. PMID: 38694784; PMCID: PMC11062132, 2024, 4.

5 Tsukamoto M, Morimoto T, Yoshihara T, Hirata H, Toda Y, Kobayashi T, Mawatari M: Traction Spurs in the Lumbar Spine: A Historical Overview and Future Perspectives. Spine Surg Relat Res. 2024 Feb 14; 8(4): 354-361. doi: 10.22603/ssrr.2023-0214. PMID: 39131417; PMCID: PMC11310535, 2024, 2.

6 Yoshizato H, Morimoto T, Nonaka T, Otani K, Kobayashi T, Nakashima T, Hirata H, Tsukamoto M, Mawatari M: Animal Model for Anterior Lumbar Interbody Fusion: A Literature Review. Spine Surg Relat Res. 2024 Mar 11; 8(4): 373-382. doi: 10.22603/ssrr.2023-0262. PMID: 39131411; PMCID: PMC11310536, 2024, 5.

症例報告

1 Hirata H, Morimoto T, Tsukamoto M, Kobayashi T, Yoshihara T, Toda Y, Mawatari M: Insights and preventive approaches of rod erosion in the occipital bone after complex posterior cervical spine surgery for destructive spondyloarthropathy: A case report: Medicine (Baltimore). 2024 Feb 16; 103(7): e37143. doi: 10.1097/MD.0000000000037143. PMID: 38363929; PMCID: PMC10869034, 2024, 2.

2 Ino T, Toda Y, Hirata H, Yoshihara T, Tsukamoto M, Mawatari M, Morimoto T: A case of spinal metastasis with osteoblastic lesion: The risk of epidural extension and paralysis: Clin Case Rep. 2024 Oct 9; 12(10): e9464. doi: 10.1002/ccr3.9464. PMID: 39386348; PMCID: PMC11464088, 2024, 10.

3 *Inoue T, Morimoto T, Yoshihara T, Tsukamoto M, Hirata H, Mawatari M: Traumatic atlanto-occipital dislocation with successfully bystander resuscitation after cardiopulmonary arrest: A case report: Clin Case Rep. 2024 Jun 7; 12(6): e8865. doi: 10.1002/ccr3.8865. PMID: 38855085; PMCID: PMC11157413, 2024, 6.

4 *Ito H, Hirata H, Yoshihara T, Tsukamoto M, Watanabe K, Egashira Y, Mawatari M, Morimoto T: Spinal subdural hematoma with sudden onset of paraplegia in a patient on oral anticoagulant therapy: Clin Case Rep. 2024 May 15; 12(5): e8895. doi: 10.1002/ccr3.8895. PMID: 38756616; PMCID: PMC11096278, 2024, 5.

5 *Kyaw MP, Tanaka T, Anai S, Takase Y, Kamitoko K, Minagawa H, Yukitake M, Sasaki J, Nagata O, Matsuno A, Morimoto T: Early diagnosis of thoracic spinal dural arteriovenous fistula using lumbar magnetic resonance imaging: A case report: Clin Case Rep. 2024 Jan 3; 12(1): e8309. doi: 10.1002/ccr3.8309. PMID: 38179467; PMCID: PMC10764976, 2024, 1.

6 *Mochizuki H, Hirata H, Yoshihara T, Kobayashi T, Tsukamoto M, Uemura T, Mawatari M, Morimoto T: Morel-Lavallée Lesion: An Easily Missed Closed Debridement Injury in Blunt Trauma: Clin Case Rep. 2024 Dec 18; 12(12): e9701. doi: 10.1002/ccr3.9701. PMID: 39698005; PMCID: PMC11653940, 2024, 12.

7 *Tanaka T, Kato J, Naito T, Wakamiya T, Nakahara K, Agari T, Michiwaki Y, Sugawara T, Itokawa H, Shimoji K, Suehiro E, Onoda K, Matsuno A, Morimoto T: Distinguishing Cerebral Infarction With Neck Pain and Hemiparesis From Cervical Spinal Epidural Hematoma Without MRI: A Case Report: Cureus. 2024 Jun 8; 16(6): e61931. doi: 10.7759/cureus.61931. PMID: 38978919; PMCID: PMC11228687, 2024, 6.

8 *Yamaguchi Y, Morimoto T, Toda Y, Tsukamoto M, Yoshihara T, Hirata H, Kobayashi T, Mawatari M: The first case of methotrexate-associated lymphoproliferative disorder in the sacrum: a case report: BJR Case Rep. 2024 Jan 23; 10(1): uaae002. doi: 10.1093/bjrcr/uaae002. PMID: 38352263; PMCID: PMC10860500, 2024, 1.

9 Yoshizato H, Morimoto T, Nonaka T, Hirata H, Mawatari M: Infected charcot spine: Clin Case Rep. 2024 Feb 28; 12(3): e8490. doi: 10.1002/ccr3.8490. PMID: 38435505; PMCID: PMC10901785, 2024, 2.

学会発表

国際規模の学会

1　Kii S, Miyamoto, Ueno M, Noda I, Hashimoto A, Nakashima T, Shobuike T, Kawano S, Sonohata M, Mawatari M: Enduring Protection Against S. aureus: Evaluating the Antimicrobial Efficacy of Ag-HA Coated Implants is Orthopedic applications. ORS2024. 2024, 2, 2-6. Paper#0365.

2　Sakai T, Fujii M, Kitamura K, Mawatari M: Effect of Distal Tibial Oblique Osteotomy on Joint Contact Pressure Distribution in Ankle Osteoarthritis: A Patient Specific Finite Element Analysis Study. ORS2024. 2024, 2, 2-6. Paper#0768.

3　Ueno M, Miyamoto H, Kii S, Hirata H, Kawano S, Mawatari M: Silver-Containing Calcium Phosphate in Mesenchymal Stem Cell-Based Bone Regeneration: Comprehensive Analysis of Antibacterial Efficacy and Osteogenic Potential. ORS2024. 2024, 2, 2-6. Peper#2449.

4　Hirata H, Morimoto T, Yoshihara T, Tsukamoto M, Mawatari M: Vitamin D insufficiency in elderly patients undergoing spinal surgery:a comprehensive evaluation. ISSLS2024. 2024, 5, 27-31. programbook:#75.

5　*Ito H, Morimoto T, Hirata H, Yoshihara T, Tsukamoto M, Mawatari M: Serum periostin is associated with disc degeneration. ISSLS2024. 2024, 5, 27-31. programbook:#84.

6　Morimoto T, Tsukamoto M, Yoshihara T, Hirata H, Kobayashi T: When will spine surgeons in Orthopaedics and Neurosurgery in Japan finally achieve the gender diversity goal?. ISSLS2024. 2024, 5, 27-31. programbook:#147.

7　Tsukamoto M, Morimoto T, Hirata H, Yoshihara T, Mawatari M: Short-term results of thermal-sprayed silver-containing hydroxyapataite-coated cage for lumber interbody fusion. ISSLS2024. 2024, 5, 27-31. programbook:#215.

8　*Yamaguchi Y, Morimoto T, Kobayashi T, Hirata H, Yoshihara T, Tsukamoto M, Mawatari M: Predictive Factors for Stroke during Hospitalization in Spinal Disease: A Case Series Study and Meta-Analysis. ISSLS2024. 2024, 5, 27-31. programbook:#237.

国内全国規模の学会

1　上野雅也，河野俊介，森本忠嗣，藤井政徳，馬渡正明：ゴーグルから見える人工関節手術の未来．第54回日本人工関節学会．2024，2，23–24.

2　○河野俊介，上野雅也，藤井政徳，記伊祥雲，森本忠嗣，馬渡正明：銀含有ハイドロキシアパタイトコーティング技術を用いた抗菌性セメントレス人工股関節の開発．基礎から臨床における抗菌力評価．第54回日本人工関節学会．2024，2，23–24.

3　○河野俊介，馬渡正明：銀含有ハイドロキシアパタイトコーティングセメントレス抗菌人工股関節の目指すところ：臨床使用５年の成績と今後（ランチョンセミナー）．第54回日本人工関節学会．2024，2，23–24.

4　○河野俊介，上野雅也，藤井政徳，馬渡大介，馬渡正明：AG-HA coating cementless stem の成績と今後．第54回日本人工関節学会．2024，2，23–24.

5　*園畑素樹，河野俊介，藤井政徳，上野雅也，馬渡正明：後方アプローチ人工股関節全置換術における脱臼対策．第54回日本人工関節学会．2024，2，23–24.

6　藤井政徳，河野俊介，上野雅也，馬渡正明：関節外科トップジャーナルに採択されるために．第54

回日本人工関節学会．2024，2，23-24.

7　藤井政徳，河野俊介，上野雅也，園畑素樹，馬渡正明：Schanz 骨切り術後の高位脱臼性股に対する大腿骨骨切り併用 THA の治療成績．第54回日本人工関節学会．2024，2，23-24.

8　松村陽介，藤井政徳，長嶺里美，坂井達弥，馬渡大介，馬渡正明：関節リウマチ症例における両側同時人工膝関節置換術後合併症．第54回日本人工関節学会．2024，2，23-24.

9　塚本正紹，森本忠嗣，平田寛人，吉原智仁，馬渡正明：透析患者の腰椎後方椎体間固定術において銀含有ハイドロキシアパタイトコーティング脊椎ケージは有用である．第53回日本脊椎脊髄病学会学術集会．2024，4，18-20.

10　塚本正紹，森本忠嗣，小林孝巨，平田寛人，吉原智仁：血清ペリオスチン値は腰椎椎間板変性の重症度と相関する．第53回日本脊椎脊髄病学会学術集会．2024，4，18-20.

11 *中尾聡志，吉原智仁，塚本正紹，平田寛人，森本忠嗣，馬渡正明：脊椎手術後に発症した脳血管障害の臨床的特徴．第53回日本脊椎脊髄病学会学術集会．2024，4，18-20.

12　平田寛人，森本忠嗣，梅木　駿，塚本正紹，吉原智仁，小林孝巨，馬渡正明：皮膚の厚さと骨代謝性疾患との関係．第53回日本脊椎脊髄病学会学術集会．2024，4，18-20.

13　平田寛人，森本忠嗣，塚本正紹，吉原智仁，小林孝巨，馬渡正明：脊椎手術患者における血中ビタミンD濃度と骨代謝マーカー，骨密度の関係．第53回日本脊椎脊髄病学会学術集会．2024，4，18-20.

14　森本忠嗣，塚本正紹，吉原智仁，平田寛人，戸田　雄，小林孝巨：日本脊椎脊髄病学会と日本脊髄外科学会の10年間の会員の内訳．第53回日本脊椎脊髄病学会学術集会．2024，4，18-20.

15　吉原智仁，森本忠嗣，小林孝巨，塚本正紹，平田寛人，馬渡正明：脊椎手術における栄養・免疫状態と術創部問題の関連性．第53回日本脊椎脊髄病学会学術集会．2024，4，18-20.

16　吉原智仁，森本忠嗣，平田寛人，小林孝巨，戸田　雄，塚本正紹，大谷晃司，馬渡正明：ロコモティブシンドロームとの関連要因の探索的検討．第53回日本脊椎脊髄病学会学術集会．2024，4，18-20.

17　長嶺里美，田中里紀：特別企画シンポジウム 1（男女若手共同参画委員会企画）リウマチ医療の未来を考える：キャリアアップとワークライフバランス．第68回日本リウマチ学会総会・学術集会．2024，4，18-20.

18 *伊藤勇人，森本忠嗣，塚本正紹，吉原智仁，平田寛人，馬渡正明：血清ペリオスチンは椎間板変性と関連する．第97回日本整形外科学会学術総会．2024，5，23-26.

19　井野輔久，藤井政徳，河野俊介，上野雅也，馬渡大介，馬渡正明：同一患者における寛骨臼移動術と人工股関節全置換術の比較．第97回日本整形外科学会学術総会．2024，5，23-26.

20 *梅木　駿，森本忠嗣，平田寛人，吉原智仁，塚本正紹，馬渡正明：皮膚の厚さと骨粗鬆症や脊椎靱帯骨化との関係．第97回日本整形外科学会学術総会．2024，5，23-26.

21 *小林孝巨，藤井政徳，河野俊介，上野雅也，馬渡大介，馬渡正明：寛骨臼形成不全と境界型寛骨臼形成不全に対する寛骨臼移動術後の患者報告アウトカム尺度は同等である．第97回日本整形外科学会学術総会．2024，5，23-26.

22 *田中史織，藤井政徳，河野俊介，上野雅也，馬渡大介，馬渡正明：寛骨臼形成不全に対する寛骨臼移動術後の骨頭被覆と patient reported outcome measures（PROMs）の関係．第97回日本整形外科学会学術総会．2024，5，23-26.

23 *田中史織，藤井政徳，河野俊介，上野雅也，馬渡大介，馬渡正明：進行期変形性股関節症を伴う寛骨臼形成不全に対する寛骨臼移動術の臨床成績．第97回日本整形外科学会学術総会．2024，5，23-26.

24 *津本真帆，森本忠嗣，小林孝巨，平田寛人，吉原智仁，塚本正紹，馬渡正明：整形外科手術後の肺炎の関連因子．第97回日本整形外科学会学術総会．2024，5，23-26.

25 塚本正紹，森本忠嗣，平田寛人，吉原智仁，馬渡正明：銀含有ハイドロキシアパタイトコーティング脊椎ケージの短期成績―骨粗鬆症症例における検討―．第97回日本整形外科学会学術総会．2024，5，23-26.

26 長嶺里美，大泉尚美，新開祐美，山内かづ代：米国における整形外科医のリーダーシップ教育．第97回日本整形外科学会学術総会．2024，5，23-26.

27 *中尾聡志，森本忠嗣，小林孝巨，平田寛人，吉原智仁，塚本正紹，馬渡正明：大腿骨近位部骨折における術前の深部静脈血栓症の予測因子．第97回日本整形外科学会学術総会．2024，5，23-26.

28 藤井政徳，河野俊介，上野雅也，園畑素樹，馬渡大介，馬渡正明：Schanz 骨切り術後の高位脱臼性股に対する大腿骨骨切り併用 THA の治療成績．第97回日本整形外科学会学術総会．2024，5，23-26.

29 藤井政徳，山崎琢磨，福島健介，庄司剛士，髙田亮平，山田和希：第 7 章『大腿骨寛骨臼インピンジメント（FAI)』改訂のポイント．第97回日本整形外科学会学術総会．2024，5，23-26.

30 *宮本和樹，藤井政徳，河野俊介，上野雅也，馬渡大介，馬渡正明：麻痺性股関節亜脱臼に対する寛骨臼移動術の治療成績．第97回日本整形外科学会学術総会．2024，5，23-26.

31 *宮本和樹，坂井達弥，藤井政徳，松村陽介，長嶺里美，馬渡正明：人工膝関節置換術前の患者における足関節痛の頻度とその臨床的意義．第97回日本整形外科学会学術総会．2024，5，23-26.

32 森本忠嗣：銀含有ハイドロキシアパタイト（Ag-HA）コーティングケージの開発．第97回日本整形外科学会学術総会．2024，5，23-26.

33 吉原智仁，森本忠嗣，平田寛人，小林孝巨，戸田　雄，塚本正紹，大谷晃司，馬渡正明：ロコモティブシンドロームとの関連要因の探索的検討．第97回日本整形外科学会学術総会．2024，5，23-26.

34 平田寛人，森本忠嗣，戸田　雄，吉原智仁，塚本正紹，馬場創太郎，加藤貴也，Paholpak Permsak，稲葉忠司，笠井裕一：秘密のケンミン治療法 1 Minimal な Screw で Maximal な効果；骨折椎体への Short PPS がもたらす脊椎骨折手術の固定力向上効果．第14回最小侵襲脊椎治療学会．2024，6，28-29.

35 塚本正紹，森本忠嗣，戸田　雄，平田寛人，吉原智仁，馬渡正明：透析患者の腰椎後方椎体間固定術において銀含有ハイドロキシアパタイトコーティング脊椎ケージは有用である．第14回最小侵襲脊椎治療学会．2024，6，28-29.

36 *横田　栞，平田寛人，戸田　雄，吉原智仁，塚本正紹，森本忠嗣：腰椎椎体骨折に対する脊椎後方固定術後に発生した気胸の 1 つ．第14回最小侵襲脊椎治療学会．2024，6，28-29.

37 ○河野俊介，上野雅也，藤井政徳，長嶺里美，園畑素樹，馬渡正明：セメントレス人工股関節置換術における術後感染発生率の推移－抗菌人工股関節の有効性評価－．第52回日本関節病学会．2024，7，19-20.

38 坂井達弥，藤井政徳，長嶺里美，河野俊介：踵骨骨嚢腫術後感染に対する治療経験．第52回日本関

節病学会．2024，7，19-20.

39 上野雅也，河野俊介，記伊祥雲，馬渡正明：超音波処理と血液培養ボトルを併用した化膿性股関節炎・人工股関節周囲感染の起因菌検索．第47回日本骨・関節感染症学会．2024，7，26-27.

40 ○河野俊介，上野雅也，記伊祥雲，藤井政徳，森本忠嗣，馬渡正明：銀の抗菌作用と整形外科インプラント関連感染に対する予防法と治療法の探索．第47回日本骨・関節感染症学会．2024，7，26-27.

41 伊藤恵里子，長嶺里美：炎症性関節症患者における関節鏡視下腱板断裂手術の短期成績．第53回日本リウマチの外科学会．2024，9，13-14.

42 塚本正紹，森本忠嗣，横田　栞，戸田　雄，平田寛人，吉原智仁：透析患者における銀含有ハイドロキシアパタイト脊椎ケージの短期成績．第33回日本脊椎インストゥルメンテーション学会．2024，9，20-21.

43 森本忠嗣，塚本正紹，平田寛人，小林孝巨：骨増殖性疾患患者の皮膚は厚いか？．第26回日本骨粗鬆症学会．2024，10，11-13.

44 藤井政徳：人工股関節の感染予防対策について（ランチョンセミナー）．第39回日本整形外科基礎学術集会．2024，10，17-18.

45 永浜知晃，森本忠嗣，塚本正紹，吉原智仁，平田寛人：佐賀県の運動器検診の実状．第32回日本腰痛学会．2024，10，25-26.

46 森本忠嗣：リクエスト企画：リハビリ科はこれが聞きたい！（運動器疾患スペシャリストから理学療法の真髄を聞く）腰椎外来診療の実際．第32回日本腰痛学会．2024，10，25-26.

47 井野輔久，藤井政徳，河野俊介，上野雅也，宮本和樹，田中史織，伊藤康志，大場陽介：麻痺性股関節亜脱臼に対する寛骨臼移動術の治療成績．第51回日本股関節学会学術集会．2024，10，25-26.

48 *大場陽介，藤井政徳，河野俊介，上野雅也，伊藤康志，田中史織：Crowe type Ⅳの股関節高位脱臼に対する大腿骨転子下骨切り併用 THA の治療成績．第51回日本股関節学会学術集会．2024，10，25-26.

49 ○河野俊介：海外研究留学帰朝報告セッション ベルン大学研修報告－股関節温存手術の心得－．第51回日本股関節学会学術集会．2024，10，25-26.

50 ○河野俊介，上野雅也，藤井政徳，伊藤康志，大場陽介，田中史織，森本忠嗣：PJI におけるセメントレス抗菌人工股関節の implant 温存効果．第51回日本股関節学会学術集会．2024，10，25-26.

51 *田中史織，藤井政徳，河野俊介，上野雅也，伊藤康志，大場陽介：寛骨臼移動術は股関節形成不全の自然経過を変えるか．第51回日本股関節学会学術集会．2024，10，25-26.

52 *田中史織，藤井政徳，河野俊介，上野雅也，伊藤康志，大場陽介：Cam 変形を伴う寛骨臼形成不全に対する寛骨臼移動術の術後成績．第51回日本股関節学会学術集会．2024，10，25-26.

53 ○東島直生，河野俊介，松本　幸，上野雅也，藤井政徳，森本忠嗣：人工股関節全置換術後患者における片脚起立時間測定の有用性．第51回日本股関節学会学術集会．2024，10，25-26.

54 藤井政徳：エビデンスに基づいた FAI 診療（教育研修講演）．第51回日本股関節学会学術集会．2024，10，25-26.

55 藤井政徳，田中史織，河野俊介，上野雅也，伊藤康志，大場陽介：寛骨臼移動術対象患者の疫学的傾向．第51回日本股関節学会学術集会．2024，10，25-26.

56 伊藤恵里子，泉　政寛，長嶺里美，古畑友基，野々上湧人，秋山隆行，池邉智史：炎症性関節症患者における関節鏡視下腱板断裂手術の短期成績．第51回日本肩関節学会．2024，10，25-26.

57　泉　政寛，伊藤恵里子，古畑友基，秋山隆行，池邉智史：鏡視下腱板修復術後の再断裂と上腕骨近位骨質との関係．第51回日本肩関節学会．2024，10，25-26.

58　藤井政徳：CT Morphology から考える股関節不安定性（シンポジウム）．第51回日本臨床バイメカニクス学会．2024，11，1-2.

59　坂井達弥，藤井政徳，山口勝城，高島怜史，杉野晴章，水田和孝，江頭秀一，田中博史，本岡勉：人工膝関節全置換術によるアライメント変化と足関節痛の関係．第49回日本足の外科学会学術集会．2024，11，7-8.

60　坂井達弥，古賀有香里，藤井政徳：自家骨と人工骨を併用し内固定した DTOO の骨癒合と抜釘時期．第49回日本足の外科学会学術集会．2024，11，7-8.

61　井野輔久，戸田　雄，平田寛人，吉原智仁，塚本正紹，森本忠嗣：脊椎に発したメトトレキセート関連リンパ増殖性疾患の 2 例．第27回日本低侵襲脊椎外科学会学術集会．2024，11，21-22.

62　戸田　雄，松本嘉寛，井野輔久，平田寛人，吉原智仁，塚本正紹，森本忠嗣：脊椎周囲軟部組織・脊椎発生腫瘍の広範切除における局在に応じた手術手技．第27回日本低侵襲脊椎外科学会学術集会．2024，11，21-22.

63　松村陽介，藤井政徳，坂井達弥，長嶺里美：内側型変形性膝関節症に対する人工膝関節全置換術において冠状断アライメントが患者立脚型評価に及ぼす影響．第 2 回日本膝関節学会．2024，12，6-7.

地方規模の学会

1　*宮本和樹，森本忠嗣，吉原智仁，塚本正紹，平田寛人，馬渡正明：佐賀県の学童運動器検診の実状．第39回九州小児整形集談会．2024，1，13.

2　平田寛人，森本忠嗣，吉原智仁，塚本正紹，馬渡正明：椎体骨折に対して後方固定術後に気胸を起こした一症例の検討．第13回九州 Mist 研究会．2024，2，17.

3　坂井達弥，藤井政徳，馬渡正明：踵骨骨嚢腫術後感染に対する治療経験．第10回九州足の外科研究会．2024，3，2.

4　*田中史織，藤井政徳，河野俊介，上野雅也，馬渡正明：寛骨臼移動術は股関節形成不全の自然経過を変えるか．第147回西日本整形・災害外科学会学術集会．2024，6，1-2.

5　藤井政徳，河野俊介，上野雅也，田中史織，馬渡正明：寛骨臼移動術対象患者の経年的変化．第147回西日本整形・災害外科学会学術集会．2024，6，1-2.

6　*山口勝城，森本忠嗣，塚本正紹，吉原智仁，平田寛人，秋山隆行，馬渡正明：経皮的椎体形成術前後の隣接椎間板真空現象（Vacuum phenomenon）の推移と特徴．第147回西日本整形・災害外科学会学術集会．2024，6，1-2.

7　伊藤恵里子，長嶺里美：炎症性関節症患者における関節鏡視下腱板断裂手術の短期成績．第68回九州リウマチ学会．2024，9，7-8.

8　平田寛人，横田　栞，吉原智仁，塚本正紹，戸田　雄，小林孝巨，森本忠嗣：XR 技術を活用した多診療科合同による神経線維腫症 I 型患者の胸腔内髄膜腫治療．第100回西日本脊椎研究会．2024，11，16.

9　井野輔久，藤井政徳，伊藤康志，河野俊介，上野雅也，田中史織，大場陽介：人工股関節全置換術の腰痛の変化．第148回西日本整形・災害外科学会学術集会．2024，12，21-22.

10　上野雅也，長嶺里美，松村陽介，泉　政寛，吉原智仁，塚本正紹，森本忠嗣：コロナ禍からの整形

外科における働き方改革の推進－佐賀大学病院での実践報告（特別１－４）．第148回西日本整形・災害外科学会学術集会．2024，12，21-22.

11 ○河野俊介，上野雅也，藤井政徳，伊藤康志，大場陽介，田中史織：セメントレス抗菌人工股関節の合併症．第148回西日本整形・災害外科学会学術集会．2024，12，21-22.

12 *田中史織，河野俊介，藤井政徳，上野雅也，馬渡正明：境界型股関節形成不全における変形性股関節症進行の予測因子．第148回西日本整形・災害外科学会学術集会．2024，12，21-22.

13 戸田　雄，孝橋賢一，山本英崇，森本忠嗣：骨巨細胞腫におけるデノスマブ投与による組織学的変化と腫瘍微小環境変化．第148回西日本整形・災害外科学会学術集会．2024，12，21-22.

14 松村陽介，藤井政徳，長嶺里美，坂井達弥：両側同時人工膝関節置換術後に左右差を訴える症例の検討．第148回西日本整形・災害外科学会学術集会．2024，12，21-22.

15 横田　栞，松村陽介，伊藤恵里子，坂井達弥，藤井政徳，長嶺里美：両側同時人工膝関節全置換術におけるドレーン使用の有無が及ぼす影響．第148回西日本整形・災害外科学会学術集会．2024，12，21-22.

その他の学会

1 塚本正紹：腰椎疾患診療におけるジクトルテープの使用経験．ジクトル®テープ75mg 効能追加１周年記念講演会 in 佐賀．2024，1，27.

2 長嶺里美：『関節リウマチの治療最適化を目指した地域連携～総括～』．RA 診療連携カンファレンス in 佐賀．2024，3，21.

3 長嶺里美：体軸性脊椎関節炎の診断と治療．Arthritis Seminar in Saga．2024，10，9.

4 平田寛人：佐賀大学よりヘルニコア１演題（症例発表①）．はがくれ椎間板内酸素注入療法を語る会．2024，3，9.

5 森本忠嗣：『脊椎診療のトピックス』．筑後医科歯科薬科合同セミナー．2024，1，28.

6 森本忠嗣：『ニューロリハビリテーションに役立つ整形外科デジタル応用の当科の取り組み』．第15回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会．2024，3，3.

7 森本忠嗣：佐賀県の運動器検診の実状．佐賀県学校保健研修会．2024，3，7.

8 森本忠嗣：『Sagacity in MIST』（ランチョンセミナー）．第15回中部 MIST 研究会．2024，9，28.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	１：代表 ２：分担 該当番号を記入	研　究　課　題　等	交付金額（千円）
名誉教授	馬渡　正明	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	骨折モデルの治癒課程におけるストレス応答キープレイヤー Nupr1の作用とその機序	700 (980)
名誉教授	馬渡　正明	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	ストレス応答タンパク質 Nupr1の骨形成と骨の老化における機能及び制御機構の解明	50 (96)
名誉教授	馬渡　正明	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	バイオ3D プリンタを用いて広範囲骨欠損再建法の確立を目指す研究	100 (100)

名誉教授	馬渡　正明	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	細胞のみで作製した3次元骨組織体を用いて広範囲骨欠損再建法の確立を目指す研究	100
准教授	森本　忠嗣	厚生労働科学研究費補助金	慢性の痛み政策研究事業	2	痛みセンターを中心とした慢性疼痛診療システムの均てん化と診療データベースの活用による医療向上を目指す研究	500
准教授	森本　忠嗣	厚生労働科学研究費補助金	基盤研究(C)	2	慢性痛と腸内細菌叢，および血中 PGC1a の関連と集学的治療の効果に関する研究	77
准教授	森本　忠嗣	学術研究助成基金助成金	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化B）	2	日本 - タイ連携によるヒト屍体脊椎の力学特性および変形挙動の実験的解明	200 (61)
准教授	森本　忠嗣	学術研究助成基金助成金	基盤研究(C)	2	アジア人屍体脊椎を用いた6軸力学試験による脊椎インプラントの破損の原因究明	200
准教授	森本　忠嗣	学術研究助成基金助成金	基盤研究(C)	2	ロコモの進行を予測するバイオマーカーの探索的研究	20
講　師	藤井　政徳	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	機能的骨盤傾斜に注目した寛骨臼形成不全の病態解明と骨形態矯正アルゴリズムの確立	0 (1,303)
助　教	松村　陽介	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	細胞のみで作製した3次元骨組織体を用いて広範囲骨欠損再建法の確立を目指す研究	1,000
助　教	上野　雅也	科学研究費助成事業	若手研究	1	三次元細胞培養を用いた骨髄炎治療時の骨代謝の挙動解明	0 (1,047)
助　教	上野　雅也	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	骨折モデルの治癒課程におけるストレス応答キープレイヤー Nupr1の作用とその機序	100 (18)
助　教	上野　雅也	科学研究費助成事業	若手研究	1	三次元細胞培養培養と幹細胞を用いた感染部位への骨再生医療の挑戦	1,400
助　教	吉原　智仁	科学研究費助成事業	若手研究	1	ペリオスチンを介した骨組織と皮膚組織との相互作用	1,900
助　教	坂井　達弥	科学研究費助成事業	若手研究	1	変形性足関節症の病態解明と理想的な矯正骨切り術の確立を目指した生体力学的研究	1,200 (165)
助　教	平田　寛人	科学研究費助成事業	若手研究	1	時計遺伝子 DEC1による骨芽細胞への影響に関する研究骨粗鬆症治療の新たな標的	1,100 (502)
助　教	平田　寛人	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	骨折モデルの治癒課程におけるストレス応答キープレイヤー Nupr1の作用とその機序	100 (300)

助　教	平田　寛人	学術研究助成基金助成金	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化B）	2	日本－タイ連携によるヒト屍体脊椎の力学特性および変形挙動の実験的解明	200 (58)
助　教	平田　寛人	学術研究助成基金助成金	基盤研究(C)	2	アジア人屍体脊椎を用いた6軸力学試験による脊椎インプラントの破損の原因究明	200
客　員 研究員	馬渡　大介	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	バイオ3Dプリンタを用いて広範囲骨欠損再建法の確立を目指す研究	1,400 (171)

※（　）は繰越金で外数

脳神経外科学講座

著　　書

1　阿部竜也，宮本　元：Hypothalamic neuronal hamartoma．脳腫瘍臨床病理カラーアトラス第5版．pp208，2024，医学書院．

原著論文

1　○Ide T, Yakushiji Y, Suzuyama K, Nishihara M, Eriguchi M, Atsushi Ogata A, Matsumoto A, Hara M, Hara H: Associations for progression of cerebral small vessel disease burden in healthy adults: the Kashima scan study. Hypertension Research. 47: 302-310, 2024.

2　*Houkin K, Osanai T, Uchiyama S, Minematsu K, Taguchi A, Maruichi K, Niiya Y, Asaoka K, Kuga Y, Takizawa K, Haraguchi K, Yoshimura S, Kimura K, Tokunaga K, Aoyama A, Ikawa F, Inenaga C, Abe T, Tominaga A, Takahashi S, Kudo K, Fujimura M, Sugiyama T, Ito M, Kawabori M, David C Hess, Sean I Savitz, Hirano T: TREASURE Study Investigators: Allogeneic Stem Cell Therapy for Acute Ischemic Stroke: The Phase 2/3 TREASURE Randomized Clinical Trial. JAMA Neurol. Feb 1; 81(2): 154-162, 2024, 2.

3　*Kanamori M, Tsuzuki S, Shibahara I, Saito K, Shimoda Y, Tanaka K, Yamaguchi S, Natsumeda M, Matsutani T, Hanihara M, Nakada M, Kuroda J, Matsuda M, Yoshimoto K, Yonezawa U, Sonoda Y, Takano K, Yonezawa H, Otani Y, Nakahara Y, Uchida M, Nonaka M, Mineharu Y, Kitamura Y, Yamashita S, Yamauchi T, Miyake Y, Deguchi S, Beppu T, Tamura K, Koizumi S, Hirose Y, Asano K, Hiruta R, Kinoshita M, Miyake K, Nakayama N, Inoue A, Ono T, Sasaki T, Akiyama Y, Fukami S, Yoshino A, Kawanishi Y, Asanome T, Yamaguchi T, Takahashi M, Yamasaki F, Arakawa Y and, Narita Y: Impact of tumor-treating fields on the survival of Japanese patients with newly diagnosed glioblastoma: A multicenter, retrospective cohort study. Neurooncol Adv. 2024 Nov 28; 6(1): vdae176, 2024, 11.

4　Ogata A, Furukawa T, Yoshioka F, Nakahara Y, Masuoka J, Abe T: Three-dimensional (3D) microcatheter shaping using touch screen devices for cerebral aneurysm coil embolization. World Neurosurg. 2024 Feb; 182: e823-e828, 2024, 2.

5　*Sakamoto Y, Naruo S, Ozaki T, Tahata S, Fujimoto T, Ogata A, Yoshioka F, Nakahara Y, Masuoka J, Abe T: Usefulness and Safety of Gelatin-Thrombin Matrix Sealants in Minimally Invasive

Microscopic Discectomy. Asian J Neurosurg. 2024 Jun 12; 19(3): 478-483, 2024, 6.

6 *SakamotoY, Naruo S, Ozaki T, Tahata S, Fujimoto T, Abe T: Immediate Effects, Detailed Clinical Outcomes, and Prognostic Factors of Chemonucleolysis Using Condoliase for Lumbar Disc Herniation. Neurol Med Chir (Tokyo). 2024 Jun 15; 64(6): 230-240, 2024, 6.

総　　説

1　増岡　淳，阿部竜也：脳腫瘍－神経鞘腫－．BRAIN NURSING（画像と患者さんの症状，ケアが結びつく！脳画像で読み解く脳神経疾患）．40(5)，86-90，2024年9月1日発行，メディカ出版.

2　増岡 淳，並川裕貴，阿部竜也：舌咽神経痛．脳神経外科速報．Vol 34．No. 6：684-688，2024, 11.

症例報告

1 ○Ide T, Ebashi R, Eriguchi M, Aishima S, Abe T, Hara H: Fulminant Demyelinating Disease of the Central Nervous System Effectively Treated with a Combination of Decompressive Craniectomy and Immunotherapy: A Case Report and Literature Review. Clin Case Rep. 12: e9059, 2024.

2　Namikawa H, Ogata A, Furukawa T, Masuoka J, Abe T: Traumatic Vertebral Artery Dissection Without Cervical Spine Injury Treated by Mechanical Thrombectomy. Cureus. 2024 May 14; 16(5): e60287, 2024, 5.

3　緒方敦之，黒川　暢：不整形動脈瘤に対する Avenir coil Complex Framing Soft（CFS）の有用性. Avenir Case Report. Avenir Case Report，2024.

4　緒方敦之：安全な脳動脈瘤コイル塞栓術を支える新スタンダードマイクロカテーテル：GREACH® が導く最適解．GREACH Case Report，2024.

5 *Takase Y, Tanaka T, Goto H, Momozaki N, Honda E, Abe T, Matsuno A: Delayed rupture of a pseudoaneurysm after mechanical thrombectomy: a case report. Asian J Neurosurg. 2024 Jun 7; 19(3): 556-562, 2024, 6.

6 *Takase Y, Tanaka T, Anai S, May Pyae Kyaw, Michiwaki Y, Itokawa H, Yamane F, Abe T, Matsuno A: Usefulness of non-slip element percutaneous transluminal angioplasty scoring balloons in treating severe calcified lesions of the carotid artery for carotid artery stenting: A case report. Surgical Neurology International. 2024 Mar 15: 15: 91, 2024, 3.

7 *Tanaka T, May Pyae Kyaw, Anai S, Takase Y, Takase Y, Abe T, Matsuno A: Fatal Convexity and Interhemispheric Acute Subdural Hematoma from a Falx Meningioma: A Case Report. Surgical Neurology International. 2024 Apr 5: 15: 115, 2024, 4.

8 *Tanaka T, Nhi HNY, Pyae Kyaw M, Otoki Y, Takase Y, Uwatoko K, Minagawa H, Yukitake M, Agari T, Suehiro E, Abe T, Matsuno A: Successful Management of Acute Subdural Hematoma in Deep Brain Stimulation Patient: A Case Report and Literature Review. Cureus: 2024 May 31; 16(5): e61469, 2024, 5.

学会発表

国際規模の学会

1　Ogata A, Furukawa T, Ito H, Yoshioka F, Nakahara Y, Masuoka J, Abe T: Three-dimensional microcatheter shaping using touch screen devices for cerebral aneurysm coil embolization. 第16回南韓国九州脳神経外科学会（The 16th Young-Honam and Kyushu Neurosurgical Joint Meeting）. 2024，11，7-9.

国内全国規模の学会

1　阿部竜也，中原由紀子，伊藤　寛，並川裕貴，前田　美，荒巻久美子：佐賀大学における脳腫瘍支持療法の取り組み．第 2 回脳腫瘍支持療法研究学術集会．2024，9，29.

2　○池田宗平，田中　淳，西原正志，緒方敦之，吉川正章，井手俊宏，鈴山耕平，江里口誠，原　英夫，薬師寺祐介：髄液バイオマーカーと MRI を用いた混合型脳内出血の背景病理推定：HAGAKURE 研究．第49回日本脳卒中学会学術集会．2024，3，7-9.

3　伊藤　寛，吉岡史隆，並川裕貴，王丸翔馬，前山　元，古川　隆，緒方敦之，増岡　淳，阿部竜也：当施設における放射線誘発性髄膜腫の予後因子の検討．第42回日本脳腫瘍学会学術集会．2024，12，1-3.

4　緒方敦之 :SOS（Shaping on screen）が有用であった破裂前交通動脈瘤の一例．第 2 回 TIP 研究会．2024，2，11-12.

5　緒方敦之，古川　隆，乙木祐介，並川裕貴，古賀文崇，伊藤　寛，吉岡史隆，中原由紀子，増岡淳，阿部竜也：動脈瘤塞栓術における Touch screen を用いた3D マイクロカテーテルシェイピングの有用性．第53回日本脳卒中の外科学会学術集会．2024，3，7-9.

6　緒方敦之：経皮的脳血栓回収術後のくも膜下腔造影剤漏出と急性脳腫脹の関連．第47回日本脳神経 CI 学会総会．2024，4，19-20.

7　緒方敦之，古川　隆，前山　元，並川裕貴，王丸翔馬，伊藤　寛，吉岡史隆，中原由紀子，増岡淳，阿部竜也：未破裂脳動脈瘤塞栓術の根治性と MRI vessel wall imaging および塞栓率の関連．日本脳神経外科学会第83回学術総会．2024，10，16-18.

8　緒方敦之：ハイブリッド手術室における Cone Beam CT を活用した内視鏡下血腫除去術の有用性．第31回一般社団法人日本神経内視鏡学会．2024，11，7-8.

9　緒方敦之：限界突破：i-ED coil とともに昨日までの自分を超える．第40回日本脳神経血管内治療学会学術集会．2024，11，21-23.

10　緒方敦之，西原正志，古川　隆，井手俊宏，伊藤　寛，吉岡史隆，中原由紀子，増岡　淳，小池春樹，阿部竜也：経皮的脳血栓回収術後のくも膜下腔造影剤漏出と急性脳腫脹の関連．第40回日本脳神経血管内治療学会学術集会．2024，11，21-23.

11　前山　元，高口素史，鈴山堅志，阿部竜也：小児軽症頭部外傷症例における画像検査適応及び PECARN rule の有効性に関する検討．第47回日本脳神経外傷学会．2024，3，1-2.

12　中原由紀子，阿部竜也：転移性脳腫瘍に対する集学的治療の現状と課題．第44回日本脳神経外科コングレス総会．2024，5，9-12.

13　並川裕貴：経皮的脳血栓回収術を施行した侵襲性副鼻腔アスペルギルス症の 1 例．第47回日本脳神経 CI 学会総会．2024，4，19-20.

14　並川裕貴：長期生存した Diffuse midline glioma の一例とその予後因子の検証．第42回日本脳腫瘍病理学会．2024，5，24-25.

15　○吉村啓允，脇本浩明，伊藤　寛，中原由紀子，阿部竜也：マサチューセッツ総合病院での短期研究留学経験（学生口演）．第24回日本分子脳神経外科学会．2024，7，19-20.

16　吉岡史隆：Sonopet iQ の使用経験．第47回日本脳神経 CI 学会総会．2024，4，19-20.

17　吉岡史隆，並川裕貴，三宅有理亜，古川　隆，伊藤　寛，緒方敦之，中原由紀子，増岡　淳，上村哲司，阿部竜也：片側性 Craniocerebral disproportion を呈した裂脳症の一手術例．第52回日本小

児神経外科学会．2024，6，7–8.

18　吉岡史隆：デジタルエコーナビゲーションシステムの初期使用経験．第24回日本術中画像情報学会．2024，7，6.

19　吉岡史隆，伊藤　寛，中原由紀子，王丸翔馬，前山　元，並川裕貴，古川　隆，緒方敦之，増岡　淳，阿部竜也：当院における放射線誘発髄膜腫に対する治療成績．第29日本脳腫瘍の外科学会．2024，10，4–5.

20　吉岡史隆，増岡　淳，阿部竜也：長期経過した「脳死と判断しうる状態」に生じた偽性脳瘤の 4 小児例．第41回日本こども病院外科医会研修会．2024，11，2–3.

地方規模の学会

1　古賀文崇，伊藤　寛，井上裕香子，井手俊宏，小池春樹，前山　元，並川裕貴，古川　隆，吉岡史隆，緒方敦之，中原由紀子，増岡　淳，阿部竜也：脳腫瘍と鑑別を要した HIV 関連進行性多巣性白質脳症の一例．第146回日本脳神経外科学会九州支部会．2024，3，2.

2　前山　元，緒方敦之，古賀文崇，並川裕貴，古川　隆，高口素史，伊藤　寛，中原由紀子，鈴山堅志，増岡　淳，阿部竜也：椎骨動脈－脳底動脈合流部動脈瘤と左鎖骨下動脈閉鎖症に対して遠位橈骨アプローチで血管内治療を行った一例．第39回日本脳神経血管内治療学会九州地方会．2024，1，27.

3　緒方敦之：硬膜動静脈瘻塞栓術のために最低限必要な解剖学的知識（解剖セミナー）．第39回日本脳神経血管内治療学会九州地方会．2024，1，27.

4　緒方敦之，古川　隆，前山　元，並川裕貴，王丸翔馬，伊藤　寛，吉岡史隆，増岡　淳，阿部竜也：内頸動脈後交通動脈分岐部瘤の一例―私たちの治療方針―．第148回日本脳神経外科学会九州支部会．2024，9，28.

5　王丸翔馬，吉岡史隆，前山　元，並川裕貴，古川　隆，伊藤　寛，緒方敦之，中原由紀子，増岡　淳，阿部竜也：産褥期に増悪した Late-onset aqueductal membranous occlusion に対して第三脳室底開窓術を施行した一例．第147回日本脳神経外科学会九州支部会．2024，6，1.

6　王丸翔馬，並川裕貴，緒方敦之，古川　隆，前山　元，伊藤　寛，吉岡史隆，中原由紀子，増岡　淳，阿部竜也：頸椎脱臼に合併した外傷性両側椎骨動脈閉塞の 1 例．第40回日本脳神経血管内治療学会．2024，8，3.

7　王丸翔馬，古川　隆，前山　元，並川裕貴，伊藤　寛，吉岡史隆，緒方敦之，中原由紀子，増岡　淳，阿部竜也：Isolated lateral ventricle に対して神経内視鏡下脳室開窓術が有効であった一例．第148回日本脳神経外科学会九州支部会．2024，9，28.

8　吉岡史隆：ASL 灌流画像の遷延する高信号を呈し MRS が診断に有用であった小児特発性脳梗塞の一例．第 3 回九州小児神経外科カンファレンス．2024，8，24.

その他の学会

1　古川　隆：破裂脳動脈瘤を中心とするてんかん発作管理．若手脳神経外科医のための周術期てんかんを考える会 in 佐賀．2024，2，28.

2　古川　隆：当院における周術期てんかん診療からの考察．フィコンパ® 点滴静注用 2 mg 脳神経外科領域のてんかん診療セミナー in 筑後佐賀．2024，9，11.

3　前山　元：はじめての CEA．第24回佐賀脳神経外科手術手技研究会．2024，1，27.

4　増岡 淳：小切開 MVD．第44回筑後・佐賀脳神経外科懇話会ビデオカンファランス．2024, 8, 28.

5　中原由紀子：自施設症例の提示：中脳発生の GBM．九州ラウンドテーブル2024．2024，8，3.
6　並川裕貴：はじめての clipping－MCA 破裂動脈瘤の一例－．第24回佐賀脳神経外科手術手技研究会．2024，1，27.
7　並川裕貴：当院での脳卒中関連てんかん診療と薬物治療について．第59回佐賀脳神経外科懇話会．2024，7，13.
8　緒方敦之：不整計形動脈瘤に対する Avenir Complex Framing Soft（CFS）の有用性－CFS の特性を考える－．第24回岡山脳血管内治療研究会．2024，4，13.
9　緒方敦之：治療に難渋した破裂大型脳底動脈瘤の 1 例．第16回九州脳血管内治療勉強会．2024，5，18.
10　吉岡史隆：令和 5 年，手術中に心が折れそうになった手術 3 選．第24回佐賀脳神経外科手術手技研究会．2024，1，27.
11　吉岡史隆：デジタルエコーナビゲーションシステムの有用性．脳腫瘍最新情報 Web セミナー2024．2024，9，18.
12　吉岡史隆：脳外科診療における疼痛管理．SAGA Bridge Conference．2024，11，8.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研　究　課　題　等	交付金額（千円）
准教授	増岡　　淳	科学研究費助成事業	基盤研究(C)（一般）	1	可溶性エポキシドヒドロラーゼ阻害ワクチンによる脳梗塞治療の開発	1,690
講　師	中原由紀子	科学研究費助成事業	基盤研究(C)（一般）	1	DNA 脱メチル化酵素 TET をターゲットとした革新的治療法の開発	1,950

泌尿器科学講座

著　　書

1　野口　満：膀胱尿管逆流．今日の治療指針 私はこう治療している Vol. 66：1222-1223，2024，1，㈱医学書院，東京.
2　野口　満，東武昇平：前立腺肥大症．日常診療に活かす診療ガイドライン UP-TO-DATE 2024-2025，2024，2，株式会社メディカルレビュー社，大阪.
3　野口　満：【監修】遺伝性腎疾患．イヤーノート 2025 内科・外科編 第34版 E．腎・泌尿器 P72-73，2024，3，株式会社メディックメディア，東京.
4　野口　満：【監修】泌尿器科的疾患．イヤーノート 2025 内科・外科編 第34版 E．腎・泌尿器 P120，122-124，139-141，2024，3，株式会社メディックメディア，東京.
5　野口　満：子どもの尿失禁，診断と治療の要点は？【小児尿失禁の病因は多岐にわたり，病因に基づき加療が行われる】．週刊 日本医事新報 NO. 5219 プロからプロへ 泌尿器科 P50，2024，5，株式会社日本医事新報社，東京都.
6　東武昇平，野口　満：ステロイド総論．泌尿器外科 第37号 特別号 泌尿器科薬物療法2024 21. 小

児 包茎 P438-439，2024，4，医学図書出版株式会社，東京都.

7 *伊藤秀一，辻　章志，東武昇平：【監修】腎・泌尿器．イヤーノート小児科2025【電子版】，2024，10，株式会社メディックメディア.

8 野口　満：性分化疾患（小児泌尿器科）―性分化疾患による性別判定不明瞭児の取り扱いは，泌尿器科緊急疾患！．泌尿器科診療の掟 1(1)：173-181，2024，11，株式会社中外医学社，東京都.

9 *佐藤裕之，梅本幸裕，小川哲史，木下義晶，小島祥敬，宋　成浩，生野　猛，白石晃司，杉多良文，世川　修，高橋正幸，田中征治，東武昇平，内藤泰行，水野健太郎，三井貴彦，守屋仁彦，矢内俊裕，吉野　薫，岩月正一郎，佐藤雄一，嶋　雄一，志村寛史，西尾英紀，林祐太郎，池田裕一，野口　満，山髙篤行，米倉竹夫：Ⅰ.停留精巣の診療アルゴリズム Ⅱ.疫学 Ⅲ.定義・分類 Ⅳ.Clinical Questions（CQs）日本小児泌尿器科学会雑誌 Vol.33臨時増刊号 2024 停留精巣診療ガイドライン第2版（2024）．2024，12，日本小児泌尿器科学会.

10 野口　満：膀胱尿管逆流・異所性尿管・尿管瘤：腎と透析 Vol.97増刊号 腎疾患の診断と治療 最前線．2024，12，株式会社東京医学社.

11 東武昇平：【監修】尿路の解剖，先天異常，多発性嚢胞腎（PKD），膀胱尿管逆流（VUR）．病気がみえる Vol.8 腎・泌尿器 第4版，2024，12，株式会社メディックメディア.

原著論文

1 *山口隆大，呉屋真人，東島克佳，東武昇平，佐藤竜太，鑪野秀一，向井尚一郎，上村慶一郎，立神勝則，坪内和女，志田洋平，石井　龍，酒井英樹，松岡弘文，羽賀宣博，江藤正俊，井川　掌，賀本敏行，榎田英樹，秦　聡孝，野口　満，藤本直浩，斎藤誠一，神波大己：九州沖縄地区におけるガイドライン出版以前の陰茎癌診療の実態調査．西日本泌尿器科 86(3)：98-107，2024，2.

2 ○Tatsuya Furuno, Rintaro Sogawa, Takanori Hashimoto, Shunsuke Matsuo, Wakako Shirahama, Tomoko Kamura, Kazuhisa Hosoya, Yoko Senjyu, Yoshio Yamashita, Takuya Inoue, Moriyasu Yamauchi, Hiroo Katsuya, Mitsuru Noguchi, Naoko Sueoka-Aragane, Chisato Shimanoe: Association between the Prognostic Nutritional Index and the Occurrence of Immune-Related Adverse Events. Biol Pharm Bull 47(2): 361-365, 2024, 2.

3 ○Megumi Nishiyama, Yuko Sakaguchi, Sayuri Morito, Kei Nagase, Takehisa Sakumoto, Kunihiko Yamashita, Mariko Hashiguchi, Makoto Fukuda, Shuji Toda, Shigehisa Aoki: A new lymphedema treatment using pyro-drive jet injection. Hum Cell. 37(2): 465-477, 2024, 3.

4 *Shotaro Nakanishi, Yumi Fukushima, Junichi Inokuchi, Tomoaki Hakariya, Hiroaki Kakinoki, Hideki Enokida, Katsuaki Chikui, Hirofumi Matsuoka, Toshitaka Shin, Shoichiro Mukai, Tomomi Kamba, Masatoshi Eto, Ryoichi Imamura, Mitsuru Noguchi, Tsukasa Igawa, Nobuhiro Haga, Toshiyuki Kamoto, Naohiro Fujimoto, Seiichi Saito: Clinicopathological characteristics of adrenocortical carcinoma in the Kyusyu−Okinawa area of Japan. Int J Urol. 31(5): 484-491, 2024, 5.

総　　説

1 東武昇平，前田晃宏，野口　満：CAKUTにおける下部尿路機能障害．排尿障害プラクティス【特集】小児排尿障害 update 32(1)：18-23，2024，6.

2 東武昇平，野口　満：ウロセラピーの成功のポイント．日本排尿機能学会誌 特集4 エキスパートに学ぶ小児排尿障害診療 日排尿会誌 34(2)：431-433，2024.

3 東武昇平，野口　満：CAKUTの腎不全を如何にくい止めるか！―泌尿器科医の役割―．日本小

児腎不全学会雑誌 44：19-23，2024.

4　東武昇平，野口　満：緊急対応！急性陰嚢症の診断と治療．泌尿器外科 特集：外来でみる小児泌尿器科疾患への対応とそのポイント 37(11)：1183-1188，2024，11.

症例報告

1　Hiroaki Kakinoki, Yukako Yamaguchi, Minika Yukimoto, Yuka Kakinoki, Kazuma Udo, Shohei Tobu, Go Takeshita, Yoshiaki Egashira, Ken Yamaguchi, Mitsuru Noguchi: A case of bleeding shock induced by injury of the intercostal artery following percutaneous nephrolithotripsy. IJU Case Reports (2024) 7(1): 18-21, 2024, 1.

2　草野脩平，柿木寛明，前田晃宏，村上道洋，永瀬　圭，有働和馬，東武昇平，野口　満：化学療法骨髄抑制期に経尿道的尿管砕石術を行った小児急性骨髄性白血病の一例．日本小児泌尿器科学会雑誌 33(1)：63-66，2024，6.

3　前田晃宏，東武昇平，川﨑麻己，柿木寛明，有働和馬，野口　満：精嚢原発腫瘍と鑑別を要した嚢胞形成を伴う異所性前立腺癌の1例．西日本泌尿器科 87(2)：67-72，2024，12.

学会発表

国際規模の学会

1　Maki Kawasaki, Kei Nagase, Megumi Nishiyama, Kazuma Udo, Shohei Tobu, Shigehisa Aoki, Mitsuru Noguchi: PATHOLOGICAL ELUCIDATION OF CELLULAR DYNAMICS IN BLADDER CANCER STROMA USING A THREE-DIMENSIONAL COLLAGEN MODEL REPRODUCING CANCER-SPECIFIC MICROENVIRONMENT. AUA 2024 Podium Session 14 PD14-02, 2023, 5, 3-6.

国内全国規模の学会

1　前田晃宏，東武昇平，柿木寛明，有働和馬，野口　満：局所進行性前立腺癌に対する術前補助ホルモン療法は有効か．第16回日本ロボット外科学会学術集会 一般口演26 前立腺① O26-10，2024，2，10-11.

2　川﨑麻己，永瀬　圭，西山めぐみ，有働和馬，東武昇平，青木茂久，野口　満：癌特異的微小環境再現コラーゲン三次元モデルを用いた膀胱癌間質の細胞動態の病理学的解明．第33回泌尿器科分子・細胞研究会 一般演題（口演） 2「尿路上皮癌」O 2－3，2024，2，16-17.

3　川﨑麻己，永瀬　圭，森戸小百合，佐久本孟寿，西山めぐみ，岩本脩平，東武昇平，青木茂久，竹澤俊明，野口　満：ビトリゲルデバイスによる尿道狭窄の抑制の効果について．第113回日本病理学会総会 一般口演5 非腫瘍性泌尿器疾患 O 1-30，2024，3，28-30.

4　東武昇平：夜間頻尿診療におけるデスモプレシン口腔内崩壊錠はゲームチェンジャーとなったのか？．第111回日本泌尿器科学会総会 イブニングセミナー10，2024，4，25-27.

5　Kei Nagase, Shohei Tobu, Minika Yukimoto, Akihiro Maeda, Michihiro Murakami, Syuhei Kusano, Yuka Kakinoki, Maki Kawasaki, Hiroaki Kakinoki, Kazuma Udo, Mitsuru Noguchi: Trial of neoadjuvant therapy for l ocally advanced renal cell carcinoma 局所進行性腎細胞癌に対する術前補助療法の試み．第111回日本泌尿器科学会総会 一般ポスター02 腎腫瘍／薬物療法① PP-02-03，2024，4，25-27.

6　Kazuma Udo, Shohei Tobu, Mitsuru Noguchi: Pyeloplasty for ureteropelvic junction obstruction −Retroperitoneal approach− 腎盂尿管移行部通過障害に対する後腹膜鏡下腎盂形成術．第111回日

本泌尿器科学会総会 Panel Discussion 15 Pyeloplasty for renal ureteral transition obstruction: What are the challenges in the age of robot-assisted surgery? PD15-４，2024，4，25-27.

7 Akihiro Maeda, Shohei Tobu, Maki Kawasaki, Hiroaki Kakinoki, Kazuma Udo, Mitsuru Noguchi: Efficacy of neoadjuvant hormonal therapy followed by prostatectomy in locally advanced prostate cancer 局所進行性前立腺癌に対する術前ホルモン療法の有効性．第111回日本泌尿器科学会総会 一般ポスター07 ロボット支援手術／前立腺腫瘍① PP-07-06，2024，4，25-27.

8 Maki Kawasaki, Kei Nagase, Megumi Nishiyama, Shuhei Iwamoto, Shohei Tobu, Shigehisa Aoki, Takezawa Toshiaki, Mitsuru Noguchi: High-density collagen device Vitrigel effectively prevent urethral stricture 高密度コラーゲンビトリゲルデバイスを使用した尿道狭窄の抑制の効果について．第111回日本泌尿器科学会総会 ポスターディスカッション15 最新機器／診断・治療，統計・経済・歴史・疫学，再生医療 PDA-15-08，2024，4，25-27.

9 Maki Kawasaki, Minika Yukimoto, Akihiro Maeda, Kei Nagase, Syuhei Kusano, Yuka Kakinoki, Hiroaki Kakinoki, Kazuma Udo, Shohei Tobu, Mitsuru Noguchi: Analysis of biomarkers related to the mechanisms of pelvic organ prolapse 骨盤臓器脱発症メカニズム関するバイオマーカー解析．111回日本泌尿器科学会総会 総会賞ポスター14 小児泌尿器科・その他 AOP-14-09，2024，4，25-27.

10 *吉田美香子，野口　満，橘田岳也，松永明子，北村　寛，小島祥敬，藤井靖久，鈴木基文，仲上豪二朗，久米春喜：学術・編集委員会主導「排尿自立支援加算／外来排尿自立指導料算定施設の活動実態に関する研究」の中間報告．第37回日本老年泌尿器科学会 教育講演２ EL２－２，2024，5，17-18.

11 *牟田口淳，猪口淳一，富崎一向，今村亮一，賀本敏行，鑪野秀一，村上洋嗣，澁谷忠正，野口　満，江藤正俊：80歳以上の高齢者における膀胱全摘除術の周術期成績および周術期合併症の予測因子に関する検討－多施設共同研究－．第37回日本老年泌尿器科学会 学会賞口演１ AO１－４，2024，5，17-18.

12 草野脩平，東武昇平，雪本弥仁雅，柿木優佳，前田晃宏，村上道洋，永瀬　圭，柿木寛明，有働和馬，野口　満：高齢筋層浸潤膀胱癌患者に対する動注化学療法の治療効果解．第37回日本老年泌尿器科学会 一般口演５ O５－２，2024，5，17-18.

13 前田晃宏，東武昇平，柿木寛明，有働和馬，野口　満：佐賀大学泌尿器科における高齢者に対する腎盂形成術の治療成績．第37回日本老年泌尿器科学会 一般口演５ O５－６，2024，5，17-18.

14 雪本弥仁雅，東武昇平，野口　満：高齢患者の術後合併症予測因子に関する検討．第37回日本老年泌尿器科学会 一般口演12 O12-４，2024，5，17-18.

15 野口　満，村上道洋，前田晃宏，東武昇平：腎尿路を担当する泌尿器科医の役割と責任 The Role and Responsibility of the Urologist for the cloacal disease．第61回日本小児外科学会学術集会 パネルディスカッション１ 総排泄腔疾患～今後の医療体制について PD１－６，2024，5，29-31.

16 東武昇平，野口　満：小児がん患者の性機能．日本アンドロロジー学会 第43回学術大会 第34回精子形成・精巣毒性研究会 共同開催学会 シンポジウム２ 小児泌尿器科疾患治療後の性機能・生殖機能 S２－３，2024，6，8-9.

17 野口　満，東武昇平：染色体疾患患者の性機能・生殖機能．日本アンドロロジー学会 第43回学術大会 第34回精子形成・精巣毒性研究会 共同開催学会 シンポジウム２ 小児泌尿器科疾患治療後の

性機能・生殖機能 S 2－7，2024，6，8-9.

18 柿木寛明，柿木優佳，有働和馬，東武昇平，野口 満：CT における腹囲長の変化は TUL 術後の結石再発に関連するか？．第33回日本腎泌尿器疾患予防医学研究会 一般演題３ 3－4，2024，7，4-5.

19 東武昇平，野口 満：精巣捻転の診断～ TWIST スコアの課題～．第33回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会 ワークショップ１ WS１－１，2024，7，10-12.

20 雪本弥仁雅，永瀬 圭，川﨑麻己，前田晃宏，草野脩平，柿木寛明，有働和馬，東武昇平，野口満：腹腔鏡内尿暴露動物モデルを用いた尿性腹膜炎に関する組織学的検討．第33回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会 学会賞候補演題 A -03，2024，7，10-12.

21 村上道洋，東武昇平，前田晃宏，野口 満：騎乗型尿道損傷に伴う小児尿道狭窄症の１例．第33回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会 一般演題（ポスター）P １-032，2024，7，10-12.

22 前田晃宏，東武昇平，柿木寛明，有働和馬，野口 満：尖圭コンジローマと鑑別を要した亀頭包皮炎の一例．第33回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会 一般演題（ポスター）P ２-146，2024，7，10-12.

23 前田晃宏，東武昇平，川﨑麻己，柿木寛明，有働和馬，吉田史章，野口 満：光遺伝学技術を利用した膀胱収縮効果の検討．第66回日本平滑筋学会総会 一般演題（ポスター）１ P １－４，2024，8，2-3.

24 東武昇平，野口 満：小児中枢性排尿障害の診療．第31回日本排尿機能学会 絆企画１ SY-１－３，2024，9，5-7.

25 前田晃宏，東武昇平，川﨑麻己，柿木寛明，有働和馬，吉田史章，野口 満：光遺伝学（Optogenetics）を介した排尿筋収縮作用解析．第31回日本排尿機能学会 学会賞候補演題 G １－２，2024，9，5-7.

26 川﨑麻己，永瀬 圭，東武昇平，柿木寛明，有働和馬，青木茂久，野口 満：Down syndrome model mouse での透明化技術を用いた膀胱組織学的検討．第31回日本排尿機能学会 一般演題 O18-５，2024，9，5-7.

27 草野脩平，東武昇平，前田晃宏，村上道洋，有働和馬，柿木寛明，松下恭平，野口 満：膀胱拡大術後に生じた膀胱再萎縮に対しビベグロン内服が著効した一例．第31回日本排尿機能学会 一般演題 O33-１，2024，9，5-7.

28 東武昇平，野口 満：女性骨盤臓器脱患者の性生活実態調査．日本性機能学会第34回学術集会 シンポジウム３「泌尿器科手術と性機能」，2024，9，13-15.

29 前田晃宏，東武昇平，柿木寛明，有働和馬，川﨑麻己，野口 満：佐賀大学における腎移植患者の性機能調査．日本性機能学会第34回学術集会 一般演題２「性機能調査」O ２－１，2024，9，13-15.

30 雪本弥仁雅，東武昇平，野口 満：人生100年時代のための先天性水腎症（腎盂尿管移行部通過障害）の診療．第76回西日本泌尿器科学会総会 WJUA/JSPU コラボ企画 WJC-６，2024，10，31-11，2.

31 中村和樹，柿木寛明，山口優香子，永瀬 圭，有働和馬，東武昇平，野口 満：転移性腎細胞癌に対するペムブロリズマブ・レンバチニブ併用療法導入後にサイトカイン放出症候群をきたした１例．第76回西日本泌尿器科学会総会 一般演題 口演４ O04-４，2024，10，31-11，2.

32 前田晃宏，川﨑麻己，柿木寛明，有働和馬，東武昇平，野口 満，吉田史章：Optogenetic ap-

proach for bladder detrusor contraction，第76回西日本泌尿器科学会総会 ヤングウロロジストリサーチコンテスト YU-５，2024，10，31-11，2.

33 柿木寛明：改訂ガイドラインにおける尿路結石再発予防と薬物療法の位置づけ．第76回西日本泌尿器科学会総会 シンポジウム８ SY８-３，2024，10，31-11，2.

34 有働和馬：腎癌に対するロボット支援手術～病理学的検討を含めて～．第76回西日本泌尿器科学会総会 教育セミナー８ LS８-１，2024，10，31-11，2.

35 *高井公雄，山口優香子，松本祐一，江口　賢，松田健二：済生会下関総合病院における尿路結石に対する治療の現況と治療成績．第76回西日本泌尿器科学会総会 一般演題 口演16 O16-２，2024，10，31-11，2.

36 柿木寛明，柿木優佳，有働和馬，東武昇平，野口　満：CT における腹囲長および腹部面積の変化は TUL 術後の結石再発に関連するか？．第76回西日本泌尿器科学会総会 一般演題 口演16 O16-５，2024，10，31-11，2.

37 *上田康史，大木雅晴，林田　靖，木原敏晴，東武昇平：インディアナパウチに発生した巨大結石の一例．第76回西日本泌尿器科学会総会 一般演題 ポスター９ P09-5，2024，10，31-11，2.

38 *高井公雄，山口優香子，松本祐一，江口　賢，狩野裕一，眞鍋裕気，松田健二：済生会下関総合病院における前立腺腺癌密封小線源永久挿入療法（LDR-BT）の現況と成績．第76回西日本泌尿器科学会総会 一般演題 ポスター14 P14-３，2024，10，31-11，2.

39 柿木優佳，川﨑麻己，柿木寛明，有働和馬，東武昇平，野口　満：臨床実習コーディネーター・教育専任医師の介入が当科臨床実習に及ぼす影響．第76回西日本泌尿器科学会総会 一般演題 ポスター17 O17-２，2024，10，31-11，2.

40 東武昇平，野口　満：ロボット支援下腎盂形成術の秘訣と工夫．第38回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会 ワークショップ12 小児泌尿器科領域における腹腔鏡・ロボット支援手術の成功と秘訣 WS12-４，2024，11，28-30.

41 前田晃宏，東武昇平，柿木寛明，有働和馬，川﨑麻己，野口　満：小児腹腔鏡下腎盂形成術を取り巻く課題～成人症例との比較も交えて～．第38回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会 総会賞ビデオ２ 腹腔鏡 AV２-７，2024，11，28-30.

42 柿木寛明，柿木優佳，有働和馬，川﨑麻己，東武昇平，野口　満：PNL を想定した際の腹臥位および仰臥位 CT における周囲組織干渉と皮膚腎杯間距離．第38回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会 一般演題口演22 Endourology 腎② O22-２，2024，11，28-30.

43 草野脩平，有働和馬，雪本弥仁雅，前田晃宏，村上道洋，川﨑麻己，柿木寛明，東武昇平，野口満：TUL 術後の UPJ 部尿管狭窄に対して，ロボット支援下左腎盂形成術を施行した一例．第38回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会 一般演題口演25 ロボット 腎盂形成① O25-６，2024，11，28-30.

44 村上道洋，東武昇平，前田晃宏，雪本弥仁雅，草野脩平，柿木優佳，柿木寛明，有働和馬，川﨑麻己，野口　満：気膀胱手術における良好な視野を確保するための TIPS に関する考察．第38回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会 一般演題口演36 小児 O36-３，2024，11，28-30.

地方規模の学会

1 雪本弥仁雅，東武昇平，前田晃宏，村上道洋，草野脩平，永瀬　圭，柿木優佳，川﨑麻己，柿木寛明，有働和馬，野口　満：泌尿器科手術における高齢者手術適応の見極め．第84回佐賀県泌尿器科

懇話会 一般演題，2024，1，27.

2 村上道洋，草野脩平，東武昇平，雪本弥仁雅，前田晃宏，永瀬　圭，柿木優佳，川﨑麻己，柿木寛明，有働和馬，野口　満：筋層浸潤性膀胱癌の治療戦略．第84回佐賀県泌尿器科懇話会 一般演題，2024，1，27.

3 村上道洋，東武昇平，前田晃宏，雪本弥仁雅，草野脩平，永瀬　圭，柿木優佳，川﨑麻己，柿木寛明，有働和馬，野口　満：当科における気膀胱下 anti-VUR の歩み．第20回九州小児泌尿器科研究会 一般演題（セッション２－７），2024，2，24.

4 前田晃宏，東武昇平，村上道洋，雪本弥仁雅，草野脩平，永瀬　圭，柿木優佳，川﨑麻己，柿木寛明，有働和馬，野口　満：佐賀大学における DSD チームの取り組み．第20回九州小児泌尿器科研究会 一般演題（セッション３-13），2024，2，24.

5 中村和樹：膀胱．第125回九州泌尿器科連合地方会学術集会 Ⅰ. 診断上興ある症例，2024，5，11.

6 前田晃宏：性腺．第125回九州泌尿器科連合地方会学術集会 Ⅱ. 治療に難渋した症例，2024，5，11.

7 中村和樹，柿木寛明，山口優香子，雪本弥仁雅，柿木優佳，村上道洋，前田晃宏，草野脩平，川﨑麻己，有働和馬，東武昇平，野口　満：転移性腎癌患者に対する IO+TKI 治療導入時にサイトカイン放出症候群を来した１例．第85回佐賀県泌尿器科懇話会，2024，5，25.

8 草野脩平，有働和馬，中村和樹，山口優香子，雪本弥仁雅，柿木優佳，村上道洋，前田晃宏，川﨑麻己，柿木寛明，東武昇平，野口　満：当院における転移性前立腺癌に対する Triplet 療法の検討．第85回佐賀県泌尿器科懇話会，2024，5，25.

9 湯村公子：腎．第126回九州泌尿器科連合地方会学術集会 Ⅰ. 診断上興味ある症例，2024，10，19.

10 伊藤優宏，有働和馬，東武昇平，柿木寛明，川﨑麻己，草野脩平，前田晃宏，村上道洋，柿木優佳，雪本弥仁雅，山口優香子，野口　満：同一腎に発生した組織型の異なる腎腫瘍の２例．第86回佐賀県泌尿器科懇話会 一般演題，2024，11，16.

11 山口優香子，前田晃宏，東武昇平，有働和馬，柿木寛明，川﨑麻己，草野脩平，村上道洋，柿木優佳，雪本弥仁雅，伊藤優宏，野口　満：当院における RALP 断端陽性患者の検討．第86回佐賀県泌尿器科懇話会 一般演題，2024，11，16.

12 山口優香子，東武昇平，雪本弥仁雅，柿木優佳，村上道洋，前田晃宏，草野脩平，川﨑麻己，柿木寛明，有働和馬，野口　満：限局性前立腺癌に対する RALP 後の BCR に関する検討．日本泌尿器科学会第89回佐賀地方会 一般演題Ⅰ，2024，12，14.

13 有働和馬，雪本弥仁雅，山口優香子，村上道洋，前田晃宏，草野脩平，柿木寛明，東武昇平，野口満：ロボット支援下腎尿管全摘除術（RANU）における下部尿管処理の初期経験．日本泌尿器科学会第89回佐賀地方会 一般演題Ⅱ，2024，12，14.

その他の学会

1 草野脩平：骨盤臓器脱に対する外科的治療．第17回佐賀ウロギネコロジー研究会 一般演題，2024，1，25.

2 有働和馬：当科における前立腺癌診療．佐賀県泌尿器科懇話会 特別講演，2024，1，27.

3 野口　満：知っておきたい小児泌尿器科疾患と LUTS 診療．第１回鹿児島市泌尿器疾患フォーラム 特別講演，2024，2，8.

4 東武昇平：心停止後臓器提供症例を経験して～済生会唐津病院～．令和５年度第２回佐賀県臓器移植普及会議，2024，3，9.

5　野口　満：知っておきたい小児泌尿器科疾患と LUTS 診療．島根泌尿器疾患講演会 特別講演，2024，3，11.

6　東武昇平：夜間頻尿診療でデスモプレシン口腔内崩壊錠の処方を阻む要因は？．Ask the Expert Webinar 講演 2，2024，4，22.

7　野口　満：増加する泌尿器科疾患の最新診療．第13回国立病院機構東佐賀病院学術セミナー～地域に根差した専門的医療の推進～ 特別講演，2024，7，25.

8　Akihiro Maeda, Maki Kawasaki, Shohei Tobu, Fumiaki Yoshida, Mitsuru Noguchi：Optogenetic modulation of bladder detrusor contraction．第 3 回佐賀大学医学部リトリート 医学研究と未来創造，2024，8，24.

9　草野脩平：排尿管理の基礎知識．みんなの排泄ケアネット第19回排尿管理セミナー，2024，9，21.

10　前田晃宏：夜間頻尿と前立腺肥大／排尿障害治療薬．みんなの排泄ケアネット第19回排尿管理セミナー，2024，9，21.

11　村上道洋：排尿日誌と尿道カテーテルについて．みんなの排泄ケアネット第19回排尿管理セミナー，2024，9，21.

12　村上道洋：OAB 症状を呈する下部尿路疾患．第19回佐賀泌尿器疾患集談会 一般演題，2024，10，10.

13　東武昇平：視覚的に捉える夜間頻尿診療．LUTS Lecture in Yamaguchi 講演 2，2024，12，12.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
准教授	東武　昇平	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	尿道下裂動物モデルを用いた尿道狭窄抑制デバイスの効果およびその作用機序の解明解析	520
助　教	川﨑　麻己	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	がん微小環境因子（細胞・物理・化学）と尿路上皮癌との細胞動態相互作用	1,820
教　授	野口　　満	共同研究助成（イイダ靴下株式会社）		1	弾性ストッキングによる夜間頻尿改善効果の検証	1,100

学術（学会）賞

職　名	氏　名	学術（学会）賞名	受　賞　課　題
助　教	川﨑　麻己	111回日本泌尿器科学会総会 総会賞ポスター14 小児泌尿器科・その他【総会賞】	Analysis of biomarkers related to the mechanisms of pelvic organ prolapse 骨盤臓器脱発症メカニズム関するバイオマーカー解析
医　員	雪本弥仁雅	第33回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会 学会賞候補演題【基礎部門学会賞】	腹腔鏡内尿暴露動物モデルを用いた尿性腹膜炎に関する組織学的検討
助　教	前田　晃宏	第76回西日本泌尿器科学会総会 ヤングウロロジストリサーチコンテストYU-5【最優秀賞】	Optogenetic approach for bladder detrusor contraction
助　教	前田　晃宏	第3回佐賀大学医学部リトリート 医学研究と未来創造【ポスター発表 優秀賞】	Optogenetic modulation of bladder detrusor contraction

形　成　外　科

原著論文

1　上村哲司：形成外科領域におけるロボット手術の海外の現状と今後の動向．形成外科，67，6，563-566，2024，6.

2　*佐武利彦，橋川和信，上村哲司，松村　一，小野真平，赤松　正，関堂　充：形成外科ロボット支援下手術を実現させるための出口戦略－保険収載を目指した取り組み－．形成外科，67，6，581-589，2024，6.

3　上村哲司：頭蓋外科における創傷治癒．各論Ⅱ頭部・顔面・頚部．形成外科（それぞれの創傷治癒）．形成外科，67，増刊，88-90，2024，6.

4　Hidetaka Watanabe, Tetsuji Uemura, Takahiro Chuman, Hiroshige Kawano, Yoshihiro Nagano, Mariko Yoshizumi, Eiji Nakagawa: Bilateral Internal Mammary Artery Perforator-pedicled Flaps for Anterior Chest Wall Keloid Resection: A Report of Two Cases of Lotus Petal Flaps in the Chest Wall. Journal of Plastic and Reconstructive Surgery 2024, 3, 3, 115-119, 2024, 7.

学会発表

国際規模の学会

1　Tetsuji Uemura: Management of Diabetic foot complications -Overview of Diabetic foot disease- How to manage the neuropathy, infection & ulceration. Danang Hospital Scientific Seminar Holistic management of diabetic foot complications, 2024, 11, 23.

国内全国規模の学会

1　上村哲司：糖尿病性足病変足潰瘍・足壊疽の治療と重症化予防．第58回糖尿病学の進歩．2024，2，16-17（会場開催），2024，3，1-31（オンデマンド配信期間．一部のプログラムを除く）．

2　上村哲司：挑戦 映像とアートで伝える手技．第29回日本形成外科手術手技学会，2024，3，2（会場開催），2024，3，15-31（オンデマンド配信期間．一部のプログラムを除く）．

3　上村哲司，渡邊英孝，吉住茉莉子，永野義博，上村哲司：下肢慢性創傷の手技「3分間足病診察

Three-Minute-Foot-Exam」. 第29回日本形成外科手術手技学会, 2024, 3, 2（会場開催）, 2024, 3, 15–31（オンデマンド配信期間. 一部のプログラムを除く）.

4　上村哲司, 浅野裕子, 小野真平, 樫村　勉, 佐武利彦, 橋川正信, 東野琢也, 山本直人：形成外科領域におけるロボット手術の海外の現状と今後の日本の動向. 第67回日本形成外科総会・学術集会, 2024, 4, 10–12（会場開催）, 2024, 5, 7–28（オンデマンド配信期間. 一部プログラムを除く）.

5　○吉岡史隆, 並川裕貴, 三宅有理亜, 古川　隆, 伊藤　寛, 緒方敦之, 中原由紀子, 増岡　淳, 上村哲司, 阿部竜也：片側性 Craniocerebral disproportion を呈した裂脳症の一手術例. 第52回日本小児神経外科学会, 2024, 6, 7–8（会場開催）.

6　渡邊英孝, 副島英伸, 上村哲司：ソトス症候群の DNA メチル化解析で IGF2-DMR0が IGF2 P0特異的 enhancer であり, 過成長に関与する可能性を示した. 第33回日本形外科学会基礎学術集会. 2024, 10, 18（会場開催）.

地方規模の学会

1　*三宅有理亜, 間部有紀, 吉住茉莉子, 永野義博, 渡邊英孝, 上村哲司：仙骨部の広範囲熱傷瘢痕癌の一例－再建に要した瘢痕周囲の穿通枝プロペラ皮弁－. 第32回日本熱傷学会近畿地方会, 2024, 1, 20（会場開催）.

2　上村哲司：赤ちゃんの頭と顔のかたち外来―頭位性斜頭, 短頭と頭蓋縫合早期癒合症の見分け方. 第96回佐賀小児科地方会, 2024, 4, 14（ハイブリッド形式開催）.

3　上村哲司, 黒川正人：「超音波デブリードマンによる創傷処置の実践」. 第21回日本褥瘡学会九州・沖縄地方会学術集会（ハンズオンセミナー４・５）, 2024, 4, 27（会場開催）. 2024, 5, 15–31（オンデマンド配信期間. 一部プログラムを除く）.

4　*永野義博, 田中惠理香, 中川栄治, 吉住茉莉子, 渡邊英孝, 上村哲司：ネキソブリッド療法により手術加療を回避し得た広範囲熱傷の一例. 第123回九州・沖縄形成外科学会学術集会, 2024, 7, 20（会場開催）.

5　渡邊英孝, 田中惠理香, 吉住茉莉子, 中川栄治, 永野義博, 上村哲司：『佐賀大学の頭と顔のかたち外来での取り組み』. 第42回昭和大学医学部形成外科学講座同門会, 2024, 7, 20（会場開催）.

6　吉住茉莉子, 間部有紀, 三宅有理亜, 中川栄治, 渡邊英孝, 上村哲司：臍部硬結に対する一考察. 第124回九州・沖縄形成外科学会学術集会, 2024, 10, 26（会場開催）.

その他の学会

1　上村哲司：高齢化社会の足病変. 佐賀県フットケア研究会, 2024, 1, 23（会場開催）.

2　上村哲司：下肢慢性創傷管理料算定における免荷療法の役割. 下肢創傷処置 WEB セミナー～１から学べる下肢創傷処置と下肢創傷処置管理料～. 2024, 2, 2（WEB 開催）.

3　上村哲司：「下肢慢性創傷管理料算定における免荷療法の役割」. 徳島フットケア・足病医研究会, 2024, 5, 23（WEB セミナー）.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研　究　課　題　等	交付金額（千円）
准教授	上村　哲司	アサヒシューズ株式会社研究助成	共同研究	1	糖尿病足病変予防戦略としてのフットケアシューズの開発	2,000
特定講師	渡邊　英孝	科学研究費助成事業	若手研究	1	エピゲノム修飾因子 NSD1変異による DNA メチル化と遺伝子発現異常メカニズム解明	1,100
准教授	上村　哲司	令和６年度医療技術等国際展開推進事業	受託事業	1	ベトナムにおける糖尿病足病変診療としてのフットウェア普及に関する支援事業	9,947

産科婦人科学講座

原著論文

1　Tomoko Yamamoto, Makoto Nomiyama, Yuko Oshima, Takeshi Ono, Yutaka Kozuma, Yukiko Nakura, Itaru Yanagihara, Keisuke Tsumura & Masatoshi Yokoyama: Prenatal exposure to intra-amniotic infection with Ureaplasma species increases the prevalence of bronchopulmonary dysplasia. The Journal of Maternal-Fetal & Neonatal Medicine 2024, VOL. 37, NO. 1, 2024.

2　*Asanoma K, Yagi H, Onoyama I, Cui L, Hori E, Kawakami M, Maenohara S, Hachisuga K, Tomonobe H, Kodama K, Yasunaga M, Ohgami T, Okugawa K, Yahata H, Kitao H, Kato K: The BHLHE40–PPM1F–AMPK pathway regulates energy metabolism and is associated with the aggressiveness of endometrial cancer. J Biol Chem. 2024 Jan 30; 300(3): 105695, 2024.

3　*室　雅巳，安永牧生，金井督之，八並直子，神下　優，北川早織，光　貴子，山崎温詞，久本菜美，西村真二：佐賀県における妊産婦の COVID-19感染―当科の入院症例から８波までを振り返る―. 佐賀産科婦人科学会佐賀県産婦人科医会会誌 第35号，37-44，2024，3.

4　○Takahiko Nakazono, Yutaka Yoshinaga, Ken Yamaguchi, Masatoshi Yokoyama, Keita Kai, Shuichi Fukui, Ryoko Egashira, Kanto Ichinohe, Shigeru Nagaoka, Hiroyuki Irie: MRI features of ovarian teratomas with somatic-type malignancy and mature cystic teratomas. Abdominal Radiology, 2024, Jum, 10.

症例報告

1　*安永牧生，吉武薫子，八並直子，神下　優：経腟的内視鏡手術（vNOTES）が有用であった肝移植後の腹腔内高度癒着症例．日本産科婦人科内視鏡学会雑誌，Vol. 39 No. 2 P112-116，2024，1.

学会発表

国内全国規模の学会

1　*八並直子，神下　優，光　貴子，北川早織，金井督之，久本菜美，山崎温詞，安永牧生：Da Vinci Si から Da Vinci Xi への移行を経験して～子宮摘出術におけるパフォーマンスの変化～．第16回日本ロボット外科学会学術集会，2024，2，10-11.

2　*神下　優，八並直子，安永牧生：ロボット支援下手術におけるベアパッスル２を用いた創閉鎖．第16回日本ロボット外科学会学術集会，2024，2，10-11.

3 *八並直子，神下　優，吉武薫子，久本菜美，金井督之，光　貴子，北川早織，安永牧生：子宮内膜ポリープ切除術に対する手動モルセレーターの導入と初期成績．第７回日本子宮鏡研究会学術集会，2024，2，17-18.

4 Hideshima Misako, Umezaki Yasushi, Oishi Shouhei, Yamaguchi Kae, Uriu Yasue, Yoshitake Kaoruko, Ikeda Masazumi, Kurihara Makiko, Tokunaga Mariko, Fukuda Asako, Okugawa Kaoru, Yokoyama Masatoshi: HPV-negative lesions in primary HPV testing for cervical cancer screening. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会．日本産科婦人科学会雑誌，76巻（抄録号）S-290. 2024，4，20.

5 吉武薫子，德永真梨子，瓜生泰恵，池田正純，大隈良一，栗原麻希子，福田亜紗子，橋口真理子，山本徒子，梅﨑　靖，奥川　馨，横山正俊：HBOC に対する RRSO で偶発的に high-grade serous の診断となった症例．第76回日本産科婦人科学会学術講演会．日本産科婦人科学会雑誌，76巻（抄録号）S-290. 2024，4，20.

6 池田正純，山本徒子，奥川　馨，横山正俊：当院における新生児薬物離脱症候群の傾向．第76回日本産科婦人科学会学術講演会．日本産科婦人科学会雑誌，76巻（抄録号）S-290. 2024，4，20.

7 *野口光代，坂西　愛，横山正俊：利用可能エネルギー不足による続発性無月経について～女性アスリート外来症例より～．第76回日本産科婦人科学会学術講演会．日本産科婦人科学会雑誌，76巻（抄録号）S-290. 2024，4，20.

8 栗原麻希子，秀島未紗子，大石将平，瓜生泰恵，吉武薫子，池田正純，大隈良一，德永真梨子，福田亜紗子，梅﨑　靖，奥川　馨，横山正俊：子宮頸がん検診への HPV 検査導入の課題―併用検診導入の経験から―．第76回日本産科婦人科学会学術講演会．日本産科婦人科学会雑誌，76巻（抄録号）S-290. 2024，4，20.

9 *光　貴子，北川早織，山崎温詞，久本菜美，神下　優，八並直子，金井督之，室　雅巳，安永牧生：地方産婦人科女性医師のキャリア形成と育児の両立における問題点．第76回日本産科婦人科学会学術講演会．日本産科婦人科学会雑誌，76巻（抄録号）S-290. 2024，4，20.

10 梅﨑　靖，山口加恵，大石将平，瓜生泰恵，吉武薫子，池田正純，奥川　馨，横山正俊：医学教育における VR 画像講義の試み．第76回日本産科婦人科学会学術講演会．日本産科婦人科学会雑誌，76巻（抄録号）S-290. 2024，4，20.

11 神藤　愛，小野剛史，柏田浩伸，津田聡子，大島侑子，上妻友隆，野見山亮，津村圭介：子宮内高度炎症例の周産期予後について．第76回日本産科婦人科学会学術講演会．日本産科婦人科学会雑誌，76巻（抄録号）S-290. 2024，4，20.

12 大石将平，大隈良一，山口加恵，瓜生泰恵，池田正純，吉武薫子，栗原麻希子，德永真梨子，福田亜紗子，梅﨑　靖，奥川　馨，横山正俊：卵巣癌との鑑別に苦慮した胃腸管外間質腫瘍の一例．第76回日本産科婦人科学会学術講演会．日本産科婦人科学会雑誌，76巻（抄録号）S-290. 2024，4，21.

13 瓜生泰恵，吉武薫子，池田正純，大隈良一，栗原麻希子，德永真梨子，福田亜紗子，梅﨑　靖，奥川　馨，横山正俊：子宮頸癌に対し免疫チェックポイント阻害薬を使用した症例の後方視的検討．第76回日本産科婦人科学会学術講演会．日本産科婦人科学会雑誌，76巻（抄録号）S-290. 2024，4，21.

14 山口加恵，山本徒子，大石将平，瓜生泰恵，池田正純，吉武薫子，栗原麻希子，德永真梨子，福田

亜紗子，梅﨑　靖，奥川　馨，横山正俊：リトドリン塩酸塩の使用を契機に薬剤性横紋筋融解症を発症し筋強直性ジストロフィーが疑われた一例．第76回日本産科婦人科学会学術講演会．日本産科婦人科学会雑誌，76巻（抄録号）S-290．2024，4，21.

15　福田亜紗子：子宮頸癌予後に影響を及ぼす因子の検討．第76回日本産科婦人科学会学術講演会．日本産科婦人科学会雑誌，76巻（抄録号）S-290．2024，4，21.

16　神下　優，八並直子，光　貴子，安永牧生：みんなが Happy なロボット支援下手術を目指して．第12回日本婦人科ロボット手術学会．2024，6，1.

17　八並直子，神下　優，光　貴子，金井督之，久本菜美，北川早織，安永牧生：コンソール開始直後に発生した腸管損傷の２例．第12回日本婦人科ロボット手術学会．2024，6，1.

18　福田亜紗子，橋口真理子，野口光代，内山倫子，梅﨑　靖，奥川　馨，横山正俊：佐賀県における HPV 検査併用検診の現状．第65回日本臨床細胞学会総会春期大会．日本臨床細胞学会雑誌，第63巻補冊１号，2024年 P225．2024，6，7-9.

19　神藤　愛，津村圭介，柏田浩伸，下村峻司，岡　洋甫，津田聡子，大島侑子，小野剛史，上妻友隆，野見山亮：未破水切迫早産（高度子宮内炎症）症例に対する経腹的羊水持続灌流療法－子宮内炎症惹起物質の除去－．日本周産期・新生児医学学会学術集会，2024，7，13.

20　池田正純，山本徒子，横山正俊：当院における新生児薬物離脱症候群の傾向．日本周産期・新生児医学学会学術集会，2024，7，13.

21 *神下　優，金井督之，北川早織，江藤絵里奈，吉村　達，光　貴子，八並直子，安永牧生：レンバチニブとペムブロリズマブとの併用療法中に発症した急性副腎不全の一例．第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会．日本婦人科腫瘍学会雑誌，42(3)：P87，2024，7，19.

22　瓜生泰恵，山口加恵，吉武薫子，大隈良一，栗原麻希子，德永真梨子，福田亜紗子，梅﨑　靖，奥川　馨，横山正俊，西山めぐみ，橋口真理子，甲斐敬太：尿道転移を伴う子宮体癌に対し，前方骨盤除臓術にて完全切除し得た一例．第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会．日本婦人科腫瘍学会雑誌，42(3)：P88，2024，7，19.

23　神下　優，光　貴子，八並直子，安永牧生：Ever since We started vNOTES．第64回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会．2024，9，13.

24　神下　優：実践 TLH５人の攻略法～過不足なく確実に技術認定医取得の難所を紐解く～．第64回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会．2024，9，13.

25　光　貴子，梅﨑　靖，神下　優，北川早織，八並直子，金井督之，安永牧生：子育て中の医師へのキャリア支援 子連れでトレーニングに行こう．第64回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会．2024，9，13.

26　光　貴子，北川早織，神下　優，八並直子，金井督之，安永牧生：子宮体癌の化学療法中に Pegfilgrastim による大動脈炎を発症した１例．第62回日本癌治療学会学術集会．2024，10，24.

27　福田亜紗子，秀島未紗子，横山正俊：子宮頸がん検診の HPV 単独検査導入への課題．第39回日本女性医学学会学術集会．日本女性医学学会誌，Vol. 32(1)：P126，2024，11，9-10.

28 *坂西　愛，野口光代，横山正俊：女性アスリート外来における無月経症例について．第39回日本女性医学学会学術集会．日本女性医学学会誌，Vol. 32(1)：P139，2024，11，9-10.

29 *八並直子，光　貴子，神下　優，金井督之，安永牧生：汎下垂体機能低下症による原発性無月経に対して10代前半より女性ホルモン投与を行い，エストロゲンの至適投与量に苦慮した１例．第39回

日本女性医学学会学術集会．日本女性医学学会誌，Vol. 32(1)：P162，2024，11，9-10.

30 *野口光代，坂西　愛，横山正俊：股関節術後の抗凝固療法中に大量出血を来した子宮腺筋症の１例．第39回日本女性医学学会学術集会．日本女性医学学会誌，Vol. 32(1)：P171，2024，11，9-10.

31 福田亜紗子，山下夏未，小林瑞季，栗原麻希子，橋口真理子，内山倫子，梅﨑　靖，奥川　馨，横山正俊：細胞診 NILM，ハイリスク HPV ２年連続陽性で精査の結果，CIN3の診断となった４例．第63回日本臨床細胞学会秋期大会．日本臨床細胞学会雑誌，第63巻補冊２号：P546，2024，11，16-17.

32 小林瑞季，橋口真理子，栗原麻希子，福田亜紗子，野口光代，内山倫子，梅﨑　靖，奥川　馨，横山正俊：２年連続 NILM/HPV+ の子宮頸部腺癌の１例．第63回日本臨床細胞学会秋期大会．日本臨床細胞学会雑誌，第63巻補冊２号：P547，2024，11，16-17.

33 栗原麻希子，橋口真理子，福田亜紗子，野口光代，内山倫子，梅﨑　靖，奥川　馨，横山正俊：HPV 併用検診における２年連続 NILM/HPV+ 症例の検討．第63回日本臨床細胞学会秋期大会．日本臨床細胞学会雑誌，第63巻補冊２号：P617，2024，11，16-17.

地方規模の学会

1 神下　優，八並直子，光　貴子，安永牧生：ロボット支援下手術におけるベアパッスル２を使用した創閉鎖．第19回九州産婦人科内視鏡研究会．2024，4，6.

2 山道里佳，野見山真理，山下夏未，大淵　紫，佐護　中，有馬　薫，小島加代子，北島道夫：帝王切開縫合残糸による帝王切開子宮瘢痕症（CSDi）の診断に至った一例．第19回九州産婦人科内視鏡研究会．2024，4，6.

3 山下夏未：子宮内膜症性嚢胞合併不妊症での凍結融解胚移植における薬物療法の有用性の検討．第80回九州・沖縄生殖医学会学術集会．2024，4，7.

4 *光　貴子，梅﨑　靖，神下　優，北川早織，八並直子，金井督之，室　雅巳，安永牧生，横山正俊：育児中の医師に対するリカレント・リスキリング教育．第81回九州連合産科婦人科学会第75回九州ブロック産婦人科医会学術講演会，2024，5，25-26.

5 山崎温詞，梅﨑　靖，瓜生泰恵，池田正純，吉武薫子，大隈良一，栗原麻希子，福田亜紗子，徳永真梨子，山本徒子，奥川　馨，横山正俊：膀胱尿管逆流症（VUR）術後に複式広汎子宮全摘出術を施行し，尿管走行の異常が原因で尿管損傷を来した一例．第81回九州連合産科婦人科学会第75回九州ブロック産婦人科医会学術講演会，2024，5，25-26.

6 小林瑞季，梅﨑　靖，山田耕治，江口啓意，西　眞範，奥川　馨，横山正俊：卵巣再発をきたした小児Ｂ前駆細胞性急性リンパ性白血病の一例．佐賀産婦第229回学術研修会，2024，7，7.

7 *大石将平，北川早織，神下　優，光　貴子，八並直子，金井督之，安永牧生，室　雅巳：外陰部の潰瘍病変の一例．佐賀産婦第229回学術研修会，2024，7，7.

8 *八並直子，神下　優，北川早織，光　貴子，大石将平，金井督之，安永牧生：骨盤臓器脱に対するロボット支援下仙骨膣固定術の導入．佐賀産婦第229回学術研修会，2024，7，7.

9 山崎温詞，山本徒子，藤井美香，山下夏未，池田正純，津田聡子，奥川　馨，横山正俊：脳血管障害を有する妊婦の妊娠・周産期管理．佐賀産婦第229回学術研修会，2024，7，7.

10 *神下　優，八並直子，大石将平，光　貴子，北川早織，金井督之，安永牧生，室　雅巳：帝王切開瘢痕部妊娠を繰り返した１例．佐賀産婦第230回学術研修会，2024，12，1.

11 小林瑞季，神藤　愛，池田正純，田中久美子，津田聡子，福田亜紗子，山本徒子，奥川　馨，横山

正俊：胎児期の診断が困難であったクロール下痢症の一例．佐賀産婦第230回学術研修会，2024，12，1.

12 *安永牧生，神下　優，北川早織，光　貴子，大石将平，八並直子，金井督之，室　雅巳：当院における経腟的内視鏡手術（Transvaginal Naturel Orifice Transluminal Endoscopic Surgery: vNOTES）による付属器手術の検討．佐賀産婦第230回学術研修会，2024，12，1.

13 山崎温詞，栗原麻希子，山下夏未，吉武薫子，津田聡子，梅﨑　靖，奥川　馨，横山正俊：子宮頸癌の同時化学放射線療法（CCRT）後に発生した子宮体癌の一例．佐賀産婦第230回学術研修会，2024，12，1.

14 梅﨑　靖，八並直子，光　貴子，大隈良一，西　智子，奥川　馨，横山正俊：育児休業医師・復職医師を対象としたリスキリング・リカレント教育の試み．佐賀産婦第230回学術研修会，2024，12，1.

その他の学会

1　奥川　馨：AYA 世代のがんの現状と治療・予防について．2024 AYA 世代がん講演会，2024，3，10.

2　横山正俊：「予防できる子宮頸がん」～検診とワクチンの意義～．市民公開講座 子宮頸がんを予防しよう！，2024，3，23.

3　横山正俊：予防できる子宮頸がん～検診とワクチンの意義～．佐賀県保険医協会 医科研究会，2024，4，11.

4　横山正俊：予防できる子宮頸がん－検診とワクチンの意義－．第14回佐賀県医師会 県民“はつらつ”公開セミナー 女性特有のがん～乳がん・HPV ワクチン～，2024，11，23.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
教　授	横山　正俊	中外製薬株式会社研究助成	研究活動への支援	1	子宮頸部病変の進展・予後に影響する因子および局所免疫の検討	300

眼 科 学 講 座

原著論文

1 *Tajima A, Sassa Y, Ishio D, Yamashita S, Sadashima E, Arai R, Iwanaga K, Yoshida S, Sonoda KH, Enaida H: Clinical features of 26 cases of COVID-19-associated conjunctivitis. Jpn J Ophthalmol68: 57-63. doi: 10.1007/s10384-023-01033-3, 2024.

2 *Kadonosono K, Enaida H: Robotics-assisted Tools in Macular Surgery. Int Ophthalmol Clin64: 153-161. doi: 10.1097/IIO.0000000000000507, 2024.

3 Tanaka F, Mino T, Moriguchi Y, Nagahama H, Tamura M, Oshima Y, Akiba M, Enaida H: Developing quantitative analysis program of blood flow velocity according to vessel diameter for neovascular age-related macular degeneration using OCTA-VISTA, Sci Rep. 16352. doi: 10.1038/s41598-024-67271-8, 2024 Jul 16.

4　Yamamoto S, Taniguchi Y, Kuroki Y, Nagahama H, Tanaka S, Kadonosono K, Arai F, Enaida H: Investigation of hand tremor suppression by a customized passive surgical support robot during internal limiting membrane peeling, Retina.doi: 10.1097/IAE.0000000000004226. Online ahead of print, 2024 Aug 8.

5　*Shimura M, Hirano T, Tsuiki E, Takamura Y, Morizane Y, Akiyama K, Yamamoto K, Hikichi T, Koto T, Kinoshita T, Kusuhara S, Yoshida S, Sakamoto SI, Kimura K, Sugimoto M, Kida T, Mitamura Y, Takatsuna Y, Washio N, Osaka R, Ueda T, Minamoto A, Kogo J, Okamoto F, Enaida H, Sakanishi Y, Nagaoka T, Gomi F, Sasaki M, Terasaki H, Iwase T, Tatsumi T, Nishi K, Shinoda K, Ueda S, Ueda-Consolvo T, Nakashizuka H, Murata T, Kitano S, Sakamoto T: J-CREST STREAT-DME 2 Study Group. Alteration of treatment choices and the visual prognosis for diabetic macular edema in the era of anti-VEGF drugs: Analysis of the STREAT-DME 2 study. Retina. doi: 10.1097/IAE.0000000000004301. Online ahead of print, 2024 Oct 15.

6　Sakai H, Kuji R, Moriguchi Y, Yamashita S, Takamori A, Tamura M, Mino T, Akiba M, Enaida H: Optical Attenuation Coefficient-Based En Face Optical Coherence Tomography Imaging for the Reliable Assessment of the Ellipsoid Zone. J Clin Med.; 13(23): 7140. doi: 10.3390/jcm13237140, 2024 Nov 25.

7　Kuroki Y, Takamori A, Takahashi K, Yamamoto S, Yoshida N, Enaida H: Survey on Findings and Utilization of Preoperative Chest Radiography in Ophthalmic Surgery. J. Clin. Med. 13, 3909, 2024 Jul 3.

総　　説

1　江内田寛：ブリリアントブルー（BBG）による内境界膜染色と開発経緯．日本の眼科．95：170-174，2024.

2　江内田寛：パッシブ型手術支援ロボット．眼科．66：1618-1622，2024.

症例報告

1　黒木洋平，山本聡一郎，江内田寛：非小細胞肺癌に対する化学免疫療法中に生じたVogt－小柳－原田病様汎ぶどう膜炎の1例．あたらしい眼科，Vol41 No.06，124-128，2024，6.

2　山下翔太，佐々由季生，永浜布美子，飯野忠史，江内田寛：軽微な視野障害を契機に診断に至り，良好な転機をたどった侵襲性アスペルギルス症に伴う眼窩先端症候群の1例．あたらしい眼科，Vol41 No6，118-123，2024，6.

学会発表

国際規模の学会

1　Nagahama F, Sassa Y, Enaida H: Cancer associated retinopathy with central choroidal folds and vasculitis. The 17th Joint Meeting of Japan-Korea-China Ophthalmologists, 2024, 11, 9.

国内全国規模の学会

1　江内田寛：高速SS-OCTとVISTA法を用いたあらたなnAMDの描出法と評価法．第24回Japan Macula Club学術講演会，2024，8，24.

2　坂井博明，久慈　陸，田村将人，三野聡大，森口祥聖，秋葉正博，江内田寛：En face SS-OCTを用いた黄斑部網膜外層微細構造評価プログラム．第128回日本眼科学会，2024，4，18.

3　坂井博明，久慈　陸，田村将人，三野聡大，森口祥聖，秋葉正博，江内田寛：en face SS-OCTを

用いた網膜剥離眼の黄斑部網膜外層微細構造評価プログラムの検証．第63回網膜硝子体学会，2024，12，7.

4　永浜秀規，田中ふみ，海津嘉弘，田村将人，三野聡大，森口祥聖，秋葉正博，江内田寛：OCTA と VISTA 法を用いた糖尿病網膜症の網膜毛細血管血流の定量化．第78回日本臨床眼科学会，2024，11，14-17.

5　田中ふみ，永浜秀規，大島裕司，江内田寛：SS-OCTA と VISTA 法を用いた黄斑部新生血管への抗 VEGF 薬投与前後の定量的血流測定プログラムの構築．第128回日本眼科学会総会，2024，4，18-21.

地方規模の学会

1　江内田寛：臨床に役立つもの作り（研究開発）へのとりくみと魅力．第40回やまぐち眼科フォーラム，2024，1，27.

2　江内田寛：眼科手術用ロボットの現況と未来．第30回網膜ラウンジ，2024，8，3.

3　江内田寛：医療機器開発の魅力と問題点．第116回久留米大学眼科研究会，2024，10，19.

4　坂井博明，久慈　陸，田村将人，三野聡大，森口祥聖，秋葉正博，江内田寛：En face SS-OCT を用いた黄斑部網膜外層微細構造評価プログラム．第23回有明眼科懇話会，2024，3，2.

5　坂井博明：en face SS-OCT で黄斑部網膜外層の詳細な構造解析は可能か．第94回九州眼科学会，2024，5，25.

6　坂井博明，久慈陸，田村将人，三野聡大，森口祥聖，秋葉正博，江内田寛：en face SS-OCT を用いた網膜剥離眼の黄斑部網膜外層微細構造評価プログラムの検証．第141回佐賀大学眼科臨床懇話会，2024，7，6.

7　永浜秀規，田中ふみ，海津嘉弘，田村将人，三野聡大，森口祥聖，秋葉正博，江内田寛：OCTA と VISTA 法を用いた糖尿病網膜症の網膜毛細血管血流の定量化．第141回佐賀大学眼科臨床懇話会，2024，7，6.

8　永浜布美子，佐々由季生，江内田寛：網膜血管炎を契機に早期ステロイド治療が可能であった癌関連網膜症の 1 例．第61回六大学合同眼科研究会，2024，9，14.

9　*中林奈美子，高瀬幸徳，乙木祐介，中城博子，江内田寛：上眼静脈の直接穿刺により治療した難治性海面静脈洞部硬膜動静脈瘻の 1 例．第141回佐賀大学眼科臨床懇話会，2024，7，6.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
教　授	江内田　寛	科研費	基盤(C)	1	あらたな高解像度光干渉断層計（OCT）の開発による後眼部精密画像診断の可能性探索	4,030
教　授	江内田　寛	受託研究	共同研究	1	中心高解像度 OCT 試作機における測定のためのデータベースおよびアルゴリズムの構築と測定条件の検討	2,000
教　授	江内田　寛	受託研究	AMED	2	全九州における黄斑下出血に対する組織プラスミノーゲン活性化因子（tPA）眼局所治療に関する研究開発	700

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座

原著論文

1 ○Kanako Kawasaki, Keita Kai, Akimichi Minesaki, Sachiko Maeda, Moriyasu Yamauchi, Yuichiro Kuratomi: Chemoradiotherapy and Lymph Node Metastasis Affect Dendritic Cell Infiltration and Maturation in Regional Lymph Nodes of Laryngeal Cancer. International Journal of Molecular Science 25(4): 2093, 2024, 2.

2 *Keiko Hashimoto, Yoichiro Sugiyama, Mami Kaneko, Shota Kinoshita, Ryota Yamamoto, Tomoya Ishida, Toshiro Umezaki, Shigeru Hirano: A dysphagia model with denervation of the pharyngeal constrictor muscles in guinea pigs: functional evaluation of swallowing. Front in neurology 15: 1401982, 2024, 6.

3 山内盛泰，石田知也，峯崎晃充，嶋崎絵里子，倉富勇一郎：当科における再発・転移頭頸部癌に対するペムブロリズマブ療法の検討．頭頸部癌，50(1)：13-18，2024，4.

総　　説

1 佐藤有記，御厨剛史：【意外と知らない外用薬の知識】各種外用薬と注意すべき副作用 止血薬．JOHNS，40(1)：39-41，2024，1.

2 杉山庸一郎：【ランドマークはこれだ！ 局所解剖アトラス】音声障害 喉頭微細手術のための局所解剖．耳鼻咽喉科・頭頸部外科，96(5)：184-190，2024，4.

3 佐藤有記，山内盛泰，杉山庸一郎：【てこずった症例・難治症例にどう対応するか】口腔咽頭領域悪性疾患を疑った梅毒症例．JOHNS，40(9)：1068-1072，2024，9.

4 杉山庸一郎，梅崎俊郎，木下翔太，山本陵太：私の術式 嚥下手術（series 21）混合性喉頭麻痺の音声・嚥下障害に対する手術戦略．嚥下医学，13(2)：127-140，2024，9.

5 杉山庸一郎，梅崎俊郎：【耳鼻咽喉科頭頸部外科領域のサブスペシャルティ－手術指導医・専門医・相談医マニュアル－】口腔咽頭・喉頭・気管食道科領域の専門医・相談医制度について 嚥下相談医等制度．JOHNS，40(10)：1279-1281，2024，10.

6　石田知也，杉山庸一郎：基礎的理論に基づいた嚥下障害診療．耳鼻咽喉科臨床，117(11)：951-957. 2024，11.

症例報告

1　嶋崎絵里子，山内盛泰，陣野智昭，倉富勇一郎，宮崎純二：右非反回下喉頭神経を伴った甲状腺腫瘍の1例．耳鼻と臨床，70(2)：95-100，2024，3.

2　峯崎晃充，山内盛泰，倉富勇一郎：導入化学療法およびセツキシマブ併用放射線療法による腫瘍消失後に生じた咽頭粘膜壊死を契機に内頸動脈から出血を来した局所進行中咽頭癌の1例．耳鼻と臨床，70(3)：137-143，2024，5.

3　陣野智昭，近松絵理子，岡村誠司，川﨑佳奈子，山内盛泰，杉山庸一郎：喉頭原発髄外性形質細胞腫の1症例．喉頭，36(1)：53-56，2024，6.

4　○三根夢花，甲斐敬太，北村　捷，川﨑佳奈子，山内盛泰，馬塲耕一，倉富勇一郎，能城浩和，末岡榮三朗，相島慎一：後腹膜に嚢胞状転移巣を形成した，非常に稀な顎下腺腺様嚢胞癌の1例．日本臨床細胞学会九州連合会雑誌，55：47-51，2024，7.

5　緒方政彦，石田知也，峯崎晃充，首藤洋行，田中成幸，相良駿介，佐藤有記，嶋崎絵里子，倉富勇一郎，杉山庸一郎：輪状軟骨原発軟骨肉腫の1例．日本気管食道科学会会報，75(4)：256-261，2024，8.

学会発表

国際規模の学会

1　Yoichiro Sugiyama: New Therapeutic approach for dysphagia-evaluation, rehabilitation, surgical intervention. Therapeutic effects of electrical stimulation to the neck for dysphagic patients. 7th CEORL-HNS, 2024, 6, 15-19.

2　Yoichiro Sugiyama, Keiko Hashimoto, Yuki Sato, Shigeru Hirano, Fukka You, Haruhiko Inufusa, Toshikazu Yoshikawa: Dysphagia animal model with denervation of the pharyngeal constrictor muscles:possible contribution of anti-oxidant Twendee X on the muscle atrophy. SIPS (Sustainable Industrial Processing Summit) 2024, 2024, 10, 20-24.

3　Yoichiro Sugiyama, Mami Kaneko, Yuki Sato, Shigeru Hirano, Haruhiko Inufusa, Toshikazu Yoshikawa: Possible involvement of oxidative stress in vocal loading induced by brainstem vocalization in guinea pigs. SIPS (Sustainable Industrial Processing Summit) 2024, 2024, 10, 20-24.

4　Yuki Sato, Yoichiro Sugiyama, Shigeru Hirano, Fukka You, haruhiko Inufusa, Toshikazu Yoshikawa: Potential Involment of Oxidative Stress in Allergic Respiratory Diseases: A Review and Possible Association with Airway Hypersensentivity. SIPS (Sustainable Industrial Processing Summit) 2024, 2024, 10, 20-24.

5　Yoichiro Sugiyama: The Treatment Strategy for Dysphagia Caused by CN9 and CN10 Paralysis. the 31st Annual Meeting of the Korean Skull Base Society, 2024, 11, 29-30.

国内全国規模の学会

1　○阿部日向子，行元崇浩，芥川剛至，鶴岡ななえ，石田知也，青木茂久，杉田和成，江崎幹宏：咽頭痛を契機に受診され診断に苦慮した増殖性天疱瘡の1例．第20回日本消化管学会総会・学術講演会，2024，2，9-11.

2　○水田優実，芥川剛至，沖井詩織，島村拓弥，行元崇浩，石田知也，青木茂久，下田　良，江崎幹

宏：当院における下咽頭表在癌に対する消化器・耳鼻科合同治療の現状．第20回日本消化管学会総会・学術講演会，2024，2，9.

3　石田知也，嶋崎絵里子，峯崎晃充，山内盛泰：当科における免疫チェックポイント阻害薬の内分泌関連 irAE についての検討．第33回日本頭頸部外科総会・学術講演会，2024，2，1-2.

4　○川﨑佳奈子，甲斐敬太，峯崎晃充，前田佐知子，山内盛泰，倉富勇一郎：喉頭癌の所属リンパ節における CD1a 陽性樹状細胞浸潤の意義の解明（CD1a-positive dendritic cell infiltration in regional Iymph nodes in laryngeal cancer）．第114回日本病理学会総会，2024，3，28-30.

5　杉山庸一郎：嚥下機能改善手術と誤嚥防止手術【手技手術セミナー】．第125回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会学術講演会，2024，5，15-18.

6　嶋崎絵里子，山内盛泰，杉山庸一郎：Pelizaeus-Merzbacher 病の 1 例．第125回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会学術講演会，2024，5，15-18.

7　*相良駿介，石田知也，山内盛泰：当科におけるがんゲノムプロファイリング検査の実際．第125回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会学術講演会，2024，5，15-18.

8　石田知也，山内盛泰，杉山庸一郎：耳下腺リンパ腺腫の 3 例．第48回日本頭頸部癌学会総会・学術講演会，2024，6，20-21.

9　森本邦子，深浦順一，首藤洋行，山内盛泰，杉山庸一郎：ROHHAD 症候群と診断された児童にリハビリテーションを行った一例．第25回日本言語聴覚学会，2024，6，21-22.

10　杉山庸一郎，石田知也，峯崎晃充，嶋崎絵里子，金子真美，平野　滋：嚥下造影検査に基づいた嚥下障害の診断と治療【シンポジウム】．第30回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会，2024，8，30-31.

11　杉山庸一郎，金子真美，石田知也，峯崎晃充，嶋崎絵里子，平野　滋：嚥下障害の病態に基づいた動物モデルと新規治療開発にむけた試み【シンポジウム】．第30回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会，2024，8，30-31.

12　田中成幸，佐藤有記，伊東里佳，杉山庸一郎：当科で経験した鼻副鼻腔悪性黒色腫 6 例の臨床的検討，第63回日本鼻科学会総会・学術講演会，2024，9，26-28.

13　伊東里佳，佐藤有記，田中成幸，御厨剛史，杉山庸一郎：FDG-PET で指摘され診断的治療を行った 1 ㎝未満の上顎洞乳頭腫の 2 例．第63回日本鼻科学会総会・学術講演会，2024，9，26-28.

14　佐藤有記，田中成幸，伊東里佳，御厨剛史，鈴木久美子，杉山庸一郎：当科で生検を施行した眼窩病変の検討．第63回日本鼻科学会総会・学術講演会，2024，9，26-28.

15　首藤洋行，石田知也，峯崎晃充，嶋崎絵里子，山内盛泰，杉山庸一郎：高位気管切開術後の喉頭狭窄に対して手術治療を行った 1 例．第75回日本気管食道科学会総会・学術講演会，2024，10，15-16.

16　石田知也，陣野智昭，首藤洋行，嶋崎絵里子，峯崎晃充，杉山庸一郎：剣道による非開放性向上軟骨骨折に対する音声障害に対して観血的整復術を行った 1 例．第75回日本気管食道科学会総会・学術講演会，2024，10，15-16.

地方規模の学会

1　杉山庸一郎：嚥下の病理生理に則した臨床応用への取り組み【教育講演】．第39回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会九州連合地方部会学術講演会，2024，7，13-14.

2　古賀千晶，首藤洋行，嶋崎絵里子，峯崎晃充，山内盛泰，杉山庸一郎：BRAFV600E 遺伝子変異

陽性の甲状腺未分化癌の１例．第39回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会九州連合地方部会学術講演会，2024，7，13-14.

3　山本大誠，田中成幸，石田知也，佐藤有記，峯崎晃充，山内盛泰，杉山庸一郎：診断に長期間を要した扁平上皮癌頸部リンパ節転移の１例．第39回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会九州連合地方部会学術講演会，2024，7，13-14.

4　陣野智昭，石田知也，峯崎晃充，杉山庸一郎：上咽頭癌との鑑別に苦慮した頭蓋底骨髄炎症例．第18回九州頭頸部癌フォーラム，2024，10，12.

5　山本大誠，田中成幸，伊東里佳，石田知也，杉山庸一郎：上部消化管内視鏡後に咽頭食道穿孔を来した１例．第127回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会佐賀県地方部会，2024，12，7.

6　伊東里佳，佐藤有記，田中成幸，杉山庸一郎：手術加療で改善した嗅裂接触による鼻副鼻腔疾患関連痛の一例．第127回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会佐賀県地方部会，2024，12，7.

7　古賀千晶，首藤洋行，峯崎晃充，杉山庸一郎：耳下腺腫瘍との鑑別を要した咬筋内血管腫の１例．第127回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会佐賀県地方部会，2024，12，7.

その他の学会

1　田中成幸：鼻副鼻腔腫瘍が原因と考えられた腫瘍性低リン血症性骨軟化症の１例．第31回佐賀県アレルギー講習会，2024，2，8.

2　杉山庸一郎：嚥下とは何か．第19回福岡地区耳鼻咽喉科専門医会講習会，2024，11，13.

3　田中成幸，佐藤有記，古賀千晶，杉山庸一郎：経鼻中隔アプローチを行った孤立性蝶形骨洞炎の２例．第102回佐賀耳鼻科カンファレンス，2024，11，14.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
教　授	杉山庸一郎	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	高電圧パルス電流併用干渉波電気刺激および薬物療法による統合的嚥下障害治療の研究	1,591
講　師	峯崎　晃充	科学研究費助成事業	若手研究	1	喉頭癌組織における樹状細胞の役割と臨床的意義の解明	2,092
教　授	杉山庸一郎	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	ヒト嚥下筋の組織学的検討－他施設共同研究によるサルコペニアの嚥下障害病態解明	100
教　授	杉山庸一郎	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	転写因子 Nrf2の細胞保護・抗炎症作用に着目した，嚥下障害新規治療法の研究	400
教　授	杉山庸一郎	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	痙攣性発生障害の病態解明に迫る脳幹における発声中枢調整機能の解明	100
助　教	石田　知也	曽田記念財団2024年度九州地区における耳鼻咽喉科教育の若手研究育成事業	助成金	1	脳再灌流モデル動物を用いた嚥下障害における酸化ストレスの関与と抗酸化剤投与による改善効果の検証	1,000
医　員	陣野　智昭	曽田記念財団2023年度九州地区における耳鼻咽喉科教育の若手研究育成事業	助成金	1	早期舌癌における浸潤様式の術前診断法の樹立	1,000

放 射 線 医 学 講 座
（放射線部、放射線科を含む）

著　　書

1　中園貴彦：胸腔内甲状腺腫（症例Ｌ２-32）．芦澤和人他 編：即戦力が身につく 胸部の画像診断．383-386，2024，メディカル・サイエンス・インターナショナル，東京．

2　中園貴彦：縦隔成熟奇形腫と未熟奇形腫（症例Ｌ２-38）．芦澤和人他 編：即戦力が身につく 胸部の画像診断．406-409，2024，メディカル・サイエンス・インターナショナル，東京．

3　中園貴彦：悪性胚細胞腫瘍（症例Ｌ３－９）．芦澤和人他 編：即戦力が身につく 胸部の画像診断．509-512，2024，メディカル・サイエンス・インターナショナル，東京．

4　武下　剛，江頭玲子：（第 II 部）症候学に応じた画像検査の選択 胸部 血痰・喀血．画像検査を使いこなす 放射線科医からの贈り物，2024，診断と治療社．

5　田北　論：Aquilion ONE / INSIGHT Edition の可能性 PIQE Body & PIQE Lung がもたらすインパクト．映像情報 Medical，Vol. 56 No11 OCTOBER 2024，56-59，2024，産業開発機構株式会社．

原著論文

1　*Fandler-Höfler S, Eppinger S, Ambler G, Nash P, Kneihsl M, Lee KJ, Lim JS, Shiozawa M, Koga M, Li L, Lovelock C, Chabriat H, Hennerici M, Wong YK, Mak HKF, Prats-Sanchez L Martínez-

Domeño A, Inamura S, Yoshifuji K, Arsava EM, Horstmann S, Purrucker J, Lam BYK, Wong A, Kim YD, Song TJ, Lemmens R, Uysal E, Tanriverdi Z, Bornstein NM, AssayagEB, Hallevi H, Molad J, Nishihara M, Tanaka J, Coutts SB, Polymeris A, Wagner B, Seiffge DJ, Lyrer P, Kappelle LJ, Salman RAS, Hernandez MV, Jäger HR, Lip GYH, Fischer U, El-Koussy M, Mas JL, Legrand L, Karayiannis C Phan T, Gunkel S, Christ N, Abrigo J, Chu W, Leung T, Chappell F, Makin S, Hayden D, Williams DJ, Mess WH, Kooi ME, Barbato C, Browning S, Tuladhar AM, Maaijwee N, Guevarra AC, Mendyk AM, Delmaire C, Köhler S, Oostenbrugge RV, Zhou Y, Xu C, Hilal S, Robert C, Chen C, Lou M, Staals J, Bordet R, Kandiah N, de Leeuw FE, Simister R, Bos D, Kelly PJ, Wardlaw J, Soo Y, Fluri F, Srikanth V, Calvet D, Jung S, Kwa VIH, Engelter ST, Peters N, Smith EE, Hara H, Yakushiji Y, Orken DN, Thijs V, Heo JH, Mok V, Veltkamp R, Ay H, Imaizumi T, Lau KK, Jouvent E, Rothwell PM, Toyoda K, Bae HJ, Marti-Fabregas J, Wilson D, Best J, Fazekas F, Enzinger C, Werring DJ, Gattringer T; Microbleeds International Collaborative Network: Sex Differences in Frequency, Severity, and Distribution of Cerebral Microbleeds. JAMA Netw Open 7(10): e2439571, 2024, 1.

2 *Kondoh Y, Furukawa T, Hozumi H, Suda T, Egashira R, Jokoh T, Fukuoka J, Kuwana M, Teramachi R, Fujisawa T, Hasegawa Y, Ogura T, Miyazaki Y, Oyama S, Teramukai S, Horiguchi G, Naito A, Inoue Y, Ichikado K, Bando M, Tomioka H, Nishioka Y, Chiba H, Ebina M, Nakanishi Y, Satoh K, Shiratori Y, Hashimoto N, Ishii M: The providing multidisciplinary ILD diagnoses (PROMISE) study - study design of the national registry of Japan facilitating interactive online multidisciplinary discussion diagnosis. BMC Pulm Med. 2024 Oct 14; 24(1): 511. doi: 10.1186/s12890-024-03232-1, 2024, 10.

3 *Kubota K, Fujioka T, Tateishi U, Mori M, Yashima Y, Yamaga E, Katsuta L, Yamaguchi K, Tozaki M, Sasaki M, Uematsu T, Monzawa S, Isomoto I, Suzuki M, Satake H, Nakahara H, Goto M, Kikuchi M: Investigation of imaging features in contrast-enhanced magnetic resonance imaging of benign and malignant breast lesions. Jpn J Radiol. 2024 Jul; 42(7): 720-730, 2024, 7.

4 Nakazono T, Yoshinaga Y, Yamaguchi K, Yokoyama M, Kai K, Fukui S, Egashira R, Ichinohe K, Nagaoka S, Irie H: MRI features of ovarian teratomas with somatic-type malignancy and mature cystic teratomas. Abdom Radiol (NY). 49(10): 3686-3695, 2024, 1.

5 *Ogata A, Ogasawara K, Nishihara M, Takamori A, Furukawa T, Ide T, Ito H, Yoshioka F, Nakahara Y, Masuoka J, Koike H, Irie H, Abe T: Subarachnoid iodine leakage on dual-energy computed tomography after mechanical thrombectomy is associated with malignant brain edema. J Neurointerv Surg. 2024; 0: 1–7. doi: 10.1136/jnis-2023-021413, 2024, 3.

6 *Sumikawa H, Johkoh T, Egashira R, Sugiura H, Sugimoto C, Tanaka T, Nakamura M, Kuriu A, Tomiyama N, Fujisawa T, Nakamura Y, Suda T: Variability of radiological and clinical features in cases with usual interstitial pneumonia without honeycombing. Eur J Radiol Oct: 179: 111651, 2024, 7.

7 *Sumikawa H, Johkoh T, Egashira R, Sugiura H, Sugimoto C, Tanaka T, Nakamura M, Kuriu A, Tomiyama N, Fujisawa T, Nakamura Y, Suda T: Variability of radiological and clinical features in cases with usual interstitial pneumonia without honeycombing. Eur J Radiol. 2024 Oct; 179:

111651. doi: 10.1016/j.ejrad.2024.111651, 2024, 10.

8 *Sumikawa H, Komiya K, Egashira R, Tominaga J, Ueno M, Fukuda T, Yamada D, Takei R, Kataoka K, Kimura T, Kondoh Y, Ejima M, Shimamura T, Tateishi T, Tomioka H, Miyazaki Y, Suda T, Johkoh T: Validation of a computed tomography diagnostic model for differentiating fibrotic hypersensitivity pneumonitis from idiopathic pulmonary fibrosis. Respir Investig. 2024 Sep; 62(5): 798-803, 2024, 9.

9 *Tomioka H, Miyazaki Y, Inoue Y, Egashira R, Kawamura T, Sano H, Johkoh T, Takemura T, Hisada T, Fukuoka J; committee of Japanese Respiratory Society for Japanese clinical practice guide 2022 for hypersensitivity pneumonitis: Japanese clinical practice guide 2022 for hypersensitivity pneumonitis. Respir Investig. 2024 Jan; 62(1): 16-43, 2024, 1.

10 *Ueno M, Egashira R, Hashisako M, Fujimoto K, Fukuda T, Hayashida Y, Sumikawa H, Tominaga J, Tanaka T, Terasaki Y, Fukuoka J, Nishioka Y, Aoki T, Gabata T, Hatabu H, Johkoh T: Idiopathic dendriform pulmonary ossifcation as the phenotype of interstitial lung abnormalities: CT–pathologic correlation and prevalence. Japanese Journal of Radiology 42(9): 993-1002, 2024, 9.

総　　説

1 江頭玲子，武井玲生仁：特発性肺線維症・過敏性肺炎．画像診断 44(9)：910–922，2024，7.

2 Kubota K, Nakashima K, Nakashima K, Kataoka M, Inoue K, Goto M, Kanbayashi C, Hirokaga K, Yamaguchi K, Suzuki A: The Japanese breast cancer society clinical practice guidelines for breast cancer screening and diagnosis, 2022 edition. Breast Cancer. 2024 Mar; 31(2): 157-164, 2024, 3.

3 大平啓一，大石光寿，今泉　猛，入江裕之：民間医療保険会社を対象とした線量規定と寡分割照射の扱いに関する現状調査．臨床放射線 69(3)：363–369，2024，5.

4 山口　健，一戸貫人，江頭玲子，中園貴彦：Ⅱ トモシンセシスの技術と臨床を理解する 4．シーメンス社製装置「MAMMOMAT Revelation」によるトモシンセシスの使用経験．INNERVISION 39(8)：14–16，2024，8.

症例報告

1 長岡　繁，中園貴彦，高柳幸穂，山口　健，江頭玲子，甲斐敬太，横山正俊，入江裕之：子宮腺肉腫の1例．臨床放射線 69(4)：517–522，2024，7.

学会発表

国際規模の学会

1 Egashira R: Update on Diagnostic Imaging of Fibrotic Interstitial Lung Diseases. 第15回呼吸機能イメージング研究会学術集会・第11回呼吸機能イメージング国際ワークショップ（国内開催の国際学会），2024，8，23–25.

国内全国規模の学会

1 Egashira R: DiagnostSc Imaging of Interstitial Pneumonia: The Current State of the Art-Diagnostic Al and Cutting-Edge Technology Approaching the Microscopic Level. 第83回日本医学放射線学会総会，2024，4，11–14.

2 江頭玲子：無症候性間質性肺炎と ILA 検診大国における画像診断医の役割．第43回日本画像医学会，2024，2，23–24.

3　江頭玲子：画像から見た多発石灰化を来す肺病変．第43回日本画像医学会，2024，2，23-24.
4　江頭玲子，山口　健，吉永　優，中園貴彦：顕微鏡的多発血管炎炎症時の画像的変化を捉えることができた1例．第38回胸部放射線研究会（第60回日本医学放射線学会秋季臨床大会），2024，10，18.
5　Iima M, Kataoka M, Ohashi A, Yamaguchi K, Inoue E, Tokuda Y, Honda M, Satake H, Kubota K, Fujioka T, LeBihan D, Naganawa S, Nakamoto Y: Comparison of fat-suppression methods (STIR vs SPAIR) in breast DWI: Qualitative and quantitative analysis of lesions and breast composition 乳房拡散強調画像における脂肪抑制法（STIR vs SPAIR）の比較：病変と乳房組成の定性的および定量的解析．第52回日本磁気共鳴医学会大会，2024，9，20-22.
6　Ichinohe K, Yamaguchi K, Nakazono T, Egashira R, Imaizumi T, Maruyama K, Nickel D, Irie H: Background parenchymal enhancement (BPE) in ultrafast dynamic contrast-enhanced (DCE) MRI: Inter-reader agreement and correlations with prognostic factors of breast cancer．第83回日本医学放射線学会総会，2024，4，11-14.
7　永見範幸：人工知能を活用した放射線治療計画．第6回全国国立大学放射線技師会学術サミット，2024，2，3.
8　中園貴彦：胸部診断における高精細画像の臨床知見．Global Standard CT Symposium 2024，2024，8，3.
9　西原正志，平井徹良，江頭玲子，鈴山耕平，小池春樹，中園貴彦：両側基底核に異常信号をきたした抗Yo抗体関連傍腫瘍性神経症候群の一例．第60回日本医学放射線学会秋季大会，2024，10，18-20.
10　田北　諭，岡　玲加，柴原久紀，馬渡　翼，本田　歩，山下雄也，中村菜摘美，北村茂利：4D bolus tracking法の開発．第1回日本放射線医療技術学術大会，2024，10，31-11，3.
11　田北　諭：Aquilion ONE / INSIGHT Editionが持つPotential．第1回日本放射線医療技術学術大会ランチョンセミナー11，2024，10，31-11，3.
12　山口　健，中園貴彦，有働和馬，野口　満，橋口真理子，甲斐敬太，入江裕之：精巣性索間質性腫瘍が疑われた1例．第37回日本腹部放射線学会，2024，6，14-15.
13　山口　健：乳癌原発MALTリンパ腫の1例．第33回日本乳癌画像研究会（オンライン開催）．2024，3，16-17.
14　Yamaguchi K: Morphology and Kinetics in new version of BI-RADS MRI これからのBI-RADS MRI：Morphology, Kinetics．第52回日本磁気共鳴医学会大会，2024，9，20-22.
15　吉永　優，江頭玲子，山口　健，中園貴彦，宮原尚文，甲斐敬太：出血合併により突然の前胸部圧迫感を生じた多房性胸腺嚢胞の1例．第38回胸部放射線研究会（第60回日本医学放射線学会秋季臨床大会），2024，10，18.

地方規模の学会

1　平井徹良，吉永　優，山口　健，中園貴彦，平川雄大，井樋有紗：ROHHAD-NET症候群に対しMIBGシンチグラフィを施行した一例．第199回日本医学放射線学会九州地方会，2024，6，22-23.
2　彌富瑞貴，江頭秀哲，武下　剛，中園貴彦，徳永真梨子，横山正俊：外腸骨動脈より分岐する腟動脈からの出血に対して動脈塞栓術を施行した1例．第199回日本医学放射線学会九州地方会，2024，6，22-23.

3　彌富瑞貴，江頭秀哲，藤木和也，武下　剛，中園貴彦，品田公太，阪本雄一郎：骨盤内腫瘍に対して axial puncture でドレナージを施行した 1 例．第46回九州 IVR 研究会，2024，12，21.

4　岸川浩尚，江頭秀哲，武下　剛，池田翔大，武居　晋，高鍋達也，入江裕之：結腸癌術後医原性下腸間膜動静脈瘻に対し血管塞栓術を施行した一例．第198回日本医学放射線学会九州地方会 第59回日本核医学会九州地方会，2024，2，16-17.

5　馬渡　翼，田北　諭，柴原久紀，岡　玲加，本田　歩，山下雄也，中村菜摘美，北村茂利：CT 検査におけるシリーズ番号生成システムの運用．第19回九州放射線医療技術学術大会，2024，12，21-22.

6　長岡　繁，江頭玲子，福井修一，西原正志，増岡　淳，入江裕之：上咽頭腫瘤として発見された頭蓋咽頭管開存に伴う異所性下垂体前葉の一例．第198回日本医学放射線学会九州地方会 第59回日本核医学会九州地方会，2024，2，16-17.

7　野中大舞，井上健太，永見範幸，平嶋琢実，大平啓一，大石光寿，今泉　猛，北村茂利：呼吸同期 CT における Phase-Average 画像再構成が放射線治療計画の線量に及ぼす影響．第19回九州放射線医療技術学術大会，2024，12，21-22.

8　柴原久紀，田北　諭，岡　玲加，馬渡　翼，中村菜摘美，山下雄也，本田　歩，北村茂利：心拍数による CT 値への影響についての調査．第19回九州放射線医療技術学術大会．2024，12，21-22.

9　田北　諭，岡　玲加，柴原久紀，馬渡　翼，本田　歩，山下雄也，中村菜摘美，北村茂利：4D bolus tracking 法へ造影剤可変注入の応用．第19回九州放射線医療技術学術大会，2024，12，21-22.

10　田中秀一，尾形　学，堤　祥伍，野中大舞，北村茂利：心臓カテーテル検査における3D プリンタを活用した代替品の製作心の試み．第19回九州放射線医療技術学術大会，2024，12，21-22.

11　依田隆史，堂込清史，北村茂利：良好な神経描出を目的とした3D-DESS（Double Echo Steady State）法の撮像条件検討－手羽先ファントムを用いて－．第19回九州放射線医療技術学術大会．2024，12，21-22.

12　吉永　優，山口　健，江頭玲子，中園貴彦，平木将紹，真鍋達也，甲斐敬太，入江裕之：腸間膜発生の Rosai-Dorfman 病の一例．第198回日本医学放射線学会九州地方会 第59回日本核医学会九州地方会，2024，2，16-17.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
准教授	中園　貴彦	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	婦人科腫瘍の鑑別におけるMRIのRadiomics解析の有用性の検討	0 (1,066)
講　師	山口　　健	科学研究費助成事業	若手研究	1	MRIによる癌微小環境をもとにした乳癌サブタイプ分類の診断基準の確立	0 (541)
講　師	山口　　健	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	ultrafast MRIによる乳癌微小環境サブタイプ分類の診断基準の確立	1,100 (1,400)
助　教	江頭　玲子	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	膠原病関連間質性肺炎の表現型と自己抗体発現における関連性評価と進行性予測	1,100 (26)
助　教	大石　光寿	科学研究費助成事業	若手研究	1	頭頸部放射線誘発線維症の定量的解析－新たな線量制約値の確立と治療応用に向けて	405 (70)

※（　）は繰越金で外数

学術（学会）賞

職　名	氏　名	学術（学会）賞名	受　賞　課　題
診療放射線技師	田北　　諭	画論32nd The Best Image 心・血管部門最優秀賞	4D bolus tracking法を用いたEndoleak評価

リハビリテーション科
（先進総合機能回復センターを含む）

著　　書

1　浅見豊子：(07)予防教育の実践のモデル事例 ⑪佐賀県神埼市の事例．理学療法士のための学校における運動器疾患・障害の予防教育マニュアル－認定スクールトレーナーの活動の手引き 194-196, 2024, 7, 15, ㈱南江堂, 東京.

2　浅見豊子：第4章 脳・神経疾患における杖の選択と使い方．1.脳卒中後遺症，転倒予防のプロが教える正しい杖の使い方－変形性膝関節症，リウマチ，パーキンソン病，脳卒中，フレイルなど－100-102, 2024, 9, 20, ㈱新興医学出版社, 東京

3　浅見豊子：第4章 脳・神経疾患における杖の選択と使い方．3.運動失調，転倒予防のプロが教える正しい杖の使い方－変形性膝関節症，リウマチ，パーキンソン病，脳卒中，フレイルなど－108-110, 2024, 9, 20, ㈱新興医学出版社, 東京.

4　浅見豊子：第4章 脳・神経疾患における杖の選択と使い方．6.頭部外傷，転倒予防のプロが教える正しい杖の使い方－変形性膝関節症，リウマチ，パーキンソン病，脳卒中，フレイルなど－118-120, 2024, 9, 20, ㈱新興医学出版社, 東京.

原著論文

1　浅見豊子：知っていてほしい義肢装具とその実際　4．下肢装具（治療用装具）．Journal of Clinical Rehabilitation，33(2)：163-167，2024，2，15.

2　浅見豊子：かかりつけ医とリハビリテーション医療 特集／外来におけるリハビリテーション指導のポイント．臨牀と研究，101(4)：13-16，2024，4.

3　浅見豊子：ニーズを捉えた福祉機器の開発と評価～開発者と障害者に求められること～．令和５年度ニーズ・シーズマッチング強化事業 事業報告書，82-102，2024，4.

4　浅見豊子：脳卒中疾患に伴う装具の歴史的変遷―短下肢装具に着目して―．日本義肢装具学会誌 特集 40巻記念企画 疾患に対する装具の歴史的変遷，Vol. 40 No. 4，245-248，2024，1.

5　浅見豊子：日本義肢装具学会における学術大会の役割と課題～教育について～．日本義肢装具学会誌 40周年記念講演演者紹介，Vol. 40 No. 4，274，2024，10，1.

6　*秀島圭和，浅見豊子，市場正良，松尾清美，村田知之：重症心身障害児に対する電動移動機の操作トレーニングの効果に関する研究．Japanese Journal of Comprehensive Rehabilitation Science，15，8-16，2024.

7　*Yoshikazu Hideshima, Toyoko Asami, Masayoshi Ichiba, Kiyomi Matsuo, Tomoyuki Murata: A Study on the Effectiveness of Training in the Operation of an Electric Mobility Aid in Severely Mentally and Physically Handicapped Children. Japanese Journal of Comprehensive Rehabilitation Science, 15, 8-16, 2024.

総　　説

1　浅見豊子：ご挨拶．佐賀県高次脳機能障害支援拠点機関情報誌「きおくのいずみ」，9，p. 1，2024，3，31.

2　浅見豊子：志波直人先生との思い出．志波直人主任教授 退職記念誌，28-29，2024，9，30.

3　浅見豊子：リハビリテーション科．令和６年度診療科紹介，p. 11，2024，9.

4　浅見豊子：佐賀リハビリテーション研究会および佐賀県リハビリテーション科医会．佐賀県臨床整形外科医会会報，p. 21-22，2024，12.

学会発表

国際規模の学会

1　Toyoko Asami: Balancing detail-oriented (tactical) viewpoints with the big picture (strategic) viewpoints. ISPRM 2024 Medical Leadership: Finding Course in a Sea of Change, 2024, 6, 1-6, Sydney, Australia.

2　Toyoko Asami: Best practices in Board Certification in Japan. ISPRM 2024 Best Practices in PRM Board Certification: USA and Asia, 2024, 6, 1-6, Sydney, Australia.

3　Toyoko Asami: Rehabilitation Therapy for Upper Limb Prosthesis Considering Children's Activity Support. 2024 Yangtze River Rehabilitation Medicine Forum, 2024, 10, 11-12, China.

4　Kazuki Murata, Yuki Sato, Toyoko Asami: Usage of Incobotulinumtoxin A in our hospital. The 4th Japan-Taiwan-Korea Neurorehabilitation Conference (4th JTK Conference), 2024, 3, 2, Saga, Japan.

5　Akira Tanaka, Toyoko Asami, Taketo Sato, Kazuki Murata, Yuki Sato: A case of amyotrophic lateral sclerosis that HAL rehabilitation and AFO use helped prevent falls. The 4th Japan-Tai-

wan-Korea Neurorehabilitation Conference (4th JTK Conference), 2024, 3, 2, Saga, Japan.

6 Yuki Satoh, Toyoko Asami, Kazuki Murata, Akira Tanaka, Taketo Sato: Effectiveness of VR rehabilitation for patients with cerebral palsy. The 4th Japan-Taiwan-Korea Neurorehabilitation Conference (4th JTK Conference), 2024, 3, 2, Saga, Japan.

国内全国規模の学会

1 浅見豊子：ダイバーシテイにおける繋がりが築くもの．第15回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会 会長講演，2024，3，2-3，佐賀．

2 浅見豊子：義肢装具領域の進歩と未来．回復期リハビリテーション病棟協会 第43回研究大会 in 熊本 特別講演，2024，3，8，熊本．

3 浅見豊子：HAL を用いた外来リハビリテーション治療戦略．痙縮治療 Specialty Meeting in Okinawa -2nd- Invited lecture，2024，3，15，Web 配信．

4 浅見豊子：誰ひとり取り残さない教育の実現に向けた支援を目指して－リハビリテーション医学・医療の立場から－．第 4 回小児リハビリテーション医学会学術集会 シンポジウム インクルーシブ教育・保育，2024，9，6-7，東京．

5 浅見豊子：切断のリハビリテーション医学・医療：歴史と展望．第 8 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会 教育講演，2024，11，1-3，岡山．

6 浅見豊子：脳卒中疾患に伴う装具の歴史的変遷～短下肢装具に着目して～．第40回日本義肢装具学会学術大会 教育講演，2024，11，9-10，福岡．

7 浅見豊子：家庭でも職場でも社会でも転ばない in SAGA ～私の場合～．日本転倒予防学会 第11回学術集会 会長講演，2024，11，23-24，佐賀．

8 浅見豊子：歩行リハビリテーションにおけるリハビリテーションロボットの活用．日本転倒予防学会 第11回学術集会 スイーツセミナー 1，2024，11，23-24，佐賀．

9 *平尾 文，平岩和美，浅見豊子：不整地マット使用による足底表面積の変化について～ 5 歳児を対象に～．第15回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会，2024，3，2-3，佐賀．

10 *平尾 文，平岩和美，浅見豊子：不整地マット使用による足底表面積の変化について～ 5 歳児を対象に～．日本転倒予防学会 第11回学術集会，2024，11，23-24，佐賀．

11 *木村 孝，浅見豊子：急性期からの退院後住宅における脳卒中後うつ状態関連因子の 1 年後の構造変化．第15回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会，2024，3，2-3，佐賀．

12 溝田理恵，山口奈津美，浅見豊子，村田和樹，佐藤佑紀：脳出血による高次脳機能障害例の復職支援の経験．第15回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会，2024，3，2-3，佐賀．

13 溝田理恵，浅見豊子，村田和樹，佐藤佑紀：高次脳機能障害に対する日本語版 STRATIFY の活用検討について．日本転倒予防学会 第11回学術集会，2024，11，23-24，佐賀．

14 *中原誉彬，有薗洋一，坂田亮二，浅見豊子：先天性前腕欠損児に用いた義手の工夫．第40回日本義肢装具学会学術大会，2024，11，9-10，福岡．

15 村田和樹，浅見豊子，佐藤健仁：リハビリテーションロボットを通じた地域高齢者の活動向上に向けた取り組み．第15回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会 JSNRNR シンポジウム 1 活動におけるダイバーシティとニューロリハビリテーション，2024，3，2-3，佐賀．

16 村田和樹：痙縮におけるボツリヌス治療のトータルマネージメントを考える～次世代に向けて～．痙縮治療 Web Seminar，2024，3，29．

17　村田和樹，佐藤佑紀，浅見豊子：当院におけるリハビリテーション治療実施中の転倒・転落についての検討．日本転倒予防学会 第11回学術集会，2024，11，23-24，佐賀．

18　佐藤健仁，浅見豊子，村田和樹，佐藤佑紀，田中　玲：ロボットを活用した介護予防における地域高齢者の心身状態の変化．第15回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会，2024，3，2-3，佐賀．

19　佐藤健仁，浅見豊子，村田和樹，佐藤佑紀，田中　玲：mediVR カグラを使用した転倒予防につながる介護予防の取り組み．日本転倒予防学会 第11回学術集会，2024，11，23-24，佐賀．

20　佐藤佑紀，佐藤健仁，村田和樹，浅見豊子：歩行アシストを使用した転倒につなげる介護予防活動の経験．日本転倒予防学会 第11回学術集会，2024，11，23-24，佐賀．

21　田中　玲，浅見豊子，佐藤健仁，村田和樹，佐藤佑紀：HAL リハビリテーションと AFO 使用が転倒予防に繋がった筋萎縮性側索硬化症の 1 例．日本転倒予防学会 第11回学術集会．2024，11，23-24，佐賀．

22　矢原有紗，浅見豊子，村田和樹，佐藤佑紀：転倒予防の観点での短下肢装具の種類選択について．日本転倒予防学会 第11回学術集会，2024，11，23-24，佐賀．

23　山口奈津美，溝田理恵，浅見豊子，村田和樹，佐藤佑紀：高次脳機能障害支援拠点機関における活動，参加改善への取り組み．第15回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会，2024，3，2-3，佐賀．

24　*山崎拓也，田中康博，秋山菜奈絵，浅見豊子：高齢者におけるトレッドミル環境に対する適応訓練の試み．第15回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会，2024，3，2-3，佐賀．

25　矢山柚衣，浅見紗衣，浅見豊子，村田和樹，佐藤佑紀，髙野友美：特別養護老人ホームにおける転倒・転落についての検討．日本転倒予防学会 第11回学術集会，2024，11，23-24，佐賀．

地方規模の学会

1　浅見豊子：腎臓リハビリテーションへのロボットリハビリテーションの活用．腎性貧血・腎臓リハビリテーションを考える会 in Hiroshima 特別講演，2024，7，2，広島．

2　浅見豊子：関節リウマチのリハビリテーション医療．第36回佐賀リウマチ研究会，2024，7，19，佐賀．

3　村田和樹，佐藤佑紀，浅見豊子：佐賀大学医学部附属病院でのインコボツリヌストキシンＡの使用状況．第55回日本リハビリテーション医学会九州地方会，2024，2，18，鹿児島．

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
准教授 (診療教授)	浅見　豊子	厚生労働行政推進調査事業費	障害者施策総合研究事業	1	技術革新を視野に入れた補装具費支給制度のあり方のための研究	7,150
准教授 (診療教授)	浅見　豊子	メビックス株式会社	臨床研究支援	1	上下肢痙縮患者における高用量Ａ型ボツリヌス毒素製剤（ボトックス）の安全性及び有効性：日本における観察研究	440
准教授 (診療教授)	浅見　豊子	佐賀県健康福祉部	支援事業	1	令和６年度佐賀県高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業	8,910
准教授 (診療教授)	浅見　豊子	佐賀県健康福祉部	支援事業	1	令和６年度佐賀県健康長寿運動プログラム事業	10,648

学術（学会）賞

職　名	氏　名	学術（学会）賞名	受　賞　課　題
准教授 (診療教授)	浅見　豊子	藍綬褒章	女性活躍推進功績

麻酔・蘇生学講座
（集中治療部、手術部、ペインクリニック・緩和ケア科を含む）

著　　書

1　坂口嘉郎：麻酔と肝機能．麻酔科学レビュー2024，2024，総合医学社，東京.

2　坂口嘉郎：危機的出血．Ｑ＆Ａ循環管理：麻酔科専門医が答える74の疑問．118-122頁，2024，克誠堂，東京.

3　坂口嘉郎：赤血球輸血．麻酔科研修ノート改訂第４版．257-260，2024，株式会社 診断と治療社，東京.

原著論文

1　○Reona Aijima, Daisuke Miura, Ayako Takamori, Asana Kamohara, Atsushi Danjo, Yoshiro Sakaguchi, Yoshio Yamashita: Impact of General Anesthesia on Postoperative Complications in Orthognathic Surgery: A Retrospective Comparison of Total Intravenous Anesthesia versus Volatile Anesthesia. Scientific Reports. 14(16075), 2024.

2　*Hidekazu SETOGUCHI, Yoshinori TANIGAWA, Yoshiro SAKAGUCHI, Tomoko YAMASHITA, Akira NAKAGAWACHI, Kimihide NAKAMURA: Investigation of factors contributing to heparin resistance during cardiopulmonary bypass. 日臨麻会誌，Vol.44 No3, 270-279, 2024.

3　谷川義則，瀬戸口秀一，坂口嘉郎：当院４年間における帝王切開術の周術期静脈血栓症例の検討．手術医学．45：210-217，2024.

総　説

1　山田信一，原野りか絵，田代　卓：印象記 日本ペインクリニック学会第58回学術集会．臨床麻酔，48，1105-1107，2024.

2　山田信一，兵頭彩子，原野りか絵：虚血肢の治療(3)神経ブロック．ペインクリニック 45：491-497，2024.

3　*山内正憲，山浦　健，川股知之，鈴木孝浩，坂口嘉郎，濱口眞輔：特集：麻酔科学会とその関連学会の現状と課題．麻酔．73：325-329，2024.

症例報告

1　*上野真由，山田信一，兵頭彩子，江島美紗，合原由衣，原野りか絵：帯状疱疹関連痛を疑われ受診した感染性胸部大動脈瘤の1症例．日本ペインクリニック学会誌 31，223-226，2024.

学会発表

国内全国規模の学会

1　谷川義則，坂口嘉郎：ロボット支援下食道手術 麻酔・周術期管理．第16回日本ロボット外科学会学術集会，2024，2，10.

2　谷川義則：高齢者の周術期における止血凝固管理．第36回日本老年麻酔学会，2024，2，17.

3　山田信一：麻酔科医の終の棲家を考える：Good death と living will．第36回日本老年麻酔学会，2024，2，17.

4　*副島周平，山田康貴，坂口嘉郎：開頭神経血管減圧術の周術期に心筋梗塞を発症した一例．第36回日本老年麻酔学会，2024，2，17.

5　*山田康貴，谷川義則，坂口嘉郎：経カテーテル大動脈弁移植術後の日常生活動作の低下に及ぼす因子の検討．第36回日本老年麻酔学会，2024，2，17.

6　*宮原　梓，山田康貴，坂口嘉郎：心拍動下冠動脈バイパス術と経カテーテル的大動脈弁留置術を同時に施行した一例．第36回日本老年麻酔学会，2024，2，17.

7　中村公秀，山下友子，中川内章，谷川義則，山田康貴，坂口嘉郎：当院ICUにおける早期離床・リハビリテーションの取り組み．第51回日本集中治療医学会学術集会，2024，3，15.

8　山下友子：ICUでのカルバペネム系抗菌薬の温存．第51回日本集中治療医学会学術集会，2024，3，16.

9　*山田康貴，坂口嘉郎，中村公秀，山下友子，中川内章，谷川義則：経カテーテル大動脈弁移植術後の身体・認知機能に及ぼす鎮静薬の影響．第51回日本集中治療医学会学術集会，2024，3，15.

10　中川内章，山下友子，中村公秀，山田康貴，谷川義則，坂口嘉郎：佐賀大学医学部附属病院における Rapid Response System（RRS）の臨床効果．第51回日本集中治療医学会学術集会，2024，3，15.

11　中川内章：佐賀大学医学部附属病院における Rapid Response System 活動実績～現状と課題～．第51回日本集中治療医学会学術集会，2024，3，15.

12　野口　洋，山田康貴，坂口嘉郎：胸部多発外傷患者の肩甲骨・鎖骨同時手術に対し複数の末梢神経ブロックを併用し良好な鎮痛が得られた1例．日本区域麻酔学会第11回学術集会，2024，4，13.

13　野口　洋，坂口嘉郎：上肢と鎖骨の骨折手術で選択的神経幹ブロック（SeTB），鎖骨上腕神経ブロックを行い鎮痛効果が得られた一例．日本区域麻酔学会学術集会，2024，4，13.

14　坂口嘉郎：臨床モニターの未来（シンポジウム4）．日本臨床モニター学会，2024，5，19.

15　谷川義則，坂口嘉郎，瀬戸口秀一：心房細動に対する全身麻酔下心筋カテーテル焼却術中の血行動態に関するレミマゾラムとデスフルランの比較．日本麻酔科学会第71回学術集会，2024，6，6.

16　坂口嘉郎：採択される一般演題抄録の書き方（麻酔科領域講習（リフレッシャー）・ベーシック）．日本麻酔科学会第71回学術集会，2024，6，7.

17　坂口嘉郎：関連領域最近のトピックス（シンポジウム）．日本麻酔科学会第71回学術集会，2024，6，7.

18　坂口嘉郎，谷川義則：重篤な輸血関連急性肺障害に対し，V-VA hybrid ECMO を導入し救命し得た一症例．第45回日本循環制御医学会総会・学術集会，2024，6，29.

19　谷川義則，坂口嘉郎，中川内章，山下友子：重症 COPD 患者の腹腔鏡下胃切除中に EIT モニタリングを用いて呼吸メカニクスの変化を評価した１例．第46回日本呼吸療法医学会，2024，6，28.

20　原野りか絵，山田信一，平松史帆，野口　洋，北村静香，坂口嘉郎：がん性疼痛に対する末梢神経ブロックの有効性．日本ペインクリニック学会第58回学術集会，2024，7，19.

21　*西木戸修，松田陽一，前田愛子，綿引奈苗，松崎　孝，山田信一：2023年度３Ｂ以上有害事象まとめ 神経ブロック・インターベンショナル治療．日本ペインクリニック学会第58回学術集会，2024，7，18.

22　*綿引奈苗，松田陽一，西木戸修，前田愛子，松崎　孝，山田信一：日本ペインクリニック学会安全委員会 2023年有害事象調査報告 薬剤，非がん性慢性疼痛患者への麻薬処方．日本ペインクリニック学会第58回学術集会，2024，7，18.

23　*松崎　孝，西木戸修，白井　達，前田愛子，山田信一：痛み診療の現場における2019年～2022年の有害事象について 日本ペインクリニック学会安全委員会―有害事象調査詳細報告と注意喚起―．日本ペインクリニック学会第58回学術集会，2024，7，18.

24　八板信介，坂口嘉郎，谷川義則，奈良崎小百合：心臓血管外科開心術後に Horner 症候群を呈した２例．日本心臓血管麻酔学会第29回学術集会，2024，9，21.

25　谷川義則：カテーテルアブレーション治療における麻酔科医による全身麻酔管理の効果（ランチョンセミナー）．日本臨床麻酔学会第44回大会，2024，11，21.

26　谷川義則，坂口嘉郎：当院における大量出血症例における準備血液製剤の過不足状況の検討．第46回日本手術医学会，2024，12，21.

地方規模の学会

1　山田信一，原野りか絵，兵頭彩子：上下腹神経叢ブロック．令和６年１月佐賀県緩和ケア地域連携カンファレンス，2024，1，17.

2　山田信一，田代章悟，前田愛子，山本俊介，原野りか絵，兵頭彩子：九州ペインクリニック技術援助会の立ち上げと活動報告．日本ペインクリニック学会 第４回九州支部学術集会，2024，3，9.

3　*兵頭彩子，山田信一，原野りか絵，北村静香，平松史帆，坂口嘉郎：虚血肢に末梢神経ブロックは有効か．日本ペインクリニック学会 第４回九州支部学術集会，2024，3，9.

4　山田信一，原野りか絵，兵頭彩子：オピオイド誘発性吐き気対策．令和６年３月佐賀県緩和ケア地域連携カンファレンス，2024，3，19.

5　原野りか絵：うつ病が疑われた慢性疼痛の一例．第28回佐賀痛みを考える会，2024，4，16.

6　山田信一，原野りか絵：2023年版鎮静に関する基本的な考え方を紐解く．佐賀県緩和ケア地域連携カンファレンス，2024，5，20.

7　野口　洋，山田康貴：無脾症・Glenn 手術後の患児に対して当院にて水頭症手術を施行した 1 例．第79回福岡小児麻酔カンファレンス，2024，7，13.
8　谷川義則：明日からの診療にリンク！－ICU での呼吸療法を手術麻酔や病棟管理に活かす－．第 6 回九州集中治療セミナー，2024，8，17.
9　山田信一：がんに伴う痛みの治療について～神経障害性疼痛を中心に～．横浜市北部がん疼痛・緩和ケア WEB セミナー，2024，9，6.
10　坂口嘉郎：2024年度九州支部周術期管理／チームセミナー「周術期の口腔・嚥下機能管理の意義と実践」．日本麻酔科学会2024年度支部学術集会 九州麻酔科学会第62回大会，2024，9，7.
11　谷川義則：2024年度九州支部周術期管理チームセミナー「呼吸生理学 Update」．日本麻酔科学会2024年度支部学術集会 九州麻酔科学会第62回大会，2024，9，7.
12　*村石十和子，谷川義則，松林佑亮，八板信介，坂口嘉郎：喉頭軟化症を合併した21trisomy の児に対する麻酔経験．日本麻酔科学会2024年度支部学術集会 九州麻酔科学会第62回大会，2024，9，7.
13　*國崎真智子，谷川義則，坂口嘉郎：中枢側吻合デバイスを用いた非体外循環下冠動脈バイパス術中に Stanford A 型急性大動脈解離を来たした 1 例．日本麻酔科学会2024年度支部学術集会 九州麻酔科学会第62回大会，2024，9，7.
14　浦知佳子，安藤千晶，上田頼子，谷川義則，坂口嘉郎：膿胸を発症した低心機能慢性心不全症例に対しレミマゾラム併用下 Monitored Anesthesia Care で管理を行った 1 例．日本麻酔科学会2024年度支部学術集会 九州麻酔科学会第62回大会，2024，9，7.
15　矢原徹郎，谷川義則，中川内章，中村公秀，坂口嘉郎：イスラム教徒患者の人工心肺管理下開心術における周術期管理を行った 1 例．日本麻酔科学会2024年度支部学術集会 九州麻酔科学会第62回大会，2024，9，7.
16　山田信一，原野りか絵：オピオイド変更の考え方．令和 6 年 9 月佐賀県緩和ケア地域連携カンファレンス，2024，9，25.
17　山田信一，原野りか絵，平瀬真代，前田美和，白濱　泉：オピオイド耐性または OIH を疑い変更を行った症例の検討．令和 6 年 9 月佐賀県緩和ケア地域連携カンファレンス．2024，9，25.
18　山田信一：オピオイドだけでは難しいがん性疼痛におけるインターベンション治療と九州での取り組み．第15回三重痛みを考える会，2024，9，26.
19　山田信一：がんサバイバーにおける非がん性疼痛治療とオピオイドの役割．第64回福岡県病院薬剤師会オンコロジー研修会，2024，10，11.
20　山田信一，原野りか絵，田代　卓：ラッツカテーテル？椎間板内治療？今何を選択するのか？透視下ブロック～見えるものと見えないもの～．第 1 回九州ペインクリニックハンズオンセミナー in 福岡，2024，10，13.
21　原野りか絵：神経障害性疼痛の治療における漢方薬の意義．第156回漢方浪漫倶楽部，2024，11，8.

その他の学会

1　原野りか絵：―寒熱に着目した処方のポイント―帯状疱疹関連痛に対する漢方処方．日常診療で役立つ漢方ミニレクチャー，2024，1，23.
2　山田信一：私がペインクリニシャンを続けている理由．佐賀若手麻酔科勉強会，2024，2，3.
3　山田信一，原野りか絵：神経障害性疼痛薬物治療の動向～癌性疼痛患者における神経障害性疼痛とは～．第一三共社内講習会，2024，3，28.

4　原野りか絵：神経障害性疼痛の治療における漢方薬の意義．第156回漢方浪漫倶楽部，2024，11，8.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研　究　課　題　等	交付金額（千円）
助　教	中村　公秀	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	敗血症モデルにおけるIL-27産生細胞の特定とその病態形成に関する役割の解析	100

歯科口腔外科学講座

著　　書

1　森　勧寛，山下佳雄：ダイナミック3Dナビゲーションシステムを利用した広範囲顎骨支持型装置および補綴治療～下顎区域切除術から最終補綴装置装着に携わる歯科技工士の役割～．日本歯技6月号第660号 TECHNICAL Review p1-8，2024，5，公益社団法人日本歯科技工士会，東京.

2　山下佳雄：大特集 動的ナビゲーションシステムの可能性「Dynamic 3Dnavigation System（X-Guide）の新たな展開」．Quintessence DENTAL Implantology Vol.31(2)：p54-59，2024.

原著論文

1　Aijima R, Miura D, Takamori A, Kamohara A, Danjo A, Sakaguchi Y, Yamashita Y: Impact of general anesthesia on postoperative complications in orthognathic surgery: A retrospective comparison of total intravenous anesthesia versus volatile anesthesia. Sci. Rep., 12; 14(1): 16075, 2024, Jul.

2　Danjo A, Kuwada C, Aijima R, Kamohara A, Fukuda M, Ariji Y, Ariji E, Yamashita Y: Limitations of panoramic radiographs in predicting mandibular wisdom tooth extraction and the potential of deep learning models to overcome them. Sci Rep. Dec 28; 14(1): 30806, 2024, 2024, Dec.

3　○Uchida Y, Shibata K, Aijima R, Danjo A, Yamashita Y Kuraoka A: Anatomical study on the posterior alveolar canal in maxillary tuberosity region using computed tomography. J. Oral Maxillofac. Surg. Med. Pathol., 32(6): 441-444, 2024, Nov.

4　*Zakaria MF, Sonoda S, Kato H, Ma L, Uehara N, Kyumoto-Nakamura Y, Sharifa MM, Yu L, Dai L, Yamauchi-Tomoda E, Aijima R, Yamaza H, Nishimura F, Yamaza T: Erythropoietin receptor signal is crucial for periodontal ligament stem cell-based tissue reconstruction in periodontal disease. Sci. Rep., 20; 14(1): 6719, 2024, Mar.

総　　説

1　*Kurita H, Uzawa N, Nakayama H, Abe T, Ibaraki S, Ohyama Y, Uchida K, Sato H, Miyabe S, Abe T, Kakimoto N, Kaida A, Sugiura T, Kioi M, Danjo A, et al: Japanese clinical practice guidelines for oral cancer, 2023. Int J Oral Maxillofac Surg, Dec 24: S0901-5027(24)00446-6, 2024, Dec-24.

症例報告

1　合島怜央奈，蒲原麻菜，檀上　敦，山下佳雄：乳児の下顎骨骨折に対して吸収性プレートによる観血的整復固定術と床副子を用いた囲繞結紮を併用した1例．口腔顎顔面外傷，23巻，1号，42-47頁，2024，5.

2　合島怜央奈，山下　亮，蒲原麻菜，檀上　敦，山下佳雄：薬剤関連顎骨壊死による慢性炎症との関連が疑われた貧血の2症例．日口内誌，30巻，1号，25-32頁，2024，6.

3　○Furuno T, Sogawa R, Hashimoto T, Matsuo S, Shirahama W, Kamura T, Hosoya K, Senjyu Y, Yamashita Y, Inoue T, Yamauchi M, Katsuya H, Noguchi M, Sueoka-Aragane N, Shimanoe C: Association between the prognostic nutritional index and the occurrence of immune-related adverse events. Biol Pharm Bull Vol.47 (2): 361-365, 2024, 2.

学会発表

国内全国規模の学会

1　合島怜央奈，檀上　敦，蒲原麻菜，山下佳雄：口腔扁平上皮癌患者に発生した悪性リンパ腫の3症例．第48回日本頭頸部癌学会，2024，6，20-21.

2　合島怜央奈，蒲原麻菜，檀上　敦，久保田英朗，山下佳雄：片側顎関節授動術後の咬合異常に対してオーラルアプライアンスとゴム牽引で対応した1症例．第37回一般社団法人 日本顎関節学会学術集会，2024，7，13-14.

3　合島怜央奈，蒲原麻菜，中山雪詩，檀上　敦，山下佳雄：歯科口腔外科手術にインプラント用ダイナミック3D ナビゲーションシステムを応用した3症例．第78回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会，2024，7，19-21.

4　合島怜央奈，蒲原麻菜，大橋順太郎，中山雪詩，檀上　敦，山下佳雄：口腔外科手術におけるインプラント用ダイナミック3D ナビゲーションシステムの可能性．第28回日本顎顔面インプラント学会 総会・学術集会，2024，11，30-12，1.

5　蒲原麻菜，合島怜央奈，檀上　敦，久保田英朗，山下佳雄：咀嚼筋腱・腱膜過形成症に対する手術時に切離した筋突起の再癒着を認めた1例．第69回日本口腔外科学会総会・学術大会，2024，11，22-24.

6　蒲原麻菜，合島怜央奈，中山雪詩，檀上　敦，山下佳雄：IRPD によって咬合再建を行った口腔癌の1例．第28回日本顎顔面インプラント学会 総会・学術集会，2024，11，30-12，1.

7　古謝侑奈，西村徳泰，市山智義，田中　淳，山下佳雄：除菌洗浄剤に含まれる主成分が輸液ポンプの表面素材に与える影響．第99回日本医療機器学会大会，2024，6，20-22.

8　*隅　聡子，隅　康二，三輪佳愛，合島怜央奈，柏村晴子，山下佳雄，岡　暁子：多数歯う蝕，診療不協力傾向のある口蓋裂児に対する小児歯科と矯正歯科の病診連携．第48回日本口蓋裂学会総会・学術集会，2024，5，30-31.

9　檀上　敦，蒲原麻菜，山下　亮，合島怜央奈，山下佳雄：チタンメッシュトレーと自家腸骨による下顎骨再建の長期予後．第42回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会，2024，1，25-26.

10　檀上　敦，蒲原麻菜，近藤成智，隅　康二，合島怜央奈，山下佳雄：外科矯正治療中に精神障害を認めた4症例．第34回特定非営利活動法人 日本顎変形症学会総会・学術大会 日本顎変形症学会，2024，6，27-28.

11　檀上　敦，合島怜央奈，蒲原麻菜，境　晃宏，野田啓太，山下佳雄：顎口腔領域の静脈奇形に対するオルダミンを用いた硬化療法の検討．第69回日本口腔外科学会総会・学術大会，2024，11，22-24.

12　山下佳雄，合島怜央奈，蒲原麻菜，檀上　敦：「VR（Virtual reality）を用いた仮想手術室訪問が患者の不安解消に与える影響」．第48回日本口蓋裂学会総会・学術集会，2024，5，30-31.

13　山下佳雄：「あなたのお口は大丈夫？ もう一度，一緒に考えようお口の健康」．アースモンダミンセミナー2024東京，2024，6，2.

14　山下佳雄：「下顎歯肉癌患者におけるインプラント治療」．（公社）日本顎顔面インプラント学会 第53回教育研修会，2024，8，25.

15　山下佳雄：最新のエビデンスに基づく臨床効果とチーム医療～患者ケアの新時代を切り開く～「洗口液の意義を再考する」．アース製薬 x Dentwave 共催セミナー，2024，10，20.

16　山下佳雄：ミニシンポジウム「IC の新たな側面」，第38回国立大学附属病院医療安全管理協議会総会，2024，12，11.

地方規模の学会

1　木村　崇，福永祐介，木塚晋輔，田中　淳，山下佳雄，野中枝理子，池田裕貴，山崎政虎，福田誠，宮園素明：Steal 症候群に対してシャント閉鎖し，対側へ新規増設した際の末梢循環評価．第56回九州人工透析研究会総会，2024，12，15.

2　佐藤大祐，諸岡大樹，古謝侑奈，陳　文瀚，夏秋政浩，園田信成，野出孝一，山下佳雄：MSO3-1 UAP に対して PCI 後に心タンポナーデを呈した 1 例．第37回日本心血管インターベンション治療学会 九州・沖縄地方会，2024，8，23-24.

3　○隅　康二，隅　聡子，合島怜央奈，檀上　敦，山下佳雄：低位下顎第一大臼歯の抜歯症例．第19回九州矯正歯科学会学術大会，2024，1，27-28.

4　陳　思哲，合島怜央奈，蒲原麻菜，檀上　敦，山下佳雄：顎下腺摘出時に唾石が導管内へ移動したと考えられた顎下腺腺体内唾石の一例．第52回 NPO 法人日本口腔科学会九州地方部会，2024，12，7.

5　山下佳雄：専門医教育講座「インプラント治療おける医療安全と感染対策」．（公社）日本口腔インプラント学会第41回九州支部学術大会，2024，1，20.

6　山下佳雄，山下　亮，合島怜央奈，蒲原麻菜，檀上　敦：「業務削減を目的とした iPad タブレットを用いた疾患説明の有用性について」．第92回（公社）日本口腔外科学会九州支部学術集会，2024，7，6.

その他の学会

1　蒲原麻菜：薬剤関連顎骨壊死の病態と管理～ポジションペーパー2023の変更点について～．佐賀市歯科医師会例会，2024，1，26.

2　山下佳雄：「周術期の口腔機能管理～佐賀大学医学部附属病院における口腔機能管理の実際～」．2024年度佐賀県口腔ケア研修会 Webex，2024，2，29.

3　山下佳雄：「口唇口蓋裂児と保護者のつどい えがおの会」．杵藤保健福祉事務所，2024，3，14.

4　山下佳雄：「周術期における口腔健康管理の意義」．佐賀呼吸療法セミナー，2024，7，1-2.

5　山下佳雄：「掌蹠膿疱症の患者さんに歯科医師はどう向き合うか？」．掌蹠膿疱症について考える会 皮膚科 x 歯科 in Saga，2024，9，18.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
講　師	合島怜央奈	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	口腔がんの間質をターゲットとした新規治療法の開発研究	1,000
講　師	合島怜央奈	科学研究費助成事業	基盤研究(A)	2	酸素プラズマ照射による免疫細胞の分化誘導と免疫機能制御の学理深化	1,000
教　授	山下　佳雄	科学研究費助成事業	基盤研究(A)	2	酸素プラズマ照射による免疫細胞の分化誘導と免疫機能制御の学理深化	1,500
教　授	山下　佳雄	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	間葉系幹細胞の細胞・分泌因子を応用した新規口腔がん治療法の開発研究	19
教　授	山下　佳雄	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	口腔がんの間質をターゲットとした新規治療法の開発研究	50

臨床検査医学講座
(検査部、輸血部を含む)

著　　書

1 *浅野尚美，天本貴広，板垣浩行，井手大輔，伊藤正一，大谷敦子，大前和人，北﨑英晃，富山隆介，日髙陽子，福吉葉子，藤井明美，本田昌樹，松浦秀哲，村井良精，森山昌彦，山田麻里江：11.11 溶血性輸血反応．フローチャートと動画でみる輸血検査．11.11 158-162，2024，1，丸善出版株式会社，東京.

原著論文

1 *Chiaki Yamada, Takaaki Ono, Kaede Ino, Naoki Nemoto, Takahito Shinba, Hiroaki Furumaki, Hiroki Shibata, Keiko Ishizuka, Naotomo Yamada, Hideaki Matsuura, Yumiko Izuhara, Harumi Fujihara, Hitoshi Minamiguchi: The development and evanescence of red blood cell antibodies after transfusion: A multi-institutional prospective study in Japan. TRANSFUSION, Volume 64, Issue 10 Pages: 1980-1992, 2024.

2 Marie Yamada, Mami Nakao, Naotomo Yamada, Hideaki Nakamura, Manabu Itoh, Junji Yunoki, Keiji Kamohara, Shinya Kimura, Eisaburo Sueoka: Immune cell kinetics after allogeneic red blood cell transfusion in patients undergoing cardiovascular surgery. Transfusion Clinique et Biologique, 31(4): 223-228, 2024, 11.

3 Yoshihara Y, Koyama R, Nanri A, Nakao M. Kawasaki S, Iwasaki Y, Oho M, Suoeka E: AIを用いた白血球分類～AIを応用した末梢血細胞解析アルゴリズムの評価～．日本臨床検査医学会会誌（JSLM）．72巻8号：685-690頁，2024，8.

4 ○Watanabe T, Yamamoto Y, Kurahashi Y, Kawasoe K, Kidoguchi K, Ureshino H, Kamachi K, Yoshida-Sakai N, Fukuda-Kurahashi Y, Nakamura H, Okada S, Sueoka E, Kimura S: Reprogramming of pyrimidine nucleotide metabolism supports vigorous cell proliferation of normal and ma-

lignant T cells. Blood Adv. 8(6): 1345-1358, 2024, Mar.

症例報告

1 Marie Yamada, Naotomo Yamada, Yasushi Kubota, Emi Takahashi, Mami Nakao, Toru Miyazaki, Shinichiro Sato, Hideaki Nakamura, Shinya Kimura, Eisaburo Sueoka: A patient with partial E phenotype expressing alloanti-E antibody after transfusion with platelet concentrates. Laboratory Medicine International, 3(3): 66-69, 2024, 10.

2 熊野勝斗，松永亜紀，山口一剛，於保　恵，大枝　敏，末岡榮三朗：クレアチニンが偽低値を認めた一症例に関する検証と考察．日本臨床化学会九州支部会誌，VOL. 33 2024 10-13，2024，11.

学会発表

国内全国規模の学会

1 *南里隆憲，山田麻里江，池本純子，名倉　豊，大友直樹：Rh（その他の因子）血液型検査の実施と算定状況調査について～全国大学病院輸血技師研究会実態調査報告～．第72回日本輸血・細胞治療学会学術総会，2024，5，30-6，1.

2 山田麻里江：不規則抗体検査で困った！．第73回日本医学検査学会，2024，5，11-12.

3 山口一剛，於保　恵，大枝　敏，末岡榮三朗：外部委託先検査項目マスターと院内マスターとのチェック機能の検討．日本医療検査科学会第56回大会，2024，10，4-6.

4 石隈麻邪，宇木　望，梅木俊晴，於保　恵，末岡榮三朗：当院生理機能検査室における医療安全の取り組み～環境整備とスタッフ教育～．第73回日本医学検査学会 in 金沢，2024，5，11-12.

5 梅木俊晴，鍋嶋洋裕，小屋松純司，秋吉妙美，吉岡吾郎，坂本佳子，石隈麻邪，於保　恵，大枝　敏，野出孝一，末岡榮三朗：経カテーテル的大動脈弁置換術症例における flow rate と臨床経過との関連性．第49回日本超音波検査学会学術集会．2024，7，19-21.

6 小屋松純司，鍋嶋洋裕，梅木俊晴，坂本佳子，石隈麻邪，於保　恵，大枝　敏，野出孝一，末岡榮三朗：補助循環装置挿入後に上行大動脈内血栓を形成した症例．第49回日本超音波検査学会学術集会，2024，7，19-21.

7 中尾真実，山田麻里江，山田尚友，政田澪花，長家聡明，中村秀明，板村英和，木村晋也，末岡榮三朗：ABO 血液型マイナーミスマッチ同種骨髄移植後に PLS を呈した一症例．第72回日本輸血・細胞治療学会学術総会，2024，5，30-6，1.

8 小山怜奈，吉原由利重，南里安耶，中尾真実，川崎誠司，於保　恵，末岡榮三朗：AI ／ディープラーニングを応用した末梢血細胞画像解析アルゴリズムの当院塗抹標本での性能評価．日本医療検査科学会第56回大会，2024，10，4-6.

9 末岡榮三朗，中村秀明，佐藤明美，柘植　薫，渡邉達郎：HTLV-1キャリアの初診時にその後の経過を予測することは可能か？．第10回日本 HTLV-1学会学術集会，2024，11，8-11.

10 中村秀明，渡邉達郎，佐藤明美，末岡榮三朗：The utility of flow cytometric analysis (HAS-Flow) for detecting the development of ATL in the long term. 第83回日本癌学会学術総会，2024，9，19-21.

11 中島千穂，塩津行正，小坂井康宏，原田陽平，西　眞範，勝屋弘雄，佐藤明美，中村秀明，荒金尚子：Cancer Pathway Index, an automated scoring system of cancer-related actionable pathways for comprehensive genome profiling test. 第21回日本臨床腫瘍学会学術集会，2024，2，22-24.

地方規模の学会

1 ○西岡虎次郎，北村　捷，水元　栞，本吉郁哉，上瀧さやか，陣内一輝，井樋有紗，青木茂久，末岡榮三朗，甲斐敬太：体腔液検体で中皮腫を疑った症例の再検討．第40回佐賀県臨床細胞学会地方会，2024，3，2.

2 ○西岡虎次郎，北村　捷，水元　栞，本吉郁哉，上瀧さやか，陣内一輝，井樋有紗，青木茂久，末岡榮三朗，甲斐敬太：組織像・免疫組織化学・がんゲノム検査と照らした，中皮腫と判定した細胞診の再検討．第39回日本臨床細胞学会九州連合会，2024，7，13.

3 山田麻里江：当院における HLA タイピング検査の現状と課題．2024年度日臨技九州支部医学検査学会（第58回），2024，11，9-10.

4 佐藤　涼，山田麻里江，山田尚友，中尾真実，政田澪花，於保　恵，大枝　敏，末岡榮三朗：当院における赤血球製剤使用量に基づいた未照射赤血球製剤の予約発注についての検討．2024年度日臨技九州支部医学検査学会（第58回），2024，11，9-10.

5 森　天海，松浦千夏，岡崎智満，前田淳也，於保　恵，大枝　敏，末岡榮三朗：全自動遺伝子解析装置 Film Array が有用であった *Listeria monocytogenes* 感染症の一例．第69回日本臨床検査医学会九州地方会，第35回日本臨床化学会九州支部総会，第 4 回日本医療検査科学会九州地方会 合同学会，2024，3，23.

6 熊野勝斗，松永亜紀，山口一剛，於保　恵，大枝　敏，末岡榮三朗：クレアチニンが偽低値を認めた一症例．第35回日本臨床化学会九州支部総会，第69回日本臨床検査医学会九州地方会，第 4 回日本医療検査科学会九州地方会 合同学会，2024，3，23.

7 宇木　望，田辺一郎，江口　碧，石隈麻邪，於保　恵，大枝　敏，末岡榮三朗：肺拡散能力測定における血中ヘモグロビン補正法の違いによる補正値の比較検討．第69回日本臨床検査医学会九州地方会，第35回日本臨床化学会九州支部総会，第 4 回日本医療検査科学会九州地方会 合同学会，2024，3，23.

8 前田まゆみ，鍋嶋洋裕，南里享奈，坂口恵美子，小屋松純司，梅木俊晴，山口優子，秋吉妙美，石隈麻邪，於保　恵，坂本　佳，大枝　敏，末岡榮三朗：当院での心エコー図検査における内部精度管理の取り組み．第69回日本臨床検査医学会九州地方会，第35回日本臨床化学会九州支部総会，第 4 回日本医療検査科学会九州地方会 合同学会，2024，3，23.

9 仲　　悠，松本康惠，石隈麻邪，於保　恵，大枝　敏，末岡榮三朗：腹部・体表領域 超音波検査の集約化を目指した当院での業務改善．第69回日本臨床検査医学会九州地方会，第35回日本臨床化学会九州支部総会，第 4 回日本医療検査科学会九州地方会 合同学会，2024，3，23.

10 倉重　彩，松本康惠，仲　　悠，石隈麻邪，於保　恵，大枝　敏，末岡榮三朗：胆管細胞癌治療後の経過観察中に発症した悪性リンパ腫の一例．佐賀県医学検査学会，2024，6，16.

11 仲　　悠，松本康惠，石隈麻邪，於保　恵，末岡榮三朗：当院における腹部・体表領域超音波検査の集約化と医師の負担軽減を目指した取り組み．第27回佐賀県医学検査学会，2024，6，16.

12 江口　碧，宇木　望，田辺一郎，石隈麻邪，於保　恵，大枝　敏，末岡榮三朗：当院における QT 間隔自動解析の精度についての検討．2024年度日臨技九州支部医学検査学会（第58回）．2024，11，9-10.

13 小山怜奈，佐野遥菜，吉原由利重，南里安耶，川崎誠司，若山一夫，於保　恵，岡本　翔，木村晋也，末岡榮三朗：免疫グロブリンの増加を認めたマントル細胞リンパ腫の一例．第69回日本臨床検

査医学会九州地方会，第35回日本臨床化学会九州支部総会，第 4 回日本医療検査科学会九州地方会合同学会，2024，3，23.

14　吉原由利重：AI を用いた白血球分類～「AI を応用した末梢血細胞解析アルゴリズム」の評価～. 第69回日本臨床検査医学会九州地方会，第35回日本臨床化学会九州支部総会，第 4 回日本医療検査科学会九州地方会 合同学会，2024，3，23.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
教　授	末岡榮三朗	厚生労働行政推進調査事業費補助金		2	輸血医療の安全性向上のためのデータ構築研究	260
教　授	末岡榮三朗	2024 年度「JB 奨学寄附」	研究助成	1	HTLV-1水平感染キャリアにおけるウィルス感染リンパ球の動態とクローナリティーの解析	200
教　授	末岡榮三朗	株式会社オフィス・タカハシ	受託研究	1	有明海産海苔より単離した新規乳酸菌の IgA 産生能に関する研究	200
教　授	末岡榮三朗	2024年度「放射線災害・医科学研究拠点」共同利用・共同研究	共同研究	2	低酸素環境下におけるエピゲノム変化とゲノム損傷応答の解析	0

救 急 医 学 講 座
（高度救命救急センターを含む）

著　　書

1　小網博之，他158人：日本版敗血症診療ガイドライン2024. The Japanese Clinical Practice Guidelines for Management of Sepsis and Septic Shock 2024（J-SSCG 2024），2024，日集中医誌.

2　小網博之，他157人：日本版敗血症診療ガイドライン2024. The Japanese Clinical Practice Guidelines for Management of Sepsis and Septic Shock 2024（J-SSCG 2024），2024，日救急医会誌.

3　古川祐太朗：ケース・スタディ 元気なときに延命してほしくないと言っていた高齢患者が急変し，いざとなると家族の決心がつかないケース. みんなの呼吸器 Respica 22 (3)：391-395，2024，2024，メディカ出版.

原著論文

1　Koami H, Sakamoto Y, Matsuoka A, Shinada K: Thromboelastometric Analysis of the Correlation Between Burn-Induced Coagulopathy and Severity of Burn Injury. Cureus. 16, 2, e54489, 2024.

2　Koami H, Sakamoto Y, Matsuoka A, Shinada K: Thromboelastometric Analysis of the Correlation Between Burn-Induced Coagulopathy and Severity of Burn Injury. Cureus. 2024 Feb 19; 16(2): e54489. doi: 10.7759/cureus.54489. eCollection 2024 Feb. PMID: 38516476 Free PMC article.

3　*Matsuoka T, Fujishima S, Sasaki J, Gando S, Saitoh D, Kushimoto S, Ogura H, Abe T, Shiraishi A, Mayumi T, Kotani J, Takeyama N, Tsuruta R, Takuma K, Yamashita N, Shiraishi S, Ikeda H, Shii-

no Y, Tarui T, Nakada T, Hifumi T, Otomo Y, Okamoto K, Sakamoto Y, Hagiwara A, Masuno T, Ueyama M, Fujimi S, Yamakawa K, Umemura Y: COAGULOPATHY PARAMETERS PREDICTIVE OF OUTCOMES IN SEPSIS-INDUCED ACUTE RESPIRATORY DISTRESS SYNDROME: A SUBANALYSIS OF THE TWO PROSPECTIVE MULTICENTER COHORT STUDIES. Shock. 61, 1, 89-96, 2024.

4 Kashima Y, Koami H, Sakamoto Y: The Relationship Between Acute-Phase Circuit Occlusion and Blood Calcium Concentration in an Ex Vivo Continuous Renal Replacement Therapy Model. Cureus. 16, 4, e59330, 2024.

5 Shinada K, Matsuoka A, iike T, Koami H, Sakamoto Y: Effects of physician-present prehospital care in patients with out-of-hospital cardiac arrest on return of spontaneous circulation: A retrospective, observational study in Saga, Japan. Health Sci Rep. 7, 4, e1981, 2024.

6 *Nakayama S, Yamanouchi K, Takamori A, Goto T, Shimada F, Imamura T, Hirooka Y, Kitajima A, Onozawa K, Kakiuchi T, Takagi K, Kishi Y, Fujimoto K, Sakamoto Y: Gastrointestinal bleeding among 151 patients undergoing maintenance hemodialysis for end-stage renal failure: A 5-year follow-up study. Medicine (Baltimore). 103, 7, e37274, 2024, 2.

7 Nakayama S, Yamanouchi K, Takamori A, Goto T, Shimada F, Imamura T, Hirooka Y, Kitajima A, Onozawa K, Kakiuchi T, Takagi K, Kishi T, Fujimoto K, Sakamoto Y: Gastrointestinal bleeding among 151 patients undergoing maintenance hemodialysis for end-stage renal failure: A 5-year follow-up study. Medicine (Baltimore). 2024 Feb 16;103(7):e37274. doi: 10.1097/MD.0000000000037274. PMID: 38363888.

8 Furukawa Y, Kobayashi T, Narumi S, Koba M, Koami H, Sakamoto Y: Deep vein thrombosis in response to stress induced by earthquakes in Japan: a meta-analysis of possible exacerbating factors. Sci Rep. 14, 1, 27195, 2024.

9 Totoki T, Makino Y, Yamakawa K, Koami H, Wada T, Ito T, Iba T: Effects of combination therapy of Antithrombin and Thrombomodulin for Sepsis-associated Disseminated Intravascular Coagulation: A Systematic Review and Meta-analysis. Thromb J. 22, 1, 10, 2024.

10 Nakayama K, Koami H, Sakamoto Y: Relationship between nutritional therapy and beneficial bacteria ratio in severe disease. J Acute Dis 13, 1, 26-30, 2024.

11 Matsuoka T, Fujishima S, Sasaki J, Gando S, Saitoh D, Kushimoto S, Ogura H, Abe T, Shiraishi A, Mayumi T, Kotani J, Takeyama N, Tsuruta R, Takuma K, Yamashita N, Shiraishi SI, Ikeda H, Shiino Y, Tarui T, Nakada TA, Hifumi T, Otomo Y, Okamoto K, Sakamoto Y, Hagiwara A, Masuno T, Ueyama M, Fujimi S, Yamakawa K, Umemura Y; JAAM Focused Outcomes Research on Emergency Care for Acute Respiratory Distress Syndrome, Sepsis and Trauma (FORECAST) Group and Sepsis Prognostication in Intensive Care Unit and Emergency Room (SPICE) Group: COAGULOPATHY PARAMETERS PREDICTIVE OF OUTCOMES IN SEPSIS-INDUCED ACUTE RESPIRATORY DISTRESS SYNDROME: A SUBANALYSIS OF THE TWO PROSPECTIVE MULTICENTER COHORT STUDIES. Shock. 2024 Jan 1; 61(1): 89-96. doi: 10.1097/SHK.0000000000002269. Epub 2023 Nov 15. PMID: 38010069.

12 Tsuchida T, Makino Y, Wada T, Ushio N, Totoki T, Fujie N, Yasuo S, Matsuoka T, Koami H, Ya-

makawa K, Iba T: Efficacy of antithrombin administration for patients with sepsis: A systematic review, meta-analysis, and meta-regression. Acute Med Surg. 11, e950, 2024.

13 Totoki T, Koami H, Makino Y, Wada T, Ito T, Yamakawa K, Iba T: Heparin therapy in sepsis and sepsis-associated disseminated intravascular coagulation: A systematic review and meta-analysis. Thromb J. 22, 1, 84, 2024.

総　　説

1 阪本雄一郎：各症状への対応 吐血・下血. 臨牀と研究, 101(5)：562-565, 2024, 5.

症例報告

1 松岡綾華, 小網博之, 今村一郎, 岸川圭嗣, 福田顕三, 池田飛鳥, 山崎弘貴, 品田公太, 阪本雄一郎：重篤な経過をたどった鈍的外傷による骨折を伴わない鎖骨下動脈損傷の１例. 日本臨床救急医学会雑誌, 27巻, １号, 54-57, (2024, 2), 2024, 2.

2 廣田祐里, 松岡綾華, 中山賢人, 鳴海翔悟, 小網博之, 阪本雄一郎：腫瘍による下部消化管出血のショックに対して, REBOA を用いた止血戦略により救命できた１例. 日本臨床救急医学会雑誌, 27巻, ６号, 777-781, (2024, 12), 2024, 12.

学会発表

国際規模の学会

1 Koami H: A THROMBOELASTOMETRIC ANALYSIS ON THE RELATIONSHIP BETWEEN TIMING OF HYPERFIBRINOLYSIS AND ACHIEVEMENT OF RETURN OF SPONTANEOUS CIRCULATION IN OUT OF HOSPITAL CARDIAC ARREST PATIENTS. 47th Shock Society Annual Conference, 2024, 6, 1-4.

2 Furukawa Y, Koami H, Narumi S, Koba M, Takeshita G, Egashira Y, Sakamoto Y: Selective Balloon Occlusion in Hemodynamically Unstable Patient with Distal Pulmonary ArteryRupture: A Case Report. 26th Annual International Congress of Korea Society of Acute Care SurgeryAsian Trauma Congress 2024 Poster Presentation, 2024, 4, 11-14.

3 Koami H, Sakamoto Y: What does thromboelastometry (ROTEM) induced suppression of blood clot retraction mean in trauma patients?. The 23rd European Congress of Trauma and Emergency Surgery, 2024, 4, 29.

国内全国規模の学会

1 古川祐太朗：我が国の地震後の深部静脈血栓症の関連因子：メタ. 第29回日本災害医学会総会・学術集会（口演23避難所), 2024, 2, 22-24.

2 阪本雄一郎：座長. 第51回日本集中治療医学会学術集会（救急科領域講習２：敗血症 Up-to-date), 2024, 3, 14-16.

3 阪本雄一郎：座長. 第51回日本集中治療医学会学術集会（一般演題36(O)／家族支援２).

4 小網博之：“DIC 大国ニッポン”における DIC の考え方. 第51回日本集中治療医学会学術集会（よくわかるセミナー３), 2024, 3, 14-16.

5 松岡綾華, 劉　啓文, 小倉崇以, 山崎弘貴, 廣田祐里, 岩永幸子, 小網博之, 阪本雄一郎, ILOSS 研究チーム：ABCDEF bundle の element F が敗血症患者の長期的精神機能に与える影響：ILOSS study 二次解析. 第51回日本集中治療医学会学術集会（パネルディスカッション), 2024, 3, 14-16.

6 *本郷貴識，村上勇也，劉　啓文，松岡綾華，土手　尚，三池　慧，上田浩平，湯本哲也，内藤宏道，中尾篤典：PCAS 管理中の側頭筋の萎縮．第51回日本集中治療医学会学術集会（パネルディスカッション），2024，3，14-16.

7 *啓　　文，中村謙介，上條　泰，松岡綾華，石井賢造，森田恭成，本郷貴識，小倉崇以，小谷　透，アイロス スタディグループ：敗血症・敗血症性ショックの退院後１年までの PICS 発症率の推移：多施設前向き観察研究―ILOSS Study．第51回日本集中治療医学会学術集会（パネルディスカッション），2024，3，14-16.

8 岩永幸子，小網博之，阪本雄一郎：救急集中治療室に入室した患者の残歯数と臨床転帰との関連性について．第51回日本集中治療医学会学術集会（ワークショップ），2024，3，14-16.

9 阪本雄一郎：「ヒトにおける急性期炎症の病態とその管理」．獣医アトピー・アレルギー・免疫学会第18回シンポジウム―学会技能講習会および「炎症」（教育講演２），2024，2，4.

10 阪本雄一郎：司会．第60回日本腹部救急医学会総会［SY５－１］シンポジウム５経験に学ぶ急性腹症のエウレカ，2024，3，21-22.

11 *萬家大智，川嶋裕資，赤木由人，中山紫季，後藤　卓，阪本雄一郎，原　義明：保存的に治療し得た門脈ガス血症１例と救命が困難であった１例．第60回日本腹部救急医学会総会［KK16-６］研修医・学生発表演題16 急性腹症２，2024，3，21-22.

12 *中山紫季，川嶋裕資，後藤　卓，毛利耕輔，中山賢人，赤木由人，阪本雄一郎：JATEC を理解した救急科専門医が初期診療をすることにより二次救急医療機関で外傷性腹腔内出血の救命に寄与した一例．第60回日本腹部救急医学会総会［O65-７］一般演題65 外傷，2024，3，21-22.

13 *川嶋裕資，内川和也，堀田千恵子，佐藤博文，久保　洋，下西智徳，廣橋喜美，赤木由人，中山紫季，後藤　卓，久下　亨，藤田文彦，阪本雄一郎：当院における急性胆嚢炎重症敗血症症例の治療方針．第60回日本腹部救急医学会総会［O86-７］一般演題86 胆嚢：その他２，2024，3，21-22.

14 小網博之：司会．第60回日本腹部救急医学会総会［O57-１］一般演題57 小腸：石・アニサキス，2024，3，21-22.

15 阪本雄一郎：司会．第38回日本 Shock 学会学術集会 一般演題２ 敗血症，2024，4，12-13.

16 松岡綾華，祖川倫太郎，村川　徹，溝口義人，門司　彰，島ノ江千里，品田公太，山田春奈，小網博之，阪本雄一郎：オレキシン受容体拮抗薬がせん妄持続期間に及ぼす影響の検証．第120回日本精神神経学会学術総会 一般演題（ポスター）２，2024，6，20-22.

17 品田公太，松岡綾華，祖川倫太郎，村川　徹，溝口義人，門司　晃，島ノ江千里，山田春奈，小網博之，阪本雄一郎：外傷患者の入院中の総医療費にせん妄が与える影響．第120回日本精神神経学会学術総会 一般演題（ポスター）２，2024，6，20-22.

18 阪本雄一郎：座長．第58回日本高気圧潜水医学会 学術総会 シンポジウム３『今後の診療報酬改定を見据えて』，2024，6，28-29.

19 阪本雄一郎：佐賀大学高度救命救急センターにおける高気圧酸素療法．第58回日本高気圧潜水医学会 学術総会 シンポジウム３『今後の診療報酬改定を見据えて』，2024，6，28-29.

20 小網博之：新規粘弾性検査 ClotPro による敗血症患者の線溶抑制の診断能について．第46回日本血栓止血学会学術集会 一般口演24 綿溶，2024，6，13-15.

21 阪本雄一郎：座長．第27回日本臨床救急医学会総会・学術集会 シンポジウム15「離島・へき地での救急医療」，2024，7，18-20.

22　阪本雄一郎：座長．第38回日本外傷学会総会・学術集会 企画セッション４ 重症外傷患者の長期予後と社会復帰，2024，4，25-26.

23　阪本雄一郎：敗血症治療における今後の可能性．第28回日本救急医学会九州地方会 教育講演（救急科領域講習），2024，6，14-15.

24　阪本雄一郎：座長．第39回日本救命医療学会 総会・学術集会「特別講演」，2024，9，21.

25　小網博之：感染に伴う血清補体価（CH50）の低下は，臨床転帰の悪化と関連するか？．第60回日本補体学会学術集会 セッションＡ（基礎・臨床研究），2024，9，13-15.

26　小網博之：座長．第16回日本 Acute Care Surgery 学会学術集会 シンポジウム１，2024，9，27-28.

27　阪本雄一郎：司会．第52回日本救急医学会総会・学術集会 口演14／基礎研究，2024，10，13-15.

28　木庭真由子：司会．第52回日本救急医学会総会・学術集会 ポスター25／ECMO１，2024，10，13-15.

29　古川祐太朗：司会．第52回日本救急医学会総会・学術集会 ポスター48／医療の質の評価・医療安全・急変対応システム，2024，10，13-15.

30　古川祐太朗，小網博之，木庭真由子，鳴海翔悟，岩永幸子，櫻井良太，中山賢人，品田公太，松岡綾華，小川弘貴，廣田祐里，佐々木彰，江頭秀哲，武下　剛，阪本雄一郎：当院における活動性出血を伴う外傷性肺動脈損傷の５症例の検討．第52回日本救急医学会総会・学術集会 ポスター11／胸部外傷１，2024，10，13-15.

31　中山賢人，小網博之，小川弘貴，首藤洋行，阪本雄一郎：舌癌気管浸潤に対するステント留置術において，V-V ECMO のみで呼吸管理を行った１例．第52回日本救急医学会総会・学術集会 WINK セッション３／やさしさ（優しさ），2024，10，13-15.

32　*牛島宏貴，古川祐太朗，小網博之，緒方敦之，吉原智仁，阪本雄一郎：頸椎骨折を伴う両側椎骨動脈閉塞に対して脱臼整復前に血管内治療を行った一例．第52回日本救急医学会総会・学術集会 ポスター72／脊椎・脊髄外傷３，2024，10，13-15.

33　廣田祐里，中山賢人，小網博之，阪本雄一郎：重度偶発性低体温症に対して ECPR を施行し神経学的予後良好だった２症例の検討．第52回日本救急医学会総会・学術集会 ポスター81／環境障害３，2024，10，13-15.

34　小野原貴之，小牧萌絵，山田成美，藤原紳祐，阪本雄一郎：当院の予定外 ICU 入室症例では NEWS 高値と高年齢が28日生存に影響を及ぼす可能性がある．第52回日本救急医学会総会・学術集会 口演37／医療の質の評価・医療安全・急変対応システム２，2024，10，13-15.

35　小野原貴之：患者要因から持続的血液透析ではなく連日の血液透析療法を行った慢性リチウム中毒の１例．第78回国立病院総合医学会 ポスター161［救急治療・集中治療２］，2024，10，18-19.

36　阪本雄一郎：「標準的かつ最適な敗血症治療を目指して」．第35回日本急性血液浄化学会学術集会 ランチョンセミナー１，2024，10，19-20.

37　阪本雄一郎：司会．第35回日本急性血液浄化学会学術集会 一般演題７ 敗血症・敗血症性ショック，2024，10，19-20.

38　阪本雄一郎：司会．第35回日本急性血液浄化学会学術集会 パネルディスカッション４「私の施設ではこうしている」敗血症に対する急性血液浄化法，2024，10，19-20.

39　小網博之，鹿島　裕，阪本雄一郎：新規 ex vivo-CRRT モデルを用いた回路閉塞に対する凝固炎症

マーカーの推移．第35回日本急性血液浄化学会学術集会 Best Presentation Award，2024，10，19-20.

40 小網博之，鳴海翔悟，蒲地俊介，南里誠二，阪本雄一郎：防災ヘリとの活動を通して見えた佐賀県の新たな病院前診療の可能性．第31回日本航空医療学会学術集会 一般口演，2024，11，15-16.

地方規模の学会

1 阪本雄一郎：敗血症治療における今後の可能性．第28回日本救急医学会九州地方会 教育講演，2024，6，15.

2 阪本雄一郎：座長．第24回九州高気圧環境医学会 特別講演「水素治療の可能性」，2024，7，27.

3 阪本雄一郎：座長．第46回佐賀救急医学会 シンポジウム，2024，9，21.

4 小網博之：座長．第46回佐賀救急医学会 一般演題Ａ（口頭），2024，9，21.

5 小網博之：能登半島地震における佐賀大 DMAT の医療支援．第46回佐賀救急医学会 一般演題Ａ（特別講演），2024，9，21.

6 古川祐太朗：座長．第46回佐賀救急医学会 一般演題Ｂ（ポスター），2024，9，21.

7 阪本雄一郎：座長．日本医療マネジメント学会 第21回九州・山口連合大会 特別講演２，2024，12，6-7.

その他の学会

1 阪本雄一郎：全血検査でみた急性期の血液凝固異常と DIC 治療．第５回さいたま中央・南部救急医療セミナー（特別講演），2024，1，19.

2 阪本雄一郎：ヒトにおける急性期炎症の病態とその管理．獣医アトピー・アレルギー・免疫学会第18回シンポジウム（教育講演２），2024，2，4.

3 阪本雄一郎：レスキューハート福岡・佐賀，2024，2，8.

4 阪本雄一郎：第45回全国国公立大学病院救急部協議会，2024，2，16.

5 古川祐太朗：オール佐賀で進めている ACP に関する取り組み．令和５年度第２回在宅医療・介護住民公開講座（講演Ⅱ），2024，2，17.

6 阪本雄一郎：学部連携による科研申請．「科研費獲得に向けた説明会」講師，2024，3，7.

7 阪本雄一郎：第216回地域医療連携講演会 特別講演，2024，3，19.

8 阪本雄一郎：佐賀県における新型コロナ対応から見た緊急時への備え～災害時の柔道整復師と医療機関の連携の可能性～．第51回九州学術大会佐賀大会 特別講演，2024，6，29-30.

9 岩永幸子：感染巣の異なる敗血症性ショックおよび DIC に対し，繰り返し抗 DIC 治療を行った１例．第９回 Conferenza ER Medicina 一般演題，2024，7，4.

10 阪本雄一郎：座長．第９回 Conferenza ER Medicina 特別演題，2024，7，4.

11 阪本雄一郎：標準的かつ最適な敗血症治療を目指して．日本 ERAS® 学会 第２回学術集会 ランチョンセミナー，2024，4，14.

12 阪本雄一郎：座長．佐賀県てんかんセミナー，2024，7，30.

13 阪本雄一郎：「準備・実行・後始末」より振り返る災害対策．第26回佐賀県診療情報管理懇談会，2024，11，9.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
助　教	中山　賢人	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	善玉菌モニタリングによる，重症病態における新たな消化管蘇生戦略の開発	1,040
教　授	阪本雄一郎	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	善玉菌モニタリングによる，重症病態における新たな消化管蘇生戦略の開発	130
准教授	小網　博之	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	善玉菌モニタリングによる，重症病態における新たな消化管蘇生戦略の開発	130
教　授	阪本雄一郎	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	集中治療室における重症患者の睡眠障害の解明－脳波分析を用いた基礎的研究－	80
助　教	松岡　綾華	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	外傷患者のせん妄予測モデル構築と長期認知機能解明	2,020
准教授	小網　博之	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	外傷患者のせん妄予測モデル構築と長期認知機能解明	30
教　授	阪本雄一郎	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	外傷患者のせん妄予測モデル構築と長期認知機能解明	30
教　授	阪本雄一郎	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	プレホスピタルケアに従事する看護師の PTSD 発症予防策の構築に向けた基礎的研究	100
教　授	阪本雄一郎	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	DPC データと看護必要度を統合した次世代 AI システムによる看護支援手法の評価	1,364
准教授	小網　博之	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	重症外傷患者に対する大量輸血療法に伴う補体活性化と輸血副反応への影響	1,627
教　授	阪本雄一郎	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	重症外傷患者に対する大量輸血療法に伴う補体活性化と輸血副反応への影響	24
助　教	松岡　綾華	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	重症外傷患者に対する大量輸血療法に伴う補体活性化と輸血副反応への影響	83
助　教	品田　公太	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	重症外傷患者に対する大量輸血療法に伴う補体活性化と輸血副反応への影響	83
教　授	阪本雄一郎	医療機関ネットワーク事業	受託事業	1	記載内容なし	1,258
教　授	阪本雄一郎		受託事業	1	救急救命士等指示・指導・助言業務	1,356
教　授	阪本雄一郎		受託事業	1	令和 6 年度病院研修生受入	258
教　授	阪本雄一郎		受託事業	1	2024年度病院受託実習生受入	250

准教授	小網　博之	科学研究費助成事業	基盤研究(B)	2	＊病態に強固な関連がある敗血症新規サブクラス分類の開発	200
教　授	阪本雄一郎	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	救急集中治療室に入室した患者家族のメンタルヘルス構築に向けた縦断的研究	30
医　員	古川祐太朗		受託研究	1	＊一人ひとりの価値観に寄り添った終末期医	804
准教授	小網　博之		臨床受託研究料（治験）	1	EVERXaL－第 Xa 因子阻害剤による治療下で大出血を認めた患者の特性	2,044

国 際 医 療 学 講 座
（感染制御部を含む）

著　　書

1　青木洋介：動物より伝播される感染症（特にイヌ，ネコ，ウサギ，ネズミに咬まれた時）．今日の治療指針・私はこう治療している．224-226，2024，1，医学書院，東京.

2　青木洋介：新型コロナの３年間を振り返る：感染症医として働く一社会人として．新型コロナ・パニック，2024，9，佐賀新聞社.

3　浦上宗治：AST における薬剤師の役割と今後の課題．ビギナーさんのための AST 活動＆抗菌薬適正使用 ガイドブック：現場で使える！すぐ動ける！（インフェクションコントロール2024年夏季増刊）93-98，2024，8，メディカ出版，東京.

4　浦上宗治：腹腔内感染症．薬局2024年75巻８月号（No. 9）もっと抗菌薬が好きになる 微生物学検査の活かし方，2024，8，南山堂，東京.

5　浦上宗治：Case２ 咽頭炎・扁桃炎．外来・薬局感染症学 抗菌薬の適正使用や消毒薬を用いた感染対策に強くなる頻出ケーススタディ，2024，3，じほう，東京.

6　浦上宗治：この抗菌薬はいつまで投与すればよいの？．月刊薬事 2024年９月号（特集：臨床での疑問にこたえる 統計データの読み方，使い方），2024，9，じほう，東京.

7　的野多加志：結核．感染症診療の掟 第３章40項 367-375，2024，7，中外医学社，東京.

8　的野多加志：腸チフス・パラチフス．グローバル感染症マニュアル改訂第２版 第１章Ｂ３項 22-30，2024，12，南江堂，東京.

原著論文

1　*Maeda H, Saito N, Igarashi A, Ishida M, Terada M, Masuda S, Osawa R, Hosokawa N, Nakashima K, Kamura H, Imura H, Inoue H, Matsuzaka S, Sugimoto Y, Kuwamitsu O, Motohashi I, Morikawa T, Oda R, Hoshina Y, Matono T, Teshigahara O, Sando E, Asami S, Kudo S, Akizuki N, Muto Y, Hayakawa T, Kishaba T, Ohara Y, Kubo Y, Suzuki M, Morimoto K: Effectiveness of primary series, first, and second booster vaccination of monovalent mRNA COVID-19 vaccines against symptomatic SARS-CoV-2 infections and severe diseases during the SARS-CoV-2 omicron BA.5 epidemic in Japan: vaccine effectiveness real-time surveillance for SARS-CoV-2 (VERSUS). Ex-

pert Rev Vaccines. 23(1): 213-225, 2024.

2 *山元　佳，中河秀憲，橋本武博，中谷逸作，倭　正也，眞鍋明広，三河貴裕，今北菜津子，北浦剛，的野多加志，山本善裕，小川　拓，都築慎也，大曲貴夫：国内多施設レジストリにおける狂犬病曝露前予防の実施状況．日本渡航学医学会誌．18(1)：14-20，2024.

3 *Okumura N, Yamamoto K, Iwamoto N, Tsuzuki S, Hayashi K, Shinohara K, Nakatani I, Nakagawa H, Imakita N, Matono T, Manabe A, Kitaura T, Mikawa T, Yamato M, Ohmagari N: Effect of studying abroad on catch-up vaccination in young adults: A study using the Japan Pretravel Consultation Registry. J Infect Chemother.: S1341-321X(24): 00294-0, 2024.

総　　説

1 *沖中友秀，的野多加志：人工関節周囲感染．臨床検査，68巻2号，190-196頁，2024，2.

2 的野多加志，青木洋介：多剤耐性菌の現状．臨床と研究，101巻3号，272-278頁，2024，3.

3 岡　祐介，的野多加志：You は何しに検査室へ？菌と技師さんとの顔合わせ．J-IDEO，8巻3号，421-423頁，2024，5.

4 *長谷川雄一，的野多加志：内科医が知っておくべき梅毒の最新知見．内科，134巻1号，51-57頁，2024，7.

5 的野多加志：呼吸器感染症．INFECTION CONTROL 2024年夏季増刊：AST 活動＆抗菌薬適正使用ガイドブック，250-255頁，2024，8.

6 的野多加志：消化器感染症．INFECTION CONTROL 2024年夏季増刊：AST 活動＆抗菌薬適正使用ガイドブック，256-261頁，2024，8.

7 的野多加志：市中発症の重症肺炎 考える！をやめない…．J-IDEO，8巻5号，754-757頁，2024，9.

8 的野多加志：STI を症例からアプローチする②排尿時の違和感・痛みをみたら 尿道炎における STI のマネジメント．Hospitalist，11巻4号，877-884頁，2024，10.

症例報告

1 Matono T, Suzuki S, Mori S, Ato M: Case Report: Borderline Lepromatous Leprosy Therapy Complicated by Type 1 Leprosy Reaction and Adverse Reactions with Dapsone and Clofazimine. Am J Trop Med Hyg. 110(3): 483-486, 2024.

2 的野多加志：国内初の Candida auris 血症の1例．IARS，45巻2号，20-21頁，2024.

3 *Okinaka T, Fujimura K, Hamasaki Y, Hasegawa Y, Matono T: Significance of early diagnosis and surgical management in treating Mycobacterium immunogenum-related pyogenic extensor tenosynovitis: a case report. BMC Infect Dis. 24(1): 395, 2024.

学会発表

国内全国規模の学会

1 青木洋介：適正使用の流儀．第70回抗菌薬適正使用生涯教育セミナー，2024，6，27.

2 青木洋介：診断不全を予防するための考え方．第28回日本渡航医学会学術集会，2024，7，27.

3 青木洋介：入院患者の発熱に対する抗菌薬投与の要否．日本脳神経外科学会 第83回学術総会 感染対策講習会，2024，10，18.

4 青木洋介：急性呼吸器ウイルス感染症の治療戦略．第72回日本化学療法学会西日本支部総会：共催シンポジウム4，2024，11，16.

5　浦上宗治：敗血症診療における empiric therapy の追求．第51回日本集中治療医学会学術集会．2024，3，12.
6　浦上宗治：HIV 担当者以外が知っておきたい，病棟で役に立つ日和見感染症の知識―コンプロマイズドホストを試合開始のゴングに―．医療薬学フォーラム2024／第32回クリニカルファーシーシンポジウム，2024，7，6.
7　的野多加志：臨床検査技師のための臨床情報の見方，考え方．第35回日本臨床微生物学会総会・学術集会（Meet the Expert），2024，2，9.
8　的野多加志：フォーカス不明の感染症診療の掟．第28回日本病院総合医学会学術総会（教育講演），2024，3，29.
9　的野多加志：成人／高齢者向けワクチン．第28回日本病院総合医学会学術総会（ICD 講習会），2024，3，30.
10　的野多加志：感染症専門医はプライマリ・ケア医からの疑問に応えられるのか？．第15回日本プライマリ・ケア連合学術大会，2024，6，9.
11　的野多加志：事例検討「Going David!」第70回抗菌薬適正使用生涯教育セミナー．第98回日本感染症学会学術講演会・第72回日本化学療法学会総会，2024，6，27.
12　的野多加志：感染対策と医療疫学のこれから．第39回日本環境感染学会総会・学術集会，2024，7，26.
13　的野多加志：帰国者発熱の診方．第28回日本渡航医学会学術集会．2024，7，27.
14　的野多加志：病院における抗菌薬適正使用支援の実践．第37回日本性感染症学会学術大会，2024，12，1.

地方規模の学会

1　浦上宗治：抗菌薬適正使用への弛まぬ努力－病棟薬剤師に知って欲しい知識・技能・態度－．第13回九州山口薬学会ファーマシューティカルケアシンポジウム，2024，1，6.
2　浦上宗治：抗菌薬適正使用 Up To Date － Narrow spectrum の追求－．第94回日本感染症学会西日本地方会学術集会，第72回日本化学療法学会西日本支部総会，2024，11，16.
3　浦上宗治：感染制御部に異動した立場から．第94回日本感染症学会西日本地方会学術集会，第73回日本化学療法学会西日本支部総会，2024，11，16.
4　浦上宗治，岡　祐介，的野多加志，於保　恵，青木洋介：カルバペネム系抗菌薬の事前承認制に関する長期的運用の効果－18年間にわたる病院横断的適正使用活動の成果－．第94回日本感染症学会西日本地方会学術集会，第74回日本化学療法学会西日本支部総会，2024，11，15.
5　的野多加志：海外渡航後の発熱患者の診方．第94回日本感染症学会西日本地方学術集会，2024，11，15.
6　的野多加志：診断に直結する診断支援を目指して－医師と技師の Knowledge Gap を埋めるためには－．第94回日本感染症学会西日本地方学術集会，2024，11，15.
7　的野多加志，岡　祐介，浦上宗治，青木洋介：HPV ワクチンキャッチアップ世代の女子大生への接種行動に関わる意識・実態調査．第94回日本感染症学会西日本地方学術集会，2024，11，16.
8　的野多加志：パンデミックからの教訓－新型コロナワクチンの今までとこれから－．日本医療マネジメント学会 第21回九州・山口連合大会，2024，12，7.

その他の学会

1　青木洋介：抗ウイルス薬を評価する視点．第12回東海 AAC 研究会2024，2024，1，17.
2　青木洋介：冬季上気道感染症の診療：抗ウイルス薬の真価について．岡崎市医師会学術講演会（web 登壇），2024，1，23.
3　青木洋介：診断エラーの制御．最高質安全管理責任者 CQSO 養成研修，2024，1，30.
4　青木洋介：医師の心得．第15回佐賀県研修医合同オリエンテーション，2024，4，1.
5　青木洋介：医師・医療関係者に求められる英語力をいかに養うか．愛知医科大学大学院医学研究科 Faculty development，2024，5，8.
6　青木洋介：ワクチン後の世界．佐賀県内科医学会学術講演会，2024，5，15.
7　青木洋介：感染症の広がり方．第 7 回 AIDS 文化フォーラム in 佐賀：性にまつわるホントの話，2024，6，22.
8　青木洋介：初期治療抗菌薬を適正に選択するためのチェックポイント．第60回新潟化学療法研究会，2024，7，20.
9　青木洋介：今日の HIV 感染症．令和 6 年度佐賀県 HIV 検査相談支援研修会，2024，8，2.
10　青木洋介：抗菌薬適正使用：プロの心得．天山・大山感染症セミナー2024，2024，8，31.
11　青木洋介：COVID-19の経験に学ぶ長期療養者の肺炎診療と感染対策．精神科病院の感染症対策について考える会 in 広島，2024，9，2.
12　青木洋介：肺炎球菌ワクチンはなぜ必要か：起きてからでは遅すぎるから．高齢者医療 Web セミナー，2024，9，10.
13　青木洋介：インフルエンザ，COVID-19：流行の法則と制御について．笠岡医師会学術講演会（ハイブリッド開催），2024，9，26.
14　青木洋介：脳と会話しましょ．第 5 回広島血液培養と菌血症サミット，2024，9，29.
15　青木洋介：今秋冬の外来呼吸器感染症への対応．鳥栖三養基医師会学術講演会，2024，10，28.
16　青木洋介：肺炎診療のオーバーホール．Infection Seminar in GIFU，2024，10，31.
17　青木洋介：肺炎球菌ワクチンはなぜ必要か：起きてからでは遅すぎるから．佐賀県医師会学術講演会―感染症の予防と治療を考える，2024，11，6.
18　青木洋介：呼吸器ウイルス感染症の流行機序：DOTS を知り感染防止・制御に繋げる．豊田加茂医師会学術講演会，2024，11，16.
19　青木洋介：冬季呼吸器感染症：外来診療 Fundamentals．第31回筑後感染症カンファレンス，2024，11，20.
20　青木洋介：感染防止・制御の必要性と困難さについて．佐賀県医師会医療安全・院内感染防止対策医療従事者研修会，2024，11，21.
21　青木洋介：呼吸器ウイルス感染症の流行機序：DOTS を知り感染防止・制御に繋げる．感染症セミナー in 宮崎，2024，12，5.
22　青木洋介：呼吸器ウイルス感染症：流行の法則と薬剤による制御．感染症セミナー in 松山，2024，12，10.
23　青木洋介：呼吸器ウイルス感染症の流行機序：DOTS を知り感染防止・制御に繋げる．中津医師会九朮後援会，2024，12，12.
24　浦上宗治：抗菌薬適正使用支援－悩める AS T ／ I CT のための抗菌薬適正使用支援実践術－．し

まね地域医療支援センター「研修・指導体制魅力化事業」，2024，2，26.

25 浦上宗治：病棟で遭遇する感染症をマスターする．令和5年度第4回佐賀県病院薬剤師会感染制御認定薬剤師・抗菌化学療法認定薬剤師育成研修会，2024，3，9.

26 浦上宗治：病棟薬剤師が知っておきたい感染症の診断プロセスと抗菌薬選択のロジック．第31回長崎県病院薬剤師会感染制御研修会，2024，6，8.

27 浦上宗治：βラクタム薬の抗菌スペクトル，尿路感染症の抗菌薬適正使用．令和6年度第1回佐賀県病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師・抗菌化学療法育成研修会，2024，7，13.

28 浦上宗治：抗HIV薬の基礎知識と薬物治療の原則 薬剤師による服薬支援．2024年度HIV検査相談支援研修会，2024，8，2.

29 浦上宗治：検査技師との共同によるグラム染色結果に基づいた抗菌薬治療計画の立案．本県病院薬剤師会 令和6年度第2回感染制御研究会研修会，2024，8，3.

30 浦上宗治：臨床経過から学ぶ，イマドキ抗菌薬適正使用．第276回鹿児島県病院薬剤師会研修会・第33回感染制御薬物療法講習会，2024，8，17.

31 浦上宗治：抗菌薬供給不足への対応－代替薬の選択と適正使用の継続－．第71回抗菌薬適正使用生涯教育セミナー1日コース（Basic）プログラム，2024，8，24.

32 浦上宗治：キノロン系の抗菌スペクトル，カテーテル関連血流感染症の抗菌薬適正使用．令和6年度第2回佐賀県病院薬剤師会感染制御認定薬剤師・抗菌化学療法認定薬剤師育成研修会．2024，9，14.

33 浦上宗治：抗菌薬適正使用：薬剤師の臨床力を向上させる実践法．2024年度第2回静岡県病院薬剤師会感染制御専門薬剤師部門研修会感染症薬物療法を学ぶ会～抗菌薬適正使用の実践を学ぼう！～，2024，9，27.

34 浦上宗治：検討だけで終わらせない，異次元の抗菌薬適正使用．第5回広島血液培養と菌血症サミット～博多にいくばい～憧れを乗り越えた血培たち～トムホーバスの教えより，2024，9，29.

35 浦上宗治：専門医不在でもあきらめない，薬剤師による抗菌薬適正使用支援のエッセンシャル．2024年度第1回千葉県感染制御専門・認定薬剤師講習会，2024，10，5.

36 浦上宗治：抗菌薬の苦手を克服する方法．佐賀県病院薬剤師会 感染症 x N ST合同ハイブリッド研修会，2024，10，19.

37 浦上宗治：抗菌薬適正使用支援チームの活動．独立行政法人国立病院機構九州グループ 令和6年度院内感染対策研修会，2024，11，21.

38 浦上宗治：抗菌薬適正使用で薬剤師が知っておきたい抗菌薬以外の知識．2024年度第2回感染領域専門・認定薬剤師養成講習会，2024，11，27.

39 浦上宗治：抗菌薬適正使用の理論と実践法－病院薬剤師と薬局薬剤師ができること－．京都府薬剤師会丹後地区第5回学術講演会，2024，11，28.

40 浦上宗治：敗血症の病態及びPK/PDを考慮した薬剤選択．感染症ベーシック・スクール2024抗菌薬適正使用編九州・沖縄地区，2024，11，30.

41 浦上宗治：風邪の患者への対応と服薬指導について．薬局薬剤師のための感染症対応力アップセミナー，2024，12，5.

42 浦上宗治：耐性菌に対する抗菌薬，クロストリディオイデス・ディフィシル腸炎．令和6年度第3回佐賀県病院薬剤師会感染制御認定薬剤師・抗菌化学療法認定薬剤師育成研修会，2024，12，7.

43 的野多加志：リアルワールドエビデンスを含めた治療戦略．COVID-19オンラインセミナー，2024，1，19.
44 的野多加志：施設における COVID-19感染対策．飯塚市地域密着型サービス事業所連絡協議会研修会，2024，1，26.
45 的野多加志：最新エビデンスに基づく COVID-19診療．これからの COVID-19診療 in 福岡，2024，2，22.
46 的野多加志：国内初の Candida auris 血症．第31回感染症学セミナー，2024，2，28.
47 的野多加志：最新エビデンスに基づく COVID-19診療．これからの COVID-19診療 in 宮崎，2024，3，15.
48 的野多加志：COVID-19の治療指針と全診療科対応の整備．COVID-19 Web Seminar in 西九州，2024，4，9.
49 的野多加志：感染対策の基本．令和 6 年度救急救命九州研修所観戦防止対策強化研修，2024, 4, 19.
50 的野多加志：技師と医師の Knowledge Gap．2024年度九州耐性菌検査ネットワーク研修，2024，4，21.
51 的野多加志：COVID-19軽症を主に診療する先生方へ：軽症～中等症Ⅰの入院対象患者における治療とその注意点．Giliad Remdesivir（COVID-19）M3-mega Webinar，2024，5，9.
52 的野多加志：感染対策の基本．令和 6 年度救急救命九州研修所観戦防止対策強化研修，2024, 5, 10.
53 的野多加志：成人における RS ウイルス感染症とワクチンの意義．佐賀県内科医会学術講演会，2024，5，15.
54 的野多加志：HPV ワクチンキャッチアップ接種の推進～公費接種の期限を迎える今～．直方鞍手医師会学術講演会，2024，5，23.
55 的野多加志：COVID-19治療アップデート～公費負担が無くなった今～．茨城県 COVID-19 WEB Seminar，2024，5，28.
56 的野多加志：帯状疱疹の疫学と予防．唐津東松浦医師会学術講演会，2024，5，29.
57 的野多加志：発熱診療外来編～不明熱を含めて～．第610回兵庫県保険医協会診療内容向上研究会，2024，6，22.
58 的野多加志：COVID-19治療アップデート～公費負担がなくなった今～．パキロビッドパックインターネットシンポジウム．2024，6，24.
59 的野多加志：高齢者向けワクチン～帯状疱疹予防も含めて～．高齢者ワクチンを考える会 in 筑豊，2024，7，18.
60 的野多加志：HPV ワクチンの重要性～キャッチアップ接種を中心に～．美作医師会学術講演会．2024，8，7.
61 的野多加志：HPV ワクチンの重要性～キャッチアップ接種を中心に～．飯塚医師会学術講演会，2024，8，8.
62 的野多加志：これからの COVID-19診療～ワクチンと治療戦略アップデート～．COVID-19セミナー in 佐賀，2024，8，23.
63 的野多加志：エビデンスに基づく COVID-19の予防戦略．地域で考える感染症の予防戦略 in 福岡，2024，8，26.
64 的野多加志：耐性グラム陽性球菌治療薬①ブドウ球菌」．大阪大学感染症総合教育研究拠点薬剤師

向け教育プログラム，2024，9，4.

65 的野多加志：中枢神経感染症．2024年度国際医療福祉大学特定行為研修，2024，9，4.

66 的野多加志：循環器・血流感染症．2024年度国際医療福祉大学特定行為研修，2024，9，6.

67 的野多加志：これからのCOVID-19診療～ワクチンと治療戦略アップデート～．COVID-19セミナーin久留米，2024，9，20.

68 的野多加志：フェトロージャの位置づけを踏まえた薬剤耐性菌治療について．塩野義製薬長崎営業所佐賀出張所社内研修会，2024，9，11.

69 的野多加志：帯状疱疹の疫学と予防．九州帯状疱疹予防セミナー，2024，9，13.

70 的野多加志：新興再興・輸入感染症．令和6年度認定看護師教育課程「感染管理」，2024，9，20.

71 的野多加志：感染症に関する基礎知識．令和6年度福岡県看護協会感染管理担当者研修，2024，9，27.

72 的野多加志：今季どうする？－新型コロナワクチン－．Meijiコロナワクチン Webセミナー，2024，10，3.

73 的野多加志：今シーズンどうする？－新型コロナワクチン－．久留米医師会精神科医会学術講演会，2024，10，8.

74 的野多加志：成人におけるRSウイルス感染症とワクチンの意義．長崎RSVワクチンフォーラム，2024，10，24.

75 的野多加志：これからのCOVID-19診療～ワクチンと治療戦略アップデート～．COVID-19セミナーin熊本，2024，10，30.

76 的野多加志：今シーズンのCOVID-19とインフルエンザ対策－ワクチンを中心に－．第47回筑豊感染症懇話会，2024，10，31.

77 的野多加志：これからのCOVID-19診療～治療戦略アップデート～．佐賀県医師会学術講演会，2024，11，6.

78 的野多加志：感染症の基礎知識・健康危機管理．令和6年度福岡県新型インフルエンザ等感染症等業務に係る研修，2024，11，20.

79 的野多加志：これからのCOVID-19診療～治療戦略アップデート～．感染症地域医療連携講演会，2024，11，22.

80 的野多加志：これからのCOVID-19診療～治療戦略アップデート～．八代市郡学術講演会，2024，11，25.

81 的野多加志：COVID-19と薬剤耐性菌の治療戦略UpDate．感染症セミナーin四国，2024，12，4.

82 的野多加志：インフルエンザと新型コロナワクチンのTOPICS．Pharmacy Director Seminar in SAGA，2024，12，5.

83 的野多加志：帯状疱疹の疫学と予防～シングリックス筋注用の勧め方～．シングリックスWeb講演会，2024，12，6.

84 的野多加志：COVID-19は風邪じゃない！～エビデンスに基づく予防戦略～．新型コロナワクチンWebセミナー，2024，12，9.

85 的野多加志：COVID-19は風邪じゃない！～予防と治療戦略UpDate～．COVID-19 WEBセミナーin島根，2024，12，11.

86 的野多加志：エビデンスに基づくCOVID-19治療戦略～重症化予測と早期治療の重要性～.

COVID-19 Web Seminar in 九州，2024，12，12.

87　的野多加志：COVID-19は風邪じゃない！～エビデンスに基づく予防戦略～．新型コロナワクチン Web セミナー，2024，12，13.

88　的野多加志：COVID-19は風邪じゃない！～エビデンスに基づく予防戦略～．新型コロナワクチン Web セミナー，2024，12，18.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
特　任 准教授	的野多加志	令和６年度先端医療技術に係る予算		1	国内未導入の血中遺伝子同定検査（マルチプレックス PCR 検査）を用いた輸入感染症の診断プラットホーム構築に向けた研究	6,077

学術（学会）賞

職　名	氏　名	学術（学会）賞名	受　賞　課　題
病院助教	浦上　宗治	第94回日本感染症学会西日本地方会学術集会・第72回日本化学療法学会西日本支部総会合同学会 ポスター Award 最優秀賞	カルバペネム系抗菌薬の事前承認制に関する長期的運用の効果－18年間にわたる病院横断的適正使用活動の成果－

再生医学研究センター

著　書

1 *池口良輔，青山朋樹，野口貴志，吉元孝一，坂本大地，岩井輝修，藤田一晃，宮崎雄大，秋枝静香，中山功一，松田秀一：Bio 3D printer を用いた新しい神経導管．日本整形外科学会雑誌 98(2)：S643，2024，3，日本整形外科学会.

原著論文

1 *Hayasaka M, Kokudo T, Kaneko J, Chiyoda T, Nakamura A, Itoh M, Endo K, Nakayama K, Hasegawa K: Three-Dimensional Bio-Printed Tubular Tissue Using Dermal Fibroblast Cells as a New Tissue-Engineered Vascular Graft for Venous Replacement. ASAIO J. 70(11): 1008-1014, 2024, Nov.

2 *Toyoda M, Fukuda T, Fujimoto R, Kawakami K, Hayashi C, Nakao Y, Watanabe Y, Aoki T, Shida M, Sanui T, Taguchi M, Yamamichi K, Okabe A, Okada T, Oka K, Nakayama K, Nishimura F, Kajioka S: Scaffold-free bone-like 3D structure established through osteogenic differentiation from human gingiva-derived stem cells. Biochem Biophys Rep. 15: 38: 101656, 2024, Feb.

3 *Taguchi M, Yoshimoto S, Suyama K, Sumi S, Ohki S, Ogata K, Fujimoto R, Murata D, Nakayama K, Oka K: Creating 3D constructs with cranial neural crest-derived cell lines using a bio-3D printer. J Oral Biosci. 66(2): 339-348, 2024, Jun.

4 *Uchida F, Matsumoto K, Nishimuta M, Matsumoto T, Oishi K, Hara R, Machino R, Taniguchi D, Oyama S, Moriyama M, Koichi T, Doi R, Obata T, Miyazaki T, Nonaka T, Nakayama K, Nagayasu T: Fabrication of a Bio-3d Printed Scaffold-Free Artificial Trachea with Horseshoe-Shaped Hyaline Cartilage Differentiated from Mesenchymal Stem Cells and Smooth Muscles. Eur J Cardiothorac Surg. 66(4): ezae336, 2024, Oct.

5 *Iwai T, Aoyama T, Noguchi T, Yoshimoto K, Sakamoto D, Fujita K, Miyazaki Y, Akieda S, Nagamura-Inoue T, Nagamura F, Nakayama K, Matsuda S: Nerve regeneration using a Bio 3D conduit derived from umbilical cord–derived mesenchymal stem cells in a rat sciatic nerve defect model. PLoS One. 19(12): e0310711, 2024, Dec.

総　説

1 ○伊藤　学，中山功一：剣山メゾットバイオ3D プリンタを用いた血管・心筋構造体の応用．CURRENT THERAPY，42(1)，P80，2024，1.

2 樫本翔平，吉里　広，野中俊宏，村田大紀，中山功一，馬渡正明：バイオ3D プリンタを用いた臓器再生への取り組み．臨床雑誌整形外科，75(8)，2024，7.

3 Yu Junjie，伊藤　学，村田大紀，中山功一：剣山式を用いた人工臓器の最近の進歩．人工臓器，53(3)，193–197，2024，12.

学会発表

国際規模の学会

1 *Higa K, Yabiku H, Uehara F, Toma T, Azuma C, Murata D, Nakayama K, Nishida K: Allogeneic transplantation of scaffold-free constructs of adipose tissue-derived mesenchymal stem cells into tendon-bone junction of femoral bone tunnel in anterior cruciate ligament reconstruction in a rab-

bit model. Orthopaedic Research Society 2024 Annual Meeting, 2024, Feb.

2 Nonaka T, Murata D, Nakamura A, Yoshizato H, Kashimoto S, Itoh M, Ikeya M, Toguchida J, Mawatari M, Nakayama K: Xenograft of bio-3D printed scaffold-free cartilage constructs for regeenration of articular cartilage in immunodeficient pigs. 7th Tissue Engineering and Regenerative Medicine International Society World Congress, 2024, Jun.

3 *Higa K, Yabiku H, Uehara F, Toma T, Azuma C, Murata D, Nakayama K, Nishida K: Scaffold-free constructs comprising adipose tissue-derived mesenchymal stem cells produced by a bio-3D printer promote bone-tendon healing after anterior cruciate ligament reconstruction in rabbit models. 7th Tissue Engineering and Regenerative Medicine International Society World Congress, 2024, Jun.

4 Kashimoto S, Murata D, Yoshizato H, Nonaka T, Nakamura A, Mawatari M, Nakayama K: Regeneration of the patellar tendon using scaffold-free 3D constructs consisted of adipose tissue-derived mesenchymal stem cells in rabbits. 7th Tissue Engineering and Regenerative Medicine International Society World Congress, 2024, Jun.

5 Nonaka T, Murata D, Nakamura A, Yoshizato H, Kashimoto S, Itoh M, Ikeya M, Toguchida J, Mawatari M, Nakayama K: Xenograft of bio-three-dimensionally printed scaffold-free cartilage constructs derived from human induced pluripotent stem cell-derived mesenchymal stem cells to regenerate extensive articular cartilage defects in an immunodeficient pig model. The International Conference on Biofabrication 2024, 2024, Nov.

6 Yoshizato H, Murata D, Kashimoto S, Nonaka T, Nakamura A, Morimoto T, Nakayama K: Scaffold-free 3D osteogenic construct composed of human bone marrow-derived mesenchymal stem cells and human umbilical vein endothelial cells. The International Conference on Biofabrication 2024, 2024, Nov.

7 Kashimoto S, Murata D, Miyake M, Yoshizato H, Nonaka T, Morimoto T, Nakayama K: Regeneration of the patellar tendon using scaffold-free 3D constructs consisted of adipose tissue-derived mesenchymal stem cells in rabbits. The International Conference on Biofabrication 2024, 2024, Nov.

8 *Higa K, Murata D, Yabuki H, Uehara F, Toma T, Azuma C, Nakayama K, Nishida K: Transplantation of scaffold-free constructs of adipose tissuederived mesenchymal stem cells produced by a bio-3D printer to enhance tendon-bone healing in anterior cruciate ligament reconstruction. The International Conference on Biofabrication 2024, 2024, Nov.

9 Nakamura A, Nonaka T, Murata D, Ikeya M, Toguchida J, Nakayama K: Bio-3D printed scaffold-free cartilage construct for larger chondral defects. The International Conference on Biofabrication 2024, 2024, Nov.

10 Murata D: Post-bio-3D-printing process to fabricate scaffold-free artificial ligaments for clinical application. The International Conference on Biofabrication 2024, 2024, Nov.

国内全国規模の学会

1 野中俊宏，村田大紀，中村アンナ，吉里　宏，樫本翔平，池谷　真，戸口田淳也，馬渡正明，中山功一：免疫不全ミニブタの広範囲関節軟骨欠損に対する scaffold-free 軟骨組織体移植．第36回日本

軟骨代謝学会，2024，2，16-17.

2　Junjie Yu，村田大紀，中山功一：Development of a vascular bed using a scaffold-free AV loop construct for tissue transplantation. 第23回再生医療学会総会，2024，3，21-23.

3　野中俊宏，吉里　宏，樫本翔平，中村アンナ，村田大紀，馬渡正明，中山功一：バイオ3D プリンタを用いた脂肪由来間葉系幹細胞のみから成る Scaffold-free 軟骨組織体についての検討. 第23回再生医療学会総会，2024，3，21-23.

4　吉里　広，村田大紀，樫本翔平，野中俊宏，中村アンナ，中山功一，馬渡正明：ラット脂肪由来幹細胞の骨分化誘導における BMP-2濃度の影響. 第23回再生医療学会総会，2024，3，21-23.

5　樫本翔平，村田大紀，藤本亮太，三宅美保，吉里　広，野中俊宏，中村アンナ，馬渡正明，中山功一：ウサギ脂肪組織由来間葉系幹細胞からなる scaffold-free 3 次元構造体による膝蓋腱再生. 第23回再生医療学会総会，2024，3，21-23.

6　*池口良輔，青山朋樹，野口貴志，吉元孝一，坂本大地，宮崎雄大，秋枝静香，中山功一，松田秀一：末梢神経損傷に対するバイオ3D プリンターを用いた三次元神経導管による神経再生. 第23回再生医療学会総会，2024，3，21-23.

7　*西牟田雅人，松本桂太郎，松本理宗，谷口大輔，土肥良一郎，富永哲郎，高木克典，野中　隆，中山功一：ヒト細胞を用いた細胞構造体（バイオプラグ）による肺切除後気管支断端瘻に対する新たな治療法の確立. 第23回再生医療学会総会，2024，3，21-23.

8　*山口　恵，杉田和俊，山田陽子，貫井涼平，市川彰人，久末正晴，中山功一，柳　佑典，岩木義英，根尾櫻子：液体クロマトグラフィー質量分析法（LC-MS/MS）を用いたイヌ肝細胞スフェロイドにおける薬物代謝機能の検討. 第23回再生医療学会総会，2024，3，21-23.

9　中山功一：臓器再生を目指したバイオ3D プリンタの開発とその応用について. 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会，2024，4，18-20.

10　中山功一：臓器再生を目指したバイオ3D プリンタの開発. 第39回日本整形外科学会基礎学術集会. 2024，10，17-18.

11　野中俊宏，村田大紀，吉里　広，樫本翔平，中村アンナ，森本忠嗣，中山功一：脂肪由来間葉系幹細胞のみからバイオ3D プリンタを用いて作製する Scaffold-free 軟骨組織体についての検討. 第39回日本整形外科学会基礎学術集会，2024，10，17-18.

12　吉里　広，村田大紀，樫本翔平，野中俊宏，中村アンナ，森本忠嗣，中山功一：ラット脂肪由来幹細胞の骨分化誘導における BMP-2濃度の影響，第39回日本整形外科学会基礎学術集会，2024，10，17-18.

13　樫本翔平，村田大紀，吉里　広，野中俊宏，中村アンナ，森本忠嗣，中山功一：ウサギ脂肪組織由来間葉系幹細胞からなる scaffold-free 三次元構造体による膝蓋腱再生. 第39回日本整形外科学会基礎学術集会，2024，10，17-18.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
教　授	中山　功一	科学研究費助成事業	基盤研究(B)	1	三次元心筋細胞構造体の立体形状および移植方法の最適化	5,850

教　授	中山　功一	科学研究費助成事業	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B))	1	Development of a AV loop for a construction of vascular bed suitable for large three-dimensional tissue transplantation	7,930 (123)
教　授	中山　功一	科学研究費助成事業	基盤研究(B)	2	iPS 細胞由来中胚葉系細胞を用いて新たな靭帯再建法の確立を目指す研究	65
教　授	中山　功一	科学研究費助成事業	基盤研究(B)	2	ブタ体内環境を利用した成熟ヒト心筋チューブ組織の作製と応用	1,300
教　授	中山　功一	科学研究費助成事業	基盤研究(B)	2	バイオ3D プリンタを用いた冠動脈バイパス術に最適な次世代型細胞製人工血管の開発	195
教　授	中山　功一	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	細胞のみで作製した3次元骨組織体を用いて広範囲骨欠損再建法の確立を目指す研究	130
教　授	中山　功一	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	バイオ3D プリンタを用いて広範囲骨欠損再建法の確立を目指す研究	130
教　授	中山　功一	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	バイオ3D プリンタ技術を用いた細胞製人工弁膜の開発	130
教　授	中山　功一	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	難治性気管支瘻に対する幹細胞を用いた細胞プラグによる新たな治療法の開発	130
教　授	中山　功一	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	脂肪幹細胞での肛門機能低下の新規予防法開発と人工肛門括約筋による肛門機能再生研究	65
教　授	中山　功一	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	腸オルガノイド細胞による立体構造体を用いた炎症性腸疾患に対する新たな治療法の確立	65
教　授	中山　功一	科学研究費助成事業	挑戦的研究（萌芽）	2	様々な臓器再生に応用可能な人工臓器基本骨格作製と大量生産・品質向上の基礎的研究	65
助　教	村田　大紀	科学研究費助成事業	基盤研究(B)	1	iPS 細胞由来中胚葉系細胞を用いて新たな靭帯再建法の確立を目指す研究	2,860
助　教	村田　大紀	科学研究費助成事業	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B))	2	Development of an AV loop for construction of a vascular bed suitable for large three-dimensional tissue transplantation	260
助　教	村田　大紀	科学研究費助成事業	基盤研究(B)	2	バイオ3D プリンタを用いた冠動脈バイパス術に最適な次世代型細胞製人工血管の開発	195

助　教	村田　大紀	科学研究費助成事業	基盤研究(B)	2	臨床応用可能な犬の iPS 細胞を活用した動物用再生医療製品の開発のための基盤技術の確立	260
助　教	村田　大紀	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	細胞のみで作製した3次元骨組織体を用いて広範囲骨欠損再建法の確立を目指す研究	195
助　教	村田　大紀	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	バイオ3D プリンタを用いて広範囲骨欠損再建法の確立を目指す研究	130
助　教	村田　大紀	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	バイオ3D プリンタ技術を用いた細胞製人工弁膜の開発	130
助　教	村田　大紀	JRA日本中央競馬会	受託研究	1	バイオ3D プリンタ技術を用いたウマ軟骨組織の再建技術の開発	3,000
助　教	村田　大紀	公益財団法人 JKA 競輪とオートレースの補助事業	受託研究	1	細胞製人工組織の創製に向けた生体模倣型バイオリアクターの開発	5,000
助　教	村田　大紀	国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）	受託研究	1	新たな半月板治療技術の実現を目指す研究	1,999
助　教	村田　大紀	ふくおかフィナンシャルグループ企業育成財団	（ベンチャー企業・中小企業用）研究開発助成金	1	新規半月板再建技術の開発	0 (3,372)
助　教	村田　大紀	九州・大学発ベンチャー振興シーズ育成資金	SBI ホールディングス	1	新たな半月板再建技術の確立	0 (500)
助　教	村田　大紀	九州・大学発ベンチャー振興シーズ育成資金	佐賀銀行	1	新たな半月板再建技術の確立	500
助　教	村田　大紀	九州・大学発ベンチャー振興シーズ育成資金	九州オープンイノベーション	1	新たな半月板再建技術の確立	500
助　教	YU JUNJIE	科学研究費助成事業	若手研究	1	Engineering a 3D construct with perfusable and functional capillary networks using scaffold-free method	2,340
助　教	YU JUNJIE	科学研究費助成事業	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B))	2	Development of an AV loop for construction of a vascular bed suitable for large three-dimensional tissue transplantation	100 (13)
助　教	YU JUNJIE	日本人工臓器学会	泉医科工業	1	Engineering a prevascularized tissue using scaffold-free method	0 (430)

特任助教	田村　忠士	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	ヒト iPS 細胞由来心筋細胞の三次元物理刺激による成熟化方法の開発	1,100 (800)

※（　）は繰越金で外数

地域医療科学教育研究センター

数 理 解 析 部 門
(教育 IR 室)

生物統計学・生物情報学分野

著　　書

1 ○Ishimaru Y, Kawaguchi A: Subgroups Identification Using Biomarkers from Multi-Modal Brain Imaging. Advances in Health and Disease. Volume 79, 2024, 3, Nova Science Publishers.

原著論文

1 ○Kitagawa H, Manabe T, Yamada Y, Sato H, Takesue S, Hiraki M, Kawaguchi A, Sakaguchi Y, Noshiro H: A prospective randomized study of multimodal analgesia combined with single injection transversus abdominis plane block versus epidural analgesia against postoperative pain after laparoscopic colon cancer surgery. International Journal of Colorectal Disease, 39, 1, 12, 2023, 12.

2 *Park K, Putra H.A, Yoshida S, Yamashita F, Kawaguchi A: Uniformly positive or negative correlation of cerebral gray matter regions with driving safety behaviors of healthy older drivers. Scientific Reports, 14, 1, 206, 2024, 1.

3 ○Yoshioka G, Yamaguchi T, Tanaka A, Sakai H, Koyamatsu J, Umeki T, Kaneta K, Sakamoto Y, Kawaguchi A, Node K: Impact of left atrial strain on clinical outcomes in patients with permanent pacemaker implantation. ESC Heart Failure, 11, 6, 3982-3992, 2024, 12.

4 *Okamoto M, Yanagihara T, Fujimoto K, Chikasue T, Tabata K, Zaizen Y, Tominaga M, Sumi A, Nishii Y, Matsuo N, Nouno T, Matsuura S, Kawaguchi A, Hoshino T: Exercise-Induced Oxygen Desaturation and Outcomes After Nintedanib Therapy for Fibrosing Interstitial Lung Disease in Patients Without Dyspnea. Journal of Clinical Medicine, 13, 24, 7865, 2024, 12.

5 *Kimura N, Hiraki M, Furukawa S, Okuyama K, Kohya N, Sakai M, Kawaguchi A, Ikubo A, Samejima R: Recurrence risk analysis for stage II and III colorectal cancer, and the implications of diabetes mellitus as a risk factor for the recurrence of stage III colorectal cancer. Molecular and Clinical Oncology, 21, 6, 89, 2024, 10.

6 *Iwaki M, Kobayashi T, Nogami A, Ogawa Y, Imajo K, Sakai E, Nakada Y, Koyama S, Kurihashi T, Oza N, Kohira T, Okada M, Yamaguchi Y, Iwane S, Kageyama F, Sasada Y, Matsushita M, Tadauchi A, Murohisa G, Nagasawa M, Sato S, Maeda K, Furuta K, Shigefuku R, Seko Y, Tobita H, Kawata K, Kawanaka M, Sugihara T, Tamaki N, Iwasa M, Kawaguchi T, Itoh Y, Kawaguchi A, Takahashi H, Nakajima A, Yoneda M: Pemafibrate for treating MASLD complicated by hypertriglyceridaemia: a multicentre, open-label, randomised controlled trial study protocol. BMJ Open, 14, 11, e088862, 2024, 11.

7 *Ureshino H, Takahashi N, Ikezoe T, Kameoka Y, Kimura S, Fukushima N, Ichinohe T, Takamori A, Kawaguchi A, Miura M, Kimura S: A lower initial dose of bosutinib for patients with chronic myeloid leukemia patients resistant and/or intolerant to prior therapy: a single-arm, multicenter,

phase 2 trial (BOGI trial). International Journal of Hematology, 120, 4, 492-500, 2024, 10.

学会発表

国内全国規模の学会

1　高尾結佳，大迫亮介，高橋佑弥，川口　淳：多変量医療データにおける構造化教師付きスパース主成分分析法の提案．日本計算機統計学会第38回シンポジウム，2024，10，25.

2　川口　淳，石丸悠子，高尾結佳：説明性を高める脳画像スコアリング法．第6回日本メディカルAI学会学術集会，2024，6，21.

3　石丸悠子，川口　淳：非負行列因子分解を用いたマルチモダル脳画像に基づくデータ駆動型疾患サブタイプ同定法．第38回人工知能学会全国大会，2024，5，30.

4　川口　淳：脳画像の施設間差を減らす調和技法．日本放射線技術学会総会学術大会，2024，4，13.

地方規模の学会

1　新川裕也，原めぐみ，川口　淳：経時測定データを用いたクロスオーバー試験のマルチレベルモデル解析．第7回かごしまデータ科学シンポジウム，2024，12，4.

2　高尾結佳，大迫亮介，石丸悠子，高橋佑弥，川口　淳：構造化教師付きスパース主成分法．第6回かごしまデータ科学シンポジウム．2024，8，6.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
教　授	川口　　淳	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	急性心筋梗塞患者の予後改善を目指した新規出血リスクスコアの開発	50
教　授	川口　　淳	日本医療研究開発機構研究費	免疫アレルギー疾患実用化研究事業	2	ペリオスチン／αVβ3インテグリン経路を標的としたアトピー性皮膚炎の新規治療薬の開発	0
教　授	川口　　淳	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	膠原病関連間質性肺炎の表現型と自己抗体発現における関連性評価と進行性予測	0
教　授	川口　　淳	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	Adversarial Example を用いた新しい緑内障性眼底変化の特徴の発見	30
教　授	川口　　淳	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	小児有熱性けいれん重積のなかでのけいれん重積型急性脳症発症予測	100
教　授	川口　　淳	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	外傷患者のせん妄予測モデル構築と長期認知機能解明	30
教　授	川口　　淳	戦略的創造研究推進事業	戦略的創造研究推進事業（ＣＲＥＳＴ）「信頼されるAIシステムを支える基盤技術」領域	2	AI 駆動仮説の静的・動的信頼性保証と医療への展開	11,000
教　授	川口　　淳	科学研究費助成事業	基盤研究(B)	2	脳リンパ腫のゲノム・メタボローム情報を基盤とした個別化分子標的療法の開発研究	20
教　授	川口　　淳	科学研究費助成事業	基盤研究(B)	2	生存時間解析の新たな展開：がん免疫療法における統計的方法論の構築とその実践	10
教　授	川口　　淳	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	反復性経頭蓋磁気刺激による治療抵抗性うつ病の治療メカニズムの探索	0
教　授	川口　　淳	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	新規育児不安尺度の開発－出産施設退院時の母親の育児不安に着目して－	0
教　授	川口　　淳	精神・神経疾患研究開発費		2	精神・神経疾患での脳画像撮像および解析手法の標準化と臨床応用に関する研究	1,500

医用統計物理学分野

原著論文

1　富永広貴：メキシカンハット型ポテンシャルを加振した系におけるカオス拡散の発生機構．信学技報，vol. 123，no. 354，NLP2023-95，pp. 62-65，2024，1.

2　富永広貴：加振されたボルトに取り付けられたナットの運動：ナットの回転方向を決める機構．信学技報，vol. 123，no. 354，NLP2023-103，pp. 94-97，2024，1.

学会発表

国内全国規模の学会

1　富永広貴：メキシカンハット型ポテンシャルを加振した系におけるカオス拡散の発生機構．電子情報通信学会非線形問題研究会．2024，1，24.

2　富永広貴：加振されたボルトに取り付けられたナットの運動～ナットの回転方向を決める機構～．電子情報通信学会非線形問題研究会．2024，1，24.

3　富永広貴：マイコンボードを用いた生体時系列測定実習で使用する Program 開発．日本物理学会2024年春季大会（物性）．2024，3，18-21.

4　一ノ瀬浩幸，富永広貴：医学科初年度学生に対する力と運動についての概念調査および科学的推論力調査 III．日本物理学会2024年春季大会（物性）．2024，3，18-21.

地方規模の学会

1　富永広貴：加振されたボルト上のナットの回転方向決定機構．第130回日本物理学会九州支部会．2024，11，16.

2　一ノ瀬浩幸，富永広貴：医学科学生における物理講義前後での力学概念理解度の調査 III．第130回日本物理学会九州支部会．2024，11，16.

医学教育開発部門

著　　書

1　○徳島圭宜，山下　駿，多胡雅毅：18しびれ 多様なしびれをスッキリと診断しよう．内科外来診療の掟 診断力を上げる総合診療のアプローチ，2024，6．中外医学社，東京.

2　井手則子，山下　駿，多胡雅毅：25呼吸困難 呼吸困難への診断アプローチをマスターしよう！．内科外来診療の掟 診断力を上げる総合診療のアプローチ，2024，6．中外医学社，東京.

原著論文

1　○Muroya M, Tabuchi Y, Kumagai Y, Sakamoto M, Tajima T: Factor Contributing to Well-Bing in Japanese Community-Dwelling Older Adults Who Experienced Spousal Bereavement. Research in Gerontological Nursing, 17(3), 121-130, 2024.

2　*Fujii D, Kaseda E & Sakamoto-Pomeroy M: Japanese performance profile on the WAIS-IV and purported cultural influences. Archives of Clinical Neuropsychology, 39(8): 1321-1331, 2024.

3　Sakamoto Pomeroy M, Sakamoto T & Aoki Y: Enhancing medical students' English proficiency: Insights on engagement and motivation from the student perspective. Journal of Medical English Education, 23(3): 67-70, 2024.

4 Mitsutake T, Nakazono H, Taniguchi T, Yoshizuka H, Sakamoto M: Neural interference effects on lateral vestibulospinal tract excitability by noisy galvanic vestibular stimulation. Clinical Neurophysiology, 153-160, 2024.

5 *Takeuchi J, Ozaki I, Hata K, Nozawa M, Fukushima K, Fukumori N, Imanaka M, Sakanishi Y, Shima M, Morimoto T: Mumps vaccination and immune status among Japanese university students: A multicenter cross-sectional study. J Public Health Res. 13(2): 22799036241246702, 2024.

6 *Ishizuka K, Yamashita S, Mine Y, Yamamoto Y, Kojima H, Someko H, Miyagami T: How case reports can be used to improve diagnosis. Diagnosis, 11(2): 198-199, 2024, 1.

7 ○Tago M, Hirata R, Katsuki NE, Nakatani E, Tokushima M, Nishi T, Shimada H, Yaita S, Saito C, Amari K, Kurogi K, Oda Y, Shikino K, Ono M, Yoshimura M, Yamashita S, Tokushima Y, Aihara H, Fujiwara M, Yamashita SI: Validation and Improvement of the Saga Fall Risk Model: A Multicenter Retrospective Observational Study. Clin Interv Aging, 19: 175-188, 2024, 2.

8 ○Tago M, Hirata R, Takahashi H, Yamashita S, Nogi M, Shikino K, Sasaki Y, Watari T, Shimizu T: How Do We Establish the Utility and Evidence of General Medicine in Japan?. Int J Gen Med, 17: 635-638, 2024, 2.

9 Yamashita S, Tago M, Tokushima M, Tokushima Y, Hirakawa Y, Aihara H, Katsuki NE, Fujiwara M, Oda Y: Effects of a 60-Minute Lecture About Diagnostic Errors for Medical Students: A Single-Center Interventional Study. Cureus, 16(3): e56117, 2024, 3.

10 *Nishizawa T, Ishizuka K, Otsuka Y, Nakanishi T, Kawashima A, Miyagami T, Yamashita S: Writing Case Reports Can Improve Seven Components in Clinical Reasoning. Int Med Case Rep J, 17: 195-200, 2024, 3.

11 *Ishizuka K, Yamashita S, Mine Y, Yamamoto Y, Kojima H, Someko H, Miyajima T: How to Overcome the Barriers Behind Writing Case Reports for Beginners and Young General Physicians. Int J Gen Med, 17: 1723-1727, 2024, 4.

12 ○Hirata R, Katsuki NE, Shimada H, Nakatani E, Shikino K, Ono M, Saito C, Amari K, Kurogi K, Yoshimura M, Nishi T, Yaita S, Oda Y, Tokushima M, Hirakawa Y, Nakamura M, Yamashita S, Tokushima Y, Aihara H, Fujiwara M, Tago M: Criterion-Related Validity of the Cognitive Function Score with the Revised Hasegawa's Dementia Scale and the Bedriddenness Rank with the Barthel Index and the Katz Index: A Multi-Center Retrospective Study. Dement Geriatr Cogn Dis Extra, 14(1): 75-80, 2024, 7.

13 ○Tokushima Y, Hirata R, Yamashita S, Shikino K, Shimizu T, Tago M: Enhancing Clinical Reasoning Education: Implementing Case Conferences with Semantic Qualifiers and the Dual-Process Theory. Adv Med Educ Pract, 15: 1149-1154, 2024, 11.

14 *Ogawa E, Jun DW, Toyoda H, Hsu YC, Yoon EL, Ahn SB, Yeh ML, Do S, Trinh HN, Takahashi H, Enomoto M, Kawada N, Yasuda S, Tseng CH, Kawashima K, Lee HA, Inoue K, Haga H, Do AT, Maeda M, Hoang JH, Cheung R, Ueno Y, Eguchi Y, Furusyo N, Yu ML, Tanaka Y, Nguyen MH: Increased spine bone density in patients with chronic hepatitis B switched to tenofovir alafenamide: A prospective, multinational study. Alimentary pharmacology & therapeutics. 59(2): 239-248, 2024, 2.

15 *Jang TY, Liang PC, Jun DW, Jung JH, Toyoda H, Wang CW, Yuen MF, Cheung KS, Yasuda S, Kim SE, Yoon EL, An J, Enomoto M, Kozuka R, Chuma M, Nozaki A, Ishikawa T, Watanabe T, Atsukawa M, Arai T, Hayama K, Ishigami M, Cho YK, Ogawa E, Kim HS, Shim JJ, Uojima H, Jeong SW, Ahn SB, Takaguchi K, Senoh T, Buti M, Vargas-Accarino E, Abe H, Takahashi H, Inoue K, Huang JF, Chuang WL, Yeh ML, Dai CY, Huang CF, Nguyen MH, Yu ML: Pretreatment gamma-glutamyl transferase predicts mortality in patients with chronic hepatitis B treated with nucleotide/nucleoside analogs. The Kaohsiung journal of medical sciences. 40(2): 188-197.

16 *Chau A, Yeh ML, Tsai PC, Huang DQ, Kim SE, Trinh H, Yoon EL, Oh H, Jeong JY, Ahn SB, An J, Tseng CH, Hsu YC, Jeong SW, Cho YK, Shim JJ, Kim HS, Ito T, Marciano S, Kawashima K, Suzuki T, Watanabe T, Nozaki A, Ishikawa T, Inoue K, Eguchi Y, Uojima H, Abe H, Takahashi H, Chuma M, Ishigami M, Hoang JK, Maeda M, Huang CF, Gadano A, Dai CY, Huang JF, Tanaka Y, Chuang WL, Lim SG, Cheung R, Yu ML, Jun DW, Nguyen MH: Sex Differences in Treatment Response to Nucleos(t)ide Therapy in Chronic Hepatitis B: A Multicenter Longitudinal Study. Clinical Gastroenterology and Hepatology. 22(3): 572-580. e5, 2024, 3.

17 *Park JE, Nguyen VH, Tsai PC, Toyoda H, Leong J, Guy JE, Yeh ML, Huang CF, Yasuda S, Abe H, Hsu YC, Tseng CH, Liu J, Chen YL, Lin PY, Jun DW, Yoshimaru Y, Ogawa E, Ishigami M, Enomoto M, Tamori A, Uojima H, Wang XZ, Xu Q, Takahashi H, Eguchi Y, Inoue K, Huang DQ, Zhao WJ, Chuang WL, Dai CY, Huang JF, Barnett S, Maeda M, Cheung R, Landis C, Tanaka Y, Roberts LR, Schwartz ME, Kumada T, Yu ML, Nguyen MH: Racial and ethnic disparities in untreated patients with hepatitis C virus-related hepatocellular carcinoma but not in those with sustained virologic response. Alimentary pharmacology & therapeutics. 59(6): 742-751, 2024, 3.

18 *Jang TY, Liang PC, Jun DW, Jung JH, Toyoda H, Wang CW, Yuen MF, Cheung KS, Yasuda S, Kim SE, Yoon EL, An J, Enomoto M, Kozuka R, Chuma M, Nozaki A, Ishikawa T, Watanabe T, Atsukawa M, Arai T, Hayama K, Ishigami M, Cho YK, Ogawa E, Kim HS, Shim JJ, Uojima H, Jeong SW, Ahn SB, Takaguchi K, Senoh T, Buti M, Vargas-Accarino I E, Abe H, Takahashi H, Inoue K, Yeh ML, Dai CY, Huang JF, Huang CF, Chuang WL, Nguyen MH, Yu ML: Mortality in patients with chronic hepatitis B treated with tenofovir or entecavir: A multinational study. Journal of gastroenterology and hepatology. 39(6): 1190-1197, 2024, 6.

19 *Kudaravalli S, Huang DQ, Yeh ML, Trinh L, Tsai PC, Hsu YC, Kam LY, Nguyen VH, Ogawa E, Lee DH, Ito T, Watanabe T, Enomoto M, Preda CM, Ko MKL, Wan-Hin Hui R, Atsukawa M, Suzuki T, Marciano S, Barreira A, Do S, Uojima H, Takahashi H, Quek SXZ, Toe Wai Khine HH, Ishigami M, Itokawa N, Go MS, Kozuka R, Marin RI, Sandra I, Li J, Zhang JQ, Wong C, Yoshimaru Y, Vo DKH, Tseng CH, Lee CJ, Inoue K, Maeda M, Hoang JK, Chau A, Chuang WL, Dai CY, Huang JF, Huang CF, Buti M, Tanaka Y, Gadano AC, Yuen MF, Cheung R, Lim SG, Trinh HN, Toyoda H, Yu ML, Nguyen MH: Sex and ethnic disparities in hepatitis B evaluation and treatment across the world. Journal of hepatology. 81(1): 33-41, 2024, 7.

20 ○Oeda S, Inoue K, Isoda H, Hirai K, Takahashi H: Survey on Awareness and Implementation Rate of Ultrasound Elastography and Attenuation Imaging. Internal medicine, 2024.

21 ○Hirata R, Katsuki NE, Yaita S, Nakatani E, Shimada H, Oda M, Tokushima M, Aihara H, Fujiwara

M, Tago M: Validation of the Saga Fall Injury Risk Model. Int J Med Sci, 21(8): 1378-1384, 2024, 5.

22 ○Tokushima M, Tago M, Katsuki NE, Yaita S, Tokushima Y, Aihara H, Fujiwara M, Nishi T, Yamashita SI: Factors influencing preference for dying at home among people aged ≥ 65 years: a cross-sectional study in a super-aged area of Japan. Int J Gerontol, 18(3): 138-143, 2024, 7.

総　説

1 *瀬江千史，小田康友，菅野幸子：新・医学教育 概論（10）医学生・看護学生に学び方を語る．学城：学問への道（23）138–157，2024，6.

2 小田康友：臨床医学（原理編）への第一歩：医学教育と医療の骨子の原点からの生成発展．学城：学問への道（23）113–122，2024，6.

3 ○Tago M, Hirata R, Katsuki NE, Nakatani E, Saito C, Yaita S, Oda Y, Tokushima M, Hirakawa Y, Yamashita S, Tokushima Y, Aihara H, Fujiwara M, Yamashita SI: Predictive Models of Falls: A Narrative Review. J Hosp Gen Med, 6(1): 12-16, 2024, 1.

4 山下　駿，多胡雅毅，井手則子，八板静香，井上　香，溝口ゆかり，徳島圭宜，小田康友：医学生の臨床実習における臨床実習コーディネーターと総合診療医の役割．日病総合診療医会誌，20(3)：168–173，2024，5.

5 井上　香，磯田広史，荒木　薫，大枝　敏，山下　駿，安西慶三，高橋宏和：Google Trends を用いた糖尿病・生活習慣病領域における分析と展望．日本糖尿病インフォマティクス学会誌，22：2–6，2024，1.

症例報告

1 *Nakamura M, Yamashita S, Tago M, Yamashita SI: Marked gallbladder wall thickening caused by Epstein-Barr virus-induced infectious mononucleosis. Clin Case Rep, 12(6): e8863, 2024, 6.

2 溝口ゆかり，尾形善康，松尾宗明：Pachydermodactyly の 2 小児例．九州リウマチ，第44巻(2)：74–78，2024，9.

3 Ide N, Hirata R, Motomura S, Tago M: Acute acalculous cholecystitis complicated by infectious mononucleosis caused by cytomegalovirus. Clinical Case Reports. 12(4): e8771, 2024.

学会発表

国際規模の学会

1 Sakamoto M, Tsurumi J, Nakao A, Yamanouchi J, Nakata H, Minami R, Matsushita S, Giovannetti T & Yamaguchi T: A Novel Touch-Panel Screening Battery for Detecting HIV-Related Neurocognitive Impairment. 52nd International Neuropsychological Society Annual Meeting 2024. 2024, 2, 14-17.

2 Sakamoto M, Veeramuthu V, Cheng YC, Palanisamy PA, and ANA International Liaison Task Force: Asian Neuropsychologists: Global Insights on Training, Education, Barriers, and Future Direction. 52nd International Neuropsychological Society Annual Meeting 2024. 2024, 2, 14-17.

3 Sakamoto M, Nakao A, Yamanouchi J, Nakata H, Minami R, Matsushita S, Giovannetti T, Yamaguchi T: Cognitive and Behavioral Signs to Detect Mild Form of HIV-Associated Neurocognitive Disorders (HAND). Biennial Meeting of World Federation of Neurology, Specialty Group on Aphasia, Dementia, & Cognitive Disorders. 2024, 4, 4-7.

4 Sakamoto, M: Clinical Neuropsychology Education, Training, and Licensing in Asia. 47th Interna-

tional Neuropsychological Society Global Meeting. 2024, 7, 3-5.

5 Sakamoto, M: Psychological and neuropsychological support for people with HIV – Fight against stigma, discrimination, and cognitive dysfunction. Taiwan Association of Neuropsychological Development and Mental Rehabilitation. 2024, 11, 17-18.

6 ○Hirata R, Katsuki NE, Nakatani E, Tokushima M, Nishi T, Shimada H, Yaita S, Saito C, Amari K, Kurogi K, Oda Y, Shikino K, Ono M, Yoshimura M, Ezoe M, Yamashita S, Tokushima Y, Aihara H, Fujiwara M, Tago M: Validation of the Saga Fall Risk Model: a multicenter retrospective observational study. Society of Hospital Medicine Converge 2024. 2024, 4, 12-15.

国内全国規模の学会

1 小田康友：新モデルコアカリキュラム（令和４年）の目標を見据えた理想的かつ教育的な臨床現場構築のための生涯教育の強化事項2024「医学教育モデル・コア・カリキュラム」によって生じた潜在的カリキュラムの検証の必要性．第56回日本医学教育学会大会．2024，8，9–10.

2 *野口歩夢，山口武彦，松下修三，山之内純，中田浩智，南　留美，坂本麻衣子：タブレット型 VR-IADL における micro-error の評価：ANI 早期発見への応用．第33回ライフサポート学会フロンティア講演会．2024，3，6–7.

3 *鶴味詢大，山口武彦，松下修三，山之内純，中尾　綾，中田浩智，南　留美，坂本麻衣子：Nback タスクにおける行動・生理特徴量の解析に関する基礎研究～ANI 早期発見への応用～．第33回ライフサポート学会フロンティア講演会．2024，3，6–7.

4 Sakamoto Pomeroy, M, Sakamoto, T. & Aoki, Y: Enhancing medical students' English proficiency: Insights on engagement and motivation from the student perspective. 27th JASMEE Academic Meeting. 2024, 7, 13-14.

5 坂本麻衣子，福森則男，植田美穂，木本晶子，山崎加奈枝，堀　恵子，小田康友：医学教育６年間における自己主導型学習能力の変化とプロフェッショナリズム・学習効果の関連性について．第56回医学教育学会．2024，8，9–10.

6 坂本麻衣子：臨床神経心理士の日米比較：日本の臨床神経心理士に必要な教育とは．第48回日本神経心理学会学術集会．2024，9，5–6.

7 坂本麻衣子：神経心理学を臨床的な研究，アセスメント，心理的介入に活かす方法．第88回心理学会学術集会．2024，9，6–8.

8 福森則男，坂本麻衣子，植田美穂，山崎加奈枝，堀　恵子，木本晶子，山口真実，小田康友：LMS を活用した医学生の自己学修管理と自己主導型学修能力との関係についての検討．第56回日本医学教育学会大会．2024，8，9–10.

9 ○徳島圭宜，中島知太郎，大石　透，中村仁彦，徳島　緑，山下　駿，平川優香，香月尚子，相原秀俊，藤原元嗣，多胡雅毅：成人後に両側感音性難聴を発症し，痙攣を契機に診断された MELAS の一例．第28回日本病院総合診療医学会学術総会．2024，3，29–30.

10 *島田ひとみ，平田理紗，香月尚子，徳島　緑，中谷英仁，斎藤千紘，甘利香織，黒木和哉，織田良正，大野毎子，鋪野紀好，吉村麻里子，中村仁彦，山下　駿，徳島圭宜，平川優香，相原秀俊，藤原元嗣，多胡雅毅：療養型病院を対象とした院内転倒予測モデルの検討：多施設後ろ向き研究．第28回日本病院総合診療医学会学術総会．2024，3，29–30.

11 *中島央律紗，黒木和哉，牧尾成二郎，中村仁彦，平川優香，香月尚子，相原秀俊，藤原元嗣，山下

駿，徳島圭宜，多胡雅毅：上部内視鏡検査と消化管造影で診断に至った blind loop 症候群の一例．第28回日本病院総合診療医学会学術総会．2024，3，29–30.

12 *中村仁彦，山下　駿，本村　壮，香月尚子，多胡雅毅：原因不明の発熱患者における非感染症疾患の予測モデルの開発：単施設後ろ向き観察研究．第121回日本内科学会総会・講演会．2024，4，12–14.

13 ○花田嵩史，徳島圭宜，中村仁彦，徳島　緑，山下　駿，平川優香，香月尚子，相原秀俊，藤原元嗣，多胡雅毅：難治性の鉄欠乏性貧血を契機に特発性肺ヘモジデローシスと診断された 1 例．第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会．2024，6，7–9.

14 山下　駿，石塚晃介：RFC 企画　あなたならどっちで書きます？画像論文か症例報告～初学者のための論文作成 tips．ACP 日本支部年次総会・講演会2024．2024，6，22–23.

15 ○Oishi T, Hirata R, Yamada S, Nakamura M, Hirakawa Y, Yamashita S, Tokushima Y, Katsuki NE, Aihara H, Fujiwara M, Tago M: Relapsing polychondritis with chronic cough and tenderness of the costal cartilage．ACP 日本支部年次総会・講演会2024．2024，6，22–23.

16 *Annoura S, Hirata R, Nishi T, Yamada S, Nakamura M, Hirakawa Y, Yamashita S, Tokushima Y, Katsuki NE, Aihara H, Fujiwara M, Tago M: Heyde Syndrome: Therapy-Resistant Iron-Deficiency Anemia and Aortic Valve Stenosis．ACP 日本支部年次総会・講演会2024．2024，6，22–23.

17 ○Minami K, Yamashita S, Motomura S, Ide N, Tago M: An atypical case of adult IgA vasculitis with thrombocytopenia and coagulation abnormality．ACP 日本支部年次総会・講演会2024．2024，6，22–23.

18 ○Uno S, Yamasihta S, Tago M: A delayed diagnosis of spontaneous isolated superior mesenteric artery dissection with normal D-dimer level．ACP 日本支部年次総会・講演会2024．2024，6，22–23.

19 *本村　壮，香月尚子，中村仁彦，山下　駿，平田理紗，牧尾成二郎，大石　透，八板静香，徳島緑，徳島圭宜，相原秀俊，藤原元嗣，多胡雅毅：原因不明の発熱に対する簡便な非感染性炎症性疾患予測モデルの開発：単施設後ろ向き観察研究．第29回日本病院総合診療医学会学術総会．2024，9，7–8.

20 ○平田理紗，香月尚子，徳島　緑，八板静香，島田ひとみ，中谷英仁，齋藤千紘，甘利香織，黒木和哉，織田良正，大野毎子，鋪野紀好，吉村麻里子，西　知世，山下　駿，徳島圭宜，相原秀俊，藤原元嗣，多胡雅毅：転倒の時間帯によって転倒の関連因子は異なる―多施設後ろ向き観察研究．第29回日本病院総合診療医学会学術総会．2024，9，7–8.

21 ○牧尾成二郎，香月尚子，大石　透，相原秀俊，藤原元嗣，徳島圭宜，山下　駿，平田理紗，多胡雅毅：炎症反応や頭部画像に異常所見を認めない汎発性帯状疱疹による多発脳神経障害．第29回日本病院総合診療医学会学術総会．2024，9，7–8.

22 ○鍋島沙織，藤原元嗣，平田理紗，鋪野紀好，中島央律紗，井手則子，本村　壮，中村仁彦，牧尾成二郎，大石　透，山下　駿，徳島圭宜，香月尚子，相原秀俊，多胡雅毅：両側下腿浮腫で発症した血管内大細胞型Ｂ細胞リンパ腫の一例．第29回日本病院総合診療医学会学術総会．2024，9，7–8.

23 溝口ゆかり，尾形善康：頸椎癒合を契機に診断された若年性脊椎関節炎の男児例．第68回日本リウマチ学会総会・学術集会．2024，4，18–20.

24 溝口ゆかり，山下　駿，井上　香，八板静香，井手則子，徳島　緑，徳島圭宜，磯田広史，福森則

夫，多胡雅毅，小田康友：予防接種前後における臨床実習中の医学生の皮下注射手技への自信の変化：単施設前向き介入研究．第56回日本医学教育学会大会．2024，8，9-10.

25 井上　香，磯田広史，窪津祥仁，乗田美沙，藤本　光，森美哉子，田中賢一，桑代卓也，大枝　敏，秋山　巧，高橋宏和：臨床実習コーディネーターとしてのキャリア継続．第60回日本肝臓学会総会．2024，6，13-14.

26 ○乗田美沙，窪津祥仁，矢田ともみ，藤本　光，森美哉子，井上　香，田中賢一，桑代卓也，磯田広史，大枝　敏，秋山　巧，高橋宏和：健康診断における M2BPGi の有用性．第60回日本肝臓学会総会．2024，6，13-14.

27 ○原なぎさ，磯田広史，井上　香，大枝　敏，矢田ともみ，江口有一郎，高橋宏和：拠点病院肝疾患センター管理栄養士が考える肝炎医療コーディネーターとしての役割と課題．第60回日本肝臓学会総会．2024，6，13-14.

28 井上　香，原なぎさ，今泉龍之介，大枝　敏，磯田広史，山下　駿，高橋宏和：RCT（ランダム化比較試験）による SLD（steatotic liver disease）啓発前後の Web 検索行動の検証．第24回日本糖尿病インフォマティクス学会年次学術集会．2024，8，18.

29 ○原なぎさ，木村早希，新宮ののこ，竹内　萌，田久保順也，吉村知加子，今泉龍之介，井上　香，大枝　敏，磯田広史，高橋宏和：地域住民のメタボリックシンドロームとがんに対する意識向上を目指したアンケート調査：健康塾参加者との比較．第24回日本糖尿病インフォマティクス学会年次学術集会．2024，8，18.

30 ○平田理紗，香月尚子，中谷英仁，德島　緑，西　知世，島田ひとみ，八板静香，齋藤千紘，甘利香織，黒木和哉，織田良正，鋪野紀好，大野毎子，吉村麻里子，多胡雅毅：入院時の転倒予防は転倒の減少に関連しない可能性がある～傾向スコアによる1256例の解析．第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会．2024，6，7-9.

31 ○平田理紗，香月尚子，中谷英仁，德島　緑，西　知世，島田ひとみ，八板静香，齋藤千紘，甘利香織，黒木和哉，織田良正，鋪野紀好，大野毎子，吉村麻里子，多胡雅毅：入院時に実施する転倒予防策は入院中の転倒傷害に関連しない可能性がある．日本転倒予防学会 第11回学術集会．2024，11，23-24.

32 井手則子，山下　駿，井上　香，溝口ゆかり，八板静香，多胡雅毅，小田康友：医学部臨床実習の質の改善：臨床実習コーディネーターによる取り組み．第28回日本病院総合診療医学会学術総会．2024，3，29-30.

33 山口真実，坂本麻衣子，光武　翼，福森則男，植田美穂，木本晶子，山崎加奈枝，小田康友：自己主導型学修への適応状態に関する医学科生の自己評価．第56回日本医学教育学会大会．2024，8，9-10.

地方規模の学会

1 坂本麻衣子：神経心理学の基礎から応用－検査結果をこころのケアに役立てるために－．沖縄県公認心理師協会特別研修会．2024，3，24.

2 山下　駿：ワークショップ1『宮崎県立宮崎病院総合診療科 case conference』．日本プライマリ・ケア連合学会第18回九州支部総会・学術大会．2024，1，20-21.

3 溝口ゆかり，尾形善康，松尾宗明：当科で経験した Pachydermodactyly の 2 例．第67回九州リウマチ学会．2024，3，2-3.

4　溝口ゆかり，山下　駿，張　雨萌，熊本　崇，松尾宗明：シミュレーター実習開始前後での臨床実習生の意識変化．第221回日本小児科学会長崎地方会・第97回佐賀小児科地方会合同地方会．2024，7，21.

5　溝口ゆかり，納所哲也，張　雨萌，江原元気，森田　駿，熊本　崇，尾形善康，松尾宗明：医学生に小児科の魅力を伝える：佐賀大学の取り組み．第77回九州小児科学会．2024，11，16-17.

6　○常陸顕悟，磯田広史，今泉龍之介，東本陽果，野村理沙，中西那月，江口眞子，原なぎさ，井上香，大枝　敏，江口有一郎，高橋宏和：拠点病院の医学生の肝炎アラートへの対応状況と今後の活動について．第45回日本肝臓学会東部会．2024，12，6-7.

7　井手則子，西　知世，石瀬裕子，本村　壮，山下　駿，徳島圭宜，香月尚子，相原秀俊，藤原元嗣，多胡雅毅：頭部 MRI 検査が正常であった維持透析患者のウェルニッケ脳症．日本内科学会第346回九州地方会．2024，8，31.

その他の学会

1　○花田嵩史，山下　駿，大石　透，相原秀俊，多胡雅毅：重症熱性血小板減少症候群（SFTS）を契機に重篤な経過を辿った一例．第52回佐賀総合診療ケースカンファレンス．2024，11，13.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
教　授	小田　康友	科学研究費	基盤(C)	1	遠隔・対面融合型能動的学修における学生の学修活動と成果，適応状態に関する研究	650
教　授	小田　康友	研究拠点形成費等補助金	ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業	2	ER 型救急・総合診療に対応できる医師育成のためのプログラム開発	11,000
教　授	小田　康友	研究拠点形成費等補助金	高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成促進支援）	1	自律持続型高度学術研究・臨床教育拠点の構築―屋根瓦式研究教育の早期導入による循環型人材育成―	40,000
准教授	坂本麻衣子	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	行動指標に着目した VR 版 HIV 関連神経認知障害（HAND）スクリーニング検査の開発	1,040
准教授	坂本麻衣子	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	救急集中治療室に入室した患者家族のメンタルヘルス構築に向けた縦断的研究	39
准教授	坂本麻衣子	科学研究費助成事業	基盤研究(B)	2	ノイズ前庭電気刺激による新たな転倒予防法を確立するための包括的研究	130
准教授	福森　則男	科学研究費助成事業	2020年度若手研究	1	医学生の自己主導型能力と診察参加型臨床実習中の学習行動および学修評価との関連	0
特　任 准教授	山下　　駿	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）	（若手研究）	1	熱源不明の症例に対する感染性心内膜炎予測スコアの外部検証：多施設前向き観察研究	2,080

学術（学会）賞

職　名	氏　名	学術（学会）賞名	受　賞　課　題
特　任 准教授	山下　　駿	第37回内科学会奨励賞	感染性心内膜炎予測モデルの精度向上研究：多施設後ろ向き症例対照研究

先端医学研究推進支援センター

分子生命科学支援グループ

総　　説

1 ○出原賢治，布村　聡，南里康弘，本田裕子：アレルギー疾患におけるプレシジョン・メディシンを目指した取り組み．日本臨床検査医学会誌．72(8)：677-682．2024，8.

学会発表

国際規模の学会

1　Yuko Honda, Satoshi Nunomura, Yasuhiro Nanri, Mao kodera, Hiroki Matushara, Katsuyo Ohashi-Doi, Kenji Izuhara: Effects of topical JAK inhibitor on skin inflammation and itching in FADS mouse. EAACI Congress 2024. 2024, 5, 31-6, 3.

国内全国規模の学会

1　本田裕子，布村　聡，南里康弘，大澤ひかる，田中友佳子，小寺真央，松原弘季，土井雅津代，出原賢治：アトピー性皮膚炎モデルマウスに対するデルゴシチニブの作用機序解析．第73回日本アレルギー学会学術大会．2024，10，18-20.

2 ○布村　聡，南里康弘，本田裕子，武富啓展，北島　勲，松田　彰，出原賢治：アトピー性角結膜炎モデルマウスにおけるペリオスチンの役割とαVβ3インテグリン阻害剤の効果．第73回日本アレルギー学会学術大会．2024，10，18-20.

3 ○大澤ひかる，田中友佳子，布村　聡，本田裕子，南里康弘，小寺真央，松原弘季，土井雅津代，出原賢治：アトピー性皮膚炎モデルマウスに対するステロイド薬の作用についての検討．第73回日本アレルギー学会学術大会．2024，10，18-20.

4 ○田中友佳子，大澤ひかる，布村　聡，本田裕子，南里康弘，小寺真央，松原弘季，土井雅津代，出原賢治：アトピー性皮膚炎モデルマウスにおけるペリオスチン非依存性の炎症とそう痒の解析．第73回日本アレルギー学会学術大会．2024，10，18-20.

地方規模の学会

1　本田裕子，布村　聡，南里康弘，小寺真央，松原弘季，土井雅津代，出原賢治：アトピー性皮膚炎モデルマウスを用いたデルゴシチニブの作用機序解析．第６回日本アレルギー学会 九州・沖縄支部地方会．2024，2，17.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
教務員	本田　裕子	科学研究費補助金助成事業	基盤研究(B)	2	２型炎症メディエーターによるアトピー性皮膚炎における痒みのネットワークの解明	100
教務員	本田　裕子	科学研究費補助金助成事業	基盤研究(C)	2	全身性強皮症におけるSOX11を基軸とした新規線維化機序の解明と新たな治療戦略の構築	50

学術（学会）賞

職　名	氏　名	学術（学会）賞名	受　賞　課　題
教務員	本田　裕子	EAACI Congress 2024 Abstract Prize	Effects of topical JAK inhibitor on skin inflammation and itching in FADS mouse

社会医学支援グループ

原著論文

1 ○Iwasaka C, Yamada Y, Nishida Y, Hara M, Yasukata J, Miyoshi N, Shimanoe C, Nanri H, Furukawa T, Koga K, Horita M, Higaki Y, Tanaka K: Association Between the Appendicular Extracellular-to-Intracellular Water Ratio and All-Cause Mortality: A 10-Year Longitudinal Study. J. Gerontol. Ser. A-Biol. Sci. Med. Sci. 79 (2): 1-8, 2024.

2 ○Nishida Y, Hara M, Taguchi N, Nakamura K, Nanri H, Imaizumi T, Sakamoto T, Shimanoe C, Horita M, Furukawa T, Iwasaka C, Shinchi K, Higaki Y, Tanaka K: Association between physical activity and the N-terminal pro-brain natriuretic peptide in a middle-aged Japanese population: The interaction with alcohol consumption, 2005-2006. Prev. Med. 189: 108138, 2024, 12.

学会発表

国際規模の学会

1 ○Nishida Y, Hara M, Taguchi N, Iwasaka C, Furukawa T, Shimanoe C, Horita M, Higaki Y, Tanaka K: Interaction of physical activity with VTI1A and TCF7L2 polymorphisms on colon and breast cancer incidences in a Japanese general population. World Congress of Epidemiology 2024 (WCE2024). 2024, 9, 24-27. World Congress of Epidemiology 2024: O2-17 Genetic epidemiology.

国内全国規模の学会

1 ○西田裕一郎，原めぐみ，田口尚人，岩坂知治，古川拓馬，島ノ江千里，堀田美加子，檜垣靖樹，田中恵太郎：大腸がん・乳がん罹患リスクに対する身体活動とVTI1A・TCF7L2遺伝子多型の交互作用．第34回日本疫学会学術総会．2024，1，31-2，2.

2 ○山田剛暉，西田裕一郎，堀田美加子，河本和裕，前田康行，土器屋美貴子，原めぐみ，松本明子：血清の酸化ストレス指標のダウンスケール測定法の確立．第94回日本衛生学会学術総会．2024，3，7-9.

3 ○大野憲五，竹下直美，池田知哉：硫黄島戦没者遺骨収集派遣における遺骨鑑定例．第108次日本法医学会学術全国集会．2024，6，5-7.

4 ○川久保善智，竹下直美，大野憲五，波田野悠夏：相同モデルを応用した伝石田三成の中顔部復元．第78回日本人類学会大会．2024，10，12-14.

5 ○大野憲五，川久保善智，竹下直美，池田知哉：弥生時代人と古墳時代人の頭蓋顔面形態比較．第78回日本人類学会大会．2024，10，12-14.

地方規模の学会

1 ○池田知哉，竹下直美，大野憲五：劇症型溶血性レンサ球菌感染症の1剖検例．第74回日本法医学会学術九州地方集会．2024，10，18.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研　究　課　題　等	交付金額（千円）
技術専門職員	竹下　直美	科学研究費	基盤研究(C)（一般）	2	百年ぶりに発見された石田三成頭蓋の石膏レプリカに基づく復顔	350

病因病態科学支援グループ

原著論文

1　佐久本孟寿，成田貴行，森戸小百合，西山めぐみ，橋口真理子，三根夢花，岩本脩平，戸田修二，青木茂久：Novel cell spheroid culture method using Medaka dried fish powder. Heliyon, Volume 10, Issue 19, e38418, 2024, 2024.

症例報告

1　三根夢花，甲斐敬太，北村　捷，川﨑佳奈子，山内盛泰，馬塲耕一，倉富勇一郎，能城浩和，末岡榮三朗，相島慎一：後腹膜に嚢胞状転移巣を形成した，非常に稀な顎下腺腺様嚢胞癌の1例．日本臨床細胞学会九州連合会雑誌．55巻 Page47-51，2024，7.

学会発表

国内全国規模の学会

1　三根夢花，北村　捷，甲斐敬太，上瀧さやか，中村光男，有働和馬：胸水中に好酸性細胞質封入体を有する腫瘍細胞を認めた膀胱尿路上皮癌の胸膜播種の1例．第63回日本臨床細胞学会秋期大会．2024，11，16-17.

2　佐久本孟寿，森戸小百合，西山めぐみ，青木茂久：肺癌における微小環境の役割とその制御機構の解明．第113回日本病理学会総会．2024，3，28-30.

地域医療支援グループ

学会発表

国内全国規模の学会

1　一ノ瀬浩幸，富永広貴：医学科初年度学生に対する力と運動についての概念調査および科学的推論力調査 III．日本物理学会2024年春季大会（物性）．2024，3，18-21.

地方規模の学会

1　一ノ瀬浩幸，富永広貴：医学科学生における物理講義前後での力学概念理解度の調査 III．第130回日本物理学会九州支部会．2024，11，16.

看護学科

統合基礎看護学講座

基礎看護学領域

原著論文

1 Orihashi R, Imamura Y, Kunitake Y, Mizoguchi Y: Correlation between brain-derived neurotrophic factor and oxytocin in older adults. Archives of Gerontology and Geriatrics Plus. 1(4): 100059, 2024, 12.

2 Orihashi R, Imamura Y, Mizoguchi Y: Association between sTREM2, an immune biomarker of microglial activation, and frontal lobe function in community-dwelling older adults: a cross-sectional study. Journal of Rural Medicine. 19(3): 186-191, 2024, 7.

3 Shibayama K, Furushima C, Saka M, Sakamoto T, Takahashi H: Barriers to lifestyle modification in patients with non-alcoholic fatty liver disease: a scoping review. Journal of rural medicine, 19(1), 1-9, 2024, 1.

総　　説

1 Orihashi R, Mizoguchi Y: Oxytocin for maintaining mental health in older adults: Archives of Gerontology and Geriatrics Plus. 1(4): 100090, 2024, 12.

学会発表

国際規模の学会

1 Furushima C, Fukuyama Y, Sakamoto T, Shibayama K: Skin Care for Patients with Heart Failure: Assessment of Skin Conditions in Outpatients with Heart Failure. 13th Asian Society of Human Services Congress. 2024, 8, 23. 13th Asian Society of Human Services Congress Proceeding.

国内全国規模の学会

1 *新地浩一，柴山　薫，松永妃都美，石橋秋奈，野中良恵，南嶋里佳，田中沙恵，福山由美：佐賀大学大学院における多職種連携をめざした実践的な災害看護教育の紹介 国内外における Civilian-Military Collaboration の実践経験．第29回日本災害医学会総会学術集会．2024，2，22-24.

2 柴山　薫，坂美奈子，坂本貴子，矢田ともみ，江口有一郎，高橋宏和：非アルコール性脂肪性肝疾患患者における健康的行動継続のための「機会」に着目した支援の方策．第60回日本肝臓学会総会．2024，6，13-14.

3 *福田清子，坂本貴子，柴山　薫：卒後２年目看護師の看護実践能力に関係する他者支援の検討．第26日本医療マネジメント学会学術集会．2024，6，21-22.

4 楢﨑陽子，坂本貴子，柴山　薫，平田歌織：管理職に必要な概念化能力に関する文献検討．第28回日本看護管理学会学術集会．2024，8，23-24.

5 中野芳江，坂本貴子，柴山　薫，平田歌織：病院に勤務する教育責任者の役割行動に関する文献検討．第28回日本看護管理学会学術集会．2024，8，23-24.

6 *坂美奈子，坂本貴子，柴山　薫：熟練看護教員の授業構築における複合的知識．第44回日本看護科学学会学術集会．2024，12，7-8.

7　坂本貴子，柴山　薫，坂美奈子，福田広美：看護師長のインナーワークライフ形成につながる上司から受ける支援に関する文献レビュー．第44回日本看護科学学会学術集会．2024，12，7-8.

8　*秋永和之，柴山　薫，髙橋公一，高野佳範，矢野潔子：情報伝達がどこまで信じるべきか？～同じ時間・場所で同一動画を視聴した場合～．第44回日本看護科学学会学術集会．2024，12，7-8.

9　福山由美，堀口奈緒子，古島智恵：高齢者施設における排泄ケア介入研究の文献レビュー．第29回日本在宅ケア学会学術集会．2024，8，24-25.

10　古島智恵，福山由美，坂本貴子，柴山　薫：外来心不全患者の掻痒の有症率および影響因子の検討．第22回日本看護技術学会学術集会．2024，10，26-27.

11　*堀口奈緒子，福山由美，江里口八千代，上野幸子，古島智恵：施設における認知症高齢者の排便ケアに関するスコーピングレビュー．第29回日本在宅ケア学会学術集会．2024，8，24-25.

地方規模の学会

1　折橋隆三，藤野成美，溝口義人：地域在住の高齢者における BDNF とオキシトシンの相関関係．第76回九州精神神経学会．2024，11，28-29.

2　柴山　薫，坂本貴子：医療施設における動機づけ面接に関する文献検討．日本医療マネジメント学会 第21回九州山口連合大会．2024，12，6-7.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
助　教	折橋　隆三	科学研究費助成事業	若手研究	1	高齢者の認知機能低下発現を予測するバイオマーカーの開発	910 (700)
助　教	平田　歌織	科学研究費助成事業	研究活動スタート支援	1	精神疾患合併妊婦のリカバリーと母親役割獲得を促す看護モデル開発にむけた基礎研究	520
講　師	柴山　　薫	科学研究費助成事業	若手研究	1	非アルコール性脂肪肝疾患（NAFLD）患者の生活改善を促す教材開発と検証	1170
講　師	柴山　　薫	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	心不全患者の掻痒感緩和に向けた看護技術の確立と効果検証	50
講　師	柴山　　薫	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	中小規模病院に勤務する看護師長のパフォーマンス向上支援モデルの開発	50
准教授	古島　智恵	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	心不全患者の掻痒感緩和に向けた看護技術の確立と効果検証	1,170
准教授	坂本　貴子	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	中小規模病院に勤務する看護師長のパフォーマンス向上支援モデルの開発	3,250
准教授	坂本　貴子	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	TEA とイマジネーションが拓く文化を創造する看護教員の力量形成プログラム開発	50
准教授	坂本　貴子	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	看護師のワーク・エンゲイジメントを向上させるためのプログラム開発	50

※（　）は繰越金で外数

学術（学会）賞

職　名	氏　名	学術（学会）賞名	受　賞　課　題
准教授	古島　智恵	日本看護技術学会第22回学術集会優秀演題	外来心不全患者の掻痒の有症率および影響因子の検討

臨床機能形態学領域

原著論文

1 *Murata M, Sugimoto M, Ueshima S, Nagami Y, Ominami M, Sawaya M, Nakatani Y, Furumoto Y, Dohi O, Sumiyoshi T, Fukuzawa M, Tsuji S, Miyahara K, Takeuchi Y, Suzuki S, Tominaga N, Yagi N, Osawa S, Sakata Y, Yamada T, Yoshizawa Y, Yamauchi A, Yamamura T, Orihara S, Mi-

yamoto S, Matsuda S, Hira D, Terada T, Katsura T, Gotoda T, Fujishiro M, Kawai T: Association of direct oral anticoagulant and delayed bleeding with pharmacokinetics after endoscopic submucosal dissection. Gastrointest Endosc. 2024. 99(5): 721-731. e4. doi: 10.1016/j.gie, 2023, 12.

2 *Makuuchi M, Kakuta Y, Umeno J, Fujii T, Takagawa T, Ibuka T, Miura M, Sasaki Y, Takahashi S, Nakase H, Kiyohara H, Tominaga K, Shimodaira Y, Hiraoka S, Ueno N, Yanai S, Yoshihara T, Kakimoto K, Matsuoka K, Hayashi R, Nanjo S, Iwama I, Ishiguro Y, Chiba H, Endo K, Kagaya T, Fukuda T, Sakata Y, Kudo T, Takagi T, Takahashi K, Naganuma M, Shinozaki M, Ogata N, Tanaka H, Narimatsu K, Miyazaki H, Ishige T, Onodera M, Hashimoto Y, Nagai H, Shimoyama Y, Naito T, Moroi R, Shiga H; Post-MENDEL study group; Kinouchi Y, Andoh A, Hisamatsu T, Masamune A: Real-world NUDT15 genotyping and thiopurine treatment optimization in inflammatory bowel disease: a multicenter study. J Gastroenterol. 2024 59(6): 468-482. doi: 10.1007/s00535-024-02099-7, 2024, 6.

総　　説

1　坂田資尚，江﨑幹宏：【大腸の炎症を内視鏡で診る】Crohn 病の内視鏡診療 内視鏡による治療効果の判定と再燃予測．消化器内視鏡 36巻11号 p1532-1535，2024，11.

2　坂田資尚，江﨑幹宏：【感染症を鑑別したあとは？非感染性腸炎を見極める！】非感染性腸炎の由来から見極める 薬剤や治療によりきたす医原性の腸炎．診断と治療 112巻３号 p284-288，2024，3.

3 *藤城光弘，井口幹崇，小野敏嗣，舩坂好平，坂田資尚，三上達也，片岡幹統，島岡俊治，道田知樹，五十嵐良典，田中信治：日本消化器内視鏡学会 非静脈瘤性上部消化管出血における内視鏡診療ガイドライン（第２版）．Gastroenterological Endoscopy 66巻７号 p1515-1538，2024，7.

症例報告

1 ○Takedomi H, Fukuda K, Inoue S, Tsuruoka N, Sakata Y, Aoki S, Esaki M: Combined eosinophilic gastroenteritis and ulcerative colitis successfully treated by vedolizumab: a case report. Intest Res. 2024 doi: 10.5217/ir.2024.00013, 2024, 8.

学会発表

国内全国規模の学会

1 ○鶴岡ななえ，坂田資尚，垣内俊彦：若年者除菌その後 Helicobacter pylori 除菌療法成功後に発見された若年発症進行胃癌の一例．第30回日本ヘリコバクター学会学術集会．2024，6，21.

2 ○武富啓展，鶴岡ななえ，坂田資尚，青木茂久，江﨑幹宏：ベドリズマブが奏功した潰瘍性大腸炎に合併した好酸球性胃腸炎の１例．第７回アレルギー消化器疾患研究会．2024，9，7.

地方規模の学会

1 *遠藤広貴，水口昌伸，藤本一眞，鶴岡ななえ，坂田資尚，下田　良，中原　伸，朝長道生，松本洋二，野田隆博，後藤祐大，梶原哲郎，原田良策，森山幹夫，下田悠一郎，緒方伸一，江崎幹宏：佐賀県対策型胃内視鏡検診導入６年目（令和４年度）の結果報告．第53回日本消化器がん検診学会九州地方会．2024，9，28.

2 ○鶴岡ななえ，貞島健人，武富啓展，芥川剛至，坂田資尚，真鍋達也，江﨑幹宏：当院におけるクローン病肛門病変の現状．大腸肛門病学会・九州地方会．2024，9，21.

その他の学会

1　坂田資尚：慢性便秘症治療における薬剤の使い分け．便通異常症診療ガイドライン2023インターネットライブセミナー．2024，1，24.
2　坂田資尚：上部消化管疾患に対する漢方治療．宇佐市消化器病懇親会．2024，5，16.
3　坂田資尚：UC 治療の UpToDate．第 1 回筑後消化管 Seminar．2024，5，15.
4　坂田資尚：佐賀県における対策型内視鏡検診の現状～年次報告～．第171回佐賀県胃癌大腸癌検診医会研修会．2024，3，9.
5　坂田資尚：炎症性腸疾患の最新治療について．佐賀 IBD 縁笑会．2024，7，7.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
教　授	坂田　資尚	科学研究費補助金	基盤研究 ©	1	潰瘍性大腸炎慢性化機序の解明と新たな治療戦略の構築	1,100

精神看護学領域

原著論文

1　*菊池洋子，藤野成美，古野貴臣，藤本裕二：1 型糖尿病患児を療育する親のストレス反応に関連する要因．日本在宅看護学会誌，12(2)：5-14，2024，3.
2　Yuichi Iwamoto, Narumi Fujino, Takaomi Furuno, Yuji Fujimoto, Yuki Kamada: Applicability of the Self-Evaluation Scale of Nursing Practices for Improving Sleep Quality Among Patients with Dementia Taking Sleeping Pills to General Nurses. Journal of the Japanese Association of Rural Medicine, 19(2): 92-104, 2024, 4.
3　藤本裕二，楠葉洋子，松浦江美，古野貴臣，藤野成美：地域で生活する統合失調症当事者の身体活動量とリカバリーとの関連．医学と生物学，164(3)：1-9，2024，8.
4　*鎌田ゆき，藤野成美，古野貴臣，藤本裕二，岩本祐一：児童・思春期精神科訪問看護実践における看護師の視点－精神科訪問看護師のインタビュー調査に基づいて－．日本精神保健看護学会誌，33(2)：50-58，2024，11.

学会発表

国内全国規模の学会

1　*佐保直子，古野貴臣，藤本裕二，岩本祐一，上岡奈美，藤野成美：精神科看護職のプレゼンティズムに関連する要因．日本精神保健看護学会 第34回学術集会．2024，6，1-2.
2　*脇崎裕子，古野貴臣，藤本裕二，藤野成美：認知症高齢者の認知症症状および ADL ベンゾジアゼピン系薬剤内服有無による比較．第44回日本看護科学学会学術集会．2024，12，7-8.
3　*鎌田ゆき，藤野成美，古野貴臣，岩本祐一，藤本裕二，平原直子：母親による学齢期発達障害児の虐待予防に介入した経験を有する精神科訪問看護師の看護実践．第44回日本看護科学学会学術集会．2024，12，7-8.

地方規模の学会

1　*緒方颯希，林　　愛，柿本実穂，宮崎あゆみ，藤野成美：要介護認知症高齢者に対する携帯型エ

コーを用いたコンチネンスケア．第69回九州精神医療学会．2024，11，28-29.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
教　授	藤野　成美	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	社会的ハイリスク妊婦へのヘルスリテラシー向上にむけた支援モデルの開発	100
准教授	藤本　裕二	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	VBP に基づく共同創造による精神障がい者のパーソナルリカバリー支援モデルの開発	780
教　授	藤野　成美	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	BPSD により精神科病院に入院中の認知症者に対する多職種コンチネンスケアモデル開発	300
准教授	藤本　裕二	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	BPSD により精神科病院に入院中の認知症者に対する多職種コンチネンスケアモデル開発	200
准教授	藤本　裕二	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	民間精神科看護師の看護実践能力の現状及びリカバリーに関する研修プログラムの構築	26

在宅看護学領域

原著論文

1 *鎌田ゆき，藤野成美，古野貴臣，藤本裕二，岩本祐一：児童・思春期精神科訪問看護実践における看護師の視点－精神科訪問看護師のインタビューに基づいて－．日本精神保健看護学会誌 33巻2号 p. 50-58，2024.

2 ○藤本裕二，楠葉洋子，松浦江美，古野貴臣，藤野成美：地域で生活する統合失調症者の身体活動量とリカバリーとの関連．医学と生物学 164巻3号，2024.

3 *Yuichi Iwamoto, Narumi Fujino, Takaomi Furuno, Yuji Fujimoto, Yuki Kamada: Applicability of the Self-Evaluation Scale of Nursing Practices for Improving Sleep Quality Among Patients with Dementia Taking Sleeping Pills to General Nurses. Journal of Rural Medicine 19(2): 92-104, 2024.

4 *菊池洋子，古野貴臣，藤本裕二，藤野成美：1型糖尿病患児を療育する親のストレス反応に関連する要因．日本在宅看護学会誌 12(2) p. 5-14，2024.

学会発表

国際規模の学会

1 Chie Furushima, Yumi Fukuyama, Takako Sakamoto, Kaoru Shibayama: Skin Care for Patients with Heart Failure: Assessment of Skin Conditions in Outpatients with Heart Failure. 13th Asian Society of Human Services Congress. 2024, 8, 23. 13th Asian Society of Human Services Congress Proceeding.

国内全国規模の学会

1　脇崎裕子，古野貴臣，藤本裕二，藤野成美：認知症高齢者の認知症症状および ADL におけるベンゾジアゼピン系薬剤内服の有無による比較．第44回日本看護科学学会学術集会．2024，12，7-8.

2　鎌田ゆき，藤野成美，古野貴臣，岩本祐一，藤本裕二，平原直子：母親による学齢期発達障害児の虐待予防に介入した経験を有する精神科訪問看護師の看護実践．第44回日本看護科学学会学術集会．2024，12，7-8.

3　*佐保直子，古野貴臣，藤本裕二，岩本祐一，上岡奈美，藤野成美：精神科看護職のプレゼンティズムに関連する要因．第34回日本精神保健看護学会学術集会．2024，6，1-2.

4　*秋山明子，福山由美：農業活動が健康増進に与える影響に関する文献検討．第73回日本農村医学会学術総会．2024，6，14-15.

5　○新地浩一，柴山　薫，松永ひとみ，石橋秋奈，野中良恵，南島里佳，田中紗恵，福山由美：佐賀大学大学院における多職種連携をめざした実践的な災害看護教育の紹介―国内外における Civilian-Military Collaboration の実践経験―．第29回日本災害医学会総会・学術巣湯会．2024，2，22-24.

6　堀口奈緒子，福山由美，江里口八千代，上野幸子，古島智恵：施設における認知症高齢者の排便ケアに関するスコーピングレビュー．第29回日本在宅ケア学会学術集会．2024，8，24-25.

7　福山由美，堀口奈緒子，古島智恵：高齢者施設における排泄ケア介入研究の文献レビュー．第29回日本在宅ケア学会学術集会．2024，8，24-25.

8　古島智恵，福山由美，坂本貴子，柴山　薫：外来心不全患者の掻痒の有症率および影響因子の検討．第22回日本看護技術学会．2024，10，26-27.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
講　師	古野　貴臣	日本学術振興会 科学研究費助成事業	若手研究	1	ハームリダクションを基盤とした独居高齢者に対する節酒支援モデルの開発と検証	1,560
講　師	古野　貴臣	日本学術振興会 科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	VBP に基づく共同創造による精神障がい者のパーソナルリカバリー支援モデルの開発	26
講　師	古野　貴臣	日本学術振興会 科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	VBP に基づく共同創造による精神障がい者のパーソナルリカバリー支援モデルの開発	13
講　師	古野　貴臣	日本学術振興会 科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	BPSD により精神科病院に入院中の認知症者に対する多職種コンチネンスケアモデル開発	50
准教授	福山　由美	日本学術振興会 科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	在宅看護・介護者に向けたハイブリッド型教育・相談支援体制の構築とその評価	650
准教授	福山　由美	日本学術振興会 科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	心不全患者の掻痒感緩和に向けた看護技術の確立と効果検証	130
准教授	福山　由美	令和 6 年度 JA 共済連委託研究		2	農業活動を介護予防・健康維持の資源として活用するための要件の検討	400
准教授	福山　由美	日本学術振興会 科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	地震・津波及び風水害を想定した防災・避難シミュレーションゲームの開発と評価	100

臨床心理学領域

著　　書

1　村久保雅孝：私の時間／私と増井先生の時間．私の治療的面接の世界とスーパーバイズ 第Ⅱ部 133-141，2024，9，創元社，大阪.

生涯発達看護学講座

母性看護・助産学領域

原著論文

1　中里有加，石丸　絢，藤岡(田中)奈美：出産後の母乳育児状況と授乳トラブルへのセルフケア―1施設における産後 6 か月間の縦断調査から，母性衛生，65(1)：98-104，2024，4.

学会発表

国際規模の学会

1 *Emi Nagano, Nami Tanaka, Kanae Tani, Katuyo Ishibashi, Akira Tsuda: Analysis of the Difficulties Faced by Nurses in Preventive Care for Children with Medical Complexity Using Text Mining: Focusing on Medical Device-Related Pressure Ulcers. National and International academic Confarence of 2024. 23-25 January 2024.

国内全国規模の学会

1 ○佐藤珠美，中野理佳：非妊時尿失禁経験者の妊娠から産後12か月までの尿失禁の保有状況と特徴．日本助産学会．2024，10，5-6.

2 ○佐藤珠美，坂本飛鳥，中野理佳：乳児の抱っこに伴う不良姿勢と QOL．日本母性衛生学会．2024，10，18-19.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研　究　課　題　等	交付金額（千円）
准教授	中野　理佳	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	母親の抱っこ時の身体不調を予防するための遠隔姿勢評価・支援システムの開発	200

小児看護学領域

著　　書

1 鈴木智恵子：小児看護学の教育 DX 化に伴う技術教材の教育的意義．小児看護 巻頭ページ，2024，4，医学書院，東京.

原著論文

1 米満　潔，菊原美緒，中野理佳，榊原　愛，佐藤珠美，大坪美由紀，鈴木智恵子：看護分野における，高度なデジタルコンテンツ制作技術を必要としない VR 教材制作手法の提案．佐賀大学全学教育機構紀要．2024，4.

2 山津幸司，鈴木智恵子：災害避難所への一時的な宿泊が睡眠に及ぼす影響：ウェアラブル端末を用いた探索的研究．九州地区国立大学教育系・文系研究論文集，2024，1.

総　　説

1 松本　恵，佐々木規子，岩井美奈代，大畑尚子，川野純子，川野奈々江，柊中智恵子，鈴木智恵子，田浦裕三子，塚谷延枝：地域活性化委員会九州・沖縄地区の活動報告，日本遺伝カウンセリング学会，Jul-24.

学会発表

国際規模の学会

1 佐藤　彩，鈴木智恵子，鈴木礼子：スクリーンタイムと朝食欠食及び日本型食生活～佐賀県の学童における横断研究～．日本体力医学会．2024，9.

2 岡村祐一，鈴木智恵子，矢田幸博：離島在住高齢女性を対象としたサルコペニア調査からみえてきた判定基準の課題．日本体力医学会．2024，9.

国内全国規模の学会

1　大坪美由紀，髙橋浩一郎，在津正文，鈴木智恵子：アレルギー疾患の移行支援に関する医療従事者の認識調査．第73回日本アレルギー学会学術大会．2024，10，18-20.

2　○米満　潔，大坪美由紀，鈴木智恵子，菊原美緒，田仲浩平：０次元コンピュータグラフィックスを専門としない教職員等に向けたデジタルツイン構築方法の考察．教育システム情報学会．2024，8.

3　○米満　潔，大坪美由紀，鈴木智恵子，菊原美緒，田仲浩平：１次元コンピュータグラフィックスを専門としない教職員等に向けたデジタルツイン構築方法の考察．教育システム情報学会．2024，8.

4　菊原美緒，木村莉理，豊崎駿佑，宇治田さおり，鈴木智恵子，米満　潔，田仲浩平，小松川浩：ゴールベースシナリオを用いた看護教育の文献検討．第17回 IT ヘルスケア学会学術大会．2024，8，31.

5　佐藤　彩，佐藤ゆき，鈴木智恵子，鈴木礼子：睡眠時間，起床時刻，就寝時刻と朝食欠食及び日本型食生活－佐賀県の学童における横断研究．第78回日本体力医学会．2024，9，3.

6　佐藤　彩，鈴木智恵子，鈴木礼子：スクリーンタイムと朝食欠食及び日本型食生活～佐賀県の学童における横断研究～．日本公衆衛生学会．2024，10，31.

7　岡村祐一，鈴木智恵子，矢田幸博：離島在住高齢女性を対象としたサルコペニア調査からみえてきた判定基準の課題．第78回日本体力医学会．2024，9，2.

8　鈴木智恵子，米満　清，菊原美緒，合田友美，田仲浩平，ウイリアムソン彰子，水戸優子，本間典子，高島真美，鮫島輝美：「看護に役立つデジタル技術～デジタルって何だろう？」．日本看護科学学会学術大会テーマセッション．2024，12.

9　鮫島輝美，合田友美，本間典子，菊原美緒，水戸優子，鈴木智恵子，高島真美，田仲浩平，ウイリアムソン彰子，米満　潔：医療技術教育における AR 教材・VR 教材が開く新たな教育演習空間の発見．日本看護科学学会学術大会ポスター発表．2024，12.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
助　教	大坪美由紀	文科省科学研究費	基盤研究(C)	1	気管支喘息のトランジションに向けた教育支援プログラム開発と検証	100
助　教	大坪美由紀	令和５年度河川砂防技術研究開発公募河川技術／流域管理分野	【提案型課題（流域課題）】	1	早期避難ができる住民への行動変容と避難所における住民へのサポートができる人材育成のための XR 教育プログラム構築	2,950
助　教	大坪美由紀	文科省科学研究費	基盤研究(C)	2	XR を用いた災害支援ができる看護人材育成プログラム構築	50
助　教	大坪美由紀	TSUNAGI プロジェクト		2	女子中学生アスリート支援プロジェクト研究	1,297
教　授	鈴木智恵子	文科省科学研究費	基盤研究(C)	1	気管支喘息のトランジションに向けた教育支援プログラム開発と検証	70
教　授	鈴木智恵子	令和５年度河川砂防技術研究開発公募河川技術／流域管理分野	【提案型課題（流域課題）】	1	早期避難ができる住民への行動変容と避難所における住民へのサポートができる人材育成のための XR 教育プログラム構築	295
教　授	鈴木智恵子	文科省科学研究費	基盤研究(C)	1	XR を用いた災害支援ができる看護人材育成プログラム構築	760
教　授	鈴木智恵子	文科省科学研究費	基盤研究(B)	2	教育 DX 化にともなう技術教材の教育的意義・活用の開発を目指したアクション・リサーチ	250
教　授	鈴木智恵子	文科省科学研究費	基盤研究(C)	2	XR（仮想空間技術）を活用した虐待予防教育プログラムの開発	70
教　授	鈴木智恵子	JST 研究成果展開事業（企業化開発・ベンチャー支援・出資）大学発新産業創出基金事業可能性検証 企業挑戦		1	効率的な災害看護教育実施のためのＸＲ技術の応用による教育システム開発とその事業可能性検証	3,000

急性期看護学領域（看護学教育研究支援センターを含む）

原著論文

1　山田春奈，古賀明美，川久保　愛，武富由美子：プレホスピタルケアに従事する看護師の首尾一貫感覚と多職種連携の実践能力との関連．日本看護研究学会雑誌，46(5)，839-847，2024，1.

2　川久保　愛，古賀明美，江口有一郎：看護教員による肝炎医療コーディネーター研修を活かした「慢性肝疾患患者への看護」に関する講義の教育効果．肝臓，65(4)：172-178，2024，4.

3 ○永渕美樹，藤井純子，南里　穂，安西慶三，古賀明美：佐賀県糖尿病コーディネート看護師の育成と活動の実際．日本糖尿病教育・看護学会誌，28(2)：85-91，2024，9.

4 ○石橋幸子，祖川倫太郎，緒方健二，松岡綾華，山田春奈，平地　徹，溝口義人，門司　晃，島ノ江千里：Association Between Antidiabetic Drugs and Delirium: A Study Based on the Adverse Drug Event Reporting Database in Japan．Clinical drug investigation，44(2)：115-120，2024，2.

学会発表

国際規模の学会

1　Takedomi Y, Tabuchi Y, Kumagai Y, Sakamoto M: Perceptions of the Role of Cancer Consultants at Regional Consultation Support Centers．27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS)．2024, 3, 6-7．2024EAFONS Programme Book Abstract No. 1138.

国内全国規模の学会

1　武富由美子，古賀明美，川久保　愛，松尾照美，山田春奈：重症患者の客観的睡眠評価における携帯型１チャンネル脳波計の有用性：予備調査研究．第44回日本看護科学学会学術集会．2024，12，7-8.

2 ○宮崎恵美子，古賀明美，武富由美子，山田春奈：ICU 在室中の不快感と退室２週間以内の不安および抑うつの関連．第20回日本クリティカルケア看護学会学術集会．2024，6，22-23.

3 ○松尾照美，古賀明美，武富由美子，川久保　愛，山田春奈：小型睡眠脳波計を用いた入室直後と呼吸循環が安定した時期における重症患者の睡眠の特徴．第51回日本集中治療医学会学術集会．2024，3，14-16.

4　山田春奈，藤田君支：脳卒中患者における口腔衛生状態と急性期合併症の肺炎との関連．第44回日本看護科学学会学術集会．2024，12，7-8.

5　山田春奈，祖川倫太郎，村川　徹，溝口義人，松岡綾華，品田公太，阪本雄一郎，古賀明美：プレホスピタルケアに従事する看護師の PTSD 発症および精神健康状態の実態と予測因子．第20回日本クリティカルケア看護学会学術集会．2024，6，22-23.

6 ○祖川倫太郎，西村　文，宮本由貴，松岡綾華，山田春奈，村川　徹，溝口義人，門司　晃，島ノ江千里：ベンゾジアゼピン系薬の使用下における併用薬剤のせん妄発症シグナルへの影響．第120回日本精神神経学会学術総会．2024，6，20-22.

7 ○品田公太，松岡綾華，祖川倫太郎，村川　徹，溝口義人，門司　晃，島ノ江千里，山田春奈，小網博之，阪本雄一郎：外傷患者の入院中の総医療費にせん妄が与える影響．第120回日本精神神経学会学術総会．2024，6，20-22.

8 ○松岡綾華，祖川倫太郎，村川　徹，溝口義人，門司　晃，島ノ江千里，品田公太，山田春奈，小網博之，阪本雄一郎：オレキシン受容体拮抗薬がせん妄持続期間に及ぼす影響の検証．第120回日本精神神経学会学術総会．2024，6，20-22.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
教　授	古賀　明美	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	集中治療室における重症患者の睡眠障害の解明ー脳波分析を用いた基礎的研究ー	650 (640)
教　授	古賀　明美	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	プレホスピタルケアに従事する看護師の PTSD 発症予防策の構築に向けた基礎的研究	50 (38)
教　授	古賀　明美	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	救急集中治療室に入室した患者家族のメンタルヘルス構築に向けた縦断的研究	0
准教授	武富由美子	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	救急集中治療室に入室した患者家族のメンタルヘルス構築に向けた縦断的研究	650
准教授	武富由美子	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	集中治療室における重症患者の睡眠障害の解明ー脳波分析を用いた基礎的研究ー	50
助　教	山田　春奈	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	プレホスピタルケアに従事する看護師の PTSD 発症予防策の構築に向けた基礎的研究	120
助　教	山田　春奈	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	救急集中治療室に入室した患者家族のメンタルヘルス構築に向けた縦断的研究	0

※（　）は繰越金で外数

慢性期看護学領域

原著論文

1　川久保　愛，古賀明美，江口有一郎：看護教員による肝炎医療コーディネーター研修を活かした「慢性肝疾患患者への看護」に関する講義の教育効果．肝臓，65，4，172-178，2024，4.

学会発表

国際規模の学会

1　Megumi Kawakubo, Yasuko Shimizu, Yuichiro Eguchi: Self-Care of Japanese Patients with Decompensated Cirrhosis. The 33rd Annual Meeting of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (APASL). 2024, 3, 27-31. Hepatology International Volume 18, Issue 1 supplement March 2024. S744.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
助　教	川久保　愛	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	多職種協働を促進する重度肝硬変患者に対する看護支援ガイドの開発	910
助　教	川久保　愛	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	集中治療室における重症患者の睡眠障害の解明－脳波分析を用いた基礎的研究－	0
助　教	川久保　愛	厚生労働行政推進調査事業費		2	多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成及びその活動の質の向上等に関する研究	300

老年看護学領域

原著論文

1 *Kanako Yakushiji, Satomi Tanaka, Harri Sintonen, Heidi Siira, Yuriko Matsunaga-Myoji, Yasuko Tabuchi, Pirjo Kaakinen, Maria Kääriäinen, Kimie Fujita: Psychometric properties of Japanese version 15D and cultural characteristics of quality of life undergoing patients with hip and knee arthroplasty. International journal of orthopaedic and trauma nursing. 55 101138-101138, 2024, 11.

2 *Yu Yamaguchi, Yuriko Matsunaga-Myoji, Kimie Fujita: Advanced practice nurse competencies to practice in emergency and critical care settings: A scoping review. International journal of nursing practice. 30(4): e13205, 2024, 8.

3 Kazuko Muroya, Yasuko Tabuchi, Yuki Kumagai, Maiko Sakamoto, Tsukasa Tajima: Factors Contributing to Well-Being in Japanese Community-Dwelling Older Adults Who Experienced Spousal Bereavement. Research in Gerontological Nursing 17(3), 2024, 3.

学会発表

国内全国規模の学会

1 松永由理子，田中さとみ，藤田君支：婦人科がん治療後で続発性リンパ浮腫がある患者の加速度計による座位行動・身体活動量の評価．第43回日本看護科学学会．2023，12.

2 *松村美奈，藤田君支，松永由理子：Exercise Self-Efficacy Scale（ESES）の日本語版の信頼性・妥当性の評価．第43回日本看護科学学会．2023，12.

地方規模の学会

1 *森園久美，田渕康子，室屋和子，鈴鹿綾子，中島洋子：新型コロナウィルス感染症対策による自粛生活の長期化が地域で暮らす高齢者へ与えた影響の実態．第36回日本看護研究学会 中国・四国地方会．2024，3，17.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
教　授	松永由理子	日本学術振興会 科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	日常生活におけるノンエクササイズアクティビティを測定する尺度の開発と検証	650
教　授	松永由理子	日本学術振興会 科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	COPD 患者の身体活動性向上へむけた集団参加型遠隔医療プログラムの構築	50
教　授	松永由理子	日本学術振興会 科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	慢性閉塞性肺疾患患者の自己管理能力における精神・心理的特性の実践的分析	0
客　員研究員	田渕　康子	日本学術振興会 科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	Dying process の効果的な説明に関するケアモデル開発	20

学術（学会）賞

職　名	氏　名	学術（学会）賞名	受　賞　課　題
教授, 客員研究員 （R 6 年 3 月～）	Kanako Yakushiji Kimie Fujita Yasuko Tabuchi Yuriko Matsunaga-Myoji Satomi Tanaka Masaaki Mawatari	日本看護科学学会 第23回学術論文奨励賞	Long-term health-related quality of life of total hip arthroplasty patients and cost-effectiveness analysis in the Japanese universal health insurance system.

公衆衛生看護学領域

原著論文

1　Rika Matsuo, Kimie Fujita, Mami Miyazono, Keiko Miyasaka, Tomi Yamanaka, Kanakako Yakushiji, Atsushi Nagai: Validating the short-version European Health Literacy Survey Questionnaire for community-dwelling older adults in Japan. Health promotion international, 39(4), daae105, 2024, 8.

2　田口友美：介護予防体操に促進する音楽を付加して行く中で理学療法士に生じた意識変化のプロセス～複線径路・等至性モデル（Trajectory Equifinality Model）による検討. 対人援助学研究学会誌, Vol. 15, 1-10, 2024, 4.

症例報告

1　*横山徹爾，茂木りほ，吹田　晋，守田孝恵，嶋津多恵子，山田小織，桐生育恵，小野聡枝，兼田雅代，谷本有美子：中堅期保健師におけるプリセプター支援の方法や管理期に向けた人材育成体制の検討. 令和 5 年度地域保健総合推進事業報告書，1-80，2024，3.

2　*松原三智子，山田小織，伊木智子，入野了士，草野恵美子，氏原将奈，塩川幸子，高橋郁子，田場真由美，萩原智代，岩本里織，大木幸子，滝澤寛子，長谷川美香：活動領域に拠らない共通の公衆衛生看護技術の明確化. 保健師教育 8(1)，18-30，2024，5.

3　松尾里香，宮園真美，宮坂恵子，山中　富，近松裕子，永井　淳：ヘルスリテラシー教育プログラムによる口腔ステータス向上の検討について．地域ケアリング 26(2)，48-50，2024，2.

学会発表

国際規模の学会

1　*Yoshiko S, Kumi A, Saori Y: National Survey of the Intake of Folic Acid Supplements by Japanese Women from Preconception to the End of Pregnancy, Report-1. 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS 2024). 2024, 3, 6-7. Abstract No. 1317.

2　Saori Y, Wakako M, Yusuke U, Haruka Y: Changes in Workers' Health Consciousness Toward Dietary Behavior Improvement Programs: Measurement of Urinary Na/K Ratio and Estimated Vegetable Intake Levels. 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS 2024). 2024, 3, 6-7. Abstract No. 1066.

3　Saori Y, Kazue M, Takae M, Mihoko K: Development of Start Book, a Human Resource Development Tool, for Newly Appointed Public Health Nurses and Preceptors. 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS 2024). 2024, 3, 6-7. Abstract No. 1076.

国内全国規模の学会

1　*福田知恵，山田小織：勤労男性における超音波骨密度と生活習慣の関連．第12回日本公衆衛生看護学会．2024，1，6-7.

2　田口友美，梅崎京子，井手絵里子，矢野利香：地域の失語症サロンにおける音楽療法の実践報告．第24回日本音楽療法学術大会．2024，9，28-29.

地方規模の学会

1　田口友美，峰松一茂，梅崎正博，辻　奈美：佐賀県における地域リハビリテーション支援活動に関与する理学療法士の実態調査．第31回佐賀県理学療法士学術大会，29ページ．2024，2，4.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
教　授	山田　小織	科学研究費	基盤研究(C)	1	保健師の保健事業評価遂行能力を高めるICT・シミュレーション教育プログラムの開発	780
教　授	山田　小織	科学研究費	基盤研究(C)	2	精神担当保健師のための「同僚と10分で困難事例対応能力を向上させる業務モデル」	0
教　授	山田　小織	科学研究費	基盤研究(C)	1	新人保健師の自己成長感獲得を目指した実用重視型プリセプターシッププログラムの開発	0
教　授	山田　小織	科学研究費	基盤研究(C)	2	公衆衛生看護（保健師）業務において個別課題から地域課題へ展開するOJTモデルの開発	300
教　授	山田　小織	科学研究費	基盤研究(C)	2	ICT活用のヘルスリテラシー教育プログラムによる口腔ステータス向上の看護介入	100
講　師	松尾　里香	科学研究費	基盤研究(C)	1	ICT活用のヘルスリテラシー教育プログラムによる口腔ステータス向上の看護介入	650
講　師	松尾　里香	科学研究費	基盤研究(B)	2	高齢者のオーラルフレイルを予防する在宅口腔ケア・アセスメントガイドラインの作成	0
講　師	松尾　里香	科学研究費	基盤研究(C)	2	保健師の保健事業評価遂行能力を高めるICT・シミュレーション教育プログラムの開発	100
助　教	田口　友美	科学研究費	基盤研究(C)	2	高齢者における筋硬度減少をめざすストレッチのメカニズム解明	100

附属病院

総　合　診　療　部

著　　書

1　案浦　峻，平川優香，多胡雅毅：４体重減少・食思不振 体重減少・食思不振を「スマート」に精査しよう！．内科外来診療の掟 診断力を上げる総合診療のアプローチ：25-33，2024，5，30，中外医学社，東京.

2　藤原元嗣，多胡雅毅：Case８ 繰り返す腹痛 原因不明の腹痛の場合に，確認しておきたいコト：みんなが知りたかった 悩める“痛み”のケーススタディ 痛みの臨床力アップのために，Ⅱ各論 見方を変えたら診断できた！：77-81，2024，9，26，診断と治療社，東京.

3　井手則子，山下　駿，多胡雅毅：25呼吸困難 呼吸困難への診断アプローチをマスターしよう！．内科外来診療の掟 診断力を上げる総合診療のアプローチ：206-213，2024，5，30，中外医学社，東京.

4　平田理紗，徳島圭宜，多胡雅毅：11胸痛 幅広い胸痛アプローチ common から critical まで．内科外来診療の掟 診断力を上げる総合診療のアプローチ：89-98，2024，5，30，中外医学社，東京.

5　平田理紗，多胡雅毅，藤原元嗣：Case19 体動時に必ず左臀部がチクチクと痛む「歩くときにお尻が痛い」それ，本当に整形疾患ですか？．みんなが知りたかった 悩める“痛み”のケーススタディ 痛みの臨床力アップのために，Ⅱ各論 見方を変えたら診断できた！：139-143，2024，9，26，診断と治療社，東京.

6　多胡雅毅，鋪野紀好：代表編者．内科外来診療の掟 診断力を上げる総合診療のアプローチ．2024，5，30，中外医学社，東京.

7　徳島圭宜，山下　駿，多胡雅毅：18しびれ 多様なしびれをスッキリと診断しよう．内科外来診療の掟 診断力を上げる総合診療のアプローチ：146-155，2024，5，30，中外医学社，東京.

8　山田脩斗，相原秀俊，多胡雅毅：27動悸 危険な動悸を察知し，対応できるようになろう．内科外来診療の掟 診断力を上げる総合診療のアプローチ：225-233，2024，5，30，中外医学社，東京.

原著論文

*Harada T, Watari T, Watanuki S, Kushiro S, Miyagami T, Syusa S, Suzuki S, Hiyoshi T, Hasegawa S, Nabeshima S, Aihara H, Yamashita S, Tago M, Yoshimura F, Kunitomo K, Tsuji T, Hirose M, Tsuchida T, Shimizu T: Preventable diagnostic errors of lower gastrointestinal perforation: a secondary analysis of a large-scale multicenter retrospective study. Int J Emerg Med, Vol. 17, No. 1: 192, 2024, 12, 20

1　Hirata R, Katsuki NE, Shimada H, Nakatani E, Shikino K, Saito C, Amari K, Oda Y, Tokushima M, Tago M: The Administration of Lemborexant at Admission is Not Associated with Inpatient Falls: A Multicenter Retrospective Observational Study. Int J Gen Med, Vol. 17: 1139-1144, 2024, 3, 25.

2　Hirata R, Katsuki NE, Yaita S, Nakatani E, Shimada H, Oda Y, Tokushima M, Aihara H, Fujiwara M, Tago M: Validation of the Saga Fall Injury Risk Model. Int J Med Sci, Vol. 21, No. 8: 1378-1384, 2024, 5, 19.

3　Hirata R, Tago M, Shikino K, Watari T, Takahashi H, Sasaki Y, Shimizu T: Standardizing Gener-

alist Definitions to Improve Evidence in General Medicine: Addressing Diverse Interpretations and Lack of Consistency. Int J Gen Med, Vol. 17: 2939-2943, 2024, 7, 3.

4 Hirata R, Katsuki NE, Shimada H, Nakatani E, Shikino K, Ono M, Saito C, Amari K, Kurogi K, Yoshimura M, Nishi T, Yaita S, Oda Y, Tokushima M, Hirakawa Y, Nakamura M, Yamashita S, Tokushima Y, Aihara H, Fujiwara M, Tago M: Criterion-Related Validity of the Cognitive Function Score with the Revised Hasegawa's Dementia Scale and the Bedriddenness Rank with the Barthel Index and the Katz Index: A Multi-center Retrospective Study. Dement Geriatr Cogn Disord Extra, Vol. 14, No. 1: 75–80. 2024, 7, 30.

5 Hirata R, Tago M, Shikino K, Watari T, Takahashi H, Sasaki Y, Shimizu T: Precise Classification of Generalists is Necessary to Establish Evidence in General Medicine [Response to Letter]. Int J Gen Med, Vol. 17: 3625-3626, 2024, 8, 21.

6 Hirata R, Tago M, Takahashi H, Watari T, Shikino K, Sasaki Y, Shimizu T: A Questionnaire Study of Leadership in General Medicine: General Physicians in Japan are Facing Challenges in Education and Research. Int J Gen Med, Vol. 17: 5465-5470, 2024, 11, 23.

7 *Ishizuka K, Yamashita S, Mine Y, Yamamoto Y, Kojima H, Someko H, Miyagami T: How case reports can be used to improve diagnosis. Diagnosis, Vol. 11, No. 2: 198-199, 2024, 1, 19.

8 *Ishizuka K, Yamashita S, Mine Y, Yamamoto Y, Kojima H, Someko H, Miyajima T: How to Overcome the Barriers Behind Writing Case Reports for Beginners and Young General Physicians. Int J Gen Med, Vol. 17: 1723-1727, 2024, 4, 29.

9 *Nishizawa T, Ishizuka K, Otsuka Y, Nakanishi T, Kawashima A, Miyagami T, Yamashita S: Writing Case Reports Can Improve Seven Components in Clinical Reasoning. Int Med Case Rep J, Vol. 17: 195-200, 2024, 3, 21.

10 *Nishida S, Hisata Y, Yasaka A, Sugioka T, Hirata R, Katsuki NE, Tago M, Ueda Y, Amenomori M, Higashino K, Naya Y: Positive association between patient experience of primary care with chronic disease and self-rated health in a Japanese rural area: A cross-sectional questionnaire survey using the Japanese primary care assessment tool short form. J Gen Fam Med, Vol. 25, No. 6: 333-342, 2024, 11, 15.

11 *Shikino K, Tago M, Watari T, Sasaki Y, Takahashi H, Shimizu T: Educational strategies related to information science and technology for medical students: General medicine physicians' perspective. J Gen Fam Med, Vol. 25, No. 1: 81-82, 2024, 1, 16.

12 *Shikino K, Shimizu T, Otsuka Y, Tago M, Takahashi H, Watari T, Sasaki Y, Iizuka G, Tamura H, Nakashima K, Kunitomo K, Suzuki M, Aoyama S, Kosaka S, Kawahigashi T, Matsumoto T, Orihara F, Morikawa T, Nishizawa T, Hoshina Y, Yamamoto Y, Matsuo Y, Unoki Y, Kimura H, Tokushima M, Watanuki S, Saito T, Otsuka F, Tokuda Y: Evaluation of ChatGPT-Generated Differential Diagnosis for Common Diseases with Atypical Presentation: Descriptive Research. JMIR Med Educ, Vol. 10: e58758, 2024, 6, 21.

13 Tago M, Hirata R, Katsuki NE, Nakatani E, Tokushima M, Nishi T, Shimada H, Yaita S, Saito C, Amari K, Kurogi K, Oda Y, Shikino K, Ono M, Yoshimura M, Yamashita S, Tokushima Y, Aihara H, Fujiwara M, Yamashita SI: Validation and Improvement of the Saga Fall Risk Model: A Multi-

center Retrospective Observational Study. Clin Interv Aging, Vol. 19: 175-188, 2024, 2, 7.

14 Tago M, Hirata R, Takahashi H, Yamashita S, Nogi M, Shikino K, Sasaki Y, Watari T, Shimizu T: How Do We Establish the Utility and Evidence of General Medicine in Japan?. Int J Gen Med, Vol. 17: 635-638, 2024, 2, 22.

15 ○Tokushima M, Tago M, Katsuki NE, Yaita S, Tokushima Y, Aihara H, Fujiwara M, Nishi T, Yamashita SI: Factors Influencing Preference for Dying at Home among People Aged ≥ 65 Years: A Cross-Sectional Study in a Super-Aged Area of Japan. Int J Gerontol, Vol. 18, No. 3: 138-143, 2024, 7.

16 Tokushima Y, Hirata R, Yamashita S, Shikino K, Shimizu T, Tago M: Enhancing Clinical Reasoning Education: Implementing Case Conferences with Semantic Qualifiers and the Dual-Process Theory. Adv Med Educ Pract, Vol. 15: 1149-1154, 2024, 11, 23.

17 ○Yamashita S, Tago M, Tokushima M, Tokushima Y, Hirakawa Y, Aihara H, Katsuki NE, Fujiwara M, Oda Y: Effects of a 60-Minute Lecture About Diagnostic Errors for Medical Students: A Single-Center Interventional Study. Cureus, Vol. 16, No. 3: e56117, 2024, 3, 13.

総　説

1 平田理紗，多胡雅毅：セフトリアキソン偽胆石症．総合診療，特集 ストーン・ウォーズ 果てしなき“石”と医師との闘い，【疾患別各論～レアな疾患群】②，34巻8号：904，2024，8，15.

2 平田理紗，徳島圭宜，多胡雅毅：解剖学的アプローチ－Anatomical approach－．診断と治療，特集 総合的な診療能力を高める診断推論戦略Up To Date，各論Ⅰ 診断推論戦略－Classical Strategy，112巻10号：1227-1233，2024，10，1.

3 Tago M, Hirata R, Katsuki NE, Nakatani E, Saito C, Yaita S, Oda Y, Tokushima M, Hirakawa Y, Yamashita S, Tokushima Y, Aihara H, Fujiwara M, Yamashita SI: Predictive Models of Falls: A Narrative Review. J Hosp Gen Med, Vol. 6, No. 1: 12-16, 2024, 1, 31.

4 多胡雅毅：病院総合診療専門医制度と総合診療医学の発展を祈念して．日病総合診療医会誌，巻頭言，20巻2号，2024，3.

5 ○徳島　緑，多胡雅毅：Pitfall25 突然発症の「更年期障害」…？．総合診療，特集 え，ウソ！ 実は○○だった!?“コモンディジーズ”の診断ピットフォール，34巻3号：304-305，2024，3，15.

6 山下　駿，多胡雅毅，井手則子，八板静香，井上　香，溝口ゆかり，徳島圭宜，小田康友：医学生の臨床実習における臨床実習コーディネーターと総合診療医の役割．日病総合診療医会誌，20巻3号：168-173，2024，5，31.

症例報告

1 Hirata R, Nakamura M, Yamada S, Tago M: Relapsing polychondritis presenting with chronic cough and costal cartilage tenderness. BMJ Case Rep, Vol. 17, No. 2: e259645, 2024, 2, 20.

2 Hirata R, Nishi T, Nakamura M, Tago M: Refractory Iron-Deficiency Anemia and Vascular Malformation Concomitant with Aortic Stenosis: Heyde Syndrome. Am J Case Rep, Vol. 25: e944440, 2024, 9, 26.

3 Hisata Y, Katsuki NE, Tago M, Nishi T, Nakashima T, Oda Y, Yamashita SI: Potential Indicators of Intestinal Necrosis in Portal Venous Gas: A Case Report of an 82-Year-Old Woman on Long-Term Hemodialysis with Ascites and Pneumatosis Coli. Am J Case Rep, Vol. 25: e942966, 2024, 4,

18.

4 Ide N, Hirata R, Motomura S, Tago M: Acute acalculous cholecystitis complicated by infectious mononucleosis caused by cytomegalovirus. Clin Case Rep, Vol. 12, No. 4: e8771, 2024, 4, 17.

5 Katsuki NE, Eguchi H, Hirata R, Aihara H, Tago M: Low-Energy Trauma: Severe Liver Injury in an Elderly Patient from a Seated Fall. Am J Case Rep, Vol. 25: e946094, 2024, 12, 27.

6 Nakamura M, Yamashita S, Tago M, Yamashita SI: Marked gallbladder wall thickening caused by Epstein-Barr virus-induced infectious mononucleosis. Clin Case Rep, Vol. 12, No. 6: e8863, 2024, 6, 7.

学会発表

国際規模の学会

1 Hirata R, Katsuki NE, Nakatani E, Tokushima M, Nishi T, Shimada H, Yaita S, Saito C, Amari K, Kurogi K, Oda Y, Shikino K, Ono M, Yoshimura M, Ezoe M, Yamashita S, Tokushima Y, Aihara H, Fujiwara M, Tago M: Validation of the Saga Fall Risk Model: a multicenter retrospective observational study. SHM Converge 2024. 2024, 4, 12-15 San Diego.

国内全国規模の学会

1 案浦　峻：シンポジウム36「マルチモビディティをバランスよく見るための妄想力を鍛えるカンファレンス（通称マルモカンファレンス）をやってみよう！」シンポジスト．第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会．2024，6，7-9（現地開催およびライブ配信），2024（オンデマンド配信），アクトシティ浜松．

2 *Annoura S, Hirata R, Nishi T, Yamada S, Nakamura M, Hirakawa Y, Yamashita S, Tokushima Y, Katsuki NE, Aihara H, Fujiwara M, Tago M: Heyde Syndrome: Therapy-Resistant Iron-Deficiency Anemia and Aortic Valve Stenosis. ACP 日本支部年次総会・講演会2024. 2024，6，22-23 国際医療福祉大学赤坂キャンパス，＊後日一部のオンデマンド配信あり．

3 *Ezoe M, Katsuki NE, Hirata R, Eguchi H, Tago M: Traumatic liver injury caused by falling from a seated position. ACP 日本支部年次総会・講演会2024. 2024，6，22-23 国際医療福祉大学赤坂キャンパス，＊後日一部のオンデマンド配信あり．

4 *江副優彦：シンポジウム12「病院総合診療専門研修と試験の Tips―FHGM 1 期生の経験から学ぶ―」シンポジスト「病院総合診療専門医を取得して」（オンデマンド配信）．第29回日本病院総合診療医学会学術総会．2024，9，7-8 有明セントラルタワーホール＆カンファレンス．

5 藤原元嗣，多胡雅毅，平田理紗，香月尚子，大塚勇輝，志水太郎，佐々木陽典，鋪野紀好，和足孝之，髙橋宏瑞，宇根一暢，内藤俊夫，大塚文男，田妻　進：病院総合診療医には新興感染症に備えた感染症危機管理教育が必要である～全国97医療機関の調査より．第28回日本病院総合診療医学会学術総会．2024，3，29-30 電気ビルみらいホール・共創館カンファレンス．

6 花田嵩史，德島圭宜，中村仁彦，德島　緑，山下　駿，平川優香，香月尚子，相原秀俊，藤原元嗣，多胡雅毅：難治性の鉄欠乏性貧血を契機に特発性肺ヘモジデローシスと診断された１例．第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会．2024，6，7-9（現地開催およびライブ配信）2024（オンデマンド配信）アクトシティ浜松．

7 平田理紗：JUGLER セッション 3「Meet the fascinating general hospitalists!（Vol. 5）」私のキャリアにおける臨床研究．第28回日本病院総合診療医学会学術総会．2024，3，29-30 電気ビルみら

いホール・共創館カンファレンス.

8 平田理紗，香月尚子，中谷英仁，德島　緑，西　知世，島田ひとみ，八板静香，齋藤千紘，甘利香織，黒木和哉，織田良正，鋪野紀好，大野毎子，吉村麻里子，多胡雅毅：入院時の転倒予防は転倒の減少に関連しない可能性がある～傾向スコアによる1256例の解析．第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会．2024，6，7-9（現地開催およびライブ配信）2024（オンデマンド配信）アクトシティ浜松.

9 平田理紗，香月尚子，德島　緑，八板静香，島田ひとみ，中谷英仁，齋藤千紘，甘利香織，黒木和哉，織田良正，大野毎子，鋪野紀好，吉村麻里子，西　知世，山下　駿，德島圭宜，相原秀俊，藤原元嗣，多胡雅毅：転倒の時間帯によって転倒の関連因子は異なる―多施設後ろ向き観察研究．第29回日本病院総合診療医学会学術総会．2024，9，7-8 有明セントラルタワーホール＆カンファレンス.

10 平田理紗，香月尚子，中谷英仁，德島　緑，西　知世，島田ひとみ，八板静香，齋藤千紘，甘利香織，黒木和哉，織田良正，鋪野紀好，大野毎子，吉村麻里子，多胡雅毅：入院時に実施する転倒予防策は入院中の転倒傷害に関連しない可能性がある．日本転倒予防学会 第11回学術集会．2024，11，23-24 SAGA アリーナ.

11 井手則子，山下　駿，井上　香，溝口ゆかり，八板静香，多胡雅毅，小田康友：医学部臨床実習の質の改善：臨床実習コーディネーターによる取り組み．第28回日本病院総合診療医学会学術総会．2024，3，29-30 電気ビルみらいホール・共創館カンファレンス.

12 石瀬裕子：若手部会 2「深読み Hospitalist が読みたい最新論文」．第28回日本病院総合診療医学会学術総会．2024，3，29-30 電気ビルみらいホール・共創館カンファレンス.

13 石瀬裕子：若手部会 6「病院総合医の働き方～現在地と理想を考える～」．第28回日本病院総合診療医学会学術総会，ディスカッサント．2024，3，29-30 電気ビルみらいホール・共創館カンファレンス.

14 石瀬裕子，平田理紗，島田ひとみ，香月尚子，多胡雅毅：療養型病院での独自の院内転倒傷害予測モデルの検証：多施設後ろ向き研究．第26回日本医療マネジメント学会学術総会．2024，6，21-22 福岡国際会議場，福岡サンパレス.

15 香月尚子：JUGLER セッション 1「ロールモデルの実践例から学ぶ病院総合診療の臨床研究」臨床研究初めの一歩体験談“大学病院における肝疾患診療の実態”．第28回日本病院総合診療医学会学術総会．2024，3，29-30 電気ビルみらいホール・共創館カンファレンス.

16 Katsuki NE, Tago M, Sasaki Y, Hirata R, Aihara H, Komatsu F, Une K, Miyagami T, Suzuki Y, Kawamura R, Takeoka H, Yasuoka Y, Shimizu T, Nabeshima S, Naito T, Tazuma S: Diagnostic procedure of undiagnosed abdominal pain and acute hepatic porphyria. ACP 日本支部年次総会・講演会2024．2024，6，22-23 国際医療福祉大学赤坂キャンパス，＊後日一部のオンデマンド配信あり.

17 牧尾成二郎，香月尚子，大石　透，相原秀俊，藤原元嗣，德島圭宜，山下　駿，平田理紗，多胡雅毅：炎症反応や頭部画像に異常所見を認めない汎発性帯状疱疹による多発脳神経障害．第29回日本病院総合診療医学会学術総会．2024，9，7-8 有明セントラルタワーホール＆カンファレンス.

18 ○Minami K, Yamashita S, Motomura S, Ide N, Tago M: An atypical case of adult IgA vasculitis with thrombocytopenia and coagulation abnormality. ACP 日本支部年次総会・講演会2024．2024，

6，22–23 国際医療福祉大学赤坂キャンパス，＊後日一部のオンデマンド配信あり．

19 本村　壮，香月尚子，中村仁彦，山下　駿，平田理紗，牧尾成二郎，大石　透，八板静香，徳島緑，徳島圭宜，相原秀俊，藤原元嗣，多胡雅毅：原因不明の発熱に対する簡便な非感染性炎症性疾患予測モデルの開発：単施設後ろ向き観察研究．第29回日本病院総合診療医学会学術総会．2024，9，7–8 有明セントラルタワーホール＆カンファレンス．

20 鍋島沙織，藤原元嗣，平田理紗，鋪野紀好，中島央律紗，井手則子，本村　壮，中村仁彦，牧尾成二郎，大石　透，山下　駿，徳島圭宜，香月尚子，相原秀俊，多胡雅毅：両側下腿浮腫で発症した血管内大細胞型Ｂ細胞リンパ腫の一例．第29回日本病院総合診療医学会学術総会．2024，9，7–8 有明セントラルタワーホール＆カンファレンス．

21 中村仁彦，山下　駿，本村　壮，香月尚子，多胡雅毅：原因不明の発熱患者における非感染症疾患の予測モデルの開発：単施設後ろ向き観察研究．第121回日本内科学会総会・講演会．2024，4，12–14（現地開催およびライブ配信），2024，4，13–5，31（オンデマンド配信）東京国際フォーラム ホールＡ／Ｂ／Ｅ／ガラス棟．

22 中島央律紗，黒木和哉，牧尾成二郎，中村仁彦，平川優香，香月尚子，相原秀俊，藤原元嗣，山下駿，徳島圭宜，多胡雅毅：特異的な臨床症状を認めず上部消化管内視鏡検査と消化管造影検査で診断に至った blind loop 症候群．第28回日本病院総合診療医学会学術総会．2024，3，29–30 電気ビルみらいホール・共創館カンファレンス．

23 *西田早矢，久田祥雄，杉岡　隆，平田理紗，香月尚子，多胡雅毅，上田祐樹，雨森正記，東野克巳，納谷佳男：プライマリ・ケアの質と主観的健康観の関連 日本のへき地住民を対象とした横断研究．第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会．2024，6，7–9（現地開催およびライブ配信），2024（オンデマンド配信）アクトシティ浜松．

24 Oishi T, Hirata R, Yamada S, Nakamura M, Hirakawa Y, Yamashita S, Tokushima Y, Katsuki NE, Aihara H, Fujiwara M, Tago M: Relapsing polychondritis with chronic cough and tenderness of the costal cartilage. ACP 日本支部年次総会・講演会2024．2024，6，22–23 国際医療福祉大学赤坂キャンパス，＊後日一部のオンデマンド配信あり．

25 *佐々木陽典，多胡雅毅，香月尚子，平田理紗，相原秀俊，小松史哉，宇根一暢，宮上泰樹，鈴木有大，川村　廉，武岡宏明，安岡由佳，奥　真也，志水太郎，鍋島茂樹，内藤俊夫，田妻　進：原因不明の腹痛と急性肝性ポルフィリン症の診断に関する後方視的研究．第28回日本病院総合診療医学会学術総会．2024，3，29–30 電気ビルみらいホール・共創館カンファレンス．

26 *島田ひとみ，平田理紗，香月尚子，徳島　緑，中谷英仁，西　知世，八板静香，齋藤千紘，甘利香織，鋪野紀好，黒木和哉，織田良正，大野毎子，吉村麻里子，山下　駿，徳島圭宜，相原秀俊，藤原元嗣，多胡雅毅：療養型病院を対象とした院内転倒予測モデルの検討：多施設後ろ向き研究．第28回日本病院総合診療医学会学術総会．2024，3，29–30 電気ビルみらいホール・共創館カンファレンス．

27 多胡雅毅：JUGLER セッション１「ロールモデルの実践例から学ぶ病院総合診療の臨床研究」座長．第28回日本病院総合診療医学会学術総会．2024，3，29–30 電気ビルみらいホール・共創館カンファレンス．

28 多胡雅毅：JUGLER セッション２「ホスピタリストブートキャンプ～外来診療編～」．第28回日本病院総合診療医学会学術総会，座長兼パネリスト．2024，3，29–30 電気ビルみらいホール・共創

館カンファレンス.

29　多胡雅毅：JUGLER セッション 3「Meet the fascinating general hospitalists!（Vol. 5)」. 第28回日本病院総合診療医学会学術総会，座長兼パネリスト．2024，3，29–30 電気ビルみらいホール・共創館カンファレンス.

30　多胡雅毅：JUGLER セッション 4「症例検討から学ぶ診断推論戦略 by JUGLER（vol. 8)」. 第28回日本病院総合診療医学会学術総会，座長兼パネリスト．2024，3，29–30 電気ビルみらいホール・共創館カンファレンス.

31　多胡雅毅：シンポジウム 3（オンデマンド)「病院総合診療医のリーダーシップ実践－持続可能なプライマリ・ヘルス・ケアを支えるために－」. 第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会，企画責任者，座長兼パネリスト．2024，6，7–9（現地開催およびライブ配信)，2024（オンデマンド配信）アクトシティ浜松.

32　多胡雅毅：シンポジウム26（オンデマンド)「症例検討から学ぶ診断推論戦略 by JUGLER（vol. 9)」. 第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会，企画責任者，座長兼パネリスト．2024，6，7–9（現地開催およびライブ配信)，2024（オンデマンド配信）アクトシティ浜松.

33　多胡雅毅：JUGLER 1「総合診療医の分類手法の開発―総合診療医学の明確なエビデンスを構築するために―」. 第29回日本病院総合診療医学会学術総会，座長兼パネリスト．2024，9，7–8 有明セントラルタワーホール＆カンファレンス.

34　多胡雅毅：JUGLER 2「ホスピタリストブートキャンプ vol. 2～外来診療応用編」. 第29回日本病院総合診療医学会学術総会，座長兼パネリスト．2024，9，7–8 有明セントラルタワーホール＆カンファレンス.

35　多胡雅毅：JUGLER 3「症例検討から学ぶ診断推論戦略 by JUGLER（Vol. 10)」. 第29回日本病院総合診療医学会学術総会，座長兼パネリスト．2024，9，7–8 有明セントラルタワーホール＆カンファレンス.

36　多胡雅毅：シンポジウム12「病院総合診療専門研修と試験の Tips―FHGM 1 期生の経験から学ぶ―」（オンデマンド配信)．第29回日本病院総合診療医学会学術総会，座長兼パネリスト．2024，9，7–8 有明セントラルタワーホール＆カンファレンス.

37　徳島圭宜，中島知太郎，大石　透，中村仁彦，徳島　緑，山下　駿，平川優香，香月尚子，相原秀俊，藤原元嗣，多胡雅毅：成人後に両側感音性難聴を発症し，痙攣を契機に診断された MELAS の一例．第28回日本病院総合診療医学会学術総会．2024，3，29–30 電気ビルみらいホール・共創館カンファレンス.

38　○Uno S, Yamasihta S, Tago M: A delayed diagnosis of spontaneous isolated superior mesenteric artery dissection with normal D-dimer level. ACP 日本支部年次総会・講演会2024. 2024，6，22–23 国際医療福祉大学赤坂キャンパス，＊後日一部のオンデマンド配信あり.

39　山下　駿：若手部会 6「病院総合医の働き方～現在地と理想を考える～」. 第28回日本病院総合診療医学会学術総会，ディスカッサント．2024，3，29–30 電気ビルみらいホール・共創館カンファレンス.

地方規模の学会

1　相原秀俊，藤原元嗣，多胡雅毅：佐賀県における遺伝性血管性浮腫の現状．第46回佐賀救急医学会．2024，9，21 武雄看護リハビリテーション学校.

2　藤原元嗣：シンポジウム「人口減少と高齢化で変わる佐賀の医療」．日本プライマリ・ケア連合学会九州ブロック佐賀県支部 第 9 回学術集会，座長兼パネリスト．2024，11，2 佐賀大学医学部臨床講堂・WEB（ハイブリッド開催）．

3　井手則子，西　知世，石瀬裕子，本村　壮，山下　駿，德島圭宜，香月尚子，相原秀俊，藤原元嗣，多胡雅毅：頭部 MRI 検査が正常であった維持透析患者のウェルニッケ脳症．日本内科学会第346回九州地方会．2024，8，31 久留米シティプラザ・WEB（ハイブリッド開催）．

4　平田理紗，香月尚子，島田ひとみ，德島　緑，中谷英仁，齋藤千紘，鋪野紀好，多胡雅毅：認知度と HDS-R，寝たきり度と Barthel Index または Katz Index との基準関連妥当性－多施設後ろ向き観察研究．日本プライマリ・ケア連合学会第18回九州支部総会・学術大会．2024，1，20-21（現地配信＋ライブ配信），2024，2，1-3，1（オンデマンド配信）宮崎県医師会館．

5　平田理紗，香月尚子，島田ひとみ，石瀬裕子，中谷英仁，多胡雅毅：転倒予防策の実施は転倒傷害を予防しうる―多施設後ろ向き観察研究．日本医療マネジメント学会 第21回九州・山口連合大会．2024，12，6-7 SAGA アリーナ．

6　牧尾成二郎：シンポジウム「人口減少と高齢化で変わる佐賀の医療」．日本プライマリ・ケア連合学会九州ブロック佐賀県支部 第 9 回学術集会，座長兼パネリスト．2024，11，2 佐賀大学医学部臨床講堂・WEB（ハイブリッド開催）．

7　松尾　岬，相原秀俊，平田理紗，井手則子，本村　壮，多胡雅毅：頸部痛で受診した胸鎖関節偽痛風．日本内科学会第345回九州地方会．2024，5，25 宮崎大学医学部講義実習棟・WEB（ハイブリッド開催）．

8　○夏　京合，藤原元嗣，山田脩斗，西　知世，中村仁彦，平川優香，香月尚子，相原秀俊，德島圭宜，多胡雅毅：重度の大動脈狭窄症に合併する原因不明の貧血：Heyde 症候群の 1 例：日本内科学会第344回九州地方会．2024，1，27 九州大学医学部百年講堂・WEB（ハイブリッド開催）．

9　多胡雅毅：診断推論戦略セッション「症例検討から学ぶ診断推論戦略 by JUGLER（特別編 8 ）」．日本プライマリ・ケア連合学会九州ブロック佐賀県支部 第 9 回学術集会，座長兼パネリスト．2024，11，2 佐賀大学医学部臨床講堂・WEB（ハイブリッド開催）．

10　多胡雅毅：教育講演 3「より良い共同意思決定の実践にむけて」．日本医療マネジメント学会 第21回九州・山口連合大会，座長兼パネリスト．2024，12，6-7 SAGA アリーナ．

その他の学会

1　相原秀俊：佐大総診の急性腹症に関する研究．内科医のための消化器疾患セミナー．2024，12，19 ホテルマリターレ創生佐賀 アテナ・WEB（ハイブリッド開催）．

2　藤原元嗣：佐賀の HAE 診療2024 現状と課題．HAE Web Seminar in 西九州．2024，6，28 WEB．

3　藤原元嗣：佐賀の HAE 診療2024 現状と課題．バイオクリスト社内勉強会．2024，12，2 ｉスクエアビル セミナールーム（小）．

4　花田嵩史，山下　駿，大石　透，相原秀俊，多胡雅毅：重症熱性血小板減少症候群（SFTS）を契機に重篤な経過を辿った一例．第52回佐賀総合診療ケースカンファレンス．2024，11，13 ホテルマリターレ創世佐賀 4 階「ヨーロペ」・WEB（ハイブリッド開催）．

5　花田嵩史：―忙しい日々でもできるちょっとしたこと―生活習慣と高血圧．令和 6 年度三瀬診療所保健事業 健康講話．2024，12，12 三瀬保健センター．

6　石瀬裕子：YOU は何しに佐賀大へ⁉～ 7 年目の石瀬裕子の場合～．佐大総診キャリアセミナー～

You は何しに総診へ？～．2024，2，16 佐賀大学医学部附属病院 カンファレンスルーム 2・WEB（ハイブリッド開催）．

7　中村仁彦：佐大総診キャリアセミナー～ You は何しに総診へ？～．佐大総診キャリアセミナー～ You は何しに総診へ？～．2024，2，16 佐賀大学医学部附属病院 カンファレンスルーム 2・WEB（ハイブリッド開催）．

8　*中村仁彦：指導医・レクチャー『慢性咳嗽と胸痛の鑑別疾患』．第 3 回 JPCA 佐賀セミナー．2024，6，27 WEB.

9　*中島央律紗，本村　壮，黒木和哉，牧尾成二郎，多胡雅毅：入院中に突然の視力低下を来した一例．第51回佐賀総合診療ケースカンファレンス．2024，5，29 WEB.

10　西　知世：急性の意識障害を呈した維持透析患者の一例．第51回佐賀総合診療ケースカンファレンス．2024，5，29 WEB.

11　本村　壮：You は何しに総診へ？～総合診療部 本村壮の場合～．佐大総診キャリアセミナー～ You は何しに総診へ？～．2024，2，16 佐賀大学医学部附属病院 カンファレンスルーム 2・WEB（ハイブリッド開催）．

12　多胡雅毅：病院総合診療医の仕事 佐大総診での実践例．大分大学医学部 3 年次生特別講演．2024，7，25 大分大学.

13　多胡雅毅：佐賀県での地域総合診療センターを活用した総合診療医育成－佐大総診のネットワークとマネジメントを中心に－．第 4 回広島県総合診療医セミナー．2024，11，30 広島県医師会館 201会議室・WEB（ハイブリッド開催）．

14　山田脩斗，中村仁彦：プレゼンター『原因不明の持続する咳と胸痛』．第 3 回 JPCA 佐賀セミナー．2024，6，27 WEB.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
教　授 助　教 医　員	多胡　雅毅 香月　尚子 平田　理紗	2024年度ニッセイ財団高齢社会助成 若手実践的課題研究助成		2	ひとの「きやんす（つどう）」まちづくりを目指した実践的研究	930
助　教	香月　尚子	科学研究費助成事業	若手研究	1	入院時の評価項目 6 つを用いた簡便な転倒傷害予測モデルの検証と改良	1,820

学術（学会）賞

職　名	氏　名	学術（学会）賞名	受　賞　課　題
			感染性心内膜炎予測モデルの精度向上研究：多施設後ろ向き症例対照研究
医　員 教　授 講師(特定)	平田　理紗 多胡　雅毅 相原　秀俊	Top Downloaded Article, CLINICAL CASE REPORTS	Massive anorectal abscess caused by rectal cancer
教　授	多胡　雅毅	Top Cited Article 2022-2023, JOURNAL OF GENERAL AND FAMILY MEDICINE	A survey of the research practice in general medicine departments of Japanese universities: A cross-sectional study

医　療　情　報　部

著　　書

1　石川慎一郎：小児緑内障の分類．臨床眼科 78巻11号 2024年増刊号 Ⅵ. 緑内障 148-152，2024，10，医学書院.

2　石川慎一郎：落屑緑内障．眼科診療ガイド第２版 12. 緑内障 539-540．2024，11，文光堂.

3　石川慎一郎：緑内障診療における OCTA の活用．佐賀県眼科医会報 第35号 2024年12月 19-22，2024，12，佐賀県眼科医会.

原著論文

1　*Asaoka R, Sugisaki K, Inoue T, Yoshikawa K, Kanamori A, Yamazaki Y, Ishikawa S, Uchida K, Iwase A, Araie M: Predicting the Extent of Damage in the Humphrey Field Analyzer 24-2 Visual Fields Using 10-2 Test Results in Patients With Advanced Glaucoma. Translational vision science & technology. 2024 Feb 1; 13(2): 2. doi: 10.1167/tvst.13.2.2, 2024, 2.

学会発表

国内全国規模の学会

1　石川慎一郎，江内田寛：佐賀大学眼科における緑内障に対する配合点眼薬の使用状況．第94回九州眼科学会．2024，5，24-26（現地開催），2024，6，5-28（オンデマンド配信）.

2　石川慎一郎，江内田寛：選択的レーザー線維柱帯形成術後の Gonioscopy-Assisted Transluminal Trabeculotomy の中期成績．第35回日本緑内障学会．2024，9，20-22（現地開催），2024，10，9-11，8（オンデマンド配信）.

3　○大阪一貴，酒見日和，石川慎一郎，福田　修，Yeoh Wen Liang，奥村　浩：Adversarial Example を用いた新しい緑内障性眼底変化の特徴の探索．第５回日本眼科 AI 学会総会．2024，12，1（現地開催），2024，12，12-27（オンデマンド配信）.

4　○酒見日和，大阪一貴，石川慎一郎，福田　修，Yeoh Wen Liang，奥村　浩：深層学習モデルを用いた局所的眼底画像解析による新たな緑内障診断根拠の視覚的探索．第５回日本眼科 AI 学会総会．2024，12，1（現地開催），2024，12，12-27（オンデマンド配信）.

地方規模の学会

1　石川慎一郎：佐賀大学医学部附属病院のリアル．令和６年度日本医療情報学会九州・沖縄支部会春季研究会（シンポジウム）．2024，6，1.

その他の学会

1　石川慎一郎：緑内障治療の update 2024 薬物治療＋α．第413回熊本県眼科医会研修会（招待，教育）．2024，1，13.

2　石川慎一郎：緑内障治療の update 2024 薬物治療＋α．堺眼科勉強会（招待，教育）．2024，1，19（ハイブリッド開催）.

3　石川慎一郎：緑内障治療の update 2024 薬物治療＋α．第44回長崎県県央・中地区眼科勉強会（招待，教育）．2024，2，16

4　石川慎一郎：超高齢化社会に向けた緑内障診療～薬物治療＋α～．令和６年度福岡県眼科医会講演会（招待，教育）．2024，6，15.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
准教授	石川慎一郎	令和６年度厚生労働行政推進調査事業費補助金	医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業	2	適切な医薬品安全性評価のための国際整合化を考慮した医療情報データベースの品質管理・標準化に関する研究	2,600
准教授	石川慎一郎	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	Adversarial Example を用いた新しい緑内障性眼底変化の特徴の発見	260 （1,036）

※（　）は繰越金で外数

ＭＥセンター

学会発表

国内全国規模の学会

1　古謝侑奈，西村徳泰，市山智義，田中　淳，山下佳雄：除菌洗浄剤に含まれる主成分が輸液ポンプの表面素材に与える影響．第99回日本医療機器学会大会．2024，6，20-22.

地方規模の学会

1　佐藤大祐，諸岡大樹，古謝侑奈，陳　文瀚，夏秋政浩，園田信成，野出孝一，山下佳雄：MSO3-1 UAP に対して PCI 後に心タンポナーデを呈した１例．第37回日本心血管インターベンション治療学会 九州・沖縄地方会．2024，8，23-24.

2　木村　崇，福永祐介，木塚晋輔，田中　淳，山下佳雄，野中枝理子，池田裕貴，山崎政虎，福田誠，宮園素明：Steal 症候群に対してシャント閉鎖し，対側へ新規増設した際の末梢循環評価．第56回九州人工透析研究会総会．2024，12，15.

3　*高宮遼平，平野徳章，佐藤大祐：心臓植込みデバイス業務の新たな一歩～ Go For It ～．第17回佐賀県臨床工学会．2024，12，1.

4　*大石杏衣，藤井　葵，山下志緒里，大津奈津希：フリーランス臨床工学技士として生きる～ライフイベントとキャリアの選択～．第17回佐賀県臨床工学会．2024，12，1.

医療安全管理室

原著論文

1　Hirata R, Katsuki NE, Shimada H, Nakatani E, Shikino K, Ono M, Saito C, Amari K, Kurogi K, Yoshimura M, Nishi T, Yaita S, Oda Y, Tokushima M, Hirakawa Y, Nakamura M, Yamashita S, Tokushima Y, Aihara H, Fujiwara M, Tago M: Criterion-Related Validity of the Cognitive Function Score with the Revised Hasegawa's Dementia Scale and the Bedriddenness Rank with the Barthel Index and the Katz Index: A Multi-Center Retrospective Study. Dement Geriatr Cogn Dis Extra, 14, 1, 75-80, 2024.

2　Tago M, Hirata R, Katsuki NE, Nakatani E, Tokushima M, Nishi T, Shimada H, Yaita S, Saito C,

Amari K, Kurogi K, Oda Y, Shikino K, Ono M, Yoshimura M, Yamashita S, Tokushima Y, Aihara H, Fujiwara M, Yamashita SI: Validation and Improvement of the Saga Fall Risk Model: A Multicenter Retrospective Observational Study. Clin Interv Aging, 19, 175-188, 2024.

総　　説

1　吉村麻里子：医療安全の立場から考える適切なインフォームドコンセント．日本内分泌外科学会雑誌，41，3，188–191，2024.

学会発表

国内全国規模の学会

1　吉村麻里子：医療安全の立場から考える適切なインフォームドコンセント．第36回日本内分泌外科学会総会．2024，5，23–25.

2　江本晶子，笹部友佳，吉村麻里子，水田貴久美，川添　都，南里美貴，坂口嘉郎，阪本雄一郎：ハリーコールの発動基準の明文化．第19回医療の質・安全学会学術集会．2024，11，29–30.

3　江本晶子，石橋幸子，本岡千佳，島ノ江千里：周術期のSGLT2阻害薬休薬に関する院内運用の実態調査と血中ケトン体測定陽性例の検討．第12回日本くすりと糖尿病学会学術集会．2024，10，5–6.

4　○石橋幸子，江本晶子，本岡千佳，島ノ江千里．周術期のSGLT2阻害薬休薬に関する院内運用の実態調査．第34回日本医療薬学会年会．2024，11，2–4.

5　○矢川　信，草場　裕，永渕美樹，水田貴久美，金子ゆかり，橋本真由美，清松美紀，上瀧佳祐，南里美貴，中溝健太郎：看護師介助中の患者の転倒予防への取り組み．第19回医療の質・安全学会学術集会．2024，11，29–30.

6　○平田理紗，香月尚子，中谷英仁，徳島　緑，西　知世，島田ひとみ，八板静香，齋藤千紘，甘利香織，黒木和哉，織田良正，鋪野紀好，大野毎子，吉村麻里子，多胡雅毅：入院時に実施する転倒予防策は入院中の転倒傷害に関連しない可能性がある．第11回日本転倒予防学会．2024，11，23–24.

7　○平田理紗，香月尚子，徳島　緑，八板静香，島田ひとみ，中谷英仁，齋藤千紘，甘利香織，黒木和哉，織田良正，大野毎子，鋪野紀好，吉村麻里子，西　知世，山下駿，徳島圭宜，相原秀俊，藤原元嗣，多胡雅毅：転倒の時間帯によって転倒の関連因子は異なる―多施設後ろ向き観察研究．第29回日本病院総合診療医学会学術総会．2024，9，7–8.

8　○平田理紗，香月尚子，中谷英仁，徳島　緑，西　知世，島田ひとみ，八板静香，齋藤千紘，甘利香織，黒木和哉，織田良正，鋪野紀好，大野毎子，吉村麻里子，多胡雅毅：入院時の転倒予防は転倒の減少に関連しない可能性がある～傾向スコアによる1256例の解析．第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術集会．2024，6，7–9.

地方規模の学会

1　江本晶子，西　順也，本岡千佳，江越正芳，木村早希子，島ノ江千里：高額医薬品の病院経営管理・医療安全対策を講じるための医薬品管理体制．第83回九州山口薬学大会．2024，10，13–14.

その他の学会

1　○古澤　亮，永島萌実，松尾直美，山下奈緒美，公文孝子，水田貴久美，南里美貴：A病棟における薬剤確認に関する問題点．日本医療マネジメント学会 第21回九州・山口連合大会．2024，12，6–7.

臨床研究センター

著　書

1　Ishimaru Y, Kawaguchi A: Subgroups Identification Using Biomarkers from Multi-Modal Brain Imaging. Advances in Health and Disease, Volume79, 163-186, 2024, 3, Nova Science Publishers, Inc., USA.

2　*朝田　隆，堀川悦夫，苧阪直行，岡本　努，小菅英恵，光武　翼，柊　幸伸，潮井川修一，吉冨健志，國松志保，岡村信行，中村正帆，井手芳彦，安藤志穂里，渡邉　修，一杉正仁，岩城直幸，井手將文，川島正輝，中根　裕，岩井智子：改めて症例から考える高齢者の自動車運転―基礎・臨床・リハビリテーション―．自動車運転にかかわる高齢者の身体機能 第4章 26–39，2024，8，中外医学社，東京.

原著論文

1　Mitsutake T, Sonobe M: Noisy galvanic vestibular stimulation influences head stability in young healthy adults while standing on a moving platform. Gait Posture. 107: 177-181, 2024, 1.

2　Mitsutake T, Nakazono H, Shiozaki T, Fujita D, Sakamoto M: Changes in vestibular-related responses to combined noisy galvanic vestibular stimulation and cerebellar transcranial direct current stimulation. Exp Brain Res. 242(1): 99-108, 2024, 1.

3　Mitsutake T, Nakazono H, Taniguchi T, Yoshizuka H, Sakamoto M: Effects of transcranial electrical stimulation of the right posterior parietal cortex on physical control responses. Neurosci Lett. 818: 137565, 2024, 1.

4　*Matsushita W, Mitsutake T, Takamori A, Hida K, Horikawa E: Relationship between Driving Skills and Cognitive Functions in Cerebrovascular Disease Patients and Short-Term Effects of Driving Training. Int J Gerontol. 18 (2024) 3641, 2024, 1.

5　○Furuno T, Sogawa R, Hashimoto T, Matsuo S, Shirahama W, Kamura T, Hosoya K, Senjyu Y, Yamashita Y, Inoue T, Yamauchi M, Katsuya H, Noguchi M, Sueoka-Aragane N, Shimanoe C: Association between the Prognostic Nutritional Index and the Occurrence of Immune-Related Adverse Events. Biol Pharm Bull. 47(2): 361-365, 2024, 2.

6　*Nakayama S, Yamanouchi K, Takamori A, Goto T, Shimada F, Imamura T, Hirooka Y, Kitajima A, Onozawa K, Kakiuchi T, Takagi K, Kishi T, Fujimoto K, Sakamoto Y: Gastrointestinal bleeding among 151 patients undergoing maintenance hemodialysis for end-stage renal failure: A 5-year follow-up study. Medicine (Baltimore). 103(7): e37274, 2024, 2.

7　*Matsushita W, Mitsutake T, Takamori A, Hida K, Horikawa E: Relationship between driving skills and cognitive functions in cerebrovascular disease patients and short-term effects of driving training. Int J Gerontol. 18: 34-41, 2024, 2.

8　*Taki S, Imura T, Mitsutake T, Iwamoto Y, Tanaka R, Imada N, Araki H, Araki O:Identifying the characteristics of patients with stroke who have difficulty benefiting from gait training with the hybrid assistive limb: a retrospective cohort study. Front Neurorobot. 18: 1336812, 2024, 2.

9　*Matsuo R, Imamura T, Takamori A, Kishi T, Minami M, Miyakawa J, Yoshitake N, Hayashi A, Nakayama Y, Egashira N, Teramoto M, Ishinari H, Kajiyama I, Fujisaki S, Kakiyama H, Satou K,

Nakafusa R, Tanaka C, Tanaka M, Isomura Y, Izumi K, Ohta S, Souta N, Matsuo N, Yamamoto K, Tsuji S, Umemura T, Takagi K, Fujimoto K: Improvement trend for individual health guidance intervention according to Japan clinical guidelines by public health nurses for type 2 diabetes mellitus who visited for medical checkups regularly: a case-control preliminary report. J Clin Biochem Nutr. 74(2): 141-145, 2024, 3.

10 ○Kunitake Y, Imamura Y, Kunitake H, Ohishi-Fukuchi J, Matsushima J, Tateishi H, Murakawa-Hirachi T, Kojima R, Sakemura Y, Kikuchi J, Shiraishi T, Takamori A, Morisaki T, Yamada S, Monji A, Mizoguchi Y: Association depressive symptoms with memory function and social capital before and during COVID-19 in community-dwelling older adults in rural Japan: A retrospective study with a longitudinal data. Int J Geriatr Psychiatry. 39(5): e6100, 2024, 3.

11 *西之園栞，安田聖子，高守史子，藤本一眞，廣岡良隆：地域未治療高血圧患者における血管内皮機能異常と動脈硬化および心不全関連指標との関係に関する観察研究．日本循環器病予防学会誌．第59巻，第1号，13–21，2024，3.

12 *Hirohama K, Imura T, Hori T, Deguchi N, Mitsutake T, Tanaka R: The effects of nonpharmacological sleep hygiene on sleep quality in nonelderly individuals: A systematic review and network meta-analysis of randomized controlled trials. PLoS One. 19(6): e0301616, 2024, 6.

13 *Arima M, Inoue H, Misumi A, Tsukamoto S, Matsushita I, Araki S, Ohta M, Takahashi K, Imazato M, Goto T, Aoki Y, Tagawa K, Hirose M, Fujita Y, Yoshida N, Nakao S, Kondo H, Kusuhara K, Kimura K, Hasegawa S, Ikeda Y, Kodama Y, Moritake H, Ochiai M, Ohga S, Kishimoto J, Todaka K, Ieiri I, Sonoda KH: Safety and efficacy of ripasudil eye drops in preterm infants with retinopathy of prematurity: phase 1/2, open label, single-arm trial. Jpn J Ophthalmol. Sep; 68(5): 490-499, 2024, 7.

14 ○Aijima R, Miura D, Takamori A, Kamohara A, Danjo A, Sakaguchi Y, Yamashita Y: Impact of general anesthesia on postoperative complications in orthognathic surgery: a retrospective comparison of total intravenous anesthesia versus volatile anesthesia. Sci Rep. 12; 14(1): 16075, 2024, 7.

15 ○Kuroki Y, Takamori A, Takahashi K, Yamamoto S, Yoshida N, Enaida H: Survey on Findings and Utilization of Preoperative Chest Radiography in Ophthalmic Surgery. J Clin Med. 3; 13(13): 3909, 2024, 7.

16 ○川崎寿磨子，鮎川ひとみ，高守史子，森本眞寿代：産後1ヵ月の育児不安尺度開発と信頼性・妥当性の検討．母性衛生．65(2)，195–202，2024，7.

17 ○Iwasaka C, Nanri H, Hara M, Nishida Y, Shimanoe C, Yamada Y, Furukawa T, Higaki Y, Momozawa Y, Nakatochi M, Wakai K, Matsuo K, Tanaka K: Interaction between Habitual Green Tea and Coffee Consumption and ACTN3 Genotype in Association with Skeletal Muscle Mass and Strength in Middle-Aged and Older Adults. J Frailty Aging. 2024; 13(3): 267-275, 2024, 3.

18 ○Bogahawaththa S, Hara M, Furukawa T, Iwasaka C, Sawada T, Yamada G, Tokiya M, Kitagawa K, Miyake Y, Aoki Kido M, Hirota Y, Matsumoto A: Asian Flush Gene Variant Enhances Cellular Immunogenicity of COVID-19 Vaccine: Prospective Observation in the Japanese General Population. Vaccines (Basel). 2024 Sep 5; 12(9): 1015, 2024, 9.

19 *森本眞寿代，高守史子，永松美雪，濱嵜真由美，川口　淳：退院後早期の育児不安尺度の開発と信

頼性・妥当性の検討. 日本看護科学会誌 44(0)：1095-1104, 2024, 9.

20 *Yoshikawa K, Kishi T, Takamori A, Kitajima A, Goto T, Nakayama S, Yamanouchi K, Takagi K, Hirooka Y, Fujimoto K, Nagata N, Nagata O, Kuroki F, Fukuda N, Akiyoshi Y, Yamamoto T: Lower body bone fractures have high mortality rates and poor prognosis in the patients with hemodialysis. Ther Apher Dial. 28(5): 690-696, 2024, 10.

21 ○Ureshino H, Takahashi N, Ikezoe T, Kameoka Y, Kimura S, Fukushima N, Ichinohe T, Takamori A, Kawaguchi A, Miura M, Kimura S: A lower initial dose of bosutinib for patients with chronic myeloid leukemia patients resistant and/or intolerant to prior therapy: a single-arm, multicenter, phase 2 trial (BOGI trial). Int J Hematol. 120(4): 492-500, 2024, 10.

22 ○Kusaba K, Watanabe T, Kidoguchi K, Yamamoto Y, Tomoda A, Hoshiko T, Kojima N, Nakata S, Kimura S: Targeting oxidative phosphorylation with a novel thiophene carboxamide increases the efficacy of imatinib against leukemic stem cells in chronic myeloid leukemia. Int. J. Mol. Sci. 2024, 25(20): 11093, 2024, 10.

23 Mitsutake T, Nakazono H, Shiozaki T, Taniguchi T, Yoshizuka H, Sakamoto M: Neural interference effects on lateral vestibulospinal tract excitability by noisy galvanic vestibular stimulation. Clin Neurophysiol. 168: 153-160, 2024, 11.

24 Ishimaru Y, Kessoku T, Nonaka M, Kitajima Y, Hyogo H, Nakajima T, Imajo K, Kubotsu Y, Isoda H, Kawanaka M, Yoneda M, Anzai K, Nakajima A, Furukawa K, Kawaguchi A, Takahashi H: Effects of ipragliflozin on skeletal muscle adiposity in patients with diabetes and metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease. Internal Medicine, 2024, 4456-24, 2024, 11.

25 *Minami M, Imamura T, Takamori A, Minagawa H, Matsuo R, Miyakawa J, Izumi K, Ohta S, Yamanouchi K, Souta N, Yamamoto K, Tsuji S, Umemura T, Anzai K, Hirai Y, Fujimoto K, Kishi T: Characterized factors of subjects who were first time diagnosed as hyperglycemia more than 126 mg/dl during annual or biannual medical checkups: a case-control study in Japan. J Clin Biochem Nutr. 75(3): 217-221, 2024, 11.

26 *Takagi K, Kishi T, Goto T, Yamanouchi K, Yoshikawa K, Imamura T, Nakayama S, Anzai K, Akiyoshi Y, Kitajima A, Onozawa K, Takamori A, Fujimoto K: Female patients with end-stage renal failure treated by hemodialysis had a low mortality rate and small patient number compared to male patients: 5-year follow-up study in Japan. J Clin Biochem Nutr. 75(3): 237-240, 2024, 11.

27 ○Sakai H, Kuji R, Moriguchi Y, Yamashita S, Takamori A, Tamura M, Mino T, Akiba M, Enaida H: Optical Attenuation Coefficient-Based En Face Optical Coherence Tomography Imaging for the Reliable Assessment of the Ellipsoid Zone. J Clin Med. 25; 13(23): 7140, 2024, 11.

28 ○Nishida Y, Hara M, Taguchi N, Nakamura K, Nanri H, Imaizumi T, Sakamoto T, Shimanoe C, Horita M, Furukawa T, Iwasaka C, Shinchi K, Higaki Y, Tanaka K: Association between physical activity and the N-terminal pro-brain natriuretic peptide in a middle-aged Japanese population: The interaction with alcohol consumption, 2005-2006. Prev Med. 2024 Dec: 189: 108138, 2024, 12.

29 *Yoshikawa K, Kishi T, Takamori A, Goto T, Onozawa K, Takagi K, Kuroki F, Akiyoshi Y, Yamamoto T: Benefits of Continuous Outpatient Orthopedic Consultations for Both Upper and Lower Body on the Mortality Rates of Hemodialysis Patients. Cureus. 12; 16(12): e75576, 2024, 12.

30 ○Ogata A, Ogasawara K, Nishihara M, Takamori A, Furukawa T, Ide T, Ito H, Yoshioka F, Nakahara Y, Masuoka J, Koike H, Irie H, Abe T: Subarachnoid iodine leakage on dual-energy computed tomography after mechanical thrombectomy is associated with malignant brain edema. J Neurointerv Surg. 14; 17(3): 248-253, 2025, 2.

症例報告

1 Kubo T, Matsuo S, Sogawa R, Yasu T, Nagaie T, Okamoto S, Kimura S, Shimanoe C: Monitoring of blood levels in patients administered CYP3A4 inhibitor during the maintenance phase of venetoclax administration. Int J Clin Pharmacol Ther, 62(1): 56-60, 2024, 1.

2 *森本眞寿代，高守史子，川口　淳，永松美雪，濱嵜真由美：母親が退院後早期に感じる育児不安の要因．母性衛生．65(1)：105-111，2024，4.

学会発表

国際規模の学会

1 Furukawa T, Hara M, Nishida Y, Shimanoe C, Iwasaka C, Tanaka K, J-MICC Study Group: Comparison of polygenic risk scores for diabetes developed from different ethnic groups: A cross-sectional study in the Japanese population. World Congress of Epidemiology 2024. 2024, 9, 24-27, World Congress of Epidemiology 2024: O2-17 Genetic epidemiology.

2 ○Nishida Y, Hara M, Naoto T, Iwasaka C, Furukawa T Shimanoe C, Horita M, Higaki Y, Tanaka K: Interaction of physical activity with VTI1A and TCF7L2 polymorphisms on colon and breast cancer incidences in a Japanese general population. World Congress of Epidemiology 2024. 2024, 9, 24-27, World Congress of Epidemiology 2024: O2-17 Genetic epidemiology.

国内全国規模の学会

1 古川拓馬，西田裕一郎，原めぐみ，島ノ江千里，岩坂知治，田中恵太郎，J-MICC Study Group：日本人におけるポリジェニックリスクスコアと糖尿病の関連：J-MICC Study．第34回日本疫学会学術総会．2024，1，31-2，2.

2 ○原めぐみ，古川拓馬，西田裕一郎，島ノ江千里，田中恵太郎：乳がんの Polygenic Risk Score による乳がん罹患予測：J-MICC Study．第34回日本疫学会学術総会．2024，1，31-2，2.

3 ○西田裕一郎，原めぐみ，田口尚人，岩坂知治，古川拓馬，島ノ江千里，堀田美加子，檜垣靖樹，田中恵太郎：大腸がん・乳がん罹患リスクに対する身体活動と VTI1A・TCF7L2遺伝子多型の交互作用：第34回日本疫学会学術総会．2024，1，31-2，2.

4 ○島ノ江千里，松本明子，原めぐみ，西田裕一郎，古川拓馬，田中恵太郎：糖尿病患者の高血圧とグルココルチコイド活性マーカーとの関連：J-MICC Study SAGA．第34回日本疫学会学術総会．2024，1，31-2，2.

5 ○島村拓弥，犬尾和子，行元崇浩，鶴岡ななえ，坂田資尚，高守史子，江崎幹宏：結腸憩室出血に対する穹帰膠艾湯の出血予防効果に関する後方視的検討．第20回日本消化管学会総会学術集会．2024，2，9-10.

6 ○Ashenagar M S, Hara M, Tokiya M, Furukawa T, Iwasaka C, Sawada T, Hirota Y, Matsumoto A: Baseline Serum Zinc Levels Positively Associated with Humoral Response to COVID-19 Vaccine in Japanese Women. 第94回日本衛生学会学術総会．2024，3，7-9.

7 ○Bogahawaththa S, Hara M, Furukawa T, Iwasaka C, Sawada T, Yamada G, Tokiya M, Kitagawa

K, Miyake Y, Hirota Y, Matsumoto A: Association between Specific T Cell Responses and rs671 Polymorphism Following COVID-19 Vaccination: Prospective Study in the Japanese General Population. 第94回日本衛生学会学術総会. 2024, 3, 7-9.

8 ○吉田恭平, 児玉祥一, 岸川純子, 田篭康洋, 古川拓馬, 吉岡吾郎, 矢島あゆむ, 柚木純二, 野出孝一, 蒲原啓司：経カテーテル大動脈弁置換術後の在院日数延長に関与する因子の検討. 第88回日本循環器学会学術集会. 2024, 3, 8-10.

9 吉田倫子：未承認・適応外薬の日本導入に向けてアカデミアで可能な支援. 第128回日本眼科学会総会. 2024, 4, 18-21.

10 ○緒方敦之, 西原正志, 高守史子, 古川　隆, 井手俊宏, 伊藤　寛, 吉岡史隆, 中原由紀子, 増岡淳, 小池春樹, 入江裕之, 阿部竜也：経皮的脳血栓回収術後のくも膜下腔造影剤漏出と急性脳腫脹の関連. 日本脳神経 CI 学会総会. 2024, 4, 19-20.

11 石丸悠子, 川口　淳：非負行列因子分解を用いたマルチモダル脳画像に基づくデータ駆動型疾患サブタイプ同定法. 2024年度人工知能学会全国大会（第38回）. 2024, 5, 28-31.

12 星子亨幹, 久保田寧, 弘津辰徳, 木村晋也：白血病細胞をオートファジー細胞死に導く葉酸修飾シクロデキストリンの開発. 第28回日本がん分子標的治療学会学術集会. 2024, 6, 19-21.

13 ○川口　淳, 石丸悠子, 高尾結佳：説明性を高める脳画像スコアリング法. 第 6 回日本メディカル AI 学会学術集会. 2024, 6, 21-22.

14 ○山口　真, 坂本麻衣子, 光武　翼, 福森則男, 植田美穂, 木本晶子, 山﨑加奈枝, 小田康友：自己主導型学修への適応状態に関する医学科生の自己評価. 第56回医学教育学会. 2024, 8, 10.

15 *福森　聡, 三浦佳代子, 高守史子, 大塚貞男：バーチャルリアリティを基盤とした展望記憶トレーニングシステムの開発と評価. 日本心理学会第88回大会. 2024, 9, 6-8.

16 *三浦佳代子, 大塚貞男, 福森　聡, 高守史子：バーチャルリアリティを活用した展望記憶トレーニングの効果に関する予備的検討. 日本心理学会第88回大会. 2024, 9, 6-8.

17 吉田倫子：全九州における DCT 実装に向けた取組み. ARO 協議会第11回学術集会. 2024, 9, 20-21.

18 細矢和久, 齊田正弘, 多田裕子, 古賀真美, 木村普也：慢性骨髄性白血病解説動画視聴による薬剤師の理解度向上効果の検討～慢性骨髄性白血病（CML）治療環境向上プロジェクト～. 第57回日本薬剤師学術大会. 2024, 9, 22-23.

19 ○黒川洸成, 長澤由香子, 光武　翼, 吉塚久記：腓腹筋に対する周波数3MHz の超音波療法の照射部位の違いが筋硬度に及ぼす影響. 第142回理学療法・作業療法・言語聴覚合同科学学会学術大会. 2024, 9, 21.

20 *草野　葵, 岩田知緩, 森　佳怜, 光武　翼：右後部頭頂皮質への経頭蓋直流電気刺激が立位制御姿勢機能に及ぼす影響. 第142回理学療法・作業療法・言語聴覚合同科学学会学術大会. 2024, 9, 21.

21 *杉山　黎, 光武　翼, 中薗寿人, 谷口隆憲, 柴田旺祐, 金子純一朗：脳卒中患者の損傷領域における姿勢制御機能の特性～ Mini-BESTest を用いた検証～. 第22回日本神経理学療法学会学術大会. 2024, 9, 28.

22 *吉川大志, 猪村剛史, 光武　翼, 井上　優, 田中　亮：脳卒中発症後24か月間の歩行変動性の経時的変化：症例報告. 第22回日本神経理学療法学会学術大会. 2024, 9, 28.

23 *平松靖史, 村井一範, 木口　亨, 魚嶋伸彦, 玉井洋太郎, 福島耕治, 古川拓馬, 星子亨幹, 高守史

子，光武　翼，吉田倫子，木村晋也，照井康仁：Phase II clinical trial for peripheral blood stem cell harvest with BR therapy in R/R DLBCL．日本血液学会学術集会86回．2024，10，11-13.

24 *木村　哲，高橋直人，嬉野博志，一戸辰夫，高守史子，川口　淳，木村晋也：TKI 治療に抵抗性／耐性の CML におけるボスチニブ漸増の多施設共同第 II 相臨床試験（BOGI 試験）．日本血液学会学術集会86回．2024，10，11-13.

25 *吉野瑛祐，柴田旺祐，谷口隆憲，中薗寿人，光武　翼：左後部頭頂皮質への経頭蓋直流電気刺激が歩行時の姿勢制御反応に及ぼす影響．第29回日本基礎理学療法学会．2024，10，12-13.

26 *柴田旺祐，中薗寿人，谷口隆憲，金子純一郎，光武　翼：外側前庭脊髄路興奮性に対する Gaze Stabilization Exercises と小脳経頭蓋直流電気刺激の併用効果．第29回日本基礎理学療法学会．2024，10，12-13.

27 ○川崎寿磨子，鮎川ひとみ，高守史子，森本眞寿代：産後 1 ヵ月時点における母親の育児不安に関連する要因 初産婦・経産婦を比較して．第65回日本母性衛生学会総会・学術集会．2024，10，18-19.

28　久保利樹，祖川倫太郎，島ノ江千里：医薬品副作用データベース（JADER）を用いた JAK 阻害剤と心筋梗塞の関連性についての解析．第34回日本医療薬学会年会．2024，11，2-4.

29 *池田康博，村上祐介，向野利一郎，小早川優子，吉田倫子，沖田絢子，中武俊二，藤原康太，舩津淳，馬渡　剛，久井貴博，杉田直大，園田康平：DVC1-0401網膜下投与による網膜色素変性に対する視細胞保護遺伝子治療の第 I/IIa 相医師主導試験．第78回日本臨床眼科学会．2024, 11, 14-17.

地方規模の学会

1 *米原　希，宍戸健一郎，島田大資，森内康之，山崎　諒，井上　優，猪村剛史，光武　翼，田中亮：脳卒中片麻痺者に出現する歩行の運動学的特徴と歩行自立との関連－ケースコントロール研究－．第37回中国ブロック理学療法士学会．2024，9，7.

その他の学会

1　久保利樹：シックデイのリウマチ治療薬に関する患者・医療従事者の認識度調査．第23回 RA トータルマネージメントフォーラム．2024，2，3.

2 ○川口　淳，石丸悠子，高尾結佳，山下典生：脳画像ハーモナイゼーション．国立研究開発法人科学技術振興機構 CREST AI 駆動仮説の静的・動的信頼性保証と医療への展開．2024，3，26.

3 *杉山　黎，光武　翼，中薗寿人，谷口隆憲，金子純一朗：脳卒中患者の脳損傷領域における姿勢制御反応の変化．第 3 回日本前庭理学療法研究会学術集会．2024，6，2.

4 *長野弘枝，塩崎智之，藤田大輝，光武　翼：Body lateropulsion 症例への歩行中の対人ライトタッチの効果について．第 3 回日本前庭理学療法研究会学術集会．2024，6，2.

5 *柴田旺祐，中薗寿人，谷口隆憲，金子純一朗，光武　翼：Gaze Stabilization Exercises と小脳経頭蓋直流電気刺激の併用が前庭脊髄路に及ぼす影響：第 3 回日本前庭理学療法研究会学術集会．2024，6，2.

6 ○高尾結佳，大迫亮介，石丸悠子，高橋佑弥，川口　淳：構造化教師付きスパース主成分法．第 6 回かごしまデータ科学シンポジウム．2024，8，5.

7　古川拓馬，西田裕一郎，島ノ江千里，岩坂知治，原めぐみ，J-MICC Study Group：日本人集団における糖尿病 Polygenic Risk Score の比較：J-MICC Study．第 3 回佐賀大学医学部リトリート．2024，8，24-25.

8 ○高尾結佳，大迫亮介，石丸悠子，高橋佑弥，川口　淳：構造化教師付きスパース主成分法．国立研

究開発法人科学技術振興機構 CREST AI 駆動仮説の静的・動的信頼性保証と医療への展開．2024, 9, 6.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
特任教授	吉田　倫子	国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）	研究開発推進ネットワーク事業	1	北部九州における分散型臨床試験のための医療機関ネットワーク構築と倫理審査の効率化を目指した研究	4,730
特任教授	吉田　倫子	国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）	研究開発推進ネットワーク事業	1	全九州における黄斑下出血に対する組織プラスミノーゲン活性化因子（tPA）眼局所治療に関する研究開発	18,600
特任教授	吉田　倫子	科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）	2	炎症性単球を標的とした網膜変性治療薬のグローバル開発	300
特任准教授	光武　　翼	科学研究費助成事業	基盤研究(B)	1	ノイズ前庭電気刺激による新たな転倒予防法を確立するための包括的研究	7,280 (2,183)
特任准教授	光武　　翼	武田科学振興財団	医学系研究継続助成	1	脳卒中片麻痺における tDCS と FES の同時介入による新規治療法の開発	1,611
特任准教授	光武　　翼	科学研究費助成事業	基盤研究(B)	2	運動野に可塑性を誘導する新規非侵襲的脳刺激法の開発：その神経基盤と臨床応用	50
特任准教授	光武　　翼	科学研究費助成事業	基盤研究(B)	2	日常的運転行動記録と下肢の自己受容感覚解析によるペダル踏み間違い事故の要因解明	40
特任准教授	光武　　翼	厚生労働省科学研究費補助金	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	2	エビデンスに基づいたロコモティブシンドローム早期対策の実践に資する包括的研究	100
特任准教授	光武　　翼	国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）	研究開発推進ネットワーク事業	2	全九州における黄斑下出血に対する組織プラスミノーゲン活性化因子（tPA）眼局所治療に関する研究開発	0
特任助教	高守　史子	科学研究費助成事業	基盤研究（C）	2	ワゴンホイール効果を応用したパーキンソン病等による思考緩慢の測定法開発と臨床応用	100
特任助教	高守　史子	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	臨地実習指導者から看護教員への役割移行におけるアンラーニング教育プログラムの開発	80

特任助教	高守　史子	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	新規育児不安尺度の開発ー出産施設退院時の母親の育児不安に着目してー	0 (20)
特任助教	高守　史子	国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）	研究開発推進ネットワーク事業	2	北部九州における分散型臨床試験のための医療機関ネットワーク構築と倫理審査の効率化を目指した研究	0
特任助教	高守　史子	国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）	研究開発推進ネットワーク事業	2	全九州における黄斑下出血に対する組織プラスミノーゲン活性化因子（tPA）眼局所治療に関する研究開発	0
特任助教	星子　享幹	国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）	研究開発推進ネットワーク事業	2	全九州における黄斑下出血に対する組織プラスミノーゲン活性化因子（tPA）眼局所治療に関する研究開発	0
特任助教	古川　拓馬	科学研究費助成事業	若手研究	1	生活習慣病に関連するDNAメチル化領域の探索およびライフスタイル要因の影響	1,300 (500)
特任助教	古川　拓馬	科学研究費助成事業	研究活動スタート支援	1	糖尿病に対する遺伝的リスクと個別化対処戦略の検討	0 (565)
特任助教	古川　拓馬	国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）	研究開発推進ネットワーク事業	2	北部九州における分散型臨床試験のための医療機関ネットワーク構築と倫理審査の効率化を目指した研究	0
特任助教	古川　拓馬	国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）	研究開発推進ネットワーク事業	2	全九州における黄斑下出血に対する組織プラスミノーゲン活性化因子（tPA）眼局所治療に関する研究開発	0

※（　）は繰越金で外数

学術（学会）賞

職　名	氏　名	学術（学会）賞名	受　賞　課　題
特任助教	古川　拓馬	第34回日本疫学会学術総会，最優秀演題賞	日本人におけるポリジェニックリスクスコアと糖尿病の関連：J-MICC Study

卒後臨床研修センター

総　　説

1　山﨑有菜，安西慶三：臨牀と研究，100，2，81-86，Feb-24.

学会発表

国際規模の学会

1　Kota Minami, Shun Yamashita, Masaki Tago: Atypical adult IgA vasculitis with thrombocytopenia and coagulopathy abnormalities. ACP（米国内科学会）日本支部年次総会．2024，6，21-23，Poster & Exihibition.

2　Sumika Uno, Shun Yamashita, Masaki Tago: Pitfall of isolated superior mesenteric artery dissec-

tion with normal D-dimer level. ACP（米国内科学会）日本支部年次総会. 2024, 6, 21–23.

3 Riko Nomiyama, Masanori Nishi, Tetsuya Nosho, Hiroi Eguchi, and Muneaki Matsuo: Megaloblastic Anemia due to Picky Eating Habits in a Child with Autism Spectrum Disorder. 第14回 JSH 国際シンポジウム2024in 函館. 2024, 7, 13–15.

国内全国規模の学会

1 *桑原志穂，髙栁宏樹，内田慧月，小松裕加，美奈川仁美，山﨑有菜，武市幸奈，松浦朋美，垣内俊彦，安西慶三：食事療法と SGLT2阻害薬により糖尿病と脂肪肝の改善を認めた成人期フェニルケトン尿症の１例. 第67回日本糖尿病学会年次学術集会. 2024, 5, 17–19.

2 ○内田慧月，髙栁宏樹，桑原志穂，小松裕加，美奈川仁美，山﨑有菜，森　仁恵，安西慶三：るい痩に伴う無月経の精査を契機に Cushing 症候群と診断した一例. 第97回日本内分泌学会学術総会. 2024, 6, 6–8.

3 ○江頭桃子，美奈川仁美，内田慧月，小松裕加，桑原志穂，久冨茜音，山﨑有菜，髙栁宏樹，森　仁恵，安西慶三：123I-MIBG の集積を認め外科的切除を行った頚動脈小体パラガングリオーマの１例. 第97回日本内分泌学会学術総会. 2024, 6, 6–8.

4 ○内田慧月，美奈川仁美，江頭桃子，荒木大夢，岸川まり子，山﨑有菜，森　仁恵，小島基靖，高橋宏和，安西慶三：フレックスタッチ ® 取付スマートセンサーを導入した高齢者糖尿病の一例. 第24回日本糖尿病インフォマティクス学会 年次学術集会. 2024, 8, 17–18.

5 ○荒木大夢，小島基靖，江頭桃子，内田慧月，桑原志穂，小松裕加，岸川まり子，美奈川仁美，山﨑有菜，髙栁宏樹，安西慶三：ステロイド導入で血糖改善を認めた手術困難インスリノーマの一例. 第34回臨床内分泌代謝 Update. 2024, 11, 29–30.

地方規模の学会

1 ○江頭桃子，美奈川仁美，内田慧月，荒木大夢，桑原志穂，小松裕加，岸川まり子，山﨑有菜，森仁恵，小島基靖，安西慶三：原因同定が困難であったインスリン自己免疫症候群の一例. 第24回日本内分泌学会 九州支部学術集会. 2024, 9, 7.

2 ○内田慧月，美奈川仁美，江頭桃子，荒木大夢，岸川まり子，山﨑有菜，森　仁恵，小島基靖，高橋宏和，安西慶三：フレックスタッチⓇ取付スマートセンサーを導入した高齢者糖尿病の一例. 第62回日本糖尿病学会九州地方会. 2024, 10, 25–26.

3 ○荒木大夢，小島基靖，江頭桃子，内田慧月，岸川まり子，美奈川仁美，山﨑有菜，安西慶三：スマートインスリンペンを導入し，血糖改善を認めた高齢者１型糖尿病の１例. 第62回日本糖尿病学会九州地方会. 2024, 10, 25–26.

4 鍋島沙織，手石方崇志，宮原尚文，岡本祐介，平塚昌文：術前ニボルマブ＋化学療法後に extended sleeve lobectomy typeC を施行した一例. 第57回日本胸部外科学会九州地方会総会. 2024, 8, 1–2.

5 鍋島沙織，藤原元嗣，平田理紗，鋪野紀好，中島央律紗，井手則子，本村　壮，中村仁彦，牧尾成二郎，大石　透，山下　駿，徳島圭宜，香月尚子，相原秀俊，多胡雅毅：両側下腿浮腫で発症した血管内大細胞型Ｂ細胞リンパ腫の一例. 第29回日本病院総合診療医学会学術総会. 2024, 8, 23.

6 伊藤優宏，小林理紗，松岡　華，荒木敬裕，深村　光，野中枝理子，山﨑政虎，池田裕貴，平田早恵，福田　誠，吉原万貴，宮園素明：腹痛，嘔気を初発症状とし，急性腎障害を契機に診断された大動脈解離 StanfordB の一例. 第54回日本腎臓学会東部学術大会. 2024, 9, 13.

7　湯村公子：診断上興味ある症例．第126回九州泌尿器科連合地方会学術集会．2024，10，19.

8　*原口裕貴，小林理沙，松岡　華，荒木敬裕，深村　光，野中枝理子，山﨑政虎，池田裕貴，福田誠，吉原万貴，福田亜沙子，横山正俊，宮園素明：２型糖尿病を背景に Bevacizumab 使用中に尿蛋白が増強した子宮頸癌の一例．第54回日本腎臓学会西部学術大会．2024，10，6.

9　脇　晃太，小楠真典，南里水晶，梶原　心，桑原雄紀，栗原有紀，小宮奈津子，田代宏樹，中島千穂，高橋浩一郎：傍腫瘍性神経症候群（PNS）を合併した SOX1抗体陽性小細胞肺癌の２例：第93回日本呼吸器学会九州支部秋季学術講演会．2024，10，11-12.

10　谷川もえぎ，田中智和，江川紀幸，井手貴雄，能城浩和：小肝癌に対する重粒子線治療への警鐘～重粒子線治療後局所再発肝細胞癌に対する腹腔鏡下切除術の一例～．第124回日本消化器病学会九州支部例会．2024，11，15-16.

11　一ノ宮舜，鶴岡ななえ，白水萌子，貞島健人，島村拓弥，武富啓展，芥川剛至，山口太輔，坂田資尚，下田　良，江崎幹宏：健常成人に発症した消化管サイトメガロウイルス感染症の一例．第118回日本消化器内視鏡学会九州支部例会．2024，11，15-16.

12　宇野純加，横井研介，諸隈宏之，蒲原啓司，野出孝一：著明な異常所見に目を奪われ，背景疾患の発見が遅れた急性心不全症例．日本循環器学会 第143回九州地方会．2024，12，13-14.

13　宇野純加，松岡綾華，櫻井良太，品田公太，小網博之，坂本雄一郎：血管拡張薬の動注療法が奏功した大腸 NOMI の一例．蘇生学会 第43回大会．2024，12，6-7.

14　大津幸穂，西　眞範，江口啓意，納所哲也，松尾崇明：造血幹細胞移植後早期再発急性骨髄性白血病に対してベネトクラクス・アザシチジン併用療法を実施した幼児の２例．第66回日本小児血液がん学会 学術集会．2024，12，13-15.

15　矢原有紗，浅見豊子，村田和樹，佐藤佑紀：転倒予防の観点での短下肢装具の種類選択について．日本転倒予防学会．2024，11，23-24.

肝疾患センター
（胆膵先進医療学講座を含む）

著　　書

1　高橋宏和：代謝性肝疾患．消化器難治癌シリーズ―肝細胞癌．18-19，2024，2024，日本消化器病学会.

2　○藤本　光，高橋宏和；観血的手技における出血予防 ③トロンボポエチン受容体作動薬．Thrombosis Medicine 増刊号．14(1)：34-39，2024，株式会社先端医学社.

3　高橋宏和：移植前における移植実施施設と非実施施設の連携―．移植人生のための患者・医療者マニュアル．174-178，2024，11，日本移植学会.

4　高橋宏和：移植後における移植実施施設と非実施施設の連携．移植人生のための患者・医療者マニュアル．179-183，2024，10，日本移植学会.

5　高橋宏和，磯田広史：肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業．肝臓専門医テキスト（改訂第４版）．518-519，2024，11，南江堂.

6　*Ito T, Takahashi H: Chapter 17 – Lean NAFLD: Prevalence, risk factors/pathogenesis, natural history, and treatment. Metabolic Steatotic Liver Disease. 277-296, 2024, ELSEVIR.

原著論文

1 *Ogawa E, Jun DW, Toyoda H, Hsu YC, Yoon EL, Ahn SB, Yeh ML, Do S, Trinh HN, Takahashi H, Enomoto M, Kawada N, Yasuda S, Tseng CH, Kawashima K, Lee HA, Inoue K, Haga H, Do AT, Maeda M, Hoang JH, Cheung R, Ueno Y, Eguchi Y, Furusyo N, Yu ML, Tanaka Y, Nguyen MH: Increased spine bone density in patients with chronic hepatitis B switched to tenofovir alafenamide: A prospective, multinational study. Alimentary pharmacology & therapeutics. 59(2): 239-248, 2024, 2.

2 ○Shibayama K, Furushima C, Saka M, Sakamoto T, Takahashi H: Barriers to lifestyle modification in patients with non-alcoholic fatty liver disease a scoping review. Journal of rural medicine. JRM/Japanese Association of Rural Medicine. 19(1): 1-9, 2024, 1, 1.

3 *Nakaji S, Takahashi H, Yoshioka W, Shiratori T, Yoshimura S, Kawamitsu N, Tomonari A: Risk factors of early adverse events associated with endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy using self-expandable metal stent. Endoscopy international open. 12(1): E164-E175, 2024, 1, 1.

4 *Jang TY, Liang PC, Jun DW, Jung JH, Toyoda H, Wang CW, Yuen MF, Cheung KS, Yasuda S, Kim SE, Yoon EL, An J, Enomoto M, Kozuka R, Chuma M, Nozaki A, Ishikawa T, Watanabe T, Atsukawa M, Arai T, Hayama K, Ishigami M, Cho YK, Ogawa E, Kim HS, Shim JJ, Uojima H, Jeong SW, Ahn SB, Takaguchi K, Senoh T, Buti M, Vargas-Accarino E, Abe H, Takahashi H, Inoue K, Huang JF, Chuang WL, Yeh ML, Dai CY, Huang CF, Nguyen MH, Yu ML: Pretreatment gamma-glutamyl transferase predicts mortality in patients with chronic hepatitis B treated with nucleotide/nucleoside analogs. The Kaohsiung journal of medical sciences. 40(2): 188-197, 2024, 2.

5 *Mine K, Nagafuchi S, Akazawa S, Abiru N, Mori H, Kurisaki H, Shimoda K, Yoshikai Y, Takahashi H, Anzai K; TYK2 signaling promotes the development of autoreactive CD8+ cytotoxic T lymphocytes and type 1 diabetes. Nature communications. 15(1): 1337, 2024, 2, 13.

6 *Chau A, Yeh ML, Tsai PC, Huang DQ, Kim SE, Trinh H, Yoon EL, Oh H, Jeong JY, Ahn SB, An J, Tseng CH, Hsu YC, Jeong SW, Cho YK, Shim JJ, Kim HS, Ito T, Marciano S, Kawashima K, Suzuki T, Watanabe T, Nozaki A, Ishikawa T, Inoue K, Eguchi Y, Uojima H, Abe H, Takahashi H, Chuma M, Ishigami M, Hoang JK, Maeda M, Huang CF, Gadano A, Dai CY, Huang JF, Tanaka Y, Chuang WL, Lim SG, Cheung R, Yu ML, Jun DW, Nguyen MH: Sex Differences in Treatment Response to Nucleos(t)ide Therapy in Chronic Hepatitis B: A Multicenter Longitudinal Study. Clinical gastroenterology and hepatology. the official clinical practice journal of the American Gastroenterological Association. 22(3): 572-580. e5, 2024, 3.

7 *Younossi ZM, AlQahtani SA, Alswat K, Yilmaz Y, Keklikkiran C, Funuyet-Salas J, Romero-Gómez M, Fan JG, Zheng MH, El-Kassas M, Castera L, Liu CJ, Wai-Sun Wong V, Zelber-Sagi S, Allen AM, Lam B, Treeprasertsuk S, Hameed S, Takahashi H, Kawaguchi T, Schattenberg JM, Duseja A, Newsome P, Francque S, Spearman CW, Castellanos Fernández MI, Burra P, Roberts SK, Chan WK, Arrese M, Silva M, Rinella M, Singal AK, Gordon S, Fuchs M, Alkhouri N, Cusi K, Loomba R, Ranagan J, Eskridge W, Kautz A, Ong JP, Kugelmas M, Eguchi Y, Diago M, Yu ML, Gerber L, Fornaresio L, Nader F, Henry L, Racila A, Golabi P, Stepanova M, Carrieri P, Lazarus JV: Global NASH Council: Global survey of stigma among physicians and patients with nonalco-

holic fatty liver disease. Journal of hepatology. 80(3): 419-430, 2024, 3.

8 Takahashi H, Asakawa K, Kosakai Y, Lee T, Rokuda M: Comparative effectiveness of sodium-glucose co-transporter-2 inhibitors and dipeptidyl peptidase-4 inhibitors on liver function in patients with type 2 diabetes in Japan: A real-world data analysis. Diabetes, obesity & metabolism. 26(3): 997-1007, 2024, 3.

9 *Park JE, Nguyen VH, Tsai PC, Toyoda H, Leong J, Guy JE, Yeh ML, Huang CF, Yasuda S, Abe H, Hsu YC, Tseng CH, Liu J, Chen YL, Lin PY, Jun DW, Yoshimaru Y, Ogawa E, Ishigami M, Enomoto M, Tamori A, Uojima H, Wang XZ, Xu Q, Takahashi H, Eguchi Y, Inoue K, Huang DQ, Zhao WJ, Chuang WL, Dai CY, Huang JF, Barnett S, Maeda M, Cheung R, Landis C, Tanaka Y, Roberts LR, Schwartz ME, Kumada T, Yu ML, Nguyen MH: Racial and ethnic disparities in untreated patients with hepatitis C virus-related hepatocellular carcinoma but not in those with sustained virologic response. Alimentary pharmacology & therapeutics. 59(6): 742-751, 2024, 3, 1.

10 *Lim WH, Tay P, Ng CH, Tan DJH, Ong C, Koh JH, Teng M, Chee D, Wong ZY, Kawaguchi T, Takahashi H, Muthiah M, Tan EXX, Wijarnpreecha K, Lee GH, Noureddin M, Lee BP, Mathurin P, Loomba R, Huang DQ: Prevalence and impact of alcohol abstinence in alcohol-associated cirrhosis: Systematic review and meta-analysis. Alimentary pharmacology & therapeutics. 59(6): 730-741, 2024, 3.

11 *Tan DJH, Ng CH, Muthiah M, Yong JN, Chee D, Teng M, Wong ZY, Zeng RW, Chin YH, Wang JW, Danpanichkul P, Rajaram RB, DasGupta R, Suzuki H, Takahashi H, Tamaki N, Dan YY, Lui R, Duseja A, Siddiqui MS, Yeoh KG, Sanyal A, Wijarnpreecha K, Loomba R, Mantzoros CS, Huang DQ: Rising global burden of cancer attributable to high BMI from 2010 to 2019. Metabolism. clinical and experimental. 152: 155744, 2024, 3.

12 *Younossi ZM, Alqahtani SA, Funuyet-Salas J, Romero-Gómez M, Yilmaz Y, Keklikkiran C, Alswat K, Yu ML, Liu CJ, Fan JG, Zheng MH, Burra P, Francque SM, Castera L, Schattenberg JM, Newsome PN, Allen AM, El-Kassas M, Treeprasertsuk S, Hameed S, Wong VW, Zelber-Sagi S, Takahashi H, Kawaguchi T, Castellanos-Fernández MI, Duseja A, Arrese M, Rinella M, Singal AK, Gordon SC, Fuchs M, Eskridge W, Alkhouri N, Cusi K, Loomba R, Ranagan J, Kautz A, Ong JP, Kugelmas M, Eguchi Y, Diago M, Gerber L, Lam B, Fornaresio L, Nader F, Spearman CW, Roberts SK, Chan WK, Silva M, Racila A, Golabi P, Ananchuensook P, Henry L, Stepanova M, Carrieri P: Lazarus JV on behalf of the Global NASH Council: The Impact of Stigma on Quality of Life and Liver Disease Burden Among Patients with Nonalcoholic Fatty Liver Disease. JHEP reports: innovation in hepatology. 6(7): 101066, 2024, 7, 1.

13 *Sano T, Amano K, Ide T, Isoda H, Honma Y, Morita Y, Yano Y, Nakamura H, Itano S, Miyajima I, Shirachi M, Kuwahara R, Ohno M, Kawaguchi T, Tsutsumi T, Nakano D, Arinaga-Hino T, Kawaguchi M, Eguchi Y, Torimura T, Takahashi H, Harada M, Kawaguchi T: SAKS Study Group: Metabolic management after sustained virologic response in elderly patients with hepatitis C virus: A multicenter study. Hepatology research: the official journal of the Japan Society of Hepatology. 54(4): 326-335, 2024, 4.

14 *Arai T, Takahashi H, Seko Y, Toyoda H, Hayashi H, Yamaguchi K, Iwaki M, Yoneda M, Shima T,

Fujii H, Morishita A, Kawata K, Tomita K, Kawanaka M, Yoshida Y, Ikegami T, Notsumata K, Oeda S, Atsukawa M, Kamada Y, Sumida Y, Fukushima H, Miyoshi E, Aishima S, Okanoue T, Itoh Y, Nakajima A: Accuracy of the enhanced liver fibrosis test in patients with type 2 diabetes mellitus and its clinical implications. Clinical gastroenterology and hepatology. the official clinical practice journal of the American Gastroenterological Association. 22(4): 789-797. e8, 2024, 4.

15 *Iwaki M, Fujii H, Hayashi H, Toyoda H, Oeda S, Hyogo H, Kawanaka M, Morishita A, Munekage K, Kawata K, Tsutsumi T, Sawada K, Maeshiro T, Tobita H, Yoshida Y, Naito M, Araki A, Arakaki S, Kawaguchi T, Noritake H, Ono M, Masaki T, Yasuda S, Tomita E, Yoneda M, Tokushige A, Kamada Y, Takahashi H, Ueda S, Aishima S, Sumida Y, Nakajima A, Okanoue T: Prognosis of biopsy-confirmed metabolic dysfunction- associated steatotic liver disease: A sub-analysis of the CLIONE study. Clinical and molecular hepatology. 30(2): 225-234, 2024, 4, 1.

16 *Danpanichkul P, Ng CH, Muthiah M, Suparan K, Tan DJH, Duangsonk K, Sukphutanan B, Kongarin S, Harinwan N, Panpradist N, Takahashi H, Kawaguchi T, Vichitkunakorn P, Chaiyakunapruk N, Nathisuwan S, Huang D, Arab JP, Noureddin M, Mellinger JL, Wijarnpreecha K: From Shadows to Spotlight: Exploring the Escalating Burden of Alcohol-Associated Liver Disease and Alcohol Use Disorder in Young Women. The American journal of gastroenterology. 119(5): 893-909, 2024, 3, 18.

17 *Nagao Y, Tomooka K, Takahashi H: Survey of Medical Referral by Japanese Dentists for Patients With Hepatitis B, Hepatitis C, and Lichen Planus. Curēus. 16(5): e60624, 2024, 5, 1.

18 *Jang TY, Liang PC, Jun DW, Jung JH, Toyoda H, Wang CW, Yuen MF, Cheung KS, Yasuda S, Kim SE, Yoon EL, An J, Enomoto M, Kozuka R, Chuma M, Nozaki A, Ishikawa T, Watanabe T, Atsukawa M, Arai T, Hayama K, Ishigami M, Cho YK, Ogawa E, Kim HS, Shim JJ, Uojima H, Jeong SW, Ahn SB, Takaguchi K, Senoh T, Buti M, Vargas-Accarino I E, Abe H, Takahashi H, Inoue K, Yeh ML, Dai CY, Huang JF, Huang CF, Chuang WL, Nguyen MH, Yu ML: Mortality in patients with chronic hepatitis B treated with tenofovir or entecavir: A multinational study. Journal of gastroenterology and hepatology. 39(6): 1190-1197, 2024, 6.

19 *Tsutsumi T, Kawaguchi T, Fujii H, Kamada Y, Takahashi H, Kawanaka M, Sumida Y, Iwaki M, Hayashi H, Toyoda H, Oeda S, Hyogo H, Morishita A, Munekage K, Kawata K, Sawada K, Maeshiro T, Tobita H, Yoshida Y, Naito M, Araki A, Arakaki S, Noritake H, Ono M, Masaki T, Yasuda S, Tomita E, Yoneda M, Tokushige A, Ueda S, Aishima S, Nakajima A, Okanoue T: Hepatic inflammation and fibrosis are profiles related to mid-term mortality in biopsy-proven MASLD. A multicenter study in Japan. Alimentary pharmacology & therapeutics. 59(12): 1559-1570, 2024, 6, 1.

20 *Danpanichkul P, Auttapracha T, Sukphutanan B, Ng CH, Wattanachayakul P, Kongarin S, Dutta P, Duangsonk K, Thongpiya J, Muthiah MD, Huang DQ, Lui RN, Seko Y, Takahashi H, Noureddin M, Yang JD, Wallace MB, Wijarnpreecha K: The Burden of Overweight and Obesity-Associated Gastrointestinal Cancers in Low and Lower-Middle-Income Countries: A Global Burden of Disease 2019 Analysis. The American Journal of Gastroenterology. 119(6): 1177-1180, 2024, 6, 1.

21 *Sakane S, Hikita H, Shirai K, Sakamoto T, Narumi R, Adachi J, Kakita N, Yamada Y, Toyoda H, Takahashi H, Suda G, Kai M, Tahata Y, Sakamori R, Kumazaki S, Fukumoto K, Myojin Y, Murai

K, Kodama T, Tatsumi T, Tomonaga T, Sakamoto N, Morii E, Takehara T: Proteomic analysis of serum extracellular vesicles reveals Fibulin-3 as a new marker predicting liver-related events in MASLD. Hepatology communications. 8(6): e0448, 2024, 6, 1.

22 *Sadashima E, Takahashi H, Koga Y, Anzai K: Development and Validation of a Scoring System (SAGA Score) to Predict Weight Loss in Community-Dwelling. Self-Supported Older Adults. Nutrients. 16(12): 1848, 2024, 6, 13.

23 *Koh JH, Chee D, Ng CH, Wijarnpreecha K, Muthiah M, Tan DJH, Lim WH, Zeng RW, Koh B, Xuan ETX, Bonney G, Iyer S, Young DY, Nakamura T, Takahashi H, Noureddin M, Siddiqui MS, Simon TG, Loomba R, Huang DQ: Sex-based Disparities in Liver Transplantation for Hepatocellular Carcinoma and the Impact of the Growing Burden of NASH. Transplantation direct. 10(7): e1642, 2024, 7, 1.

24 *Seko Y, Yamaguchi K, Shima T, Iwaki M, Takahashi H, Kawanaka M, Tanaka S, Mitsumoto Y, Yoneda M, Nakajima A, Okanoue T, Itoh Y: Differential Effects of Genetic Polymorphism on Comorbid Disease in Metabolic Dysfunction-Associated Steatotic Liver Disease. Clinical gastroenterology and hepatology. the official clinical practice journal of the American Gastroenterological Association. 22(7): 1436-1443.e4, 2024, 7, 1.

25 *Kudaravalli S, Huang DQ, Yeh ML, Trinh L, Tsai PC, Hsu YC, Kam LY, Nguyen VH, Ogawa E, Lee DH, Ito T, Watanabe T, Enomoto M, Preda CM, Ko MKL, Wan-Hin Hui R, Atsukawa M, Suzuki T, Marciano S, Barreira A, Do S, Uojima H, Takahashi H, Quek SXZ, Toe Wai Khine HH, Ishigami M, Itokawa N, Go MS, Kozuka R, Marin RI, Sandra I, Li J, Zhang JQ, Wong C, Yoshimaru Y, Vo DKH, Tseng CH, Lee CJ, Inoue K, Maeda M, Hoang JK, Chau A, Chuang WL, Dai CY, Huang JF, Huang CF, Buti M, Tanaka Y, Gadano AC, Yuen MF, Cheung R, Lim SG, Trinh HN, Toyoda H, Yu ML, Nguyen MH: Sex and ethnic disparities in hepatitis B evaluation and treatment across the world. Journal of hepatology. 81(1): 33-41, 2024, 7, 1.

26 *Ji F, Tran S, Ogawa E, Huang CF, Suzuki T, Wong YJ, Toyoda H, Jun DW, Liu L, Uojima H, Nozaki A, Chuma M, Tseng CH, Hsu YC, Ishigami M, Honda T, Atsukawa M, Haga H, Enomoto M, Trinh HN, Preda CM, Vutien P, Landis C, Lee DH, Watanabe T, Takahashi H, Abe H, Asai A, Eguchi Y, Li J, Wang X, Jia L, Liu J, Jing L, Lam CP, Huang R, Ye Q, Pan H, Zhang J, Cai D, Wang Q, Huang DQ, Wong G, Wong VW, Li J, Do S, Furusyo N, Nakamuta M, Nomura H, Kajiwara E, Yoon EL, Ahn SB, Azuma K, Dohmen K, An J, Song DS, Cho HC, Kawano A, Koyanagi T, Ooho A, Satoh T, Takahashi K, Yeh ML, Tsai PC, Yasuda, Zhao Y, Liu Y, Okubo T, Itokawa N, Jun MJ, Ishikawa T, Takaguchi K, Senoh T, Zhang M, Zhao C, Alecu RI, Tay WX, Devan P, Liu JK, Kozuka R, Vargas-Accarino E, Do AT, Mayumi M, Chuang WL, Huang JF, Dai CY, Cheung R, Buti M, Junqi N, Xie W, Ren H, Lim SG, Wu C, Yuen MF, Shang J, Zhu Q, Ueno Y, Tanaka Y, Hayashi J, Yu ML, Nguyen MH: Real-world Effectiveness and Tolerability of Interferonfree Direct-acting Antiviral for 15,849 Patients with Chronic Hepatitis C: A Multinational Cohort Study. Journal of clinical and translational hepatology. 12(7): 646-658, 2024, 7, 28.

27 *Danpanichkul P, Chen VL, Chaiyakunapruk N, Auttapracha T, Kongarin S, Ng CH, Duangsonk K, Muthiah MD, Sukphutanan B, Sim B, Huang DQ, Seko Y, Lee BP, Takahashi H, Noureddin M,

Lazarus JV, Díaz LA, Arab JP, Mellinger JL, Liangpunsakul S, Wijarnpreecha K: Socio-economic association of alcohol use disorder and cardiovascular and alcohol-associated liver disease from 2010 to 2019. Alimentary pharmacology & therapeutics. 60: 340-349, 2024, 8, 1.

28 *Kumazaki S, Hikita H, Tahata Y, Sung JH, Fukumoto K, Myojin Y, Sakane S, Murai K, Sasaki Y, Shirai K, Saito Y, Kodama T, Kakita N, Takahashi H, Toyoda H, Suda G, Morii E, Kojima T, Ebihara T, Shimizu K, Sasaki Y, Tatsumi T, Takehara T: Serum growth differentiation factor 15 is a novel biomarker with high predictive capability for liver cancer occurrence in patients with MASLD regardless of liver fibrosis. Alimentary pharmacology & therapeutics. 60(3): 327-339, 2024, 8, 1.

29 *Nouso K, Kawanaka M, Fujii H, Kariyama K, Toyoda H, Iwaki M, Hayashi H, Oeda S, Hyogo H, Morishita A, Munekage K, Kawata K, Tsutsumi T, Sawada K, Maeshiro T, Tobita H, Yoshida Y, Naito M, Araki A, Arakaki S, Kawaguchi T, Noritake H, Ono M, Masaki T, Yasuda S, Tomita E, Yoneda M, Tokushige A, Kamada Y, Takahashi H, Ueda S, Aishima S, Sumida Y, Nakajima A, Kumada T, Okanoue T: Japan Study Group of Nonalcoholic Fatty Liver Disease (JSG‐NAFLD): Validation study of age-independent fibrosis score (Fibrosis-3 index) in patients with metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease. Hepatology research: the official journal of the Japan Society of Hepatology. 54(10): 912-920, 2024, 4, 25.

30 Hara N, Hiraok A, Nakai M, Shirak M, Namisaki T, Miyaaki H, Hisanaga T, Takahashi H, Ohama H, Tada F, Sakamoto N, Nakao K, Takami T, Eguchi Y, Yoshiji H: Brief intervention for chronic liver disease patients with alcohol use disorder in a hepatology outpatient unit: Effects and limitations. Hepatology research. the official journal of the Japan Society of Hepatology. 54(11): 1099-1105, 2024, 5, 27.

31 *Nakatsuka T, Tateishi R, Sato M, Hashizume N, Kamada A, Nakano H, Kabeya Y, Yonezawa S, Irie R, Tsujikawa H, Sumida Y, Yoneda M, Akuta N, Kawaguchi T, Takahashi H, Eguchi Y, Seko Y, Itoh Y, Murakami E, Chayama K, Taniai M, Tokushige K, Okanoue T, Sakamoto M, Fujishiro M, Koike K: Deep learning and digital pathology powers prediction of HCC development in steatotic liver disease. Hepatology. official journal of the American Association for the Study of Liver Diseases, May-24.

32 *Kamada Y, Fujii H, Suzuki Y, Sawada K, Tatsuta M, Maeshiro T, Tobita H, Tsutsumi T, Akahane T, Hasebe C, Kawanaka M, Kessoku T, Eguchi Y, Syokita H, Nakajima A, Kamada T, Yoshiji H, Kawaguchi T, Sakugawa H, Morishita A, Masaki T, Ohmura T, Watanabe T, Yoda Y, Enomoto N, Ono M, Fuyama K, Okada K, Nishimoto N, Ito YM, Takahashi H, Sumida Y: Japan Study Group of Nonalcoholic Fatty Liver Disease (JSG-NAFLD): Clinical characteristics of steatotic liver disease categories in a large cohort of Japanese health checkup participants. Gastro hep advances. 3(8): 1148-1156, 2024, 8, 1.

33 *Koh B, Xiao J, Ng CH, Law M, Gunalan SZ, Danpanichkul P, Ramadoss V, Sim BKL, Tan EY, Teo CB, Nah B, Teng M, Wijarnpreecha K, Seko Y, Lim MC, Takahashi H, Nakajima A, Noureddin M, Muthiah M, Huang DQ, Loomba R: Comparative efficacy of pharmacologic therapies for MASH in reducing liver fat content: Systematic review and network meta-analysis. Hepatology: official

journal of the American Association for the Study of Liver Diseases, 2024, 7, 19.

34 *Zeng RW, Ong CEY, Ong EYH, Chung CH, Lim WH, Xiao J, Danpanichkul P, Law JH, Syn N, Chee D, Kow AWC, Lee SW, Takahashi H, Kawaguchi T, Tamaki N, Dan YY, Nakajima A, Wijarnpreecha K, Muthiah MD, Noureddin M, Loomba R, Ioannou GN, Hao Tan DJ, Ng CH, Huang DQ: Global Prevalence, Clinical Characteristics, Surveillance, Treatment Allocation, and Outcomes of Alcohol-Associated Hepatocellular Carcinoma Clinical gastroenterology and hepatology. the official clinical practice journal of the American Gastroenterological Association, 2024, 7, 8.

35 Kawanaka M, Kamada Y, Takahashi H, Iwaki M, Nishino K, Zhao W, Seko Y, Yoneda M, Kubotsu Y, Fujii H, Sumida Y, Kawamoto H, Itoh Y, Nakajima A: the Japan Study Group of NAFLD (JSG-NAFLD): Serum Cytokeratin 18 Fragment is an Indicator for Treating Metabolic Dysfunction Associated Steatotic Liver Disease. Gastro hep advances. 3(8): 1120-1128, 2024, 8.

36 *Ishiba H, Fujii H, Kamada Y, Sumida Y, Takahashi H, Seko Y, Toyoda H, Hayashi H, Yamaguchi K, Iwaki M, Yoneda M, Arai T, Shima T, Morishita A, Kawata K, Tomita K, Kawanaka M, Yoshida Y, Ikegami T, Notsumata K, Oeda S, Fukushima H, Miyoshi E, Aishima S, Itoh Y, Okanoue T, Nakajima A: Accuracy of type IV collagen 7S versus Enhanced Liver Fibrosis score for diagnosing fibrosis in patients with metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease. Hepatology Communications, 2024, 12.

37 Oeda S, Inoue K, Isoda H, Hirai K, Takahashi H: Survey on Awareness and Implementation Rate of Ultrasound Elastography and Attenuation Imaging. Internal medicine, 2024, 9, 18.

38 ○Kubotsu Y, Sakamoto Y, Tago M, Chihara A, Norita M, Inadomi C, Inoue K, Takayanagi H, Tanaka K, Isoda H, Kuwashiro T, Oeda S, Shiratori T, Anzai K, Node K, Takahashi H: FIB-4 Index and Liver Stiffness Measurement are Potential Predictors of Atherosclerosis in Metabolic Dysfunction-Associated Steatotic Liver Disease. Journal of atherosclerosis and thrombosis, Sep-24.

39 *Ong C, Tang N, Gunalan S, Teng M, Koh B, Chee D, Koh JH, Tung D, Syn N, Nakano D, Kulkarni A, Law M, Miwa T, Takahashi H, Muthiah M, Wijarnpreecha K, Ioannou G, Ng CH, Huang D, Noureddin M: Prevalence and longitudinal effects on mortality associated with spectrum of alcohol intake in steatotic liver disease: a United States population study. Hepatobiliary surgery and nutrition.

40 *Ishimaru Y, Kessoku T, Nonaka M, Kitajima Y, Hyogo H, Nakajima T, Imajo K, Kubotsu Y, Isoda H, Kawanaka M, Yoneda M, Anzai K, Nakajima A, Furukawa K, Kawaguchi A, Takahashi H: Effects of ipragliflozin on skeletal muscle adiposity in patients with diabetes and metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease. Internal Medicine, 2024, 11, 1.

41 *Seko Y, Yamaguchi K, Shima T, Iwaki M, Takahashi H, Kawanaka M, Tanaka S, Mitsumoto Y, Yoneda M, Nakajima A, Okanoue T, Itoh Y: Clinical Utility of Genetic Variants in PNPLA3 and TM6SF2 to Predict Liver-Related Events in Metabolic Dysfunction-Associated Steatotic Liver Disease. Liver international: official journal of the International Association for the Study of the Liver. Liver Int, Oct-24.

42 *Tomiga Y, Tanaka K, Kusuyama J, Takano A, Higaki Y, Anzai K, Takahashi H: Exercise training ameliorates carbon tetrachloride induced liver fibrosis and anxiety-like behaviors. American jour-

nal of physiology. Gastrointestinal and liver physiology, 2024, 12, 1.

43 *Tan EY, Yong JN, Danpanichkul P, Yu Z, Tan DJH, Lim WH, Koh B, Lim RY, Tham EKJ, Mitra K, Morishita A, Hsu YC, Yang JD, Takahashi H, Zheng MH, Nakajima A, Ng CH: Wijarnpreecha K, Muthiah M, Singal AG, Huang DQ: Liver Cancer in 2021: Global Burden of Disease Study. Journal of hepatology, Oct-24.

44 *Iwaki M, Kobayashi T, Nogami A, Ogawa Y, Imajo K, Sakai E, Nakata Y, Koyama S, Kurihashi T, Oza N, Kohira T, Okada M, Yamaguchi Y, Iwane S, Kageyama F, Sasada Y, Matsushita M, Tadauchi A, Murohisa G, Nagasawa M, Sato S, Maeda K, Furuta K, Shigefuku R, Seko Y, Tobita H, Kawata K, Kawanaka M, Sugihara T, Tamaki N, Iwasa M, Kawaguchi T, Itoh Y, Kawaguchi A, Takahashi H, Nakajima A, Yoneda M: Pemafibrate for treating MASLD complicated by hypertriglyceridemia: A multi-center, open-label, randomized controlled trial study protocol. BMJ Open, 2024, 11, 24.

45 *Imajo K, Saigusa Y, Kobayashi T, Nagai K, Nishida S, Kawamura N, Doi H, Iwaki M, Nogami A, Honda Y, Kessoku T, Ogawa Y, Kirikoshi H, Kokubu S, Utsunomiya D, Takahashi H, Aishima S, Sumida Y, Saito S, Yoneda M, Dennis A, Kin S, Andersson A, Nakajima A: Head-to-head comparison among FAST, MAST and multiparametric MRI-based new score in diagnosing at-risk MASH. European radiology, 2024, 12, 5.

46 *Danpanichkul P, Suparan K, Auttapracha T, Tothanarungroj P, Kongarin S, Rakwong K, Tan DJH, Sukphutanan B, Muthiah MD, Tung D, Luo J, Morishita A, Tan EY, Takahashi H, Mousa OY, Lui RN, Noureddin M, Kim D, Harnois DM, Yang JD, Roberts LR, Wallace MB, Wijarnpreecha K: Early-onset Gastrointestinal Cancers and Metabolic Risk Factors: Global Trends from the Global Burden of Disease Study 2021. Mayo Clinic Proceedings, 2024, 10.

47 *Lazarus JV, Alazawi W, Basuroy R, Castera L, Estulin D, Koulla Y, Prasad P, Romero-Gomez M, Takahashi H, Wong VW, Schattenberg JM: A social media listening study of patients' experiences relating to metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease: the LISTEN-MASLD study. Annals of hepatology, 2024, 12, 2.

48 *Tham EKJ, Lim RY, Koh B, Tan DJH, Ng CH, Law M, Cho E, Tang NSY, Tan CS, Sim BKL, Tan EY, Lim WH, Lim MC, Nakamura T, Danpanichkul P, Chirapongsathorn S, Wijarnpreecha K, Takahashi H, Morishita A, Zheng M-H, Kow A, Muthiah M, Law JH, Huang DQ: Prevalence of Chronic liver disease in Cholangiocarcinoma: a Meta-Analysis. Clinical Gastroenterology and Hepatology, 2024, 10, 1.

49 *Yamazaki A, Takacji Y, Takahashi H, Hara N, Ogawa Y, Hyogo H, Koseki M, Hayakawa M, Nakajima A, Iwaki M, Fujii M, Ishiba T, Kamada Y: Japan Study Group of NAFLD (JSG-NAFLD): Quantitative color analysis of the diets of patients with metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease: A comparative study with nutritionally balanced diets. Hepatology research. the official journal of the Japan Society of Hepatology, 2024, 12, 1.

50 *Cho EEL, Law M, Yu Z, Yong JN, Tan CS, Tan EY, Takahashi H, Danpanichkul P, Nah B, Soon GST, Ng CH, Tan DJH, Seko Y, Nakamura T, Morishita A, Chirapongsathorn S, Kumar R, Kow AWC, Huang DQ, Lim MC, Law JH: Artificial Intelligence and Machine Learning Predicting

Transarterial Chemoembolization Outcomes: A Systematic Review. Digestive diseases and sciences, 2024, 12, 21.

51 *Ryohei Tanigawa, Atsushi Nakajima, Yuichiro Eguchi, Hirokazu Takahashi, Rohit Loomba, Hideki Suganami, Masaya Tanahashi, Ayumi Saito, Yuki Iida, Shizuya Yamashita: Effects of Pemafibrate on LDL-C and Related Lipid Markers in Patients with MASLD: A Sub-Analysis of the PEMA-FL Study. Journal of atherosclerosis and thrombosis, 2024, 12, 18.

52 *Kamada Y, Sumida Y, Takahashi H, Fujii H, Miyoshi E, Nakajima A: Utility of Mac-2 binding protein glycosylation isomer as an excellent biomarker for the prediction of liver fibrosis, activity, and hepatocellular carcinoma onset: an expert review. Journal of gastroenterology, 2024, 12, 9.

53 *Tsutsumi T, Nakano D, Kawaguchi M, Takahashi H, Kawaguchi T: Similar respiratory function including chronic obstructive pulmonary disease between non-alcoholic fatty liver disease and metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease. Clinical and molecular hepatology, 2024, 4, 1.

54 *Wen Hui Lim, Phoebe Tay, Cheng Han Ng, Darren Jun Hao Tan, Christen Ong, Jia Hong Koh, Margaret Teng, Douglas Chee, Zhen Yu Wong, Takumi Kawaguchi, Hirokazu Takahashi, Mark Muthiah, Eunice X X Tan, Karn Wijarnpreecha, Guan Huei Lee, Mazen Noureddin, Brian P Lee, Philippe Mathurin, Rohit Loomba, Daniel Q Huan: Meta-analysis: Prevalence and impact of alcohol abstinence in alcohol-associated cirrhosis. Alimentary pharmacology & therapeutics, 2024, 3, 1.

55 Oeda S, Takahashi H: Reply to Letter to the Editor: "Patients with uncertain advanced fibrosis and cirrhosis diagnosis by Agile3+ and Agile4 scores cannot be excluded in validation studies". Hepatology research: the official journal of the Japan Society of Hepatology. 54(5): 497-498, 2024, 2, 7.

56 *Kamada Y, Sumida Y, Takahashi H, Fujii H, Miyoshi E, Nakajima A: Utility of Mac-2 binding protein glycosylation isomer as an excellent biomarker for the prediction of liver fibrosis, activity, and hepatocellular carcinoma onset: an expert review. Journal of gastroenterology Vol 60, 10-23, 2024, 12, 1.

57 *Angela Chau, Dae Won Jun, Yao-Chun Hsu, Hidenori Toyoda, Ming-Lun Yeh, Tsunamasa Watanabe, Takashi Honda, Huy Trinh, Akito Nozaki, Haruki Uojima, Toru Ishikawa, Daniel Huang, Philip Vutien, Sebastián Marciano, Hiroshi Abe, Masanori Atsukawa, Masaru Enomoto, Hirokazu Takahashi, Kunihiko Tsuji, Koichi Takaguchi, Ei Itobayashi, Rui Huang, Pei-Chien Tsai, Chia-Yen Dai, Jee-Fu Huang, Chung-Feng Huang, Eileen Yoon, Sung Eun Kim, Sang Bong Ahn, Gi-Ae Kim, JangHan Jung, Soung Won Jeong, Hyun Woo Oh, Tiffany Hsiao, Mayumi Maeda, Cheng-Hao Tseng, Satoshi Yasuda, Masatoshi Ishigami, Makoto Chuma, Takanori Ito, Keigo Kawashima, Joanne Liu, Norio Itokawa Ritsuzo Kozuka, Kaori Inoue, Tomonori Senoh, Wan Long Chuang, Adrian Gadano, Yasuhito Tanaka, Chao Wu, Ramsey Cheung, Jie Li, Ming-Lung Yu, Mindie Nguyen: impact of concurrent fatty liver (fl) and chronic hepatitis b (chb) on virologic (vr), biochemical (br), and complete response (cr) among patients treated with nucleos (t)ide analogs (na): a real-b study. HEPATOLOGY, 2024, 11.

58 *Ai-Thien Do, Ming-Lung Yu, Hidenori Toyoda, Seng Gee Lim, Ramsey Cheung, Man-Fung Yuen,

Yasuhito Tanaka, Wan Long Chuang, Chao Wu, Maria Buti, Adrian Gadano, Ming-Lun Yeh, Chung-Feng Huang, Rui Huang, Jee-Fu Huang, Chia-Yen Dai, Mayumi Maeda, Kaori Inoue, Chul-Jin Lee, Cheng-Hao Tseng, Ana Barreira, Rex Wan-Hin Hui, Kwan-Lung Ko, Yoko Yoshimaru, Takanori Suzuki, Irina Sandra, Raluca Marin, Vy Nguyen, Yao-Chun Hsu, Huy Trinh, Jiayi Li, jianqing zhang, Eiichi Ogawa, Dong Hyun Lee, Takanori Ito, Tsunamasa Watanabe, Masaru Enomoto, Carmen Preda, Masanori Atsukawa, Sebastián Marciano, Son Do, Daniel Huang, Christopher Wong, Haruki Uojima, Hirokazu Takahashi, Htet Htet Toe Wai Khine, Takashi Honda, Norio Itokawa, Min Seok Go: the prevalence and natural history of diverse subtypes of indeterminate phase chronic hepatitis b: results of the international real-b cohort. HEPATOLOGY, 2024, 11.

59 *Rui Huang, Dae Won Jun, Hidenori Toyoda, Yao-Chun, Hsu, Huy Trinh, Akito Nozaki, Toru Ishikawa, Tsunamasa Watanabe, Haruki Uojima, Daniel Huang, Takashi Honda, Yasuhito Tanaka, Philip Vutien, Sebastián Marciano, Hiroshi Abe, Masaru Enomoto, Masanori Atsukawa, Hirokazu Takahashi, KunihikoTsuji, Ei Itobayashi, Koichi Takaguchi, Pei-ChienTsai, Chia-Yen Dai, Jee-Fu Huang, Chung-Feng Huang, Ming-Lun Yeh, Eileen Yoon, Sung Eun Kim, Sang Bong Ahn, Gi-Ae Kim, JangHan Jung Soung Won Jeong28 Hyun Woo Oh29 Cheng-Hao Tseng4 Masatoshi Ishigami11 Angela Chau30 Tiffany Hsiao Mayumi Maeda Satoshi Yasuda Makoto Chuma, Takanori Ito, Keigo Kawashima, Joann Kimiko Liu, Adrian Gadano, Ritsuzo Kozuka, NorioItokawa, Kaori Inoue, Tomonori Senoh, Jie Li, Wan Long Chuang, Ramsey Cheung, Chao Wu, Ming-Lung Yu, Mindie Nguyen: impact of metabolic disease on treatment response in chronic hepatitis b patients with nucleos(t)ide analogues therapy: a multicenter real-b study. HEPATOLOGY, 2024, 11.

60 *冨賀裕貴，檜垣靖樹，高橋宏和：過去の運動習慣が将来のうつ・不安を予防するメカニズムの解明. デサントスポーツ科学. 45：134-141，2024，2.

61 *川中美和，藤井英樹，岩城慶大，林　秀樹，豊田秀徳，大枝　敏，兵庫秀幸，森下朝洋，宗景玄祐，川田一仁，堤　　翼，澤田康司，前城達次，飛田博史，吉田雄一，内藤雅文，荒木亜寿香，新垣伸吾，川口　巧，則武秀尚，小野正文，正木　勉，安田　諭，冨田　栄，米田正人，徳重明央，鎌田佳宏，高橋宏和，植田真一郎，相島慎一，角田圭雄，岡上　武，中島　淳：Japan Study Group of Nonalcoholic Fatty Liver Disease（JSG-NAFLD）：奈良宣言（ALT over 30）の MASLD（metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease）における臨床的意義の検証. 肝臓 65(4)：186-191，2024，1.

62 米田正人，小林　貴，岩城慶大，和田直大，野上麻子，高橋宏和，中島　淳：脂肪性肝疾患（Steatotic liver disease：SLD）のパラダイムシフト NAFLD から MASLD へ. 肝臓，65，9，420-432，2024，9.

総　　説

1 *Tsutsumi T, Nakano D, Kawaguchi M, Takahashi H, Kawaguchi T: Similar respiratory function including chronic obstructive pulmonary disease between non-alcoholic fatty liver disease and metabolic dysfunction-associated steatotic liver disease. Clinical and molecular hepatology. 30(2): 266-268, 2024, 4.

2 高橋宏和：新たな薬効の発見により治療の選択肢が拡がる肝疾患医療の現在地. 朝日新聞. 17，2024，4.

3　磯田広史，高橋宏和：これからの肝疾患診療における肝炎医療コーディネーターへの期待－日本肝臓学会の取り組みと今後の課題－．肝胆膵．88(2)：151-155，2024，2.

4　高橋宏和：MASLD における SGLT2阻害薬の有用性．BIO Clinica．39(5)：27-30，2024，5.

5　○窪津祥仁，高橋宏和：MASLD/MASH の肝外合併症．医学のあゆみ．289(5)：335-339，2024，5.

6　原なぎさ，高橋宏和：肝硬変の栄養療法．臨床栄養．144(7)：1004-1010，2024，6.

7　*三根敬一朗，高橋宏和，安西慶三，永淵正法：１型糖尿病の発症機序にかかわる細胞傷害性 CD8＋Ｔ細胞．臨床免疫・アレルギー科．81(6)：557-563，2024，6.

8　○井上　香，磯田広史，荒木　薫，大枝　敏，山下　駿，安西慶三，高橋宏和：Google Trends を用いた糖尿病・生活習慣病領域における分析と展望．日本糖尿病インフォマティクス学会誌 Vol. 22, P2，2024，1.

9　平野成樹，田中留奈，田嶋祥子：認知症の人への貼付剤に関するケアマネージャーの認識調査．薬理と治療，vol, 52，2，139-153，2024，3.

10　田中留奈，田嶋祥子，藤城広樹：認知症の人への貼付剤に関するケアマネージャーの認識調査．薬理と治療，vol, 52，10，1141-1157，2024，10.

11　大枝　敏：第69回日本臨床検査医学会 九州地方会 シンポジウム：臨床検査を取り巻く最近のトピックス 司会の言葉．日本臨床検査医学会誌 Vol. 72 No. 8，2024，8，31.

症例報告

1　*Yoshioka W, Nakaji S, Akiko Natalie Tomonari, Takahashi H, Funato T, Inoue S: A new pancreatic guidewire-assisted biliary cannulation technique using double soft tipped guidewire: Wire bridge cannulation. VideoGIE: an official video journal of the American Society for Gastrointestinal Endoscopy. 9(4): 206-207, 2024, 4, 1.

学会発表

国際規模の学会

1　Chau A, Dae Won Jun, Yao-Chun Hsu, Hidenori Toyoda, Ming-Lun Yeh, Tsunamasa Watanabe, Takashi Honda, Huy Trinh, Akito Nozaki, Haruki Uojima, Toru Ishikawa, Daniel Huang, Philip Vutien, Sebastián Marciano, Hiroshi Abe, Masanori Atsukawa, Masaru Enomoto, Hirokazu Takahashi, Kunihiko Tsuji, Koichi Takaguchi, Ei Itobayashi, Rui Huang, Pei-Chien Tsai, Chia-Yen Dai, Jee-Fu Huang, Chung-Feng Huang, Eileen Yoon, Sung Eun Kim, Sang Bong Ahn, Gi-Ae Kim, JangHan Jung, Soung Won Jeong, Hyun Woo Oh, Tiffany Hsiao, Mayumi Maeda, Cheng-Hao Tseng, Satoshi Yasuda, Masatoshi Ishigami, Makoto Chuma, Takanori Ito, Keigo Kawashima, Joanne Liu, Norio Itokawa Ritsuzo Kozuka, Kaori Inoue, Tomonori Senoh, Wan Long Chuang, Adrian Gadano, Yasuhito Tanaka, Chao Wu, Ramsey Cheung, Jie Li, Ming-Lung Yu, Mindie Nguyen: Impact of concurrent fatty liver (fl) and chronic hepatitis b (chb) on virologic (vr), biochemical (br), and complete response (cr) among patients treated with nucleos (t)ide analogs (na): a real-b study. American Association for the Study of Liver Diseases. 2024, 11, 15-19.

2　Ai-Thien Do, Ming-Lung Yu, Hidenori Toyoda, Seng Gee Lim, Ramsey Cheung, Man-Fung Yuen, Yasuhito Tanaka, Wan Long Chuang, Chao Wu, Maria Buti, Adrian Gadano, Ming-Lun Yeh, Chung-Feng Huang, Rui Huang, Jee-Fu Huang, Chia-Yen Dai, Mayumi Maeda, Kaori Inoue, Chul-Jin Lee, Cheng-Hao Tseng, Ana Barreira, Rex Wan-Hin Hui, Kwan-Lung Ko, Yoko Yoshimaru,

Takanori Suzuki, Irina Sandra, Raluca Marin, Vy Nguyen, Yao-Chun Hsu, Huy Trinh, Jiayi Li, jianqing zhang, Eiichi Ogawa, Dong Hyun Lee, Takanori Ito, Tsunamasa Watanabe, Masaru Enomoto, Carmen Preda, Masanori Atsukawa, Sebastián Marciano, Son Do, Daniel Huang, Christopher Wong, Haruki Uojima, Hirokazu Takahashi, Htet Htet Toe Wai Khine, Takashi Honda, Norio Itokawa, Min Seok Go: the prevalence and natural history of diverse subtypes of indeterminate phase chronic hepatitis b: results of the international real-b cohort. American Association for the Study of Liver Diseases. 2024, 11, 15-19.

3 Rui Huang, Dae Won Jun, Hidenori Toyoda, Yao-Chun Hsu, Huy Trinh, Akito Nozaki, Toru Ishikawa, Tsunamasa Watanabe, Haruki Uojima, Daniel Huang, Takashi Honda, Yasuhito Tanaka, Philip Vutien, Sebastián Marciano, Hiroshi Abe, Masaru Enomoto, Masanori Atsukawa, Hirokazu Takahashi, Kunihiko Tsuji, Ei Itobayashi, Koichi Takaguchi, Pei-Chien Tsai, Chia-Yen Dai, Jee-Fu Huang, Chung-Feng Huang, Ming-Lun Yeh, Eileen Yoon, Sung Eun Kim, Sang Bong Ahn, Gi-Ae Kim, JangHan Jung, Soung Won Jeong, Hyun Woo Oh, Cheng-Hao Tseng, Masatoshi Ishigami, Angela Chau, Tiffany Hsiao, Mayumi Maeda, Satoshi Yasuda, Makoto Chuma, Takanori Ito, Keigo Kawashima, Joann Kimiko Liu, Adrian Gadano, Ritsuzo Kozuka, NorioItokawa, Kaori Inoue, Tomonori Senoh, Jie Li, Wan Long Chuang, Ramsey Cheung, Chao Wu, Ming-Lung Yu, Mindie Nguyen: impact of metabolic disease on treatment response in chronic hepatitis b patients with nucleos(t)ide analogues therapy: a multicenter real-b study. American Association for the Study of Liver Diseases. 2024, 11, 15-19.

4 Takahashi H: Associations between liver disease and metabolism in Metabolic Dysfunction-Associated Steatotic Liver Disease (MASLD). Saudi Association for the Study of Liver diseases and Transplantation. 2024, 10, 17-19.

5 Kuwashiro T, Takahashi H: Sarcopenia Affects the Therapeutic Efficaccy of Immunotherapy for Advanced Hepatocellular Carcinoma. Korea-Japan Cancer-Aging Symposium. 2024, 11, 13-15.

6 Hara n: Clinical role of bref intervention for harmful alcohl user with chronic liver disease: effect and limitation in hepatology outpaintent's unit. American Association for the Study of Liver Diseases. 2024, 11, 15-19.

国内全国規模の学会

1 高橋宏和：脂肪性肝疾患が全人に及ぼす影響．抗加齢医学会総会．2024，5，31.

2 高橋宏和：運動惹起性ヘパトカインが脂肪性肝疾患に与える影響の検討．第78回日本体力医学会大会．2024，9，2-4.

3 高橋宏和：JSH-AASLD joint symposium：脂肪性肝疾患のあらたな展開－ NAFLD から MASLD へ．第32回日本消化器関連学会週刊 JDDW2024．2024，10，31-11，3.

4 高橋宏和：糖尿病診療で知っておくべき脂肪性肝疾患および MASLD の最新の知見．第67回日本糖尿病年次学術集会．2024，5，17-19.

5 高橋宏和：運動惹起性ヘパトカインが脂肪性肝疾患に与える影響の検討．第78回日本体力医学会大会．2024，9，2.

6 高橋宏和：A social media listening study of patients' experiences toward NAFLD．第33回アジア太平洋肝臓学会総会（APASL）2024 Kyoto．2024，3，27-31.

7　原なぎさ，佐藤　圭，武富ありさ，平川美智子，江口有一郎，高橋宏和：肝疾患患者における栄養・運動療法の効果と改善時期の検討．第78回日本体力医学会大会．2024，9，2-4.

8　*乗田美沙，窪津祥仁，石丸悠子，藤本　光，井上　香，田中賢一，桑代卓也，磯田広史，大枝　敏，川口　淳，高橋宏和：２型糖尿病を有するNAFLD患者に対するイプラグリフロジン投与化の骨格筋脂肪の変化．第10回肝臓と糖尿病・代謝研究会．2024，7，6.

9　○内田慧月，美奈川仁美，江頭桃子，荒木大夢，岸川まり子，山﨑有菜，森　仁恵，小島基靖，高橋宏和，安西慶三：フレックスタッチⓇ取付スマートセンサーを導入した高齢者糖尿病の一例．第24回日本糖尿病インフォマティクス学会年次学術集会．2024，8，17-18.

10　原なぎさ，今泉龍之介，井上　香，大枝　敏，磯田広史，新宮ののこ，竹内　萌，田久保順也，高橋宏和：地域住民のメタボリックシンドロームとがんに対する意識向上を目指したアンケート調査：健康塾参加者との比較．第24回日本糖尿病インフォマティクス学会年次学術集会．2024，8，17-18.

11　*笹川佳則，梶田朱音，朱　澤胤，中田真悟，木本真由美，高橋宏和，保科学世：腹部画像検査回数と２型糖尿病患者の肝がん・膵がん早期発見との関連．第24回日本糖尿病インフォマティクス学会年次学術集会．2024，8，17-18.

12　○井上　香，原なぎさ，今泉龍之介，大枝　敏，磯田広史，山下　駿，高橋宏和：RCT（ランダム化比較試験）によるSLD（steatotic liver disease）啓発前後のWeb検索行動の検証．第24回日本糖尿病インフォマティクス学会年次学術集会．2024，8，17-18.

13　高橋宏和：病理学的に診断された代謝異常関連脂肪性肝疾患を背景とした切除不能肝細胞癌の薬物療法．第60回日本肝臓学会総会．2024，6，13-14.

14　*加藤祐子，中村沙織，高橋宏和，松橋幸子，安西慶三：アレルギーを発症する各種サンゴ由来赤色蛍光たんぱく質の共通配列．第97回日本生化学会大会．2024，11，6-8.

15　○RASHEDA PERVEEN, Ozaki Iwata, Takahashi Hirokazu, Kuwashiro Takuya, Matsuhashi Sachiko: Branched Chain Amino Acids (BCAA) upregulate the tumor suppressor PDCD4 inhibiting autophagy system via the activation of mTORC in Huh7 hepatoma cells. 第47回日本分子生物学会年会．2024，11，27-29.

16　高橋宏和：遺伝子に着目した脂肪性肝疾患診療の現在地点．第56回日本動脈硬化学会総会・学術集会．2024，7，6-7.

17　高橋宏和：脂肪性肝疾患における動脈硬化性疾患リスク評価を考える．第56回日本動脈硬化学会総会・学術集会．2024，7，6-7.

18　*尾松　卓，小関正博，田中克尚，澤邉博志，西原紗恵，嵯峨礼美，乾　洋勉，高橋宏和，鎌田佳宏，伊藤香緒里，大濱　透，西田　誠，坂田泰史：MASLD/MASH患者におけるステロール誘導体のLC-MS/MSによる解析．第56回日本動脈硬化学会総会・学術集会．2024，7，6-7.

19　*乗田美沙，窪津祥仁，矢田ともみ，藤本　光，森美哉子，井上　香，田中賢一，桑代卓也，磯田広史，大枝　敏，秋山　巧，高橋宏和：健康診断におけるM2BPGiの有用性．第60回日本肝臓学会総会．2024，6，13-14.

20　○藤本　光：肝生検により診断に至った好酸球性胆管炎からの考察．第60回日本胆道学会学術集会．2024，10，10-11.

21　*藤井英樹，高橋宏和，鎌田佳宏：我が国におけるMetALDの臨床的特徴．第60回日本肝臓学会総

会．2024，6，13-14.

22 *石破　博，高橋宏和，角田圭雄：Metabolic associated dysfunction steatosis liver disease における４型コラーゲン7S と ELF test の線維化診断能の比較－他施設共同研究．第60回日本肝臓学会総会．2024，6，13-14.

23 *新井泰央，高橋宏和，中島　淳：２型糖尿病を有する MAFLD 患者における ELF テストの有用性とその臨床的意義．第60回日本肝臓学会総会．2024，6，13-14.

24　原なぎさ，平岡　淳，吉治仁志：本邦における慢性肝疾患患者の減酒指導の実態－AUDIT を用いた多施設共同縦断調査－．第60回日本肝臓学会総会．2024，6，13-14.

25　原なぎさ，江口有一郎，高橋宏和：肝疾患患者の蛋白低栄養・サルコペニアの介入に対する効果判定時期の検討－栄養療法のフローチャートより－．第60回日本肝臓学会総会．2024，6，13-14.

26 ○井上　香，磯田広史，窪津祥仁，乗田美沙，藤本　光，森美哉子，田中賢一，桑代卓也，大枝　敏，秋山　巧，高橋宏和：臨床実習コーディネーターとしてのキャリア継続．第60回日本肝臓学会総会．2024，6，13-14.

27　江口有一郎，蒲池さおり，宮原千賀，小平俊一，矢田ともみ，松本美さと，山元透江，黒木茂高，高橋宏和，江口尚久：地域の小規模病院の役割としての大学病院医局のキャリア支援のあり方．第60回日本肝臓学会総会．2024，6，13-14.

28 *米澤敦子，江口有一郎，矢田ともみ，磯田広史：全国の肝炎医療コーディネーター養成研修会における患者会や患者団体の参加状況と養成研修会での先進的な取組について．第60回日本肝臓学会総会．2024，6，13-14.

29　田中瑠奈，磯田広史，高橋宏和：ケアマネージャーに対するＣ型肝炎の教育が要支援・要介護高齢者と家族の受検行動に及ぼす影響．第60回日本肝臓学会総会．2024，6，13-14.

30 ○柴山　薫，坂美奈子，坂本貴子，矢田ともみ，江口有一郎，高橋宏和：非アルコール性脂肪性肝疾患患者における健康的行動継続のための『機会』に着目した支援の方策．第60回日本肝臓学会総会．2024，6，13-14.

31 *東本陽果，磯田広史，江口眞子，中西那月，高橋宏和：拠点病院の医学生が肝炎医療コーディネーター活動を行う意義．第60回日本肝臓学会総会．2024，6，13-14.

32 *松永滝平，磯田広史，今泉龍之介，大枝　敏，高橋宏和：ポスト SVR 時代に臨床検査技師が肝炎医療コーディネーターとしてできること．第60回日本肝臓学会総会．2024，6，13-14.

33　原なぎさ，磯田広史，井上　香，大枝　敏，矢田ともみ，江口有一郎：拠点病院肝疾患センター管理栄養士が考える肝炎医療コーディネーターとしての役割と課題．第60回日本肝臓学会総会．2024，6，13-14.

34　高橋宏和，新井泰央，中島　淳：病理的に診断された代謝異常関連脂肪性肝疾患を背景とした切除不能肝細胞癌の薬物治療の検討．第60回日本肝臓学会総会．2024，6，13-14.

地方規模の学会

1　高橋宏和：消化器・肝臓専門医が知っておくべき非アルコール性脂肪性疾患とその関連病態．第29回日本消化器病学会九州支部例会教育講演会．2024，2，18.

2 ○内田慧月，美奈川仁美，江頭桃子，荒木大夢，岸川まり子，山﨑有菜，森　仁恵，小島基靖，高橋宏和，安西慶三：フレックスタッチⓇ取付スマートセンサーを導入した高齢者糖尿病の一例．第62回日本糖尿病学会九州地方会．2024，10，25-26.

3　高橋宏和：新時代の肝疾患診療．第123回日本消化器病学会九州支部例会，第117回日本消化器内視鏡学会九州支部例会．2024，6，21-22.

4　高橋宏和：糖尿病診療における脂肪性肝疾患の対応：第62回日本糖尿病学会九州地方会．2024，10，25-26.

5　高橋宏和：２型糖尿病合併症・併存疾患に対するSGLT2阻害薬の多面的効果．第62回日本糖尿病学会九州地方会．2024，10，25-26.

6　高橋宏和；佐賀県における肝疾患対策の現在地と展望．日本医療マネジメント学会第21回九州・山口連合大会．2024，12，6-7.

7　○Rasheda Perveen，永淵正法，三根敬一朗，森　仁恵，田中賢一，小島基靖，安西慶三，高橋宏和：β-cell specific Stat2 knockout mice develop diabetes by EMC-D virus infection．第62回日本糖尿病学会九州地方会．2024，10，25-26.

8　○藤本　光，田中賢一，乗田美沙，森美哉子，窪津祥仁，桑代卓也，秋山　巧，高橋宏和，白鳥俊康：診断に苦慮した異所性膵由来の膵癌症例からの考察．第123回日本消化器病学会九州支部例会，第117回日本消化器内視鏡学会九州支部例会．2024，6，21-22.

9　○森美哉子，桑代卓也，乗田美沙，藤本　光，井上　香，窪津祥仁，田中賢一，磯田広史，白鳥俊康，大枝　敏，秋山　巧，高橋宏和：診断に苦慮した肝腫瘤の１例．第123回日本消化器病学会九州支部例会，第117回日本消化器内視鏡学会九州支部例会．2024，6，21-22.

10　○桑代卓也，秋山　巧，白鳥俊康，高橋宏和：進行肝細胞癌の免疫治療におけるサルコペニアの影響．第123回日本消化器病学会九州支部例会，第117回日本消化器内視鏡学会九州支部例会．2024，6，21-22.

11　高橋宏和，川口　巧，堤　　翼，藤井英樹，鎌田佳宏，川中美和，角田圭雄，岩城慶大，林　秀樹，富田秀徳，大枝　敏，米田正人，相島真一，中島　淳：Biopsy-proven SLD における MetALD の実態と肝病理所見：他施設共同レジストリー CLIONE study．第123回日本消化器病学会九州支部例会，第117回日本消化器内視鏡学会九州支部例会．2024，6，21-22.

12　高橋宏和：２型糖尿病合併症・併存疾患に対するSGLT2阻害薬の多面的効果．第62回日本糖尿病学会九州地方会．2024，10，25-26.

13　○小島華子，桑代卓也，田崎　陽，山本雪子，藤本　光，野下祥太郎，窪津祥仁，田中賢一，磯田広史，大枝　敏，井上　香，吉村茂修，高橋宏和：胆嚢結腸瘻合併胆嚢癌による出血性ショックを来した１例．第124回日本消化器病学会九州支部例会．2024，11，15-16.

14　○田崎　陽，野下祥太郎，山本雪子，藤本　光，窪津祥仁，田中賢一，桑代卓也，高橋宏和：長期間における全身薬物療法が奏功し，肝外転移に対して conversion surgery を施行した肝細胞癌の一例．第125回日本消化器病学会九州支部例会．2024，11，15-17.

15　○山本雪子，窪津祥仁，荒木敬裕，山崎政虎，田崎　陽，藤本　光，野下祥太郎，田中賢一，桑代卓也，宮園素明，高橋宏和：ANCA 関連血管炎に対するアバコパン投与で胆管消失症候群を発症した一例．第126回日本消化器病学会九州支部例会．2024，11，15-18.

16　○三根敬一郎，永淵正法，赤澤　諭，阿比留教生，森　仁恵，栗崎宏憲，下田和哉，吉開泰信，高橋宏和，安西慶三：Tyrosine kinase 2を介するシグナルは自己反応性 CD8 T細胞の分化と自己免疫性１型糖尿病の発症を促進する．第62回日本糖尿病学会九州地方会．2024，10，25.

17　原なぎさ，常陸顕吾，今泉龍之介，井上　香，大枝　敏，磯田広史，高橋宏和：パラオにおける肥

満と食行動の実態調査．第31回西日本肥満研究会．2024，7，13-14.

18 ○小島華子，桑代卓也，田崎　陽，山本雪子，藤本　光，野下祥太郎，窪津祥仁，田中賢一，磯田広史，大枝　敏，井上　香，吉村茂修，高橋宏和：胆嚢結腸瘻合併胆嚢癌による出血性ショックを来した１例．第124回日本消化器病学会 九州支部例会，第118回日本消化器内視鏡学会 九州支部例会．2024，11，15-16.

19 ○田崎　陽，野下祥太郎，山本雪子，藤本　光，窪津祥仁，田中賢一，桑代卓也，高橋宏和：長期間における全身薬物療法が奏功し，肝外転移に対して conversion surgery を施行した肝細胞癌の１例．第124回日本消化器病学会 九州支部例会，第118回日本消化器内視鏡学会 九州支部例会．2024，11，15-16.

20 ○山本雪子，窪津祥仁，荒木敬裕，山崎政虎，田崎　陽，藤本　光，野下祥太郎，田中賢一，桑代卓也，宮園素明，高橋宏和：ANCA 関連血管炎に対するアバコパン投与で胆管消失症候群を発症した一例．第124回日本消化器病学会 九州支部例会，第118回日本消化器内視鏡学会 九州支部例会．2024，11，15-16.

21　大枝　敏：肝線維化・脂肪化の非侵襲的評価法－超音波検査の位置づけ－．第34回日本超音波医学会九州地方会学術集会．2024，9，16.

22　高橋宏和：ドナー，家族として臓器提供を経験して．第60回日本移植学会総会．2024，9，12-14.

23　常陸顕悟，磯田広史，今泉龍之介，東本陽果，野村理沙，中西那月，江口眞子，原なぎさ，井上香，大枝　敏，江口有一郎，高橋宏和：拠点病院の医学生の肝炎アラートへの対応状況と今後の活動について．第45回日本肝臓学会東部会．2024，12，6-7.

24　今泉龍之介，磯田広史，矢田ともみ，江口有一郎，高橋宏和：県における肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業の普及・活用の促進に向けた取組み．第45回日本肝臓学会東部会．2024，12，6-7.

その他の学会

1　高橋宏和：肝臓病は万病のもと～今日から始める肝ぺきライフ～．日本肝臓学会大分県日本肝臓学会市民公開講座．2024，7，21.

2　高橋宏和：肝炎医療コーディネーターと考えたい医療連携の未来像．新潟県肝炎医療コーディネーター養成研修．2024，7，23.

3　高橋宏和：脂肪性肝疾患に関するアップデート．福岡県医療従事者研修会．2024，7，10.

4　高橋宏和：地域の肝疾患対策～大学から出来ること．第54回九州地区大学保健管理研究協議会教育講演．2024，7，8.

5　高橋宏和：メタボ関連がん撲滅プロジェクトについて．2024年度第１回佐賀県産業保健研究会．2024，6，6.

6　高橋宏和：脂肪性肝疾患と２型糖尿病の up to date．第45回肝疾患診療従事者研修会．2024，3，7.

7　高橋宏和：消化器・肝臓専門医が知っておくべき非アルコール性脂肪性肝疾患とその関連病態．第29回日本消化器病学会九州支部会教育講演会．2024，2，18.

8　高橋宏和：武雄市民公開講座．佐賀県肝癌対策医会・糖尿病対策医会．2024，2，10.

9　高橋宏和：肥満や糖尿病は万病のもと～“がん”の原因にも？～．糖尿病・肝がん市民公開講座．2024，2，10.

10　高橋宏和：危ない脂肪性肝疾患を見逃さないために．福岡県医療従事者研修会肝疾患相談支援セミナー．2025，2，12.

11　磯田広史：令和５年度唐津東松浦地区Ｃ型肝炎等に関する保健指導従事者研修会．2024，2，21.
12　原なぎさ：楽しく学ぼう！肝臓に良か食生活とサルコペニア予防．糖尿病・肝がん市民公開講座．2024，2，10.
13　原なぎさ：肝臓にいい食生活とサルコペニア予防．異業種交流会「楠葉会」．2024，7，1.
14　原なぎさ：楽しゅう学ぼうや！肝臓にええ食生活とサルコペニア対策．岡山県市民公開講座・肝がん撲滅運動．2024，7，28.
15　原なぎさ：肝臓に良い食生活とサルコペニア予防－ハイオレ大豆を使ったレシピの紹介－．佐賀県味噌醤油醸造協同組合．2024，8，27.
16　原なぎさ：美味しく健康に！脂肪肝対策の食事療法．日本消化器病学会市民公開講座．2024，12，22.
17　今泉龍之介：グローバルな視点から考える肝炎医療コーディネーター活動「モンゴル編」．日本肝臓学会令和６年度佐賀県肝炎医療コーディネーター研修会．2024，12，5-13.
18　原なぎさ：グローバルな視点から考える肝炎医療コーディネーター活動「パラオ編」．日本肝臓学会令和７年度佐賀県肝炎医療コーディネーター研修会．2024，12，5-14.
19　常陸顕悟：グローバルな視点から考える肝炎医療コーディネーター活動「ベトナム編」．日本肝臓学会令和８年度佐賀県肝炎医療コーディネーター研修会．2024，12，5-15.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
特任教授	高橋　宏和	科学研究費助成事業	学術研究助成基金助成金	2	口腔内細菌叢破綻の脳機能への影響～臓器間ネットワークの解明～	300
特任教授	高橋　宏和	科学研究費助成事業	学術研究助成基金助成金	2	NAFLD に対する運動療法効果に介在する新規ヘパトカインの探索と機能解析	1,400
特任教授	高橋　宏和	科学研究費助成事業	学術研究助成基金助成金	2	運動により高まる脳機能の長期維持機構の解明とその応用	100
特任教授	高橋　宏和	科学研究費助成事業	学術研究助成基金助成金	2	多職種協働を促進する重度肝硬変患者に対する看護支援ガイドの開発	100
特任教授	高橋　宏和	科学研究費助成事業	国際共同研究強化(B)	2	運動効果の次世代伝播を担う母体臓器機能のモニタリングレギュレーション	700
特任教授	高橋　宏和	厚生労働科学研究費補助金	肝炎等克服政策研究事業	2	肝炎ウイルス検査受検率の向上及び受診へ円滑につなげる方策の確率に資する研究	1,000
特任教授	高橋　宏和	厚生労働科学研究費補助金	肝炎等克服政策研究事業	2	多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成及びその活動の質の向上等に関する研究	1,500
病院助教	磯田　広史	厚生労働科学研究費補助金	肝炎等克服政策研究事業	2	様々な生活の場における肝炎ウイルス感染者の人権への望ましい配慮に関する研究	700
病院助教	磯田　広史	厚生労働科学研究費補助金	肝炎等克服政策研究事業	2	ネットワークう社会における地域の特性に応じた肝疾患診療連携体制構築に資する研究	700
客　員研究員	江口有一郎	厚生労働科学研究費補助金	肝炎等克服政策研究事業	2	肝がん・重度肝硬変の医療水準と患者の QOL 向上等に資する研究	1,500

学術（学会）賞

職　名	氏　名	学術（学会）賞名	受　賞　課　題
Post-doctoral Fellow	三根敬一郎	第62日本糖尿病学会九州地方会九州支部賞（ノボ賞）	Tyrosine kinase 2を介するシグナルは自己反応性 CD8 T細胞の分化と自己免疫性1型糖尿病の発症を促進する
客　員研究員	森　　仁恵	第67回九州糖尿病懇話会 一般演題 Award	日本人の2月糖尿病患者におけるインスリン分泌障害およびインスリン抵抗性低下と TYK2 Promoter Variant との関連
講　師	大枝　　敏	2024年度日本臨床検査医学会学会賞優秀論文賞	チーム医療に関する実態調査；佐賀県の中核病院における検討

医師育成・定着支援センター

著　書

1 ○平田理紗，徳島圭宜，多胡雅毅：11胸痛 幅広い胸痛アプローチ common から critical まで．内科外来診療の掟 診断力を上げる総合診療のアプローチ：89–98，2024，5，30，中外医学社，東京．

2 徳島圭宜，山下　駿，多胡雅毅：18しびれ 多様なしびれをスッキリと診断しよう．内科外来診療の掟 診断力を上げる総合診療のアプローチ：146–155，2024，5，30，中外医学社，東京．

原著論文

1 ○Hirata R, Katsuki NE, Shimada H, Nakatani E, Shikino K, Saito C, Amari K, Oda Y, Tokushima M, Tago M: The Administration of Lemborexant at Admission is Not Associated with Inpatient Falls: A Multicenter Retrospective Observational Study. Int J Gen Med, 2024; Vol. 17: 1139-1144, 2024, 3, 25.

2 ○Hirata R, Katsuki NE, Yaita S, Nakatani E, Shimada H, Oda M, Tokushima M, Aihara H, Fujiwara M, Tago M: Validation of the Saga Fall Injury Risk Model. Int J Med Sci, Vol. 21, No. 8: 1378-1384, 2024, 5, 19.

3 ○Hirata R, Katsuki NE, Shimada H, Nakatani E, Shikino K, Ono M, Saito C, Amari K, Kurogi K, Yoshimura M, Nishi T, Yaita S, Oda Y, Tokushima M, Hirakawa Y, Nakamura M, Yamashita S, Tokushima Y, Aihara H, Fujiwara M, Tago M: Criterion-related Validity of the Cognitive Function Score with the Revised Hasegawa's Dementia Scale and the Bedriddenness Rank with the Barthel Index and the Katz Index: A Multi-center Retrospective Study. Dement Geriatr Cogn Disord Extra, 2024; Vol. 14, No. 1: 75–80, 2024, 7, 30.

4 *Shikino K, Shimizu T, Otsuka Y, Tago M, Takahashi H, Watari T, Sasaki Y, Iizuka G, Tamura H, Nakashima K, Kunitomo K, Suzuki M, Aoyama S, Kosaka S, Kawahigashi T, Matsumoto T, Orihara F, Morikawa T, Nishizawa T, Hoshina Y, Yamamoto Y, Matsuo Y, Unoki Y, Kimura H, Tokushima M, Watanuki S, Saito T, Otsuka F, Tokuda Y: Evaluation of ChatGPT-Generated Differential Diagnosis for Common Diseases with Atypical Presentation: Descriptive Research. JMIR Med Educ, 2024; Vol. 10: e58758, 2024, 6, 21.

5 ○Tago M, Hirata R, Katsuki NE, Nakatani E, Tokushima M, Nishi T, Shimada H, Yaita S, Saito C, Amari K, Kurogi K, Oda Y, Shikino K, Ono M, Yoshimura M, Yamashita S, Tokushima Y, Aihara H, Fujiwara M, Yamashita SI: Validation and Improvement of the Saga Fall Risk Model: A Multicenter Retrospective Observational Study. Clin Interv Aging, 2024; Vol. 19: 175-188, 2024, 2, 7.

6 Tokushima M, Tago M, Katsuki NE, Yaita S, Tokushima Y, Aihara H, Fujiwara M, Nishi T, Yamashita SI: Factors Influencing Preference for Dying at Home among People Aged ≥ 65 Years: A Cross-Sectional Study in a Super-Aged Area of Japan. Int J Gerontol, 2024; Vol. 18, No. 3: 138-143, 2024, 7.

7 ○Yamashita S, Tago M, Tokushima M, Tokushima Y, Hirakawa Y, Aihara H, Katsuki NE, Fujiwara M, Oda Y: Effects of a 60-Minute Lecture About Diagnostic Errors for Medical Students: A Single-Center Interventional Study. Cureus, 2024; Vol. 16, No. 3: e56117, 2024, 3, 13.

総　説

1 ○Tago M, Hirata R, Katsuki NE, Nakatani E, Saito C, Yaita S, Oda Y, Tokushima M, Hirakawa Y, Yamashita S, Tokushima Y, Aihara H, Fujiwara M, Yamashita SI: Predictive Models of Falls: A Narrative Review. J Hosp Gen Med, Vol. 6, No. 1: 12-16, 2024, 1, 31.

2　徳島　緑，多胡雅毅：Pitfall25 突然発症の「更年期障害」…？．総合診療，特集 え，ウソ！ 実は○○だった⁉“コモンディジーズ”の診断ピットフォール，34巻3号：304–305，2024，3，15.

3 ○山下　駿，多胡雅毅，井手則子，八板静香，井上　香，溝口ゆかり，徳島圭宜，小田康友：医学生の臨床実習における臨床実習コーディネーターと総合診療医の役割．日病総合診療医会誌，20巻3号：168–173，2024，5，31.

学会発表

国際規模の学会

1 ○Hirata R, Katsuki NE, Nakatani E, Tokushima M, Nishi T, Shimada H, Yaita S, Saito C, Amari K, Kurogi K, Oda Y, Shikino K, Ono M, Yoshimura M, Ezoe M, Yamashita S, Tokushima Y, Aihara H, Fujiwara M, Tago M: Validation of the Saga Fall Risk Model: a multicenter retrospective observational study. SHM Converge 2024, 2024, 4, 12-15 San Diego.

国内全国規模の学会

1 *Annoura S, Hirata R, Nishi T, Yamada S, Nakamura M, Hirakawa Y, Yamashita S, Tokushima Y, Katsuki NE, Aihara H, Fujiwara M, Tago M: Heyde Syndrome: Therapy-Resistant Iron-Deficiency Anemia and Aortic Valve Stenosis. ACP 日本支部年次総会・講演会2024．2024，6，22–23 国際医療福祉大学赤坂キャンパス，＊後日一部のオンデマンド配信あり．

2 ○花田嵩史，徳島圭宜，中村仁彦，徳島　緑，山下　駿，平川優，香月尚子，相原秀俊，藤原元嗣，多胡雅毅：難治性の鉄欠乏性貧血を契機に特発性肺ヘモジデローシスと診断された1例：第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会．2024，6，7–9（現地開催およびライブ配信），2024（オンデマンド配信）アクトシティ浜松．

3 ○平田理紗，香月尚子，中谷英仁，徳島　緑，西　知世，島田ひとみ，八板静香，齋藤千紘，甘利香織，黒木和哉，織田良正，鋪野紀好，大野毎子，吉村麻里子，多胡雅毅：入院時の転倒予防は転倒の減少に関連しない可能性がある～傾向スコアによる1256例の解析．第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会．2024，6，7–9（現地開催およびライブ配信），2024（オンデマンド配信）アクトシティ浜松．

4 ○平田理紗，香月尚子，徳島　緑，八板静香，島田ひとみ，中谷英仁，齋藤千紘，甘利香織，黒木和哉，織田良正，大野毎子，鋪野紀好，吉村麻里子，西 知世，山下 駿，徳島圭宜，相原秀俊，藤原元嗣，多胡雅毅：転倒の時間帯によって転倒の関連因子は異なる―多施設後ろ向き観察研究．第29回日本病院総合診療医学会学術総会．2024, 9, 7–8 有明セントラルタワーホール＆カンファレンス．

5 ○平田理紗，香月尚子，中谷英仁，徳島　緑，西　知世，島田ひとみ，八板静香，齋藤千紘，甘利香織，黒木和哉，織田良正，鋪野紀好，大野毎子，吉村麻里子，多胡雅毅：入院時に実施する転倒予防策は入院中の転倒傷害に関連しない可能性がある．日本転倒予防学会 第11回学術集会．2024，11，23–24 SAGA アリーナ．

6 ○牧尾成二郎，香月尚子，大石　透，相原秀俊，藤原元嗣，徳島圭宜，山下　駿，平田理紗，多胡雅毅：炎症反応や頭部画像に異常所見を認めない汎発性帯状疱疹による多発脳神経障害．第29回日本

病院総合診療医学会学術総会．2024，9，7-8 有明セントラルタワーホール＆カンファレンス．

7 *本村　壮，香月尚子，中村仁彦，山下　駿，平田理紗，牧尾成二郎，大石　透，八板静香，徳島緑，徳島圭宜，相原秀俊，藤原元嗣，多胡雅毅：原因不明の発熱に対する簡便な非感染性炎症性疾患予測モデルの開発：単施設後ろ向き観察研究．第29回日本病院総合診療医学会学術総会．2024，9，7-8 有明セントラルタワーホール＆カンファレンス．

8 ○鍋島沙織，藤原元嗣，平田理紗，鋪野紀好，中島央律紗，井手則子，本村　壮，中村仁彦，牧尾成二郎，大石　透，山下　駿，徳島圭宜，香月尚子，相原秀俊，多胡雅毅：両側下腿浮腫で発症した血管内大細胞型Ｂ細胞リンパ腫の一例．第29回日本病院総合診療医学会学術総会．2024，9，7-8 有明セントラルタワーホール＆カンファレンス．

9 *中島央律紗，黒木和哉，牧尾成二郎，中村仁彦，平川優香，香月尚子，相原秀俊，藤原元嗣，山下駿，徳島圭宜，多胡雅毅：特異的な臨床症状を認めず上部消化管内視鏡検査と消化管造影検査で診断に至った blind loop 症候群．第28回日本病院総合診療医学会学術総会．2024，3，29-30 電気ビルみらいホール・共創館カンファレンス．

10 ○Oishi T, Hirata R, Yamada S, Nakamura M, Hirakawa Y, Yamashita S, Tokushima Y, Katsuki NE, Aihara H, Fujiwara M, Tago M: Relapsing polychondritis with chronic cough and tenderness of the costal cartilage. ACP 日本支部年次総会・講演会2024．2024，6，22-23 国際医療福祉大学赤坂キャンパス，＊後日一部のオンデマンド配信あり．

11 ○島田ひとみ，平田理紗，香月尚子，徳島　緑，中谷英仁，西　知世，八板静香，齋藤千紘，甘利香織，鋪野紀好，黒木和哉，織田良正，大野毎子，吉村麻里子，山下　駿，徳島圭宜，相原秀俊，藤原元嗣，多胡雅毅：療養型病院を対象とした院内転倒予測モデルの検討：多施設後ろ向き研究．第28回日本病院総合診療医学会学術総会．2024，3，29-30 電気ビルみらいホール・共創館カンファレンス．

12 徳島圭宜，中島知太郎，大石　透，中村仁彦，徳島　緑，山下　駿，平川優香，香月尚子，相原秀俊，藤原元嗣，多胡雅毅：成人後に両側感音性難聴を発症し，痙攣を契機に診断された MELAS の一例．第28回日本病院総合診療医学会学術総会．2024，3，29-30 電気ビルみらいホール・共創館カンファレンス．

13 七條千佳，鈴山耕平，江里口誠，井手俊宏，原　照子，井上美和，堀川悦男，小池春樹：自動車運転シミュレータと高次脳機能検査の関連性の検討．第65回日本神経学会学術大会．2024，5，31．

地方規模の学会

1 ○井手則子，西　知世，石瀬裕子，本村　壮，山下　駿，徳島圭宜，香月尚子，相原秀俊，藤原元嗣，多胡雅毅：頭部 MRI 検査が正常であった維持透析患者のウェルニッケ脳症．日本内科学会第346回九州地方会．2024，8，31 久留米シティプラザ・WEB（ハイブリッド開催）．

2 ○平田理紗，香月尚子，島田ひとみ，徳島　緑，中谷英仁，齋藤千紘，鋪野紀好，多胡雅毅：認知度と HDS-R，寝たきり度と Barthel Index または Katz Index との基準関連妥当性－多施設後ろ向き観察研究，日本プライマリ・ケア連合学会第18回九州支部総会・学術大会．2024，1，20-21（現地配信＋ライブ配信），2024，2，1-3，1（オンデマンド配信）宮崎県医師会館．

3 ○夏　京合，藤原元嗣，山田脩斗，西　知世，中村仁彦，平川優香，香月尚子，相原秀俊，徳島圭宜，多胡雅毅：重度の大動脈狭窄症に合併する原因不明の貧血：Heyde 症候群の１例．日本内科学会第344回九州地方会．2024，1，27 九州大学医学部百年講堂・WEB（ハイブリッド開催）．

薬　　剤　　部

著　　書

1　木村早希子：「術前中止薬管理 Web アプリ」の開発と活用－術前中止から術後再開まで－．手術医学 45(1)：105-109，2024，3，日本手術医学会.

2　飛田修康：2023年度国内施設研修支援制度報告記．学会誌 JSPEN Vol. 6 No. 3．2024，7，日本栄養治療学会.

3　祖川倫太郎：こんなときどうする？向精神薬コンサルテーション せん妄．月刊薬事10月臨時増刊号 向精神薬のエビデンスベースドプラクティス，66(14)：181-186，2024，10，じほう.

4　祖川倫太郎：リスクと向き合う・リスクに備える Bz 受容体作動薬の副作用 転倒・骨折．薬局11月号 適剤適処！Bz 受容体作動薬 リスク／ベネフィット比を最適化する，75(13)：45-48，2024，11，南山堂.

原著論文

1　Ishibashi Y, Sogawa R, Ogata K, Matsuoka A, Yamada H, Murakawa-Hirachi T, Mizoguchi Y, Monji A, Shimanoe C: Association Between Antidiabetic Drugs and Delirium: A Study Based on the Adverse Drug Event Reporting Database in Japan. Clin Drug Investig. 44(2): 115-120, 2024, 2.

2　Furuno T, Sogawa R, Hashimoto T, Matsuo S, Shirahama W, Kamura T, Hosoya K, Senjyu Y, Yamashita Y, Inoue T, Yamauchi M, Katsuya H, Noguchi M, Sueoka-Aragane N, Shimanoe C: Association between the Prognostic Nutritional Index and the Occurrence of Immune-Related Adverse Events. Biol Pharm Bull. 47(2): 361-365, 2024, 2.

3　*Iwasaka C, Yamada Y, Nishida Y, Hara M, Yasukata J, Miyoshi N, Shimanoe C, Nanri H, Furukawa T, Koga K, Horita M, Higaki Y, Tanaka K: Association Between the Appendicular Extracellular-to-Intracellular Water Ratio and All-Cause Mortality: A 10-Year Longitudinal Study. J Gerontol A Biol Sci Med Sci. 79(2): glad211, 2024, 2.

4　*Htay, Zin Wai, Michihata N, Nakamura Y, Hippo Y, Otonari J, Ikezaki H, Nishida Y, Shimanoe C, Tamura T, Nagayoshi M, Kato T, Tamada Y, Hishida A, Tanoue S, Nishimoto D, Koyama T, Ozaki E, Kuriki K, Takashima N, Miyagawa N, Katsuura-Kamano S, Watanabe T, Wakai K, Matsuo K: Dietary diversity and the risk of metabolic syndrome in a Japanese population: An analysis of baseline cross-sectional data from the J-MICC study. medRxiv, 2024, 2.

5　○Kobayashi T, Morimoto T, Shimanoe C, Ono R, Otani K, Mawatari M: Risk factors for progression of the severity of locomotive syndrome: A two-year longitudinal observational study. J Orthop Sci. 29(2): 646-652, 2024, 3.

6　*Iwasaka C, Nanri H, Hara M, Nishida Y, Shimanoe C, Yamada Y, Furukawa Y, Higaki Y, Momozawa Y, Nakatochi M, Wakai K, Matsuo K, Tanaka K: Interaction between Habitual Green Tea and Coffee Consumption and ACTN3 Genotype in Association with Skeletal Muscle Mass and Strength in Middle-Aged and Older Adults. J Frailty Aging. 13(3): 267-275, 2024, 3.

7　*Tsukamoto M, Hishida A, Tamura T, Nagayoshi M, Okada R, Kubo Y, Kato Y, Hamajima N, Nishida Y, Shimanoe C, Ibusuki R, Shibuya K, Takashima N, Nakamura Y, Kusakabe M, Nakamura Y, Koyanagi YN, Oze I, Nishiyama T, Suzuki S, Watanabe I, Matsui D, Otonari J, Ikezaki H,

Katsuura-Kamano S, Arisawa K, Kuriki K, Nakatochi M, Momozawa Y, Takeuchi K, Wakai K, Matsuo K: GWAS of Folate Metabolism With Gene-environment Interaction Analysis Revealed the Possible Role of Lifestyles in the Control of Blood Folate Metabolites in Japanese: The J-MICC Study. J Epidemiol. 34(5): 228-237, 2024, 5.

8 *Kasahara C, Tamura T, Wakai K, Tamada Y, Kato Y, Kubo Y, Okada R, Nagayoshi M, Hishida A, Imaeda N, Goto C, Otonari J, Ikezaki H, Nishida Y, Shimanoe C, Oze I, Koyanagi YN, Nakamura Y, Kusakabe M, Nishimoto D, Shimoshikiryo I, Suzuki S, Watanabe M, Ozaki E, Omichi C, Kuriki K, Takashima N, Miyagawa N, Arisawa K, Katsuura-Kamano S, Takeuchi K, Matsuo K: Association between consumption of small fish and all-cause mortality among Japanese: the Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. Public Health Nutr. 27(1): e135, 2024, 5.

9 Doi K, Sogawa R, Eguchi Y, Matsuo M, Shimanoe C: Association between Early Guanfacine Discontinuation and Somnolence for Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder. Biol Pharm Bull, 47(6): 1204-1208, 2024, 6.

10 *Hatano M, Sogawa R, Shin K, Esumi S, Ishikawa A, Mizumura R, Araki H, Yamada S: Comprehensive signal detection of delirium-associated medication using the Food and Drug Administration Adverse Event Reporting System. Gen Hosp Psychiatry, 90: 50-55, 2024, 6.

11 *Matsukane R, Oyama T, Tatsuta R, Kimura S, Hata K, Urata S, Watanabe H: Real-World Prevalence and Tolerability of Immune-Related Adverse Events in Older Adults with Non-Small Cell Lung Cancer: A Multi-Institutional Retrospective Study. Cancers (Basel). 16(11): 2159, 2024, 6.

12 ○Nanri H, Hara M, Nishida Y, Shimanoe C, Higaki Y, Tanaka K: Association between oxidative balance score and inflammatory markers in middle-aged and older Japanese people. Am J Hum Biol. 36(6): e24059, 2024, 6.

13 *Nishimoto D, Ibusuki R, Shimoshikiryo I, Shibuya K, Tanoue S, Koriyama C, Takezaki T, Oze I, Ito H, Hishida A, Tamura T, Kato Y, Tamada Y, Nishida Y, Shimanoe C, Suzuki S, Nishiyama T, Ozaki E, Tomida S, Kuriki K, Miyagawa N, Kondo K, Arisawa K, Watanabe T, Ikezaki H, Otonari J, Wakai K, Matsuo K: Association Between Awareness of Limiting Food Intake and All-cause Mortality: A Cohort Study in Japan. J Epidemiol. 34(6): 286-294, 2024, 6.

14 Kamo M, Sogawa R, Shimanoe C: Association of Antiviral Drugs for the Treatment of COVID-19 With Acute Renal Failure. In Vivo, 38(4): 1841-1846, 2024, 7.

15 *Fujii R, Hishida A, Nakatochi M, Okumiyama H, Takashima N, Tsuboi Y, Suzuki K, Ikezaki H, Shimanoe C, Kato Y, Tamura T, Ito H, Michihata N, Tanoue S, Suzuki S, Kuriki K, Kadota A, Watanabe T, Momozawa Y, Wakai K, Matsuo K; J-MICC Study Group: Polygenic risk score for blood pressure and lifestyle factors with overall and CVD mortality: a prospective cohort study in a Japanese population. Hypertens Res. 47(9): 2284-2294, 2024, 9.

16 ○Kobayashi T, Hara M, Shimanoe C, Morimoto T, Masaaki M, Ito K, Shimazaki T: Efficacy and safety of romosozumab: a meta-analysis of placebo-controlled trials. J Bone Miner Metab. 42(5): 492-502, 2024, 9.

17 *Watanabe T, Nguyen TV, Katsuura-Kamano S, Arisawa K, Ishizu M, Unohara T, Tanaka K, Shimanoe C, Nagayoshi M, Tamura T, Kubo Y, Kato Y, Oze I, Ito H, Michihata N, Nakamura Y, Ta-

noue S, Koriyama C, Suzuki S, Nakagawa-Senda H, Koyama T, Tomida S, Kuriki K, Takashima N, Harada A, Wakai K, Matsuo K; J-MICC Study Group: The Significance of Comprehensive Metabolic Phenotypes in Cancer Risk: A Japan Multi-Institutional Collaborative Cohort Study. Cancer Res Commun. 4(11): 2986-2997, 2024, 11.

18 ○Nishida Y, Hara M, Taguchi N, Nakamura K, Nanri H, Imaizumi T, Sakamoto T, Shimanoe C, Horita M, Furukawa T, Iwasaka C, Shinchi K, Higaki Y, Tanaka K: Association between physical activity and the N-terminal pro-brain natriuretic peptide in a middle-aged Japanese population: The interaction with alcohol consumption, 2005-2006. Prev Med. 189: 108138, 2024, 12.

症例報告

1 Kubo T, Matsuo S, Sogawa R, Yasu T, Nagaie T, Okamoto S, Kimura S, Shimanoe C: Monitoring of blood levels in patients administered CYP3A4 inhibitor during the maintenance phase of venetoclax administration. Int J Clin Pharmacol Ther, 62(1): 56-60, 2024, 1.

2 ○Hirakawa Y, Kakiuchi T, Yoshiura M, Kikkawa N: Improved injection site reactions after switching from adalimumab reference to adalimumab biosimilar LBAL for ulcerative colitis A case report. Medicine. 103(44): e40400, 2024, 11.

学会発表

国際規模の学会

1 ○Kawaguchi S, Fukuda O, Kimura S, Yeoh WL, Yamaguchi N, Okumura H: Development of a Perioperative Medication Suspension Decision Algorithm Based on Bayesian Networks. IEEE/SICE International Symposium on System Integration 2024, 2024, 1, 8-11. Electronic ISSN: 2474-2325 Print on Demand (PoD) ISSN: 2474-2317.

国内全国規模の学会

1 島ノ江千里，松本明子，原めぐみ，西田裕一郎，古川拓馬，田中恵太郎，J-MICC study group：糖尿病患者の高血圧とグルココルチコイド活性マーカーとの関連：J-MICC Study SAGA．第34回日本疫学会学術総会．2024，1，31-2，2.

2 ○古川拓馬，西田裕一郎，原めぐみ，島ノ江千里，岩坂知治，田中恵太郎，J-MICC Study Group：日本人におけるポリジェニックリスクスコアと糖尿病の関連：J-MICC Study．第34回日本疫学会学術総会．2024，1，31-2，2.

3 ○西田裕一郎，原めぐみ，田口尚人，岩坂知治，古川拓馬，島ノ江千里，堀田美加子，檜垣靖樹，田中恵太郎：大腸がん・乳がん罹患リスクに対する身体活動と VTI1A・TCF7L2遺伝子多型の交互作用．第34回日本疫学会学術総会．2024，1，31-2，2.

4 ○原めぐみ，古川拓馬，西田裕一郎，島ノ江千里，田中恵太郎：乳がんの Polygenic Risk Score による乳がん罹患予測：J-MICC Study．第34回日本疫学会学術総会．2024，1，31-2，2.

5 祖川倫太郎：効率化と安全性の向上を目指した術前休薬に対する薬剤師業務．第26回日本医薬品情報学会総会・学術大会．2024，6，1-2.

6 祖川倫太郎，西村　文，宮本由貴，松岡綾華，山田春奈，村川　徹，溝口義人，門司　晃，島ノ江千里：ベンゾジアゼピン系薬の使用下における併用薬剤のせん妄発症シグナルへの影響．第120回日本精神神経学会学術総会．2024，6，20-22.

7 ○松岡綾華，祖川倫太郎，村川　徹，溝口義人，門司　晃，島ノ江千里，品田公太，山田春奈，小網

博之，阪本雄一郎：オレキシン受容体拮抗薬がせん妄持続期間に及ぼす影響の検証．第120回日本精神神経学会学術総会．2024，6，20-22.

8 ○品田公太，松岡綾華，祖川倫太郎，村川　徹，溝口義人，門司　晃，島ノ江千里，山田春奈，小網博之，阪本雄一郎：外傷患者の入院中の総医療費にせん妄が与える影響．第120回日本精神神経学会学術総会．2024，6，20-22.

9 ○山田春奈，祖川倫太郎，村川　徹，溝口義人，松岡綾華，品田公太，阪本雄一郎，古賀明美：プレホスピタルケアに従事する看護師の PTSD 発症および精神健康状態の実態と予測因子．第20回日本クリティカルケア看護学会学術集会．2024，6，22-23.

10 祖川倫太郎：精神科領域における臨床・教育・研究への関わり．第 7 回日本病院薬剤師会 Future Pharmacist Forum．2024，7，13-8，12.

11 合原嘉伸，木村早希子，佐古兼一，橘川奈生，松尾俊佑，内田任仁弘，竹内耕治，三橋達也，板村英和，木村晋也，島ノ江千里：グルカルピダーゼ使用の意思決定を要した高用量メトトレキサート投与患者に対する母集団薬物動態モデルの適応評価．第40回日本 TDM 学会学術大会．2024，7，14-15.

12 祖川倫太郎，溝口義人，島ノ江千里：有害事象データベース解析による睡眠薬と事故・損傷の関連性．日本睡眠学会第48回定期学術集会．2024，7，18-19.

13 木村早希子，佐古兼一，橘川奈生，仲丸雄太，松尾俊祐，草場香那，藤田真衣，城戸口啓介，岡本翔，木村晋也，島ノ江千里：イブルチニブ母集団薬物動態モデルの予測性評価と周術期休薬シミュレーションへの適用．第 7 回日本腫瘍循環器学会学術集会．2024，8，3-4.

14 *笠原千夏，田村高志，若井建志，玉田雄大，加藤泰文，久保陽子，岡田理恵子，永吉真子，菱田朝陽，今枝奈保美，後藤千穂，乙成　淳，池崎裕昭，西田裕一郎，島ノ江千里，尾瀬　功，小柳エヌ友理子，中村洋子，日下部美帆，西本大策，下敷領一平，鈴木貞夫，渡邉美貴，尾崎悦子，大道智恵，栗木清典，高嶋直敬，宮川尚子，有澤孝吉，釜野勝浦桜子，竹内研時，松尾恵太郎：日本人における小魚摂取と全死亡との関連：日本多施設共同コーホート研究．がん疫学・分子疫学研究会総会．2024，9，3.

15 祖川倫太郎，土井絹華，江口祐子，松尾宗明，島ノ江千里：注意欠陥・多動性障害に対するグアンファシンの早期中止と傾眠の関連性．第 8 回日本精神薬学会総会・学術集会．2024，9，21-22.

16 細矢和久，齊田正弘，多田裕子，古賀真美，木村普也：慢性骨髄性白血病解説動画視聴による薬剤師の理解度向上効果の検討～慢性骨髄性白血病（CML）治療環境向上プロジェクト～．第57回日本薬剤師学術大会．2024，9，22-23.

17 江本晶子，石橋幸子，本岡千佳，島ノ江千里：周術期の SGLT2阻害薬休薬に関する院内運用の実態調査と血中ケトン体測定陽性例の検討．第12回日本くすりと糖尿病学会学術集会．2024，10，5-6.

18 秀島早紀，鶴橋智子，竹内耕治，平田寛人，森本忠嗣，馬渡正明，島ノ江千里：当院脊椎手術例の骨粗鬆症治療薬使用状況調査．第26回日本骨粗鬆症学会．2024，10，11-13.

19 久保利樹，祖川倫太郎，島ノ江千里：医薬品副作用データベース（JADER）を用いた JAK 阻害剤と心筋梗塞の関連性についての解析．第34回日本医療薬学会年会．2024，11，2-4.

20 石橋幸子，江本晶子，本岡千佳，島ノ江千里：周術期の SGLT2阻害薬休薬に関する院内運用の実態調査．第34回日本医療薬学会年会．2024，11，2-4.

21　緒方健二，鶴橋智子，山﨑政虎，宮園素明，祖川倫太郎，島ノ江千里：アバコパンを服用中に遅発的肝障害が疑われた ANCA 関連血管炎の 1 症例．第34回日本医療薬学会年会．2024，11，2-4.

22　西　順也：医薬品添付文書の読み解き方．第34回日本医療薬学会年会．2024，11，2-4.

23　合原嘉伸，竹内耕治，古野龍也，猪口雅章，久保利樹，柿木寛明，永瀬　圭，山口優香子，中村和樹，野口　満，島ノ江千里：irAE- サイトカイン症候群に対して，トシリズマブ＋デキサメタゾンの投与が有効であった腎細胞癌の 1 例．第34回日本医療薬学会年会．2024，11，2-4.

24　秀島早紀，祖川倫太郎，島ノ江千里：有害事象データベースを用いた睡眠薬と呼吸抑制の関連性について調査．第34回日本医療薬学会年会．2024，11，2-4.

25　祖川倫太郎：新規不眠症治療薬と医療安全．第37回日本総合病院精神医学会総会．2024，11，29-30.

26　江本晶子，笹部友佳，吉村麻里子，水田貴久美，川添　都，南里美貴，坂口嘉郎，阪本雄一郎：ハリーコールの発動基準の明文化．第19回医療の質・安全学会学術集会．2024，11，29-30.

地方規模の学会

1　祖川倫太郎，島ノ江千里：向精神薬の選択に薬剤師が介入する意義．第13回九州山口薬学会ファーマシューティカルケアシンポジウム．2024，1，6-7.

2　西　順也：妊婦・授乳婦の薬物療法における基礎知識と情報収集．第13回九州山口薬学会ファーマシューティカルケアシンポジウム．2024，1，6-7.

3　江本晶子，西　順也，本岡千佳，江越正芳，木村早希子，島ノ江千里：高額医薬品の病院経営管理・医療安全対策を講じるための医薬品管理体制．第83回九州山口薬学大会．2024，10，13-14.

4　本岡千佳，飛田修康，小國正和，島ノ江千里：佐賀大学医学部附属病院の医薬品情報室業務における Robotic Process Automation の活用．第83回九州山口薬学大会．2024，10，13-14.

5　古野龍也，横田未沙，橋本宇矩，橘川奈生，松下明奈，岩本　翔，久保陽平，溝上泰仁，島ノ江千里：がん診療連携推進に向けた取り組みにおけるトレーシングレポート活用状況の評価．第83回九州山口薬学大会．2024，10，13-14.

その他の学会

1　石橋幸子：新人が知っておきたい糖尿病薬物療法．令和 5 年度第 5 回佐賀県病院薬剤師会卒後研修会．2024，1，20.

2　竹内耕治：たまにはドーピングについて考えてみよう．令和 5 年度第 5 回佐賀県病院薬剤師会学術講演会．2024，1，27.

3　久保利樹：シックデイのリウマチ治療薬に関する患者・医療従事者の認識度調査．第23回 RA トータルマネージメントフォーラム．2024，2，3.

4　島ノ江千里：がん・周術期医療の病診連携に必要な地域薬剤師の力．佐賀県薬剤師会唐津支部研修会．2024，2，8.

5　祖川倫太郎：睡眠薬×転倒～安全性を考慮した薬剤選択～．医療安全セミナー～転倒転落の予防～．2024，2，16.

6　祖川倫太郎：睡眠薬の服用を伴う不眠症の性・年齢特異的な死亡リスク：J-MICC Study 2004-2014．令和 5 年度コホート・生体試料支援プラットフォーム 若手支援研究成果発表会．2024，2，20.

7　祖川倫太郎：転倒と睡眠薬に関するエビデンス．第15回筑後地区リハビリテーション研究会．2024，

2，22.

8　古野龍也：胃がんの薬物療法について～処方箋から読み解く患者指導～．第 4 回薬剤師のための臨床腫瘍薬学セミナー．2024，2，24.

9　島ノ江千里：佐賀県のがん医療を変える－リカレント教育の重要性－．キャリアアップセミナー 2024．2024，3，17.

10　飛田修康：チーム医療における薬剤師の役割：重症筋無力症の総合的なアプローチ．令和 5 年度第 6 回佐賀県病院薬剤師会学術講演会．2024，3，18.

11　島ノ江千里：キャリア形成の多様性と臨床疫学研究．沖縄県薬剤師会講演会．2024，6，1.

12　飛田修康：2023年度国内施設研修支援制度 参加報告．第28回佐賀 NST 研究会．2024，6，15.

13　古野龍也：レンバチニブ副作用サポートプログラムから繋がるがん診療連携．令和 6 年度第 1 回大村東彼薬剤師会臨床連携セミナー．2024，7，11.

14　祖川倫太郎：知っておきたい精神科領域の薬剤～抗うつ薬・睡眠薬～．福岡市薬剤師会学術研修会．2024，7，12.

15　古野龍也：内分泌療法の臨床薬理．日本臨床腫瘍薬学会 Essential Seminar Neo 2024（オンデマンド形式）．2024，7，19-8，2.

16　竹内耕治：当院における腎性貧血治療薬の処方状況．第34回佐賀腎と薬剤研究会．2024，7，27.

17　祖川倫太郎：睡眠薬使用における転倒リスク．不眠症診療を考える会 WEB セミナー in 筑後佐賀．2024，8，27.

18　祖川倫太郎：安全性を考慮した睡眠薬選択を考える．第71回宮崎県精神科領域専門薬剤師養成講習会．2024，9，25.

19　古野龍也：胃がんの薬物療法について．佐賀県 がん薬物療法スキルアップアカデミー．2024，9，28.

20　角真太郎：病棟業務で遭遇した感染症の症例検討．佐賀県病院薬剤師会感染症x NST 合同ハイブリッド研修会．2024，10，19.

21　古野龍也：免疫チェックポイント阻害薬における免疫関連有害事象（irAE）について．第 4 回がん診療セミナー．2024，10，24.

22　祖川倫太郎：最近の睡眠薬の安全性に関するエビデンス．長崎県病院薬剤師会令和 6 年度第 4 回学術講演会．2024，11，15.

23　小國正和：当院における抗てんかん発作薬の使用状況．令和 6 年度第 3 回佐賀県病院薬剤師会学術講演会．2024，11，21.

24　角真太郎：佐賀県の抗菌薬使用の現状と課題．第 8 回佐賀感染防止対策地域連携セミナー．2024，12，14.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
教　授	島ノ江千里	地域医療介護総合保険基金事業	事業補助金（佐賀県）	1	地域薬剤師リカレント教育環境整備	4,479
教　授	島ノ江千里	(公益財団法人)中谷医工計測技術振興財団	調査研究助成	1	疫学的手法を用いた糖尿病重症化予防のためのモニタリングマーカーの開発	1,950 (2,640)
教　授	島ノ江千里	中外製薬	研究助成	1	がん分子標的薬の適正治療に向けた併用薬剤による薬物動態特性と個人差要因の解明	300
薬剤師	木村早希子	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	人工知能機械学習を応用した高精度周術期休薬判断アルゴリズムの構築	250 (600)

※（　）は繰越金で外数

学術（学会）賞

職　名	氏　名	学術（学会）賞名	受　賞　課　題
薬剤師	祖川倫太郎	日本精神薬学賞	注意欠陥・多動性障害に対するグアンファシンの早期中止と傾眠の関連性

看　護　部

症例報告

1　永渕美樹，藤井純子，南里　穂，安西慶三，古賀明美：佐賀県コーディネート看護師の育成と活動の実際．日本糖尿病教育・看護学会誌，28巻2号，P85-91，2024，9.

学会発表

国内全国規模の学会

1　八谷彩紀，松尾照美，古賀恵一，吉田志存：EICUにおける人工呼吸器離脱プロトコル活用状況の現状と課題．第51回日本集中治療医学会（ハイブリッド開催）．2024，3，14-16（現地開催），2024，4，1-30（オンデマンド配信）．

2　松尾照美，古賀明美，武富由美子，川久保愛，山田春奈：小型睡眠脳波計を用いた入室直後と呼吸循環が安定した時期における重症患者の睡眠の特徴．第51回日本集中治療医学会学術集会（ハイブリッド開催）．2024，3，14-16（現地開催），2024，4，1-30（オンデマンド配信）．

3　猪野侑香，宮里百華，今泉香織，内田和成：A病院の高度救命救急センターに所属する看護師のワーク・エンゲージメント．第51回日本集中治療医学会学術集会（ハイブリッド開催）．2024，3，14-16（現地開催），2024，4，1-30（オンデマンド配信）．

4　水町麻里，瀬戸香織，白濱　泉，山本徒子，馬場耕一，鈴木智恵子，副島英伸：遺伝性乳癌卵巣癌再発患者および遺伝リスクをもつ家族の意思決定に対する看護師による協働的支援．第4回日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構学術総会（ハイブリッド開催）．2024，5，18-19（現地開催），2024，5，27-31（オンデマンド配信）．

5　田中真紀子，佐保直子，西原佳子，川﨑美紀子：A大学病院一般科看護師が感じる精神疾患患者に対する身体合併症看護の困難感と関連要因．日本精神保健看護学会第34回学術集会・総会（ハイブリッド開催）．2024，6，1-2（現地開催），2024，6，11-30（オンデマンド配信）．

6　佐保直子，古野貴臣，藤本裕二，藤野成美：精神科看護職のプレゼンティズムに関連する要因．日本精神保健看護学会第34回学術集会・総会（ハイブリッド開催）．2024，6，1-2（現地開催），2024，6，11-30（オンデマンド配信）．

7　水町麻里，岡本のり子，鶴田あゆみ：リンパ浮腫専門セラピスト看護師の育成プログラムの導入．第44回日本静脈学会（ハイブリッド開催）．2024，6，13-14（現地開催），2024，6，25-7，10（オンデマンド配信）．

8　宮崎恵美子，古賀明美，武富由美子，山田春奈：ICU 在室中の患者の不快感と退室 2 週間以内の不安および抑うつの関連．第20回日本クリティカルケア看護学会学術集会（ハイブリッド開催）．2024，6，22-23（現地開催），2024，7，8-8，31（オンデマンド配信）．

9　南里　穂，永渕美樹：大腸がんを併発した高齢クローン病患者への多職種連携による意思決定支援．第18回日本慢性看護学会学術集会（ハイブリッド開催）．2024，8，10-11（現地開催），2024，8，26-9，30（オンデマンド配信）．

10　久米仁美，永渕美樹，光山佳祐：長期の呼吸器離脱困難な患者の生きる希望を取り戻すための看護支援．第18回日本慢性看護学会学術集会（ハイブリッド開催）．2024，8，10-11（現地開催），2024，8，26-9，30（オンデマンド配信）．

11　宮之下さとみ：看護部長と副看護部長における「毎日ミーティング」の評価と課題．第28回日本看護管理学会学術集会（ハイブリッド開催）．2024，8，23-24（現地開催），2024，9，11-30（オンデマンド配信）．

12　南里美貴，坂本貴子，中野理佳：大学病院で働く女性看護職の子どもの発達段階におけるワークファミリーコンフリクトに関連する要因．第28回日本看護管理学会学術集会（ハイブリッド開催）．2024，8，23-24（現地開催），2024，9，11-30（オンデマンド配信）．

13　前田美和：がん看護外来における家族看護の一事例～悪性脳腫瘍患者の家族との対話から～．日本家族看護学会第31回学術集会（ハイブリッド開催）．2024，9，14-15（現地開催），9，14-10，31（オンデマンド配信）．

14　川﨑寿磨子，鮎川ひとみ，高守史子，森本眞寿代：産後 1 か月時点における母親の育児不安に関連する要因～初産婦・経産婦を比較して～．第65回日本母性衛生学会総会・学術集会（ハイブリッド開催）．2024，10，18-19（現地開催），2024，11，1-7・12-18（オンデマンド配信）．

15　川﨑美紀子，池田光代：A大学病院におけるせん妄患者に対する看護の質に関する実態調査．第31回日本精神科看護専門学術集会 in 山口（ハイブリッド開催）．2024，10，26-27（現地開催＋ZOOM 中継）．

16　南里　穂，鶴岡ななえ，永渕美樹，田篭佳子，武富啓展，坂田資尚，江﨑幹宏：炎症性腸疾患患者を対象とした便失禁症状および便失禁特異的 QOL の実態調査．第15回日本炎症性腸疾患学会学術集会（ハイブリッド開催）．2024，11，15-16（現地開催＋ライブ配信）．

17　田篭佳子，野田祐美子，光山佳祐，田中真由美，永渕美樹，武富啓展，鶴岡ななえ，坂田資尚：IBD 患者の口腔衛生状態の実態調査．第15回日本炎症性腸疾患学会学術集会（ハイブリッド開催）．2024，11，15-16（現地開催＋ライブ配信）．

18　溝口紗都，内藤杏奈，永野一碧，今泉香織，草場　裕：高度救命救急センターにおける小児救急患者に対するトリアージの現状と課題．第26回日本救急看護学会学術集会（ハイブリッド開催）．2024，11，18-19（現地開催），2024，12，9-2025，1，13（オンデマンド配信）．

19　矢川　信，草場　裕，永渕美樹，水田貴久美，金子ゆかり，橋本真由美，清松美紀，上瀧佳祐，南里美貴，中溝健太郎：看護師介助中の患者の転倒を減少させるための取り組み．第19回医療の質・安全学会学術集会（ハイブリッド開催）．2024，11，29-30（現地開催），2024，12，12-2025，1，10（オンデマンド配信）．

20　藤井純子：糖尿病カードシステムを用いたフットケア教育．第５回日本フットケア・足病医学会学術集会（ハイブリッド開催）．2024，11，29-30（現地開催），2024，12，23-2025，1，31（オンデマンド配信）．

21　倉持裕子，松枝美智子，日高艶子，神代明美，餅田敬司，清田由紀子，不動寺美紀，増滿　誠：誕生から30年 CNS の臨床実践におけるクリエイティビティ：九州・沖縄の CNS・管理・教育の立場から．第44回日本看護科学学会学術集会，交流集会（ハイブリッド開催）．2024，12，7-8（現地開催），2025，1，17-2，28（オンデマンド配信）．

22 *松枝美智子，光永憲香，脇崎裕子，植田　愛，倉持裕子，増滿　誠，高野　歩，中本　亮，池田智，児玉裕子，安保寛明：COVID-19に罹患した利用者をケアした経験を持つ訪問看護師の Moral Injury に繋がる状況．第44回日本看護科学学会学術集会（ハイブリッド開催）．2024，12，7-8（現地開催），2025，1，17-2，28（オンデマンド配信）．

地方規模の学会

1　浦方真紀子，田篭康洋：ICU における早期栄養療法の必要性に向けた取り組み．第28回佐賀 NST 研究会．2024，6，15（現地開催）．

2　脇山龍太郎，広橋紀子：手術看護の課題と実践～ケースカンファレンスを開催して組織全体で人材を育てる．第41回日本手術看護学会九州地区大会．2024，7，20.

3　木下理恵，広橋紀子：A病院手術部における手順書の使用や後進についての実態調査．第41回日本手術看護学会九州地区大会．2024，7，20.

4　丸山美優，石井麻未，曽根田麻里，田中真由美，野田祐美子，光山佳祐，田篭佳子，永渕美樹：慢性疾患患者における口腔衛生の実態調査．第62回日本糖尿病学会九州地方会．2024，10，25-26（現地開催），2024，11，12-2025，1，17（オンデマンド配信）．

5　牟田口朋子：放射線部における短時間勤務看護師の活用～ CT 検査を受ける患者の送迎～．日本医療マネジメント学会 第21回九州・山口連合大会．2024，12，6-7.

6　田中園加：先取り看護の提供に向けて～アンケート調査からの取り組み～．日本医療マネジメント学会 第21回九州・山口連合大会．2024，12，6-7.

7　南里美貴：助産師育成における体制構築への取り組みと課題．日本医療マネジメント学会 第21回九州・山口連合大会．2024，12，6-7.

8　貞松陽子：医師との協働促進を目的とした看護師のスキルアップ．日本医療マネジメント学会 第21回九州・山口連合大会．2024，12，6-7.

9　古澤　亮，永島萌実，松尾直美，山下奈緒美，公文孝子，水田貴久美，南里美貴：A病棟における薬剤確認に関する問題点．日本医療マネジメント学会 第21回九州・山口連合大会．2024，12，6-7.

学術（学会）賞

職　名	氏　名	学術（学会）賞名	受　賞　課　題
看護師長	永渕　美樹	一般社団法人日本糖尿病教育・看護学会フロンティア賞	・長年にわたる学会の評議員・委員会委員・理事としての活動 ・慢性疾患看護専門看護師として研究を通した看護の質向上 ・佐賀県糖尿病コーディネート看護師育成および災害時等の積極的な支援活動

医　　事　　課

診療記録センター

著　　書

1　佐々木和美，中田慶子，西　眞範，山内盛泰，髙﨑光浩，荒金尚子，原　將太，長本敬幸：佐賀県内がん診療連携拠点病院の院内がん登録データによる検証－小児15歳未満－．JACR Monograph No. 29 p54，2024，（NPO）日本がん登録協議会.

2　佐々木和美，中田慶子，山内盛泰，髙崎光浩，荒金尚子，原　將太，長本敬幸：がん登録実務者支援の実施報告と次年度の取り組み．JACR Monograph No. 29 p69，2024，（NPO）日本がん登録協議会.

3　○髙崎光浩，中田慶子，佐々木和美，原　將太，長本敬幸，松田智大：がん登録実務者支援としてのデータ分析ワークショップ．JACR Monograph No. 29 p52，2024，（NPO）日本がん登録協議会.

学会発表

国内全国規模の学会

1　佐々木和美，中田慶子，秋山　巧，勝屋弘雄，原　將太，長本敬幸，髙崎光浩：佐賀県がん登録研修会とがん医療従事者 e ラーニング：2023年度の実施報告．日本がん登録協議会第33回学術集会．2024，6，13-15.

2　佐々木和美，中田慶子，秋山　巧，勝屋弘雄，野村尭宏，山内盛泰：院内がん登録システム「Hos-CanR NEXT」から頭頸部悪性腫瘍全国登録（HNC プロジェクト）へのデータ提出方法についての検討．日本がん登録協議会第33回学術集会．2024，6，13-15.

3　佐々木和美，中田慶子，秋山　巧，勝屋弘雄，山内盛泰：佐賀県内がん診療連携拠点病院 院内がん登録データからみた頭頸部がん．日本がん登録協議会第33回学術集会．2024，6，13-15.

4　○髙崎光浩，佐々木和美，中田慶子，長本敬幸，原　將太：都道府県拠点病院としてのがん登録実務者支援活動～推進法制定から10年間の中間まとめ：ICT 利活用の視点から～．日本がん登録協議会第33回学術集会．2024，6，13-15.

5　山﨑幸子，重田美佐都：ピアレビューを活用した診療録の質向上．第50回日本診療情報管理学会学術大会．2024，8，22-23.

6　重田美佐都，山﨑幸子：タスクシフトを目指した医師事務作業補助体制構築．第50回日本診療情報管理学会学術大会．2024，8，22-23.

その他の学会

1　佐々木和美：ケースファインダーを使ったケースファインディング－使い方＆工夫のポイント－．がん登録実務者のための５大がん登録講座2024．2024，12，7.

栄　養　治　療　部

著　　書

1　射場裕美子：２－１CKD の栄養指導 保存期①軽症．臨床栄養臨時増刊号 797-802，2024，5，医歯薬出版株式会社，東京.

2　射場裕美子：コラム１：経腸栄養剤の工夫．臨牀透析2024年11月 85-89，2024，11．日本メディカルセンター，東京.

3　射場裕美子：コラム５：ミネラルについて－過不足時の症状と対策．臨牀透析2024年11月 100-105，2024，11，日本メディカルセンター，東京.

学会発表

国内全国規模の学会

1　松浦朋美，嶋田竜介，皆良田貴之，古川怜奈：「とろみ出汁」を用いた嚥下調整食の検討．第27回日本病態栄養学会年次学術集会．2024，1，26-28.

2　山口真弓，飛田修康，浦方真紀子，香月美咲，黒岩智子，川﨑　賢，坂田由美，田篭康洋，相原秀俊：胆管炎による敗血症性ショックに対し，NST チームが介入し栄養改善を図った一例．第39回日本臨床代謝栄養学会．2024，2，15-16.

3　射場裕美子，松田野利子：院内コンビニを用いた療養指導を行って．第67回日本糖尿病学会年次学術集会．2024，5，17-19.

4　射場裕美子，藤井純子，江本晶子：糖尿病教育スケジュールにカンバセーションマップを取り入れて．第11回 JADEC 年次学術集会．2024，7，20-21.

地方規模の学会

1　山口真弓，飛田修康，浦方真紀子，香月美咲，黒岩智子，川﨑　賢，坂田由美，田篭康洋，皆良田貴之，相原秀俊：胆管炎による敗血症性ショックに対し，栄養介入した一例．第48回九州代謝栄養研究会．2024，3，2.

その他の学会

1　射場裕美子：健康的な食事とは？．鳥栖三養基市民公開講座．2024，2，3.

2　射場裕美子：糖尿病カードシステムを活用した栄養指導について．令和６年度佐賀県栄養士会杵藤支部研修会．2024，11，22.

3　射場裕美子：CKD 栄養指導のポイントと管理栄養士のキャリア UP を考える．CKD 治療における他職種連携を考える．2024，11，28.

4　射場裕美子：患者個々に応じた慢性腎臓病の実践的栄養指導．八女筑後地区連携講演会 慢性腎臓病の治療と栄養．2024，12，5.

学術（学会）賞

職　名	氏　名	学術（学会）賞名	受　賞　課　題
調理師 管理栄養士	江島　将博 小山田聖菜 射場裕美子	第12回日本腎代謝栄養研究会 そらまめ食堂特別賞	保存期腎不全の食事

学内共同研究施設

総合分析実験センター

生物資源開発部門

原著論文

1 *Katsuda S, Horikoshi Y, Shiomi M, Kitajima S, Ito T, Hazama A, Shimizu T, Shirai K: Arterial stiffness of the aorta and iliofemoral artery and their responses to nitroglycerin administration in myocardial infarction-prone Watanabe heritable hyperlipidemic rabbits. J. Hypertension 42: 441-449, 2024, 3.

2 *Niimi M, Chen Y, Zhao H, Tang X, Matsuhisa F, Zhou H, Yan H, Chen L, Kitajima S, Sato A, Fan J: Enhanced atherosclerosis in apolipoprotein E knockout rabbits: role of apoB48-rich remnant lipoproteins. Front. Cardiovasc. Med. 11: 1424064, 2024, 7.

3 ○Hara S, Matsuhisa F, Kitajima S, Yatsuki H, Kubiura-Ichimaru M, Higashimoto K, Soejima H: Identification of responsible sequences which mutations cause maternal H19-ICR hypermethylation with Beckwith-Wiedemann syndrome-like overgrowth. Communications Biology 7(1): 1605, 2024, 12.

学会発表

国際規模の学会

1 Kitajima S, Matsuhisa F, Akiyoshi T: Cryopreservation of Rabbit Embryos: A Method for Maintaining Rabbit Models. 9th International Congress of Rabbit Biotechnology and Large Animal Models for Translational Research (ICRB-2024), 2024, 8, 9-12.

2 *Niimi M, Matsuhisa F, Zhang J, Nishijima K, Kitajima S, Fan J: A novel model for studying hypertriglyceridemia: Apo A-V knockout rabbits. 9th International Congress of Rabbit Biotechnology and Large Animal Models for Translational Research (ICRB-2024), 2024, 8, 9-12.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
助　教	松久　葉一	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	高感受性血小板産生の展望：巨核球系細胞に及ぼすストレスホルモンの作用	2,080
准教授	北嶋　修司	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	脂質代謝異常，動脈硬化における ANGPTLs の作用：遺伝子改変ウサギによる解析	130
助　教	松久　葉一	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	脂質代謝異常，動脈硬化における ANGPTLs の作用：遺伝子改変ウサギによる解析	260
助　教	松久　葉一	奨学寄附金		1	ウサギを用いた医学・生物学的研究の振興	300

機器分析部門

原著論文

1　Yuka Tokuyama, Kanae Mori, Midori Isobe, Hiroaki Terato: Comparison of mutation spectra induced by gamma-rays and carbon ion beams. Journal of Radiation Research 65(4): 491-499, 2024, 6.

学会発表

その他の学会

1　徳山由佳：共用設備の活用実績とは．第39回国立大学法人生命科学研究機器施設協議会．2024，11，15.

2　森加奈恵：顕微鏡を「光」の教材とする模索．第35回生物学技術研究会・第46回生理学技術研究会．2024，2，15-16.

3　森加奈恵：顕微鏡を通して「光」を学ぶ．九州地区総合技術研究会．2024，2，29-3，1.

4　森加奈恵：年度末から年度始めの気になるハナシ～技術職員から見たセンター運営～．機器・分析センター協議会 第 3 回小集会．2024，3，21.

5　森加奈恵：像が見える仕組みを光学的に考えてみた．第30回機器・分析技術研究会2024 広島大学．2024，9，5-6.

6　森加奈恵：メタボロミクス．第31回質量分析技術者研究会．2024，11，29.

7　吉田貴子：細胞周期解析試行錯誤．第30回機器・分析技術研究会2024 広島大学．2024，9，5-6.

8　吉田貴子：セルソーターを用いた細胞周期解析実習開催に至るまで．第39回国立大学法人生命科学研究機器施設協議会．2024，11，15.

9　近藤敏弘：作業環境測定におけるホルムアルデヒド測定．令和 5 年度佐賀大学技術研究会．2024，3，8.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
教務員	徳山　由佳	科学研究費助成金	基盤研究(C)	1	DNA 損傷の可視化により低線量被ばくの生物影響を評価する	900

寄附講座

人 工 関 節 学 講 座

原著論文

1 ○Fujii M, Tanaka S, Kawano S, Ueno M, Nagamine S, Mawatari M: Deficient postoperative anterior wall index adversely affects joint survival after transposition osteotomy of the acetabulum in patients with hip dysplasia. Bone Joint J. 2024 Dec 1;106-B(12): 1399-1407. doi: 10.1302/0301-620X.106B12.BJJ-2024-0585.R1. PMID: 39615523, 2024, 12.

2 *Kii S, Miyamoto H, Ueno M, Noda I, Hashimoto A, Nakashima T, Shobuike T, Kawano S, Sonohata M, Mawatari M: Long-term antibacterial activity of silver-containing hydroxyapatite coatings against Staphylococcus aureus in vitro and invivo. J Orthop Sci. 2024 Nov; 29(6): 1503-1512. doi: 10.1016/j.jos.2023.10.009. Epub 2023 Nov 2. PMID: 37925294, 2024, 11.

3 *Miyazaki K, Fujii M, Kawano S, Ueno M, Kitajima M, Sonohata M, Mawatari M: Functional Improvement and Patient Satisfaction Following Conversion of Fused Hip to Total Hip Arthroplasty. J Arthroplasty. 2024 Oct; 39(10): 2512-2519. doi: 10.1016/j.arth.2024.07.015. Epub 2024 Jul 25. PMID: 39025276, 2024, 1.

4 *Tanaka S, Fujii M, Kawano S, Ueno M, Nagamine S, Mawatari M: Factors associated with joint survival after transposition osteotomy of the acetabulum in patients with Tönnis grade 2 osteoarthritis secondary to hip dysplasia. Bone Joint J. 2024 Aug 1; 106-B(8): 783-791. doi: 10.1302/0301-620X.106B8.BJJ-2024-0196.R1. PMID: 39084631, 2024, 8.

5 ○Ueno M, Kawano S, Fujii M, Tanaka S, Sakumo K, Morimoto T: Does Preoperative Virtual Reality Experience Enhance Implant Positioning Accuracy in Total Hip Arthroplasty?. Cureus. 2024 Sep 28; 16(9): e70390. doi: 10.7759/cureus.70390. PMID: 39469377; PMCID: PMC11516148, 2024, 9.

6 河野俊介，東島直生，上野雅也，馬渡正明：【人工関節置換術後の長期成績を改善させるリハビリテーション治療戦略】人工股関節．総合リハビリテーション（0386-9822）52巻 4 号：341-351，2024，4.

7 ○東島直生，松本　幸，河野俊介，上野雅也，藤井政徳，森本忠嗣，馬渡正明：人工股関節全置換患者における片脚起立時間と歩行能力の関連性．Hip Joint（0389-3634）50(2)：S132-S135，2024，8.

学会発表

国際規模の学会

1 ○Kii S, Miyamoto, Ueno M, Noda I, Hashimoto A, Nakashima T, Shobuike T, Kawano S, Sonohata M, Mawatari M: Enduring Protection Against S.aureus: Evaluating the Antimicrobial Efficacy of Ag-HA Coated Implants is Orthopedic applications. ORS2024, 2024, 2, 2-6. Paper#0365.

2 ○Ueno M, Miyamoto H, Kii S, Hirata H, Kawano S, Mawatari M: Silver-Containing Calcium Phosphate in Mesenchymal Stem Cell-Based Bone Regeneration:Comprehensive Analysis of Antibacterial Efficacy and Osteogenic Potential. ORS2024, 2024, 2, 2-6. Peper#2449.

国内全国規模の学会

1 ○上野雅也，河野俊介，森本忠嗣，藤井政徳，馬渡正明：ゴーグルから見える人工関節手術の未来．

第54回日本人工関節学会．2024，2，23-24.

2　河野俊介，上野雅也，藤井政徳，記伊祥雲，森本忠嗣，馬渡正明：銀含有ハイドロキシアパタイトコーティング技術を用いた抗菌性セメントレス人工股関節の開発．基礎から臨床における抗菌力評価．第54回日本人工関節学会．2024，2，23-24.

3　河野俊介，馬渡正明：銀含有ハイドロキシアパタイトコーティングセメントレス抗菌人工股関節の目指すところ：臨床使用５年の成績と今後（ランチョンセミナー）．第54回日本人工関節学会．2024，2，23-24.

4　河野俊介，上野雅也，藤井政徳，馬渡大介，馬渡正明：AG-HA coating cementless stem の成績と今後．第54回日本人工関節学会．2024，2，23-24.

5　*園畑素樹，河野俊介，藤井政徳，上野雅也，馬渡正明：後方アプローチ人工股関節全置換術における脱臼対策．第54回日本人工関節学会．2024，2，23-24.

6　○藤井政徳，河野俊介，上野雅也，馬渡正明：関節外科トップジャーナルに採択されるために．第54回日本人工関節学会．2024，2，23-24.

7　○藤井政徳，河野俊介，上野雅也，園畑素樹，馬渡正明：Schanz 骨切り術後の高位脱臼性股に対する大腿骨骨切り併用 THA の治療成．第54回日本人工関節学会．2024，2，23-24.

8　○井野輔久，藤井政徳，河野俊介，上野雅也，馬渡大介，馬渡正明：同一患者における寛骨臼移動術と人工股関節全置換術の比較．第97回日本整形外科学会学術総会．2024，5，23-26.

9　○小林孝巨，藤井政徳，河野俊介，上野雅也，馬渡大介，馬渡正明：寛骨臼形成不全と境界型寛骨臼形成不全に対する寛骨臼移動術後の患者報告アウトカム尺度は同等である．第97回日本整形外科学会学術総会．2024，5，23-26.

10　*田中史織，藤井政徳，河野俊介，上野雅也，馬渡大介，馬渡正明：寛骨臼形成不全に対する寛骨臼移動術後の骨頭被覆と patient repor ted outcome measures（PROMs）の関係．第97回日本整形外科学会学術総会．2024，5，23-26.

11　*田中史織，藤井政徳，河野俊介，上野雅也，馬渡大介，馬渡正明：進行期変形性股関節症を伴う寛骨臼形成不全に対する寛骨臼移動術の臨床成績．第97回日本整形外科学会学術総会．2024, 5, 23-26.

12　○藤井政徳，河野俊介，上野雅也，園畑素樹，馬渡大介，馬渡正明：Schanz 骨切り術後の高位脱臼性股に対する大腿骨骨切り併用 THA の治療成績．第97回日本整形外科学会学術総会．2024，5，23-26.

13　*宮本和樹，藤井政徳，河野俊介，上野雅也，馬渡大介，馬渡正明：麻痺性股関節亜脱臼に対する寛骨臼移動術の治療成績．第97回日本整形外科学会学術総会．2024，5，23-26.

14　河野俊介，上野雅也，藤井政徳，長嶺里美，園畑素樹，馬渡正明：セメントレス人工股関節置換術における術後感染発生率の推移－抗菌人工股関節の有効性評価－．第52回日本関節病学会．2024，7，19-20.

15　○上野雅也，河野俊介，記伊祥雲，馬渡正明：超音波処理と血液培養ボトルを併用した化膿性股関節炎・人工股関節周囲感染の起因菌検索．第47回日本骨・関節感染症学会．2024，7，26-27.

16　河野俊介，上野雅也，記伊祥雲，藤井政徳，森本忠嗣，馬渡正明：銀の抗菌作用と整形外科インプラント関連感染に対する予防法と治療法の探索．第47回日本骨・関節感染症学会．2024，7，26-27.

17　○井野輔久，藤井政徳，河野俊介，上野雅也，宮本和樹，田中史織，伊藤康志，大場陽介：麻痺性股関節亜脱臼に対する寛骨臼移動術の治療成績．第51回日本股関節学会学術集会．2024，10，25-26.

18 *大場陽介，藤井政徳，河野俊介，上野雅也，伊藤康志，田中史織：Crowe type Ⅳの股関節高位脱臼に対する大腿骨転子下骨切り併用 THA の治療成績．第51回日本股関節学会学術集会．2024，10，25-26.

19 河野俊介：海外研究留学帰朝報告セッション ベルン大学研修報告－股関節温存手術の心得－．第51回日本股関節学会学術集会．2024，10，25-26.

20 河野俊介，上野雅也，藤井政徳，伊藤康志，大場陽介，田中史織，森本忠嗣：PJI におけるセメントレス抗菌人工股関節の implant 温存効果．第51回日本股関節学会学術集会．2024，10，25-26.

21 *田中史織，藤井政徳，河野俊介，上野雅也，伊藤康志，大場陽介：寛骨臼移動術は股関節形成不全の自然経過を変えるか．第51回日本股関節学会学術集会．2024，10，25-26.

22 *田中史織，藤井政徳，河野俊介，上野雅也，伊藤康志，大場陽介：Cam 変形を伴う寛骨臼形成不全に対する寛骨臼移動術の術後成績．第51回日本股関節学会学術集会．2024，10，25-26.

23 ○東島直生，河野俊介，松本　幸，上野雅也，藤井政徳，森本忠嗣：人工股関節全置換術後患者における片脚起立時間測定の有用性．第51回日本股関節学会学術集会．2024，10，25-26.

24 ○藤井政徳，田中史織，河野俊介，上野雅也，伊藤康志，大場陽介：寛骨臼移動術対象患者の疫学的傾向．第51回日本股関節学会学術集会．2024，10，25-26.

地方規模の学会

1 *田中史織，藤井政徳，河野俊介，上野雅也，馬渡正明：寛骨臼移動術は股関節形成不全の自然経過を変えるか．第147回西日本整形・災害外科学会学術集会．2024，6，1-2.

2 ○藤井政徳，河野俊介，上野雅也，田中史織，馬渡正明：寛骨臼移動術対象患者の経年的変化．第147回西日本整形・災害外科学会学術集会．2024，6，1-2.

3 ○井野輔久，藤井政徳，伊藤康志，河野俊介，上野雅也，田中史織，大場陽介：人工股関節全置換術の腰痛の変化．第148回西日本整形・災害外科学会学術集会．2024，12，21-22.

4 河野俊介，上野雅也，藤井政徳，伊藤康志，大場陽介，田中史織：セメントレス抗菌人工股関節の合併症．第148回西日本整形・災害外科学会学術集会．2024，12，21-22.

5 *田中史織，河野俊介，藤井政徳，上野雅也，馬渡正明：境界型股関節形成不全における変形性股関節症進行の予測因子．第148回西日本整形・災害外科学会学術集会．2024，12，21-22.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研　究　課　題　等	交付金額（千円）
准教授	河野　俊介	厚生労働省科学研究費補助金	難治性疾患政策研究事業	2	特発性大腿骨頭壊死症の確定診断と重症度判定の向上に資する大規模他施設研究	100
客　員研究員	久木田明子	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	1	ストレス応答タンパク質Nupr1の骨形成と骨の老化における機能及び制御機構の解明	600 (385)
客　員研究員	久木田明子	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	骨折モデルの治癒課程におけるストレス応答キープレイヤー Nupr1の作用とその機序	100 (206)

※（　）は繰越金で外数

医工循環器学講座

原著論文

1 Sonoda S, Node K: Grasp of Fate: Determining the Prognosis of Plaque Erosion?. J Atheroscler Thromb. 2024 Jan 1; 31(1): 15-16. doi: 10.5551/jat.ED244. Epub 2023 Oct 24, 2024, 1.

2 Yokoi K, Katsuki T, Yamaguchi T, Otsubo T, Soga Y, Hiroshima K, Sonoda S, Node K: Pulmonary Vein Intervention for Severe Pulmonary Vein Stenosis After Atrial Fibrillation Ablation – A Retrospective Cohort Study. Circ J. 2024 Jun 25; 88(7): 1099-1106. doi: 10.1253/circj.CJ-23-0892. Epub 2024 Mar 16, 2024, 6.

3 ○Yoshioka G, Tanaka A, Sonoda S, Kaneko T, Hongo H, Yokoi K, Natsuaki M, Node K: Importance of reassessment to identify trajectories of chronic transition of clinical indicators in post-myocardial infarction management. Cardiovasc Interv Ther. 2024 Jul; 39(3): 234-240. doi: 10.1007/s12928-024-01000-w. Epub 2024 Apr 14, 2024, 7.

4 Yokoi K, Yoshioka G, Node K: Handmade Embolization Coil for Managing Guidewire-Induced Coronary Perforation. JACC Case Rep. 2024 Sep 18; 29(18): 102528. doi: 10.1016/j.jaccas.2024.102528. eCollection 2024 Sep 18, 2024, 9.

5 Yokoi K, Tanaka A, Yoshioka G, Hara M, Kamohara K, Node K: Accuracy of Outcome Ascertainment in Long-Term Mortality After Coronary Artery Bypass Grafting. Mayo Clin Proc Innov Qual Outcomes. 2024 Oct 8; 8(6): 502-504. doi: 10.1016/j.mayocpiqo.2024.08.006. eCollection 2024 Dec, 2024, 10.

6 *Warisawa T, Sonoda S, Yamaji K, Amano T, Kohsaka S, Natsuaki M, Tsujita K, Hibi K, Kobayashi Y, Kozuma K: State-of-the-art percutaneous coronary intervention for left main coronary artery disease in Japan. Cardiovasc Interv Ther. 2024 Oct; 39(4): 386-402. doi: 10.1007/s12928-024-01030-4. Epub 2024 Jul 30, 2024, 10.

7 *Otake H, Kubo T, Hibi K, Natsumeda M, Ishida M, Kataoka T, Takaya T, Iwasaki M, Sonoda S, Shinke T, Nakazawa G, Takahashi Y, Ioji T, Akasaka T, Investigators OA: Optical frequency domain imaging-guided versus intravascular ultrasound-guided percutaneous coronary intervention for acute coronary syndromes: the OPINION ACS randomised trial. EuroIntervention. 2024 Sep 2; 20(17): e1086-e1097. doi: 10.4244/EIJ-D-24-00314, 2024, 9.

8 *Kurita T, Kuramitsu S, Ishii M, Takasaki A, Domei T, Matsuo H, Horie K, Ando H, Terai H, Kikuta Y, Ishihara T, Saigusa T, Sakamoto T, Suematsu N, Shiono Y, Asano T, Tsujita K, Masamura K, Doijiri T, Toyota F, Ogita M, Shiraishi J, Harada K, Isogai H, Anai R, Sonoda S, Yokoi H, Tanaka N, Dohi K; J-CONFIRM Investigators: Impact of Antiplatelet Therapy on 5-Year Outcomes After Fractional Flow Reserve-Guided Deferral of Revascularization in Nonsignificant Obstructive Coronary Artery Disease. Circ Rep. 2024 Jul 20; 6(8): 313-321. doi: 10.1253/circrep.CR-24-0069. eCollection 2024 Aug 9, 2024, 7.

9 *Kawarada O, Zen K, Hozawa K, Obara H, Matsubara K, Yamamoto Y, Doijiri T, Tamai N, Ito S, Higashimori A, Kawasaki D, Doi H, Matsushita K, Tsukahara K, Noda K, Shimpo M, Tsuda Y, Sonoda S, Taniguchi T, Waseda K, Munehisa M, Taguchi E, Kinjo T, Sasaki Y, Yuba K, Yamagu-

chi S, Nakagami T, Ayabe S, Sakamoto S, Yagyu T, Ogata S, Nishimura K, Motomura H, Noguchi T, Ishihara M, Ogawa H, Yasuda S: Characteristics, Antithrombotic Patterns, and Prognostic Outcomes in Claudication and Critical Limb-Threatening Ischemia Undergoing Endovascular Therapy. J Endovasc Ther. 2024 Aug; 31(4): 622-633. doi: 10.1177/15266028221134886. Epub 2022 Nov 23, 2024, 8.

10 *Ishihara T, Kuramitsu S, Matsuo H, Horie K, Takashima H, Terai H, Kikuta Y, Saigusa T, Sakamoto T, Suematsu N, Shiono Y, Asano T, Tsujita K, Masamura K, Doijiri T, Toyota F, Ogita M, Kurita T, Matsuo A, Harada K, Yaginuma K, Sonoda S, Yokoi H, Tanaka N, Mano T; J-CONFIRM Investigators: Sex Differences in 5-Year Outcomes After Deferral of Revascularization Following Physiological Coronary Assessment. Circ Rep. 2024 Jan 31; 6(2): 19-27. doi: 10.1253/circrep.CR-23-0100. eCollection 2024 Feb 9, 2024, 1.

11 *Saito Y, Kobayashi Y, Fujii K, Sonoda S, Tsujita K, Hibi K, Morino Y, Okura H, Ikari Y, Kozuma K, Honye J; CVIT 2023 clinical expert consensus document on intravascular ultrasound. Cardiovasc Interv Ther. 2024 Jan; 39(1): 1-14. doi: 10.1007/s12928-023-00957-4. Epub 2023 Sep 1, 2024, 1.

12 *Warisawa T, Sonoda S, Yamaji K, Amano T, Kohsaka S, Natsuaki M, Tsujita K, Hibi K, Kobayashi Y, Kozuma K: State-of-the-art percutaneous coronary intervention for left main coronary artery disease in Japan. Cardiovasc Interv Ther. 2024 Oct; 39(4): 386-402. doi: 10.1007/s12928-024-01030-4. Epub 2024 Jul 30, 2024, 10.

13 ○坂本佳子，園田信成，鍋嶋洋裕，本郷玄，吉岡吾郎，陳文瀚，秋吉妙美，梅木俊晴，柚木純二，蒲原啓司，野出孝一：経カテーテル的大動脈弁置換術後の無症候性人工弁血栓症について 多列検出器型 CT と経胸壁心エコー図検査による評価．日本臨床生理学会雑誌．54(3)：125-134.

学会発表

国際規模の学会

1 横井研介：CTO を伴う分岐部病変対する治療戦略．Complex Cardiovascular Therapeutics（CCT）2024．2024，10，24-26.

国内全国規模の学会

1 横井研介：インターベンション医の立場から．第88回日本循環器学会学術集会．2024，3，8-10.

2 園田信成：AI-IVUS はエキスパートを超える時代が来るのか？．第88回日本循環器学会学術集会．2024，3，8-10.

3 横井研介：ACS でガイドがかからない症例（英語）．第32回日本心血管インターベンション治療学会．2024，7，25-27.

4 園田信成，野出孝一：急性心筋梗塞に対する冠動脈インターベンション治療のベストプラクティスを考える．第72回日本心臓病学会学術集会．2024，9，27-29.

5 園田信成，野出孝一：ACS の最新治療戦略 急性心筋梗塞に対する冠動脈インターベンション治療のベストプラクティスを考える．第72回日本心臓病学会学術集会．2024，9，27-29.

6 ○坂井ひかり，吉岡吾郎，城島昴太，田中敦史，園田信成，野出孝一：睡眠時無呼吸症候群が疑われ終夜睡眠ポリグラフ検査施行令における夜間血圧の実態：単施設レジストリーデータより．第46回日本高血圧学会総会．2024，10，12-14.

7 横井研介：心房細動治療における新たなアプローチ～経皮的左心耳閉鎖術とは～．第46回日本高血

圧学会総会．2024，10，12-14.

8 ○諸隈宏之，横井研介，吉岡吾郎，野出孝一，蒲原啓司：当院における冠動脈バイパス術後の長期予後および死因の検討．第37回日本冠疾患学会学術集会．2024，11，29-30.

9 園田信成：Imaging/Physiology を使いこなす IVUS．Alliance for Revolution and Interventional Cardiology Advancement 2024．2024，11，21-23.

10 横井研介：百人会議 imaging Q and A．Alliance for Revolution and Interventional Cardiology Advancement 2024，2024，11，21-23.

地方規模の学会

1 横井研介：積極的なデバルキングを考える瞬間（とき）．第36回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会．2024，1，12-13.

2 園田信成：PCI がどんどん上手くなる！イメージング読影術．第36回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会．2024，1，12-13.

3 ○陳文瀚，横井研介，園田信成：ステント脱落した一例．第36回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会．2024，1，12-13.

4 ○嘉村朋顕，吉岡吾郎，夏秋政浩，下村光洋，吉田敬規，園田信成，挽地裕，野出孝一：肺血栓塞栓症に対する下大静脈フィルター留置の返還：他施設レジストリーーデータより．第37回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会．2024，8，23-24.

5 ○合力悠平，吉岡吾郎，夏秋政浩，西平賢作，下村光洋，栗山根廣，園田信成，柴田剛徳，野出孝一：急性心筋梗塞における血液検査を用いた出血性合併症予測モデルの構築．第37回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会．2024，8，23-24.

6 横井研介，吉岡吾郎，夏秋政浩，園田信成，野出孝一：PCI 中のガイドワイヤ穿孔に対して，通常のコイル留置が困難であり，自作コイルにより止血に成功した一例．第37回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会．2024，8，23-24.

7 ○陳文瀚，吉岡吾郎，本郷玄，横井研介，夏秋政浩，園田信成：大動脈瘤乖離 StandfordAni 左冠動脈主幹部塞栓を併発した一例．第37回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会．2024，8，23-24.

8 横井研介：虚血インタベ医が経皮的左心耳閉鎖術を行う理由．第37回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会．2024，8，23-24.

9 佐藤大祐，諸岡大樹，古謝侑奈，陳文瀚，夏秋政浩，園田信成，野出孝一，山下佳雄：UAP に対して PCI 後に心タンポナーデを呈した 1 例．第37回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会，2024，8，23-24.

10 ○枝吉誠，横井研介，山口尊則，渡邊伸英，中島夏奈，新里広大，鶴田浩太呂，野出孝一：心房筋生検により確定診断に至った心房限局性リンパ球性心筋炎の 1 例．第137回日本循環器学会九州地方会．2024，12，14.

11 ○中島史暁，本郷玄，横井研介，諸隈宏之，蒲原啓司，陳文瀚，夏秋政浩，園田信成，野出孝一：Bentall 術後に左冠動脈主幹部高度狭窄病変に対して PCI を施行した 2 例．第137回日本循環器学会九州地方会．2024，12，14.

12 ○宇野純加，横井研介，諸隈宏之，蒲原啓司，野出孝一：著明な異常所見に目を奪われ，背景疾患の発見が遅れた急性心不全症例．第137回日本循環器学会九州地方会．2024，12，14.

その他の学会

1　園田信成：虚血性心疾患の現状と未来．第57回河口湖心臓討論会．2024，8，17-18.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
寄附講座教授	園田　信成	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	急性心筋梗塞患者の予後改善を目指した新規出血リスクスコアの開発	50

学術（学会）賞

職　名	氏　名	学術（学会）賞名	受　賞　課　題
寄附講座教授	園田　信成	Beyond Angiography Japan XXVIII Oral Presentation Award 優秀賞	栄養不良が血液透析患者の冠動脈石灰化を進行させる

不整脈精密医療学講座

総　　説

1　中島夏奈，山口尊則：Reentrant AT アブレーション．必ずできる！ 実践的カテーテルアブレーション．200-210，2024，10.

学会発表

国際規模の学会

1　Yuki Kawano, Takanori Yamaguchi, Yuya Takahashi, Toyokazu Otsubo, Kana Nakashima, Kodai Shinzato, Yuki Nishimura, Kotaro Tsuruta, Ryosuke Osako, Makoto Edayoshi, Shigehisa Aoki, Atsushi Kawaguchi, Toshiaki Kadokami, Koichi Node: Histological Background Of The Abc-Death Score In Patients With Atrial Fibrillation: Evidence From Atrial Biopsy. the 17th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session. 2024, 9, 26-29.

国内全国規模の学会

1　*七田茂輝，山口尊則，高橋佑弥，大坪豊和，中島夏奈，新里広大，西村優希，鶴田浩太呂，大迫亮介，枝吉誠，河野佑貴，青木茂久，野出孝一：Relationship between Atrial Structural Remodeling Based on Atrial Biopsy and Atrial Epicardial Adipose Tissue Volume. 第88回日本循環器学会学術集会．2024，3，8-10.

2　*西村優希，山口尊則，高橋佑弥，大坪豊和，中島夏奈，七田茂輝，新里広大，鶴田浩太呂，大迫亮介，枝吉誠，河野佑貴，福井暁，高橋尚彦，青木茂久，野出孝一：Histological Background of Sick Sinus Syndrome in Patients with Non-valvular Atrial Fibrillation: Evidence from Atrial Biopsy. 第88回日本循環器学会学術集会．2024，3，8-10.

3　*七田茂輝，山口尊則，高橋佑弥，大坪豊和，中島夏奈，新里広大，西村優希，鶴田浩太呂，大迫亮介，枝吉誠，河野佑貴，青木茂久，野出孝一：Relationship between Atrial Structural Remodeling Based on Atrial Biopsy and Atrial Epicardial Adipose Tissue Volume. 第88回日本循環器学会学術集会．2024，3，8-10.

4　新里広大，山口尊則，高橋佑弥，大坪豊和，中島夏奈，七田茂輝，西村優希，鶴田浩太呂，大迫亮介，枝吉誠，河野佑貴，福井暁，髙橋尚彦，野出孝一：Which Histological Factors are Associated with Left Atrium Enlargement in Patients with Atrial Fibrillation?: An Analysis of Atrial Biopsy. 第88回日本循環器学会学術集会．2024，3，8-10.

5　*Toyokazu Otsubo, Takanori Yamaguchi, Yuya Takahashi, Kana Nakashima, Shigeki Shichida, Kodai Shinzato, Yuki Nishimura, Kotaro Tsuruta, Ryousuke Oosako, Makoto Edayoshi, Yuuki Kawano, Akira Fukui, Naohiko Takahashi, Shigehisa Aoki, Koichi Node: Prevalence and Clinical Characteristics of Cardiac Amyloidosis in Patients Undergoing Catheter Ablation for Atrial Fibrillation: Evidence from Atrial Biopsy. 第88回日本循環器学会学術集会．2024，3，8-10.

6　Kana Nakashima, Takanori Yamaguchi, Yuya Takahashi, Toyokazu Otsubo, Shigeki Shichida, Kodai Shinzato, Yuki Nishimura, Kotaro Tsuruta, Ryousuke Oosako, Makoto Edayoshi, Yuuki Kawano, Akira Fukui, Naohiko Takahashi, Koichi Node: Sex Differences in Atrial Structural Remodeling and Outcomes after Atrial Fibrillation Ablation: Insights from High-density Mapping and Atrial Biopsy. 第88回日本循環器学会学術集会．2024，3，8-10.

7　*Yuuki Kawano, Takanori Yamaguchi, Yuya Takahashi, Toyokazu Otsubo, Kana Nakashima, Kodai Shinzato, Shigeki Shichida, Ryousuke Oosako, Kotaro Tsuruta, Yuki Nishimura, Makoto Edayoshi, Akira Fukui, Toshiaki Kadokami, Naohiko Takahashi, Koichi Node: Which Electrophysiological, Clinical, and Histological Features does the ABC Death Score Reflect in Patients with Atrial Fibrillation?. 第88回日本循環器学会学術集会．2024，3，8-10.

8　Yuya Takahashi, Takanori Yamaguchi, Toyokazu Otsubo, Kana Nakashima, Shigeki Shichida, Kodai Shinzato, Yuki Nishimura, Kotaro Tsuruta, Ryousuke Oosako, Makoto Edayoshi, Yuuki Kawano, Akira Fukui, Naohiko Takahashi, Shigehisa Aoki, Koichi Node: Profiling of Patients with Atrial Fibrillation Based on Atrial and Ventricular Cardiomyocyte Density: Evidence from Endocardial Biopsy. 第88回日本循環器学会学術集会．2024，3，8-10.

9　Yuya Takahashi, Takanori Yamaguchi, Toyokazu Otsubo, Kana Nakashima, Shigeki Shichida, Kodai Shinzato, Yuki Nishimura, Kotaro Tsuruta, Ryousuke Oosako, Makoto Edayoshi, Yuuki Kawano, Akira Fukui, Naohiko Takahashi, Shigehisa Aoki, Koichi Node: Decrease in Myocardial Nuclear Density as a New Histological Feature of Atrial and Ventricular Dysfunction in Patients with Atrial Fibrillation. 第88回日本循環器学会学術集会．2024，3，8-10.

10　Kotaro Tsuruta, Takanori Yamaguchi, Yuya Takahashi, Toyokazu Otsubo, Kana Nakashima, Shigeki Shichida, Kodai Shinzato, Yuki Nishimura, Ryousuke Oosako, Makoto Edayoshi, Yuuki Kawano, Akira Fukui,, Naohiko Takahashi, Koichi Node: Histological Features Associated with Recurrence as Persistent Atrial Fibrillation Post Catheter Ablation: Analysis of HEAL-AF Study. 第88回日本循環器学会学術集会．2024，3，8-10.

11　*Ryousuke Osako, Takanori Yamaguchi, Yuya Takahashi, Toyokazu Otsubo, Kana Nakashima, Shigeki Shichida, Kodai Shinzato, Yuki Nishimura, Kotaro Turuta, Makoto Edayoshi, Kazuo Miyazawa, Kaoru Ito, Atsushi Kawaguchi, Koichi Node: Profiling of Blood Biomarker Associated with In-creased Interstitial Space in Atrial Fibrillation: Ev-idence from Atrial Biopsy and Proteomics Analysis. 第88回日本循環器学会学術集会．2024，3，8-10.

12 *Masafumi Himeno, Takanori Yamaguchi, Yuya Takahashi, Toyokazu Otsubo, Kana Nakashima, Shigeki Shichida, Kodai Shinzato, Yuki Nishimura, Kotaro Tsuruta, Ryousuke Oosako, Makoto Edayoshi, Yuuki Kawano, Akira Fukui, Naohiko Takahashi, Shigehisa Aoki, Koichi Node: What are the Histological Findings in the Atria Underlying Elevated NT-proBNP in Patients with Atrial Fibrillation?: Evidence from Atrial Biopsy. 第88回日本循環器学会学術集会. 2024, 3, 8-10.

13 ○鶴田浩太呂, 山口尊則, 高橋佑弥, 中島夏奈, 七田茂輝, 新里広大, 西村優希, 枝吉誠, 野出孝一：心房細動例における加齢と心房心筋細胞密度の関係 心房生検による解析. 第24回日本抗加齢医学会総会. 2024, 5, 31-6, 2.

地方規模の学会

1 Kana Nakashima: Why Do Women Have Lower Atrial Voltage?: Insight from Myocardial Size in Patients with Minimum Structural Remodeling. 第70回日本不整脈心電学会学術大会. 2024, 7, 18-20.

2 ○枝吉誠, 横井研介, 山口尊則, 渡邊伸英, 中島夏奈, 新里広大, 鶴田浩太呂, 野出孝一：心房筋生検により確定診断に至った心房限局性リンパ球性心筋炎の 1 例. 第137回日本循環器学会九州地方会. 2024, 12, 14.

研究助成等

職　名	氏　名	補助金(研究助成)等の名称	種　　目	1：代表 2：分担 該当番号を記入	研 究 課 題 等	交付金額（千円）
寄附講座助教	中島　夏奈	科学研究費助成事業	基盤研究(C)	2	心房細動症例における心房生検検体の超微細構造の評価	50

共同研究講座

創 薬 科 学 講 座

学会発表

国内全国規模の学会

1 ○倉橋祐樹，嬉野博志，城戸口啓介，川副和紀，倉橋佑紀，山本雄大，渡邉達郎，木村晋也：成人T細胞白血病／リンパ腫に対するDNA脱メチル化薬とHDAC阻害薬の併用による抗腫瘍効果．第86回日本血液学会学術集会．2024，10，11-13.

2 ○倉橋祐樹，嬉野博志，城戸口啓介，川副和紀，倉橋佑紀，山本雄大，渡邉達郎，木村晋也：成人T細胞白血病／リンパ腫に対するDNA脱メチル化薬とHDAC阻害薬の併用による抗腫瘍効果．第28回日本がん分子標的治療学会学術集会．2024，6，19-21.

3 ○倉橋祐樹，若山一夫，倉橋佑紀，勝屋弘雄，西村佑紀，袴田和巳，中田嘉孝，宮崎和城，末岡榮三朗，木村晋也：成人T細胞リンパ腫／白血病診断における画像診断支援ツールとしての開発．第10回日本HTLV-1学会学術集会．2024，11，8-10.

4 ○Keisuke Kidoguchi, Tatsuro Watanabe, Ayaka Tomoda, Kana Kusaba, Yuta Yamamoto, Yuki Kurahashi, Yuki Kurahasi-Fukuda, Kazutaka Nakashima, Hiroaki Miyoshi, Koichi Ohshima, Shinya Kimura: Orally bioavailable DNA demethylating agent OR-2100 inhibits the tumor growth of double hit lymphoma. 第86回日本血液学会学術集会．2024，10，11-13.

5 ○城戸口啓介，山本雄大，倉橋祐樹，倉橋佑紀，友田綾香，渡邉達郎，木村晋也：Double hit lymphomaを対象としたOR-2100併用CHOPの有効性と安全性．第28回日本がん分子標的治療学会学術集会．2024，6，19-21.